読者が選ぶ『紙プロ大賞2000』は桜庭和志が独占!! 贈呈式だ!!



紙のプロレス RADICAL 34

2001

世紀末に「なんでもいいから凄ェ試合」を突き刺した!!
小川直也

「純プロレス」とは何か?
髙田延彦

21世紀は"猪木"への挑戦状だろ!! なっ!?
谷津嘉章

プロレスは"茶番"でも"寸止め"でもない!
「猪木祭り」「長州vs橋本戦」を斬りまくる!!

2・24KOK決勝接近! リングス核心大特集!!
金原弘光
ヴォルク・ハン
田村潔司

マット界を賑わすニュースター三昧だ!
宇野薫
藪下めぐみ
ティト・オーティズ



世紀をまたいで、考えさせられる試合が続出!!

プロレスは「闘い」を忘れた時に老いてゆく!!

『PRIDE.12』に立ち昇った6つの謎!
『DEEP2001』/『Re-Mix』の面白さを徹底解明!!
ノアとは何か? 方舟座談会敢行ーッ!
衝撃の表舞台登場!「シュート活字」の始祖/田中正志

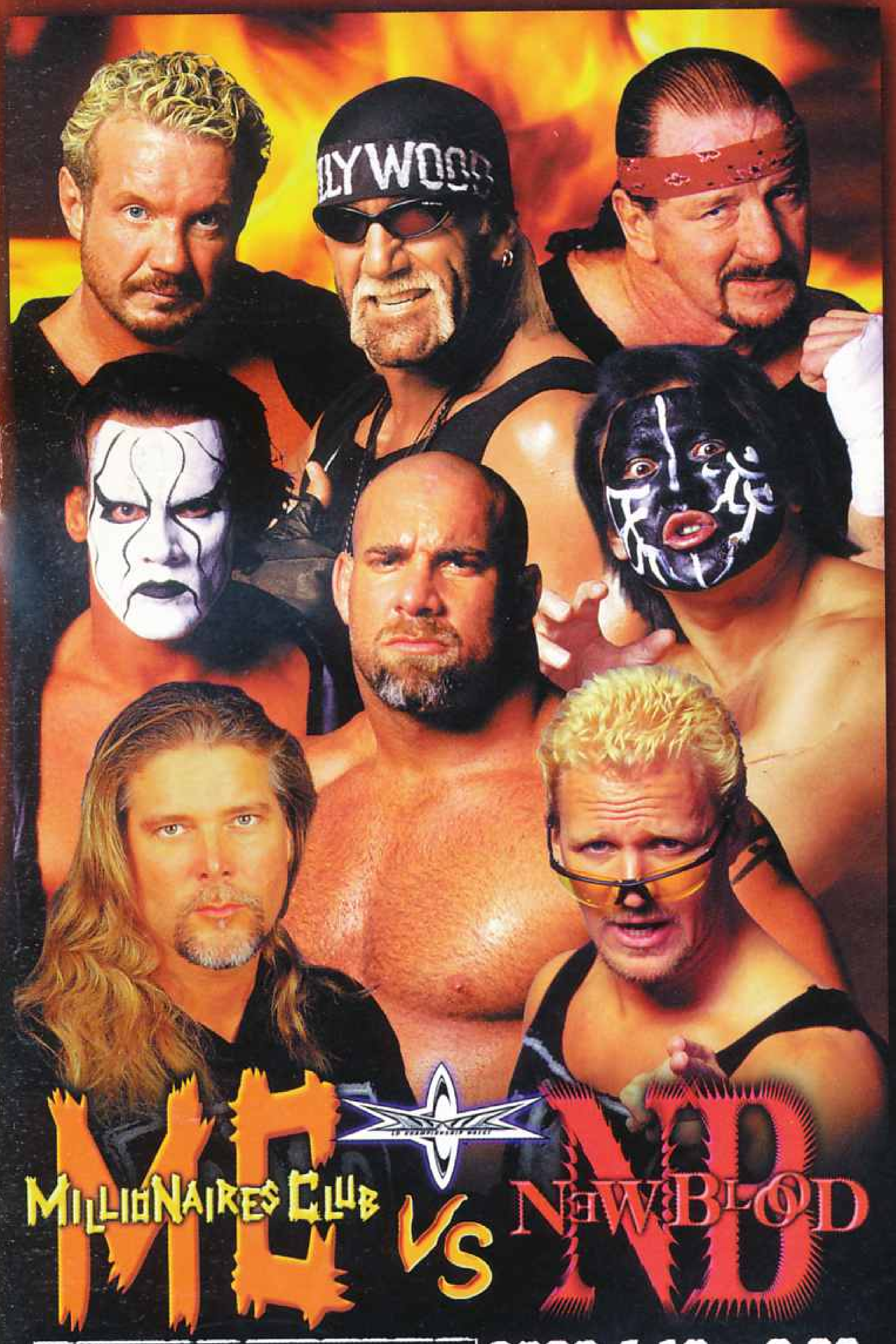
驚愕! 史上初! 2000年ワーストレスラー、試合、興行を選出!!

リアル人間爆弾発言第2弾!
ミスター・ヒト

ボブチャンチンの通訳のお姉さん、謎のご登場!

紙のプロレスRADICAL NO.34 ビッグマッチ大分析!!
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体838円+税

NO PRO-WRESTLING NO LIFE



ミリオネアーズ・クラブVSニュー・ブラッド 2000.4.10〜8.28

WCW権力戦争勃発!!

ホーガン.スティング.ナッシュ.
フレアー.ヒットマン.ゴールドバーグ
そしてムタ…面白くないわけがない!

プロレス・ビデオNo.1ヒットを記録した「nWo 4Life」「nWo 4ever」の続編ともいうべきWCWヒストリー・ビデオが遂に登場!激動の2000年WCWマットの4月〜8月までの最新映像約200時間から厳選!nWo黄金時代を含むファン垂涎の試合および衝撃シーンを多数収録!

MC vs NB WCW権力戦争勃発!!
2000.4.10〜8.28

- ★ 日本だけの完全オリジナル編集!
- ★ WCW 世界初DVD化!
- ★ 全編オール日本語字幕版!
- ★ WCWのリングを彩る美女たちが本編中に続々登場!

VIDEO & DVD NOW ON SALE

DVD : TOBS-1001: 税込¥4,800 COLOR/STEREO/ 約123 分収録 字幕スーパー / 片面・1層 MPEG2
音声仕様:ドルビー・デジタル / レンタル禁止・複製不能
VHS : TOVS-1416: 税込¥4,800 COLOR / STEREO / 約123 分収録 字幕スーパー
制作 : STEP ステップ映像株式会社 © 2000 WORLD CHAMPIONSHIP WRESTLING



TOVS-1412/税込¥9,500
カラー/モノラル/Hi-Fi/約144分/解説書付き

完全永久保存版ビデオ。
FMWビデオシリーズで大好評の総集編
『STORY OF THE F』の3部作が怒涛のリリース!

1999年11月23日のFMWスーパーイベント『ジャッジメント・デイ』の結果Hは雁之助と友情を取り戻し、恐怖のコミッショナー・冬木は田中との衝撃デスマッチに破れFMWを追放された!FMWにとって理想的な環境が整い、明るい未来が約束されたかに見えたリング上に突然(!)冬木が女子プロレス界最強を自認する井上京子を帯同して出現!自らを「ECWジャパン」代表と名乗りFMWに復讐の刃を向けた!様々な人間関係が交差するFMWリング上はエクストリームにそしてエンターテイメントに燃え上がり、2000年5月5日の駒沢大会で完結する!



TOVS-1370/税込¥9,500
カラー/ステレオ/Hi-Fi
約150分/解説書付き

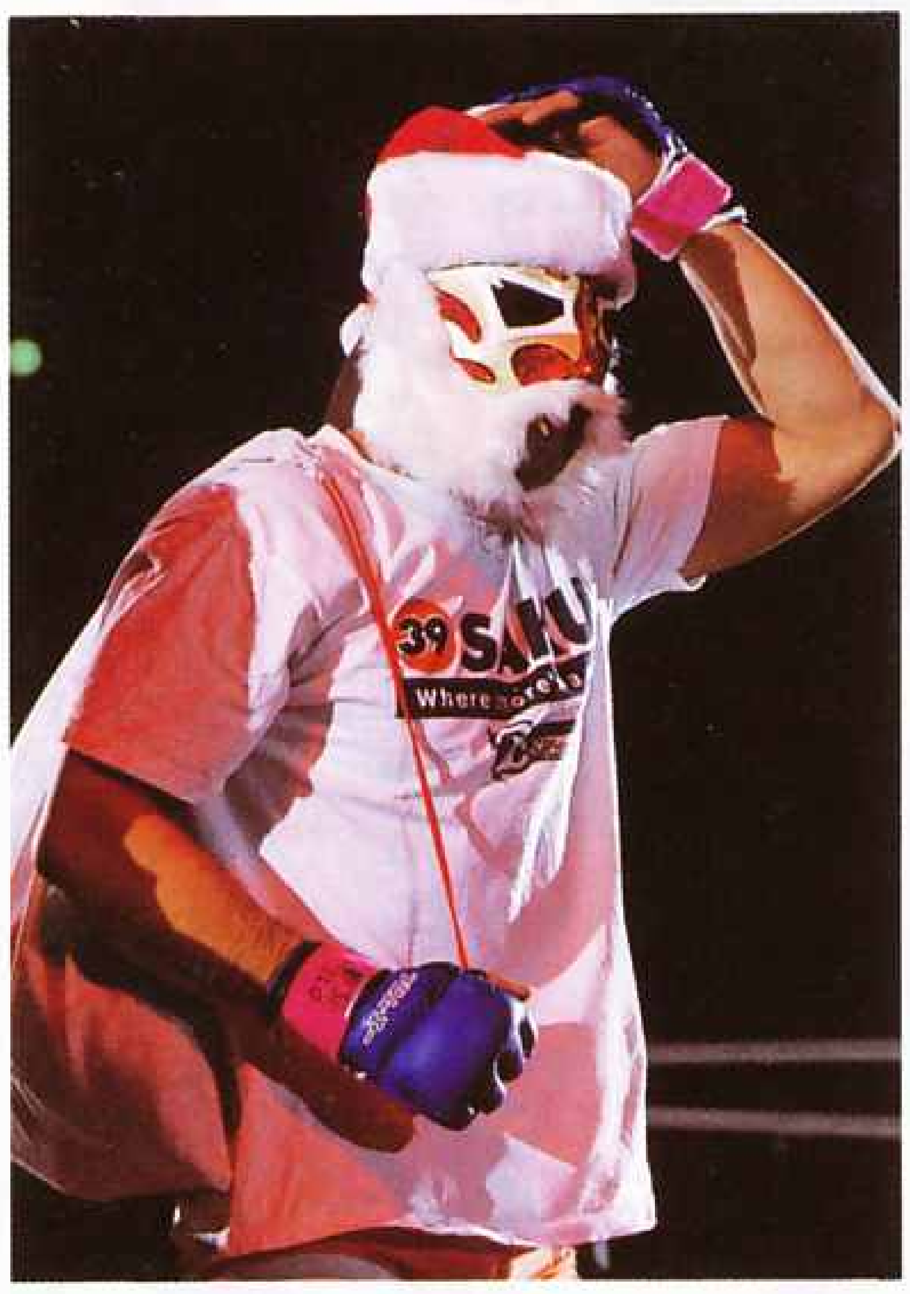


TOVS-1411/税込¥9,500
カラー/モノラル/Hi-Fi
約150分/解説書付き

NOW ON SALE

元気でッ!!

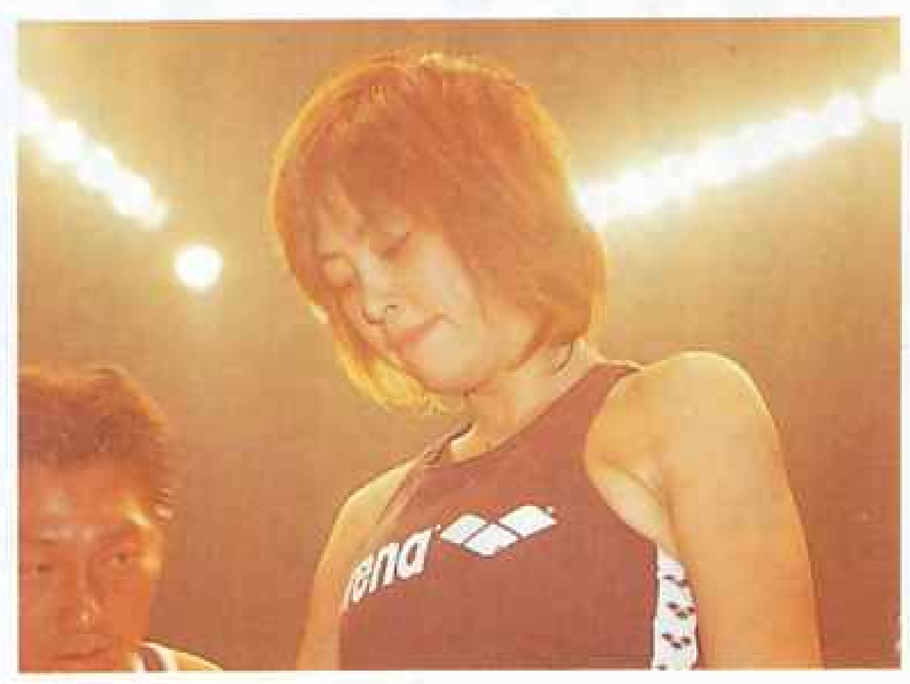
21世紀一発目ということで、『紙プロ』から読者のみなさまにこの言葉を捧げちゃいます。ンムフフフ。













【01・1・1「INOKI BON—BA—YE」のアントン総帥の締めの言葉より引用】

プロレスは歩みを止め

「闘い」を



世紀末から世紀頭（こんな言葉あるか？）にかけて、ビッグで様々な格闘イベントが繰り広げられた。

女子による総合格闘技大会『ＲｉＭｉｘ』（00・12・7）では、藪下めぐみというニュースターが生まれた。巨乳タレント・桜庭あつこも、ガチンコ勝負でガムシャラさを見せつけ、女子総合格闘技の未来の扉を強引にコジ開けることに成功した。

独自の世界を築きつつあり、大いなる可能性を秘めた『リングスKOKトーナメント』Bブロック（00・12・22）では、ジャパン勢が大方の予想を覆して、3人とも決勝トーナメントへ進出するというビッグ・ウェーブが巻き起こった。

いまや格闘バラエティの様相を呈し、「新プロレス」のスケールの大きな実験場として絶大な人気を誇る『ＰＲＩＤＥ』の『12』（00・12・23）。これは、サクがグレイシーを4タテしたのにも関わらず、期待に反して、『ＰＲＩＤＥ』史上、空前絶後の「面白くない」大会と言われてしまった。

『ＰＲＩＤＥ』に上がる格闘家が「純プロレス」の試合を行った『ＩＮＯＫＩ　ＢＯＮ―ＢＡ―ＹＥ』は、20世紀の最後の最後、大晦日から新世紀の幕開けにかけて行われ、もちろんアントン総帥の闘魂百八つビンタ、闘魂カウントダウンも華々しく行われた。一体あれは何だったのか？　蜃気楼か？

そして21世紀のビッグイベントの幕開けは、やっぱりマット界最大手の新日本プロレスが斬って落とした（01・1・4）。「遺恨凄惨」と銘打たれ、電撃的に実現した長州vs橋本





忘れた時に老いてゆく



戦は試合開始前は異様な熱を生んだが、不可解な決着に、久しぶりに暴動寸前のブーイングが飛びまくった。「これぞ新日本！」と、ブーイングを起こした会場の殺伐さを喜べばいいのか？　それとも「これが新日本！」と諦めればいいのか？　一文字違うだけで、とてつもなく大きな違いだ。

『DEEP2001』（01・1・8）でも新しい波が起こった。この大会はキャバクラに例えると、馴染みのない新しい店だ。なにも期待しないで入ったら、いろんな〝女の子〟が入れ替わり立ち替わり接待してくれた。だけど、馴染みの店ではないし、イマイチ華がないので、途中まではなかなか盛り上がれなかった。しかしラストに出てきた2人の〝女の子〟がバツグンによかった。まさにディープ・インパクトを与えてくれたのだ。その2人の〝女の子〟の名前は、「美濃輪育久vsヒカルド・リボーリオ」「村濱武洋vsホイラー・グレイシー」という。これからは、馴染みがなくても予備知識があまりなくても、安心して飲める質の高い店が増えるかもしれない。

そういうわけで、今号では、いままで挙げた大会で活躍した選手に話を聞いてみました。

「プロレス」は「プロレス」なのか？
「格闘技」と「プロレス」は別なのか？
「純プロレス」は、飛んだり跳ねたり、見せる要素だけでいいのか？　「純プロレス」全体から格闘技性をまったく抜かしてしまっていいのか？
「純プロレス」には「闘い」は必要なくて、エンターテインメント性の研磨をするだけでいいのか？

は？　そのほうがスッキリする？

じゃあ、本誌が提唱している「新プロレス」と「純プロレス」もハッキリ線引きしたほうがいいわけね？
つまり、「格闘技」と「プロレス」は別物ってわけね？

え、何？　「新プロレス」も「純プロレス」もひっくるめたものが『プロレス』という広い概念？　じゃ、やっぱり「格闘技」と「プロレス」は一緒ってわけ？

ほ〜ら、新世紀早々、実に難しい話になってきたゾ〜。尻の穴がムズがゆくなってきた。でも、尻の穴がムズがゆいのって妙に気持ちよかったりもするから、新世紀一発目は軽い気持ちで読んで、ちょっとばかし考えたりしてみてください。一冊通して読むと、そこはかとなく、こちらの考えてる問題の一端などが伝わるかもしれません。

やっぱり「プロレスとは何か？」「闘いとは何か？」というテーマは、世紀が変わっても未来永劫に続くんです！（スーッと息を吸い込み）元気でッ!!

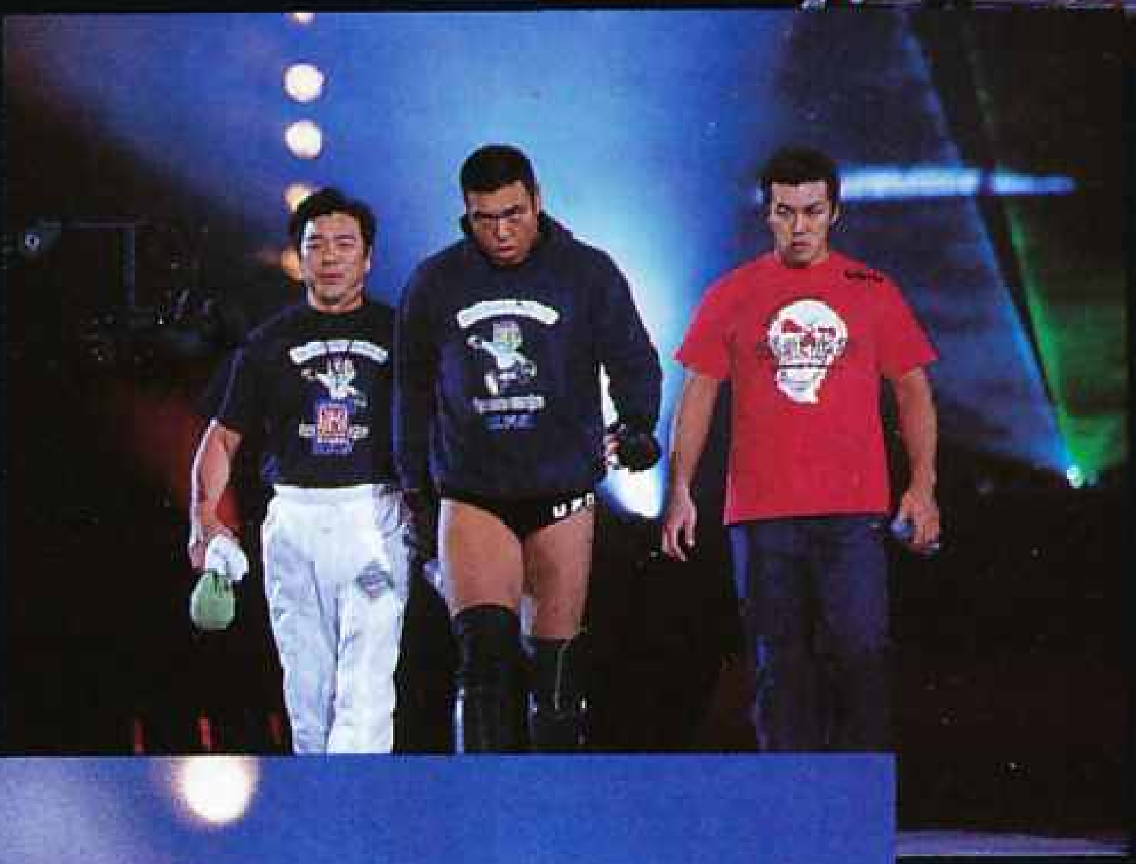




「俺が〝茶番はやめろ!!〟と叫んだ意味を教えてやるよ」

『猪木祭り』で安田忠夫を失神KO↓大乱闘!!
またもや〝独立無援〟の状態で
「闘魂プロレス」を紡ぐ男、吠吼！







いつ何時でも騒乱罪!!





聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／森鷹博
photographs by Morry

見てみィ、この目！ 20世紀最後の大晦日、アントン総帥が総合プロデュースをつとめる『INOKI BON―BA―YE』に、恐怖のプロレス大魔王・小川直也が舞い降りた。

相手は、年が明けて新日本プロレスを退団表明した、放浪の荒鷲・安田忠夫。安田の怒濤の序盤ラッシュを凌いだ小川は、キックとパンチで一気に形勢逆転、安田を秒殺失神KOで斬って落とした。

試合後は、セコンドの村上一成が特攻し、新日本勢と大乱闘繰り広げる。この日、かつて小川が『PRIDE』のリングで葬ったゲーリー・グッドリッジを破り、完全復活の狼煙を上げた破壊王・橋本真也ともリング上で再び対峙した。さらに『PRIDE.11』で打ち破った佐竹雅昭までがリングインし、「もう一度」と小川に対戦アピール。それに対し小川は「橋本！ いい加減にしろ！」「佐竹！ 茶番はやめろ！」とマイクで叫んだ（ファルセット・ボイス付き）。

小川直也が行くところは、いつ何時でも騒乱状態。21世紀のスキャンダル男は、〝孤立無援〟で「闘魂プロレス」の牙城を守り抜こうとしている。小川の次なる標的はなんだ!?

小川 おお〜、今日は寒い。あ！（カメラマンのモーリーを指さし）UFO出入り禁止なのに、なんでいるんだよ？

モーリー い、いや、か、勘弁してくださいよ。で、小川さん、今日は最初に撮影やらせていただきたいんですよ。ちょっと寒いかもしれないですけど、そこのベランダに出ていただいてよろしいですか。ちょっと寒いのを我慢していただけたら、小川さんのよさをボクが引き出しますから。

小川 また始まったよ。やるけど、早くしてよ。寒いんだから。

モーリー わかりました。で、小川さん、ちょっと寒いでしょうけど、う、上着脱いでいただけますか。

小川 エッ！ 出入り禁止の身なのに上着まで脱がすの？（上着を脱いで外に出る）おお〜、寒い！

モーリー すいません、お願いします。あ！ いい、いいですよ、小川さん！ 目線ください！（おもむろにカメラを下ろし）いや、小川さんは目がいいんで、いつもいい作品が撮れるんで、興奮するんですよ、こっちが。

小川 おいおいおいおい、カメラ構えてねぇじゃねえかよぉ。寒いから早くやってくれよ〜。

モーリー あ、すいません。じゃあ、ちょっと今度は（と言って、おもむろに窓を閉める）。

小川 （窓を閉めたのでよく聞こえない）おい、なに閉めてんだよぉ、おい！ なんで俺が閉め出されなきゃいけないんだよ！ おまえ、ホントに出入り禁止にするゾ！

モーリー お、小川さん、そのままで！ いいですよぉ。よ〜しよし。

小川 まいったなぁ、寒いのにさぁ。閉め

小川直也 Naoya Ogawa





天下の読売新聞で今年1月4日から10日間連続で連載された「格闘ロマン小川直也」。オーちゃんの生い立ちから柔道時代、そしてアントニオ猪木との出会い、さらには食物療法にいたるまで、小川直也の半生記が紹介された。

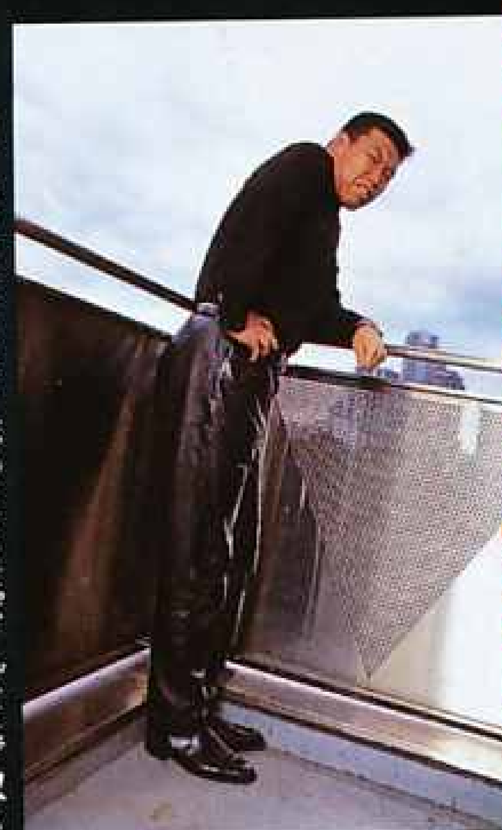
［特別付録］

UFO公式出入禁止カメラマン
モーリー劇場

オイオイオイオイ冗談じゃねぇよォ!!



凍りつくような寒さの中、オーちゃんをいきなりベランダに出したモーリー。しかも上着まで脱がせるとは腹が据わってるのか、単なる馬鹿か？



しかもファッション誌のようなポーズまで取らせてしまったモーリー。なんの意味があるのか？ モーリー、それ以上はやめておけ！



ホントに寒そうなオーちゃん。しかし、モーリーは、フィルムを切らずに、無駄話をし始める。オーちゃんになにか恨みでもあるのか？



あげくの果てには、なぜか窓を閉めてしまったモーリー。ＵＦＯの超看板選手を事務所の外に閉め出すとは！ モーリー、これ以上『馬鹿になるな』

出されちゃったよ。

――さ、しばらくモーリーはほっといて（笑）。ところで村上選手は、結婚生活うまく行ってるんでしょうか？

小川　知らない！　村上ネタはね、ファンクラブのトークショーで話したら引いちゃったから、もういいよ。みんな聞きたくないみたい、人の幸せっていうのは（笑）。

――人の不幸話が好きですからね、人間は（笑）。ところで、春先から自主興行再開っていう話がまことしやかに飛んでますけど。

小川　……。ちょっと、噂で終わっちゃうかもしれない。

――またか！

小川　話はあったんだけどね。でも、まだまだいろんな面白いことあるから！　自主興行は『ZERO―ONE』のほうが早いんじゃない？　急に選手増えてるから、あそこ。早いねぇ。

――アレクや佐竹選手が参加なんていう記事も見かけました。ホントか嘘かわかんないですけど（笑）。

小川　なにを求めてる団体なのかっていうのもなしに、よく集まるなって思うけどね。これは皮肉でもなんでもなくて。

――そういうのを皮肉というんですよ（笑）。

小川　そうかなぁ？　それより、今年はいよいよ！『紙プロ』も、ＵＦＯの自主興行よりも早く全国ネットで展開してほしいね。

――またコンビニ・ネタですか（笑）。

小川　早く、北は北海道から、南は沖縄まで隅々まで置いてほしいなぁと。

――失礼な！　いまでも北は北海道から、南は沖縄まで売ってますよ、書店では。

小川　あ、書店ね（ニヤリ）。

――ま、ＵＦＯの自主興行と『紙プロ』のコンビニ展開のどっちが早いか、これは競争ですね。

小川　……。『紙プロ』のほうが早いかもしれないなぁ。でも、いろいろな夢を広げながらやってるんで、アッと驚く展開ができると思いますよ。

――でも、昨年の12月31日、出ないという話もチラホラと出ていた『猪木祭り』に出場したわけですが。

小川　いや、出ないということは考えてなかったですよ。12月23日の試合（『PRIDE．12』）もあったけど、どっちに出るかっていったら、そりゃあもちろん、猪木会長の冠が付くほうでしょう。『PRIDE』には別に、無理に出なくてもいいんだから！

――その『PRIDE』に上がってる選手がプロレスの試合に出る大会でしたけど、お祭りムードで試合をしてる選手が多い中で、小川さんの試合は異質でしたね、あの中では。

小川　そう？　セミの試合もなかなか面白かったみたいじゃない。タッグマッチ。

――セミ？　セミって、誰でしたっけ？

小川　プロレス界で一番強いタッグチーム！　タッグリーグ優勝チーム！

――あ！　永田裕志＆飯塚高志 vs マーク・ケアー＆マーク・コールマンですね。いや、コールマンは実によかったですね。他の試合は見ましたか？

小川　……見ないようにしてます。目の毒だから。

――目の毒！

小川　主旨が〝お祭り〟だったらそれでいいかもしれないけど、やっぱり猪木会長の近くにいないと、なかなか会長の理念は伝わらない部分もあると思いますけどね。要はプロレスっていうのは、定義づけの問題があって、それぞれが考えてるプロレス観が出た大会だったんじゃないですか？

――「プロレスは楽しいもんだ」と思ってる人は楽しくやってましたね。

小川　「プロレスはそうじゃないんだよ」って思えばそれでもいいしね。俺は、日頃から「何でもいいから凄ェもん見せりゃいいよ」っていう考えだから。その「凄ェもの」の価値観もそれぞれ違うんだけどね。プロレスとかバーリ・トゥードとか分けられてる中で、その両方に出て、そのギャップが凄いっていう部分を指して「凄ェもの」と捉えてる人もいるだろうし。その場合は「ちょっと違うんじゃねぇか」っていうのはあるけどね。

――小川さんの場合は、バーリ・トゥードもプロレスも……。

小川　一緒だっていうのが主旨ですからね。

――小川さんの場合、バーリ・トゥードでもプロレスでも、同じ目をしてるところが凄ェな、と思いました（笑）。

小川　一緒ですから、僕は。俺は「全てのものはプロレスに集約される」ということでやってるからね。

――なるほど。ちなみに橋本 vs グッドリッジ戦は見なかったんですか？

小川　見てない。まぁ、人の試合にケチつけるつもりはないし。面白いか、面白くないかでいいんじゃないですかね。

――小川 vs 安田戦は会場が思い切り湧いてましたね。

小川　だって安田選手は、何で新日本の試合だと力が出せなくなるのかが不思議だよね。ある意味、ああいうふうにいつもと違った形でできるんだし。なんといっても、まずデカイ！　圧倒された（笑）。俺と身長は一緒ぐらいだけど、横幅はね、冷蔵庫が来たって感じだもん。

――ガハハハ！　「冷蔵庫が摺り足で来

た！」。

小川　いやぁ～、突っ張りも早いよ。ビデオで見たけど、小刻みだったもん、やけに。いつもより早かった。だって今回は脇も差せないんだもん。「この人と相撲取ったら負けるな」なんて思ったからね。

——当たり前ですよ！　向こうは元・力士なんですから（笑）。

小川　いや、「相撲勝負で行こうかな」なんて一瞬チラッと思ったけど、やっぱり相撲は……無理だわ。あのパワーでぶつかられたら。

——佐竹戦のように相手の土俵で闘うのも、ほどほどにしとかないと、ですね（笑）。

小川　あんなに圧力があるんだったら、別な方向で接近戦の技を覚えたら、全然違うんじゃない？　新日本は、みんな、なんだかんだ言うけど、結構選手が埋もれてますよね。飯塚選手もそうじゃない。1年もかからずチャンピオンになっちゃうんだからさ。

——小川＆村上組とやってからですからね。だからＵＦＯが新日本の味を引き出してるってことですよね。

小川　俺たちはダシか？　乾燥キノコとか？　村上は乾燥極太マツタケだな。ダーッハッハ。

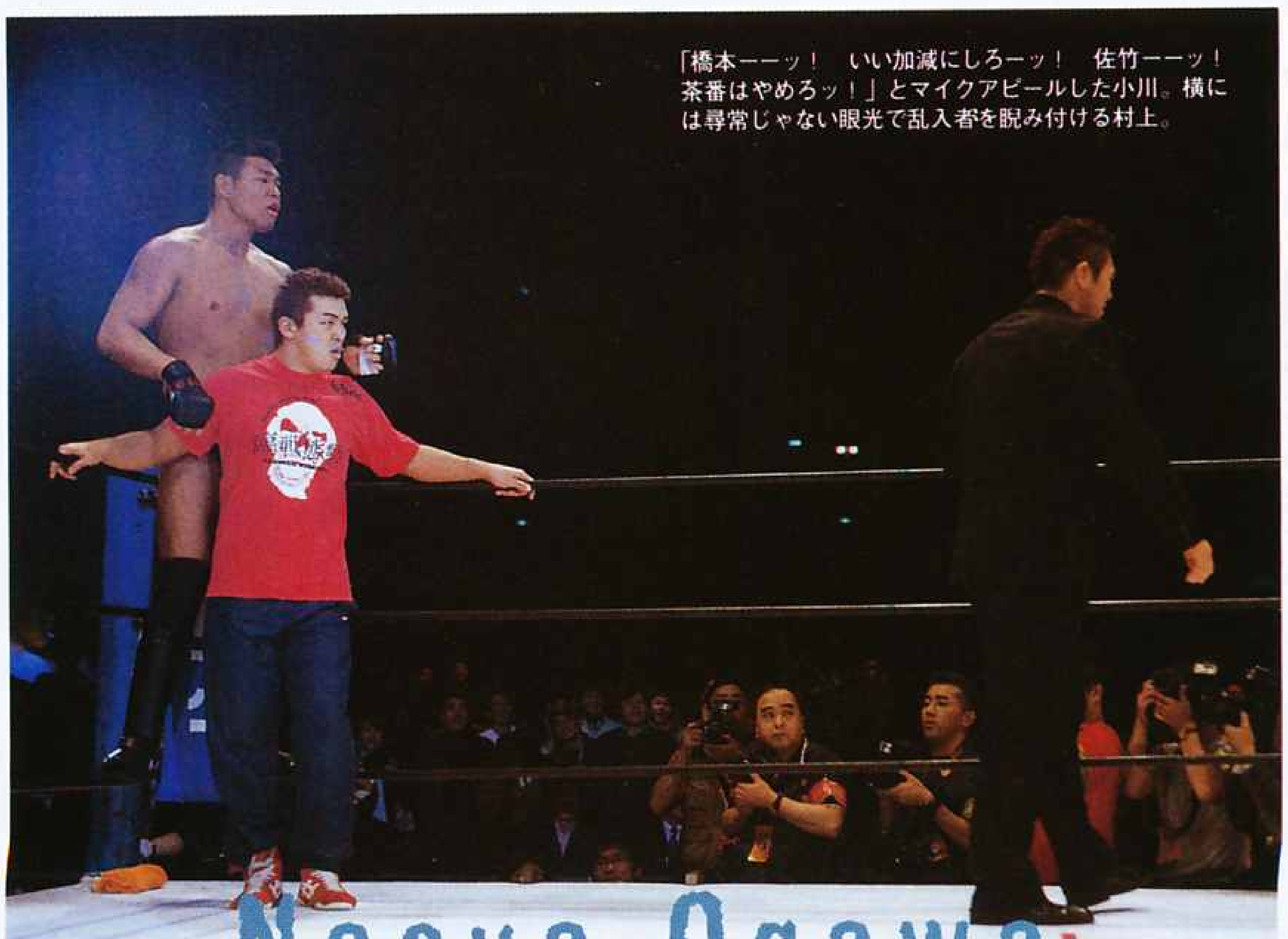
——自分から振ってますよ、村上ネタ（笑）。小川さんの試合は、リング上の乱闘にしてもスキャンダラスで「あ、プロレス見てるな」って感じがしましたね。

小川　嬉しかったのは、橋本選手が乱闘に突っ込んできてくれたっていうことですね。とうとうやる気になってきたのかなぁって。

——ところで1・4の橋本vs長州戦は見たんですか？

小川　俺のマネージャーがうるさくってさ、「見ろ、見ろ」って。「大問題ですよ！」なんて言われちゃって（笑）。「最悪だったんですよ」ってガーッて言われてね。俺は知らないから、何が最悪なのかわかんなくて。もう寝ようと思ってたんですよ、テレビなんか見ないで。でも「とにかく見てくださいよ！」って言うから。「何でお前、新日本見に行って文句言ってんだよ。それが新日本なんだから文句言うなよ」って言ったんですよ。「いや、今回はそれどころじゃない」だって（笑）。

——もう新日本だけの問題じゃないと。



「橋本ーーッ！　いい加減にしろーッ！　佐竹ーーッ！　茶番はやめろッ！」とマイクアピールした小川。横には尋常じゃない眼光で乱入者を睨み付ける村上。

Naoya Ogawa

『猪木祭り』は、それぞれの考えてる「プロレス観」が出たんじゃない？

小川　「これは大変なことだ！」って言うから、見たんですよ。でもテレビでは編集されてるから、「いい試合だったじゃん」って思ったもん。俺はテレビでしか見てないから、「いい試合じゃん。あれが新日本だよ」って言ったら、「あれは編集されすぎですよ！　あれはダメ！」なんて言われてね。俺は見に行ってないから知らねぇっていうの。

——もの凄いブーイングでしたからね。テレビではブーイングもカットされてましたけど。久しぶりですね、あれだけブーイングが起きたのは。「やっぱりいまのファンのニーズとは違うんだな」というのが、そのブーイングに出てますよ。

小川　新聞で見てコケたのが、藤波さんが「我々は殺し合いじゃないんだ」というセリフだね。どっから見ても殺し合いじゃねぇだろうっていう（笑）。俺も確かに「殺るか、殺られるか」っていうのはいつも言ってるからね。でも、どう見ても「殺るか、殺られるか」っていうふうには見えねぇなっていう。そもそも遺恨試合だったら当然、その結果を見にお客さんが来てるはずなのに、ああいう結果だから怒っちゃったわけでしょ、要は。

——あそこで、もし藤波社長じゃなくて猪木さんだったら「ここからは殺し合いだ！　あーっ！」って言うでしょうね。

小川　いや、違うね。まず「続行ーーーッ！」でしょ（笑）。

——ガハハハ。「続行ーーーッ！」パート2。

小川　「やるんだったら、死ぬまでやれや、死ぬまで！」だね。

——だから、逆なんですよね。猪木さんは何てコメントしますかね。

小川　予言してましたけどね。「俺には見えてるんだ」って。

——小川vs安田戦を見て思ったんですけど、小川さんみたいな意識を持ってプロレスをやる選手が他にいないじゃないですか。「闘魂プロレス」を受け継いでいくのにも、〝孤立無援〟ですよ。

小川　だから、いいんですよ。他と同じことしてたらダメでしょ。

——最近のプロレスは、煽りだけは話題性いっぱいなんだけど、そのリング外の話題に試合が負けちゃうんですよね。だからファンはガッカリすることが多いと思うんです。でも小川さんの場合は、リング外でも吠えるだけ吠えて、リング上でもそれに消されないスキャンダルを立ち昇らせるところが素晴らしいですね。リング外の話題に、リング内の話題が負けないっていうところが。それはなかなかできることじゃないですよ。それは猪木イズムのすべてじゃないけど、一端ではありますからね。

小川　スキャンダルだらけの選手が多くないと面白くないよ。俺はリング上でスキャンダルを起こして、村上はリング外でスキャンダル起こしてるから、まぁイーブンだろう、みたいな（笑）。弟分に超されちゃいけないからね。1・4も暴動寸前だったんでしょ？

——ブーイングはいつもより凄いんだけど、次の試合が始まると止んじゃいますから。昔なんて国技館に火つけてましたからね。

小川　「もうちょっと暖かい目で見てやろう」みたいなのがあったんですかね？　いや、逆か。それだけ冷めた目で見てるんだろうね。

——その原因は何だと思います？

小川　要は、自分たちの求めてるものはそうなんだけど、ちょっと飽きてきたっていう感じなんじゃないですかね。毎日食ってるものより、もう少し刺激のあるものがほしいな、みたいな感じで。

——そうなってくると小川さんにかかる期待ってメチャメチャ大きいですね。でも一人だと結構辛いですよね。

小川　辛いっていうか、しょうがないよね。俺とやってくれる人が数少ないから（笑）。

——あの日は佐竹選手も「もう1回やろう」と出て来ましたね。

小川　みんなね、「茶番はやめろ」って言ったのは、橋本選手たちに言ったと思ってる人もいるって聞いたんだけど、橋本選手には「橋本、いい加減にしろ！」って言ったの。で、後から出て来た人に対して「茶番はやめろ」って言ったの（笑）。

——あれも衝撃的だよなぁ。

小川　だから、人が簡単に考えてると思ってるんだよね。リングに上がってくる以上は、あの場でやるという覚悟で来ないと困るよ。やる気もないヤツがリングに上がって来て、見よう見真似のことすんなって！

——ある意味でプロレスをバカにしてるということですか？

小川　それはあった！　乱入とかプロレスのマネをするんだったら、バカにするな！　要するに俺たちをバカにしながらリングに上がってるというのが見えるんだよ。

——「こういうふうにやればいいんだろ？」

小川　単に上がるだけだったら、フザけるみたいな雰囲気が出てると。

リングに上がった以上あの場でやるという覚悟で来いってことだね



なってことですよ。何しにリングに上がってきたんだって。だって、あれだったら普通のわけのわかんないヤツがリングに上がってきて「ワーッ」ってピースサインするのと変わらないよ。ある意味、マイクとかはショーマンシップのショーの部分なんだけど、やっぱり「なんなら、いまやろうや」「じゃあやってやろうじゃねぇか」っていう覚悟を見せるっていうのがリングに上がって来る意味じゃないですか。リングっていうのは闘う場なんだから。

——背広の上ぐらいは脱いで欲しいなっていうとこはありますよね。

小川　やるんだったらマイク持ってなんか言えよ！　プロなんだから。「なんなら、俺はいまでもできる」みたいな感じで上着を脱いだらいいんだよ。お客さんは橋本選手に

Naoya Ogawa

目が行ってるんだから、マイクで「おい！」ってひと言いえば、みんなフッと動くじゃん。

——はっは〜。だから〝格闘家〟と呼ばれる人たちは、マイクで叫んだりするのを〝茶番〟だと思ってて、小川さんからすると、なにもしないのが〝茶番〟なわけですね。

小川　結局、お客さんに見せるわけじゃないですか。それまで起こった乱闘を見てるのに、リングに上がった瞬間にお客さんはどこを向いてるのかっていうぐらい、わかるでしょ。例えば、俺は西武ドーム（00・8・27）で、何で人の視線が集まったかっていうと、俺がマイク入れて言葉を発したから、みんな「何だ？　何だ？」って見るわけですよ。その前に佐竹選手がマイク持って何か言ってたでしょ。それを断ち切らなきゃいけないってことで、やったわけだから。それでマイクでお客さんに宣言して、自分を追い込む。それでその場でノサれたり、試合で負けたら自分が悪いだけなんだから。マイクひとつにしても、それくらい性根を据えて来いよっていうことですよ。

——そういう部分でもプロ精神が求められるわけですね。

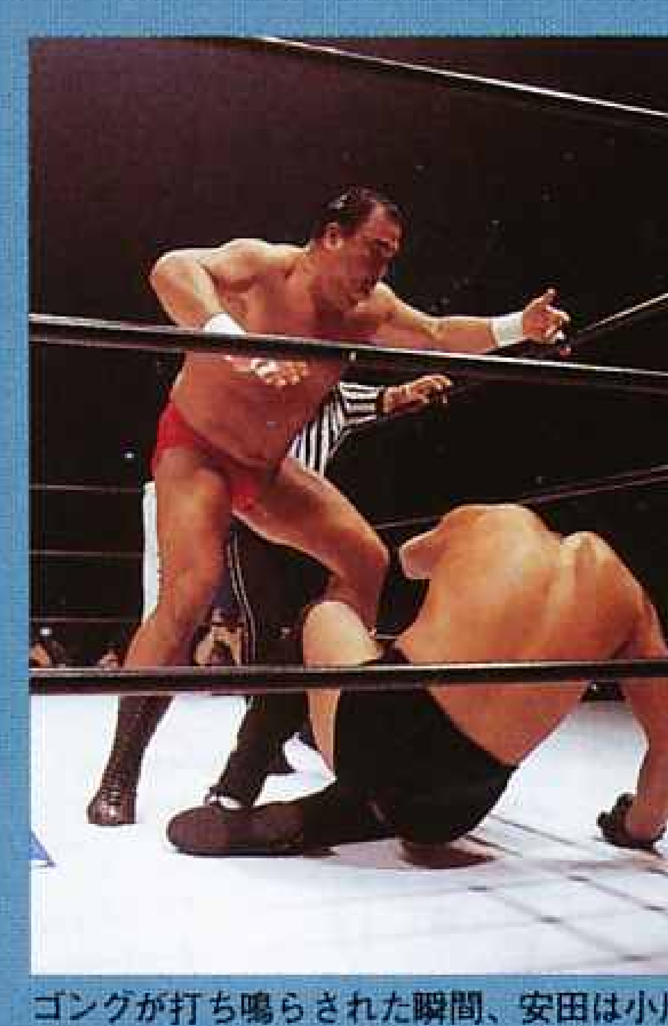
小川　だから街のケンカでもそうじゃないですか。「オラー！」って言って始まったら「何だ？　何だ？」って、みんなそっちに行っちゃう。そんなときに隅っこでさ、「あの――……」なんてやってたって、誰も見てねぇよって。そういう姿勢が茶番に見えたからね、俺には。

——いちいち刺激的ですね、言うことが。

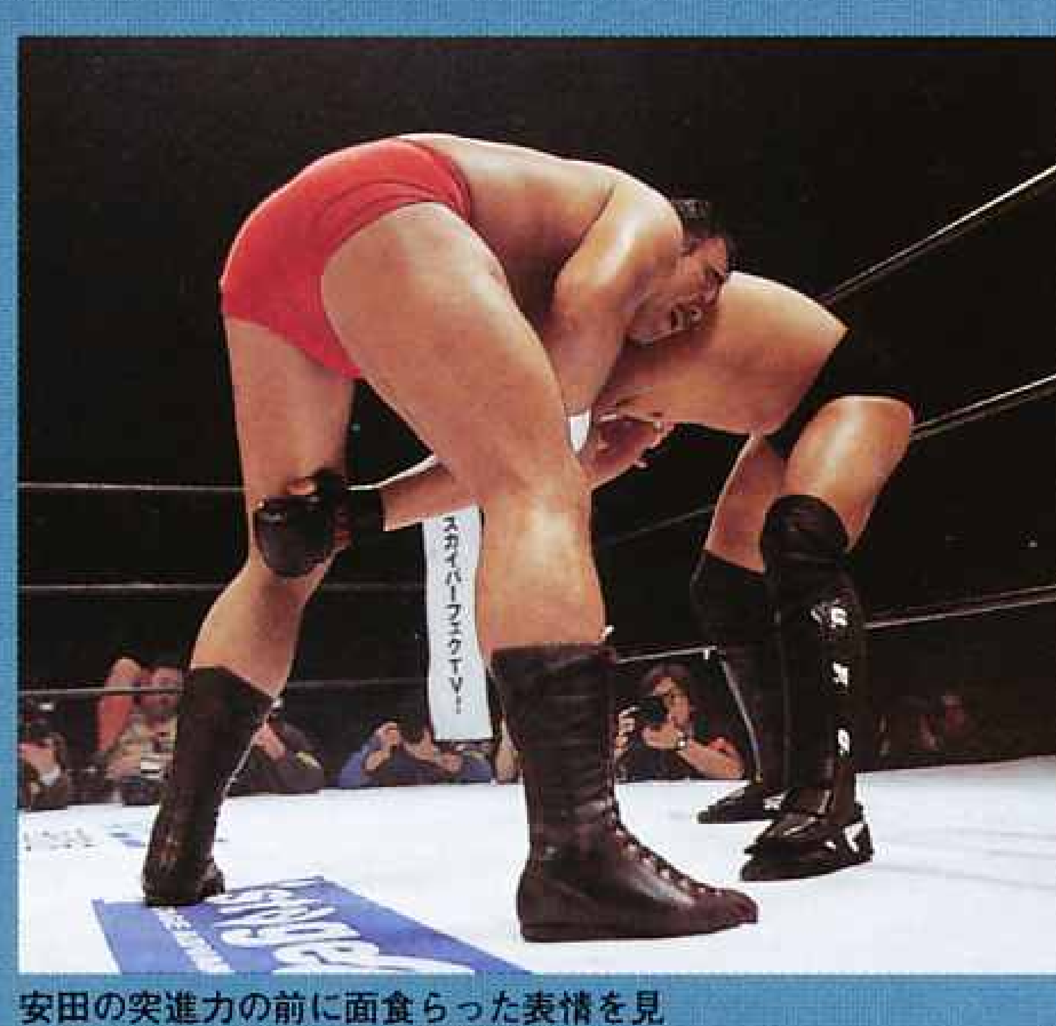
小川　俺の立場もなくなっちゃうもん。そうでしょ？　俺が「佐竹、この野郎！」ってガナってるのにね、それで佐竹選手がなにもしないで出てったらさ、なんかテレビの画面に出てくるテロップの『……』みたいになっちゃうよ。「残された俺って、何すりゃいいんだ」みたいな。だってマイクで

00.12.31PUTIT BOUT REVIEW

○小川直也　1分38秒 裸絞め　**安田忠夫●**



ゴングが打ち鳴らされた瞬間、安田は小川に向かって突進！　強烈な突っ張りでコーナーまで追い詰め、倒れ込んだ小川に対し、一心不乱にストンピングを叩き込んだ。



安田の突進力の前に面食らった表情を見せる小川。立ち上がった小川は片足を取りテイクダウンさせようとするが、さすが元関取、腰が重くなかなか倒れない！



小川の強烈なパンチが安田の顔面に炸裂！　棒立ちとなったところへトドメの一発をお見舞いすると、安田の巨体は大きな音を立てマットに崩れ落ちた。



ガナろうなんて、あの日は思ってなかったんだから。そんなシマんない状況じゃしょうがないから、「マイク貸せ！」って言ったんだよ、その瞬間に、誰か知らないけど、すぐマイク持って来たからね。あの人はできる人だね（笑）。

――ガハハハ！　できますかーーーッ！

小川　「あんたプロレス好きなんじゃないか！」っていう感じだね。だって早いもん。乱闘はね、ある部分では試合に出る意気込みと一緒ですからね。みんなに茶番として見られるんじゃなくて、本当に「やってやる」っていう気持ちでやらないといけないよ。リングに上がってくるんだったら。乱闘歴は長いですからね。村上といい、俺といい（笑）。

――小川さんはデビューしてからズッと乱闘ですよね（笑）。

小川　猪木さんに最初に教わったのは、乱闘の精神ですからね（笑）。

――ガハハハ！　やっぱり（笑）。

小川　ズッと猪木さんについて、乱闘を目の当たりにして。ビギナーはね、やっぱり失敗するんですよ。死ぬ寸前までいきますからね、ビギナーがちょっとでもヘマすると。

――ああ、どっかの誰かみたいに大勢に袋叩きにされて、イビキかいちゃったり（笑）。

小川　あれでね、彼も大分苦労したみたいですけどね。あれ以来、乱闘のプロになりましたよね、絶対に離れないという。一人でハイエナの群れに入っちゃいけないってわかったみたいだから。

――3月25日の『PRIDE．13』では佐竹選手の対戦要望は受けるんですか？

小川　う～ん、茶番だったからなぁ。

――ガハハハ！　怖いなぁ。

小川　いや、嬉しいんですよ！　対戦要求は。でも、何にもなくただ再戦してもねぇ。

――でも、「佐竹、茶番はやめろ！」って言



グッドリッジからタップを奪った橋本は安田が小川に絞め落とされた瞬間、すぐにリングへと乗り込んでいった。その橋本に対して鬼の形相で突っかかっていったのが村上。乱闘王健在！



った後、またもや見事なファルセットボイスになってましたよ（笑）。

小川　ダーッハッハッハ。あれね、マウスピースしてると、なかなか声が出ないんだよ。だから、大きい声出すと持たない。普通の声だと、ありきたりのドスの利いた、聞き取れないような声になるんだけど。

――マウスピース取ればいいじゃないですか。

小川　邪魔だけど、ついてなきゃ危ないでしょ。こっちが「いつ何時でも」って言ってる以上、いつやられるかわかんなないんだから。

――あのファルセットボイスの裏にはそういう事情があったんですね（笑）。

小川　でも、今回の乱闘は、どう見ても村上が真っ先に仕掛けてたよね。仕掛けなくていいのに。

――真っ先に飛び込んでってましたね。

小川　「ここは俺の出番だ！　目立たなきゃ！」みたいな（笑）。凄かったもんね。

――小川さんを突き飛ばす勢いで（笑）。何かストレス溜まってるんですかね？

小川　新婚なのに溜めてどうするんだっていうね。

――ガハハハ！　好きなんじゃないですか、村上ネタ。

小川　いやいや。HPの日記にも書いといたけど、あいつに歌作ってやった。題名は取りあえず『アウト・オブ眼中』！

――ダハハ。橋本選手は、いま、『猪木祭り』、新日本、ノアにも出た。小川さんは闘いのフィールドを広げようっていうプランはないんですか？

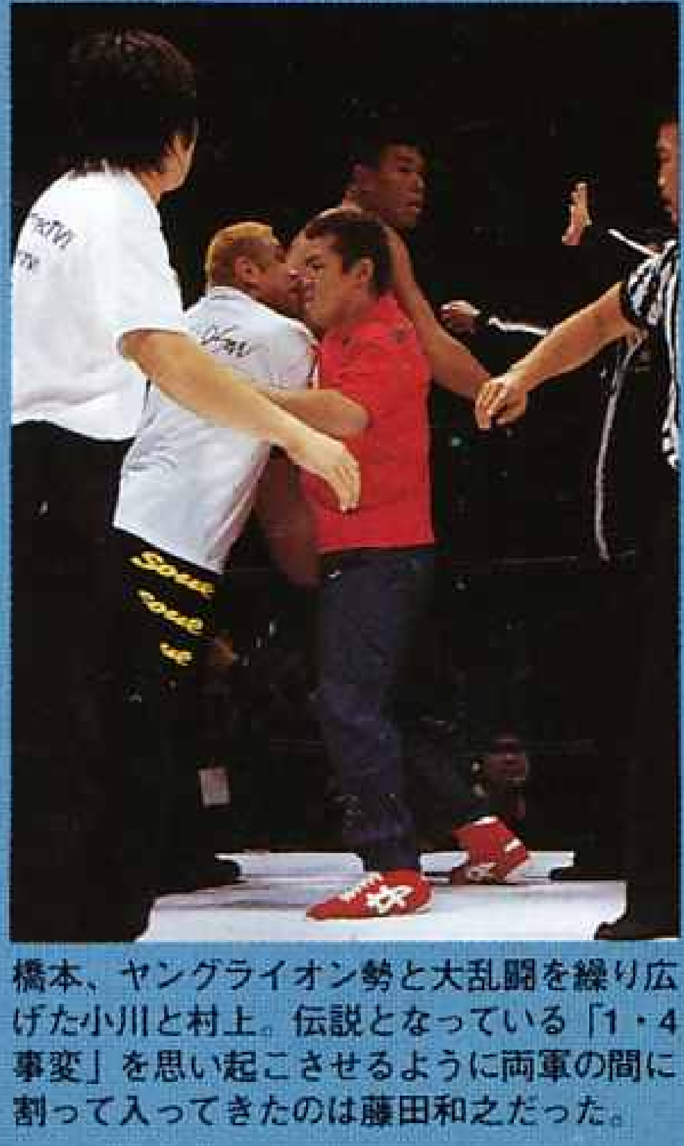
小川　それはそれで、橋本選手が開拓者になってるんじゃないですか、ある意味で。俺が行くと引くからね、みんな（笑）。

――ガハハハ！　引かれますか。

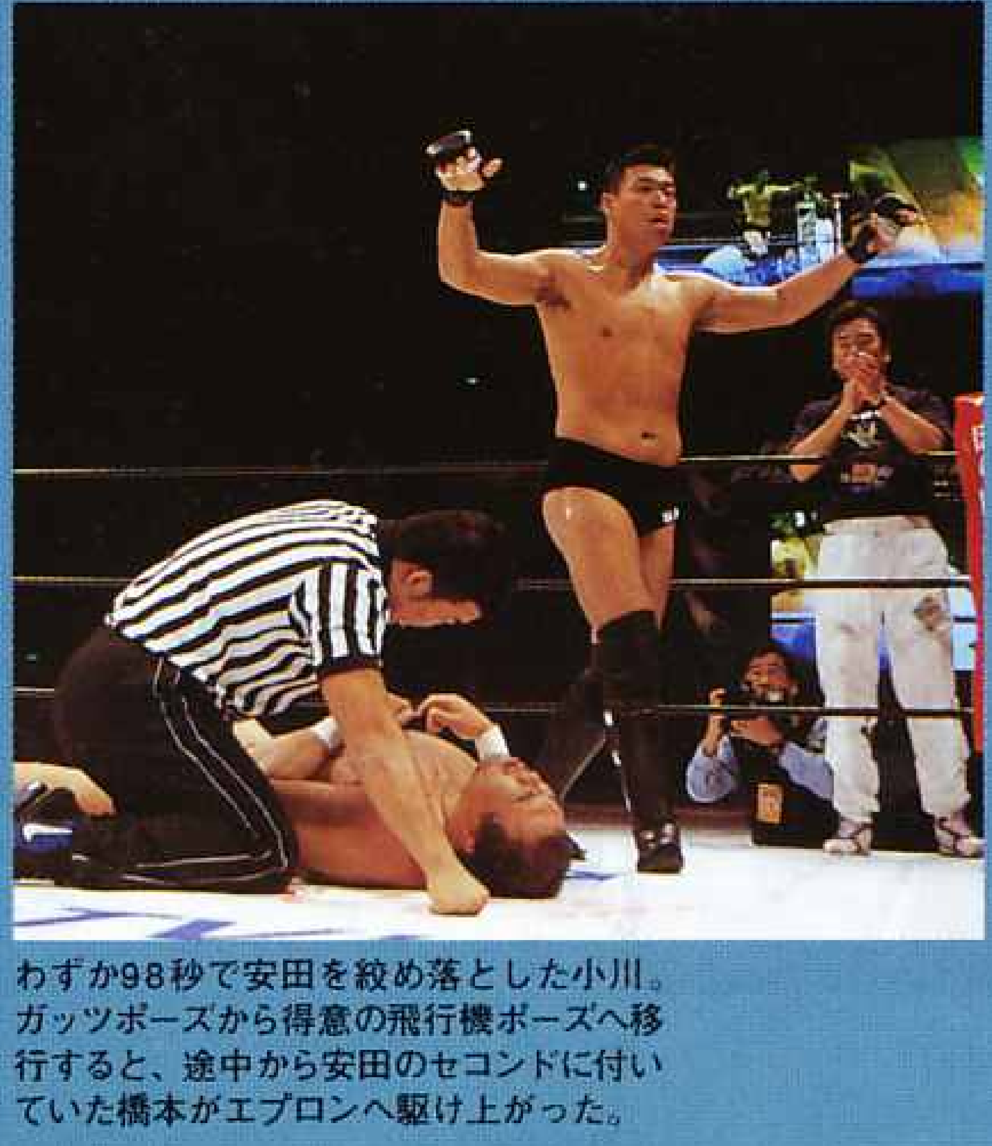
小川　例えばね、昔の映画で、イカツイ兄



橋本、佐竹との乱闘騒動が収まったあとも、小川と村上の目は飛びっぱなし。小川は『猪木ボンバイエ』で最大級のインパクトを残すと足早に会場を後にした。



橋本、ヤングライオン勢と大乱闘を繰り広げた小川と村上。伝説となっている「1・4事変」を思い起こさせるように両軍の間に割って入ってきたのは藤田和之だった。



わずか98秒で安田を絞め落とした小川。ガッツポーズから得意の飛行機ポーズへ移行すると、途中から安田のセコンドに付いていた橋本がエプロンへ駆け上がった。



安田がリングに倒れ込むと、すかさず背後に回りスリーパーをガッチリ極めた小川。『PRIDE』での佐竹戦を思い起こさせるようなフィニッシュであった。

ちゃんが「オラオラ」って来ると急に周りのお店が全部閉まっちゃうっていうシーンがあるじゃない。そういうの見てるみたいだね。

――「関わっちゃいけない」って（笑）。警戒してるんでしょうね。

小川　橋本選手とは、仲間じゃなく、同じ土壌で闘っていきたいっていうのはあるけどね。闘いが全てなんだっていう意味では、橋本選手なんかも、ズッと闘ってきて、そういうのはわかってますからね。何が大事かが。でもね、「もっとやんなきゃいけない」っていうのは、ありますよね。

――長州vs橋本も、あそこで何かしら突き刺す闘いをしてれば、流れを掴めたんでしょうけどね。

小川　あれだけ「憎い」とか言い合ってて、ホントは仲いいんだろうなと思ったけどね、俺は（笑）。「なんだ、仲いいんじゃん！」みたいな。

――ガハハハ！　ファンの裏読みじゃないんだから（笑）。

小川　俺、マジで思ったもん。橋本選手がどうやって巻き返して来るのかっていう流れじゃないですか。その中で橋本選手がドーンとノアに出て、グッドリッジ戦やって、「さあ、長州戦だ！」って、みんな期待してるわけでしょ。俺だって「お、面白そうだな」と思ったからね。

――「行け、破壊王！」（笑）。

小川　橋本選手のあのテーマ曲が鳴って、ノボリもたくさん立って、「オオオォ！」と思ったら「あ～あ、やっちゃった」みたいなね。……ある意味、橋本選手らしいんだけどさ（笑）。でも、終わった後「あいつは大したことない」みたいに言われてたんだから。どうせだったら「あいつはこの世界に置いておけねえ」ぐらいにまで行っちゃえばいいのにさ（笑）。

――それができるのは小川さんぐらいでしょう（笑）。でも長州vs橋本戦のあとに、長州vs小川戦というのが一気に浮上してきましたね。

ヒクソン戦を賭けて長州戦？ それなら大乗り気!! いつでもいいですよ

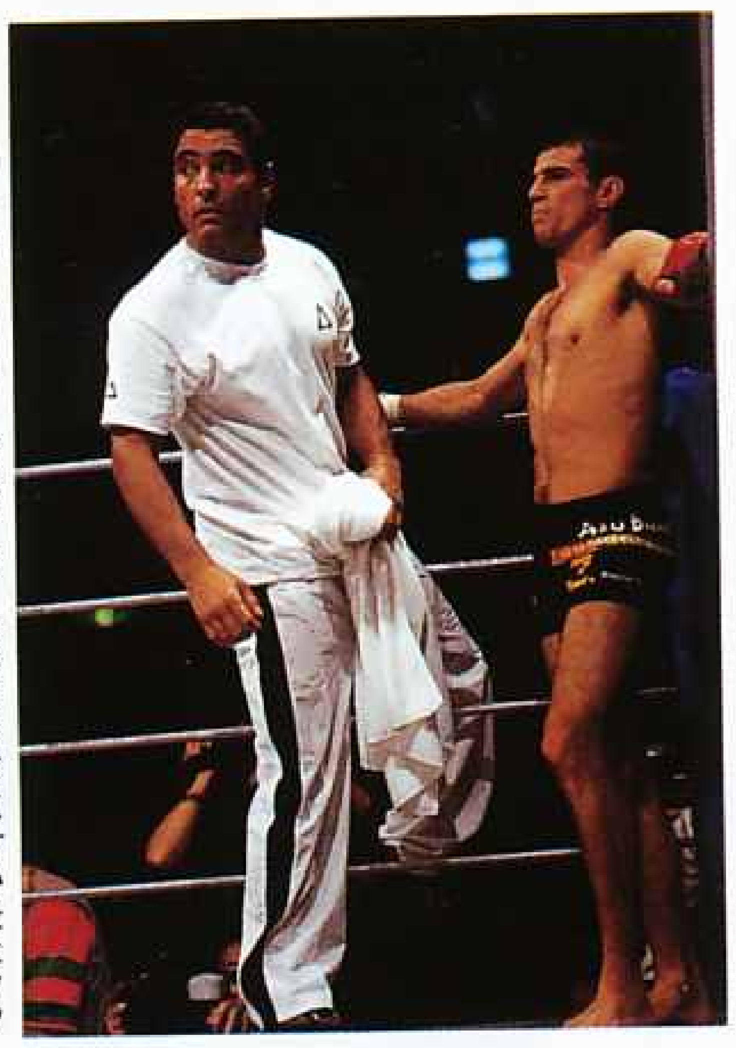
小川　あんまり書けないんだよ、マスコミがさ。何が怖いんだか知らないけど。もっと書けばいいのにね。

――どうなんですか、対長州っていうのは？

小川　元々は、去年の5月に始まってるわけでしょ。要はマスコミが、誰かさんの顔色伺って消したんですよ。消したと思ったところにドンパチが始まった（笑）。

――ガハハハ！　小川戦かと思ったら、電流爆破のほうに行きましたね（笑）。

小川　だから、同じ毒でも、「これはどっちの毒のほうが安全かな？」って選んでたんじゃないですか？　両方〝劇薬〟って書いてあるけど、片方は、ドクロマークが付いてるわかりやすい毒で、もう片方は化学兵器の細菌みたいな、わかりにくい、一度飲んだら絶対治んないような毒だからね（笑）。



1・8DEEP2001でホイラーのセコンドに付いたヒクソン。ホイラーは、ちっちゃいオーちゃん（自称）村浜相手にドロー。熾烈な争いを見せるヒクソン争奪戦。小川に秘策はあるか？

Naoya Ogawa

――その長州力vsヒクソン戦というのが、これまた各マスコミで「実現寸前」とか書かれてますけど、それに対してはどう思ってますか？

小川　1・4の流れを消したいんじゃなかったの？

――長州力自身は「あり得ない」とは言ってますけどね。

小川　あ？　本人が「あり得ない」って言ってんの？　じゃあ、あり得ないよ。

――でも、いままで「あり得ない」と言って長州力は、その後にポロッと大仁田戦とかやりましたからね。だからマスコミ陣の間では「長州力があり得ないと言ったら、あるんじゃないか？」っていう読みがあるんですよ（笑）。

小川　俺なんかの「あり得ない」っていうのは単純だからさ。ということは、マスコミが逆に手の平の上に乗っかってるんだね。マスコミを手の平に乗っけるなんて素晴らしいですよ。

――小川vs長州で、ヒクソン戦を賭けてやるというのはどうでしょう？

小川　それだったら、もう大乗り気ですよ！　でも、またこんなこと言ったら、またスカかもしれない。扉を開けたらスカっていうのだけはやめてくれよって。嫌になっちゃうから。

――でも長州戦をやるなら、いましかないですよね。

小川　そうですよね、いつでもいいですよ。向こうは何も言ってこないから。受けて立つって立場ですからね、いつでも向こうは。何かのきっかけでポロッと言ってくれればね。でも、それを載っけないんだよ、マスコミが。

――ガード固いですからね。

小川　固い！

――話がちょっと戻るんですけど、『猪木祭り』っていうのは、小川さんはどういうふうに捕らえました？

小川　やっぱり、21世紀に向かって、ああいう選手たちが、どういったプロレスを見せてくれるだろうっていう期待感があったんじゃないですかね？

――猪木さん自身に。

小川　猪木会長自身がそう思ってやってますからね。間近にいるから俺なんかは余計





わかるんだけど、一回の説明で把握してくれる人は……難しいだろうね。普通、俺みたいに、お祭りであそこまでするかって言ったら、やらないよね（笑）。

――小川さんから見て、猪木イズムを持った選手っていうのは誰か他にいるんですか？

小川　橋本選手もある意味じゃ持ってますよね。ガッカリしたのは、佐竹選手はパラオで何を学んだんだろうっていうことだね。これは好き嫌いじゃなくてね。

――延髄斬りを伝授されてました。

小川　10代のこれからっていう選手が「技術面を学びました」って言うならわかるけど、彼にとって重要なのは、猪木さんのプロレスをどれぐらい盗んでくるかじゃないですか。確かに心・技・体の〝技〟も大事かもしれないけど、〝心〟が一番重要じゃないですか。



――ところで、今年は当面はヒクソン戦に向けて突き進むわけですか？

小川　そうですね。あとは桑田さんに歌を……。

――ガハハハ！　またつくってもらうんですか!?（笑）。

小川　いやいや、あの歌の歌詞の一部と、歌の題名を変えて欲しいっていうね（笑）。

――あちゃ～（笑）。

小川　それから、自主興行となったらね、インターネットとか、IT関係がこれからもっと伸びていけば、ゆくゆくはUFOも地方の人たちにも見てもらえるようになるでしょうね。要するに、箱（会場）の大きさは関係なくなってくるじゃないですか、テレビとかネットがあれば。そういう時代になれば、逆に俺なんか小さい箱で、タイガーマスクとかいた頃の、花道が凄い狭くて、人がワーッと来てモミクチャになるのもいいなと思うね。昔の雰囲気というか熱気を出したいね。それは実際そういう箱にしないと雰囲気も出ないと思うし。ドームという会場も確かに素晴らしい会場だと思うんですけど、それと違った昔の熱気も出したいし。仕事帰りのサラリーマンの人が扇子（せんす）で扇ぎながら見るような、あんなのもいいな、なんて思ってますよ。

――「それもセンスがいいな。なーんつってな、ダーッハッハッハ」って猪木さんが言いそうですね（笑）。

小川　あ～あ、そーと－猪木会長に毒されてるよ（笑）。

――そういえば、さっき『SRS・DX』（1／25号）をチラッと見たら、ターザン山本が「小川選手は私を避けているのだろうか？」と書いてましたよ。

小川　いや、避けてはないって！……だから、こういうコメントしただけでもわかってほしいですよね。人間一番嫌なのって無視されることでしょ。無視してないんだから、いいじゃん（笑）。もっと無視してる人だっているんだから、俺。ターザンさんは自分の見方ってものがあって書いてるんだろうし、それに対して俺は別にいいんじゃないかって思うし。だって会場で会ったら挨拶するしね。他に……何か求めてんのかなぁ？　気持ち悪いなぁ（笑）。



――多分、インタビューさせてほしいんだと思います（笑）。

小川　だって、いろいろ説明すんの面倒くさそうなんだもん（笑）。

――「小川選手が出るのは『紙プロ』ばっかりだ」とも書いてます（笑）。

小川　自分だって『紙プロ』に出てるじゃん！（笑）。「ばっかり」って失礼な言い方ですよね。俺、『週プロ』にも出てるし、一般誌にも出てるし。他の雑誌を見てから、読んでから言え！

――加えてウチのインタビューを指して「全く読む気にならない」「聞き手と語り手が予定調和にあるものは、創造性に欠ける」と書いてありますよ。

小川　そのターザンさんの原稿のほうが予定調和ですよ。俺は挑発のプロだから、そんなんじゃ心が動かない。（テレコに向かい）ターザンさん、悪いけど、ターザンさんだけの意見を聞くわけにいかないですから！　やってんのは俺なんだから！　俺の行きたい方向性というのがあって、いまはそれがいい方向に自分なりには進んでるんじゃないかと思ってますんで！



――ターザンは単純に小川さんに会いたいんですよ（笑）。

小川　……。別にいいんですけどね。俺がターザンさんの悪口言ったのなんて聞いたことないでしょ。

――「このハゲ！」とか言わないですからね（笑）。ボクが代わりに言っときます。

モーリー　あ、じゃあ小川さん、最後に数カットだけ撮らせていただけませんか。

小川　あ？　まだ撮るの？　いましゃべってる間も散々撮ってたじゃん。

モーリー　いや、すぐ終わりますから！（ご機嫌を取るように）小川さん、大晦日はサザンのコンサート行かれたんですか？

小川　あ？

モーリー　い、いや、横浜アリーナであったんですよ！　恒例の年越しライブ。

小川　知ってるよ！　俺は大晦日はドームにいたんだよ！　オ・オ・サ・カ・ド・ー・ムで試合してたんだよ！　その話をしてたんだよ、いままで！　もうホントにこの人永久追放だよ！

モーリー　か、勘弁してくださいよ～。

――UFO公式出入り禁止カメラマン誕生――ッ！（笑）。

【01年1月10日／UFO事務所にて収録】

もう潔くピシッと〝線引き〟した方がいい

4年ぶりに「純プロレス」のリングに光臨した「新プロレス」の神

延彦



聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／松本崇
photographs by Takashi Matsumoto

高田

NOBUHIKO TAKADA

昨年の10・31、ボブチャンチンという高い山に挑んだものの、頂上を見ずに下山を余儀なくされた髙田延彦。11月に入ると「忘れ物がある」と、『PRIDE』にあと一試合限定で出場することを明言した。さまざまな「忘れ物」の名前が憶測で飛ぶ中、髙田は12・31『INOKI BON-BA-YE』で武藤敬司とドリーム・タッグを結成。4年ぶりに純プロレスのリングに足を踏み入れた。そこで、髙田の考える「プロレス」とは何か？　を直撃した。

――さっき、出がけに編集部で『内外タイムス』（『ナイガイ』）見たら、高田さんが1面でしたよ。

高田　あ、そう？

――〝忘れ物〟の正体はモーリス・スミスだそうです！

高田　またぁ（笑）。ホント？

――ホントですよ。

高田　だんだん好きになってくるね、『ナイガイ』が。発想が、枠に閉じこもってないよね。

――「まさか！」と思いましたからね（笑）。

高田　常人じゃ書けないね。面白いもん！　モーリス・スミスっていう発想が『東スポ』より突き抜けてるね。

――で、それを見ちゃったもんだから、その真偽のほどを教えてくれませんか。

高田　正直に言おうか？

――ゼヒ！

高田　「いいとこ突いてるねぇ」って感じだよ。

――ホントかな（笑）。全然ドキッとしてないじゃないですか。

高田　ハッハッハ。逆に、どんな人が出て来るのかなっていうのが面白いよね。スミスにしたってそうだし、何人か予想で上がってたでしょ。

――ホイス、小川直也、それから桜庭和志（笑）。

高田　なるほど（笑）。

――でも、その話題が出る度に、高田さんは「ノーヒント」って言ってますよね。「ノー問題」に続いての名言ですよ（笑）。

高田　別にジラしてるわけじゃないんだけど、決まってもないものを言ってもね。言って決まんなかったら、俺も周りもガッカリするだろうし。本人の口から出るのは、確実性のある情報じゃないといけないからね。



【左】髙田が希望する相手はモーリス・スミス!?　と報じる『ナイガイ』（1/18付）【右】プロレスは実に4年ぶりとなる髙田。パートーナーはWCWより久々の帰国となる武藤

――でもモーリス・スミスっていうのは、盲点突かれましたね。

高田　脳天突かれたの？（笑）。

――ガハハハ！　冴えてますね。〝忘れ物〟は楽しみにとっておくとして、今日は『猪木祭り』の話を中心に聞きたいんです。まず、あの日の一番の疑問は、最後のカウントダウンと餅つきに、高田さんの姿が見えなかったということですよ。

高田　ノーヒント！

――ウマイ！（笑）。

高田　いろいろ想像してみてよ。さっきの〝忘れ物〟の件もそうだけど、「なぜなんだろう？」と思いを掻き立ててもらいたいね。いま言った件に関しては、メールでもいろんな解釈が送られてくるから。「あ、こう思ってるのか」っていうのが、すごく新鮮、斬新ですね。

――久しぶりのプロレスのリングは、どうでしたか？

高田　ノーヒント！

――なぜだ！　これは感想を聞いてるんですよ（笑）。月並みな質問すぎますけど、4年振りですよ。Uインターの最終興行以来（96・12・27高山善廣戦）ですよね。

高田　そうだね、後楽園ホール以来だね。要するに〝お祭り〟に参加できたと。で、新しい世紀へのカウントダウンでしょ。その空間に参加できたっていうことは、21世紀に向けて、自分もこれからファイトしていくわけだから、「まだまだやれるよ」っていう、自分に対する位置確認というのかな？

――ポジション取りですか？（笑）。

高田　そうだね。リングではポジション取られてばっかりだけどね。

――ボクは何も言ってませんよ（笑）。

高田　あ、そう？　最近、空耳が多いんだよね（笑）。でも、特にあのときは体がペチャンコだったからね。体調的には最悪だったよ。

――プライベートでも、いろいろ重なっちゃいましたからね。

高田　まぁ、それは別にして……怪我が多かったし、体調が優れなかったからね。だから、まったく練習しないで上がったような感じだね。集中力も欠けてたね。

――確かに、見ていて精彩に欠ける感じはありましたね。あの試合は〝お祭り〟として参加して、楽しかったんですか？

高田　あまり面白くなかったかな。俺自身、テーマも見出せなかったし、首も痛めて「大変な年越しだなぁ」って感じだったね。自分の中でピントが合わなかったのかな、試合に対しての。でも、ああいう記念碑的な場で、しかもリングの上に居られたということが、せめてもの、「来年もやるぞ」っていう意識を持てた材料だったね。

――テーマがあるのとないのとじゃモチベーションはまったく違いますからね。

高田　俺はやっぱりテーマありきっていうのが習慣づいてるからね。だから、どうしてもピンボケになると、体の動きも、頭の中もボンヤリしてきちゃうよね。お祭りはお祭りでいいんだけども、お祭りの中でも自分にテーマがあれば全然違うでしょ。せっかく、久しぶりにプロレスのリングに帰るんだから、もう少しやりたいことに近いことを、マッチメイクも含めてやりたかったね。

――最初はシングルマッチを希望してましたよね。

高田　あの2人（ドン・フライ、ケン・シャムロック）とやるにしても、どっちかとシングルだったら、気分は全然違ったと思うんだけどね。

――『PRIDE』に出てる選手が純プロレスの試合に参加する意味っていうのは、高田さんにとって、どういうものだったんですか？

高田　俺はとにかく、『PRIDE』の選手がプロレスをやるならば、しっかりとしたコンセプトを持たなきゃダメだと思った。だから、昔でいうと、UWFが極北にあったけど、いまはその奥に、『紙プロ』のいうところの「新プロレス」、いわゆるバーリ・トゥードが出てきたわけだからね。



――それが『PRIDE』ですよね。

髙田　そう。そのバーリ・トゥードの選手がプロレスをやるわけでしょ。で、おのおののプロレス観っていうのが違うわけだけど、そこを統一したほうがいいのか、おのおのの思いをバラバラにやるべきなのか。そういうコンセプトが見えなかったからね。だから迷いのある試合もたくさんあったし、そういう意味では、成功したように見えて、どうだったかな、という気がするね。

――大会全体がっていうことですか?

髙田　うん、全体が。なんか、刹那的な成功で、後々に引っ張れるパワーを持った成功ではないような気がして、首も痛めてたし、控室で一人でブルーになってたんだよ(苦笑)。

――プロレスの先輩として、桜庭さんの試合はどう見ました?

髙田　これはあくまで俺の主観だけど、やっぱり、桜庭から出てくる光がね、太陽と月ぐらいの違いがあったね。

――『PRIDE』のときと。

髙田　うん。『PRIDE』では、入場してくる姿や試合を見てると、なんか神々しい、キラキラした桜庭がいるんだよね。簡単に言っちゃうと強烈なオーラがある。それと比べると、あの大晦日のときはね、桜庭の良さが隠れちゃった気がするね。

――それは実に同感ですね。

髙田　だから、俺の中では、「サクはやっぱり、バーリ・トゥードでズッと行ったほうがいいのかな?」って思わせるような感覚があったね。もちろん決めつけはしないし、またチャンスがあればトライするべきだけど、彼がホントに活き活きするのは"なんでもあり"のリングなんだろうね。本来は、躍動感がもっと出せるはずなんだよ、プロレスでは。彼はなぜか『PRIDE』のほうが躍動感があるんだよね。だから、大晦日は魚をいけすに入れた感じで、『PRIDE』のリングだと海に放った感じ。そういう差があったね。

――『PRIDE』のリングだと自由に泳ぎ回りますからね、桜庭さんは。

髙田　だから、今後を決定づける表現として言ってるわけじゃないけども、率直に言えばそういう感想だね。"何でもあり"がサクの一番活きるリングなんだよね。

――桜庭さんにとっての「プロレス」っていうのは"何でもあり"なんでしょうね。

髙田　桜庭の凄さっていう部分で外せないのは、リアルファイトの中であぁいう試合をできるから、ファイター仲間もみんなド肝抜かれるわけだし、他の選手は真似しようとしたってできない。だからこそ、山口さんも「あれが桜庭の"プロレス"なんだ」という見方ができてしまうんじゃないかと思うんだよね。

――スタイル云々抜きにして、「闘い」を通じて自分のスタンスや考え方を突き刺していければ、それは「プロレス」だと思いますから。

髙田　うん。

――しかもリアル・ファイトの中でそれができるのは最高級のプロレスラーですよね。でも、そうなると「現状にあるプロレスってなんなんだ?」というのが、当然のごとく出てきますよね。

髙田　それはね、今回桜庭がMVP獲ったことでね、もっと「なんなんだ?」になっちゃったよ。これは大変なことだよ。

――『PRIDE』を見てるときのドキドキ感が、ボクのイメージする「プロレス」なんですよね。力道山時代にはその時代のドキドキ感があっただろうし、猪木さんの全盛時には、いまの『PRIDE』と同じようなドキドキ感があったと思うんですよ。

髙田　まだ、プロレスの中にドキドキ感を求めたい人はたくさんいるんだろうけど、でも、もうそれは非常に困難な作業に、そして時代になってきてるんだよ。それのダメ押しがこの前のドームだよね。

――どこかの1・4ですね(笑)。

髙田　あれで決定づけたね。

――格闘技とプロレスの折衷案としてのプ

00.12.31 PUTIT BOUT SHOT

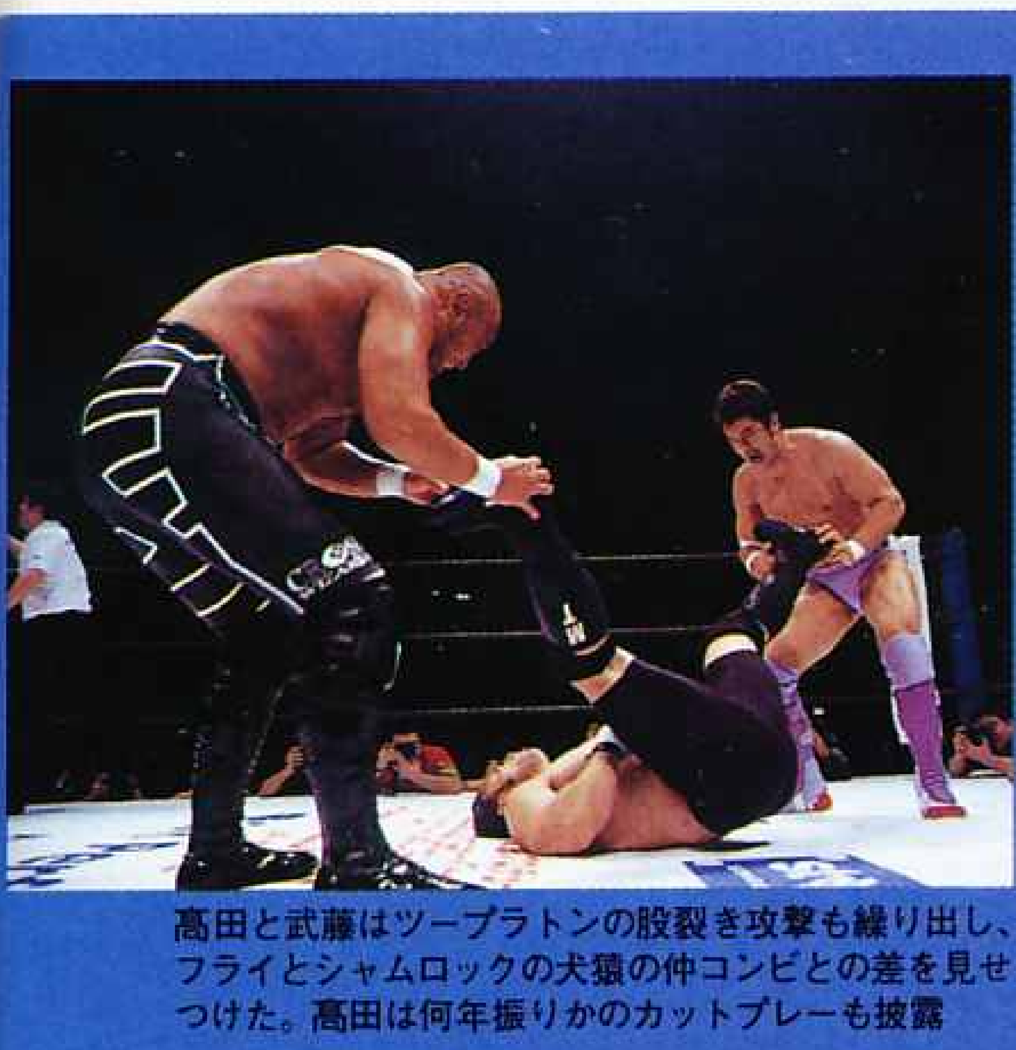
○髙田延彦 武藤敬司 (24分13秒 体固め) ドン・フライ● ケン・シャムロック



パートナーの武藤が衝撃のスキンヘッドで観客の度肝を抜けば、一方の髙田はUインター時代を彷彿とさせるレガース姿で登場。髙田はシャムロックの胸板に鋭いキックを叩き込んだ



これまで、ありそうでなかった髙田とドン・フライのカラミも実現。フライの独特のマウントパンチも受けた髙田。ゼヒとも『PRIDE』のリングで実現して欲しいカードである



髙田と武藤はツープラトンの股裂き攻撃も繰り出し、フライとシャムロックの犬猿の仲コンビとの差を見せつけた。髙田は何年振りかのカットプレーも披露

「プロレスとは何か？」という定義づけをすること。そういう時代に来たね



ロレスっていうものの限界がきてるんですかね。

高田 俺は前から言い続けてることだけど、もう潔くピシッと線引きしようと。そのほうが見るほうもスッキリ気持ちよく見れるんだから。その潔さがないと、ただバーリ・トゥードとかに振り回されてるプロレスになっていくからね。柱っていうものもなくなりつつある状態だからね。

――アメリカではWWFが10年以上前に「プロレスはエンターテイメントだ」とカミングアウトしてますからね。

高田 やってるね。でも、日本の場合がそれをやるかどうかは非常に難しい選択だよね。1回線引きしたら戻れないし、そっちに行くしかなくなっちゃうから。タイミングもあるしね。でも、俺はタイミングだと思うんですけどね、いまが。

――だから、ウチでは、暫定的だけど、〝純プロレス〟と〝新プロレス〟というふうに言ってるんですよ。さっき言った意味で、桜庭さんや高田さんの『ＰＲＩＤＥ』での

NOBUHIKO TAKADA

試合を、あれが「プロレス」だと言っても、世間はもうそう取ってはくれないということなんですよね。

高田 でも、それは仕方がないんじゃないですか？ いきなり遠慮なしに〝なんでもあり〟が出てきてしまったんだから。日本の得意な談合なしにね（笑）。

――ガハハハ！ 談合なしに（笑）。

高田 でも、〝なんでもあり〟が出てきたときに、一番危機感を持たなきゃいけなかったのがプロレス業界なのは間違いないんだよね。でも、それが出てきてからも、かれこれ7～8年経つわけだからね。

――プロレス側では結局U系と言われるところだけですからね、危機感を持ったのは。

高田 「恐らくプロレスが一番強いんだろう」とみんなが思ってた幻想を壊さないためにも、みんなで叩き潰しに行かなきゃいけなかったんですよ、ホントは。

――まったく同感ですね。勝つにせよ負けるにせよ。

高田 だって向こうはズカズカとノックもなしに来たんだもん。だからそれ以降は、当然バーリ・トゥードと純プロレスっていう線引きがピュッとお客さんにもマスコミにも引かれちゃってるわけだよね。プロレス側はまだ宣言はしてないけど、でも、深層心理の中では線はピッと引かれてるんだよ。だから、「じゃあ、今日はグレイシーとやれば？」というふうに、表現方法は違うけども、同じ裸一丁で仕事するのは同じなんだから「今日はこっち行きます」「今度はあっち行きます」っていう行き来になっていくだろうね。両方を取り込んで、うまいこと一緒だと言って行けるような状況ではなくなったということだろうね。

――例えば小川直也なんかは、「プロレスもバーリ・トゥードも一緒だ」という猪木さんの教えを孤立無援の状態でいまやってるんですよね。プロレスの柱を復興させようとして。もちろんそれはスタイル云々じゃなく精神的な部分なんでしょうけど、それは彼のスタンスだから、思い切り突き刺していけばいいと思うんですよ。でも、結局は業界全体のプロレスの定義づけの問題ということですよね。

高田 そう、定義づけ。「プロレスとはなにか？」ということを、いままではマスコミも当事者もうやむやにごまかしてたけど、定義づけすること……勇気がいることだけど、そういう時代にきた。要するにバーリ・トゥードが出てきたときは、野蛮だと捉えられてたものが、いまは地上波で流されて、5万人も集まるところでやっちゃうわけでしょ。それも時代だよね。それにバーリ・トゥードだって、別に日本のプロレスを潰そうと思って出てきてるわけじゃなく、ズッと以前からあったものでしょ。でもそれが、ポーンとね、地下からいきなり出てきたんだよ。宇宙船のように。

――地球の真裏から来ましたからね（笑）。

高田 地下から降りて来たんだよ。

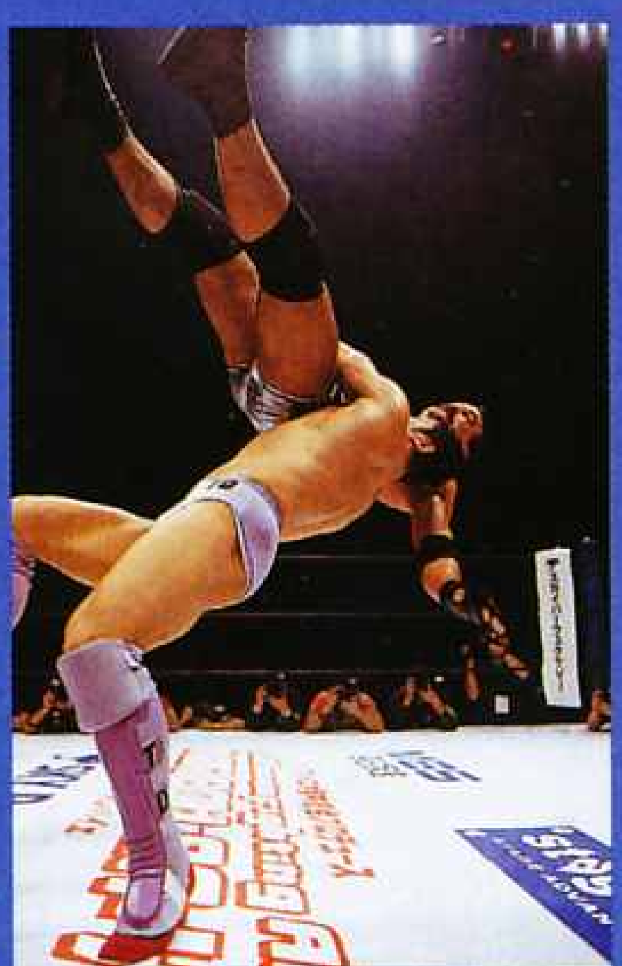
――地下から降りて来た（笑）。



シャムロックは髙田が一時期参戦を希望していたWWFのトップで活躍していた選手。軽量の髙田を軽々と持ち上げたシャムロックは、ジャックハマーでマットに叩きつけた



Uインター時代、幾多の強豪を撃破してきた髙田の逆十字がフライを捉える。必死の形相で堪えるフライを見かねて、シャムロックがカットに。髙田はローリングソバットも繰り出した



24分を越えるロングマッチを制したのは、不完全ながら、髙田のバッグドロップだった。やや唐突なフィニッシュだったが、髙田は4年ぶりのプロレスマッチを勝利で飾った



予想通り、最後は仲間割れしたフライとシャムロックを尻目に握手を交わす髙田と武藤。試合後、武藤は「髙田延彦のプロレスに対するＬＯＶＥを感じたよ」とコメント



『PRIDE』と『PRIDE』のリングに上がってる選手がやるプロレスはキッチリ分けなきゃダメだよ

高田　変な表現だけど、そんな感じだもんね。あんなにアンダーグラウンドだったものがここまで席巻するんだから、やっぱりいまの時代ではリアリティがあるんだろうね。力道山、馬場、猪木、UWFというそれぞれの時代の中では、それぞれがリアリティあったわけだからね。

――時代性ですよね。でもこの時代の扉をこじ開けたのは高田さんですよ。

高田　それは俺が「ヒクソンとやりたい」と言ったから。「こじ開ける」は結果論だよ。

――ただ、簡単に言うと、いろんな困難を打ち破って「やりたい闘い」をやってる人が、ボクの考える〝プロレスラー〟なんですよね。そういう意味では高田さんも、紆余曲折しながら、会社も1個潰し……。

高田　それは、俺が言うセリフだよ！　必ず1回は出るね、それが（笑）。

――ガハハハ。いやいや、それで、回り道をしながらでも、いま「やりたい闘い」をやってるわけですよね。でも、いまそういう自分のスタンスを持ったプロレスラーが少ないというか、選手が誰かにやらされてるようなプロレスが多いんですよ。

高田　プロレスが乱れてるね。昔は明確な定義はないんだけど、見えない定義があった。例えば〝新日本スタイル〟なり、〝全日本スタイル〟なりっていう。いまはもう……なんて言うんだろう？　壊れてるよね。

――だからプロレスって、やっぱり団体としてじゃなきゃ成り立たないんじゃないですかね？　ひとつの組織というか、組や一家を形成していくエネルギーみたいなものがないと。

高田　あのね、もっとわかりやすく言うと、トップから新弟子までが、一体の人間の〝体〟だとするでしょ。その体の頭から足の親指の先まで、つまり末端まで血が通ってないと、いいプロレスは組み上げられないよ。いま言ったように、それは組織でなければできないことだよね。丈夫な〝体〟じゃないとね。どこかで血行障害なんか起こしてしまうと、すぐに異常をきたすよ。だから今後、『PRIDE』が定期的にプロレスというものをイベントとしてやっていくのならば、「これが『PRIDE』のプロレスだ！」という、一本バーンと筋を通した、そういうものに作り上げなければいけないね。

――それがさっき言ってたコンセプトですよね。でも、それはもの凄い時間がかかる作業じゃないですか？

高田　時間はもの凄くかかるものだよ。それを、即席でやるからああなっちゃう。

――そうか。でも高田さんが、あの日はまんざらでもなかったら、今日は話が噛み合わないだろうなぁと思ってたんで、よかったです（笑）。

高田　思い出しただけで腹が立つよ。「あんなんでいいの？」って感じだよね。あのね、モニター見てても、いい選手はいるのよ。でもね、それが「組み合わせ」になった場合に、全くワクワクしないんですよね。プロレスでも緊迫感が命だから。そういうものが感じられなかったのが一番のダメージなのかなって思うんだよね。メンツ見ると、ホントに一級品が揃ってるのにね。

――超一級品揃いですよ（笑）。バラバラのプロレス観の中で、やっぱり「こういうプロレスをやりたいんだ」というスタンスをハッキリ出してたのは、小川直也と、小路&宇野の試合だと思いますね。まったくスタイルは違いますけど（笑）。でも、宇野&小路組の試合なんかは「プロレスごっこ」だとか「学生プロレスの延長にしか見えない」とか書くところもあるわけです。

高田　それもホントに矛盾してるよね。逆に、あそこまでは、誰でもできることじゃないからね。だからセンスあるし、プロレスに対する思いっていうのかな、「思いっきりプロレスを体感するんだ、見せるんだ、エンジョイするんだ」っていう気持ちがあったんじゃないかな。じゃなきゃ、あそこまでできないよ。それに、プロレスごっこってなんなの？　じゃあ、みんな「ごっこ」になっちゃうよ！「プロのライセンス、お前らに渡してねえぞ」っていうコミッショナーでもあれば、「お前はプロレスラーじゃねぇんだ、プロレスごっこだ！」ってなるけどさ。中小企業の社長が、「団体やるぞ」って言って、いきなりプロレスラーになる。それは何なんだよ。そこがやっぱり、ズッとマスコミが逃げ続けてきたテーマであり…







…まぁ、癒着だよね。
——ガハハハ！　癒着！　非常にズバリと来ますねぇ（笑）。
高田　どことどことは言わないけど。
——でも、高田さん自身が満足いくマッチメイクが『猪木祭り』で組まれてたとしたら、スタイル的にはどういう試合をやりたかったんですか？
高田　ノーヒント！
——またか（笑）。
高田　俺はもう思いっきりエンターテインメントだね！
——まさかグレート・ノブを本気でやる気だったんですか（笑）。
高田　そこまではやらないけど、俺ができる限りのエンターテインメントの匂いのするプロレスだね。俺はそっちをやらなければいけないんじゃないかな、と思う。
——それは具体的にはどういうものですか？　高田さんがジュニア時代にやってた試合であるとか……。
高田　俺がいままでやってきたプロレスの中では、その時代が一番近いのかな。わかりやすく言うとね。もっとエンターテインメントの要素がいるけどね。
——決してUスタイルではないと。
高田　Uスタイルではない。これは俺の考えだけど、やっぱりキッチリ『ＰＲＩＤＥ』と、『ＰＲＩＤＥ』の選手がやるプロレスっていうのは分けなきゃダメなんですよ。お互いのイベントが首を絞め合うから。中途半端なとこでUスタイルみたいなことやってると、お客さんたちを惑わすよね。そうすると、「こっちのほうが面白いんじゃないか」と、むしろ食い合う可能性が強くなるよ。ＷＷＦとバーリ・トゥードが対極にあるとしたら、バーリ・トゥードより少しでも離れたポジショニングに行かないと本末転倒になるということだよね。『ＰＲＩＤＥ』が今後もプロレスのイベントをやっていくなら、そこが生命線になるよね。

NOBUHIKO TAKADA



——だとしたら、高田さんは「グレート・ノブまでは行かないけど」って言ったけど、それだったら、いっそ度を越えてＷＷＦ方面に行っちゃったほうがいいんじゃないですか？
高田　そこだよね。そこをしっかりコンセプトづけしなきゃいけなかった。ここが一番のポイント、柱だよね。やっぱりプロレスっていうのは共同作業だから、いい作品を作るには、もちろん勝負も含めてだけど、それがプロレス観が１００だとしたら、60か70ぐらいは共通したものを持ってなければいい試合はできないよ。ある程度のプロレス観のアウトラインは全部みんなが持っとくっていうのをやっておかなければいけなかったなと思いますね。
——プロレス観の絶対的な教育者というか、支配者が必要になってきますよね。
高田　そういう意味での支配者は必要。だから、プロレスはホントに難しいですよ。
——ところであの日、大仁田厚が来ましたけど、高田さん的にはどうなんですか？
高田　全く興味ない。存在がないよ、俺の中に。
——なるほど。大仁田厚もエンターテインメントですよね。今度は〝エンターテイメント観〟が違ってくるんだなぁ。
高田　俺らのプロレスのベーシックは肉体と肉体をぶつけあって強さを競うっていうのを見せるのがプロレスだから。その中で「プロレスラーは強いんだよ」という匂いのあるものがプロレスラーだからね。そういう意味で言うと、全くラインの中に入ってないからね。こんなの、真面目にコメントするのも嫌なんだけどね。バカバカしくて。
——キツイなぁ（笑）。
高田　いま、いろんな意味でプロレスが過渡期だから。だからこそ、ひとつひとつを大事な産物としなきゃいけないわけでしょ。それと、やっぱり俺らはプロレスから出た人間だから、プロレスへの愛の言葉を、忌憚なく本音で言っていかないといけないと思うね。
——いや、今日は面白い話が聞けました。最後にモーリス・スミス戦の戦略はなんですか？（笑）。
高田　ノーヒント！（笑）。

【01年1月17日／（株）高田道場社長室】

久しぶりの純プロレス復帰は、高田にとって満足行くような出来ではなかったらしい。しかし、武藤が言うように、高田の言葉には「プロレスに対するＬＯＶＥ」が見える。

加えて、プロレス界の先陣を切って〝黒船〟に挑み辛酸を嘗め続けた高田が言うだけに、このインタビューの一連の考え方には説得力がある。高田が次に上がる純プロレスのリングはどこになるのだろうか。

そして、高田の「忘れ物」とは誰のことを指すのか？「桜庭とやらないなら、俺ともう一度やれ」と、ヒクソンとの〝3度目の正直マッチ〟だったりしたら、日本中がド肝を抜かすだろう。モーリス・スミスの他に、マイク・タイソンという名前も出してみたのだが、高田はニッコリと笑い、「お金はかかるけど、夢があるね」とだけ言った。ボクシング繋がりでいえば、かつてイベンター・ホリフィールドと闘いたいと言っていた時期がある。ホリフィールドを担ぎ出せれば世界が相手になるビッグ・マッチだ。

それとも各新聞、雑誌を賑わせるホイスとの再戦、小川直也戦、桜庭との同門対決のうちどれかなのか。

いずれにしても、またもや高田延彦の周辺が慌ただしくなってきた。もう一丁ッ！



12・28『紙プロ』主催イベント『紙プロ』BON-BA-YEで

"荒武者"と"落武者"が大炎上!!

谷津嘉章が語る「プロレス」そして「あのオッサン（アントニオ猪木）」！

マスコミもみんな、あのオッサンを祭り上げすぎ！

世の中で一番信じられないのは、弟子と奥さんですよォオオオ！

ミレニアム最後の『紙プロ』主催イベントだけに『猪木祭り』に負けない豪華なゲスト陣を揃えた『紙プロ・ボンバイエ』。藪下めぐみ、篠泰樹氏から水着姿のキャットファイターまで勢揃いしたこのイベント。最後は春一番さんと一緒に一足早いミレニアムカウントダウン・ダーーッ！で幕を閉じた。しかし、やはりメインは"荒武者"谷津嘉章と"落武者"ターザン山本の炎上シーンだった（with山口日昇&吉田豪）。今回は特別に、その模様を御開帳！（ちょっとだけよ）

構成／チョロ
text by Choro

この日のゲスト、藪下めぐみ、篠泰樹氏がステージを降り、続いて各界著名人（サスケ社長、浅野社長、杉作Ｊ太郎ｅｔｃ）からのビデオメッセージが紹介され、いよいよ〝荒武者〟谷津嘉章の出番がやってきた。オリャオリャオリャ！

　ゲーリー・グッドリッジ戦で、大阪城ホールに鳴り響いたアレキサンダー・カレリンのテーマに乗って、我らが谷津嘉章、入場！

　吸いかけのタバコを持ちステージに上がった谷津に対し、本誌鬼畜編集長、山口が「谷津さん、タバコ持ったまま入場しないでくださいよ！（笑）」と、突っ込むと

「吸ったばっかりだったから消すのもったいないじゃん！　庶民なんだから、俺はさぁ（笑）」

　のっけから谷津節炸裂！　どう考えても、そんな強い庶民はいないと思うのだが……。

　挨拶代わりにグッドリッジ戦で被ったケガの状態を尋ねると、左手をさすりながら**「右拳の甲がまだちょっと……」**と、いきなりのボケ発言で、場内を沸かせる谷津。

「でもよぉ、グッドリッジがローキックを出すなんて誰も教えてくれなかったんだよ（苦笑）」と裏話を披露（恥ずかしそうに）。

「まぁ、グッドリッジの話はいいじゃない、そろそろ（苦笑）」との発言を合図（？）に、世紀末を飾るにふさわしい、数々の爆弾発言が飛び出したのだった。

　今回はイベントで発せられた谷津語録を通して「プロレス」、そして「男のロマン」とは一体何なのか、とくと感じてもらいたい。なっ！

橋本vsグッドリッジ？　そういうことはやってもらいたくなかったなぁ



◆

　まずは、この日のイベントの3日後に迫った『猪木祭り』で行われる、橋本対グッドリッジ戦について、谷津の見解を聞いてみた。

「そういうことはやってもらいたくなかったなぁ。せっかく『ＰＲＩＤＥ』とかが注目されて、格闘技とプロレスの線引きが出来たいい時だなと思ってよぉ、俺なんか、その線引きをこの年で渡った瞬間に、またオッサンが出て来てグチャグチャにしたわけだからな。マスコミもみんな、あのオッサンを祭り上げすぎ！」

　話は橋本対グッドリッジ戦から、どこぞのオッサンの話へと移行していった。すかさず吉田豪から「昔からあの人のこと嫌いですよね？（笑）」とするどいツッコミが入ると、

「昔から嫌いなんだよ！　まぁ、昔ほどではないけどな。そういう意味ではマスコミも戦犯だ！　マスコミが持ち上げて書くから、何も知らないファンも『イノキーーッ！』ってなっちゃうんだよ」

　あっさりオッサンの正体を暴いてしまった谷津だった（笑）。

　場内の大歓声に気を良くしたのか、谷津は**「逆に俺がオッサンとやりたいぐらいだよ！」**と爆弾発言。

　もちろん、会場からは一斉に「見たいッ！」の声が。舌好調の谷津節はまだまだ終わらない。

「どっかの雑誌で読んだけど、『谷津は俺の所に来ればいい』って。そんなとんでもない、お前が来いっていうんだよ！　俺は、ＵＦＯと新日本以外のリングだったら、場所はどこでもいいと思うけどなっ。お前とやったらぁーっ！」との超衝撃発言まで飛び出した。

「『ＷＷＦ』とか『ＷＣＷ』みたいな感覚でエンターテインメントとして線引きをしっかり引いてやればいいのに、どういうわけか新日本プロレスのリングの中での格闘技戦という恐ろしいことを考えてるよな（笑）。それを俺みたいな、社会的影響力もない、金もない、こんな男だって、なんとか阻止しようと思ってやってるんだから、ファンもわかんないとダメなんだよ。それぐらい身体を張ってやってんだよ、俺は。それに、俺はサラリーマンじゃないから。プロレスラーは、みんなサラリーマンだよ、はっきり言って！　特に、新日本、ノアとかね。［場内爆笑＆拍手］『引退後はどうしようかな？』って思ってる奴ばっかりだよ。夢を追ってるっていうのはとんでもない話だからね」

「今は夢を追っちゃいけないようになってるんですね？」（山口）

「だってこれぇ、今のプロレスラーは夢を追ってないじゃんか！　ギャランティーをもらうのが全てなんだから。それがいいとか悪いじゃなくて、俺の人生哲学にはそれはないんだよ！（キッパリ）」

　『猪木祭り』から、現在のマット界に溢れるサラリーマンレスラーまで一刀両断すると、己の人生哲学、そして夢を熱く語った……が、しかし、「今のレスラーはギャランティーをもらうのが全てなんだから。それがいいとか悪いじゃなくて、俺の人生哲学にはそれはないんだよね」との発言に対し、「でも、谷津さんもインタビューする時『ギャラはいくらだ？』って聞くじゃないですか（笑）」と山口が揚げ足を取ると、

「だってこれぇ、今回ふざけてるぞ！　ぶっちゃけた話、今日はギャラ2万円だぞ！　千葉県の一宮からここまで来るのに1万円使ってんだぞ、おい！（笑）」とシュート発言で切り返し、続けて**「だけど、俺は編集長が好きだから今日は来たんだよ」**と男気溢れるところを披露。ホントに憎めないヤツである。オリャオリャオリャ！

　そこへ、タイガー・ジェット・シンのテーマに乗って〝落武者〟ターザン山本が乱入。

「元気ですかーッ！（急に冷静になり）みんな元気じゃないでしょ、こんな日に来るのは。何もすることないから来てるんでしょ。俺だってそうだけど（笑）」（ターザン）

「ガハハハ！　山本さん、いきなりですけど、谷津対グッドリッジ戦はどうでした？」（山口）

「谷津さんの試合はあの日のベストバウトですよぉ！」（ターザン）

　いきなりの炎上！「何が一番面白かったですか？」と聞くと「（ボソリと）あんまり覚えてないんだよねぇ」と、相変わらずの、いい加減っぷりを見せるターザン。

　グッドリッジ戦の映像は**「見たら疲れちゃうから見てないんだよ（笑）。必要に迫られれば見るけどな」**という谷津と一緒に、ビデオで試合を振り返り、改めて、グッドリッジ戦の感想を聞いてみた。

「今回のグッドリッジ戦は、ある意味では金額ではない部分がありますからね。上がるまでは躊躇して、どうしようかな？ってのはあったんですけど。まあ上がってやっちまえば恋愛みたいなもので、迷っててもこっちのペースに引き込んじまえば勝ちですからね。自分もその戦法たまに使いますけど（笑）」

　谷津は、得意の恋愛＝格闘技論で笑いを誘った。

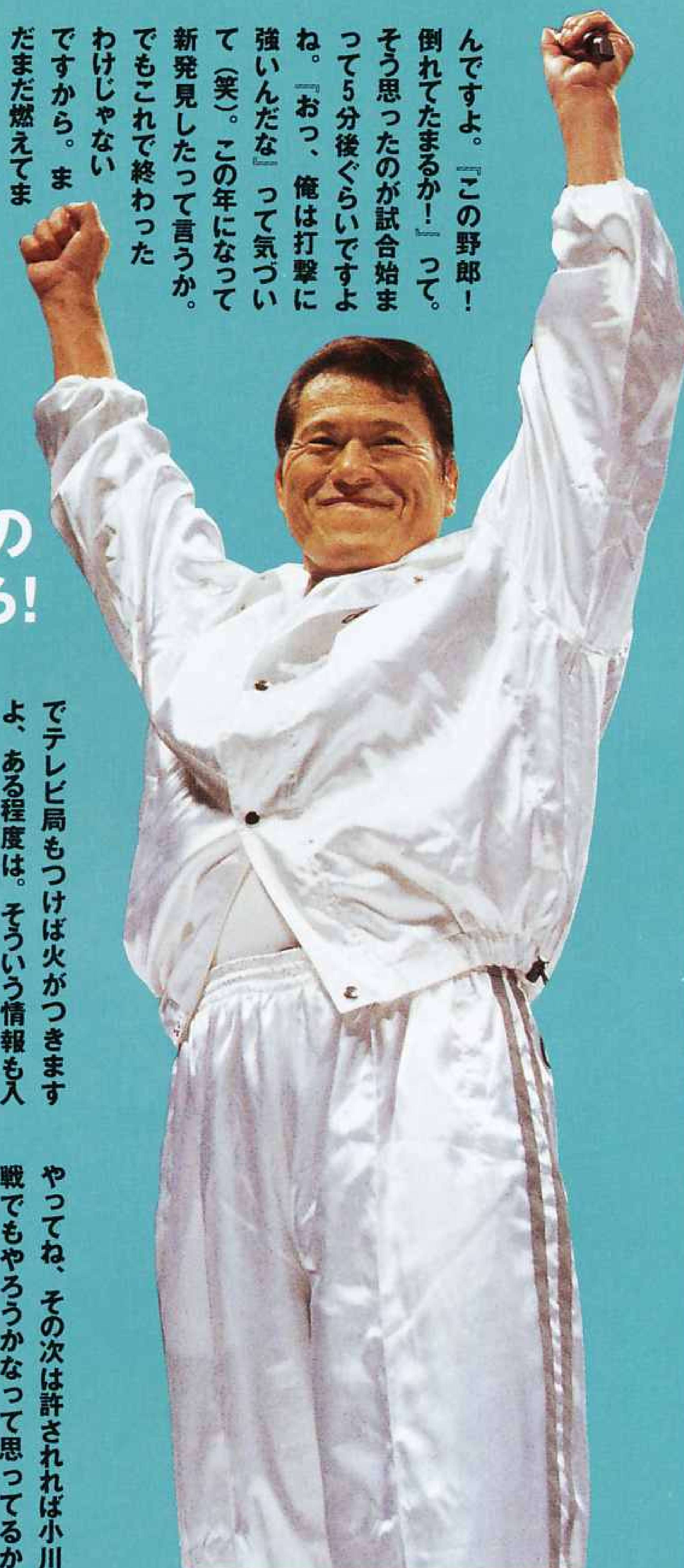
「リングに上がったら不思議と『ここで死ねたら本望だ！』って思う



んですよ。『この野郎！倒れてたまるか！』って。そう思ったのが試合始まって5分後ぐらいですよね。『おっ、俺は打撃に強いんだな』って気づいて（笑）。この年になって新発見したって言うか。でもこれで終わったわけじゃないですから。まだまだ燃えてますから、私は。これからもまだだいきますよォォ！ 最終的にはあのオッサンの首を獲ろうと思ってますから！」【場内大拍手】

日本マット界広しといえども、アントニオ猪木に対して、ここまでズバッとモノを言える男は谷津しかいないだろう。ズバリ言って、何が気に入らないのか直撃すると、

「どこが嫌っていうのは業界の人間になんなくちゃわからないですよ。結局、全部自分のものって感じにしてるでしょ？ いいとこ取りっていうか。馬場さんが亡くならなきゃ良かったなって思いますよ、ホントに。新日本はもう格闘技もプロレスも全部握ったれっていう態勢じゃないですか。だから冷戦時の〝核の抑止力〟じゃないけど、そういう部分のライバルがいなくちゃ新日本もダメになっちゃうでしょ。だから、自分なんか全く歯が立たないですけど、そういう意味ではノアに頑張って欲しいなぁと思いますね。それはひいき目で自分の後輩だからそう思うかもしれないですけど、これでテレビ局もつけば火がつきますよ、ある程度は。そういう情報も入ってきてますし」



最終的には、あのオッサンの首を獲ろうと思ってますから!

「ノアじゃ抑止力になりようがないですよ。ノアは●●●●みたいなもんですから（笑）」（山口）

「●●●●じゃないですよ、●●●●ですよォォォォ！」（ターザン）

と、揃って炎上。全くタチの悪いふたりである。

「まあでも、俺も猪木さんをけなしてるわけじゃないんですよ。あの人の行動力と発想力はやっぱ凄いなと思いますから。この業界においては、ある意味、神様だよね。だから長州力も信者になってるわけでしょ」

この発言にターザンは「猪木さんは神様というか悪魔というか、ある部分では死神だよねぇ（笑）」と一言。

「あの人といれば食いっぱぐれはないと！ そういう感覚だからね（笑）。俺なんかは器用じゃないから、一度しかない人生を人に気ィ使って生きたくないやっていうのがあるから。じゃあ、噛みつく相手がいないから猪木さんに噛みついてやろうと（笑）。まあ、適わない敵だけど、例えば今度グッドリッジ戦をやってね、その次は許されれば小川戦でもやろうかなって思ってるから。【場内大歓声】それで自分はもう終わりかなと」

との超衝撃発言第二弾！

『谷津嘉章45歳 小川直也と闘ったら即引退スペシャル！』。

是非ともゴールデンタイムで実現して欲しいカードである。

◆

「でも、谷津さんがリベンジする前に、『猪木祭り』で橋本さんがグッドリッジに勝っちゃったら悔しいですよね？」（豪）

「そこはもう何を考えてるんだ！って言う部分だよなっ」

「あれは●●●●だからしょうがないよォォォォ！」（ターザン）

「はっきり言うねぇ、山本さん」

と、苦笑いを浮かべる谷津。

「みんなわかってますよ。橋本が勝てるわけないよ。橋本の人生は全部●●●●だから！」（ターザン）

と、すっかりブレーキの壊れたターザンの暴走っぷりに、場内は大歓声。谷津は困惑しながら、

「俺はまだプロレス界に生きる人間だからそこまでは言えないなぁ（苦笑）。8割は、まだプロレス界にいるから」。

かつての盟友でもある長州とヒクソンの対戦の噂を直撃すると、

「新日本のマットだったらあるんじゃない？ ただヒクソンだけじゃなく、『UFC』や『PRIDE』にいる人間でも、実際は真剣勝負なんて闘いたくないの。名前を売ってからドン・フライみたいにプロレスをやりたいんだよ。あの雰囲気はもう処刑場に行く雰囲気だよ。あれはやった人間にしかわかんない」

確かに、これぱっかりはやった人間にしか言えない言葉である。

「実際は、そんなプレッシャー味わいたくないんですよ。死ぬか生きるかみたいなもんでね。ただ、上がってしまえば、もう自分の性格では『よし、死んでもいいや！』って思うけど、中にはビビってる奴、自信満々の奴、そういう中でやっていくとみんな本当はプロレスやりたいんだよ。出来ればプロレスラーになりたいの。だから『猪木祭り』なんかは、猪木さんが心理をよく読んでるからな」

イベント3日後に行われた『猪木祭り』で、バカ殿に扮したルッテン、猪木イズムを唯一理解し、プロレスラーとして一気に評価を上げたコールマンなど、向き不向きは別にして、谷津の言うようにプロレス志望のバーリ・トゥーダーは多いのだろう。

「ケアーとかコールマンに猪木さんがうまく悪魔の囁きをするんだよねぇ（笑）。そんなもんは洒落臭いですよォォォ！」（ターザン）

「猪木さんは必ず言うじゃないですか、『大きな花を咲かせて欲しい』って。常套文句ですよね」（山口）

「そうすると格闘家もその気になってくるんだよね」（ターザン）

「でも、人が思うとおりにいっちゃうと面白くないでしょ？」

「そう！ 人のアングルで生きるような橋本みたいなのは最低なんですよォォォ！」（ターザン）

「だけど、やっぱり生活かかってるからなぁ（しみじみと）」【場内爆笑】

「俺は生活かかってないから！（キッパリ）」（ターザン）

「俺も生活はかかってないんだけども（笑）」

ターザンの暴走は止まらない。

「（寂しげに）俺はもう誰もいないから。俺一人だから。俺は最強なんですよォォォ！」（ターザン）

これには谷津も呆れ顔。

「ホントのプロレスラーっていうのは、橋本と違って人のアングルで生きたくないっていうのが根底にあるんですよ」（ターザン）

「それは大事だよね。進むべき道は自分で切り開かなきゃ。貧しくたっていいんですよ。ロマンをかけて、やるっきゃないんですよ！ この商売選んじゃったんだから、もう何しても無理だから（笑）。自分が付加価値付けて高く売れるのはプロレスしかないんだから。それが一番説得力あると思うし。来月は一銭にもなんないかもしんないけど、再来月があるじゃないかって感覚ですよ。それでも健康ならいいじゃないかって。なっ！」

「道」「格闘ロマン」「元気があれば何でもできる」。好きではないと言っても、猪木イズムが谷津の根底には流れているのかもしれない……そんなことないか（笑）。

◆

ここにきて、ミル・マスカラス、大仁田厚、そして、キム・ドクといった全日マットを去っていった選手のドーム大会参戦が発表されている

が、谷津の全日本出場の可能性はあるのだろうか?

「全日本は……崩壊直後は助けてやろうかなって気はあったんですよ。でも『助けてやろうかな』だよ！（笑）。おこがましいけど、そう思ってたけど、まあ向こうとしては助けて欲しくなかったみたいだけどな（苦笑）。でも、今はもう新日本プロレスの中にドップリ浸かってるわけだから、もう、いいわな（笑）」

以上の発言から想像するに谷津の全日出場はないのだろう（笑）。

◆

しかし、この日のゲストの藪下めぐみ、そして谷津などが総合格闘技の試合において、プロレスのリングより輝きを放つのはなぜだろう?

「それはある意味では（ウイリアム・）ルスカとか（アントン・）ヘーシンクと同じじゃないですかね。やっぱりある程度、格闘技やってきた奴は、どっかに自分があるんですよ。プロレスでは、それを生々しく押し殺さなきゃいけないんだけどな。そういう意味では失敗したなって思ってるの。自分はリングネームじゃなく谷津嘉章って本名でしょ。これが上州力とかね【場内爆笑】そういうのに変えりゃ良かったのになって（笑）。やっぱ自分を吹っ切るためには、リングネームを持たなきゃダメですね」

上州力が良かったかどうかは別として（笑）、確かに長州も、吉田光雄から長州力へと変わり、吹っ切ったおかげで現在の地位を築いたと言えるだろう。しかし、いまの新日本プロレスで一番キャラがたっているのが長州力というのは皮肉な話ではあるが……。

◆

2001年早々に行われる『DEEP』で、パンクラスの謙吾と対戦する大刀光は総合系での初勝利を上げられるのだろうか。どうなんですか、谷津さん?

「負けるでしょ（あっさりと）。【場内爆笑】俺、気にくわないことあるんですよ！　アイツね、子供三人いるんですよ。自分の知り合いの社長のところで水道屋やってるわけなんだけど、やっぱりSPWFと格闘技とじゃギャラが全然違うわけじゃないですか。それで『負けてもいいんですよ。俺は金になりゃいいんだから』って言ったことがあって。お客さんがせっかく金払って見に来てるのに、その考え方じゃ出ない方がいいって思ったからな」

この発言から数日後、大刀光は謙吾のパンチの前に敢えなく秒殺されてしまったのだった……。

「『ある程度やられたらすぐタップすればいいやっ』とは俺は思えないから。俺なんか逆に言えばバカな方だから『この野郎ッ！』ってなっちゃうからな（笑）」

ズバリ言って、ボクらが求める理想のプロレスラー像というのは、そういった姿なのである。



「ウチのSPWFだってトータル的に見れば『PRIDE』より儲かりますよ。私こう見えても経済学部出身ですからね！　ちょっとその辺はインテリかなって（笑）」。オリャオリャ。

「なんでそんな風になったかというと、自分には子供がいないし、自分の子供っていったら若い衆だけだから。そういう意味では自分の燃焼しきった姿を若い衆に見てもらいたいと。それで生き様を考えろって思うんだけど。もし自分に子供がいてね、生活が安定してりゃあ、そりゃ泥臭く生きますよ。何言われても（可愛らしく）『長州さん、長州さん』って（笑）」

「山本さんは子供いたんですけどね（笑）」と吉田豪の絶妙な突っ込みに、ターザンは「ボクと別れてみんな幸せになったんだからいいんじゃないの?　俺は幸せを求めてないんだから。俺が求めているのは正義ですよ。最後は正義が勝つんですよォォォ！　ねっ、谷津さん?」と同意を求めると、

「俺は幸せ求めてんだよね（笑）」

（ガクッと）思いっきりずっこけるターザンであった。

最後に、谷津嘉章の21世紀の抱負を聞いてみた。

「俺は今の『PRIDE』の動向に対して、ちっぽけな針みたいなもんだけど、それが大きな大きな直径1センチから10センチのクサビになって、猪木さんの思惑に少しでもブレーキかかればいいなと思うわけよ。やっぱり、まったく天敵がいなかったらダメだよ。ハブだってマングースがいるんだから。それが自分の生き様だから、そういう目標があった方が人生は面白いだろ。なっ！　俺も頑張るから（大声で）お前らもガンバレェェェェ！」



猪木さんは、ある意味、神様だよ。だから長州力も信者になるわけ

と、うまくまとめ大きな拍手の浴び退場しようとする谷津に、「でも猪木さんは凄いよ。『もうダメだ』と思っても生き返るもんな。やっぱり凄いよ」（ターザン）

再び谷津は戦闘態勢になり、「ある意味ではラッキーですよね」

「ある意味では運の強さが必要だから。強運がどこにあるかが一番ポイントですよォォ！」（ターザン）

「これは自分もいつも思ってることなんだけど、人生の中では、うんとラッキーな奴もいるし、一方で何をやっても努力しても実らないアンラッキーな奴もいると。それを食い止めることは絶対出来ないと言うんですよ。だけど、それが一つだけ出来る可能性があるって聞いたことあるんですよ。それは何かと言ったら、友達なんだよ、友達！　いかに知り合いを持てるかっていうことなんだよ。

「（感心して）谷津さん、いいこと言うなぁ」（ターザン）

「友達によってアンラッキーなことがラッキーなことになることもあると。俺はそれを信じてるんですよ。だから、もっともっと友達を作って、女でも二丁目のオカマでも、誰でもいいから友達作ろうと思って」

「誰でもいいんですか（笑）」（豪）

「いや、その中で合う合わないはしっかり線引きしてな（笑）」。

「そうだよ、豪ちゃん。友達が唯一の財産だよ。家庭とかあんなの信じられないよォォ！　」（ターザン）

【場内爆笑】

「世の中で一番信じられないもの教えようか?　弟子と奥さんですよォォォォ！」（ターザン）

「ダハハハ！　弟子と奥さんは信じられないと?（笑）」（豪）

「友達は信じられるよ！　豪ちゃんとか山口編集長は信じられるけど、てめえの奥さんとか弟子は絶対信じられない！　必ず裏切るんですよォォォ！」（ターザン）

【場内大爆笑】

※後日、ターザンは、この日のイベントのことを自身のHP『マイナーパワー』で、次のように書いていた。

「イベント中、谷津さんは『人生で一番大切なのは友達である』と言ったが、そう考えると私は吉田豪ちゃんが大好きである。豪ちゃんはイベント中、私のことを〝かわいい〟と言ったのだ。こんなことを言う人、どこにいるのだろうか?　山口編集長も私のことを〝恋人〟のような目でみていた。私はイベント中、こんなに気持ちが良くなったのは、めったにない。家に帰っても私はその余韻に浸っていたのだった。ありがとう。豪ちゃん、山口さん！」

見てみぃ、この赤裸々な日記！

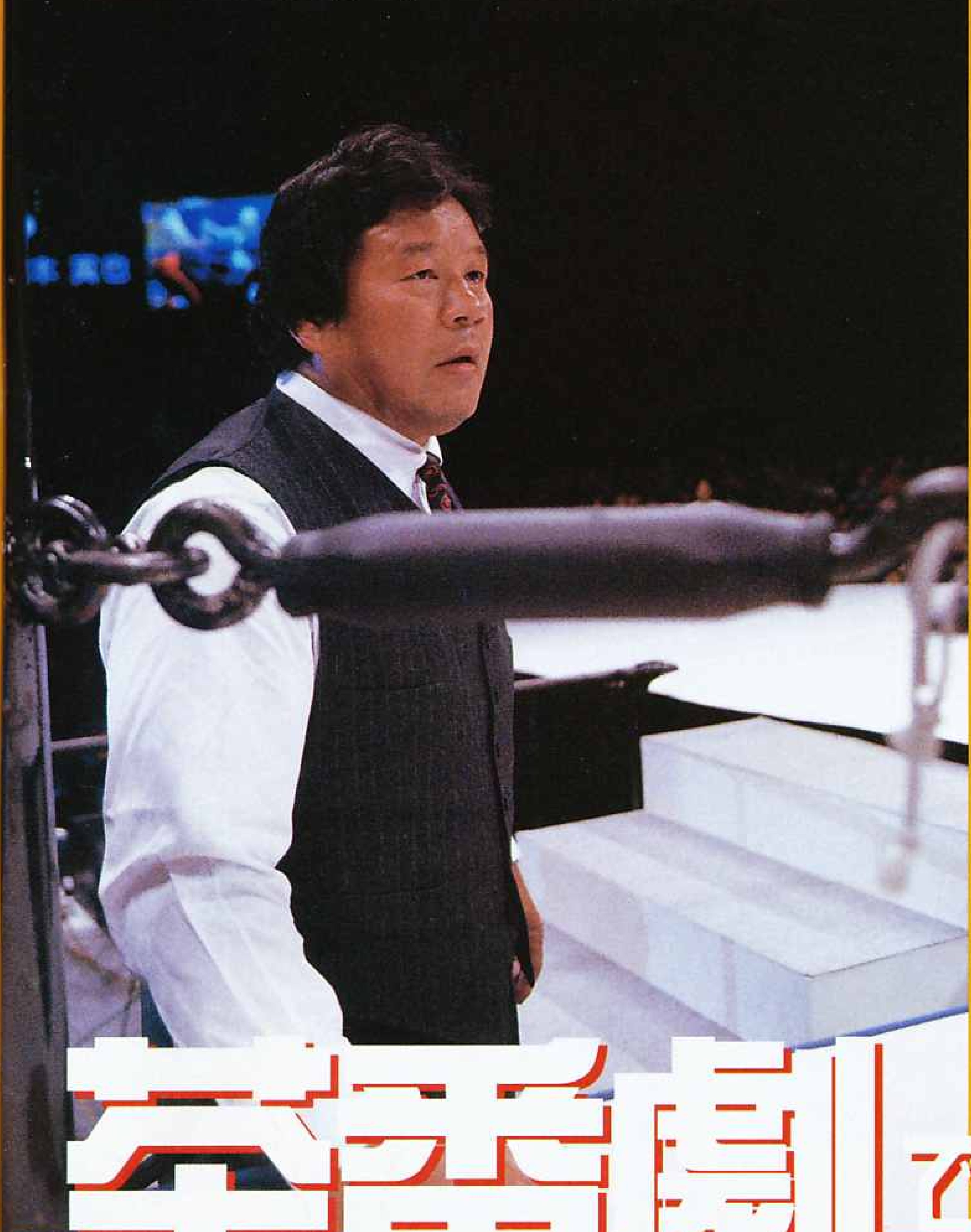
〝落武者〟ターザン山本54歳、そして〝荒武者〟谷津嘉章44歳。

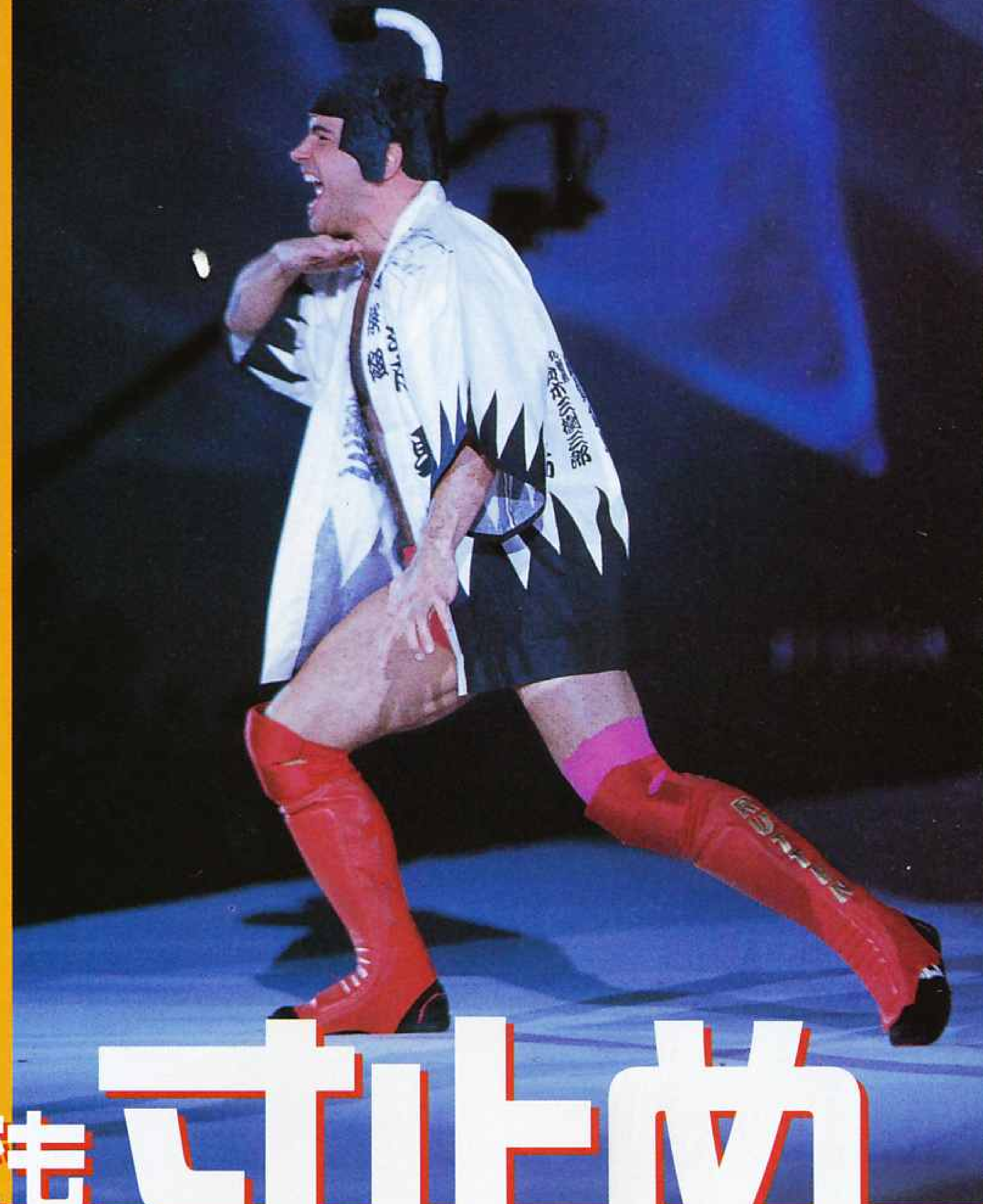
懲りない男達の逆襲が今はじまる！

2001年、このふたりから目を逸らすな！　なっ！&シュポー！

【H12・12・28／東京・新宿ロフトプラスワンにて収録】

1·4長州vs橋本と12·31「猪木祭り」を斬る!!





茶番劇でも寸止めでもない!

世紀をまたぐ2大イベント、12·31「猪木祭り」と1·4長州vs橋本で今後のマット界を左右する問題が次々と発生! 「猪木祭り」ではバーリ·トゥーダーがプロレスをやることで「寸止めプロレス」が発生し、長州vs橋本戦では藤波社長の不可解なレフェリーストップでドームが暴動寸前の事態に! 改めて「プロレスとは何か?」を考えさせられたこの年末年始。今世紀もマット界をブッた切ります!

堀江ガンツ=構成
text by Gunts Horie

「闘いだ!」座談会

ガンツ さて、長州vs橋本のおかげで21世

山口 新日本はプロレスというモノをどう

イツが勝手に誤解したんですよ。

チョロ しかもマイクがよく聞き取れなか

長州vs橋本をシュートとワークの二元論で語っても何も見えない

ガンツ さて、長州vs橋本のおかげで21世紀は暴動騒ぎで幕を明けてしまいました！　まずはこの試合をどう定義付けるかが問題だと思うんですけど。

豪 そもそもあれでしょ。本来であればカードが組まれないほど不仲であったものを猪木裁定で試合を組み、プロレスに冷めてるファンは「やっぱり偽装解雇だ」と言い出した。でもボクらは「どんな試合になるのだろう」と期待してみたところ、期待外れだったってことだよね。

ガンツ 単純に藤波が何をしゃべってるのかわからないから観客が怒ったという説もありますが（笑）。

豪 妙に説得力がなかったわけだよね。それでファンがみんなで「死ね」だの「バカ」だのって藤波バッシングしてたわけだけど。

ガンツ そこで、単純にそれは藤波が悪い。いや、それは、藤波は操られているだけで新日本が悪いという様々な意見がありました。

豪 会長（山口日昇）は会場で見ていてどうだったんですか。腹が立ちました？

山口 新春初笑いだね（笑）。凄いモノを見ると笑ってしまうという意味も込めてね。

豪 野次を飛ばしたらしいですけど？（笑）。

ノブ 「八百長ーッ」って叫んでましたよ。

一同 ダハハハ！

山口 お前、バラすなよ（笑）。

チョロ 招待券握りしめて、「金返せーッ！」って（笑）。

山口 オレもタチが悪いな（笑）。

ノブ 酷い編集長ですよ。ワースト編集長は、会長！

豪 もうワースト座談会（P49参照）は終わったよ！　バカ！　で、会長の怒りは藤波に対してのモノだったんですか？

山口 新日本はプロレスというモノをどう考えているんだという怒りだよね、誰に対してということではないけど。いつぞやのガンツみたいに、「プロレスを舐めるな！」という気持ちになったんだよ（笑）。

豪 「オレを馬鹿にしてもいいけど、プロレスを馬鹿にすることは許さん！」と（笑）。

山口 全国1千万人の『紙プロ』読者の皆さん、ガンツはリングスの忘年会でまたしても酔っぱらい、編集部に帰ると椅子を投げつけ、「オレを馬鹿にしてもいいが、プロレスを馬鹿にするな」と言って大暴れし、その後、4時間、会社のトイレを占拠しました（笑）。

豪 ガンツを馬鹿にして笑っていたら、コイツが勝手に誤解したんですよ。

チョロ ガンツ＝プロレスなんですかね（笑）。

豪 ミスター・プロレスだ（笑）。酒癖悪いしね。

山口 ケロちゃんが長州vs橋本戦の後に、新日オフィシャルサイトに「間近で見ていると物凄いことをやっているのに伝わらなかったことが残念だ。伝わらなかったことは、2人がプロとして失格なのかもしれないけど、本当は凄いことをやっていた」みたいなことを書いていたらしいんだよ。

豪 いい意味でも悪い意味でもなく、確かに普通のプロレスとは異質な感じがしましたよね。とりあえず不思議なプロレスはしていましたよ。でも、いまのファンは不思議なプロレスを受け入れる余裕がなくて、わかりやすいプロレスしか評価しないのかなぁ。不思議なプロレスから色々考えていくのって、凄く楽しかったわけじゃないですか。だけどファンの知能指数が落ちているというか、みんな考えなくなって来ている気がするんですよ。

山口 会場でブーイングが起きたのは、やっぱり決着の曖昧さが原因なだけなのかな？

ガンツ そうですね。決着の曖昧さというよりも、これからという時に終わりましたから。

山口 もしあの時、藤波ではなく猪木さんが入ってきていたら「続行ーッ」「死ぬまでやれ！　死ぬまで」ってなっていたと思うんだよ（笑）。

ノブ 「我々は殺し合いなんです」って（笑）。

山口 「我々は殺し合いじゃないんだ」というのは、むしろ逆なんだよ。



我らが藤波社長が新年早々やってくれた。「我々は殺し合いをやってるんじゃないんだ！」と社長強権発動！　両者レフェリーストップという不完全極まりない結末に会場からは大ブーイング、会場は暴動寸前までに。

チョロ しかもマイクがよく聞き取れなかったですね。

豪 そうそう。何が悪いかって言えばズバリ言って藤波のカツゼツなんですよ！

一同 ダハハハハ！

豪 あの試合、藤波は『ワールドプロレスリング』の解説やってたんですけど、その時点ですでに何を言っているか分かりませんでしたから（笑）。

ガンツ 止めに入ったタイミングも悪かったですよねぇ。

豪 「止めるのが早い」っていう声が多いけど、むしろ遅かったくらいじゃない？　すっかり試合も展開しなくなって、あれ以上信頼関係がない者同士のパワー不足な打撃のやり合いは見たくないですよ（笑）。

チョロ 山ちゃんは解説席で「そろそろ行った方がいいですよ」って促してましたよね。

豪 うん。山ちゃんがケツを叩いていたのは見えたけどね。

山口 でも、あの試合は入場する前までは、ノボリがたくさん立ったりして、物凄く高揚感はあったんだよ。

豪 立ち上がりに、橋本が最初なかなか組まないのも良かったですよね。

山口 うん。あれは良かった。途中までは、なんだか面白い試合になりそうな雰囲気はあったんだけど、中盤でいきなりガシッとロックアップするから「あれ!?」って思ったよね。

ガンツ なんだか遺恨マッチなんですが、不思議プロレスまではいってないんですよ。

豪 遺恨といえば煽りがヘタだったでしょ。せっかく根深くていい遺恨があるのに、そこに全く触れないでやっていましたからね。ドン荒川に煽られて、当時ジャパン・プロレスだったヒロ斉藤の指を折ったっていう話から全部出して、遺恨を全面に出してればもっと盛り上がったのにね。

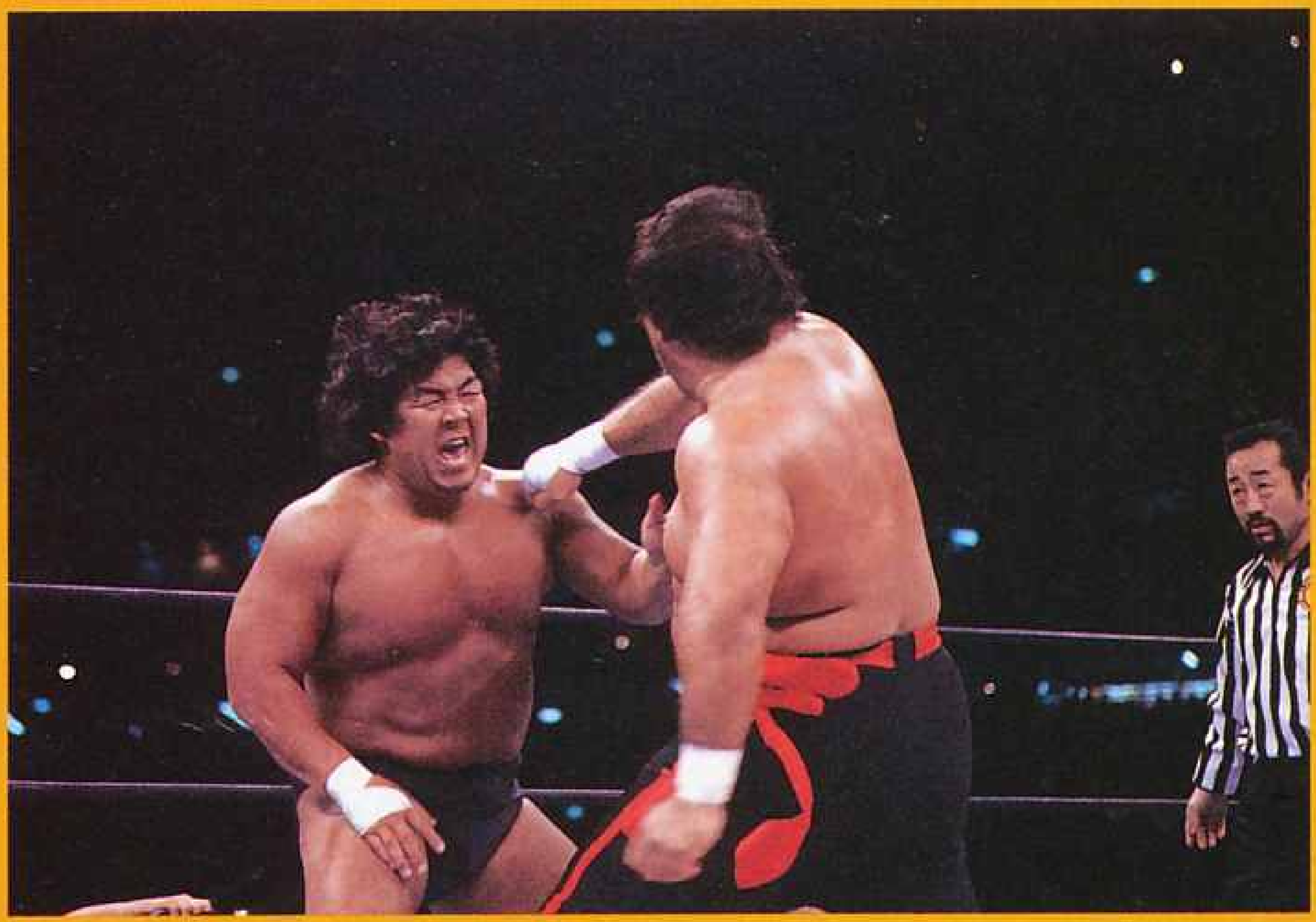
ガンツ それってオフィシャル的には出せない遺恨じゃないですか？

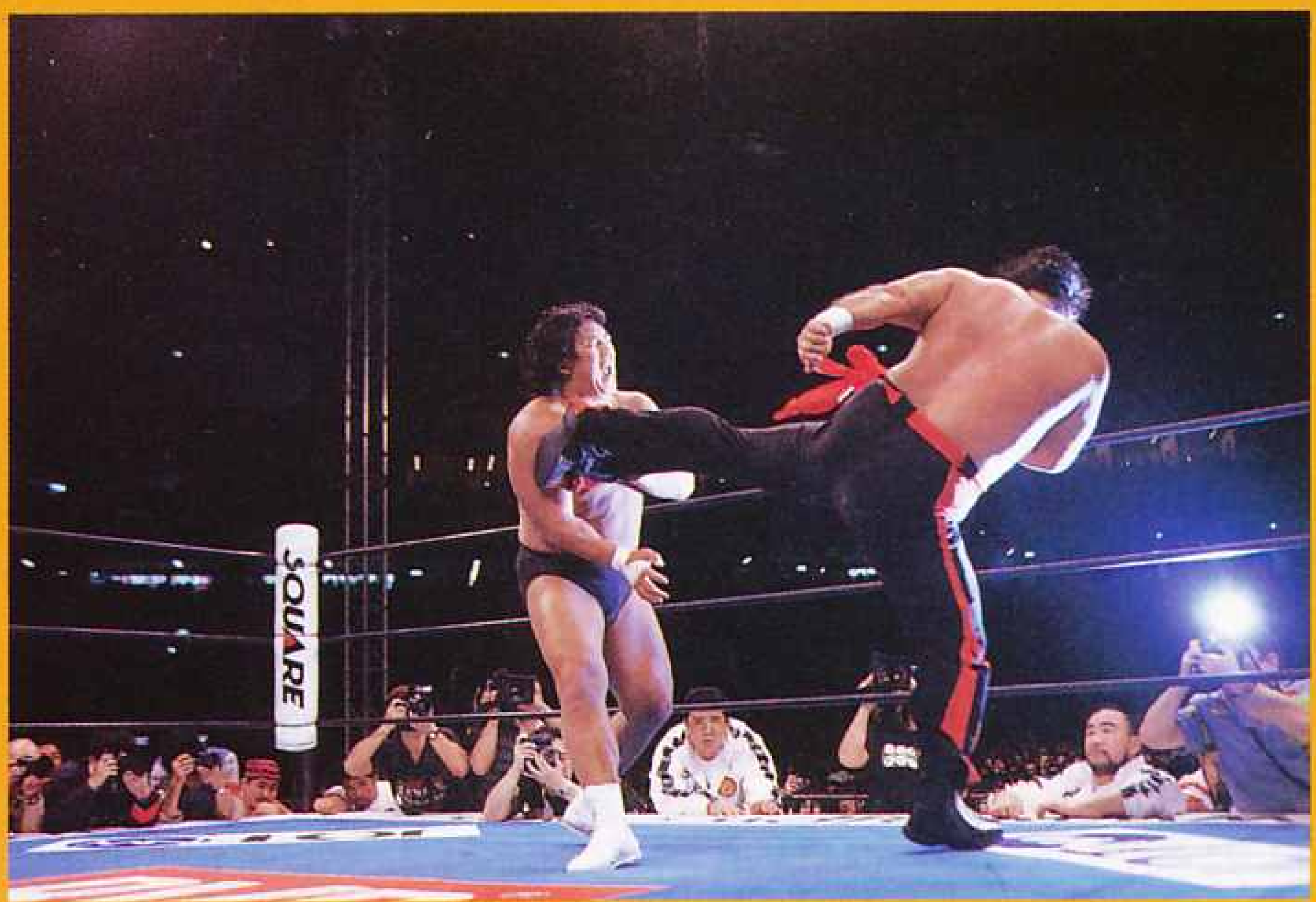
豪 でも破壊王の解雇の遺恨だけだったら、

「プロレスは



座談会出席者　●山口日昇（本誌鬼畜編集長）　●吉田豪（本誌スーパーバイザー）　●坂井ノブ（本誌編集力士）　●松澤チョロ（本誌キャットファイター）　●堀江ガンツ（本誌泥酔編集者）





ケサ斬りチョップ、ナックルパート、爆殺キック、ラリアットが乱れ飛んだ両者の闘い。互いにダウンを奪うもフォールには行かない意地の張り合い。両者とも疲れの色が見え始めたその時、藤波社長がリング上にあがり、観客の想像を遥かに超える結末を迎える…

みんな「偽装解雇だろう」という冷たい目でしか見ないでしょう。

ノブ　こんなに早く新日本に戻ったらねぇ。試合前、橋本が「オレの足が折れるか、長州の腕が折れるかのどちらかだけだ」というコメントがスクリーンで流れましたよね？　長州はその言葉を受けて「そんなことやったら橋本の存在は消えますよ」と言ったんですよね。

山口　ノブは、あれをどう解釈したの？

ノブ　オレは、シュートを仕掛けたらお前を消してやるよと。

豪　多分、それは長州言語の正しい受け取り方じゃないんだよ。

山口　あれは、二通り解釈できるんだよ。もしシュートを仕掛けてきたらその場で潰すという意味。もうひとつは商売をさせなくするという意味。

豪　新日には上がれなくする程度のソフトな意味かなと思いますけどね。現場だと緊張感があるからそういうふうに取れるのかもしれないけど、後から紙面で読むとそういうふうにしか取れない。

山口　でも、試合後、「橋本は何も仕掛けてこなかった」みたいなことを言っていたよね。

ノブ　長州は、「何を言えば橋本の株が落ちるのか」というのを考えてやっていますよね。

山口　うん。だから、いかに自分の方が上位概念にあるかという見せ方は、やはり長州の方が上手いよな。

豪　今回の試合でネットとかを見ていてホントにおかしいと感じるのは、ファンが全てをワーク、シュートの二元論で語ってしまうと何にも見えなくなってしまうということを痛感しますよ。ワーク内というかプロレスの枠内で瞬間瞬間踏み越えていく部分とかが楽しいわけじゃないですか。一連の小川vs橋本戦にしても、これはヤバイよという瞬間がありながらも着地点はちゃんとプロレスに落ちつくという試合じゃないですか？　それを「プロレス」の一言で片づけてしまうのが田中正志の悪影響だと思うんですよ。そういう意味で、この間の試合もちゃんと見れる試合なんじゃないかなと思うんだけどなぁ。

山口　オレは、試合内容そのものはそんなに悪くないと思うんだよ。というか、あれ以上展開しようがない。あの2人じゃ。

豪　そうそう。テレビで見ていると全然悪くないんですよ。

ガンツ　長州vs橋本戦というのは、昔から手が合う2人なんで試合内容は良くなるはずなんですよ。健介と川田がラリアットの打ち合いをして「いい試合」と言われたのなら、破壊王の蹴りと長州のラリアットの応酬の方が迫力は全然あるわけですから。

山口　その試合に、なぜブーイングが起こって、「八百長」とか「金返せ」とかの野次をオレが起こしたかということなんだよ（笑）。

ガンツ　新日本の甘いところはケロちゃんの言葉に集約されていて、せめぎ合いのいい試合をすればこのような結果に終わっても次も観に来てくれると勘違いしているということなんですよ。

豪　でもさ、試合内容自体も以前の長州vs橋本ほど受け合ってないわけでしょ？

ガンツ　そうですね。長州が「昔の橋本の方が強烈だった」というのは当たり前で、昔の長州は胸板で破壊王の蹴りを何発も連続で受けてましたから。今回の長州は一発で倒れて、二発目を喰らわないようにしているんです。だから一発一発のラリーでしかなかったんですよ。

豪　結局、それが試合の間をおかしくしたわけでしょ。

山口　やはり問題としては、リング外のスキャンダルのスケールはデカイはずなのに、リング内のスキャンダルのスケールが小さくなっている点だと思うよ。豪ちゃんは、前煽りをもう少ししかっりした方が良かったというけど、あのノボリの数とか会場の雰囲気を見る限り期待感は凄かったよ。だって、オレらでも騙されて乗っちゃうくらいだからね。それが、ゴングが鳴った瞬間から試合内容でしぼんでいくというのが今のプロレスの特徴なんだよ。それが“なぜなんだ”という話じゃん。

豪　みんなどれくらいこの試合に期待していたんですかね。1・4の小川vs橋本くらいのレベルのモノを期待していたのかなぁ。ノブ　ボクは単純に期待していました。

山口　いや、オレはシュート試合になるとはまったく思ってなかったよ。

豪　シュートにはなるわけがないですよね。

ガンツ　小川vs橋本が特別なんであって、基本的にプロレスでシュートというのはまずあり得ないですからね。

山口　その前にシュートの定義をハッキリさせないといけないんだよね。みんなシュートとかワークとかって簡単に使っているけど。

豪　純然たる真剣勝負という意味でシュートと使っているじゃないですか。ガチで試合内容から結果までグチャグチャにするような試合なんて、まずないですよね。プロレスの枠内でグチャグチャにするというのは多々あっても。

山口　スポーツなのか、スポーツではないのかという言葉に言い換えると、明らかにスポーツではない試合を期待していたのは分かるけど、それが思いっきり技を入れ合うとか受け合うとか肉体をきしませ合うとかそういうことを期待しているわけじゃないでしょう。

豪　それもとことんまでやったら説得力がでるはずだったんですよ。そのつもりで組んだんだろうけれども、お互いにキッチリ受け合うほどの信頼関係もないしね。

山口　オレは、ズバリ言っちゃうと長州vs橋本戦に一番期待されていたモノは、ウチが新プロレスvs純プロレスという構造が作っているけど、そういう流れができている中で従来のプロレスと1ミリでも違うモノ





橋本ＶＳ長州の捉え方の差が明確に表れた表紙。『週刊プロレス』は遺恨試合を考え直すことを訴えマット界に警鐘を促すような内容だった、一方『週刊ゴング』はあっと驚く大絶賛。ここまで振り切ってもらうと気持ちがいい。ビバ、ＧＫ！

長州vs橋本は従来のプロレスから1ミリでもズレれば爆発していた

を見せてくれるかどうかだったんだよ。1ミリでもズレていれば、爆発していたはずだから。でも、結局10年前の長州vs橋本の焼き直しでしょ。その上、藤波が出てきてコントみたいになっちゃってさ（笑）。

豪　当然、10年前より説得力がないと。

山口　2人とも年をとっているわけだから。第1回G1の長州vs橋本なんてメチャクチャ面白かったじゃない。

豪　「あの頃はオレも甘かった」って橋本は言ってたけど。

山口　感情的にも観ている方が思い入れできる試合だったわけだしね。

豪　長州が「いいからやれ！」って言っても、なかなか橋本が蹴れなくて。

山口　泣きながら、蹴ってね。

豪　橋本の人の良さが出てましたよね。

山口　あれは、ホントにプロレスにしか出せない感情の出し方でしょ。格闘技では出せないじゃない。今回もそういう従来のプロレスが見せたことがない〝顔〟を見せるかどうかだったんだよ。

チョロ　大仁田が長州vs橋本戦を観てボロクソに言ってたみたいなんですよ。「『PRIDE』とか『K—1』が上がって来ている状況で、新日本が打撃の応酬をやったらおしまいだ」と。

山口　それは、大仁田の言う通りじゃ〜！

チョロ　そこの見せ方が分かっていないと言ってほくそ笑んでいましたけど（笑）。

山口　だって、打撃のやり合いだけなら『PRIDE』にかなうわけがないじゃん。谷津vsグッドリッジと比べてみてよという話だよ。

チョロ　谷津がボヤきたくなる気持ちも分かりますよね。

ガンツ　谷津vsグッドリッジをドラゴンが見たら、「殺し合いじゃないんだ」ってアッという間に止めちゃうでしょうね（笑）。

山口　長州体制バッシングが広がっていて新日本自体の存在価値が低くなっているイメージの中で、K—1とか『PRIDE』とかノアとかの対抗勢力に対してどういうプロレスを見せるのかが一番重要なわけでしょ。

ノブ　でも長州が見せるのってずっと前からラリアットプロレスだけじゃないですか。

山口　だから、今回なぜ復帰したのかという話なんだよ。自分で見せたいモノがないんなら復帰するなよって話だよな（笑）。

豪　新しい髪型見せたかっただけじゃないですか。

一同　アハハハ！

ガンツ　ドラゴンも新しい髪型を見せたかったんですかね（笑）。

山口　藤波の髪型は新しい（笑）。あんなの見たことない。

豪　今回って12・31も込みで「プロレスとは何か？」を考えるいいキッカケになる試合だったわけじゃないですか。特に、『週刊ゴング』の「あえて新日に乗る」というやり方も面白かったし。読みました？　宇野や小路の試合なんてボロクソなんですよ。「学生プロレス以下で、温泉の宴会場でやってろ」って。

ノブ　凄いこと書きますよね（笑）。

豪　他は別に誉めなくて、「12・31はホントに酷かったが、その点1・4は最高だった」「トイレタイムもなくすべてがすばらしい試合」「暴動寸前になったことも素晴らしい」……極めつけは「熱い新日本が帰って来た」っていうフレーズですよね。じゃあ、しばらく新日本は冷めていたのかって（笑）。

山口　ガハハハハ！　今まで熱くなかったって言っているようなモノだよね（笑）。

豪　でも、このやり方は大変いいと思うんですよ。『週プロ』が凄くつまらないプチ新日批判というか、編集後記の片隅で「ちょっとヤバイぜ！　新日本」とか書いてたけど、叩くんだったらとことん叩けってことですよ。あんな軽いやり方なのに、ネットでは「週プロが正しい。ゴングはダメ」になっているのが問題ですよ。明らかに雑誌としては、『ゴング』の方が正しいのに。

山口　そこまでいくと気持ちいいよね。

豪　宇野君を叩いて長州を上げるというわかりやすいやり方なんですよ。あと『猪木祭り』に出た永田のことを絶賛しているんですよ（笑）。なぜかというと、「永田がバーリ・トゥードの土俵で闘った」という衝撃的な記述があって（笑）。ボクが見る限り、あの試合はコールマンがプロレスの土俵で闘った試合にしか見えなかったんですよね。

山口　いや、あの日のコールマンのモチベーションは素晴らしかったよ。プロレスでもバーリ・トゥードと同じテンションだもん。

豪　でも、GKはそこを誉めずに永田を誉めているんですよ。なぜなんだろうと思ったらノブがいいことを言ったんですよ。「あの日の永田はプロレスの土俵で闘ってないですよ。だって、あの日は敬礼しなかったでしょ」って。

一同　アハハハ！

豪　ちょっと勉強になりましたよ。そういうことを考えているとプロレスって何なんだろうと考えさせられますよね。

山口　だから、結局、「プロレスとは何か？」と考えると、オーちゃんは、12・31の安田戦でも10・31の佐竹戦のバーリ・トゥードでも同じ目をしているわけじゃない？

豪　そこなんですよ。何が違うかと言うと、12・31は格闘家の人は「今日はプロレスだよ」と割り切りをしたけど、オーちゃんだけプロレスと格闘技を勝手に地続きにしようとしたんですよね。

山口　そうなんだよ。オーちゃんは、精神的には全く同じものだという打ち出しでしょ。スタイル云々の話じゃなく。

豪　オーちゃんのそういうスタンスは中途半端だと言われているけど、中途半端なことを長年やってきたが故の迫力というか、説得力があるでしょ（笑）。

山口　ナンセンスだと言われているものに対する挑戦の仕方に色気が絡んでくるんであって、このまま自分のスタンスを崩さずにどう展開していくかだろうね。新日本がマニアからこれだけ叩かれている中でK—1や『PRIDE』などの上がってきている勢力に対抗して何を見せつけるかが一番重要なはずでしょ。

ガンツ　そういう意味ではネットとかで叩



こ、怖い。この眼に睨まれるのは絶対イヤ！　入場時のオーちゃんの眼はいつも殺意に溢れる。『PRIDE』のリングであろうとプロレスのリングであろうとその殺意は変わらない。観客はこの眼に「何かが起こる？」という不安感と期待感を抱く。

「闘い」とはイニシアチブの取り合い サクvsカシンにはそれがなかった



かれまくってる橋本vsグッドリッジはどうでした？

豪 言われるほど悪くないよね。

ガンツ あれは「破壊王の格闘技戦」という一つのジャンルになっていますからね（笑）。

一同 ダハハハ！

豪 あれを「『PRIDE』の試合と同系のもの」だと勘違いしている人が凄く多い気がするんですよ。でも異種格闘技戦なんだから。

ガンツ 谷津vsグッドリッジと比べるからいけないんですよ。トニー・ホーム戦とかと比べないと。そう考えるとグッドリッジ戦は、実は破壊王の格闘技戦史上一番できがいいという事実に気付くんですよ！

一同 ダハハハハ！

山口 スウィングしているよね。オレにとっては、12・31の破壊王は、試合後の花道を駆けてくる時の笑顔とか「時は来たぁ！」とか「ちょぉうしゅぅ〜〜!!」とかも含めて最高なんだよ。

豪 12・31は新日本のプロレスが格闘技の土俵と交わったわけじゃないですか。それを見て新日プロレスというものを改めてどう思いました？

山口 選手のコマだけを考えた場合、飯塚&永田であれだけできるんだから、本格的に『PRIDE』と対戦していったら今の『PRIDE』のような「新プロレス」とは別種の「格闘プロレス」というものが芽生える可能性があると思うんだよ。でも、それを誰が本気で組み上げて推進していくかだよね。

豪 猪木さんぐらいですよね。

山口 だろうね。豪ちゃんは今の格闘プロレスってどう思う？

豪 それがまず引っ掛かる部分で、UFOプロレスってそんなに好きではないんですよ。

山口 それは、いまオーちゃんや村上がやってるUFOプロレスというより、自主興行で見たような旧UFOプロレスね。

豪 むしろ見たいのはUインターvs新日の時の石沢vs桜庭でやっていたような、強さが押し計れる試合ですよね。明らかにその試合内でどちらかが強いかが見えたあとでプロレスに着地させるような試合っていう。やっぱり面白いのはアドリブの部分になってくると思うんですよね。

ガンツ 石沢vs桜庭はそれがありましたけど、12・31のサクvsカシンにはありませんでしたよね。

豪 そういうのが観たかったのに、ベタなプロレスになってしまったわけでしょ。

山口 それはかなり考える材料になるね。格闘家がプロレスをやるとなると、あそこに着地するしかないんじゃないの。

豪 紛らわしいことをやってはいけなくなりますよね。

山口 その紛らわしい部分を敢えて突き進んで、しかもあれだけのコーフンを呼ぶオーちゃんの素晴らしさってあるよな。

豪 1人だけ紛らわしいことやっているんですよ（笑）。

山口 何で、バーリ・トゥードとプロレスで同じ目をしているんだよって話でさ。だからオレはスタイル的にはどのようなスタイルでもいいんだよ。そこに「闘い」があるかどうかなんだよ。

豪 やっぱりそうなんですよね。「闘い」がみたいんですよ！

山口 プロレスでも格闘技でも「闘い」がないとダメじゃんということで、スタイル云々という話になったら馬場vs大木金太郎なんてあれは闘いだったよ。

ノブ どういう試合だったんですか。

豪 馬場が何もしなくて、大木がずっと頭突きを狙って踏め込めないという。

山口 ジャンピング・ネック・ブリーカー・ドロップ一発で終わらせるというね。

豪 ホント間合い地獄（笑）。

山口 スタイルではないと思うんだよ。ルチャでも「闘い」があるルチャはあるはずだしね。

豪 マスカラスも相手に何もさせないという意味では「闘い」なんですよね。

山口 そうだよね。お互いのプライドがルールというかね。面白いかどうかは別だけど。

豪 オレのプライドだけがルールというか（笑）。

山口 12・31のプロレスを観た限りでは相手を立てるでしょ。そこに闘いもテーマもないんだよ。

豪 それとルッテンとかがダメだったのは、プロレスを舐めているとう感じというか、「プロレスなんてこんなものだろう感」が一番見えたからですよね。

山口 ルッテンなんて完全な寸止めプロレスでしょ。「プロレスとは寸止めである」という定義が頭にあるんだろうな。

豪 出来の悪いドン・フライみたいな感じですよね。気迫のないドン・フライなんて意味ねえじゃねえか。

山口 そういう試合が「猪木祭り」で展開されているのを見ると、どうなんだろう。猪木さんの「格闘プロレス」というものも時代から外れてきているのかな。

豪 でも猪木さんが今やりたかったのはホントにこれなんですかね？

ガンツ 猪木さんがやりたかったのは、一連の小川vs橋本戦みたいなものでしょうね。

豪 それで、小川vs安田を組んだと。要するに、格闘家に割り切った試合をやらせることが猪木さんの目標ではないですよね。

山口 猪木さんがアメリカで言っていたしいけど、「やはりなんだかんだ言っても今一番分かっているのは小川じゃないかな」って。12・31の一日だけ観るとオーちゃんだけだよ。「猪木プロレス」を体現しようとしていたのは。

ガンツ 高田ですら勘違いしている感じがしましたよね？

豪 高田は、プロレスやってあんなに酷いとは思わなかったね。

ガンツ 何でプロレスに戻るっていったら、Uインターでとどまらずに一気に青春のエスペランサ時代まで戻るんですかね（笑）。

山口 それは『PRIDE』と線引きしたいからでしょ。

ガンツ ただ、Uインター時代の高田はプロレスラーとしてのプライドもあったけど、格闘家としてのプライドも必ずあったはずなんですよ。

豪 紛らわしいものがなくなってくるというのは、本当に嫌な世界ですね。

山口 いまは高田の中でバーリ・トゥード

が上位概念にあるのかもね。でもオーちゃ

豪 安田がまずイニシアチブ取ったから一

カシンも光らせてあげようとするんだよな。

豪 あれは奪い合ってはいないよね。イニ

ん。小川相手にアルゼンチン・バックブリ

が上位概念にあるのかもね。でもオーちゃんの中にはバーリ・トゥードが上位概念というのはないんだよ。

豪　柔道が上位概念というのはあるかもしれないけど（笑）。

ガンツ　おのおのプロレスラーとしての面と格闘家としての面があるじゃなですか。オーちゃんの場合は、格闘技の時もプロレスの時も両方を出すんですよね。それがオーちゃんが「格闘プロレス」ができるということですよ。高田にしてもサクにしても両方を持っているはずなのが、プロレスに行った時はその格闘の部分を置いてきているんですよね。

山口　非常に昔のジャンボ鶴田的だよね。

豪　割り切り方がですよね。

山口　うん。だから、格闘の部分はバーリ・トゥードという表現の場があるから、そちらで見せればいいと。

豪　昔の谷津的ですよね。アマレス挑戦とプロレスは別。プロだからアマレスの技術は出さない。

山口　ハッキリ分けられるようになったのは、長州たちが台頭してきてからだよ。プロレスの中の「闘い」とは何か、ということでしょ。決して大技のラリーじゃないわけだから。

豪　テンションの高さなのかな。

山口　プロレスの中の「闘い」っていうのは、早くいえばイニシアチブの取り合いだと思うね。

チョロ　そういう意味ではボクなんかは、Uインター vs 新日が一番分かり易いですよね。大谷 vs 山喧で大谷が負けて、「アイツ何もできないじゃないか」って、負けた大谷が吠えるわけじゃないですか。あの辺の主導権の争いがボクにっとってベストですよ。

豪　面白いよね。イニシアチブの取り合いというのは。

山口　サク vs カシンがなぜ物足りないかというと、「イニシアチブの譲り合い」になってるからなんだよ。イニシアチブを取り合うということがまず「闘い」の基本だよな。

豪　安田がまずイニシアチブ取ったから一気にオーちゃんが行ったという。

山口　佐竹が乱闘の最後に出てきた時も、オーちゃんのあの主導権の取り方のポテンシャルは凄いよ。

豪　「お前には取らせてやるものか！」というのがありましたよね。「お前は絶対光らせない」と。だからテレビにも映らせなかったし。

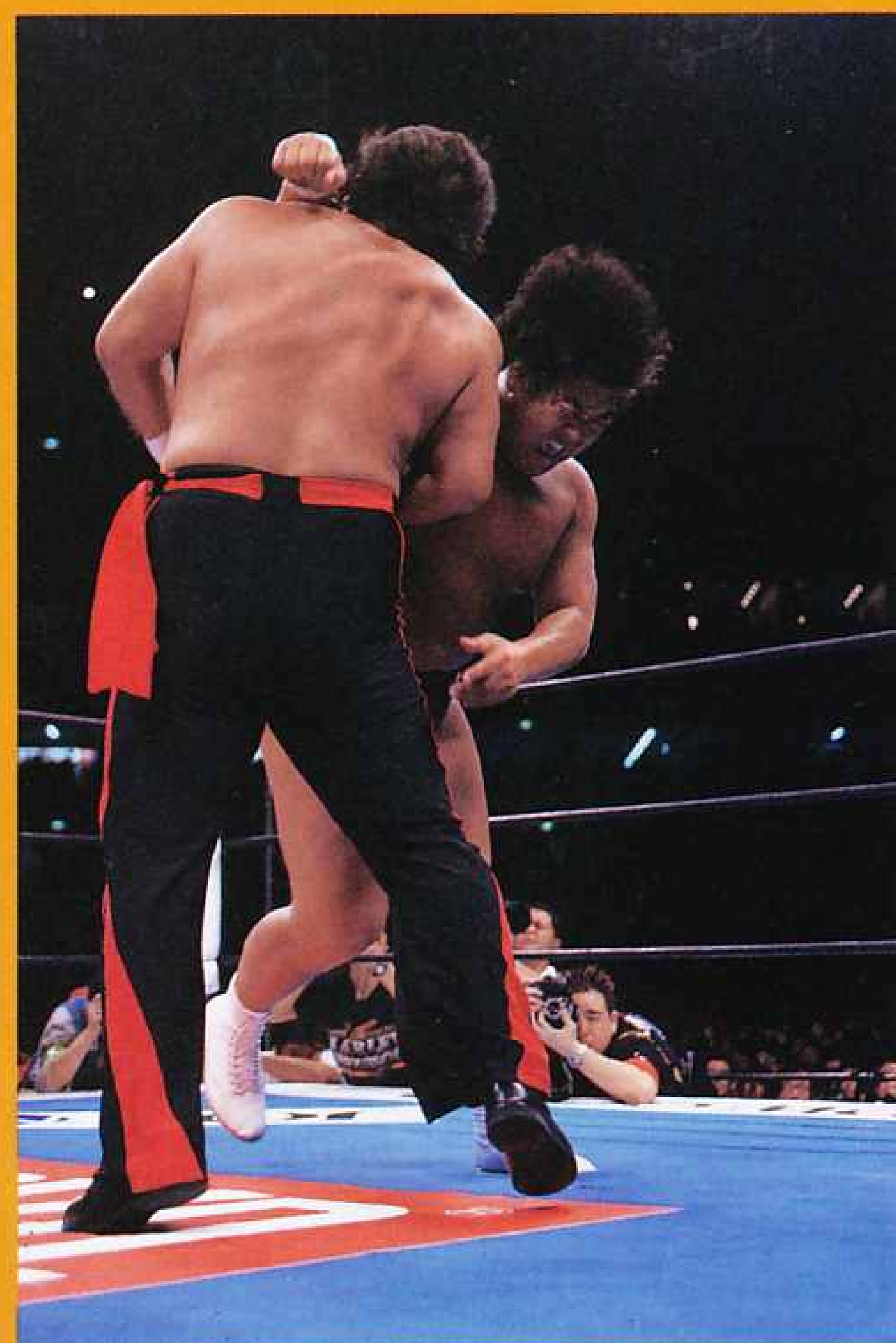
山口　サクは気が優しいから、どうしてもカシンも光らせてあげようとするんだよな。

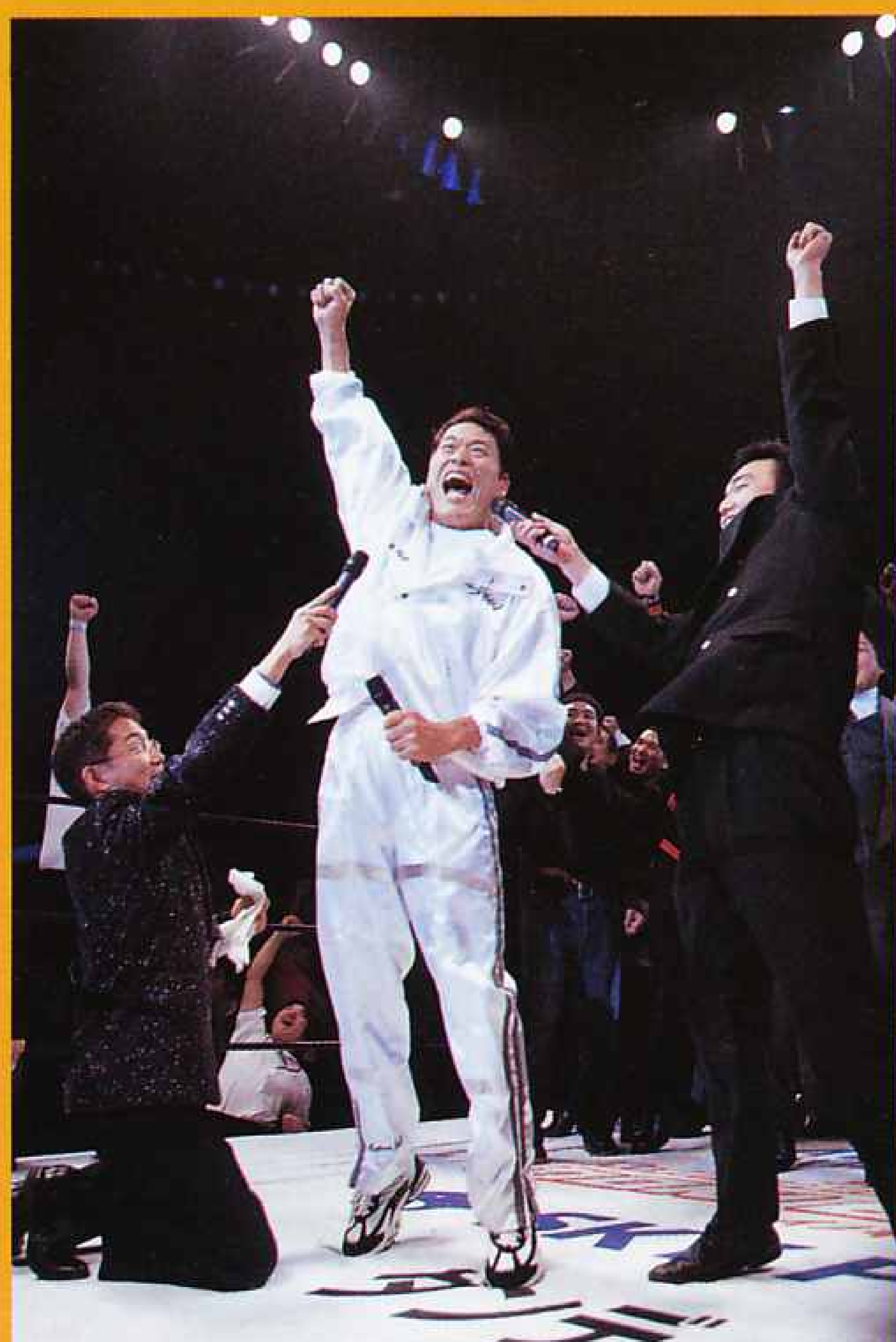
豪　お祭りだから普通お互いに光ろうとしますよ。お祭りなのにお祭り気分がなかった人は、それは逆に光りますよ。

ノブ　でも、よく考えると祭りなのに卑怯ですよね。

豪　卑怯だけど、祭囃子に乗せられてお祭りにヤンキーが来ちゃったようなもんでしょ（笑）。

ノブ　長州 vs 橋本戦はどうなんですかね。





今年はアントンと長州の間で本格的にマット界のイニシアチブの奪い合いが起きそう。これは純プロレスに限らず、『ＰＲＩＤＥ』なども巻き込んだ大きな渦になることは間違いないだろう。

豪　あれは奪い合ってはいないよね。イニシアチブを誰が握っていたのかも分からない。

ノブ　どこにあるのかも分からなかったですよね。

山口　あの試合はイニシアチブをどこかに置いて「さぁ、やろう」っていう試合だよね。

豪　ハッキリ言えるのは少なくとも藤波は握っていないんだよ（笑）。

一同　アハハハ！

豪　それだけは明白。長州は握っているように見せるのが上手いんですよね、あくまでもオレの手の中だぞっていうのが。

山口　長州は政治力なんかには興味がないという感じで一歩さがる。それが戦略だよ。

豪　橋本は、そういう頭が全くないですからね。入ったことは全部話すと。この先も試合決まっているからとかバンバン言って。

山口　せっかく掴んだカードを頭の上で見せびらかしているみたいだものね（笑）。

豪　根っからの善人ですよね。だから結局、長州 vs 橋本は善人の橋本がいいように利用されただけなんですよ。

山口　今の話で見えたのは、長州 vs 橋本というより、これは長州 vs 猪木の闘いだということだね。今回、暫定的に橋本をコマとして使ったってことじゃない。意地の悪い見方をすればね。そうなったら、猪木 vs 長州のイニシアチブの取り合いに発展していくしかないんじゃないか。長州 vs 橋本ではそんなに先はない。プロレスって連続性のものだから、ここから先は猪木 vs 長州の決着戦をやるしかないよ。直接試合でやるということではなくて、猪木プロレス vs 長州プロレスの決着戦をやるしかないんじゃない。

ノブ　コマとしても次はオーちゃんが出て来てほしいですね。『猪木祭り』に長州が出るとか。

山口　そこで、長州 vs 小川とかさ。

豪　長州 vs コールマンとか。

山口　長州が中西を出してきてもいいじゃん。小川相手にアルゼンチン・バックブリーカーをやってドンドン飛び跳ねるシーンを現出できるかどうか（笑）。

ノブ　政治を込みで観ていかないと純プロレスは辛くなってきますね。

ガンツ　新日本のドーム大会というのは、ボクはいいと思うんですよ。オーちゃん、破壊王、ドラゴン、長州を使って普段プロレスを観ない人が興味を持つように持っていっているじゃないですか。

山口　だからこういう試合は一興行で一つでいいんだよ。セミとメインが大事だというかさ。興行がバラエティー化して全試合でみせようとする興行が多い中で一試合集中型の興行をどうやって打っていくかだよね。

豪　でも今回の新日は全試合をみせようとしていましたよね。第1試合から最後まで健介が出るという。

ガンツ　新日本のドーム興行は一試合集中でいいですよ。

山口　「プロレスとは闘いである」という部分で考えると、興行の中にもせめぎ合いがなければおかしいということだよね。どの試合が一番光るか、それも勝負なわけだから。それだったらコンセプトとストーリーが爆発的なものにはかなわない。結局、今は興行の中でも譲り合いだから。

豪　周りに嫌われてもいいからオーちゃんくらいエゴを出した方が面白いんじゃないのかと。

山口　「闘い」とは嫌われることだと。

豪　結局リスクを背負わないとダメなんですよね。

山口　これから〝ストロングスタイル〟を標榜していくなら、嫌われても自分のスタンスを突き刺すという人間がもっと出てこないとダメだろうな。

豪　ノブは嫌われても自分のスタンスを貫いてるよね。会社のど真ん中で堂々と寝るし（笑）。

ノブ　ストロングスタイルは眠いでごわす。

（文中敬称略）

12・23『PRIDE.12』、12・31『INOKI BOM-BA-YE』、1・4 新日東京ドーム大会

2001年はここから発展していく

20世紀のプロレスは猪木とともに終わり、21世紀のプロレスは猪木とともに始まった！　年末から年始にかけて猪木イズムを携えた者たちによる3つの大会が行われたわけだが、I編集長はその中でも『猪木祭り』に猪木の〝プロレス〟と〝プロ格〟の未来を感じ取っていたのだ！　今回は特別版として、いつもの辛口・喫茶店トークではなく、じっくりと原稿で振り返っていただいたので、平成のデルフィンたちも昭和プロレス者もしっかり読み込んでいただきたい。

『INOKI BOM-BA-YE』その〝凄光〟

文・井上義啓（元・週刊ファイト編集長）



いつもの喫茶店トークはちょっとお休みして

I編集長 今回は激筆!!

東京の夜は不可解。生暖かいのに薄ら寒く、オレンジ色のBIG EGGの文字が、なぜか黄色く見えた。

関係者入り口から、肩を丸めて、目の前のホテルへと急ぐ。「すみません」。背後から声がした。「長州と橋本の茶番。S・Hさんに聞いたら、ボロクソに言ってましたけど、どう思われます?」

捕るだろうとは思っていたから、慌てはしない。「レフェリー・ストップ、ドクター・ストップというのには何百回も出食したけど、社長ストップというのはね。やっぱり、長生きはするもんだと……」「あんな、いい加減なことやって、いいんですか?」「いい加減だとは思わない。ただ、藤波が試合を止めたタイミングが悪かったのと、最初から、そう持って行くぞとの意向が丸見えだったのが、いつまで経っても同じことをやってるなァと……」「へェー。『ファイト』さんがそんなこと言うとは思ってもいませんでした。ドカーンと叩いて下さいよ」

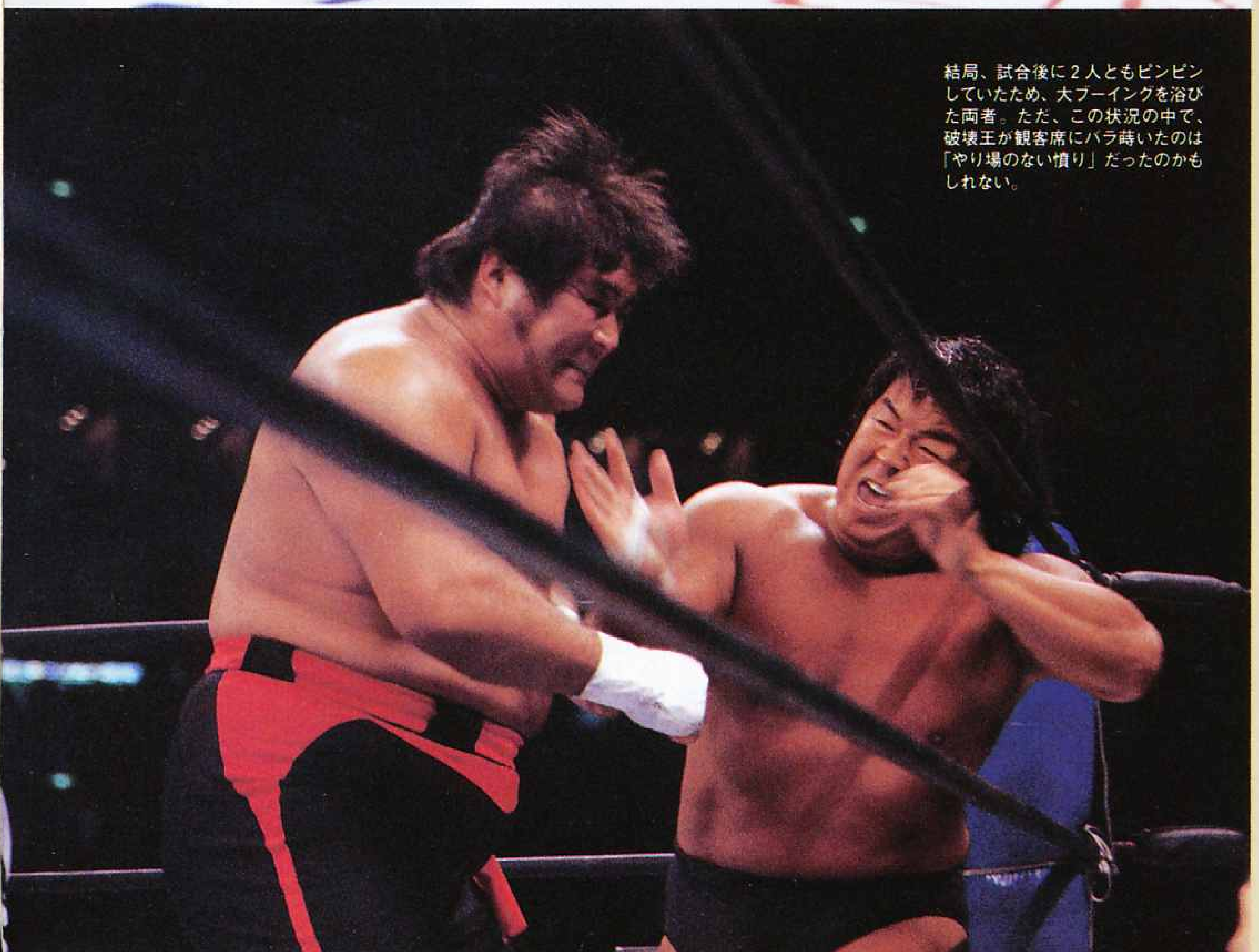
詳しく説明すると、こうなる。新日プロは勝負論重視の手に出たと見せかけて、観客論の安泰を優先しようとした。その逆だと言い張るプロレス者は何人かいたが、私は自説を曲げない。「勝負論でなければ、東京ドームを満杯にすることはできない」。この思いは長州力を始めとする営業スタッフに滲み込んでいるはずだ。これまでの小川直也vs橋本真也に匹敵する勝負論。それが長州vs橋本であった以上、新日側がそう考えたであろうことは容易に察しられた。2人の凄絶な殴り合い。「これはもう、プロレスではない!」と、藤波社長が叫んだのは本当だ。だが、止めに入るタイミングが早過ぎた。少なくともドームを埋めた6万2001人の観客の目にはそう映ったはずなのだ。

アントニオ猪木が昨年の大晦日の夜に、大阪ドームで示そうとした〝デルフィンたち〟へのメッセージがこれだった。観客論だけの純プロレスでは、もうやってはいけない。だからと言って、観客不在の勝負論を振り回したのでは、客足は1人、また1人と会場から遠のく。勝負の中に観客を盛り込むにはどうしたらいいのか。下手に観客充足論に走ろうものなら、長州vs橋本のような茶番劇と受け取られかねない。単的に言えば、勝負論を少し弱めるだけの手立てをどうするかということである。どうやれば、膠着した試合に動きを吹き込むことができるか。どうやれば、あっけない決着を引き伸ばすことが可能か。口で言ってしまうと簡単だが、それをリング上での闘いの中に盛り込むとなると、とてつもなく難しい。いい加減な言い方をするならば、プロレスのあいまいなルールを許容できる限り取り入れることだ。12・31の橋本vsゲーリー・グッドリッジをリプレイしてみよう。グッドリッジの猛烈な左右の連打を食っ

下手に観客充足論に走ろうものなら 橋本vs長州のような茶番劇と受け取られかねない



「橋本の異種格闘技戦史上、最もよかった試合だ」との声もある一方で、格闘家がプロレスをやることに嫌悪感を感じるという声もある。



結局、試合後に2人ともピンピンしていたため、大ブーイングを浴びた両者。ただ、この状況の中で、破壊王が観客席にバラ蒔いたのは「やり場のない憤り」だったのかもしれない。



勝負論に固執しすぎた格闘技の代表が12月23日の『PRIDE．12』だろう。膠着マッチが相次ぎ、迫力に欠けたため、観客は大ブーイングを送った。猪木祭りは、この修正案か？

て、橋本は大の字に伸びてしまった。PRIDE、K―1にしろ、パンクラス、リングスなどの新格闘技にしろ、あの場面が生じたら試合は終わりとなる。昨年の12・22大阪（リングス）でのアンドレィ・コピィロフの敗退（1R0分10秒 KO敗）など、私の目にはスリップダウンぐらいにしか映らなかった。橋本が12・22のリングで闘っていたとしたら、〝文句のつけようがないKO〟で終わっていたはずだ。それなのに、橋本は息を吹き返し、グッドリッジに勝った。なぜか。

プロレスだったからである。レフェリーは橋本が〝蘇生〟するのを待った。橋本も心得たもので、息が入るや、リング下へ転げ落ちて、カウント20の〝恩恵〟へ持ち込んだ。マウントポジションに入って左右連打を浴びせたグッドリッジをレフェリーがまたしても止めた。これはパンチは反則とのプロレスのルールを押し付けたもので、PRIDEのルールには知らん顔だ。要するに掌底に切り換えろとのレフェリーの指示だったわけである。

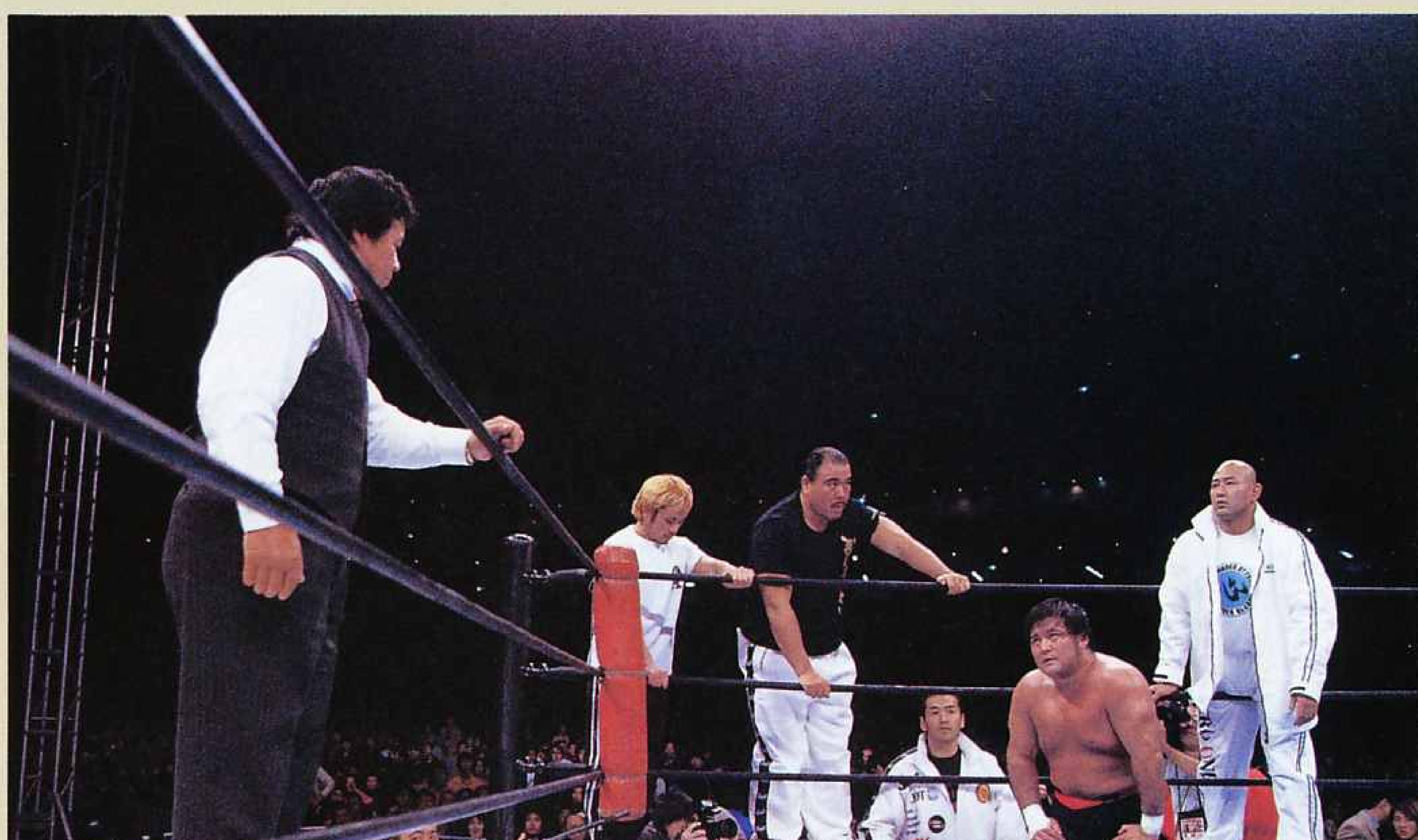
橋本は、この二つの〝プロレス〟によって救われ、そして勝った。前田日明の言う「もし死んだら、どうなるんや！」を完全無視し、まんまと勝負論と観客論を両立させてしまったのである。

では、ここでヒクソン・グレイシーvs船木誠勝の凄惨死闘を思い出してみよう。船木は「レフェリーの止めるのが遅れていたら死んでいただろう」と述懐している。死に到らなかったとしても廃人と化して、病院のベッドで寝たっ切りという悲惨な植物人間になっていたかもしれない。それがあるから、PRIDEにしろ新格闘技にしろ、〝あっけない決着〟がひんぱんに出てくるのだ。「そこがプロレスとは違う点なんだ」と、ある人が唇を歪めて私にそう言ったのが思い出される。プロレスは続行可能な途中経過も格闘技では死につながるんだと……。

東京ドームの入り口で、私が言いたかったのがこれだった。危ないと見て止めた行為は決して間違ってはいない。2人ともピンピンしていたから茶番と決めつけられただけの話であって、正確には、ストップのタイミングが早過ぎた――の一言につきるのである。

それともう一つ。プロレス・マスコミは年齢を誤って考え過ぎている。どの格闘技に、60にもなって試合が可能なものがあるというのか。「45になっても50になってもやれるんだよ。馬場なんか60までやってたんだよ」。マスコミが平気でこんな活字を振り回すから、〝デルフィンたち〟がそう信じ込んでしまうのである。なぜ若乃花は28歳で引退したのか。船木はなぜ31歳でエンドマークを打ったのかを考えてみれば、長州の49歳など、もってのほかとなるはずなのだ。凄絶な格闘技マッチであれば、あれは危ない。これは間違っていなかったのだが、止めるタイミングが早過ぎた。やはり新日プロは勝負論のエキスパートではないのである。

やはり新日プロは勝負論のエキスパートではないのである



「我々は殺し合いじゃないんだ！」と聞き取りづらいマイクでリングに入った藤波。異例の社長ストップという結末に、観客は荒れ狂い東京ドームにモノが舞った。

猪木は、文字通りの『プロ格』（プロレスと格闘技の混ざり合ったもの）を大晦日の夜に実験して見せた。あの試合はバーリ・トゥーダーを織り混ぜたプロレスの祭典と見えて、その実、勝負論に固執し過ぎている格闘技への修正案だった。純プロレスの試合ではPPVもおぼつかない。と言って、ヒクソンといった〝ゼニの取れる男〟がいなくなった後の勝負論で、プロ格闘技の興行が成り立って行くのだろうか。それが可能なら、第一次・第二次UWFは潰れなかったはずではないか。

橋本vsグッドリッジは継続可能だが、長州vs橋本は継続不可能である。その分かれ目は前者が勝負論の中に何とかして観客論を織り込もうとしたのに対し、後者は、観客論をデンと据えておいて、その周囲に勝負論を配って歩こうとしたことによる。新日プロは観客論には馴れていたが、勝負論から遠ざかっていたため、そのタイミングと持って行き方をとちったのである。

◇

橋本が言おうとしていること。それは、まだ完成されていない。今年の猪木は12・31の発展したものとなるが、下手に動くとプロレスとなって危険だ。猪木がマスコミとファンを手の中で、どうやって踊らせるか。私にとっての猪木は、まだ終わろうとしない。

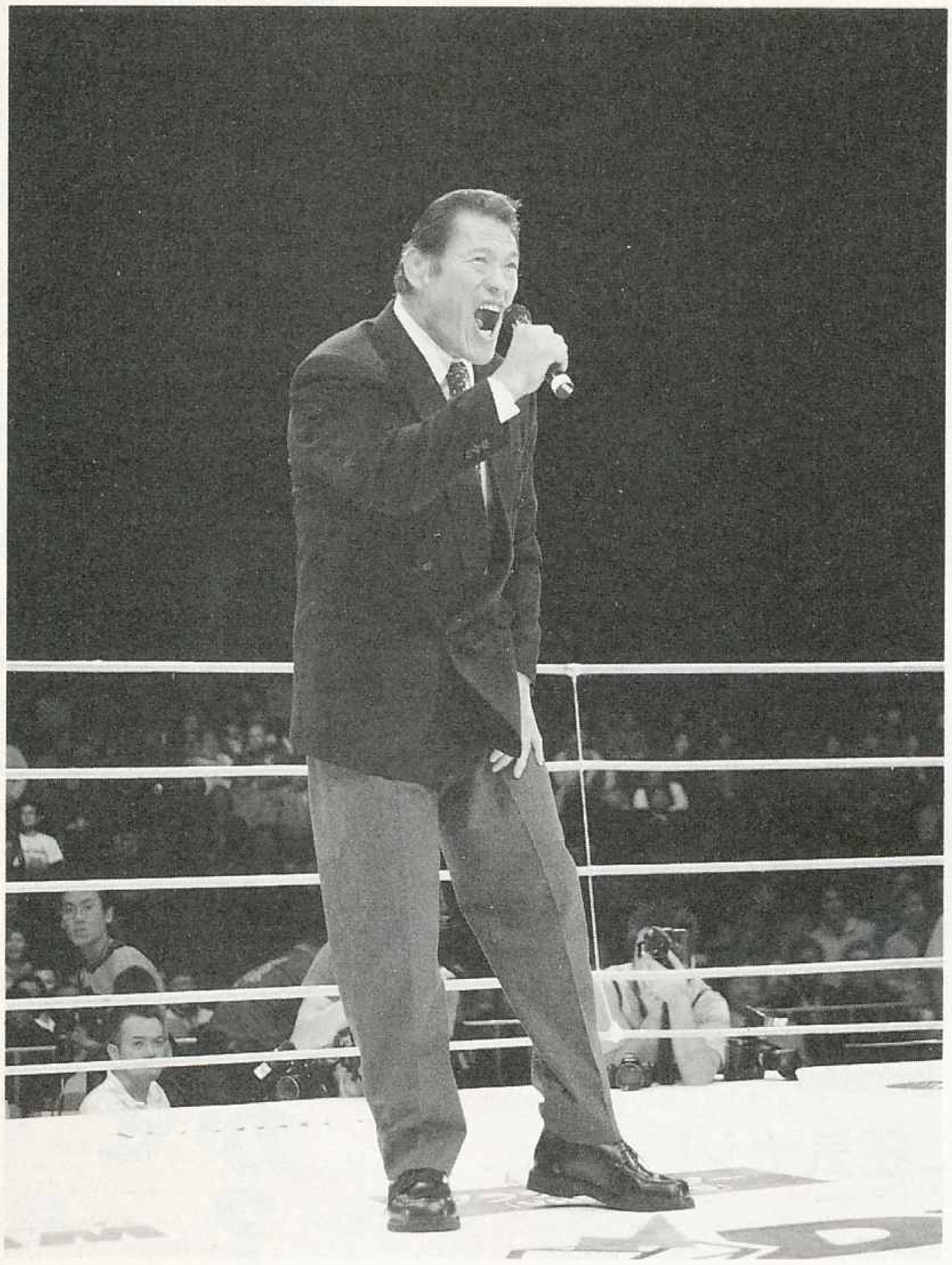
「PRIDE.12」で生じた6つの謎

紙プロは12・23
さいたまスーパーアリーナを
単なる「つまらなかった」
では終わらせない



猪木はなぜ突然「バカヤローッ！」と叫んだのか？

まさに「PRIDE.12」のハイライト 挨拶の途中で突然の咆哮



アントニオ猪木の〝バカ野郎〟発言には、別にたいした意味はない。意味などあるはずがない。

なぜなら猪木さんは面倒臭くて、邪魔臭くなったから、誰に対してというわけでもなく「バカ野郎！」と言っただけなのだ。

たとえばひとりで山の頂上に登り、まわりに誰もいない世界で、思い切り声を張りあげて叫びたくなる心境と同じである。

要するに猪木さんは「バカ野郎！」と叫びたかったのだ。それは絶対に見ていて美しい姿だった。あの時、たしかに猪木さんはメチャクチャ格好よかった。

美しいもの、格好よいものは〝是〟なのだ。あの場でぐだぐだ理屈をいっても始まらない。試合が膠着の連続で、お客は退屈しきっていた。それは誰の責任でもない。

また誰のせいにもできない。それがわかっていたらもう「バカ野郎！」と叫ぶしかないではないか？　まさにどんぴしゃり。あれほどあの場にはまった言葉は、ほかにはない。

そう、あれは平手ではたく言葉によってまとめてやった〝闘魂ビンタ〟である。だから気持ちがいいはずである。

私など「その手があったのか？」と思ったほどだ。見事にしてやられた。猪木イズムとは、現場で独り勝ちする精神のことをさすが、猪木さんはまたしても〝奥の手〟をボクたちに披露してくれた。

それもあの時、猪木さんにはきわめて少ないチャンスしか与えられていなかった。現役選手でない猪木さんは、休憩後に出て来て一、二、三、ダーをやるだけなのだ。

いつものお決まりのシーン。興行がうまくいっている時は、出番はそれで終わる。だがその日の試合は膠着の連続。

観客の間には「なんとかしてくれ！」という不満が充満していた。こういう展開になると。猪木さんは黙っていない。

ただし、出しゃばったことをしたら野暮になる。それは猪木さんが一番、よくわかっていた。じゃあ、何をすればベストなのか？

そこで咄嗟にひらめいたのが〝バカ野郎〟という秒殺言語だった。それを猪木さんはなんの計算もなく、本能的にやってしまうところが凄いのだ。

たぶん、猪木さんの辞書には〝膠着〟という二文字は、ないはずである。

試合に限らず人生におけるすべての膠着を、シュートせよ！

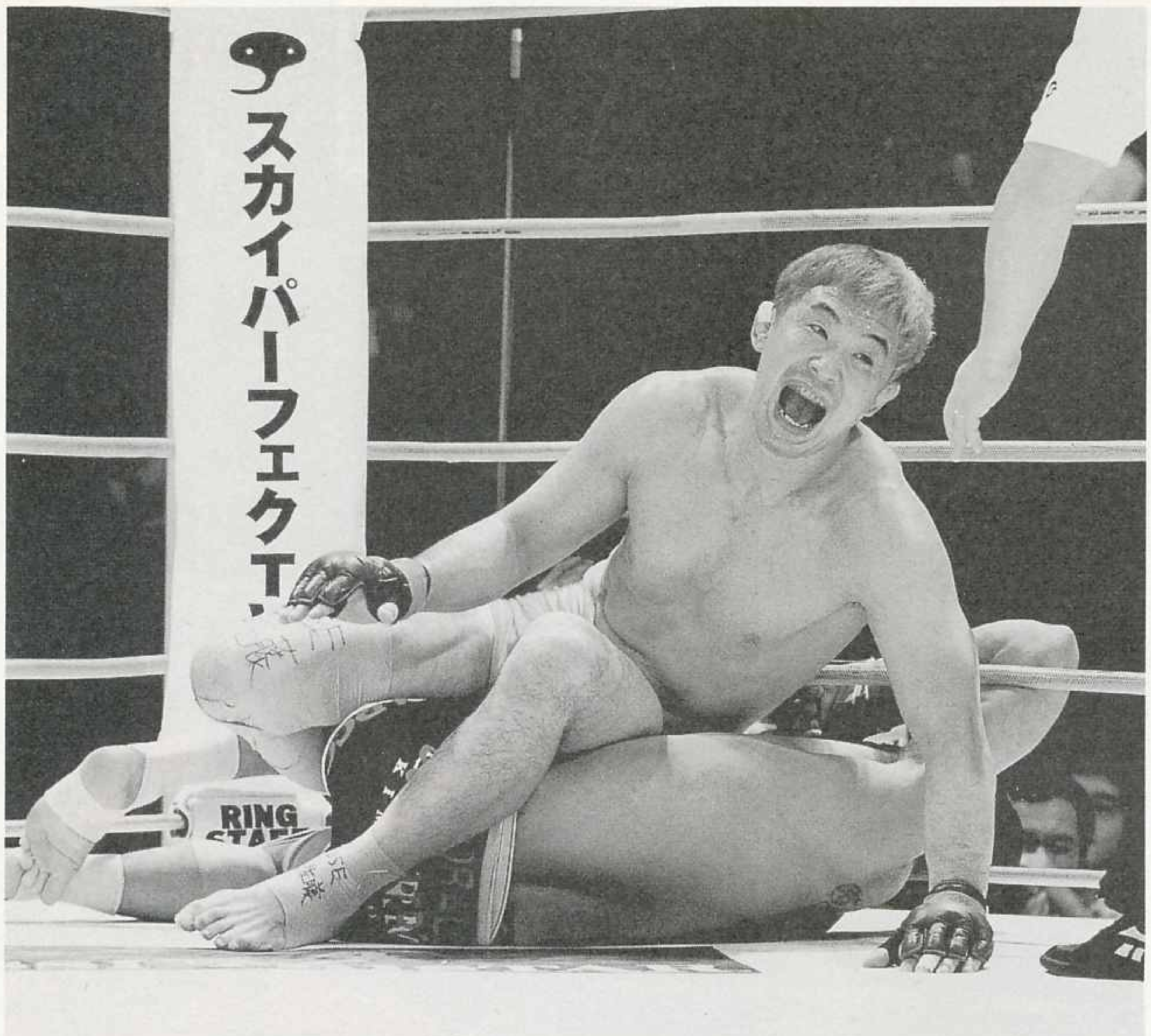
そのメッセージが〝バカ野郎〟だったのだ。〝キラー〟猪木の本領がどこにあるかは、野暮さというと、これで多少はそれを理解してもらえたと思う。

やっぱり猪木さんは〝キラー〟だったのだ。

（文・ターザン山本）

2

桜庭はなぜ手負いのハイアンを極めきれなかったのか？



サク、攻めまくり
右肩負傷のハイアンに狂気ナシ！

なぜサクは手負いのハイアンを極めきれなかったのか？

1. サクが内蔵疾患を煩っていた。
2. ハイアンは怪我してなかった。
3. サクは試合の3～4日前まで飲みまくっていた。
4. 入場時に被っていたカシンマスク、SAKUベルト（世田谷区認定らしい）の準備で試合前は練習どころじゃなかった。

と、考えられる理由はいくつかあるわけだが、当初予定されていた10分2ラウンドから1ラウンドのみにルールが変更されたことによって、サクにとって充分な時間が足りなかったことが大きな要因であることは間違いない。

膠着三昧の試合が続き、会場にまったりした空気が充満していた昨年12月23日の『PRIDE．12』。

試合前日にハイアンが右肩を負傷。ドクターストップの診断が下るほどの重傷だったらしいが、それでもハイアンは出場することを譲らず、試合時間が10分1ラウンドに変更に。これにはさすがに膠着三昧にうんざりしていた観客からブーイングが起こったが、ハイアンの兄ヘンゾの〝右腕が無ければ左腕が、両腕が無くても足がある。闘いの場から逃げないのがグレイシースピリットだ〟という説明にグレイシーの神髄に触れた思いの人も多かったであろう。

ハイアンを極められなかったのか、極めなかったのかはサクのみが知るところだが、サクがあからさまにハイアンの右腕に狙いを定めることは一度もなかった。防戦一方のハイアンはただ守るのみといった感じで、『PRIDE．10』で見せてくれた狂犬ぶりはこの日の試合では皆無。

ハイアン戦までに、グレイシー一族に3タテを食らわしたサクだが、以外なことにホイラー、ホイス、ヘンゾ、いずれの3人からもタップを奪っての勝利は未経験。実は今回初めてグレイシーがタップする可能性が充分にあった。そんなことからグレイシー一族のルール変更疑惑が囁かれてもいる。一族の名誉を守るために負傷を装い、試合時間を10分間に短縮させたのではないかという疑惑である。「あと3分あったら極めれたかもしれない」とサク本人が後日語っていたこともあり、ケガを理由にルールを変更し、10分をなんとか逃げ切ろうとしたという疑惑はあながち的はずれでもなさそうだ。

サク自身も「右腕、結構力入ってましたよ」とコメントしている。

もしこのグレイシー一族のルール変更疑惑が本当だったとしたら、久々にグレイシー幻想が膨らみまくる話である。グレイシーはサクからまんまと逃げ切ったことになる。

しかし、それ程までに一族の名誉を守るために闘い抜いたハイアンに対して、サクはというと、なんと実際に試合の3～4日前まで飲み続けていたというから、サク幻想も膨らむ一方である。サクの飲み過ぎは、かなり深刻で、ズバリ言って極めきれなかった理由はサクの側にもあるだろう。

（水戸泉）

エンセン井上は本当に引退してしまうのか?

「選手としては死ぬまで休憩ネ!!」その休憩中にエンセンが見たモノとは?



「これが大和魂の最後のファイトでした」

『PRIDE.12』のリング上でエンセンは確かにそう言った。試合後のコメントでも「選手としては死ぬまで休憩ネ」と語っている。「最後のファイト」+「死ぬまで休憩」=引退表明、と普通のマスコミならこういう公式を導き出すところだろう。だが、ボクはどうにもこの発言が腑に落ちなかった。ホントにこんな幕引きでいいのだろうか?

数日後、さっそくエンセンのマネージャー・プナニ酒井氏に電話で問い合わせたところ、「エンセンの引退は……う〜ん、ないと思います」とのこと。どうやら、今回の敗戦にショックを受けたことは間違いないようだが、それ以前の問題で試合前から肉体的なダメージと精神的な疲労が蓄積していたようだ。

まず『PRIDE.10』の試合でボブチャンチンの猛拳を食らいすぎて、入院するほど深刻なダメージを負い、しかもその試合で鼓膜が破れてしまったために1ヶ月半も練習が出来ない状況に追い込まれた。敗戦→故障→ハードワーク→故障→また敗戦という悪循環がエンセンにどんどんプレッシャーをかけていったのだろう。今回の試合は今までのように「死んでもいい」という闘いを挑むほど、コンディションが整っていなかったことだけは間違いない。「こんなコンディションで闘って、もし死んだとしても悔いが残るネ!」きっと、そんな気分だったのだろう。まあ、これはあくまでも勝手な推測だが。

さらに、上の写真を見ていただきたい。エンセンの両目がパンチを受けたわけでもないのに腫れ上がっているのがおわかりいただけるだろう。なんと、試合1週間前に悪性の〝ものもらい〟を患い、かなり視界が遮られていたのだという。ということは、ろくに見えない状態で相手に打撃戦を挑んでいったのか!? じつにエンセンらしい〝大和魂〟全開な闘いぶりだが、それだけで勝てるほどヒーリングは甘い相手ではなかった。

今回の真相は……ひとまず「エンセンは無期休業に入った」と見るべきだろう。今後、エンセンに再び〝大和魂〟は戻ってくるのか? それを知るのはエンセンしかいない。ボクらはそれを待つだけだ。〝大和魂〟のないエンセンの試合などあり得ないし、見たくない。

だが、プナニ氏によれば、そんなエンセンの大和魂に再び火が灯る、ちょっとした事件があったという。なんと、目の前で飛び降り自殺の現場に遭遇したのだ! そこに家族が続々と駆けつけて、嘆き、悩む姿を目撃して、エンセンは自分の悩みの小ささを感じたという。「死ぬまで闘う」「死んでもいい」と語っていたエンセンの心に、何かの変化が起きていることは間違いない。不謹慎かもしれないが、「死」を強く意識してきたエンセンが、その瞬間何を思ったか、ボクはとても知りたい。

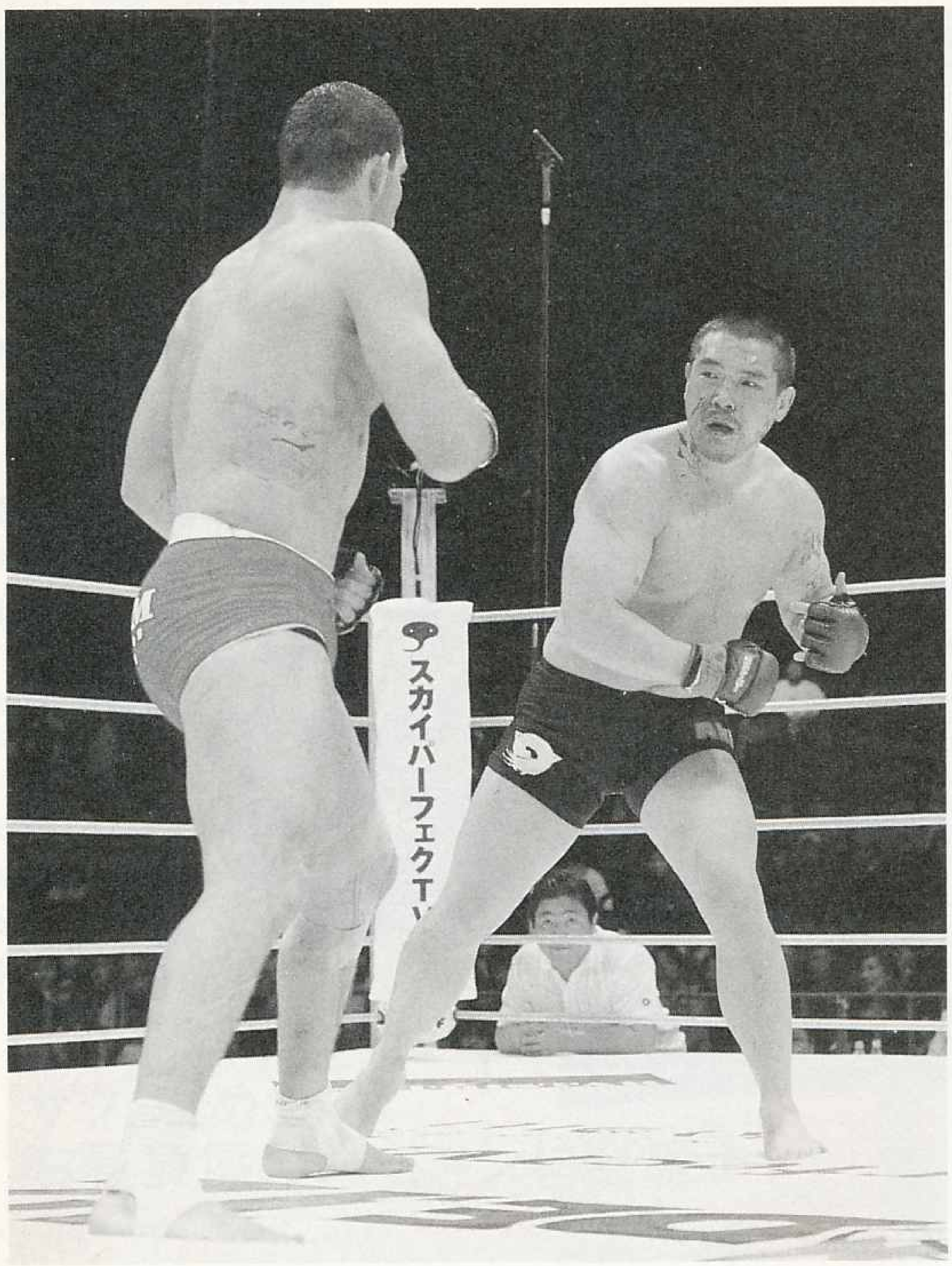
というわけで、本誌次号ではエンセンに引退発言の真相と現在の心境を告白してもらう予定なので乞うご期待!

（文・坂井ノブ）

Q4

小路晃はなぜアルメイダ戦でつまずいてしまったのか?

無名の強豪に血まみれの敗戦！小路に何が起こったか?



「もうちょう!」

と言っても、ホイス戦後の高田のコメントではない。すでに他の媒体でも出ているが、小路晃がアルメイダ戦でつまずいたのは、ズバリ言って盲腸が原因なのである!……と断言してしまうと、ここで話が終わってしまうが、実際、小路は『PRIDE.12』直前に激しい腹痛に見舞われ、検査してみると盲腸（虫垂炎）という診断が下された。手術すると当然、試合出場は諦めなければならない。しかし、「明るく飽きず諦めない」をモットーにしている小路は、薬で盲腸を散らしてリングに上がった（＊ちなみに、この後『猪木祭り』にも出場した小路。盲腸を抱えたまま世紀をまたぐことに）。それがいいのか悪いのかは別として、小路はどこぞの誰かのように、ルール変更をゴリ押ししたり、それを試合前に殊更アピールするといったことは好まない。なぜなら小路は、言い訳不要の〝最後の日本男児〟（最近のキャッチフレーズ）だからだ。小路は、決して大きくはないその身体で、ヘンゾ、イズマイウ、ボブチャンチン、メッツァー、コールマンといった世界の強豪外人と真っ正面からぶつかり合ってきた。それでいて『PRIDE』のリングでは、一本及びKO負けは一度もなく、いまや日本だけではなく、世界屈指のバーリ・トゥーダーとして認知されているのだ。小路との対戦を嫌がる格闘家も少なくないと聞く。

しかしながら、世間的な評価は、まだまだ桜庭や藤田にはかなわないというのが現状である。そんな小路の『PRIDE12』でのテーマはズバリ、アラン・ゴエス越え（ゴエゴエ）だった。桜庭が倒せなかった相手から勝利を上げ、己の存在を広く世間にアピールしようと思っていたのではないか。〝ミスタープライド〟として、ここ最近の〝『PRIDE』＝桜庭和志〟という風潮に風穴をあけるべく、いつも以上に気合い十分だったはずだ。だからこそ、盲腸を押してまで試合出場にこだわったのだろう。

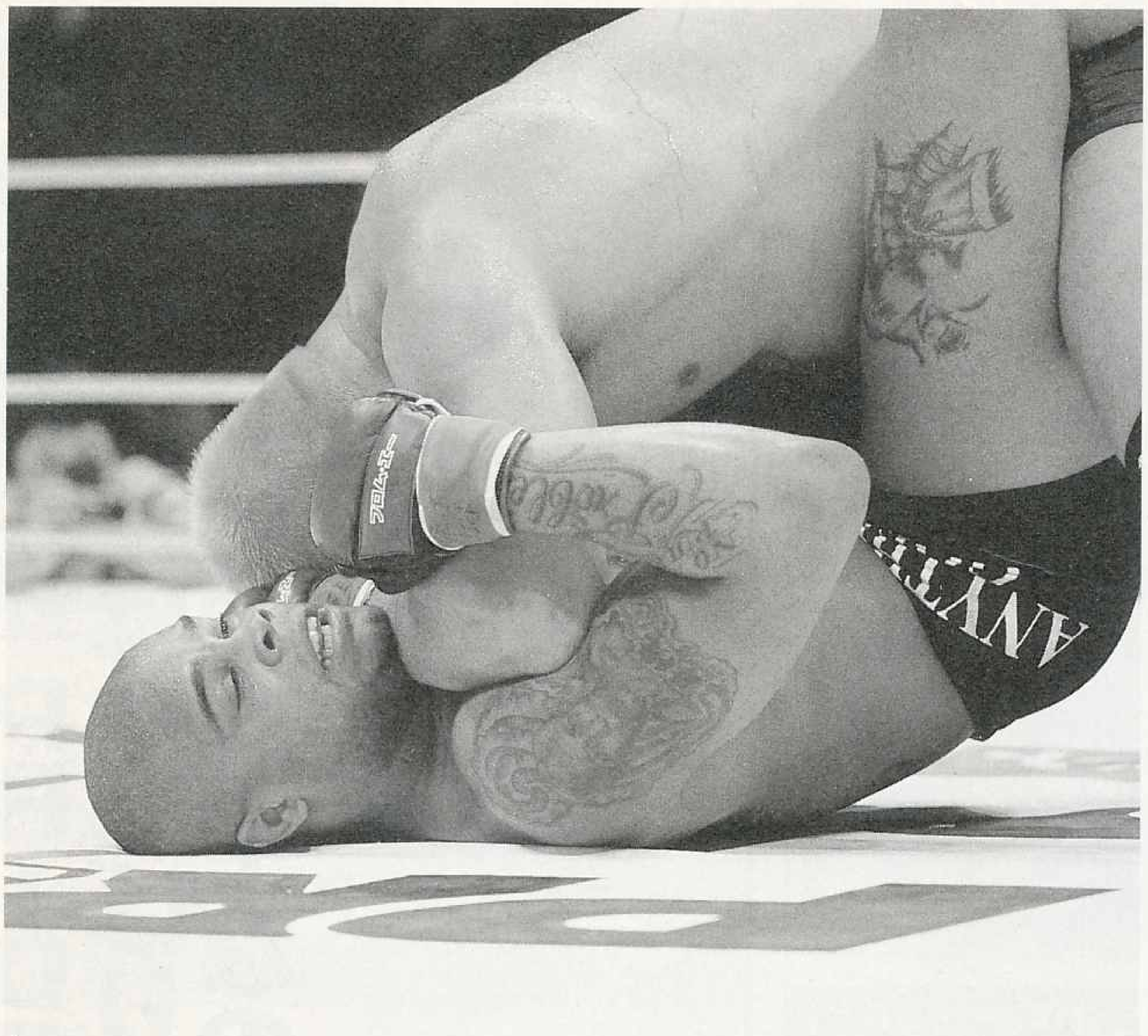
しかし、突然のゴエス負傷欠場によって、対戦相手はヘンゾの弟子のヒカルド・アルメイダに変更となった。日本では無名なアルメイダだが、アブダビでマーク・ケアーを追い詰め、専門家筋の間では……という一番やっかいな相手なのである。

金的にもめげず、鼻血まみれになりながら必死に立ち向かっていった小路だったが、アルメイダは体調不十分で倒せる相手ではなかった。なんとか判定に持ち込み、KO負けだけは免れたが、ダメージがひどいのか、とうとう最後までインタビュースペースに姿を現すことはなかった。

新世紀を迎え、小路は故郷・富山に帰り、ようやく盲腸の手術に踏み切った。小路の実家が漁師だということは有名だが、大好物のホタルイカでも食べて、しっかりと体調を整え、闘いの大海原に戻ってこいと言いたい。慌てなくてもチャンスは必ずやってくるのだから……なぜかって?『猪木祭り』で闘ったサスケ社長が、ズバリ予言しているからである。今年ブレイクするのは小路晃だと。

（文・チョロ）

Q5 なぜ元リングス王者は「PRIDE」で勝てないのか？



元リングス無差別級王者アイブルと KOK王者ヘンダーソンが揃って討ち死に

アイブルやヘンダーソンなどリングスでトップを張ったチャンピオンたちは、なぜ『PRIDE』のリングで勝てないのか？

それについては、「弱いから！」というしかない。〝弱い〟という理由以外に何が考えられるといのだ。

誰かがそれ以外の理由を言ったら、それはすべて嘘になる。これはアイブルとヘンダーソンが、たまたま弱かったということである。彼らの『PRIDE』での試合ぶりを見ていたら〝内弁慶〟という言葉がぴったりだ。

田舎の秀才が都会にやってきて壁にブチ当たる姿と、どこかが似ている。だからといって、私はリングスが田舎で『PRIDE』が都会的と言っているのではない。

格闘家はみんな〝田舎者〟だからだ。まあ、そんなことはどうでもいい。問題はリングスの無差別級のチャンピオン・アイブルと第1回KOKトーナメントに優勝したヘンダーソンが、どうして『PRIDE』に行ってしまったのか。その方が大問題だ。

リングスでチャンピオンになっても選手には、〝うまみ〟や〝魅力〟ないというのだろうか？　では一体、その原因はどこにあるのか？　それについてマスコミはどこも問題提起をしなかった。

こんな重大な事件を完璧に避けて通った。これは明らかにおかしい。選手のモチベーションが、リングスのチャンピオンでいることよりも、『UFC』や『PRIDE』になることの方にある。

結局、リングスは『UFC』や『PRIDE』に移って行くためのステップ台。そういう構造になっているとしたら、『PRIDE』がリングスの〝上位概念〟になっているので、アイブルやヘンダーソンが、『PRIDE』では勝てなくて当然なのだ。

そう考えるとこの問題は〝謎〟でも〝疑問〟でも、なんでもない。リングスに愛着のある人、リングス側に立っている人が、そう思っているだけの話になってしまう。

私の予想ではリングスに存在する二つのチャンピオンに勝った者は、リングス的だったという証明である。

そういう選手は闘いのルールとフォルムが、かなり違う『PRIDE』のリングでは、逆に勝てないような気がするのだ。

しかし『PRIDE』がもっとも欲しい選手はリングスでチャンピオンになった男たち。その勲章を『PRIDE』に上がるための資格にしたいからだ。

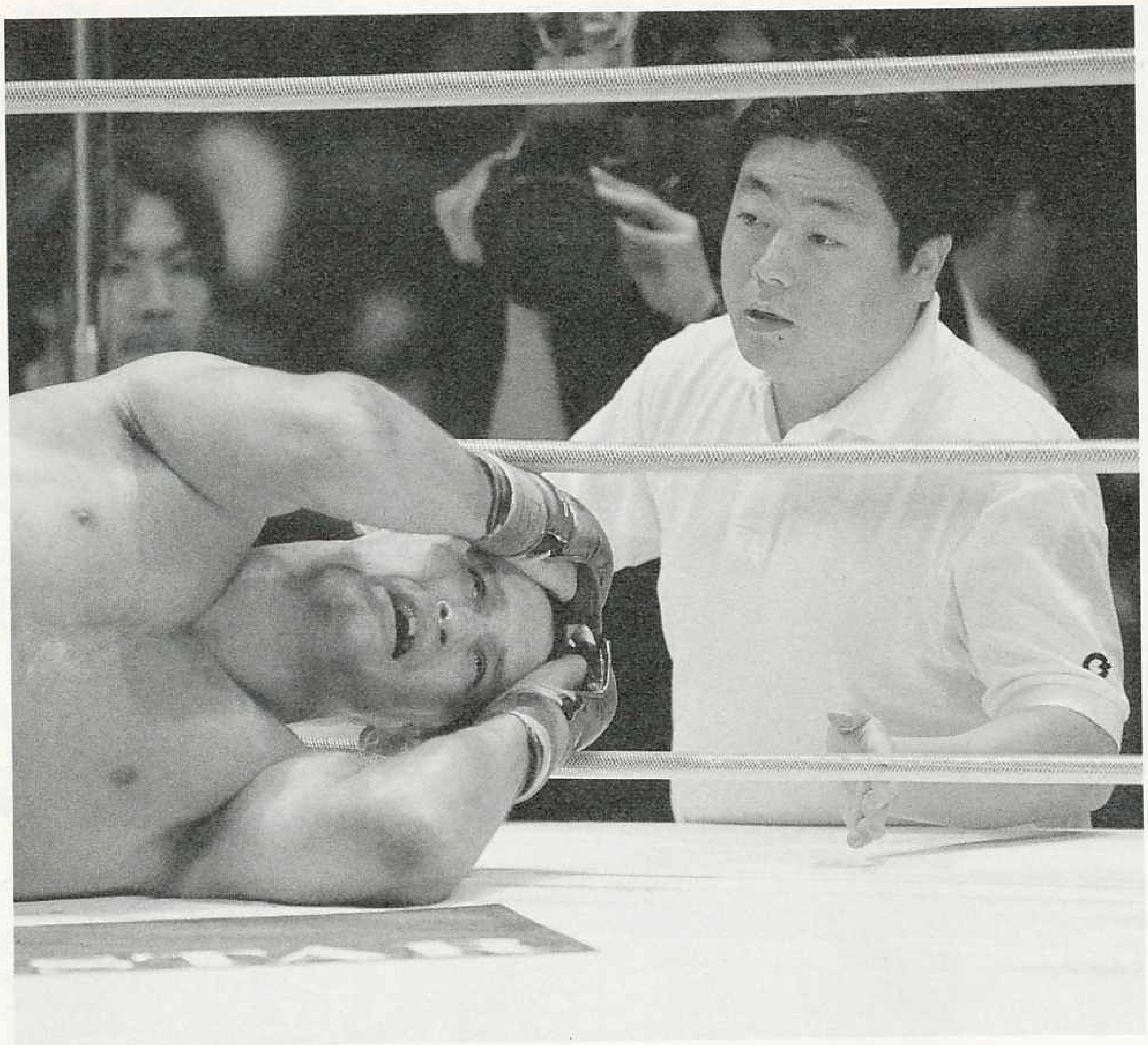
リングスのルールが肌に合わなくて、才能が開花できないでいる選手の中に強いとしても『PRIDE』のリングの方がはるかに向いている者がいるかもしれない。

でも、そういう選手は実績がないので、『PRIDE』に上がるチャンスが与えられない。ここまで考えてきた時、一つだけわかったことがある。前田日明という人は『PRIDE』的なものが好きでないということだ。

（文・ターザン山本）

Q6

膠着三昧「PRIDE.12」悪いのはやっぱり島田レフェリーなのか?



前代未聞の膠着地獄!
選手はおろかレフェリーにも大ブーイング!!

「島田にイエローカード!」「ブレイクしようぜ!」等々、この日は選手だけではなく、レフェリーにも多くのブーイングが浴びせられた。

ブーイングの集中砲火を浴びたのは、イゴール・ボブチャンチン対マーク・ケアーの一戦。ケアーが上になり、ボブチャンチンはガードポジションを取ったまま膠着、といった展開が延々と続いた。他にも藤田和之対ギルバート・アイブル戦をはじめ、膠着の多い試合が続き、イエローカードが乱発された『PRIDE.12(以下12)』。膠着三昧と「バカヤローッ!」(byアントン)ばかりが印象に残った大会だったが、悪いのは、やはりレフェリーなのだろうか?『PRIDE』ルールディレクターという肩書きを持ち、『12』を象徴する試合と言える、ボブチャンチン対ケアー、藤田対アイブルをレフェリングし、さらには名指しでブーイングを浴びた島田裕二レフェリーを直撃した。

「ハッキリ言ってレフェリーは悪くないですよ! ボク達はルール通りに裁いてるだけですから。評判のいい『PRIDE.10』、『PRIDE.11』も今回と全く同じルールですしね。やっぱり、つまらなかった一番の原因は選手のモチベーションの低さでしょう。やる側のモチベーションに対してはレフェリーはどうすることもできないですから、は~い。ボブ対ケアー、藤田対アイブル戦は膠着状態で両者とも消極的に見えるのに、なんでボブとアイブルにだけイエローカードを出すのかってよく聞かれるけど、イエローっていうのは、動きが消極的だからではなくて、攻撃性がない場合に出してるわけですよ。あの日は、ボブチャンチンもアイブルもガードポジションを取って守りに入ってるだけで攻めようとしてなかったと判断したからイエローを出したんです。そういう意味で、ボクは一本負けした選手のギャラを上げた方がいいって森下社長に言ってるんですよ。選手は勝たないと次の大会に使ってもらえないと思ってるから手堅い試合になっちゃうんだよね。そうじゃなくて、判定なんて考えずにとにかくアグレッシブに一本を狙うと。それで逆に一本負けしたら、リング上で『一本負け賞』を渡すとかね(笑)。選手は賞金もらえて嬉しいんだけど、負けたのに賞をもらって恥ずかしい、次はもっといい試合をしよう!ってなるんですよ。あとは攻撃性のあるガードポジションだったらオッケーだけど、ただ守っているだけのガードは即座に罰金を取るとかね。そうすれば選手も動くしかないんだから。だいたい風俗の子だって、グラウンドになって何もしなかったらクビになるでしょ?(笑)。それと一緒ですよ、は~い」

ここまで読んでもらえればわかるとおり、島田レフェリーはルールディレクターとして、観客論を第一に考え、ルール内で少しでも面白い試合になるよう常にプロレス頭を働かせているのだ。『12』がつまらなかったのは島田レフェリーのせいではない! 悪いのは……お前が考えろ!(ケンドー・カシン調)そういうことです!

(文・チョロ)

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間　AM11:00～PM7:00　年中無休

21世紀もプロレスはレッスルにおまかせ!GOODS&VIDEO&DVD品揃え多数!

府川唯未Perfect Collection



DVD SAYONARA　360分10,500円

・復帰が待たれていたアルシオン府川唯未が突然の引退発表!これは、ビジュアルレスラーNo.1の府川唯未のレスラー生涯を振り返るビデオ。アルシオンでの活躍を中心に名勝負や印象に残る試合を厳選!

〈主な収録試合〉

●デビュー～アルシオン旗揚げ(1993～1998)
長谷川&府川vs吉田子&玉田(1997年6月1日後楽園)玉田&府川vsアジャ&京子(1997年6月17日札幌中島)府川vsキャンディー奥津(1998年2月18日後楽園)大向&府川vs玉田&矢樹(1998年12月18日横浜文化体育館)

●吉田との名勝負数え歌～猛武闘賊の参戦(1999)
府川vs吉田(1999年1月17日クラブチッタ川崎)府川vsアジャ(1999年6月30日後楽園)府川&玉田vs下田&三田(1999年7月25日後楽園)府川vs吉田(1999年9月26日後楽園)大向&府川vs下田&三田(1999年12月19日京都・KBSホール)

●V.I.P.の結成～ラストファイト(2000)
府川&三田vs大向&下田(2000年1月30日Zepp Tokyo)府川vs大向(2000年5月7日後楽園)府川&大向&バイオニックJvsGAMI&玉田&レッド・リンクス(2000年7月16日後楽園)

●DVDボーナストラック　YUMI'S FIGHT in the ARSION…アルシオンでの3年間に渡る250試合以上ダイジェストで収録。
BEST BOUT COUNT DOWN…自ら選んだ名勝負を吉田、大向両選手とともに解説。
YUMI'S BEST TECHNIQUES…飛び付き腕十字、ジャベ・デ・フカワなど得意技紹介。
YUMI'S ROOM…リングを離れた素顔の府川唯未とラストメッセージ。

カーニバルアルシオン2000



1/上旬発売　120分6,930円

2000年11/19&12/3後楽園。アルシオンのビッグイベント「カーニバルアルシオン」が速くもビデオ化!今回はアルシオンの3大タイトル戦、ミックスドマッチ、20世紀最後の新人デビュー戦等々内容盛り沢山!メインは文子vsアジャのクィーンタイトル戦。デビューからアジャを越えて21世紀の女王になるべく闘ってきた浜田文子。20世紀最後のアジャ戦のこの試合で見事勝利し、チャンピオンに!アジャの厳しい攻めを凌いで最後は必殺のキック。感動の女王の戴冠をじ～くり見て下さい!ツインスタータイトルマッチではGAMI&玉田の王者チームに因縁の猛武闘賊が挑戦。どっちが勝か最後の最後までわからない白熱の展開。手に汗握ります。そして、もう一つのタイトル戦、スカイでは空中戦プラス関節技戦を展開。吉田に教わった関節技で闘うASARIとアルシオンの申し子AKINOの戦いはこれこそアルシオンスタイル!最後は府川直伝の飛びつき腕十字で見事AKINOがスカイの女王に!他にも、衝撃の引退宣言をした奥津のミックスドマッチ、大向と日向の初遭遇、山縣デビュー戦、11月後楽園大会から21世紀の闘いを予感させる文子と日向の一騎打ち、アルシオンの闘いを凝縮させたような6人タッグトーナメント、高瀬初勝利と凄い内容。これを見ずして21世紀をすごせません。

収録試合
12/3文子vsアジャ、GAMI&玉田vs下田&三田、AKINOvsASARI、カカオ&奥津&藤田vsグラン&マリー&ファビー、大向&Jvs日向&ソチ、リンダvsPIKO、吉田vs山縣、11/19文子vs日向、GAMI&玉田&PIKOvs下田&三田&大向、アジャ&吉田&AKINOvs下田&三田&大向、GAMI&玉田&PIKOvsマリー&ファビー&ソチ、リンダvs高瀬

風雲!バトラーツ 7対7全面戦争

1/上旬発売

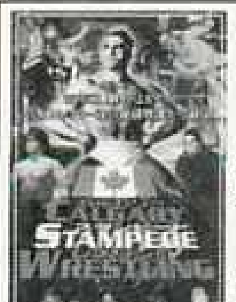
6,930円



2000年11/26駒沢オリンピック公園体育館。バトラーツの集大成で有り、これからのバトラーツでもあるビッグイベント。全9試合全部がシングル、7試合が対抗戦となった見応え十二分の内容。メインは情念石川社長vs凶暴性NO.1UFO村上。因縁の青山ちはるを立会人にする石川社長の作戦も目に入らないイっちゃってる村上の殺気は凄い!容赦ないパンチの雨を受けきって最後は情念の延髄蹴りから胴締めスリーパーで見事石川が勝利!勿論このメインも素晴らしかったがベストバウトとなったのが日高の代打アーバンケンvs高田道場松井大二郎。モヒカンに眉剃りという出で立ちでこの試合に賭けるアーバンケン。試合開始早々の必殺技スピアーで松井を驚かせるも試合は一方的な松井ペース。松井の殺気だったPRIDE殺法と矢のようなドロップキックに観客は騒然、ともかく必見、松井のベストバウト!他にもJrヘビー新旧対決となった佐野vsタイガー、タイトル戦となった平vs臼田、名勝負数え歌第一章の完結編ヨネvs長井、PRIDEで活躍するアレクvsジャイアント落合、太刀光のベストバウトvs小野等々各試合違った味わいの名勝負。じ～くり見るべし!

収録試合
石川vs村上、アレクサンダー大塚vsジャイアント落合、平vs臼田、佐野vsタイガー、モハメド・ヨネvs長井、アーバン・ケンvs松井、小野vs太刀光、カール・マレンコvsラスタマン、土方vsjunji.com

カルガリー・スタンピート・レスリング



DVD85分￥5040 VIDEO¥6,930

ハート兄弟、ダイナマイト・キッド、クリス・ベノワなどプロレス史上に燦然と輝く名選手達を輩出した伝説のカルガリー・マット幻の映像が、時空を超え遂に初登場!若き日の猪木、藤波、橋本など日本勢　vsカルガリー軍団の名勝負、さらに大巨人アンドレ出場のバトルロイヤルなど、全12試合、

1 藤波vsD.キッド(79年8/17)2 猪木vsハンセン(79年8/17)3 ザ・コブラ&H.斉藤vsデイビー・ボーイ・スミス&キース・ハート(83年7月)4 ザ・コブラvsD.キッド(83年7月)5 高田vsアソール・フォーリー(83年8月)6 山田vsキューバン・アサシン7 クリス・ベノアvs馳8 ブルース・ハート&ブライアン・ピルマンvsヤン・チャン&ハシフ・カーン(橋本)(87.11月)9 バトル・ロイヤル(79年7月)10 ハシフ・カーン&ベトコン・エキスプレスvsフィル・ラファイヤー&マイク・カーシェナー(87年11月)11 クリス・ベノワvsヤン・チャン(88年4月)12 クリス・ベノワvsジョニー・スミス(88年7月)

戦火拡大!BJWvsFMW　85分4,200円



2000年3/2川崎市体育館。金村&邪道&外道のFMWを小鹿社長率いる大日本軍が迎え打つ対抗戦をメインに、スーパーJカップ出場者決定戦、夢の?ブッチャー対決等、今回も花丸です。
収録試合　山川&小鹿&ウインガーvs金村&邪道&外道、ブッチャー&シークvs小林&大黒坊、テイオーvs茂木、「神風」&松崎&ファンタスティックvsサンプラス&フトゥーロ&伊東、市来vsデビル、中野vsマルセラ、葛西vs関本

ワールドエクストリームカップ　～世界デスマッチ王決定戦～

115分4,200円



2000年5/14新川崎小倉陸橋下広場。ついにデスマッチ王決定!今回のビデオはワールドエクストリームカップの決勝、準決勝、3位決定戦を収録。レモン・ソルト、有刺鉄線、巨大ホッチキス、芝刈り機等アイテム総出現!
収録試合　WXvsザンディグ、本間vsシーク、テリーボーイvsブッチャー、小鹿vs市来、中野、元気、「神風」チャビンガー、テリーブル、ハーレールイス、本間vsザンディグ、WXvsシーク、山川&ウィンガー&葛西vsタワー&サンプラス&ムスタファ

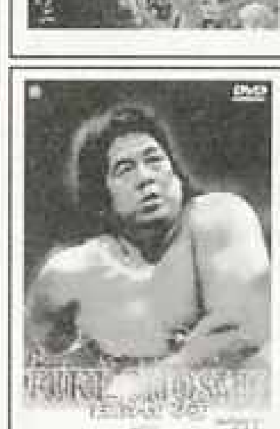
激闘史VOL.1&2



DVD　各90分各3,990円

猪木信者から闘魂三銃士世代まで全プロレスファンに捧げる新日聖書「激闘史」が遂にDVD化!VOL.1闘魂伝説では新日創立からIWGP構想発表までを収録。試合は猪木&坂口vsゴッチ&テーズ、猪木vs小林、猪木&坂口vsシン&上田、藤波vsキッド他を収録。VOL.2激闘戦国記では第1回IWGPから藤波・長州の抗争へまで収録。試合は猪木vsハンセン、猪木vs国際軍団、猪木vsホーガン、正規軍vs維新軍、猪木vsブロディ、越中vs高田他を収録。

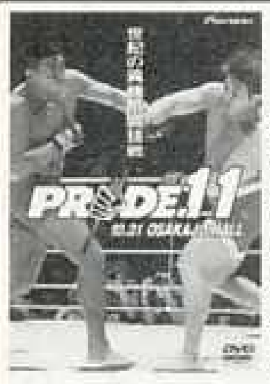
長州力



DVD　120分5,040円

長州イズムとは何なのかこのDVDで感じて下さい!試合の他、必殺技特集としてリキ・ラリアット、バックドロップ&ブレーンバスターを紹介、「引退・交流戦問題」「インディ問題」等のインタビューも収録。
収録試合　'91年10/17長州&マサvs藤波&ベイダー、'92年8/16vsムタ、9/10長州&飯塚&広吉&金本vs越中&木村&青柳&彰俊、9/24長州&ライガーvs武藤&ペガサス、'95年6/13長州&健介vs橋本&中西

プライド11

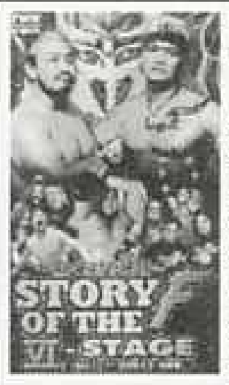


DVD　本編101分＋33分5,040円

2000年10/31大阪城ホール。プライド10に続き名勝負連発となったプライド11。一番の注目は何と行ってもUFO小川vs怪獣王国佐竹。原点に戻り空手の手刀で攻める佐竹と打撃で対抗しようとする小川。空手vs柔道の異種格闘技戦を感じさせる一戦。特に小川のイっちゃてる目は必見!他にも桜庭の秒殺、高田のPRIDEベストバウト、谷津の感動試合と魂を揺さぶる試合ばかりです。ps.今回のサクの見所、「サクカラス」スカイハイ入場も入ってます。

収録試合　桜庭vsシャノン、佐竹vs小川、高田vsボブチャンチン、アレクvsボーク、小路vsレンティング、谷津vsグッドリッジ、アイブルvsシウバ、エリクソンvsヒーリング

FMWストーリー・オブ・ザ・F 6ステージ ～傷だらけの純情～　144分9,500円



99年12/1～2000年5/5全国。FMWの激闘を記録した大好評の年間総集編。99年11/23横浜での冬木の追放、そして、Hと雁之助の友情復活などFMWにとって、明るい未来が約束されたかに見えた。しかしリング上では田中が造反そして離脱。そして、追放された冬木が突然、!自らを「ECWジャパン」代表と名乗りFMWのリングに復讐の刃を向けた!FMWとECWジャパンとの大抗争、2000年5/5の駒沢大会で決着のゴングが鳴る!

MCvsNB～WCW権力戦争勃発!～



VIDEO　DVD

ビデオ&DVD同時発売
各123分各5,040円

2000年4/10～8/28米国。プロレス・ビデオNo.1ヒットを記録した「nWo 4Life」「nWo 4ever」の続編ともいうべきWCWヒストリー・ビデオが遂に登場!激動の2000年WCWマットの4月～8月までの最新映像役200時間から厳選勿論、全編日本語字幕版。

〈ビデオ・DVDリスト〉

<新作>
●府川唯未SAYONARA　￥6,930
●DVD　府川唯未Perfect Collection　2枚組360分￥10,500
●トーナメントZION 2000　¥6,930
●STORY OF THE F 6　150分￥9,500
●DVD PRIDE-11(10.31大阪)　￥5,040
●FLASH BACK OF GAEA JAPAN vol.13　140分￥8,000
●MC vs NB～WCW権力戦争勃発!～ビデオ&DVD　各￥4,800
●PRIDE-10　ビデオ150分￥9,970　DVD160分　￥5,040

<PRIDEビデオ・DVD特集>
●DVD PRIDE-1998(1～4)　2枚組265分￥10,290
●DVD PRIDE-1999(5～8)　2枚組277分￥10,290
●DVD PRIDE-GP2000　2枚組233分+90分￥10,290
●PRIDE-1～9　各￥9,970
●桜庭和志の軌跡　60分￥6,930
●桜庭和志vsホイス・グレイシー　120分￥2,940
●PRIDE-GP開幕戦・決勝戦　各￥9,970
●PRIDEvs掣圏道(2000.6.11横浜アリーナ)　90分￥9,970

<新日本>
●DVDキラー猪木コンプリートBOX　4枚組645分￥32,760
●DVD初代タイガーマスクファイナルコレクション　6枚組796分￥31,500
●パワー・オブ・ライガー　DVD2枚組286分￥10,500 ビデオvol.1&2各約140分￥10,290
●DVDハイパーヒストリーオブG1　4枚組648分￥21,000
●DVD武藤敬司スペシャル　2枚組287分￥10,500
ビデオ「武藤敬司スペシャル1&2」に、新たに7試合を追加収録。
●DVD三銃士ヒストリー1武藤敬司&愚零闘武多　120分￥5,040
●闘魂V特別編 愚零闘武多Rush the Poison　120分￥9,870
●闘魂V特別編　TEAM 2000スペシャル　120分￥9,870
●闘魂V特別編　新生!橋本真也　90分￥5,040
●闘魂V特別編　藤田和之特集　120分￥9,870
●闘魂V特別編　ライガーミレニアム　120分￥9,870
●闘魂V66　蝶野正洋Black Storm　60分￥3,880
●長州vs大仁田 世紀末電流爆破決戦!　40分￥2,600(送料込)
(↑こちらのビデオは、送料サービスがありませんのでご了承下さい)
●闘強導夢2000 vol.1/116分、vol.2/123分　各￥10,200
●DOME IMPACT vol.1/97分、vol.2/106分　各￥10,200
●G1 2000 vol.1/180分、vol.2/148分　各￥10,290
●闘魂V特別編　新日魂3　120分￥9,870
●DVD三銃士ヒストリー2 蝶野正洋1991～1997　120分￥5,040
●DVD三銃士ヒストリー3 橋本真也1992～1995　120￥5,040
●DVD長州力　￥5,040
●闘魂V特別編　猪木vs武藤完全版(対談)　90分￥9,870
●闘魂V特別編　中西学特集　90分￥6,090
●DVD長州vs大仁田(ロングバージョン)　61分￥5,040
●長州vs大仁田(ロングバージョンビデオ)　61分￥5,040
●G1 HYPER HISTORY OF CLIMAX 1999～2000 vol.1,2(全4巻)　各￥10,290
●DVDアントニオ猪木引退試合　187分￥7,140
●DVDアントニオ猪木物語.1/137分　2/132分　各￥5,040
●DVD新日本ラディカルファイト100+α1,2　各170分￥7,140
●DVD愚零闘武多コンプリートBOX　4枚組585分￥21,000
●DVD一触即発1,2　各約150分￥7,140

<全日本・定番ビデオ>
●世界最強タッグ列伝(77～79、80～82、83～85、86～88、89～91、92～94)　各￥5,040
●世界最強タッグ列伝外伝(上巻、下巻)　各￥5,040
●大日本五寸釘&ボブワイヤーダブルボードデスマッチ山川vs本間　85分￥4,200
●大日本デスマッチトリプルメインイベント　85分￥4,200
●大日本WORLD WAR 2000　90分￥6,825
●大日本レモン・ソルト&マスタードデスマッチ　90分￥6,825

<パンクラス>
●DVDパンクラス2000.4.30横浜　106分￥5,040

<GAEA JAPAN>
●FLASH OF GAEA JAPAN 12　2本組270分￥9,800

<その他女子プロレス>
●女子プロレス40年史　2本組180分￥10,290
●女子プロレス20世紀女王伝説　2本組180分￥10,290
●DVDキューティー鈴木ガードレス　45分￥3,990

<リングス・修斗・他>
●リングスKOKトーナメント　3本組375分￥15,000
●DVD前田日明闘いの証　天の章・地の章　各4枚組￥31,290
●DVDバーリトゥード・ジャパン96-97　￥5,880
●修斗THE HEAT (2000.7.16後楽園&8.4大阪)　108分￥6,930
●修斗THE LEGEND (2000.8.27横浜)　90分￥6,930
●修斗MACH～桜井マッハ速人～　110分￥5,040
●修斗1999BEST BOUT　120分￥6,930
●コンテンダーズ2000(2000.7.1Zepp TOKYO)　90分￥6,930
●DVD UFCJ-2000　126分￥6,090
●DVD神技・塩田剛三　56分￥5,880
●DVD地上最強のカラテ　114分￥5,880
●コロシアム2000　DVD120分￥5,040 ビデオ140分￥10,000
●最強伝説ヒクソン・グレーシー柔術　￥6,930
●DVD　最強伝説ヒクソン・グレーシー　￥5,040

<海外>
●トリプレマニア8(2000.7.5後楽園)　100分￥4,800
●レスリング・ウィズ・シャドウズ　DVD、ビデオ共に90分+特典30分各￥5,040
●カルガリー・スタンピード・レスリング(仮)　66分￥6,930
●DVDカルガリー・スタンピード・レスリング(仮)　66分￥5,040

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本の場合￥500、2本以上は無料、グッズの送料は、お手数ですがお問い合わせ下さい。

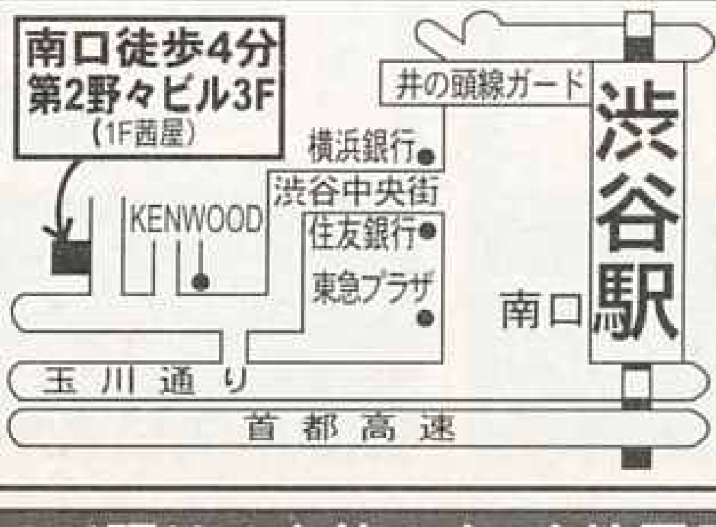
1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

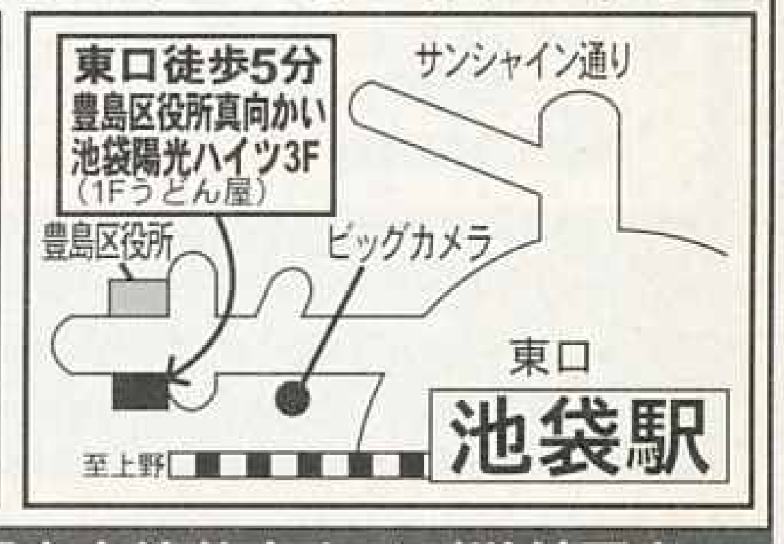
【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。また代金引換(税込￥5,000以上)の場合に限りハガキ又はFAXでの注文となります。(手数料￥315が加算されます。)

●郵便振込口座番号　00180－8－65236　レッスル通販
※郵便振替通販に関してのお問い合わせは池袋店にお願いします。

レッスル渋谷店　店頭TEL03-3464-0078 通販部&FAX 03-3464-1780
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル

レッスル池袋店　店頭TEL 03-3989-0056 通販部&FAX 03-3987-7817
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306



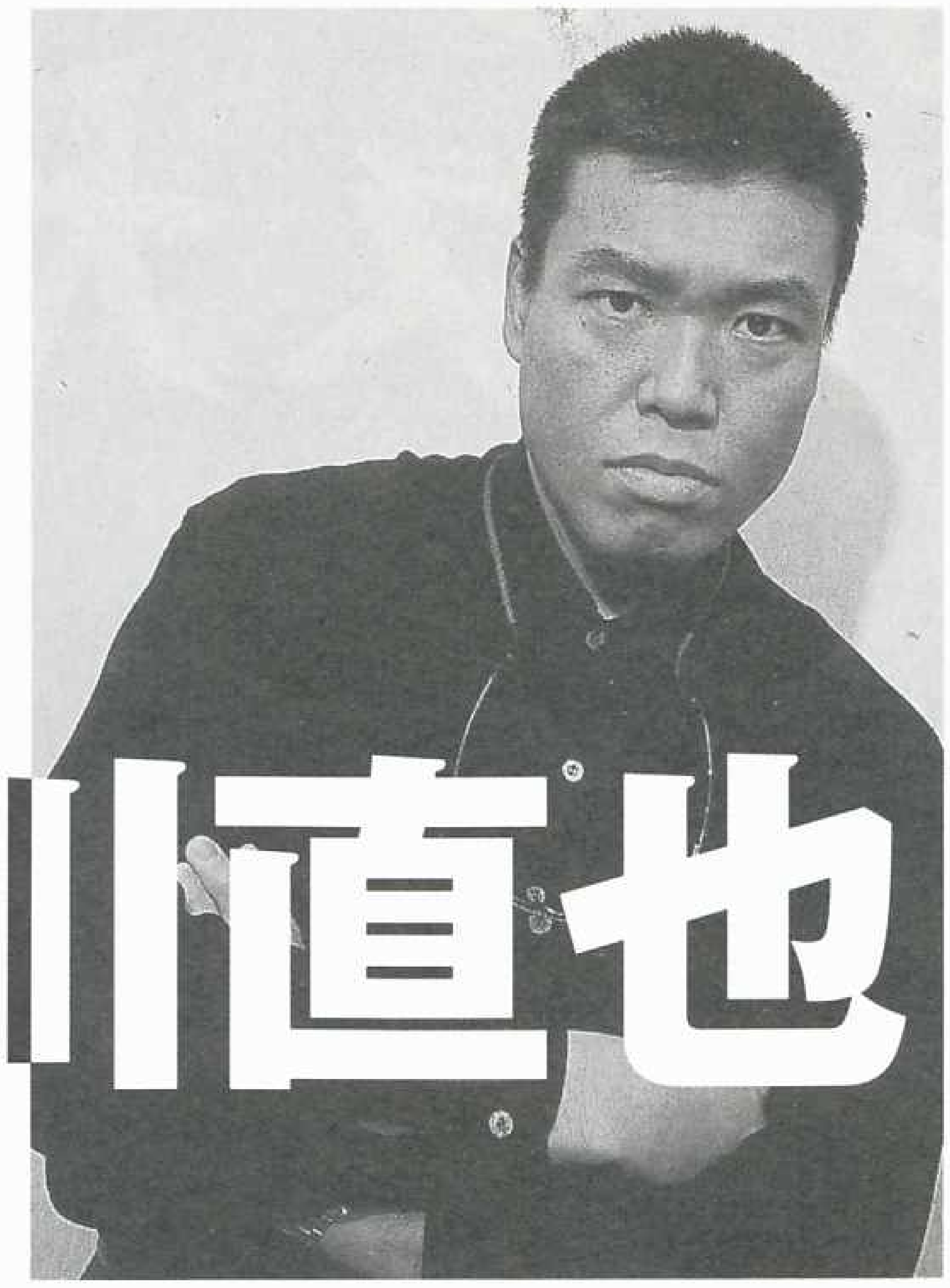


★レッスルスタッフ急募!渋谷・池袋両店勤務可能で週4日程度フルタイム働いて頂ける女性の方、直接履歴書を渋谷店までご送付下さい。

No.34 Main-Event

4

「なんでもいいから凄ェ試合」を突き刺した!!
小川直也



No.34 Semi-Final

21世紀プロレスが始まる! 28
I編集長

明るく楽しく激しい格闘技の波が来た!! 73
『DEEP』&『ReMix』大爆発!!

ドン底を見たパンクラスへの提言第3弾! 78
ハイブリットレスリングの敗北!!

次は、サクラバと闘いたいね。 80
ティト・オーティス

語ろうノア 121
ノア座談会

世紀をまたいだ3大決戦から見えたもの 145
『プロレス』ってなんだろう?

with 通訳のお姉さまでおくる 162
イゴール・ボブチャンチン

紙のプロレス RADICAL

2001
No.34
CONTENTS

世紀が変わっても、未来永劫に続くテーマ 1
プロレスとは何か?

MVP&ベストバウトダブル受賞記念 164
桜庭和志

編集部が問う。プロレスって何だ? 22
『プロレスは闘いだ!』座談会

「忘れもの」って何ですか? 12
髙田延彦

紙プロは単なる「つまらなかった」では終わらせません! 32
『PRIDE.12』で生じた6つの謎

『RADICAL』創刊4周年記念企画 42
紙のプロレス大賞

22ページぶち抜きリングス大特集! 89
リングスKOK グランドファイナル総力特集

21世紀は“猪木”への挑戦状だろ!!なっ!? 18
谷津嘉章

『猪木祭り』参戦の真意に迫る! 156
宇野薫

Scandal & Scoop

リアル人間爆弾発言、再び! 57
ミスター・ヒト

平成の仕掛け人、次なる仕掛けは…… 109
篠泰樹

シュート活字の第一人者が遂に『紙プロ』に登場 113
田中正志

Radical Fight

リング外情報通信 140
KAMIPURO WALKER

今月のおすすめ興行レポート 142
ダブルクロスレビュー

世紀をまたにかけて振り返るこの1月 170
紙の新聞

Columns

『BEST OF THE スーパーコラム』 65
花くまゆうさく／掟ポルシェ／堀越日出夫／イナズマ☆K／大坪ケムタ

吉田文豪人生劇場『書評の星座PART2』 134

『ザ・検証』 130
椎名基樹／せき詩郎

Other

ギョッ! 今月も、恒例のリニューアル読者ページ 137
DOKU者PAGE

絶対、マン俗!! 174
西川口流襲名記念読者プレゼント

RADICAL特製ピンナップ
豆腐パン
●
イゴール・ボブチャンチン
with 通訳のお姉さま

※真樹日佐夫先生の『無比人』は今回はお休みです。次回をお楽しみに。

本誌編集部員・水戸泉が緊急独白第2弾「ボク、パパになります」出産予定日8月17日――入籍日未定

Art Director
出田さん●San Ideta
Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
村松さん●San Muramatsu
マツくん●Kun Matsu
グッチー●Gutty
モリやん●Yan Mori
Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae
ZERO graphics
海老沢勇●Isao Ebisawa
古賀ゆきえ●Yukie Koga
Cover Model
小川直也
Cover Photo
平工幸雄

※「RADICALとは何か?「根源的」、「根本的」って意味。んなこた、どうでもいいんだよ!

2000年度

本誌読者&ライター陣&編集部が本音で選ぶ!!

1004人 30人 8人

紙のプロレス大賞

業界のしがらみやプロレス村の政治力とは
全く無縁のガチンコ投票、敢行!!



MVP、ベストマッチ、ベスト興行をサクが独占!!

ホントにあの試合が「年間最高試合」なの? という全国4000万の全フロレスファンが抱える素朴な疑問に答えるため、ついに 紙フロ が動いた 紙のフロレスRADICAL 創刊4周年にして初の夢企画! 紙フロ読者お馴染みライター陣、編集員……が選ぶ2000年度 紙のフロレス大賞 (やらせ、しがらみ一切なし)! フロレス村の政治力には一切左右されないガチンコ投票、ついに決着!!

【紙のプロレス大賞 ルール解説】

[MVP対象選手]マット界全般に渡って2000年に活躍した選手及び関係者

[ベストバウト対象試合]2000年元旦から大晦日までに行われたプロレス及び格闘技の試合全般

[ベスト興行対象イベント]2000年元旦から大晦日までに行われたプロレス及び格闘技の興行全般

●得点加算方法

読者票(1004人)……………………………1ポイント
ライター&カリスマ読者票(30人)……5ポイント
編集部票(8人)…………………………………5ポイント

今年は誰が生き残るか
2000年に狂い咲いた徒花たち



新日本のドン!?

8th 藤波辰爾

選手としてより新日本最高権力者である社長としての活躍（？）が目立ったこの一年。『東スポ』を眺めながら、驚きそして時には苦悶の表情で「許さん！」など、読者を不安＆ネガティブな気分にさせる藤波語録にファンは酔った。



蛇年の今年もブレイク続行!?

12th ポイズン澤田JULIE

インディー界では谷津、ザンディグに続き驚愕の12位にランクされたのがポイズン。キャラクターを変え心身共に"蛇界転生"ポイズン澤田JULIEに成りきり大ブレイク。インディー界では第二のポイズンを夢見るレスラーが急増中。



ミセス・ババ狂い咲く!

23th 元子夫人

'00年マット界最大のニュースの一つである全日本の選手大量離脱後、積極的にマスコミに露出し（手元のゴージャスな装飾品に注目！）天龍全日復帰、新日本との夢（？）の対抗戦実現などビッグサプライズを提供し続ける未亡人プロモーター。



相撲幻想が証明されるのか?

23th 大刀光

本誌インタビューでの「ガチンコなら負けない」発言が引き金となり、『PRIDE GP』に出場が決定、その後も引く手あまたで総合そしてプロレスのリングからオファーを受け続ける大刀光。タチバブルはどこまで続くのか！　どすこ～い。



SBBが是非見たい!

47th 桜庭あつこ

グラビアアイドル（Gカップ）の突然の格闘技挑戦。試合（ｖｓコバチノバ・タチアナ）には、敗れたものの腕が普通なら曲がらない方にひん曲がってもタップしないなど、単なる売名行為ではなかったことを立証した。

本誌読者&ライター&編集部が本音で選ぶ!!



桜庭和志

471 POINT

やはりというか、ぶっちぎりのトップでＭＶＰの栄冠を獲得したサク！　その活躍振りは説明の必要なし。グレイシー幻想の火付け役ホイスを筆頭にヘンゾ、ハイアンをも下しグレイシーハンターの名をほしいままにしたこの一年、一般マスコミへの露出も高く、一躍格闘技界を飛び越えスポーツ界のビッグネームになった。

2nd PRIZE



小川直也

40 POINT

'00年の試合数は僅かに６試合。しかし、出場した全ての試合で残したインパクトは、ファンの期待値を遥かに凌ぎ堂々２位！　入場から退場までの殺伐としたオーちゃんワールドに21世紀のプロレスの答えがある！

3rd PRIZE



アントニオ猪木

26 POINT

現役選手の馬鹿やろーッ！　と、ある時は"『PRIDE』プロデューサー"、そしてある時は"詩人"として大活躍し、マット界の主役であり続けた猪木さん。大晦日もしっかり百八つビンタで20世紀を締め括ってくれた。

4th PRIZE

谷津嘉章



24 POINT

荒武者健在！　44歳の"凄いヤツ"のＶＴ挑戦が絶大なる評価を受け、票を集めた。グッドリッジに殴られても殴られても、最後まで膝をつかなかった姿に"真のプロレスラー"の姿を見たファンも多かった。今年も行け。オリャ！

ザンディグ

5th PRIZE

23 POINT



あんた誰？　一部ライター陣の絶大なる指示をうけ堂々の５位入賞と紙のプロレス大賞最優秀外国人選手賞を受賞したザンディグ。『ＣＺＷ』のプレジデントは、「Ｃ1000タケダ」のＣＭ出演が決定するなどリング外でも大忙しだ。

6	田村潔司	21
6	藤田和之	21
8	藤波辰爾	19
9	秋山準	18
10	川田利明	17
11	イゴール・ボブチャンチン	16
12	ポイズン澤田JULIE	14
13	髙田延彦	11
13	蝶野正洋	11
13	橋本真也	11
13	前田日明	11
13	三沢光晴	11
18	船木誠勝	10
19	エンセン井上	8
19	CIMA	8
19	天龍源一郎	8
19	村上一成	8
23	アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ	7
23	アンドレイ・コピィロフ	7
23	HHH	7
23	佐野なおき	7
23	小路　晃	7
23	大刀光	7
23	ダン・ヘンダーソン	7
23	長州　力	7
23	馬場元子	7
23	渕正信	7
23	ブラック・キャット	7
23	松波健四郎	7
23	薮下めぐみ	7
36	アレキサンダー・カレリン	6
36	石澤常光	6
36	ガイ・メッツアー	6
39	カート・アングル	5
39	ゴング金澤（GK）	5
39	桜井"マッハ"速人	5
39	佐々木健介	5
39	ジ・アンダーテーカー	5
39	タノムサク鳥羽	5
39	山本聖子	5
39	ロッキー・メイビア	5
47	宇野薫	4
47	ギルバート・アイブル	4
47	桜庭あつこ	4
47	春一番	4

総評▶ '00年の大活躍振りからして桜庭のＭＶＰは順当として、上位を総合系ファイターが占めた。そんな中、異彩を放つのがエンターテインメント路線を突き進む『DDT』のポイズンとハードコアデスマッチで鮮血の地獄絵巻を描いている『大日本』のザンディグ！　極端な方向に針を振りきった選手（団体）が評価を受けたことに世紀末マット界の世相がよく現れている。ガチンコ、アルグル、ワークなどのプロレス界でタブーとされてきた言葉が一般的に使われるようになった今日、ファンは純プロレスに明確な方向性を求めている現れだろう。迷わず行けよ。行けばわかるさ。



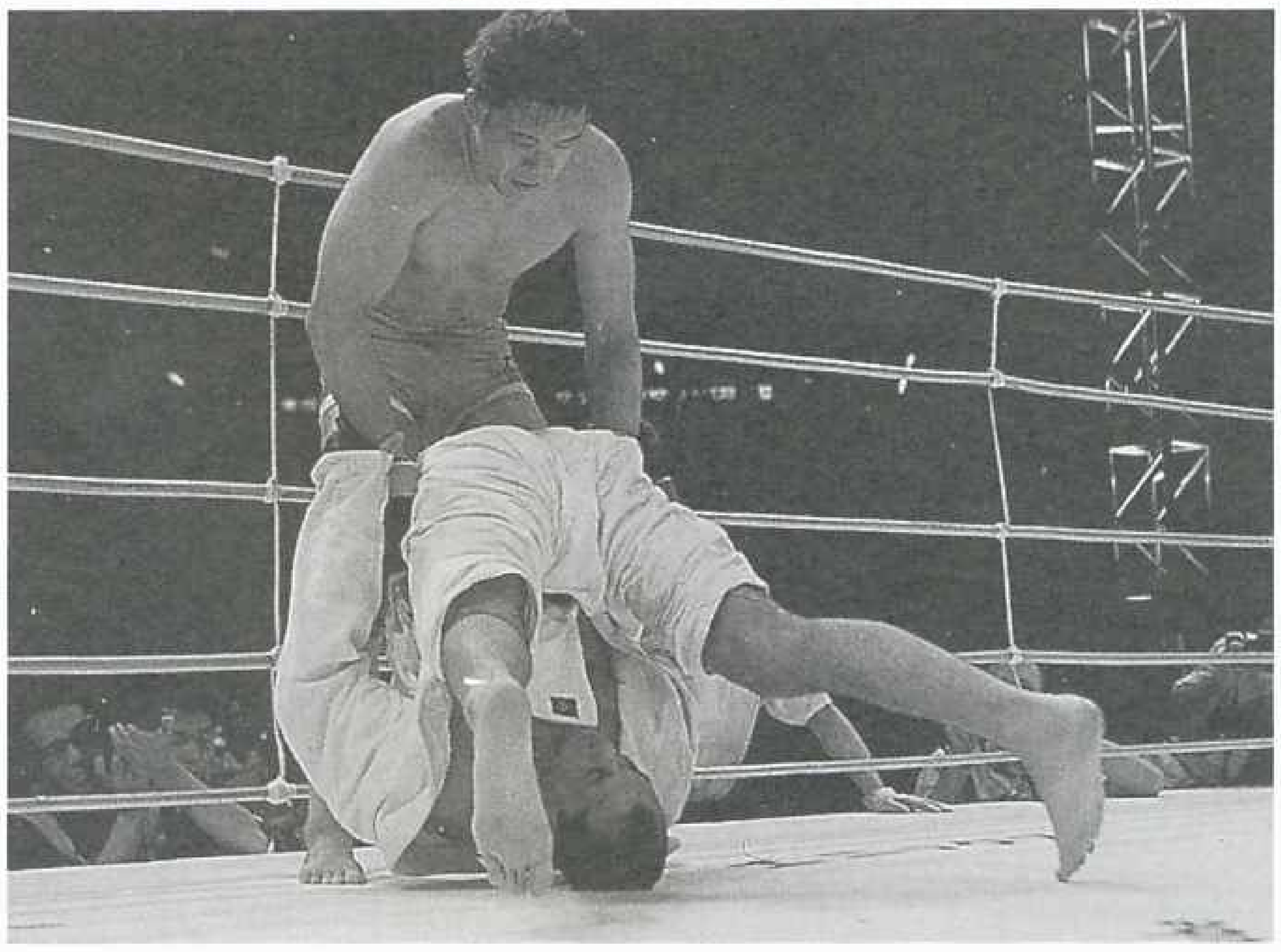
6	藪下めぐみ × グンダレンコ・スベトラーナ (12/5・日本武道館)	24
7	谷津嘉章 × ゲーリー・グッドリッジ (10/31・大阪城ホール)	23
7	田村潔司 × ヘンゾ・グレイシー (2/26・日本武道館)	23
7	藤田和之 × マーク・ケアー (5/1・東京ドーム)	23
7	小川直也 × 橋本真也 (4/7・東京ドーム)	23
11	エンセン井上 × イゴール・ボブチャンチン (8/27・西武ドーム)	22
12	桜庭和志 × ヘンゾ・グレイシー (8/27・西武ドーム)	21
12	橋本真也 × 藤波辰爾 (10/9・東京ドーム)	21
14	西村修 vs 天山広吉 (8/12・両国国技館)	20
15	小川直也 × 安田忠夫 (12/31・大阪ドーム)	19
16	アントニオ猪木 × ヘンゾ・グレイシー (12/31・大阪ドーム)	13
17	田村潔司 × アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ (10/9・日本武道館)	8
18	CIMA × 佐野なおき (4/9・両国国技館)	7
18	橋本真也 × 大森隆男 (12/23・有明コロシアム)	7
18	大刀光 × ゲーリー・グットリッジ (1/30・東京ドーム)	7
21	ヒカルド・アローナ × ジュレミー・ホーン (8/23・大阪府立体育館)	6
21	石澤常光 × ハイアン・グレイシー (8/27・西武ドーム)	6
21	村浜武洋 × タノムサク鳥羽 (9/2・川崎体育館)	6
21	佐藤ルミナ × 宇野薫 (12/17・NKホール)	6
25	ヴァンダレイ・シウバ × ガイ・メッツァー PRIDE.10 (8/27・西武ドーム)	5
25	マリオ・スペーヒー × 金原弘光 (5/26・東京ドーム)	5
25	宇野&小路組 × サスケ&松井組 (12/31・大阪ドーム)	5
25	三沢&田上組 × 小橋&秋山組 (8/5・ディファ有明)	5
25	アレクサンダー大塚 × イゴール・ボブチャンチン (1/30・東京ドーム)	5

本誌読者&ライター&編集部が本音で選ぶ!!

紙のプロレス大賞 ベストバウト

桜庭和志 ×ホイス・グレイシー

5/1・東京ドーム

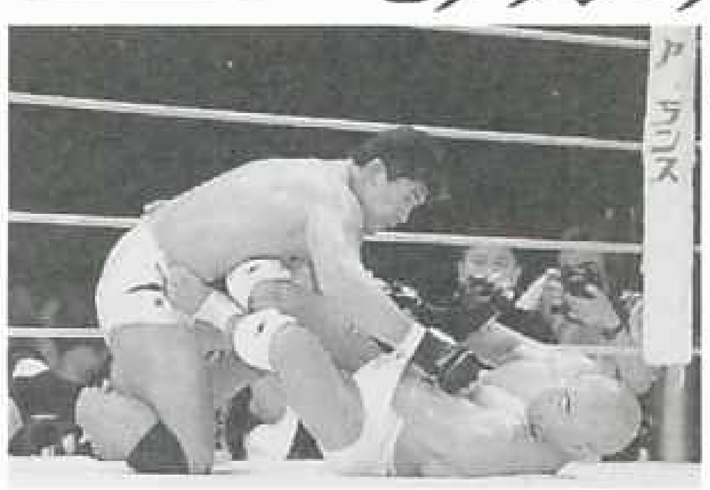


419 POINT

紙のプロレス大賞ベストバウト部門は、桜庭 × ホイス戦に決定！政治的なしがらみを無視すると、2000年はこうなるでしょう、普通。一瞬たりとも気の抜けない90分間に及ぶ攻防は、まさにプロレス史に残る金字塔。グレイシー神話の幕を開けた張本人を見事に撃破したサク、残るは　ヒクソンの首一つ！

3rd PRIZE 船木誠勝 × ヒクソン・グレイシー

5/26・東京ドーム



31 POINT

船木誠勝が15年間の格闘技人生最後の相手に選んだのが“400戦以上無敗”のヒクソン・グレイシー。最後はヒクソンに絞殺されるも、打撃であと一歩のところまで追い込むなどあわやと思わせるシーンもあった。今年最もショッキングな負け様であろう。

2nd PRIZE 小川直也 × 佐竹雅昭

10/31・大阪城ホール



78 POINT

柔道vs空手と銘打たれたこの一戦。久々の試合にも拘わらず入場から殺気立つ小川の“いっちゃった目”に会場もいきなり沸点越え！　元K－1戦士の佐竹の打撃に互角以上に付き合った上での絞殺刑に、改めて小川の潜在能力の高さを証明した。

総評▶ 「当たり前過ぎて面白くないけど、やっぱり2000年は桜庭 × ホイスでしょ」とみんなが口々に言った結果、独走でのタイトル獲得。その他上位のほとんだがノールール系の試合が占めるという純プロレスには厳しい結果となった。特筆すべきは、女性の試合で唯一ベスト10入りした藪下 × グンダレンコ。体重差100キロを見事に覆しての激勝に、観客数は違えど桜庭 × ホイス戦に勝るとも劣らぬ盛り上がりを見せた。

5th PRIZE 川田利明 × 佐々木健介

10/9・東京ドーム



25 POINT

なぜだ？　東京プロレス主催の『プロレス大賞』では、年間最高試合賞を受賞した世紀の一戦も本誌では、（トップと大差の）5位にとどまる。川田と健介のプライド（？）を賭けたド突き合いも『紙プロ』読者には届かなかったようだ。

4th PRIZE 桜井速人 × フランク・トリッグ

12/17・NKホール



30 POINT

取材申請をすっかり忘れ、本誌が見逃した世紀の一戦が堂々のランクイン！　クラス最強の呼び声高いトリッグの打撃に苦しみながら、劇的なマッハの逆転KO勝利に観客総立ちの大熱狂（某格闘雑誌参照）！　次なる野生児の獲物はヒクソンか？

本誌読者&ライター&編集部が本音で選ぶ!!

紙のプロレス大賞 ベスト興行

PRIDE GP 決勝大会

（5/1・東京ドーム）

157 POINT

栄えあるベスト興行は、『PRIDE GP』決勝大会。興行全体の時間が長すぎたために不満の声も聞かれたが、試合が面白ければそんなことノー問題。ベストバウトに選出された桜庭×ホイス戦に藤田が“霊長類最強の男”を真っ向勝負で下した藤田 × ケアー戦と一夜にして二つの伝説を確認できた贅沢なことこの上ない大会。（DSE森下社長の表彰式はP167）

2	PRIDE.10 (8/27・西武ドーム)	95
3	INOKI BON-BA-YE (12/31・大阪ドーム)	76
4	PRIDE.11 (10/31・大阪城ホール)	61
5	R.E.A.D 2000 SHOOTO (12/17・NKホール)	50
6	ReMix (12/5・日本武道館)	47
7	ノア (8/5&6 旗揚げ2連戦・ディファ有明)	44
8	ノア (12/23・有明コロシアム)	43
9	RINGS KOK Grand Final (2/26・日本武道館)	42
10	コロシアム2000 (5/26・東京ドーム)	41

総評▶ ベスト興行に選出された『PRIDE GP』を筆頭に、『PRIDE.10&11』、修斗（12・17）そして『ReMix』とここでも、総合系の大会が上位を独占。共通して言えることは、面白くクオリティーの高い試合を数多く提供した大会だといいうことだ。そんな中、本誌ライター陣の絶大なる支持を受け健闘した『INOKI BON-BA-YE』も堂々の第3位！

ボクらの紙のプロレス大賞

本誌豪華ライター陣＆編集部員の

本誌豪華ライター陣＆カリスマ読者（ゆかりの人）50音順

アンケート項目

①最も活躍したと思う選手（MVP）
②最も印象に残った試合（ベストバウト）
③最も素晴らしかった大会（ベスト興行）
④個人的に賞をあげた選手とその賞名（ボクのわたしのMVP）

No.01

若手超人気スタイリスト

伊賀大介

23歳、O型。職業、スタイリスト。プロレスを観るために仕事をしている。

①桜庭和志
②桜庭和志 × ホイス・グレイシー（5・1東京ドーム）
③PRIDE.10（8・27西武ドーム）
④20世紀最後にありがとう賞➡アントニオ猪木選手

【総括】つーか、何でもいいから、凄えことやってくれ！って言って、やってくれた桜庭、小川、猪木さん、etc……に感謝します。もっとデカい夢を想い抱いているオレ、そして、そんな夢を越えてくれる選手がもっと出ることを期待します。

No.02

音楽ライター

イナズマ☆K

音楽ライター、インターネットラジオDJ、スペースシャワーのライヴ番組の構成作家などやってます。でも貧乏です。年末のクラブDJ中に骨折し年明けギプスっ娘。ムチャでも何でもやったりますよー、トホホ。

①ザンディグ
②桜井速人 × フランク・トリッグ（12・17 NKホール）
③大日本プロレス（8・6秋葉原駅昭和通り口広場）
④狂い犬大賞➡ハイアン・グレイシー

【総括】海外のインディ団体の奥深さを日本にしらしめ、ナゾの外人軍団の面白さを久々に振りまいたザンディグ率いる『CZW』。そのアッパーぶりと大日本が大スウィング。そして『CZW』節全開の秋葉原大炎上。これがファンにも賛否両論。しかーし、あの場でしか味わえないカオスぶりは一期一会的な衝撃で全然アリでしょ。さて正反対のトコで、マッハの爆発、カッコ良さにシビれた。ハイアンの石沢戦も鮮烈デビューっぽくバッチリ狂い咲き犬！

No.03

活字プロレス創始者

井上義啓

昭和9年7月20日生。新大阪新聞社を経て、同42年『週刊ファイト』に移籍。同49年編集長。平成5年退社。現在フリー。著書に「猪木は死ぬか!!」「猪木を信じよ」「やさぐれ必殺拳」「新オフ・ザ・リング」「不在証明」など。

①桜庭和志
②桜庭和志 × ホイス・グレイシー（5・1東京ドーム）
③INOKI BOM・BA・YE（12・31大阪ドーム）
④話題賞➡橋本真也

【総括】①と②について＝新しい時代を感覚させる試合だったこと。技術的に納得できるものが随所に散見できたこと。勝負論と観客論を混成して充足させていたこと。③について＝試合内容ではなく、21世紀を迎える瞬間に猪木が居る場所を享受できたこと。格闘技の萌芽が垣間見られたこと。④について＝いいにつけ悪いにつけ、プロレスは話題であり、そこから、全ての功罪が始まる。この意味にファンへの影響大を見た。

No.04

AVライター

大坪ケムタ

本業はAVライター。デラべっぴんとかオレンジ通信とか書いてる人。1月は司書房のハメ撮りAV本を作ったり、ロフトプラスワンのスカトロイベントに出たり。最近の感動は神野龍太郎氏（古くは「人間発電所」などの監督）に会えたコト。

①ザンディグ
②近藤有己×アレクサンドレ・カフェ・ダンテス（9・22ニューオリンズ市フロントレイクアリーナ）
③大日本プロレス（7・2後楽園ホール）
④功労賞➡浅野社長（IWAジャパン）

【総括】昨年はアングル・ワーク・ガチといった言葉がプロレスファンの中で一般化し、いかな試合も「理屈ヌキ」で見ることが難しくなった、という意味ではダルい年でしたな。メジャー交流や打倒グレイシーてな「テーマの大きさ」の煽りは飽きました、テーマ無しでもスゲェ！ってのが見たいのですよ。その中で大日本の試合十興行のグルーヴ感ってのはスバラシイと思うんだけど。功労賞はあの川崎球場から幾星霜、ノアまで引っ張り出して闘い続ける社長に敬意を表し。

No.05

セクシー女優

岡元あつこ

今年もいろんな方面で私らしく頑張っていこうと思ってます。公式HPでは格闘技談義からお仕事のこと、そして知られざる私の日常のことまで（ムフ）、みんなで和気あいあい！どうぞ遊びにきてくださいね！ http://www.atsuko.to

①イゴール・ボブチャンチン
②藤田和之 × マーク・ケアー（5・1東京ドーム）
③PRIDE GP 決勝大会（5・1東京ドーム）
④亀の甲より年の功賞➡平直行

【総括】①は、恐るべき強さと謙虚な態度が魅力のボブチャンチンに決定。良しにつけ悪しきにつけ『PRIDE』一色だった2000年。私の感じるところ「リベンジ」「下剋上」の気配が見え出した興味深い年であったように思う。ボブチャンチンの静かなる圧倒的強さに感服し、藤田の完全なる勝利にマークファンであった私も泣いた。そして今後、平のような格闘家人生を全うしてくれる素晴らしい選手が誕生することを願ってやまない。一言いわせて♡ 格闘家たるもの、『吐いたツバ呑むなー!!』

No.06

男道コーチ屋稼業

掟ポルシェ（ロマンポルシェ）

オリジナル・ラブやバックドロップボムなどとも共演し、順調に前座の力道山街道バク進中！

①藤波辰爾
②ジャンボ鶴田 × 藤波辰爾（週刊プレーボーイ誌上のゲームで実現した幻の一戦）
③仕事で行けなかった『猪木祭り』！
④腕の一本くれてやるで賞➡桜庭あつこ

【総括】今年は、巳年！ 藤波辰巳の巳ということで、やっぱり今年もドラゴンの年!! 爾とかいう極端に読めない漢字もヘビという意味の象形文字であるんだろうからして（根拠なし）、当然向こう10年ぐらいドラゴンの年が続くこと間違いなし！ 橋本にボコボコにされ鼻血まみれのドラゴンも愛おしいが、やはりここは積年の想いをゲームでムリヤリ果たさせた『週プレ』企画に軍配をあげたい。今年はプロレスサミットも実現、いよいよ本当に藤波のやることがなくなってしまうだろう。次の新日社長、小鉄がやればいいのにと面白半分に思ってみました。

No.07

漫画家

加藤賢崇

62年生。漫画家。復刻「ガロ」にいぬちゃん連載開始！

①藤田和之
②桜庭和志 × ホイス・グレイシー（5・1東京ドーム）
③ノア（8・5旗揚げ2連戦・ディファ有明）
④ウソツキ賞➡格闘技通信

【総括】①1・4新日、1・30プライドと、1ヶ月の間に東京ドームに2回出た業界初のレスラー。②まるで映画のようだった。松井、豊永、高田、ホリオン、エリオと助演男優陣もみな名演。③駐車場内でのクローズドサーキット。有料でいいから他団体もやるべき。④「初期UFCの技術では現在のバーリトゥードには通用しない」が格通のログセだったが、5年ぶりバーリトゥードのホイスもケン・シャムロックもやっぱり強かった。

No.08

ATAQUE編集長

川端正吾

ATAQUE編集長。ATAQUEの2号目が出ました。今回はペーパークラフトオクタゴン付きのUFC特集です。トントンバーリトゥード、是非一度お試しあれ。HMV、青山ブックセンターなどで発売中です。

①桜井速人
②桜井速人 × フランク・トリッグ（12・17 NKホール）
③R.E.A.D 2000 SHOOTO（12・17 NKホール）
K—1（11・1後楽園ホール）
④なし

【総括】クラス最強と言われていたトリッグも倒しちゃいましたね。一体あと誰がマッハに勝てるんでしょう。バット・ミレティッチ？ マット・ヒューズ？ ハウフ・グレイシー？、うーん、どれも物足りないかも。「マッハの前にマッハなし、マッハの後にマッハなし」。この不世出の天才バーリトゥーダーがどこまで強くなるのか楽しみです！

No.09

闘魂イラストレーター

五木田智央

69年生。絵描き。作品集『ランジェリーレスリング』（リトルモア刊）絶賛発売中。最近20世紀最後の仕事として『猪木祭り』のパンフに乱入し御満悦のご様子。がんばれ谷津嘉章！

❶そりゃ谷津嘉章だろうが！
❷そんなの谷津嘉章×ゲーリー・グッドリッジに決まってんだろ！（10・31大阪城ホール）
❸しつこいなあ！谷津嘉章が出場したPRIDE.11しかないだろうが！（10・31大阪城ホール）
❹だから、谷津嘉章だよ！ 谷津嘉章！ 他に誰がいる？ いねえよ！ 当然、谷津嘉章に最優秀選手賞MVPだろうが！ あったりめえだろ！ くだらない質問すんな！

【総括】総括？ 知るかそんなの！ とにかく全部谷津だよ！ 谷津！ 44歳の谷津嘉章だよ！ 谷津にもいろんな事情っちゅうもんがあったんだろうが44歳でルールの違う『PRIDE』のリングに上がるか普通？ その一点だけで最大限の評価をしてあげるべきだろうが！ その壮絶な覚悟は横尾忠則がグラフィックデザイナーから画家に転身した時の覚悟なんかより100倍凄まじかったと俺は思うぞ！（なぜだ！）まあ、試合は思いっきり負けちまったけどあんなにワクワクしたのは最近なかったんだよ、俺は！ よ〜するにそんだけ過剰に期待してたってことなんだよ〜ッ！ わかるか畜生！

No.10

本誌『ザ・検証』絶賛連載中

椎名基樹

猪木祭りはTVで見ます。一番楽しみなのは、コールマン＆ケアーのタッグ！ かっこいい〜！ ベイダー＆ビガロ以来のかっこよさ！

❶桜庭和志
❷桜井速人×フランク・トリッグ（12・17NKホール）
❸PRIDE.10（8・27西武ドーム）
❹ベストKO賞⬇村濱天晴

【総括】俺の中では最近一番印象に残った試合は桜庭vsホイラーで、「ベストバウトは？」と聞かれると、そう答えたくなるのだが、多分2000年ではないよね。マッハ×トリッグは本当シビれた。強すぎて名勝負がなかったマッハだけど、去年のバリジャパと今年と、スゲー試合を2試合獲得。やっぱ名勝負が選手を大きくすると思います。

No.11

本誌『スーパーコラム』扉イラスト連載中

ジェリー鵜飼

正月ボケでなかなか仕事モードに入れない毎日。このままダラダラと暮らしたい。さて、ヒクソンは今年はいったい誰と試合するのでしょうか？ それが楽しみです。

❶ロッキー・メイビア
❷船木誠勝×ヒクソン・グレイシー（5・26東京ドーム）

❸PRIDE.10（8・27西武ドーム）
❹殊勲賞⬇谷津嘉章

【総括】昨年末のアメリカ大統領選挙にて、ブッシュ、ゴアの両陣営で演説をしたロックは、もはやアメリカの顔だ。ヒクソン幻想が薄まる中、きっちり船木幻想をかき消したヒクソンはやっぱり強かったです。野外なのにドーム！ といった会場の雰囲気もよかったです。最初のダンスはいただけない。谷津選手の試合は本気で応援＆感動しました。

No.12

WWFをこよなく愛する漫画家

杉作J太郎

なし。きわめて健康！

❶ジ・アンダーテーカー
❷黒田哲広×井上京子（7・28後楽園ホール・周富徳プレゼンツクッキングマッチ）
❸WWFサバイバーシリーズ
❹黒田哲広（FMW）

【総括】別に説明すべきことはなにもなし！ 見たまんま。てゆーか説明してる時間がないんだね。年賀状もまだ書いてないし。夏までには出したいね。ま、俺は相変わらずテーカー、オースチン、ビンスだね。ハンター、カート、黒哲、雁ちゃんもすごかった。

No.13

本誌『ザ・検証』絶賛連載中

せき詩郎

維震復活を願う私は、初詣で絵馬を買いお願い事を書いてきました。モーニング娘の加護と結婚できますように、と。

❶佐々木健介
❷後藤が秒殺するかと思ったらされちゃったやつ（9・16愛知県体育館）
❸ユーロ2000（フランス）
❹彰俊復活

【総括】ファミリー4コマ漫画で大笑いする健介、ビーチでグ



©中川画伯

ラマーな美女に見とれてしまい北斗につねられる健介、単3電池を頼まれたのに間違って単4電池を買ってくる健介、よーいドンのピストルの音にびっくりしてスタートが完全に出遅れる健介、タワーレコードで試聴中に目を閉じギターを弾くマネをする健介……などなど、日常の何気ない1コマもそれが健介だと格段に面白くなってしまいます。健介恐るべし。そういうわけで彰俊復活が嬉しかったです。

No.14

某国民的写真週刊誌副編集長

仙波久幸（代筆S氏）

某国民的写真週刊誌副編集長。K談社きっての闘魂編集者。猪木に対するその歪んだ愛情は現在も変わらない。一部の猪木信者からはカリスマ的ヒールとして認知されている。ちなみに、嫁はんはえらいべっぴんさん。

❶アントニオ猪木
❷小川直也×佐竹雅昭（10・31大阪城ホール）
❸INOKI・BOM・BA・YE（12・31大阪ドーム）
❹F●●●Y特別賞⬇アントニオ猪木

【総括】ホントのところ自分はK社の一社員なので、このようなことはできないのですが…、いや、別にお金をもらうとかそんなことじゃなくて、立場上できないと…、だから、そちらの会社は前も雑誌を勝手に掲載して。そうだよ！『猪木本』の時だって、あれじゃー騙しでしょー！ まあ、今さらなんだけど、…。『闘魂お守り』買ったよ。帽子とかTシャツも買ったけど、ちょっと高くない？

No.15

落武者

ターザン山本

我が輩とはなんぞや。野良猫にももとる存在なり。だが自分の食い扶持だけは稼ぐ。しかし、借金ははかり知れず。今日もまたサラ金から催促の電話あり。こうしてますますタフになり候。命あるだけでましと思う。

❶ゴング金澤（GK）
❷アントニオ猪木×タッキー（3・11横浜アリーナ）
❸ReMix（12・5日本武道館）
❹アングル大笑⬇橋本真也

【総括】〝GK〟には、信念がある。そこがたまらなく美しい。信念と自信は今、最大の美徳だからだ。猪木とタッキーはプロレスの原型を見せつけた。あれができない者がどれだけ多いか？ プロレス亡国の時代である。『ReMix』は、すべての面で処女の匂いがプンプンしていた。私は、あれを限りなく愛す。橋本真也は完全なる〝負け組〟から這い上がった男。人生は所詮ギャグだとしたら、あのアングルはまさに〝アングル大笑〟である！

No.16

『PRIDE.0』初代殿堂娘

武田いづみ

80年生（20歳）。学生、女子。プロレス歴と紙プロ歴は、ほぼ一緒♡ 今年の初夢は、「温泉街で、ぬるま湯を探す」夢でした♡ 頑張りま〜す♡

❶桜庭和志
❷橋本真也×藤波辰爾（10・9東京ドーム）

❸PRIDE GP決勝大会（5・1東京ドーム）

【総括】ひねりも何もない回答で心配ですが、正直に答えてみました。まず❶、おもしろいものを観るために試合を観てるんだなということを思い出させてもらいました。❷は、破壊王と折り鶴兄弟の感動物語によって、生まれて初めて父の涙を見てしまったので…、ちょっぴり複雑でした。❸は、意味とか意義なんか抜きにして、単純に贅沢だったので。贅沢、だ〜いスキ♡

No.17

シュート活字第一人者

田中正志

プロレス・格闘技ジャーナリスト。著書に「プロレス・格闘技、縦横無尽」「開戦！ プロレス・シュート宣言」など。

❶田村潔司
❷船木誠勝×ヒクソン・グレイシー（5・26東京ドーム）
❸GAEA（9・15横浜文化体育館）
❹プロレスの殿堂「神様」賞⬇ヴォルク・ハン

【総括】総合格闘技の2・26事件ヘンゾに勝った田村。最初にやった田村の方が桜庭より偉いのだ。アイブル戦でUWFの流れを汲む選手権がシュートとなる世紀末の奇跡。ノゲイラ戦の感動。金を賭けて予想が外れた船木も神。フライや前田がやれなかったことを実現したハンも神。ボブチャンチンに挑まれた高田も神。面白かったのはGAEAと闘龍門。スマートのブック裏読みをも外してみせた若手全勝の興行に真髄を見た。神取最強神話で十年たった女子プロの救世主は『ReMix』の藪下。

No.18

チャンピオン東京店カリスマ店長

団長

あけましておめでとうございます。団長（店長）です。年末に椎間板ヘルニアを患い、年賀状を頂いた関係者様にご返事出せなくてすいません。この場を借りて、新年のご挨拶と代えさせていただきます。今年もよろしくお願いします。

❶桜庭和志
❷桜庭和志×ホイス・グレイシー（5・1東京ドーム）
❸PRIDE GP決勝大会（5・1東京ドーム）
❹最優秀格闘グッズ大賞⬇桜庭和志

【総括】2000年は、何から何まで桜庭選手で決まり！ 今まで日本人では、誰もなし得なかったグレイシーファミリーを次々と倒した事もさる事ながら、ホイス・グレイシー戦の入場シーンは、各TV番組でも真似をされたり、一般のメディアにも取り上げられたりして、世間のプロ格に対する暗いイメージが、変わったと思います。その為か、今年は桜庭選手のTシャツやフィギュアなどのグッズが、飛ぶように売れて助かりました。ありがとう桜庭選手！

No.19

ライター

中田潤

59年、岡山県生まれ。本誌読者にはジャンボ鶴田信者としておなじみかもしれないが、現在は川田から派生して、ゴッチイズムに思いを馳せる日々。

❶秋山準

❷川田&天龍組×ハンセン&ケア組（7・23日本武道館）
❸ノア（12・23有明コロシアム）
❹技能賞➡川田利明

【総括】川田は細かく見てるとテクニックを持ったレスラーだと思いましたね。UWFあり、クラシックなプロレスあり、全日的なものもあり、プロレス50年間の歴史を重層的に積み重ねたレスラーでしょう。藤原喜明にタックルを仕掛けて（しかもあっさり取って）、UWF幻想に答えを出そうとしてるとこなんかは面白かった。（談）

No.20

ライター
長谷川博一

2001年は、まず1月に新日・永島勝司氏の本『プロレスの創り方』。2月に秋山準のインタビュー本を出版します（いずれもアミューズ・ブックス）。単行本というフィールドで、ジョブでもワークでもない、できるだけ痛快な〝仕事〟をしますんで、よろしくどうぞ。自分の書いた本は面白いと思う。とプチ自画自賛。押忍！

❶桜庭和志
❷控え室での小橋、田上、大森等の乱闘（10・8横浜文体）
❸I NOKI BOM・BA・YE（12・31大阪ドーム）
❹個人的にMVP➡三沢光晴
ベスト・レスリング・ヘッド大賞➡秋山準

【総括】21世紀の大変化なんて別にないじゃない、と元来、天の邪鬼な自分はタカを括っていた。しかし、韓国&北朝鮮の南北統一会談。そしてノア旗揚げと旗揚げ戦の興奮。その2つを見て、もしかしたら時代は変わるかもしれない、と感じたのだった。とどめは『猪木ボンバイエ』か。プロレスの未来を予測させる見所が満載。残念だったのはオーちゃん。日本のビンス＝猪木さんが強権発動しない限り試合が生まれないという現状は、何とも片腹いたい。早く独立してくれ〜い、と伝えたい。今年も注目しているけど。

No.21

本誌『リングの汁』連載中の柔術家
花くまゆうさく

8年分の汁をまとめた単行本「リングの汁」を今月に発売。

❶桜庭和志
❷桜井速人×フランク・トリッグ（12・17NKホール）
❸R.E.A.D 2000 SHOOTO（12・17NKホール）
❹みんな喜んでるで賞➡矢野卓見

【総括】真実目に考えると❶は、やっぱ桜庭。猪木もきっと嫉妬してんだろうなと思わせてしまう。プロレス大賞もやっとMVPあげたが一年遅いよ。❷はマジで涙腺ゆるんだ。❸は『ReMix』もよかったけどね。❹、1月のアブダビ予選から本選、コンテンターズ2連勝、海外でも試合と去年は試合しまくりで、しかもすべての試合においてインパクトを残した。昔からみんなに「あんな強いんだから表に出てほしいな」と思われていたが、ついに去年ブレイクしてうれしい！　日本だけでなく海外にも名が広まったのでなおうれしい。王子、矢野さんを今年もアブダビに招待しろ！　ついでに判定もなくせ。

No.22

元原タコヤキ君
原一博

原タコヤキ君（元『紙プロ』編集部および現人気者）。大阪の番組制作会社勤務。格闘技に関係あるなしに関わらず、大阪発でおもろいこと&銭儲けをしたいなあ。あと、どんなバカでも大化けする可能性があるので、今年も若い芽を温かく見守ります。な、ノブ。

❶桜庭和志
❷桜庭和志×ホイス・グレイシー（5・1東京ドーム）
❸PRIDE GP決勝大会（5・1東京ドーム）
❹ベストグッズ賞➡井上きびだんご（仲良しだから）

【総括】桜庭がMVPというのは誰も異論ないでしょう。ただ、桜庭という稀代のプレイヤーをもってしても、いわゆる〝純プロレス〟というシステムの中では「こんなもんか」程度の試合になってしまうのかと、年末の『INOKI BON・BA・YE』で感じてしもたなあ。最近のプロレスが面白くないのが、単に選手の資質や感性のせいだけやないとしたら、いよいよプロレス自体のあり方が問われてるのかなあと真面目なことを考えてしまいました。

No.23

燃える笑魂
春一番

66年8月13日生。A型。2001年の抱負「ロスに猪木さんに会いに行くぞーッ！」

❶桜庭和志
❷アントニオ猪木×ヘンゾ・グレイシー（12・31大阪ドーム）
❸INOKI BOM・BA・YE（12・31大阪ドーム）
❹なし

【総括】元気ですかーッ！　馬鹿ヤローッ！　2000年は、全日分裂、新日×全日、橋本解雇とまあまあ色々ありましたが、12・31『猪木祭り』で全てがぶっ飛びました。2001年は、是非、『猪木祭り』第2弾を東京ドームで開催してほしい。「猪木さん！　お願いします！」

No.24

電気グルーヴ
ピエール瀧

67年生。石野卓球と「人生」解散後、「電気グルーヴ」を結成。ヨーロッパ及び世界各国での評価も高く、その活動範囲は日本のみならず世界を視野に入れたものとなっている。1月31日『ドリルキングゴールデンヒッツVol.1』（アナログ）発売!!

❶桜庭和志
❷桜庭和志×ホイス・グレイシー（5・1東京ドーム）
❸なし
❹真っ白人間賞➡橋本真也×藤波辰爾戦の藤波辰爾

【総括】2000年はやはり桜庭でしょう。桜庭和志×ホイス・グレイシー戦を会場で観られなかったのが非常に残念。あとは、やはり藤波。TVで「あー!!　死んじゃうー」と思ったのは久々でした。来年もゲラゲラ笑わせて下さい。

No.25

有名人学歴墓掘り人
堀越日出夫

さっき（12・21午後1時頃）、メシを食いに行こうとしたら、またしてもケビン山崎さんとすれ違った自称プロストーカー。ここ2ヶ月で2回目の遭遇なんだけど、コワイから尾行できませんでした。

❶桜庭和志
❷桜庭和志×ホイス・グレイシー（5・1東京ドーム）
❸PRIDE GP決勝大会（5・1東京ドーム）
❹二枚舌で賞➡ドラゴン
新人賞➡ジャイアント落合。

【総括】❷は少なくとも健介×川田ではないですよ。ベタだけど、これしかないでしょ。そのまま1本の映画にしたいくらいの名勝負でしたね。時間的にもちょうどいいし。結局、『PRIDE』が席捲した1年でした。これを無視してるプロレス団体っていったい何なんだ？　「試合数が少ない」とか「出来事」とかって。そういう問題じゃないでしょ。ホントは意識してるくせにさー。好きなコに素直になれないでいる引きこもり男子みたいだ。

No.26

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

41年水戸市生。日本武道傳骨法創始師範。50年間に渡って命懸けで「喧嘩」を追求し、〝路上の完全拳法〟骨法を完成させる。本誌を始めとする格闘技評論、そして秘伝の骨法整体セミナーも大好評。

❶桜庭和志
❷桜庭和志×ホイス・グレイシー（5・1東京ドーム）
❸PRIDE GP決勝大会（5・1東京ドーム）
❹リアル・ファイター賞➡桜庭和志

【総括】格闘技、プロレス界を震撼させたグレイシー柔術に挑戦し、次々にその幻想を破った桜庭こそ、新時代の英雄らしからぬ真の英雄である。20世紀は幻想が現実を支配し指導した時代、21世紀は幻想と事実が分離し、幻想を必要としない時代である。力道山や猪木、馬場に代表される幻想の選手から、リアルな実力のみで評価された桜庭こそ真剣勝負時代の代表選手である。

No.27

『PRIDE.0』二代目殿堂夫人
真下純子

主婦。くたびれた中年女。最近夢中になってるものはフルタのチョコエッグとナンバーガール。娘は相変わらず観戦に付き合ってくれません。

❶桜庭和志
❷桜庭和志×ホイス・グレイシー（5・1東京ドーム）
❸R.E.A.D 2000 SHOOTO（12・17NKホール）
❹マカロニほうれん荘のクマ先生に似てるで賞➡ヴァンダレイ・シウバ選手
ときめき賞➡矢野卓見選手

【総括】GW中の桜庭―ホイス戦、ちょうど夕飯時で麻婆豆腐を食べながらPPV観戦しました。桜庭選手の麻婆豆腐色のマスクと髪、そして試合中に見せた不気味な笑顔。麻婆豆腐にネギを入れるのを忘れてもあの試合は忘れられません。12月の修斗での宇野選手、やはりプロレスファンの選手はプロレスを見ることでメンタル面が鍛えられるのかなぁと思いました。顔踏み（人としてやってはいけない事）を平気でくり出すシウバ選手と生で見て一目惚れした真顔の技師・矢野卓見選手には今年も注目していきます。

No.28

デスマッチウオッチャー
三浦店長

デスマッチウオッチャー。2000年は、大日本以外ほとんど観戦していない自分にビックリ。今年は12月の横アリまで全力で応援を続けるぜ！

❶ザンディグ
❷大日本デスマッチヘビー級選手権
ザンディグ×山川竜司（8・29後楽園ホール）
❸大日本プロレス　BJサマーアクションシリーズ（8・29後楽園ホール）
❹新人賞➡関本大介

【総括】まったくもって、『CZW』漬けの一年間。こんな、トンでもない団体とクレイジーな野郎どもをこれでもかという程紹聘した大日本に感謝。やっぱりプロレスは、でかくてオバカな外人こそが華。そして、最初はデクのぼうに見えたプレジデント・ザンディグのデスマッチ頭フル回転で大日本スタイルに順応した姿は、驚嘆に値する。

No.29

アーティスト
村上隆

アーティスト。月一以上観戦していてアートをプロレス頭で考えてしまう。去年とは違う人間になっています。

❶桜庭和志
❷桜庭和志×ホイス・グレイシー（5・1東京ドーム）
❸PRIDE GP決勝大会（5・1東京ドーム）
❹猪木一番弟子賞➡橋本真也

No.30

ロス在住の本誌アメリカ通信員
山根由里

猪木さんが郊外に引っ越してしまってちょっと悲しい、格闘銀座ロサンゼルス在住のジャーナリスト。

❶桜庭和志
❷西村修×天山広吉（8・12両国国技館）
❸INOKI BON・BA・YE（12・31大阪ドーム）
❹リバウンド賞を橋本真也に

【総括】2000年は、プロレスファンが『PRIDE』に流れてしまった年という気がするが、そもそも猪木さん自身が新日から『PRIDE』に流出してしまったので仕方ないかも。桜庭の活躍と実力は認めるが、個人的には、やはり泥臭い猪木プロレスが見たい。レスラー総新人類化する中、ほとんど唯一、猪木さんを彷彿させるプロレスをする西村に、21世紀は是非とも活躍してほしいものだ。❹は、体重と、周囲の状況（4・7で地に落ちたかと思ったのに、最近、妙に美味しい立場になっている）をかけて。

ボクらの紙のプロレス大賞

本誌編集部員

No.01 山口日昇

本誌鬼畜編集長

新世紀早々、韓国エステを初体験。天下のエステ嬢を相手にホンバンを仕掛けたという。世紀を股に掛けても、まったく懲りる様子がない。

❶桜庭和志

❷ヒクソン・グレイシー×船木誠勝（5・26東京ドーム）

❸リングス（10・9代々木第二体育館）

❹騒乱罪⬇小川直也　せっかく強いんだから賞⬇金原弘光　理想のプロレスラーで賞⬇KOKに出陣したロシア勢

【総括】❶、❷を選んだ理由はインパクト。❸は、〝未完成の中の可能性〟が選考理由。❹は、オーちゃんは「賞」じゃなくて「罪」の方が似合う（笑）。KOKに出陣するロシア勢は、他流試合に出る際の「理想のプロレスラー像」を垣間見せてくれる。「サンボ現役王者」にも関わらず相手の得意な打撃戦にムキになって挑むバラチンスキー、猛者・アローナの猛攻を自らの経験をベースに切り返したヒョードル。酔いどれ殺法を駆使して倒れないコピィロフ。「俺はマエダの兵隊だ！」と豪語するハン。彼らの闘いに対する〝プライド〟と〝馬鹿さ加減〟には、現在の「プロレスラー」が忘れてしまった気骨が見える。ビバ！　ロシア勢！　それと、金ちゃん！　せっかく強いんだから、今年こそは何か積極的に仕掛けてくれ。

No.02 吉田豪

金髪鬼

本誌33号にて、あのジャイ子との熱愛（？）が発覚した本誌スーパーバイザー。

❶カート・アングル

❷なし

❸WWFサバイバーシリーズ

❹技の極北で賞⬇スコッティ・2・ホッティのワーム

【総括】今年はWWF一色？　いや、そうでもないよ。ただ、独りでWWFを推して孤立していたノブのフォローをしただけだから（談）。❷は、純粋に試合だけだとサク×ホイスが面白いのは当たり前。ただ、それ以外の部分ではプロレスの圧勝!!　みんな試合なんて語るな!!（談）

No.03 坂井ノブ

本誌編集力士

個人的に2000年はノア取材解禁で、純プロレス中心にマット界を見るようになった一年。VTもいいけど、思い切り受け合うプロレスの凄さを再認識。体重は頭打ちだが、今年はスモーノブ復活の方向で「第2のタチ関」を発掘してみたいです。

❶秋山準

❷ザ・ロック×HHH（WWFの4月のPPV『BACKLASH』）

❸ノア旗揚げ2連戦（8・5&6ディファ有明）

❹男で賞⬇大刀光　極悪ビジュアル大賞⬇アーバン・ケン

【総括】タチ関バブルの仕掛人？　として言わせてもらうと「ガチンコなら負けない」という〝吐いたツバ〟を飲み込まずに次々とKOの山を築いた（KOされたんだけど）タチ関の男気に泣いた！　他の選手に同じことをやれとは言わないが、あれはタチ関にしか出来ません！　ただし、ビッグ・ハート過ぎるのがタマにキズ。あと、『BACKLASH』直前のスマックダウンにおけるオースチン復活&バス大爆発は今年のベスト・シーン！

No.04 松澤チョロ

本誌編集員兼猫戦士

今年は、誰の断りもなく勝手にキャットファイト界を盛り上げていこうと思っている悲しき家なき子（29歳）。第二の藪下を目指し『タイタンファイト』で引っ越し資金稼ぎを目論んだりもしています。

❶谷津嘉章

❷木村浩一郎×ショーン・ヘルナンデス（4・14後楽園ホール）

❸『世界のプロレス』（9・27アクトシティ浜松）

❹餃子の王賞⬇田村潔司&藪下めぐみ

【総括】❶MVPだけでなくベストジーニスト賞なんかもあげたいくらいファッションセンスも抜群の谷津嘉章。昨年は荒武者と落武者の時代でした❷「ホントは団体名を『セメントス』にしたかった」という高橋代表の思惑どおりの両者顔面腫らしまくり壮絶バトル❸JPWA、セカプロを見て未知の強豪外人はまだまだいると実感……しかし、その後、両団体とも敢えなくフェードアウト……ボク、セカプロと一緒に心中できませんでした。❹でメシ食いながら何か賞をあげたいと思いました！


©中川画伯

No.05 堀江ガンツ

本誌酔いどれ編集員

21世紀最初の日に、15年前に小学校5年生だった自分が書いた「タイムカプセル年賀状」が届きビックリ。そこには「ぼくはいま長州力とCCBのファンだよ～ん」のメッセージが！　まさか15年後に「反長州」雑誌を作ってるとはねぇ……。

❶田村潔司

❷田村潔司×ヘンゾ・グレイシー（2・24日本武道館）

❸ReMix（12・5日本武道館）

❹マン・オブ・ザ・イヤー⬇藤波辰爾

【総括】『PRIDE』、リングス、『コロシアム』にUFC―Jと今年ほど格闘技が面白かった年はない。よってベストバウト候補も多数あるが、個人的には思わず涙が出た田村×ヘンゾ戦をぶっちぎりで押したい。試合で涙したのは、1回目の高田vsヒクソン戦以来。あのとき心底落ち込んだからこそ「UWFのテーマ」の感動がある。そういった意味で、田村vsヘンゾ戦はUWFに思い入れある人間にとっての心のベストバウト。外野が是か非か言うのは全くナンセンスだ。

No.06 水戸泉

本誌妻帯者あり編集員

ダブルクロス勤務。24歳。妻帯者。今年の夏には第一子が誕生予定。2002年のワールドカップよりも確実におもしろくなるであろう今年のヨーロッパ予選に今から期待大。チェコとポルトガルの勝利を熱望。サッカー以外では矢野卓見に引き続き注目。

❶ザンディグ

❷小川直也×安田忠夫（12・31大阪ドーム）

❸『PRIDE.10』（8・27西武ドーム）

❹行方が知りたいで賞⬇関綾子（元全日本女子プロレス）

【総括】総合系が純プロレスに圧勝した2000年でしたが、大日本の泥臭さが妙に心に残った一年でした。試合内容の秀逸ぶりとその存在感から矢野卓見（烏合会）にしたい気持ちも強いんですが、プロ意識のレベルがダントツに飛び抜けていたザンディグがMVP。それと、なぜか関綾子の行方が気になる今日この頃。情報求む。

No.07 幸田珍

本誌魚屋編集員

国立大学→大学院→魚屋→『紙プロ』と脈略のないボクの人生。ただ失敗していることだけは確か。「死んだ魚の目はもう見たくない」と魚屋を辞めたボクですが、自分の目こそ死んだ魚の目であることを最近知りました。

❶タノムサク鳥羽

❷村濱武洋×タノムサク鳥羽（9・2川崎体育館）

❸キャプチャー（11・12カラオケパルパル）

❹頭突きゴチになりボクの頭が腫れたで賞⬇アーバン・ケン

【総括】プロレス初心者のボクの心にもグサリと刺さったものを選びました。『DEEP』でホイラーをも苦しめる打撃をみせつけた元K―1フェザー級王者・村濱に何度もダウンを喫するも、立ち上がるタノムサクには感動。『キャプチャー』はプロの凄みが伝わるボコボコのハードヒットなシバキ合いに激震。アーケン選手から『バトラーツ』忘年会で頭突き10連発をゴチになり、本当にグサリときました。いまだに後遺症が……（本当）。

No.08 マッハ戸高

IT事業部所属本誌編集員

ミニモニ入りを目論む28歳。独身。タイガーエンジェルの正体は誰でしょう？　教えて下さい。

❶山本聖子

❷藪下めぐみ×グンダレンコ・スペトラーナ（12・5日本武道館）

❸ReMix（12・5日本武道館）

❹誰で賞⬇タイガーエンジェル

【総括】聖子イズ・キューティスト♡　2000年のMVPは、やはり「W FUSION 2000」でプロのリングに上がり、見事に脇澤美穂からスリーカウントを奪取した山本聖子。理由は、ずばりボクの心が最高にドキドキしたから。2、&3、は、女子総合格闘技の新たなる可能性を見せた『ReMix』、そして藪下。試合中そして勝利後の〝大ニッポンコール〟は、サク―ホイス戦を越えた！　エンジェル達、女子プロレス界を頼むぞーッ！

本誌編集部が独断と偏見で選ぶ

紙のプロレス大賞

MWP・ワーストマッチ・ワースト興行

ゴチャゴチャ言わんと2000年で、誰がいちばん悪いのか決めればええんや座談会

紙のプロレス大賞

モスト・ワースト・パーソン

MWPは誰だ!?

というわけで、ここは本誌編集部員たちが、取材拒否や殴り込み覚悟でワースト・レスラーとワースト・関係者を選定する。

直訳では「ワースト＝最悪」となるが、本誌は何も「最悪のレスラー」や「最悪の試合」や「最悪の興行」を選ぼうとしているわけではない。

もはや60団体&プロモーションを超えたと言われている日本プロレス界。下を見ればキリがない。

だから、本誌ワースト部門賞は超一流の選手&関係者にしか授与しない。

「本来の輝きを取り戻して欲しい」そんな希望を込めて、本誌はこのワースト部門賞を贈るのだ!

ノブ えー、まずはMWPの選手編から選んでいきたいと思います。

山口 これってノミネートした基準はなんなの?

ノブ 要はプロレス、バーリ・トゥード問わず、今年見事な〝負けっぷり〟を見せてくれた選手たちですね。

吉田 だけど長州は負けたっけ?

山口 ツッコむねえ(笑)。

ノブ 長州はある意味、試合では勝ったかもしれないですけど……。

吉田 「人生自体が負けてる」?(笑)。

ノブ (あせって) そんなこと言ってませんよ! 人生というか、評価は低いですよね、去年の大仁田戦は。

山口 そんなことないだろ!『ゴング』ではムチャクチャ評判いいよ、長州は! ビバ、GK!

吉田 そうだよ!『猪木祭り』はコケたが、それに比べて1・4は最高!」ってなってんだから(笑)。

ノブ (冷静に) 1・4は今年の大会なので選考外です。

山口 まあ、いいや。で、このMWPってどういった賞なの?

ノブ 今後奮起してほしいなという願望と期待を込めて送る賞です。

吉田 ……ということは、まず確実に藤波じゃないわけね?(笑)

ノブ どうなんですかね? 藤波さんは選手としての希望はそんなにもう……消えかかってるし。

ガンツ 失礼な!(笑)。

吉田 ようするに『来年はがんばりま賞』ってことなの?

ノブ ええ。そういうことです!

おかげさまで本誌も初の『紙のプロレス大賞』を無事に選定することが出来た。

さて、それだけで終わらせないのが『紙プロ』の『紙プロ』たるゆえん。後発の本誌はプロレスマスコミ史上初の禁断の企画をぶっ放す。それがこの「ワースト部門賞」の選定である。

編集部員たちによって推薦されたノミネーターの中から座談会で受賞者を決定する。

☆本誌ワースト部門賞選定委員会☆

山口日昇……………本誌鬼畜編集長
吉田豪……………本誌スーパーバイザー
坂井ノブ……………本誌編集力士
松澤チョロ…本誌キャットファイター
堀江ガンツ……………本誌泥酔編集者

※モスト・ワースト・パーソンという単語は文法上では誤りですが、行きがかり上このままいきます。

アレクよ！　今年、他流試合に出るときは大事なことを忘れるな！「死んでも負けるな！」

吉田　だったらアレクだね。やっぱり、ボブチャンチンは怖いよ。今年はボブと闘った選手が次々壊されたでしょ（笑）。『PRIDE.12』のマーク・ケアーは正しいよ。壊されないようにする戦法は、あれしかないんだから（笑）。

山口　アレクの場合は今年の最初にボブ相手にあれだけいい試合をやったわけだから、後半は一気にガーッと駆け昇るだろうなって思ったら、ああいう結果になっちゃったよね。それに今年のアレクはプロレスでも停滞してたから、オレもアレクを強力に推す。

吉田　プロレスでこそ光らなきゃしょうがないのに『猪木祭り』で光りそこなったり、バトの駒沢大会でジャイ落を光らせ損なったり……。

山口　バトラーツの大会でアレクは光を帯びてないし、バトラーツにも光をもたらしてない。ここらへんはエースレスラーを自認するんだったら、やっぱりアレクの責任として、きちんとバトラーツも光らせなきゃダメだし、純プロレスにフィードバックさせなきゃダメでしょ。じつはアレクって相手を光らせてるように思われてるけど、光らされてたんだよ。（池田）大ちゃんや（小野）武志に。純プロレスでは相手がアレクを光らしてくれてて、『PRIDE』ではアレクが相手を光らしてるんだよね。だから「逆だろ！」って話なんだよ（笑）。そこらへんのスイッチングを今年どうしてくれるのかは、期待大だけどね。

ノブ　高田もボブチャンチンとやってるんですよね。

吉田　あれは予想以上に頑張った方ですよね。膠着しても打たれないようにするのが、正しい戦法でしょ。アレクとエンセンを見ちゃうとね。

ノブ　ケンドー・カシンはハイアン・グレイシーに負けたとはいえ、「次、やってくれよ」って期待したくなる内容でしたからね。

吉田　あまりにも負けっぷりが良すぎたせいもあって、悲惨な感じもあまりしないからね。

山口　あの負けっぷりはいいんじゃないの、VT初戦としては。次、同じ負け方したら、そりゃアホだけどね（笑）。

ガンツ　負けと言っても、新日本の現役レスラーが初めて出てくる道を作ったという功績はデカいですよ。

ノブ　え〜、次は健介なんですけど、会長は何か記憶に残ってますか？

山口　そりゃ残ってるよ！　川田との試合が年間ベストバウト取ったんだから。『G1』も取ったんでしょ？

吉田　『取ったんでしょ？』ってマスコミが言うセリフじゃないですよ（笑）。「健介と川田の試合のどこが悪いのか？」ってぼんやり考えてたら、二人の共通点がわかったんですけど、団体からエースが抜けちゃって暫定的にエースになっちゃうという点で、実は本当に同じタイプなんですよね。

山口　どういうこと？

吉田　全女の堀田祐美子とかも同じラインなんでしょうけど。みんながいなくなっちゃったために、やむを得ずポッカリ上がっちゃった人は、何も考えずに打撃をガンガン打ち込んで周りの人に疎まれるという。すごい不思議なタイプばかりなんですよ（笑）。やっぱり団体から抜ける側にしかスターはいなくて、残る側には何もないんだろうなっていう。クーデターのときの藤波がダメだったのと同じで（笑）。

山口　ガハハハ！　ずいぶん過去のこと持ち出すけど、「残り物には福はない」っていうことだよね（笑）。

ノブ　業界に一番影響力を与えた“負け”っていえば、船木だと思うんですけどね。

吉田　でも、もう船木に怒る気持ちは一切なくなりましたからね。

山口　船木の場合は、次の物語を生んでくれたから。「次は誰がヒクソンと闘うんだ？」っていうね。あの一戦でヒクソンが生き残ったから、それは船木が生き残るより全然いいことでしょ（笑）。ま、マット界を大局的に見たらの話だけどね。

ガンツ　本当は去年の５月くらいにヒクソンは誰かにやられてるはずだったのに、船木が延命装置の役目を果たしたんですよね。

山口　いいテーマを残してくれたっていうかさ、誰かが決着つけなきゃいけないことだからね。決着をつける役割が船木じゃなかったっていう審判が衝撃的な試合だったね。

吉田　パンクラスは結果的にね、興行でも客が入らなくなったせいか、今度の大会も面白いカードが組まれてるし、ルールも変わっていくしで、いいようには転がってる気はしますけどね。それにしても、なぜかワーストとして印象に残るのは総合とかに絡んでいく人の方なんですよね。

山口　純プロレスでワーストを選ぶっていうのは難しくなってきてるよね。どうしてもインパクトは「新プロレス」系の方が大きいから。

ノブ　橋本はどうですか？

山口　破壊王はワーストどころか、ベストスマイル賞をあげたいよ（笑）。

吉田　あとベストマイク賞とか、試合以外なら全部あげられますよね（笑）。

ガンツ　『ワールドプロレスリング』だと大仁田と橋本は視聴率トップを争う二人ですからね。

山口　橋本にしても高田にしても、ヤイのヤイの言われるんだけど、会社とか運営してる団体にものすごいものを返してるでしょ。興行的なメリットや視聴率や動員数では思い切り貢献してるよ。

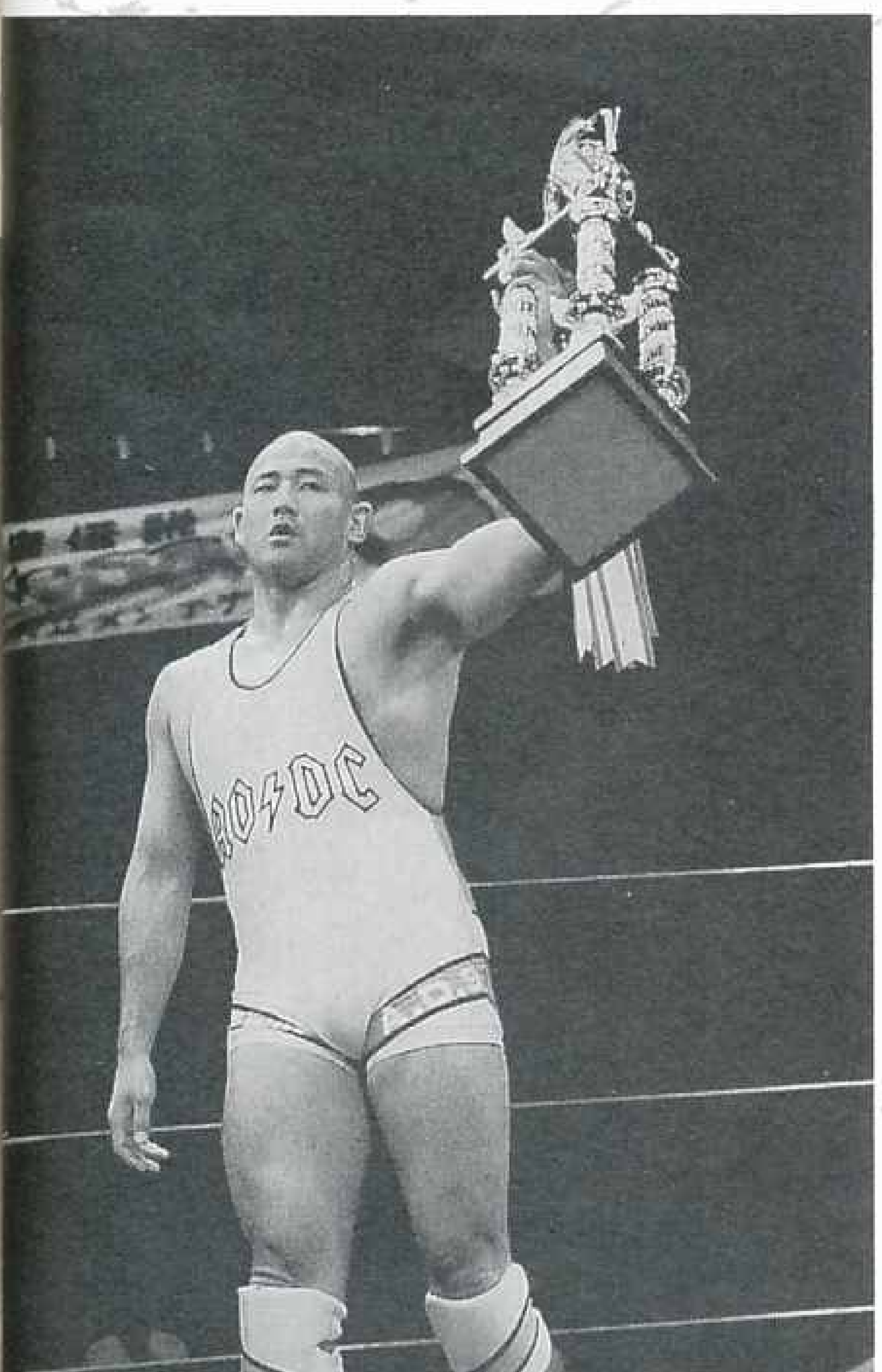
吉田　健介とは違いますね（笑）。

山口　傀儡エースとは違うわけですよ（笑）。そう考えるとやっぱりワーストじゃないんだよな、橋本も高田も。やっぱりアレクだよ。ズバリ言って、興行的にもっと上を見なきゃダメでしょ、アレクは（笑）。バトラーツは最近しぼみ気味だし。

吉田　最近の光のなさは尋常じゃないですからね。

ガンツ　プロレスラーが他流試合に出ていく時の一番大事なことを忘れてますよね。「死んでも負けるな！」っていう。

山口　普段内容で見せて、そういうところになったら勝負に賭ける執念を見せるというのが、本当のプロレスラー心なんじゃないのかな。アレクに期待してるのは潜在能力でしょ。プロレスっていうものを、もう一回しっかり考え直して今年はスケールの



モスト・ワースト・パーソン MWP【ノミネート選手編】

アレクサンダー大塚
川田利明
ケンドー・カシン
佐々木健介
鈴木みのる
橋本真也
髙田延彦
長州力
藤波辰爾
船木誠勝

モスト・ワースト・パーソン MWP【ノミネート関係者編】

尾崎允実
佐竹雅昭（怪獣王国国王として）
長州力（現場監督として）
ターザン山本
永島勝司
冬木弘道（プロデューサーとして）
前田日明
三沢光晴（社長として）
森下直人
浜部良典
馬場元子

〈順不同〉

大きな1年を送って欲しいっていう意味でアレクにドーンとあげたいね。

◆

ノブ えー、次はMWP関係者編です。今1・4で長州や藤波が叩かれてますけど、2000年限定でお願いします。

山口 順当にいったら、やっぱり長州力なんだよな。素材の多さからいったら新日本がダントツなんだけど、いわゆる「新プロレス」にソフトの部分で遅れを取ってるわけだから。

吉田 だけど長州は自分の元に向かうべき批判を、うまいこと藤波社長とかに散らしてますよね（笑）。

ノブ あと、永島さんとか。

吉田 その点、散らす術がないのが前田日明（笑）。前は「うちのスタッフが悪いんや」みたいな散らし方が出来たんだけど、みんないなくなっていい加減散らせなくなってますよねえ……。



若くてイキのいい選手は揃っているパンクラスをもっと活性化させていただきたいモノである。来年の巻き返しに期待！

山口 女性スタッフとケンカして〝アメリカで逮捕〟と『東スポ』に出ちゃうし。まあ、あれは真相はもっと別のところにあるみたいだけど。

ノブ その前は「尾崎社長暴行」という報道まで出てましたしね。でも、プロモーターとしての前田日明は『KOK』も成功してるし、評価されるべき点は非常に多いんですよね。

山口 だけど、あの素材を抱えていたら、もっと人気が出なきゃおかしいでしょ？ だって関係者の声を聞いても『PRIDE』より『KOK』の方が面白いって声が多いじゃん、裏では（笑）。イメージ戦略が出来てないんだよね、プロデューサーとしての。オレはこの賞は前田を強力に推す。前田用語でいうなら、あまりにも話題がチンケになりすぎてる。『東スポ』に載った記事とかもリング上には還元されないでしょ。どうせスキャンダラスな話題を振りまくなら、もっとスケールの大きな話題を振りまいてほしいですね。ファンもそう思ってるはずだよ。「スキャンダルを経営に結びつけられない経営者は失格だ！」byアントンっていう意味でボクは前田を推すけどね。

ノブ その点でいうと前田の可能性はあります。えー、次の候補は『週プロ』の浜部さんですが。

吉田 スケール小さいよ（笑）。

山口 （『週プロ』の）版型は大きくなったんだけどね（笑）。

ガンツ 前田もそうなんですけども、ボクは冬木をあげたんですね。「エンターテインメントプロレス」を宣言した人じゃないですか。それで去年はエンターテインメントプロレスが高度を上げるのかと思ったらどんどんチンケになる一方で。今はもう〝プア〜〟ですよぉぉぉ（笑）。

山口 お前、ターザン用語使うなよ（笑）。

ガンツ 今の新日本が中途半端なところにいる原因を作ってしまったのは、冬木ではないかなと思うんですよ。サプライズで言ったら、大仁田の頃のFMWの方が全然あったと思います。

繰り返し言うが、本誌のワースト賞は、超一流にしか授与されない。アレクも前田社長も、十分すぎるほどの活躍をしているが、あと一つ突き抜ければ、マット界の頂点に君臨するのは時間の問題だろう。今年は期待してるぞーッ！



山口 大仁田の方がマット界の影響力は全然あるよね。

吉田 大仁田個人がもうエンターテインメントの縮図ですからね（笑）。

ガンツ もっと突き抜けて新しい分野を開拓してくれることを期待してるんですけどね。

ノブ 馬場元子さんは全日が割れた原因であると言われてますけど、建て直し策は素晴らしかったですね。

吉田 「プライドを棄てる」っていう部分で？

ノブ そうです（笑）。なりふりの構わなさが。面白いですよね。

吉田 マスカラスにキム・ドク上げたら、こっちはなにも言えないよね（笑）。キム・ドクなんて最近の『紙プロ』のインタビューで何を言っていたか（笑）。葬式の時は追い返しておいて、三周忌興行に上げるっていう。その姿勢は素晴らしい（笑）。

山口 『猪木祭り』が大晦日にあったけど、ある意味で今度の1・28は『馬場祭り』でしょ。ノスタルジックな意味から言えば今度の方が面白そうだよ。でも、そう考えると『猪木祭り』に対抗出来るのがプロレス界には馬場元子しかいないわけなんだよね（笑）。これが純プロレスの問題なんだよ。前田社長とか森下社長はやっぱり「新プロレス」をやろうとしてるわけで。純プロレスで対抗しないといけない長州や三沢が、マット界全体に大きな波及効果を及ぼしてないってところが問題だよ。だから、元子さんは全然悪くないんだよ。元子さんだけ本気になってやってると思うよ。なりふり構わないっていうのもプロレスラーの一つの姿勢だからね。

ノブ 同じように現在、しゃべりすぎで出来たポリープの手術で入院中の島田レフェリーもなりふり構ってないと思うんですが。

山口 島田裕二はまだここにノミネートするにはスケールが小さすぎる（笑）。もっともっとバッシングを浴びないと。ファンの皆さん、もっとバッシングしてくれ！（笑）

ノブ じゃあ、大賞はどうしましょうかね？

山口 元子さんはワーストじゃないから、やっぱりこの賞は期待度No1ということで前田日明で決定！

紙のプロレス大賞

ワーストマッチは何だ?

この試合は田村が悪いというよりもリングスのプロモーションが悪い!

ワーストマッチ――これもMWPと同様、ノミネートされた試合は編集部員たちが各方面から拾ってきた「裏・名勝負」とでも呼ぶべき試合ばかりである。

断じてレベルが低いという意味での「ワースト」ではないので、あしからず。

思えば2000年は大変な年だった。それはベストマッチの充実ぶりを見て頂ければ、わかると思う。とにかくレベルの高い名勝負のつるべ打ちなのだ。

ここに挙げた試合は、良くも悪くも話題を呼んだり、業界に衝撃を与えた試合ばかり。だが、なぜ「名勝負」になれなかったのか、改めてここで考えてみたい。

ノブ さあ、ワースト・パーソンが決まったので今度はワースト・マッチを決めたいと思います!（カラ元気）

山口 ワースト・マッチの基準は何?

ノブ 試合前はかなり期待されていたにもかかわらず、期待に応えられなかった試合や何も生まなかった試合です。

山口 まず前提として期待値が大きいってことがあるのね?

ノブ ええ。ということで、ガンツ先生からいきましょうか!

ガンツ はい! ボクはもちろん菊田vs高橋を選びました（胸を張って）。

吉田 お前、いい加減パンクラスバッシングはやめろよ!（笑）。

ガンツ いや、他流試合のあり方が問題になるんですけど。格闘技にしてもプロレスにしても、絶対に負けちゃいけない試合ってあると思うんですよ。そういう時に真剣勝負だからっていう逃げ道を作って、負けても全然平気な顔でいる選手がいるってことが、バーリ・トゥードが定着したあとの弊害だと思うんですよ。そういう意味でいうと、あれはパンクラスvs総合格闘家の負けられない闘いだったんです!

吉田 でも、菊田は元Uインターじゃん（あっさりと）。

ガンツ ま、そうなんですけどね（笑）。でも、そういう重大な試合で、そこまでのモチベーションがないこういう試合にならないで欲しいとの願いです。

吉田 「肘ありだ」とか、なんだかんだ言って期待させた割には、そういう場面がなかったみたいだしね。

ノブ セコンドにカシンと藤田が来たぐらいしか記憶にないですよね。この試合もそうだと思うんですけど、去年は「膠着」というのが大きなテーマだったと思うんです。藤田vsアイブルにしても高田vsホイスにしてもそうだと思うんですけど。膠着を見る目がないファンが悪いのか、それとも膠着する試合をする選手が悪いのか?

吉田 そして捌くレフェリーが悪いのか?（笑）

ノブ また島田レフェリーですか（笑）

山口 島田裕二が悪いってことにしとけばいいんじゃないのか（笑）。ワーストマッチは「島田裕二が捌いた試合全部」に決定!

吉田 ダハハハハ! それだと島田さんもいい加減怒りますよ（笑）

山口 でも、それを言うならバーリ・トゥードでいままで立たしてた方がおかしいんだからね。ビクトーvsアイブルにしても、島田がプロとして、なんとか成立させようとしてた試合だから。選手から文句を言われようが、観客の為にブレイクさせてたんだよ。

吉田 観客のために立たせて、観客のためにレフェリーストップさせて。

ノブ 止めたら選手に怒られる（笑）。

吉田 そのへんのルールをまずはっきりさせないとね。

ノブ でも島田さんはルールディレクターなんですよね（笑）。

山口 そうか! じゃ、やっぱりあの男が悪い（笑）。

チョロ いや、あれは負けないようにする選手が悪いんですよ。だから一本負けしたら賞金を出すような制度にしたらいいと思いますけどね。判定で負けるんなら、一本負けを選べっていうルールにした方がいいでしょ。それでリング上で〝一本負け賞〟をあげたら選手も恥ずかしがって、さらに練習をするっていうシステムで。実は島田さんの案だけど。

吉田 大刀光がボロ儲けだよ（笑）。

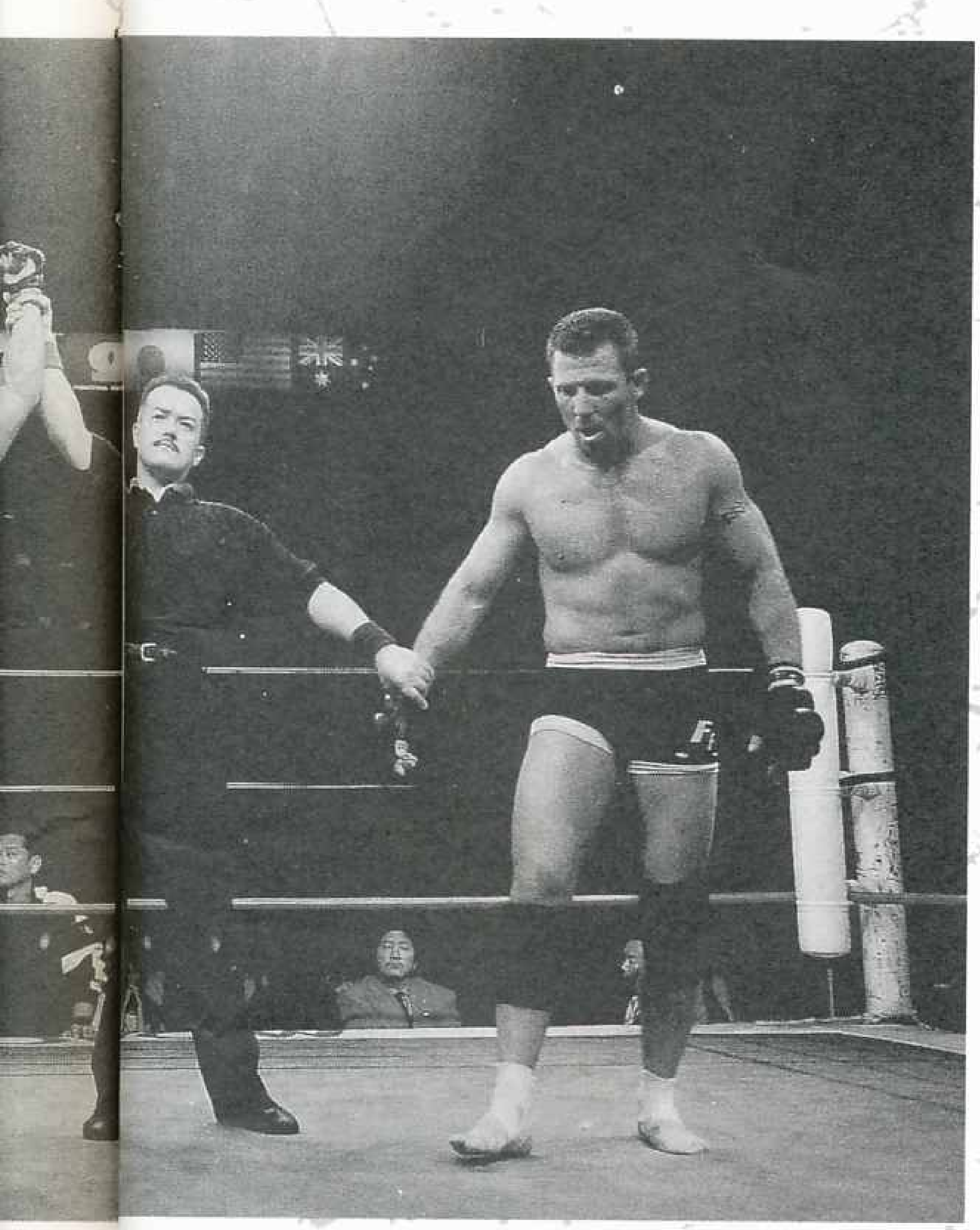
山口 ガハハハハ! でもさ、「膠着」って試合の状態のことを指して言ってるけど、そうじゃないと思うんだよ。

ノブ どういうことですか?

山口 ちょっとわかりやすく〝スキャンダル〟って言葉を広義に使うけど、煽りに煽りまくって、ものすごくファンに期待されてるっていうリング外でスキャンダルをつくるのに、リング内に目を移した途端に試合の中にスキャンダルがない、それが「膠着」なんだよ。だから、『猪木祭り』の小川vs安田戦が面白かったというのは、リング内にもリング外にもスキャンダルがあったから面白いんだよ。他にもエンセンvsボブチャンチンを例に取ると、エンセンはリング外でも「倒しに行く」とスキャンダラスに煽った。で、リングの中に目を移すと、そこでも死ぬ寸前までやり合った。リング外のスキャンダルにリング外のスキャンダルが負けなければ、それはガ然光るよ。リング外のスキャンダルばっかりでリング内にスキャンダルがないってことが、いかに悪かってことなんだよね。リング外にスキャンダルがない場合でも、リング内にスキャンダルがあれば、それはそれですごい光るわけよ。それはバッグンにいい試合内容とかね。

ノブ そうですね。

山口 でもここにあがっているのは、一応リング外で試合決戦前までは、すごい脚光浴びた試合でしょ。リング内でスキャンダルを起こせなかっ



リングス大阪大会のメインで行われたリングス王者vsUFC王者の夢対決も、お互いの「負けたくない」という気持ちが強すぎたか。

ワーストマッチ
⬇ノミネート試合

▼01・30『PRIDE』東京ドーム大会
髙田延彦vsホイス・グレイシー

▼02・26 RINGS 日本武道館
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsダン・ヘンダーソン

▼03・11 力道山メモリアル 横浜アリーナ
小川直也&橋本真也vs天龍源一郎&ビッグ・バン・ジョーンズ

▼05・26 RINGS&PANCRASE 京王プラザホテル
前田日明vs尾崎允実

▼05・27 コロシアム2000 東京ドーム
船木誠勝vsヒクソン・グレイシー

▼07・30 新日本プロレス 横浜アリーナ
長州力vs大仁田厚

▼08・13 新日本プロレス 両国国技館
佐々木健介vs中西学

▼08・23 RINGS 大阪府立体育会館
田村潔司vsパット・ミレティッチ

▼08・27『PRIDE.10』西武ドーム
ケンドー・カシンvsハイアン・グレイシー

▼09・02 全日本プロレス 日本武道館
天龍源一郎&スタン・ハンセンvs川田利明&スティーブ・ウイリアムス

▼10・09 新日本プロレス 東京ドーム
川田利明vs佐々木健介

▼12・04 PANCRASE 日本武道館
菊田早苗vs髙橋義生

▼12・23『PRIDE.12』さいたまスーパーアリーナ
藤田和之vsギルバート・アイブル

▼12・31『猪木ボンバイエ』大阪ドーム
アレクサンダー大塚&バス・ルッテンvs佐野なおき&リコ・ロドリゲス

た人達がここにあがってるわけだよね。

ノブ そうですね。

山口 試合は相手があってのものだからね。だから両者ともモチベーション低い試合をこの中で選べばいいんだよ。

ノブ そういう意味で言うと、カシンvsハイアンなんてムチャクチャ両方とも高かったわけですし。

山口 船木vsヒクソンもリング内にスキャンダルがあったよね、失神するというシーンが。

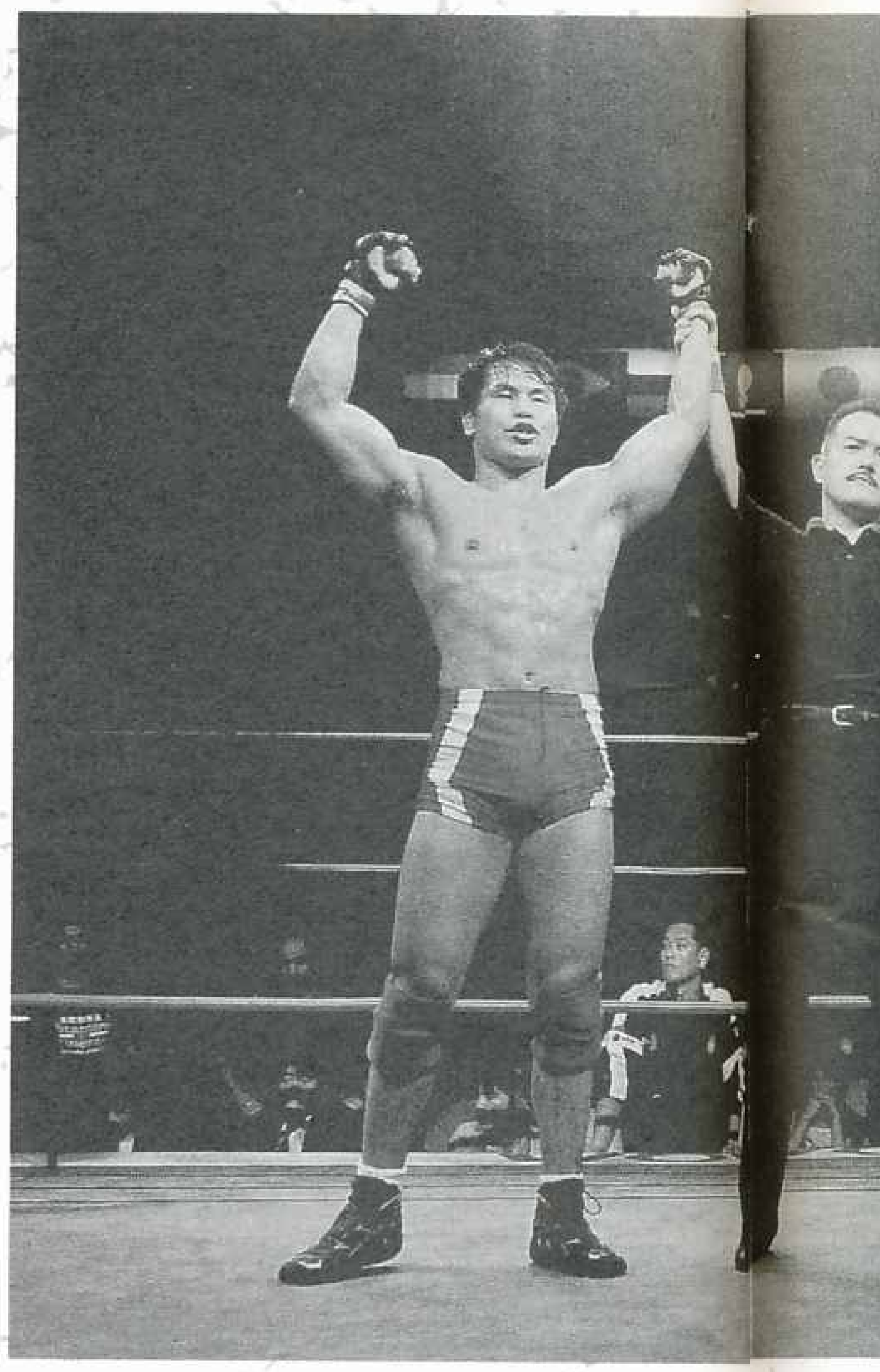
吉田 両者ともモチベーションが低いっていうのは難しいですね。両者とも高いんだけど、空回りっていうのは健介vs川田なんですけど（笑）。

山口 リング外のスキャンダルの数値を内容が上回れなかったってことで、オレは長州vs大仁田なんだよな。大仁田はいいんだけどさ。

吉田 とりあえずモチベーションだけは高いですよね。

山口 ただ試合になっちゃうとオレには「膠着」にしか見えないんだよ、あの電流爆破は（笑）。

ノブ ワンサイドという名の「膠着」（笑）。



山口 むしろ高田vsホイスなんかは「いつスキャンダルが起きるんだろう？」って目でドキドキして見れるから。高田がホイスから一本取っても取られても、それはスキャンダルでしょ。

吉田 ビッグ・バン・ジョーンズとかはスキャンダルありましたよね（笑）

山口 ガハハハハ！ 誰も得しないね（笑）。橋本の「お〜が〜わぁ〜！ 試合前に、村上になぜオレを襲わせた――っ？」ってマイクもマヌケなスキャンダルだったな（笑）。

ガンツ この試合は後々まで語り継がれるでしょうね（笑）。

ノブ ベスト・バウトには全然入ってないですけどね（笑）。

山口 そう考えると田村には可哀想だけど、オレが選ぶなら田村vsミレティッチ戦だな。完全に判定狙いの格闘技の試合になっちゃったからね。

ノブ でも、田村がそういう試合するって珍しいですよね。

吉田 それだけ負けられない試合だったってことなんだろうけど。

山口 本当に〝ハイリスク・ノーリターン〟の試合だから、田村を責めるもは酷なんだけど。

ガンツ 本当にやりたくなかったみたいですからね（笑）。これは田村が悪いというかリングスが悪いんですけどね。ミレティッチの存在を上げるような仕掛けも一切しないし。記者会見もなし。シャノン〝ザ・キャノン〟リッチの方がプロモーションでは全然大物に見えるじゃないですか。はっきり言ってリングスのプロモーションのダメさ加減の最たる試合ですね。

チョロ オレも田村vsミレティッチなんですけど、ベタにいけば高田vsホイスですね。グレイシー系の選手はみんな日本で面白い試合になるんですけど、この試合は唯一高田も活きないし、ホイスも活きないし。

吉田 「ホイスの無駄使い」って言われてますよね（笑）。ただ、ホイスを桜庭に当てるため、ホイスを傷付けずに一回戦をやるには、これしかなかったのかなって気がしますけどね（笑）。

ガンツ アハハハハ！

吉田 下手に他の選手を当てて、ホイスが負けちゃってたら、あの感動のシーンはなかったでしょ。そういう意味では高田もよく頑張ったという（笑）。

チョロ 高田はヒクソン戦でも勝つにしろ負けるにしろ、いろんな期待が出来るし。そう思って見てたら、両コケだったたいう意味では、この試合が残ってますね。

ノブ ボクは天龍&ハンセンvs川田&スティーブ・ウィリアムス戦ですね。じつはこの一つ前の試合が蝶野vs渕だったんですよ。それはムチャクチャ盛り上がったいい試合だったんですけど。その直後にこの試合が行われて、見事に20分以上なぜか気迫が空回りし続ける本当に可哀想な試合だったんです。

山口 は？ いったい誰が可哀想なんだよ？（笑）。

吉田 ボクが？（笑）

ノブ で、試合後の川田の第一声が「お客さん、疲れちゃってたのかな？」って（笑）。なんか新日vs全日というスキャンダルに負けちゃった一戦ですね。

吉田 オレはワーストマッチというか、全日vs新日という、非常にボンヤリとした抗争に1票（笑）。

山口 ワーストアングル賞（笑）。

ガンツ マット界の切り札が、長年待ちこがれていたのが「これか？」っていう肩すかし感はすごく大きいですよね（笑）。

ノブ でも健介vs川田は『東スポ』大賞のベストマッチですよ、一応。

吉田 こないだの1・4で組まれたベストマッチの再戦がまったく騒がれないのはなぜなんだろうね（笑）。

ガンツ 騒がれないどころか「試合始めんな！」って野次が飛ぶ有り様ですからね（笑）。

ノブ じゃあ、そろそろ決めましょう！ 田村vsミレティッチがワースト・マッチだと思う人は挙手してください！（山口、チョロ、ガンツが挙手）過半数を取ったので田村vsミレティッチがワースト・マッチに決定！

紙のプロレス大賞

ワースト興行は何だ?

「興行は水物」とはよく言ったモノで、いいカードを揃えても客席が爆発するとは限らない。そんな〝惜しい〟と思わせてくれた大会を揃えてみた。同じくノミネート大会は編集部員の推薦によるものだ。

ノブ さあ、今度はロクに会場に行かない本誌編集部が、なぜかワースト興行を決めるという無謀なコーナーなんですけどね。

山口 コーナーっていうより、そもそも企画自体が無謀なんだよ(笑)。

ノブ そう言わず付き合ってください! ワースト興行は、ガチガチの大本命が『PRIDE12』ですけど。

山口 ちょっと待て! ワースト興行の基準をはっきりさせろ。

ノブ どれだけ多くの人をがっかりさせたのかということですね。規模がでかいのにコケるというのは、やっぱり罪が大きいと思うんですよ。

吉田 オレは『GP』の開幕戦と『12』のどっちだろうって迷ってるんだけど……、『GP』の開幕戦って何かいい試合あったんだっけ?

山口 アレクvsボブチャンチンぐらいだね。

吉田 そっか、じゃあ『12』(笑)。

ノブ 会長、新日の5・5の福岡ドーム行きましたよね?

山口 行きました。

吉田 あれって白覆面が出たことしか記憶に残ってないですけど。

山口 ガハハハハ! そう、白覆面! でも、オレは白覆面見れただけで福岡まで行った甲斐があったよ(笑)。で、7・31の横浜アリーナはなんでノミネートされてるわけ?

ノブ 長州一派しか出ない画期的な興行だったんですよね。

ガンツ この日、会長はセミまでロビーでタバコ吸ってましたからね(笑)。

山口 「シーーーッ!」(笑)

ノブ すごい編集長ですね(笑)。

山口 だって、いつ見たって一緒だろ? (笑) いつ見ても一緒っていう興行はやっちゃダメだよ。それを売りにするんだったらいいよ、馬場さんみたいに「いつ十六文が出るんだろう?」っていう水戸黄門的世界にするなら(笑)。結局ビッグマッチってさ、「何かが起こりますよ」っていう売り出しをするわけでしょ。それなのに何もなかったら罪だよね(笑)。

吉田 逆に『PRIDE』は何が出るのかわからない波があるから当たるときも、外れるときも大きいんですよね。

山口 そうそう。でも連続性で考えていけば当たり外れがあるのも面白いよね。ずっと見てる人には一回コケたからって、どうってことねえよ。

吉田 平均点でいうと普通のプロレスと一緒ぐらいになっちゃうのかもしれないけど、その波の大きさがいいんですよね。

チョロ 規模が重要なら、7万200人を動員した『K—1』にしましょうか? (笑)

山口 あれはターザンも怒ってたね、猪木引退興行の7万人にプラスした200人に(笑)。

吉田 年の瀬の忙しい時期にあんなもん見せられたって意味で、『PRIDE12』でいいんじゃないの(笑)。「年賀状も書いてないのに何やってんだ、オレ……」っていう(笑)。

山口 オレはここにノミネートされてないけど12・31の『猪木祭り』だね。

ノブ えっ、なぜですか?

山口 あまりにもアントニオ猪木をキャラクターグッズ化しすぎ。猪木が本気になってねぇじゃん、全然(笑)。だって猪木さんのプロレス人生は村松さんが言う通り「ファンにケンカを売り続けきた人生」だからね。ファンも挑発してないし、関係者も挑発してないし。なんか猪木さんらしさが見えないっていうかさ。試合そのものにも『猪木祭り』らしさが見えなかったし。

ガンツ 猪木さんのエキシビションのモチベーションがタッキーの時より低いっていうのが気になりますね(笑)。ヘンゾ・グレイシー相手にやる気ないんですよ(笑)。

山口 なんか猪木の挑発っていうものが見えなかったでしょ。客もそれをよしとしちゃってる。逆に言えば「猪木ファンだったら猪木にケンカ売れよ!」っていう感じだよね。

吉田 最近のプロレスはアドリブ性がなくなったって言われるじゃないですか。猪木さんもそういう批判している中で、本当にアドリブ性のない試合しかなかったですからね(笑)。

山口 アドリブ性があったのは小川vs安田戦だけだったよ。試合後には佐竹が出てきちゃうしさ(笑)。オーちゃんも「佐竹、茶番すんじゃねぇ!」って(笑)。あのアピールは素晴らしいな! あれ昔だったら両軍入り乱れての大乱闘だよな(笑)。

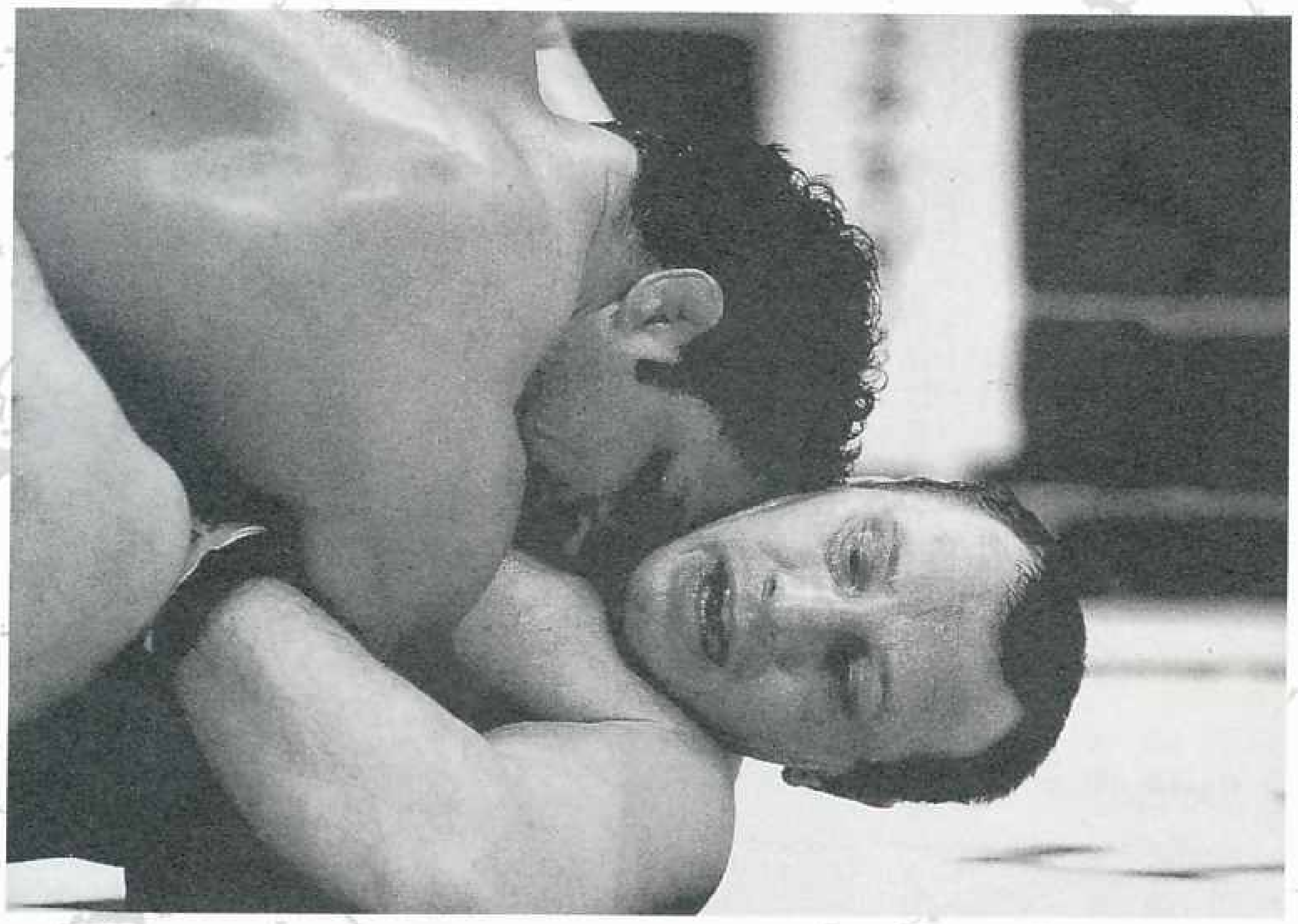
吉田 大晦日に何やってんだっていう(笑)。「小川には乗れない」って声も多いけど、ああいうの見ると本当に「小川には乗れるわ!」ってなりますよね(笑)。

山口 あれをやることの恐ろしさを今のプロレスラーはみんな知ってるわけでしょ(笑)。そういう意味では小川以外は全部ダメってことでオレは『猪木祭り』を押したいんだけど、みんなはどうでしょう?

吉田 ただ、『12』は酷すぎて興奮したっていう意味で初めての興行ですよ。売店やトイレの少なさなんかも含めて、純粋に興行全体で言えば『12』をボクは推しますね。

ガンツ やっぱり『12』でしょうね。

山口 よし! じゃ、2票入ったとこで『PRIDE.12』に決定!



試合内容が興行の成功を左右する。一概にプロモーターばかりを責められないのが、このワースト興行賞の難しさだ。「PRIDE.12」は膠着試合によって、評価を落としてしまった。今年は、膠着なしでお願いします! 森下社長ーッ!

ワースト興行

↓ノミネート興行

- ▼01・31 『PRIDE.GP開幕戦』 東京ドーム
- ▼05・05 新日本プロレス 福岡ドーム
- ▼07・31 新日本プロレス 横浜アリーナ
- ▼08・23 RINGS 大阪府立体育会館
- ▼11・12 FMW 横浜文化体育館
- ▼12・04 PANCRASE 日本武道館
- ▼12・10 K−1 東京ドーム
- ▼12・23 『PRIDE.12』 さいたまスーパーアリーナ

紙のプロレス大賞

流行語大賞

この流行語大賞はワースト部門賞とは関係ない。シビアな話題が続いたワースト大賞の最後に持ってきたのは、お口直し的に読んでいただければと思ったからだ。

いわば、おまけみたいなものだが、ある意味で〝2000年のマット界〟を象徴するものばかり。ここで2000年をまとめて振り返って、2001年に目を向けようではないか！

ノブ 最後になりますが、流行語大賞を決めましょう！

吉田 何でワースト大賞で流行語決めるんだよ！　ダメな流行語か？

ノブ いや、ワースト大賞のおまけということで……。

山口 （唐突に）燃えてるかーッ！

ノブ （淡々と）まあ今年一番パワーがあったのは年末に飛び出した「バカヤローッ！」と、詩集も出したことで『馬鹿になれ』だと思うんですけど。

チョロ インディー的には「んなこたぁーどーだっていいんだよ！」しかないですよ！

ノブ 「ヒクソンと闘わせてくださぁ～い（号泣）」っていうのも、ちょっと衝撃が走りましたよね。

山口 でもインパクトからいったら「バカヤローッ！」だろうな。

チョロ 田村にロレックスをプレゼントしたときの前田社長「自腹やぞ、自腹！」っていうのもいいですよね（笑）。

ガンツ それはですね、多分、「自分の腹」が太りすぎってって意味だと思うんですよ（笑）。最近、前田社長が前田道場に通い始めたって聞いて「ヒクソン戦に向けてトレーニング始めたのかな？」と思ったら、ただ指圧を受けに通ってるという衝撃情報もありましたけど（笑）。

吉田 これで前田vsヒクソン戦がまた遠くなったね（笑）。

山口 おいっ！　『紙プロ』が創り出した「新プロレス」が入ってないじゃないかよ！　「新プロレス」って今や『週プロ』も『ファイト』も使ってんだぞ！



「幸せ気分でコモエスタ」「かいて　かいて　恥かいて」などなど、驚異の闘魂ポエムが満載の『馬鹿になれ』はベスト・ブック賞をさしあげたい

ノブ （淡々と）あ、そうですね。

山口 自分で言うのもなんだから、お前ら、「新プロレス」を誉めろ！

チョロ 「新プロレス」は浸透したからいいんですけど、今後はプロレスに代わる言葉も考えた方がいいですね。

山口 まあ、別に「新プロレス」って言葉はそんなに大層もんじゃないんだけどね。暫定的に使ってるものだから。『SRS・DX』はターザンの狂い咲きで「PPJ」とか「活字バラエティー」とかいろいろ編み出してるけど、オレはサダハルンバみたいに「これはすごいことになる！」とかなかなか性格的に言えないもんで（笑）。

吉田 谷川さんもよく自分で言えますよね、あれは本当に感心する（笑）。でも、あれをやれば読者もだんだんその気になってきますよね？

山口 なるんだよ、本当に。やっぱ『紙プロ』に足りないのはあれだろう。

吉田 自画自賛すること（笑）。

山口 そう！　自画自賛する勇気（笑）。自分で自分のことを褒めてりゃ、なんかモチベーション高いように見えるもん。

吉田 ネットの書き込みで凄いのがあったんですよ。PPJの話で「本来なら、PPJは山口日昇や吉田豪が思いつかなければいけない！」って（笑）。あれは最近一番の衝撃でしたね。「オレだったのかなあ？」って（笑）。

山口 「プロフェッショナルなんとかポイント！」って思いつくのやだなぁ（笑）。

吉田 ボクが試合リポートの話をするなんて、考えただけでも偉いですよ（笑）。

山口 でも、ターザンは、ああやって仕掛けていく姿勢は素晴らしいよね。

ノブ と、いうことで流行語大賞は「PPJ」にしちゃいますか？（笑）

山口 ガハハハハ！　「PPJ」にしよう（笑）。「PPJ」でいいよ（笑）。

吉田 ボク内で流行ったのは船木の「おら死なねばダメだ」ですけどね（笑）。

山口 『海人』に書いてあったヤツか（笑）。

吉田 万引きやったことを反省して「おら死なねばダメだ」って（笑）。

山口 ガハハハハ！　流行語大賞じゃなくて、マイブーム大賞じゃんか、これ（笑）。

ノブ じゃあ、公式見解としては「バカヤローッ！」でいいですか？

吉田 『猪木祭り』のときの、締めの「元気でッ！」も捨てがたいけどね。

ノブ というわけで、「バカヤローッ」にします。これにて『紙プロ』ワースト大賞も全部決まりましたね。おつかれさまでしたーっ！

山口 「元気でッ！」

【01年1月15日、ダブルクロス事務所にて収録】

流行語大賞
⬇ノミネート作品

「バカヤローッ！」（アントニオ猪木）
「馬鹿になれ」（アントニオ猪木）
「元気があれば子供も出来る」（アントニオ猪木）
「自腹やぞ、自腹！」（前田日明）
「顔じゅう○ン○ンのような顔」（前田日明）
「ロスで愛人を囲う金があったら、選手のギャラを上げてやれ！」（前田日明）
「言うちゃ悪いけど」（1編集長）
「裏原宿プロレス」（1編集長）
「認めん！」（藤波辰爾）
「エーッ、本当なの？」（藤波辰爾）
「（長州力は）カブトムシのメスに酷似」（小川直也）
「もう一丁！」（高田延彦）
「死ぬかと思った」（船木誠勝）
「またぐなよ！」（長州力）
「後藤だなぁ？」（柴田惣一）
「今風」（三沢光晴）
「小川ぁ～！何で村上に襲わせたぁ～！」（橋本真也）
「橋本真也34歳負けたら即引退スペシャル」（ワールドプロレスリング）
「ハッキリ言ってこの人（ターザン山本）は馬鹿である」（金沢克彦）
「クリス・ドールマン、20対10！」（アローナvsコピィロフ戦の判定アナウンス）
「（選手の大量離脱は）狐につままれたような気持ちです」（馬場元子）
「オレの名前を言ってみろ！」（佐々木健介）
「レフェリー、止めるの早いですよ！」（辻よしなり）
「ヒクソンと闘わせてくださぁ～い（号泣）」（入江秀忠）
「藤波はコンニャクだから！」（永源遙）
「んなこたぁどーだっていいんだよ！」（高木三四郎）
「1回につき3時間も入れっぱなしで、しかもそれを1日3～4回求めてくるんです」（青山ちはる）
「（『PRIDE.10』には）お前が出ろ、このバカ！」（ケンドー・カシン）
「オ～、イェ～！」（ジャイアント落合）

★緊急ノミネート作品★

「新プロレス」（紙のプロレス）
「PPJ」（SRS・DX）
「活字バラエティー」（SRS・DX）
「おら死なねばダメだ」（幼少期の船木誠勝）

★今号のラインナップ★
●花くまゆうさく
『リングの汁RADICAL』
●掟ポルシェ（ロマンポルシェ）



今回は馬場、猪木に毒舌集中砲火!!

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida
構成&撮影／坂井ノブ
text & photographs by Nobu Sakai



リアル人間爆弾発言、再び

ミスター・ヒト 後編

前号でブッちぎり大反響の超危険インタビュー

世紀末最大の危険書『クマと闘ったヒト』（メディア・ファクトリー刊）でプロレス業界に爆弾を投下したミスター・ヒトが、本誌前号での危険トークに続いてまたもや業界のタブーをぶっちぎる！　他の専門誌ではタブーな内容も、プロレスラーOBであるヒトにはノー問題！　一体プロレスは何がホントで、何がウソなのか、非常に考えさせられる内容になっていたのではないだろうか？　本誌もギリギリの線まで戦慄の内容を明らかにしてみたが、ズバリ言ってこれを信じるか否かはアナタ次第。それほどまでにヒトのトークは刺激に満ちあふれている。というわけで、長州力に対する謎の伏せ字が読者のみならず関係者の間でも話題を呼びまくった前回の記事に続いて、今回もヒトのトークは鉄板なみの熱さである！　まずはジャパン時代に深く関わっていた「長州力とは何か？」についてズバリ聞いてみました！

君も手に職を持たないか！

——ズバリ聞きます。ヒトさんと長州さんの仲って、どうなんですか？

ヒト　仲のいい時期もあったけどな。

——いまは悪いんですか（笑）。

ヒト　5、6年前かな、オレが姫路の体育館まで遊びに行ったんだわ、まだ馳（浩）がいた頃や。橋本（真也）選手とか武藤（敬司）選手とか蝶野（正洋）選手とかは「安達さん！　控室入って下さいよ！」って、みんな集まって来てね。だから笑わしてワイワイ言ってたら、長州力が来たんよ。「安達さん、すみません。控室はマズイんですけど。出て下さい」って言われてな。「あっ、ごめんごめん」って出て行ったのよ。そこで「こいつ、なんだろう？」って思ったのよ。

——「控室には部外者を絶対入れない」っていうのが、長州さんのモットーですからね。

ヒト　そりゃ確かにいいことなんだけど、オレはマスコミじゃないんだから（笑）。控室に入ったたって、誰も文句言う奴いないじゃない。

——ヒトさんに聞かれたらマズいことでもあんのかってことですよね（笑）。

ヒト　オレがSWSにいた頃もこんなことがあったよ。新日本の後楽園大会があったから、馳に会いに行ったんだよ。ちょうど「SWSが選手を引き抜くらしい」って噂が流れてた頃でね。そしたら長州選手がサッと来て、「三銃士は頼むから、抜かないで下さいよ」って言ってきたのよ。「何言ってんだよ、長州さん。オレが抜く時はちゃんと先に言ってから抜くから」って答えたけどさ（笑）。

——ダハハハハ！　やる時は堂々とやるわけですね（笑）。

ヒト　そんなスネイキー（卑怯）なことはしないから。抜く時は先にワーッと発表して「これから抜きますよ！」って言ってから抜きますよ（笑）。オレは裏では絶対に走らない男だから。

——何か頭にくるような理由があったら、キッチリやるわけですね。

ヒト　そういうこと（キッパリ）。何もない相手には、やる必要ないもの。

——裏切られたらやりますよと。

ヒト　やり返すだけだよ。『カンバックの安達』って昔は言われてたくらいだから（笑）。まあ、いいわ。お好み焼けたから、食べてよ。

——わあ！　すごい美味そうですね！

ヒト　（自慢げに）これは美味いですよ！　牛肉のモツ入ってるの。瓶ビールでいい？

——あっ、ありがとうございます。

ヒト　高千穂（明久＝カブキ）さんの店、行きました？　そこも繁盛して忙しいらしいんだって？

——店が小さいから、予約しないと入れないぐらいなんですけどね。（お好み焼きを食べて）やっぱり美味いですよ！

ヒト　（嬉しそうに）美味いでしょ。

——それでですね、そろそろ馬場さんのことをうかがいたいんですが。

ヒト　あの連中のことはわからん（キッパリ）！

——ダハハハハ！　あの連中というのは、馬場さんと元子夫人のことですよね？

ヒト　一言で言ったら、ズルイ（キッパリ）！　あのオバハンは言ったら頭良くないよ（キッパリ）。



今回は残念ながら掲載できなかったがマサ斉藤さんとの因縁話は壮絶の一言！　さらには衝撃の新事実も発覚！　そのへんはヒトさんが今年出版する予定の単行本に掲載予定とか。

——あ、そうなんですか？

ヒト　あれ、三沢（光晴）が全日本の内情をみんな喋ったら、ものすごいことになるよ！

——お金の流れに問題があったことまでは言及してますけどね。

ヒト　だから三沢が、なんで全日本を嫌になったかって言ったら、三沢が継いだ時にはもう全日本は借金を抱えてたわけだよ。その借金もちゃんときれいにして出て行ってるのに、あのオバハンが文句言う必要なんてないわけだよ。そうでしょ？

——当然の話ですよね。

ヒト　それなのにジャイアントサービスは儲かってるわけだよ。

——つまり、元子さんが社長をやっている全日グッズ販売の会社ですね。

ヒト　もっと調べたら、いっぱいあると思うよ。オレはそこまでよう調べんけど。保険の問題だって知らないでしょ？（この後、H選手の保険金が●●●に入ったという話やT選手は奥さんまで知らない間に●●●●によって保険に入れられて、それが元で退団した話など、あまりに危険過ぎて誌面に出来ない話を連発！）。

——それって『ダヴィンチ』（メディアファクトリー刊）では名前を挙げて書いてましたよね？

ヒト　それは編集者に調べさせたから（キッパリ）。

——うわ！　つくづく怖ろしい世界ですねえ……。

ヒト　そんなこと言ったら、オレなんか馬場さんには3回ぐらい騙されてるからね。騙された本人が言うてんねんから、みんな本当のことだよ！

——当事者が言うんだから、しょうがないです（笑）。

ヒト　やっぱり今のプロレスをこういう体制にしたのは、猪木さん馬場さんだよ。あの人たちがいつまでも辞めなかったから。

——それで次の世代に繋げなかったってことですよね。

ヒト　あんなのプロレスをもっと上にあげてこうと思ったら、やっぱり30代前後の奴を上に上げなきゃダメになるに決まってるよ。

——それで悔しい思いをしたはずの人達が、また辞めないわけですよね。藤波辰爾さんとか長州さんのように（笑）。

ヒト　そうそう。辞めなくてもいいわけ、プロレス楽しいから。でも、ある程度の年齢になったら、永源（遙）みたいに真ん中か下をやらなきゃ。

——もしくはラッシャー（木村）さんですね。いかに上のポジションから降りて行くかっていう。

ヒト　そうなんだよ。だけど、天龍（源一郎）選手だけはちょっと違うで。あの人50歳でも、いまの50歳の体が一番ごっついからな。

——天龍さんは試合でも喋りでも、相変わらず完璧ですもんね。

ヒト　そりゃ、もう素晴らしい！　あんなもんとっくに猪木さん、馬場さん越えてますよ！　あれはもう完璧！　それに豪快だしね。

——いまの全日本プロレスだと、川田（利明）さんなんかはマスコミ向けのコメントもかなり下手じゃないですか。そういう中で、天龍さんはちゃんと謎かけしてみたりとかするから「上手いなあ」って思うんですけど。

ヒト　あの人は修羅場をくぐってきてるからね。自分の会社作ってさ、人に任せていろいろひっかけてな。だけどやっぱり言ってることは理に

カール・ゴッチ？ 1年半も一緒に練習したけど プロレスには何の役にも立たないよ！

昭和プロレスの凄みに触れる実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

適ってる。いま、天龍選手がプロレスラーやったら一番ですよ。

——あそこまで頭を使う人って、結局まだ下の世代に出てきてないと思うんですよね。試合とか上手いんだけれど、喋りが足りなかったりしてバランスが取れていないし。

ヒト それにプロレス大事にしている！ ぶっきらぼうだけどね。あの人の偉いのは、相撲だって黙ってりゃ関脇ぐらいまでなった人やけども、そんなことはおくびにも出さないでしょ。あの人は人生がプロレスの男だから。〝ミスター・プロレス〟ってキャッチ・フレーズは誰がつけたのか知らないけど、上手いことつけたよ。

——それで電流爆破も出来るし、女子とも闘えるし（笑）。

ヒト そんで悲愴感があるもん。あの人ぐらいだけでしょ、悲愴感あるのは。恐さもあるでしょ。

——数少ないですよね、現役レスラーで目の前に行くのが怖いなって思う人って（笑）。

ヒト そうでしょ。素晴らしい人だよ。高木功（現・嵐）もいい選手なんだけどな。最近、あまり名前を聞かないけど。

——嵐さんも、いろんな意味で面白いですよね（笑）。

ヒト ごっつくて、空飛べるしな。なんでアメリカ行かないのかな？ アメリカ行ったらトップだよ、そんなもん。

——ト、トップですか？

ヒト あれは素晴らしいレスラーやで（しみじみと）。

——喋りも上手いですよね。

ヒト （即座に）頭良いもん。そんでね、噂だけ先に進み過ぎてんねん。

——全日時代に「練習しない」とか、悪い噂が流れてましたもんね。馬場さんがテレビ中継の解説中に「高木は全然練習しない」とか言っちゃうわけじゃないですか（笑）。

ヒト （吐き捨てるように）自分はもっとしないくせに！

——ダハハハハ！ そりゃそうです（笑）。

ヒト あの人、練習には来て教えるけど自分で練習はしないよ。「安達、お前ヘッドロック上手いから、お前投げてやれ」とかいう感じだから。

——日プロ時代はどうだったんですか？ カール・ゴッチが来日して、コーチをやってた頃とかは？

ヒト あの頃、練習行く選手の中ではオレと永源が一番上だったな。ゴッチと1年半も練習やらされたんだよ！

——それは地獄のようですよね（笑）。

ヒト あの頃は上の選手なんか誰も来なかったよ。（グレート）小鹿さんも高千穂（明久＝ザ・グレート・カブキ）さんも、誰も来ないよ。オレと永源と（サムソン）クツワダ、（タイガー）戸口、木戸（修）なんか毎日行かされたよ。しかもカール・ゴッチなんか1分遅れたらだけで道場の鍵を閉めやがるんだ！ それまでオレをものすごい可愛がったんだけどね、オレがなんでも言うこと聞いてたから。そのうち木戸選手が入ったんだよ。そしたら彼は一生懸命やってたから、ゴッチもかわいがったんだろうな。

——いまだにマイ・サン（＝私の息子）って言ってますからね（笑）。相当かわいがってたんでしょうね。

ヒト そうやね。ちょうどその頃、ちょっとオレとクツワダが練習に遅れたら中から鍵を閉めんだよ。頭にきたから若いもんに「開けろ！」って言って開けさして、入るじゃない。そしたらカール・ゴッチが「早く来い！」って言って10キロのダンベル2つ持ってきて「千回スクワットしろ！」って言うんだよ！

——ダハハハハ！ ムチャクチャ膝おかしくなりそうですね（笑）。

ヒト 膝おかしくなるし、肩から背中からパンパンになるよ（笑）。でも、やらなきゃしょうがないじゃない。だから、数をごまかしてやったんだけど。それを戸口が告げ口しやがんだよ！ あいつは英語をしゃべれるから（笑）。

——告げ口！ まさにミスター・ダブルクロスですね（笑）。


若い頃から、ミスター・ヒトとは因縁を持つヒト。「だから相撲上がりは」という発言に猪木の相撲嫌いの原点を見た！

ヒト それでクツワダが怒って、戸口をブン殴ったら、泣き出しやがるしさあ（笑）。あのときは参ったよ。

——泣き出しましたか！ よくわからないけど、戸口さんらしいエピソードですね。

ヒト それで、今度は戸口が泣いてるのを見つけたカール・ゴッチとクツワダが殴り合いになっちゃったんだよ！

——もう地獄絵図ですね（笑）。

ヒト クツワダがバンバーンっと「安達さん、こんな奴やっつけてやる！」ってバンバンって突いてボーンとやったら、カール・ゴッチはドーンともんどり打ってひっくり返ってさ。クツワダがまだ殴ろうとしてるから、オレは「やめろ！ このおっさんはいつもナイフ持って歩いてんねんから」って止めたよ。いつもナイフ持って歩いてるからね。

——ゴッチさんがですか？

ヒト だから自分の負けになったら、突くぐらいのことはするオッサンだから。

——うっわぁ、タチの悪いオヤジですね（笑）。

ヒト それが〝プロレスの神様〟みたいに言われてな（笑）。オレなんか1年半習ったけど、なーんの役にも立たなかったよ（キッパリ）。

——「プロレス」には役立たないと。

ヒト ホントだよ！ オレは、すぐあのオッサンから逃げたからアメリカで食っていけたのよ。

——確かに。息子のように可愛がられた木戸さんが今の立場ですからね（笑）。

ヒト そうでしょ？ 木戸選手は日本だから食っていけるけど、あのままアメリカ行ったら食っていけないからね。顔の表情が出来ないと。

——つまり表現力の部分ですね。

ヒト 前田日明選手だってみんなそうじゃない？ そういう選手が格闘系にいってるんだよ。一番ズルイのは藤原（善明）選手だよ。藤原選手はどんなプロレスも出来るからさ。

——ベタベタなプロレスも出来ますもんね（笑）。

ヒト それでプロレスラーとしては不完全な選手ばっかり育ててるでしょ。間違ってるよなあ、本当に（しみじみ）。

——ダハハハハ！ 不完全ですか（笑）。

ヒト いざとなったらサッと自分だけプロダクション作って、知らんふりするんだもんな（笑）。

——藤原さんも自分でも言ってますもんね「オレが育てた奴らは、みんな途中で天狗になって〝オレこそが強い〟みたいになってる」って。

ヒト そんなのは育てる方が悪いよ。

——最近気付いたみたいですけど（笑）。

ヒト まったく、アホやな（笑）。オレなんかSWSの時から言ってたんだから。「あんたがコントロールしてやれよ」って言ったのよ。

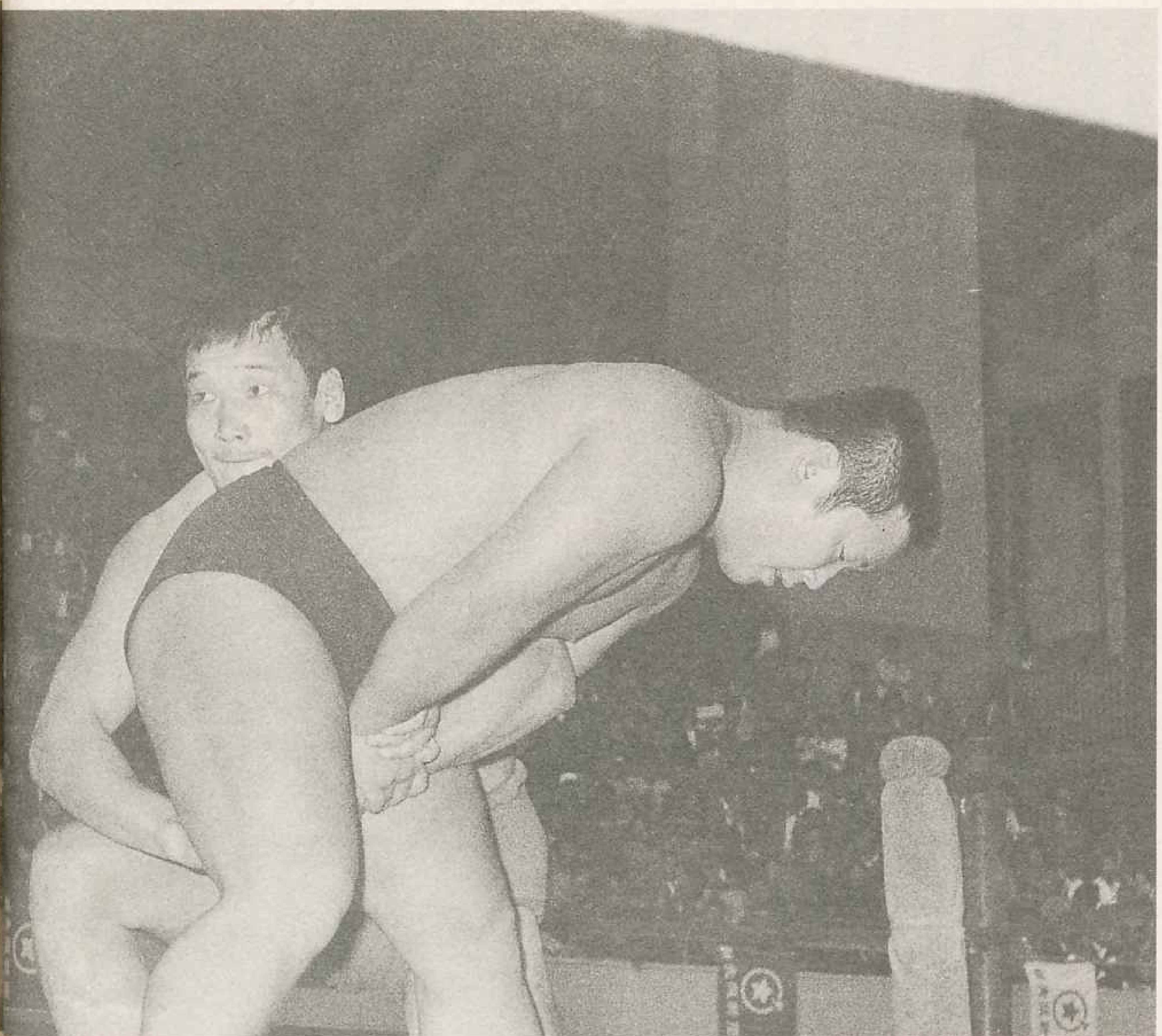
——当時の藤原組にいた、船木（誠勝）さんとか鈴木（みのる）さんとかのことですね？

ヒト そう、そう。試合したって相手の技を受けないから。プロレスって、相手の攻撃を受けてナンボなのに。「まあ、そういうスタイルはスタイルでいいからね、あんたが親分なんだからちゃんと話して、SWSではきちんとしたプロレスをやりゃいいじゃないか」って言ったのよ。そしたら、「いや、だめだ。言うこと聞かない」って。だったら「聞かせろ」っていうの（笑）。

——ダハハハハ！ どっちの団体が金を払ってるんだか、わかりゃしないですね（笑）。

ヒト そうだよ。藤原選手は決して頭が固いわけでも、頭が悪いわけでもないし、面白い男だけどね。ああいう選手を育てちゃダメだよ。

——確かに、藤原さんが育てた選手はみんな頭



が固いと言えると思うんですよね（笑）。

ヒト　そう、そう（笑）。

——アポロ（菅原）vs鈴木みのる戦っていうのはどうですか？

ヒト　オレはあの試合を見てないのよ。でも、あんなもの受けないから試合にならないよ。鈴木みのるだって天狗になって、今はそんな強くないんでしょ？

——今はさすがにそうですけどね（笑）。ちなみにヒトさんがいままで闘った中で強いと思った選手はいましたか？

ヒト　誰やろうなぁ？　カルガリーでのオレは用心棒みたいなこともやってたんだよ。

——具体的にはどういうことですか？

ヒト　スチュ・ハートにかわいがられてたからさ、その恩返しじゃないけどアメリカから生意気な選手が来たら、ハート・ファミリーの地下室道場でグワーンとやっつけてね（笑）。

——いわゆるポリスマンですね！

ヒト　ほんで余計にスチュ・ハートは認めてくれたんじゃないかな？　そういえば、コシロ・バジリ（＝アイアンシーク）って知ってる？

——ええ。アイアンシークでしたっけ？

ヒト　あれなんかグレコローマンのアメリカのチャンピオンだよ。だからみんな震えてるんだよ。それとオレが練習やって、アマチュアレスリングをやったら、さすがに一瞬的にカタつけられたのよ。「オレが勝った！」って言ってる。「それで勝ったのか？」って言ったら「何やってもいい」って言うわけ。もうナメてんだよ。「じゃあ、もう1回やろう」って言って。そこにステュ・ハートが来たのよ。

——「何でもあり」をやってる最中に、ですね。

ヒト　そこでオレ、ガーッと相手の首に手を巻いて固く腕を極めて股の間に足入れて、やぐら投げでダーンと落として、その上にガーンとのっかってやったのよ。そしたら「これはおかしい？」ってまた来たから、今度はタイツ掴んで、ダーンとまた投げて（笑）。

——ひたすら投げまくった、と（笑）。

ヒト　それまでステュ・ハートは「コシロ・バジリはバーン・ガニアから預かった選手で、強いんだろう」と思ってたから。全然練習にも来なかったしね。でも、ひとたび「弱い」と思ったら、そいつをつかまえて2時間クシャクシャにやっつけてたよ（笑）。

——ダハハハハ！　これなら勝てるって（笑）。しかしスチュ・ハートもタチ悪いですねぇ。

ヒト　ステュ・ハートはオレのこと強いって知ってたから、オレには絶対かかって来なかったもん。オレもたいしたことないんだけども、ハッタリかましてたから（笑）。

——ハッタリでしたか！

ヒト　ところがあのオッサンがコレ（シュートサイン）の話したら3時間つかまるんだよ。コレの話がものすごく好きなの（笑）。

——そうなんですか（笑）。

ヒト　カール・ゴッチの名前はなぜか出て来ないの。ルター・レンジとジョージ・ゴーディエンコ。ルター・レンジっていう昔の黒人でものすごく強いのがいたの。他にもオリンピックに〝7人衆〟って呼ばれてた選手がいたらしいんやけど、そのうち6人はプロレスラーになって一世を風靡したレスラーになってるんだけど、あと残りの1人はゴーディエンコのアニキだったんだって。

——本にも書いてましたけど、そうだったらしいですね。

ヒト　これが一番強かったらしいよ。

——ゴーディエンコより強かった！

ヒト　もっと強かったたって、実際に闘ったわけじゃないから何とも言えないけど。ただ、ジョージ・ゴーディエンコ自身もムチャクチャやで。あれほど強い人はいないっていうぐらい強かった。プロレスでは出世しなかったけど、今は絵書きとして出世してるらしいね。

——そうらしいですね。ラッシャー木村さんもいまだに「一番強いのはゴーディエンコだ」って言ってますからね。

ヒト　そうでしょ。でも、ラッシャー木村さんなんかはそういうところに遭遇してないからな。あの人はシュートの練習もそんなにしてない。

——だけど海外で素人の挑戦とかは受けたらしいですよね。

ヒト　そりゃ、受けた。でもあの人は優しいもん。クシャクシャってやる人じゃないもん。あの人も怒ったら強いだろうけど、怒らないもん大体。

——ええ。そうでしょうね。ちょっと話を日プロ時代のゴッチ道場に戻しますけど、ゴッチさんというと猪木さんのイメージが強いんですが、馬場さんもそこには参加してたんですか？

ヒト　馬場さんなんか全然来ないよ。公開練習だっていうのに来ないんだから！

——まあ、馬場さんがゴッチ教室にいたら驚きますけどね（笑）。

ヒト　控室で30キロのバーベルをベンチプレスでやってるだけだもん。30キロなんかやるなよ（笑）。やらない方がいいのよ。

——そのぐらいの重さだったら（笑）。

ヒト　昔は練習やったらしいけど、そんなもん俺は見てないもん（笑）。

——スクワット3千回やって下に水たまりができたとか、馬場さんも言ってたじゃないですか。

ヒト　（ぼつりと）嘘だって。

——ダハハハハ！　そうなんですか！

ヒト　腕立て1回もできないのに。

——でも、そんな馬場さんがプロレスは上手いわけですよね、体力的なものは足りなかったとしても。

ヒト　そう！　猪木さんが馬場さんを越えられなかったのはそこなのよ。

——猪木さんはズバリ言って不器用ですもんね。

昭和プロレスの凄みに触れる実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

コシロ・バジリ（＝アイアン・シーク）が生意気だから、投げまくってやったよ

日本プロレス在籍時のミスター・ヒト。どことなく吉村道明に似ているのは気のせいか？ この頃は永源遙と行動を共にしている。



ヒト 不器用っていうか……相手を光らせることをしないんだよ。馬場さんは相手を光らせるのが上手いけど。

──猪木さんは相手光らせても、さらにもっと自分が光ろうとしますからね（笑）。

ヒト オレ、昔だけど田舎の方の大会で稲妻二郎さんと組んで、馬場さん&デストロイヤー組とタッグマッチやったことあるの。俺が馬場さんにヘッドロックを掛けたら、ロープにふられて十六文キックがきたのよ。オレ走って受けようと思ったけど、当たった瞬間に向こうの方がひっくり返ったもんな（笑）。

──ダハハハハ！ 当たり負けしちゃったんですか（笑）。

ヒト まだ、元気な時やで（笑）。「この時や」と思って馬乗りになって殴っていったら、逆にオレの手が痛かったもん。●●●がひどくて痺れてるから、あの人は痛くないんだよ（キッパリ）。

──馬場さんの強さの秘訣はそれですか（笑）。

ヒト あれは●●●の末期症状だ（キッパリ）。あの人は30歳ぐらいから、ものすごく悪かったんだから。薬であそこまでもってたようなもんや。23ぐらいで●●●で●●●●なったって話だよ（笑）。

──ダハハハハハ！

ヒト だから元子さんがああなったの。●●●●●●●●とも仲良くなっちゃって（笑）。

──えっ！ そうなんですか？

ヒト ●●●さんですよね（笑） そう。それが原因で●●●●●●●●が全日を切られたんだ。

──えっ、どういうことですか？

ヒト （嬉しそうに）あのね、●●●はハワイに住んでたんだよ。1年に4、5回馬場さんとこ来てたんだけど、ある日突然切られちゃったの。

──それには理由があったわけですね。

ヒト そう！ 元子さんが●●とハワイに●●●て、どうやら●●●●しようとしてたらしいんだよ。

──いわゆる●●●●ってやつですか？

ヒト それを●●●●がチクったわけ。そしたら、それで切られたんだから。

──そんな怖ろしいことがあったんですか！

ヒト まあ、元子さんのこと、井上君からこないだ聞いたんよ。

──マイティ井上さんですか？

ヒト そっちも知ってるでしょ？ 引退するときに、馬場さんが井上選手にリングの上で金一封渡したのよ。お客は馬場コールしたらしいけどね、「馬場ーっ！」って。で、控室に戻って中を調べたら、百万円分ぐらいの紙の束が入ってただけで、金なんか何にも入ってなかったらしいよ。

──それは、後でお金を渡すつもりだったんじゃないんですか？

ヒト そう思うでしょ？ 井上選手も、まさか「金入ってなかったんで下さい」とは言えないでしょ？ そしたら結局、馬場さんは亡くなってしまってそのまんまらしいよ。

──じゃあ、「馬場さんが金一封あげた」っていう形だけ残って（笑）。

ヒト そう、みんなにそう思われてね。馬場さんっていうのはそういうとこあるんだ。オレのことも正直に話すわ。デービーボーイ（・スミス）とダイナマイト・キッドを日本に送り込んだとき、馬場さんはオレに「1万ドルやる」って言ったんだよ。功労金としてね。オレがカルガリーで彼らにメシを食わせたりしてたんだけど、そういう金は一切請求してなかったから。

──当時は2人とも、カルガリーで活躍してたんですよね？

ヒト そうだよ、凄かったよ！ でも、全日本でカルガリーの倍のギャラ出してくれるっていうから、オレも一緒に日本に行くことを条件にOKしたんだよ。

──馬場さんと約束したわけですね。

ヒト それで日本に行って3～4日の頃、小鹿さんと馬場さんとオレがコーヒー飲んでる時に「安達、お前ダイナマイトとデービーボーイにメシ食わせて酒まで飲ましてるそうじゃないか？」って聞くからさ、「そうですよ、酒も女も世話してますよ」って答えた。「ああ、そうか。大変だなぁ」って小鹿さんが馬場さんの前で言ったのよ。そしたら、馬場さんは次の日、ホテルのたくさん人がおるとこで、オレに声かけてくるんだよ。「（馬場さんのマネをしながら）おお、安達！ お前ダイナマイトとデービーボーイにメシ食わせて、金かかるだろう？」って言って30万円ぐらいポーンとくれるんだよ。

──それで、また馬場株が上がるわけですね（笑）。

ヒト そうよ！ でも、みんないるとこでだよ！ こっちは金をもらったから、その日は「飲みに行くぞ！」ってなるじゃない？

──まあ、なりますよね。

ヒト 1万ドルはあとでくれるって言ってたから、それとは別のボーナスみたいなもんだと思って結構パーッと使ってたんだよ。そんで馬場さんもしょっちゅう、最低でも30万円くれるのよ。50万円もくれた時もあったな。

──おそろしく気前いいですね。

ヒト そんなボーナスもらったら気前よく使うよな？ そしたら、その金は例の1万ドルから前借り扱いにされてたんだよ（笑）。

──ダハハハハ！ 知らない間にですか（笑）。

ヒト ある日、金をもらいに行ったら「安達、お前ちょうど1万ドル使ったから、ボーナスとして千ドルやるわ」って言ったんですよ。だから「え～？ 馬場さん、あんたいい加減にしないよ、それはないでしょ！ そんな約束の金を人のいる前なんかでくれるな！」ってオレは文句言ったよ。天龍選手も「そりゃ文句を言いにいった方がいいよ、安達さん」って言ってくれたよ（笑）。

──天龍さんも、そういう面での不満はたまってたんでしょうからね（笑）。

ヒト オレは天龍選手好きだよ。あの人はいろんな面で丁寧にし過ぎるから、すぐに金なくなるけど。だから、いま全日本に入ったけど、それはそれでいいことだし。ただ、元子さんが苦し紛れにやってること、あれは悪いよ。天龍選手が働くことに、オレは別に文句は言わない。食っていかなきゃダメなんだから。奇麗事言ったって背に腹は代えならない。そうでしょ？

──ええ。ちなみにヒトさんから見て、ジャンボ鶴田さんはどうでした？

ヒト 本当に素晴らしい人間だったね。あの人は、人の悪口言わなかったから。

──言わなかったですね。ただ、藤波さんにはちょっと厳しかったですけど（笑）。

ヒト ああ、そうでしょうね（アッサリ）。お互いに似たところ少しあるけど、藤波選手はとんでもないから（キッパリ）。

──藤波はとんでもない！

ヒト 自分の身を守るためには何でもする男だ



馬場さんが亡くなった後は夫唱婦随ぶりばかりが取り上げられていたが、そこに至るまでは修羅場もいくつかあったのだろう。きっと。

からね。あの人をみんな乗せようと思っていろいろやったこともあったけど、〝乗り落とし〟を平気でかます男だから。

——新日のクーデターの時ですか？（笑）

ヒト　何のときでもそうだよ！　とにかく逃げるのが早いから。

——永源さんは、そんな藤波さんのことをコンニャクって言ってましたけどね（笑）。

ヒト　オレなんか藤波に「ダイナマイト・キッドを新日本に行かさないでくれ」って頼まれたから、カルガリーからわざわざバンクーバーまで自費で行って、ほんで控室で話までしたんやぞ！　ダイナマイトもいいヤツだから「ヒト、見とけ。オレは絶対新日本には行かないから」って言って、新日本からきたビザ目の前で破ってゴミ箱に捨ててくてたよ。

——男気ありますねえ！

ヒト　もう涙こぼしたよ、オレ。

——それに比べて藤波さんは（笑）。

ヒト　その後、全然電話かかってこないんだよ。「どうなってんのかな？」って電話したら、「いや、仲直りしましたから」って。（テーブルを叩いて）そんなんやったら、早く電話してこいっていうの（笑）。一緒になってヤイヤイ言った者は大損だよ。

——ダハハハハ！　しかし、何度聞いてもいい話ですね（笑）。

ヒト　カルガリーに新間（寿）さんと一緒に来たときも凄かったぜ。試合のときはステュ・ハートのバスにみんなで乗って行くのに、「新間さんと一緒には行きたくない」って言うんだもん。わざわざオレが自分の車を運転して藤波を乗せていったよ。往復700キロも走って、そんで藤波選手はガソリン代を払うわけでもないし、何にもありゃしないよ。「新間さんと行きたくない」ってだけの理由で、何でオレがそこまでしなきゃいけないの。こっちはカルガリーで爪に火を灯すような生活してんのにさ。その後は知ら～んふりだもん。

——それはクーデターの頃の話ですか？

ヒト　もうクーデター直前の頃の話。そんでその前にタイガーマスクを辞めさせたわけ。

——あれは辞めさせたんですか？

ヒト　辞めさせたわけよ。そのあと知らんふりだもんな、辞めさせといてな。

——当時、タイガーマスクが全日に行くって話があったのは、そういうことなんですね。

ヒト　まあ、藤波選手も誰かにのせられてやるんだろうけども、そのあとのフォローを全然何もしないからね。

——そういうところに藤波さんの人望のなさの原因があるんですね（笑）。

ヒト　普通やったらものすごい、いい人に見えるんですけどね。

——昔は「プロレス界で数少ない常識人」って言われてましたもんね。

ヒト　でもアタマに『非』が付くんだよ、非常識人（笑）。オレなんか直接被害被ったの、それぐらいだけど。たとえば（獣神サンダー）ライガーとかも藤波に乗せられたこと、あったでしょ。

——伝説の『ドラゴンボンバーズ』ですね（笑）。

ヒト　西村（修）だってそうじゃない。西村も『無我』行ったはいいけど、何もなくなっちゃったし。信じた者にはたまったもんじゃないよ（笑）。そんで、何かあると知らんふりだろ。

——『無我』に若手いっぱい入れて、結局は知らんぷりみたいですからね。橋本さんの『ZERO-ONE』にリングごと押し付けようとしてるって噂もあるし（笑）。

ヒト　（ため息で）はぁ～っ……。彼はね、悪いというよりも頭がないんだよ！

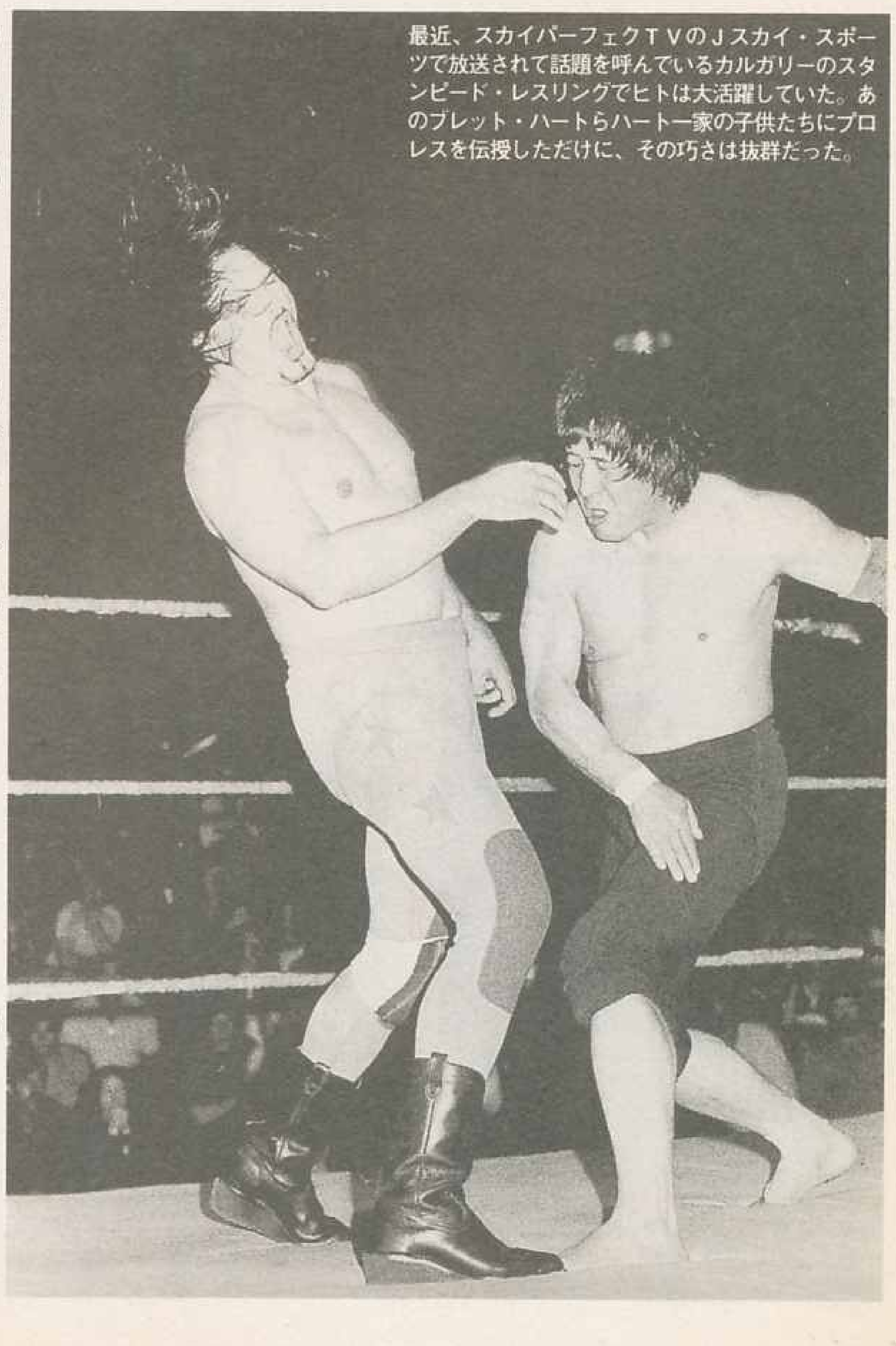
——なるほど！　頭がない！

ヒト　悪い人間だとか、そういう問題じゃないんだよ、多分。

——自分のことで〝いっぱいいっぱい〟なんですかね？

ヒト　他人の評価を自分で把握できてないと思うんだよ。だから、上手いこと坂口（征二）さんを追いやって、社長になった。それは本人が望んでそうなったものかどうかは知らないけど、結果的にはそれで嫁はんも喜んでるし、周囲もみんな喜んでハッピーなわけだよ。長州選手とか永島（勝司）さんとか倍賞（鉄夫）さんとか、藤波社長の横にいるもんはやり易いでしょ？

せっかく藤波を〝筆おろし〟させたのに猪木さんに文句を言われる筋合いはない！



最近、スカイパーフェクＴＶのＪスカイ・スポーツで放送されて話題を呼んでいるカルガリーのスタンピード・レスリングでヒトは大活躍していた。あのブレット・ハートらハート一家の子供たちにプロレスを伝授しただけに、その巧さは抜群だった。

——いい弾避けになるわけですね。

ヒト　そうそう。なんかあったら、藤波選手に任せればいいんだから。橋本選手の問題にしたってそうでしょ。猪木さんが面倒見ないもんだから。猪木さんがああいうふうにしといて、猪木さんが面倒見ないもんだから。

——ダハハハハ！　ちょうど話が出たので、次は猪木さんのことも聞きたいんですけど。ヒトさんは猪木さんもかなり嫌いなんですよね？

ヒト　嫌いというか……、まともな人は大好きだよ。でも、悪い人のことは本当のことを言わなきゃね（笑）。

——悪い人！　まあ、猪木さんは確かにまともじゃないですもんね（笑）。

ヒト　実は藤波選手を猪木さんの付き人にしたのは、オレと北沢（幹之）さんなんだよ。

——もともと、人のいい北沢さんが藤波選手の入門を認めたんですよね。

ヒト　そう。それで住む所がなかったから、オレと永源のアパートに連れて来て面倒見たの。それで「誰につけようか？」って話してたら、北沢さんが「猪木さんに付けましょう」って。オレも「いいですね」って。それで猪木さんに付いた。そしたら、もう大変だったよ。まず、猪木さんは洗濯代も渡してない。藤波選手はもらわないのが当たり前だと思っていたけどね。

——いわゆる小遣いみたいなものですね。

ヒト　オレなんかは吉村道明さんに付いてたからもらってたんだよ。吉村さんはちゃんとした人だから、普通のサラリーマンの給料ぐらいの洗濯代はくれたよ。

——素晴らしいですね！

ヒト　いや、それが普通なんだよ。ホントはそこまでくれる必要ないけどもね。それで自分のパンツからなにから洗ってくれるんだから、まあ普通の感覚でしょ。オレに言わしたら、それぐらいやらなきゃ人なんか使ったらいけないんだよ。でも猪木さんはそうじゃなかったね。

——猪木さんは、その頃から事業の失敗とかで

★今号のラインナップ★
●花くまゆうさく
『リングの汁RADICAL』
●掟ポルシェ(ロマンポルシェ)

昭和プロレスの凄みに触れる実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

借金はあったみたいですからね。

ヒト その時分でも猪木さんはタニマチに呼ばれても、若手から「千円か2千円ないか?」って言って、若いもんからタクシー代持ってったような人だから。そんで返さないし(笑)。

――猪木イズムですねえ(笑)。

ヒト でも、オレが決定的に猪木さんを嫌いになったのは、藤波選手が入ってから1年半ぐらい経った頃かな。彼も一生懸命頑張ってたから、何かしてやろうってことになってね。金沢の温泉旅館に泊まったとき、そこで「藤波、お前女の味知ってるか?」って聞いたんだよ。

――中卒で入ってるから、その頃だと17歳ぐらいですか?

ヒト そうだよ。それで「知りません」っていうからさ、「よし、筆下ろしさせてやるから」ってオレと永源で企画して、みんなからカンパしてもらって。

――ダハハハハ! プロレスらしくていいですよねえ、そういう上下関係って(笑)。

ヒト 小鹿さん、星野(勘太郎)さん、山本(小鉄)さん、上田(馬之助)さん、みんなから7、8万集めたんだよ。芸者には「こいつ一生懸命やるからさ」って言って3万ぐらい渡して、あと飲み代とメシ代とホテル代で全部で7、8万かかったのよ。それで藤波選手も、猪木さんが起きる前に帰って来て、付き人の仕事もちゃんとしてたよ。オレらは「藤波にいいことしたなあ」って喜んでたの。

――そりゃ、いいことしましたよ!

ヒト でも、オレらはそのこと猪木さんには言ってないから。そしたら2、3日して上田馬之助さんと飲んだ時に「猪木さん怒ってたよ」って言うんだ。

――馬之助さんがですか……?

ヒト (ぼっそりと)チクってた。

――ダハハハハ! それもやっぱり馬之助イズムですね!

ヒト オレも「なんでですか?」って聞いたよ。そしたら何て言ったと思う? 「17のヤツに女の味覚えさせやがって、それであいつら喜んでやがる。相撲取り上がりはホントに馬鹿だ!」って言って、怒ってるっていうんだよ!

――でも猪木さんも大木(金太郎)さんに連れられて17歳で童貞喪失してるんだから、どっちもどっちの話だと思うんですけどね(笑)。

ヒト みんなそうなんだって! 男なんですよ、オレ達は。奇麗事言うわけじゃないけど、藤波選手にしたって苦労してるから、たまにはいい思いもさせてあげたいと思ったのに。


カルガリーの自宅では、日本からプロレスラーの面倒も見ていたヒト。世話になったレスラーは数知れずいる。並々ならぬ貢献度だ。

――そういう話、ボクは大好きなんですよ。(ドン)荒川さんとかが若手に筆下ろしさせるとか、そういう伝統があるから「プロレスっていいな」と思うんですよ(笑)。

ヒト そう、いいことだよ! 山本さんなんかもそういう人で、若手の靴が破れてたら「靴買ってこい!」って金を渡すような人だからな。相撲取り上がりでもないのに、相撲取り以上に相撲取りらしさがあるわけよ、あの人は。他にも、星野さんや林牛之助さんとか素晴らしい人だったもん。

――それにひきかえ猪木さんは、と(笑)。

ヒト それはホントにアタマに来たね。オレもその話を聞いたときに言い返したよ。「上田さん、今度、猪木さんに言って下さいよ。『オレは礼は言われても、文句を言われる筋合いは絶対にない』」ってね。腹ん中でなんぼそう思っていても、「安達、うちの若い衆によくやってくれた。悪いな、ありがとうな」って、それが普通の人間の台詞じゃないのか!

――おっしゃる通りです(笑)。

ヒト そう言ったら「(馬之助のマネをしながら)そう、そうやなあ、安達君」って(笑)。あの人はいっつもそうなんだよ!

――馬之助さんらしいじゃないですか(笑)。

ヒト いちいちチクるなって言うんだよ! 藤波本人が喜んでりゃ、それでいいんだから。そんなもん、オレが猪木さんに「藤波の若い頃、オレたちが筆おろししてやったんですよ」なんて、後から言いに行くもんじゃないんだから。

――なんか馬場さんと猪木さんの分裂の原因となった日プロ時代のクーデターがなぜ発覚してしまったのか、これで原因が見えてきたような気がしますね(笑)。

ヒト 馬場さんと猪木さんは手は合わないけども、当時は「会社を乗っとろう」って一緒に言ってたんだからね。

――会社を乗っ取ろう、ですか!

ヒト ところが、猪木の計画が発覚した後の馬場さんの対応は早かった! パッと逃げたよ。そんで逃げる時にちゃんとオレらを味方にしてたもん。オレと永源とミツ・ヒライさんと小鹿さんと坂口さん、その5人をしっかり味方につけたよ。上田馬之助さんとか、先輩はいっぱいいたんだよ。なのにそっちの方には声を掛けずに、オレたちには「1人400万円ずつ出すから、日本プロレスに残ってといてくれ。オレは日プロを辞めたら、全日本プロレスを作るから。潰れたらこっちに来ればいいよ。これはそれの支度金で400万ずつやる」って言ったのよ。

――えっ! それは衝撃の新事実ですよ!

ヒト 馬場さんは、それほどオレと永源を大事にしてたんでしょ。オレたちが動けば、若いもんついてくると思ってたんじゃないの。それでオレら5人だけでもらったら悪いからっていうことで、オレと小鹿さんのアイデアで、みんな100万円ずつ出して日プロの芳の里社長に500万円渡そうって話もあったんだよ。実際、渡しに行ったら芳の里さんは怒ってたけどね。そんな金もらったところで日プロが潰れるのわかってるから(笑)。

――でも、その5人のメンバーは、ほとんど全日には行かなかったんですよね?

ヒト オレと永源は、猪木さんとは手が合わなかったけども、坂口さんとはものすごく手が合ったんだよ。それで坂口さんがオレと永源を新日に引っ張ろうとしてたのよ。その後、オレたちは海外遠征の話が来て、カンザスシティに行ったんだ。10ヶ月で帰ってくるつもりでいたんだけど、3ヶ月目ぐらいでオレはアメリカでも食っていけるのがわかった。そしたら日プロの芳の里社長と日本テレビの清水アナウンサーが来たんだ。清水さんは今は日本テレビの重役になってるけど、その人たちがオレと永源に「馬場さんのところに入ってくれないか」と言うわけだよ。

――でも、新日からも話は来てたんですよね。

ヒト その頃にはそっちに行こうと思ってたからね。でも、「契約してしてくれ」と言う。芳の里さんは馬場さんとこの役員かなんかになるつもりだったのかな?

――結局、断ったんですか?

ヒト いや、3~4日いたけど結論はなかなか出なかった。そのときはもう、オレも永源も本当は新日本行くつもりでいたからさ。「馬場さんからもらった400万円は、テレビ朝日から出るようになってるから、それで返しますから」って言ったんだけど。

――その辺はしっかりしてますね。

ヒト でも、馬場さんから金はもらったけど、契約も何も結んでないんだから返す必要はないんだよ。それで、「じゃあ永源は新日本に行って、オレは馬場さんところに残りますよ」って言ったら、「1人でもいいわ。安達残ってくれ」って。

――つまり、全日所属になってたんですか?

ヒト 入団したんだけど、1年契約で入ってくれってわけなんだ。だからオレは「アメリカに

昭和プロレスの凄みに触れる実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

いたら、その期間は契約期間に入らないんですか?」って聞いたのよ。そしたら「アメリカにいたって一緒だ、1年は1年だから」って言うから、「それでいきましょう」って。そのときに向こうが100万円持って来たからまたもらったけど、永源はちゃんと金を返したからな。あいつは金にきれいな男だよ。言っておくけど、小鹿さんとかミツ・ヒライさんとかはそのときの金を返してないから!

――ダハハハハ! そうでしたか(笑)。

ヒト 永源は他所に行ったから。だけども普通返さなくていいんだよ。馬場さんこう言ったんだから。「(日プロが)潰れたらプロレス辞めてもいいし、好きなところに行ってもいいよ。ただ行くところがなかったら、オレのところに来てくれ。この400万円は、その支度金だから」って。

――カッコいいですね! でも400万円を5人分ってことは2000万円ですか!

ヒト 馬場さんはあのとき日本テレビから億単位の金を引っ張ってんだから!

――億ですか!

ヒト そうだよ! だから400万円もらったとき、オレたちは「領収書を書かなくていい」って言われたんだよ。この意味、わかる?

――ええ、なんとなく(笑)。

ヒト そんなもん、裏はみんなオレわかってるよ(キッパリ)。多分、1人あたり2000万円で5人呼ぶのに1億円かかるって言って金を引っ張ってるはずだよ。そうでなけりゃ、馬場さんがそんな金を絶対に出すはずがない(キッパリ)。

――ダハハハハ! 人前では出すけど(笑)。

ヒト 人前では出すよ(笑)。あの人はね、自分の親を監獄からだすのも嫌なんだから。わかる? どういう意味か? 金を出すものは、たとえ肉親を監獄から出すのも嫌なくらいの、そういう性格をしているのよ。

――でも、配下の社員や選手にはすごい人望があったって言われてますよね?

ヒト (即座に)そんなもんない!

――あっ、ないんですか(笑)。

ヒト 下の者は実態がわからないだけよ。そもそも接点がないから。大きい企業の社長とヒラ社員と一緒よ、あそこは。

――尊敬の気持ちとかはあっても?

ヒト (遮るように)そんなもん、一緒にいたら「この野郎! いつか仕返ししてやる」ってみんな思ってますよ(笑)。

――ダハハハハ! そうなんですか?

ヒト 3日一緒にいたらわかりますよ。馬場さんのズルいところは。人望もヘチマもなんにもない!

――ヘチマもですか(笑)。

ヒト なんにもないよ! やっぱり馬場さんよりも猪木さんの方が30分以上話したら巻き込まれるからね。話上手いから、オレでも絶対30分以上話しないようにしているもん。

――すぐ「一緒に豆腐パンを売ろう」ってなっちゃいますからね(笑)。



伏せ字の部分が知りたければ、お店に来ればいい(笑)

ヒト 「安達君、元気ですかーっ!」って、何言ってんの(笑)。

――新間さんも、最近いろいろ猪木さんにラブコールを送ってるみたいですけどね。

ヒト 新間さんだって、プロレス界に戻って来たいけど戻る場所がないんだよ。

――「戻りたい」って電波は出しまくってますもんね。それも「猪木さんと一緒にやりたい」っていう感じで。

ヒト ありありだよ。お互いにどうしても食っていけないと思ったら、またくっつくでしょ。

――ヒトさんのところには、猪木さんから話が来たりしないんですか?

ヒト オレんとこ? 「安達、ちょっと骨を折ってくれよ」って猪木さんが来たら……、金もらったらいい仕事するけどなあ(笑)。

――金額の分は、ですね(笑)。

ヒト 冗談だよ! 行かないって(笑)。オレはお好み焼き焼いて講釈を打ってる方が面白いから。プロレスファンと喋ってる方が気楽でいいよ。

――面倒くさい世界にいるよりも、お好み焼き焼いてる方がいい、と(笑)。

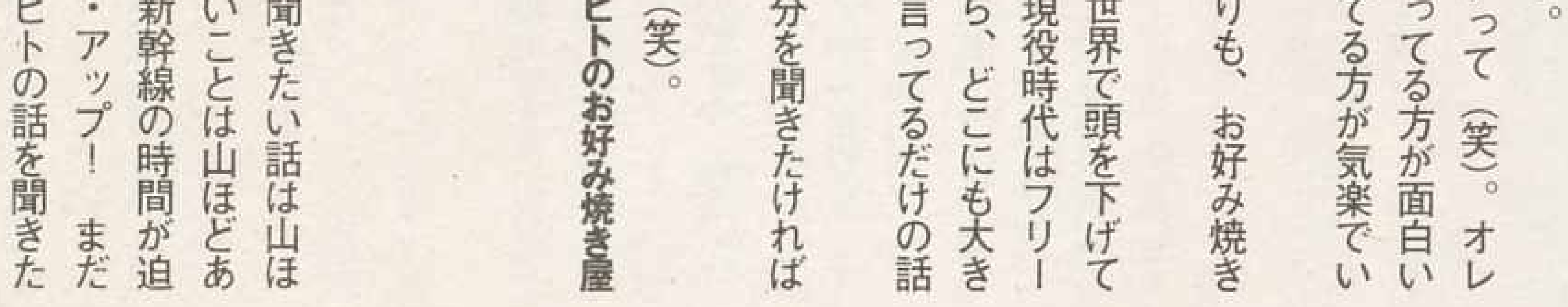
ヒト ああいうゴテゴテした世界で頭を下げて生きていくのがイヤだから、現役時代はフリーのまんま通したんだよ。だから、どこにも大きいこと言えるの。本当のこと言ってるだけの話ですよ。

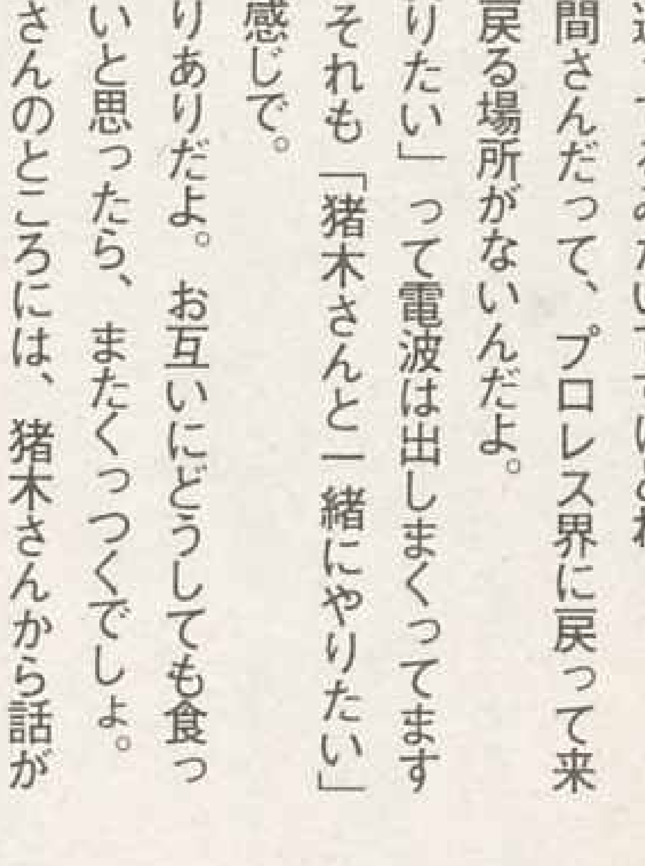
――結論としては、伏せ字部分を聞きたければ店に来い、と(笑)。

ヒト まあ、そんなとこかな(笑)。

【'00・11・1、大阪・ミスター・ヒトのお好み焼き屋『ゆき』にて収録】

■ハッキリ言って、まだまだ聞きたい話は山ほどあった。ヒト自身も話したいことは山ほどあったようだ。しかし、帰りの新幹線の時間が迫っていたため、ここでタイム・アップ! まだまだ無尽蔵にネタを握る男・ヒトの話を聞きたければ、下の店に行ってみることをお薦めする。





JANUARY.2001

BEST OF THE スーパーコラム™

★今号のラインナップ★

●花くまゆうさく『リングの汁RADICAL』
●掟ポルシェ（ロマンポルシェ）『業☆勝ちます』
●堀越日出夫『凄　頭』（すごたま）
●堀越日出夫『プロレス長者番付』
●イナズマ★K『最狂プロレスファン列伝 ラーメン王石神さん』
●大坪ケムタ『エロ・サムライ』

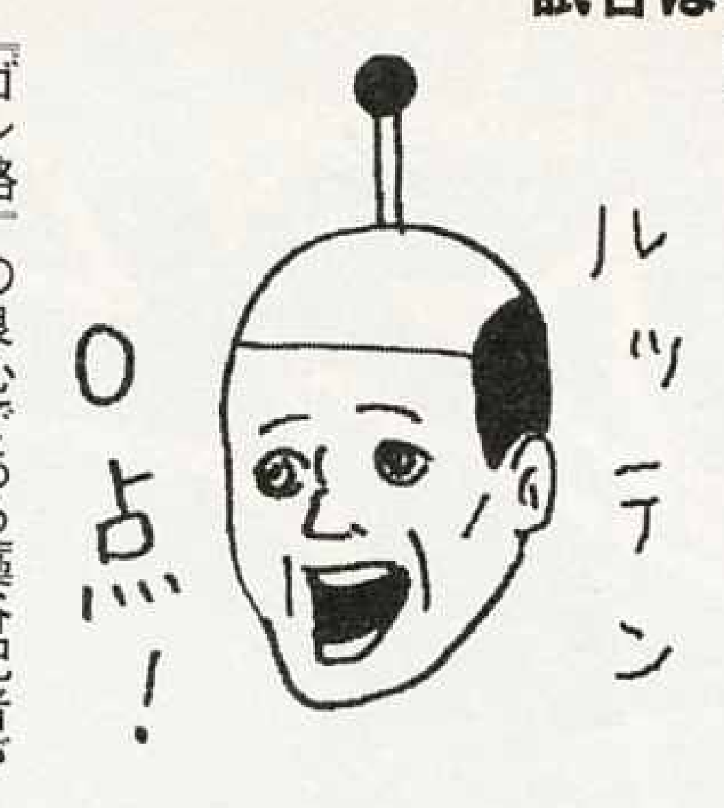
マッチョマンも絶賛!? 「このコラムは摩天楼より輝いている」



Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

試合はリアルファイトで格闘芸術にトライしてほしいね&
アートンより「リングの汁」ひっそり発売中

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL



『ゴン格』の良心である藁谷記者が辞めてしまった。ここ数年、ゴン格を面白くした張本人なだけに残念である。

こうなったら、もう藁谷さんには『格通』の朝岡編集長と組んでほしいな。

〝やる側の血が流れ、見る目も面白い〟藁谷&朝岡のガチガチコンビ結成して、〝とことん見る側のド素人コンビ〟ターザン&谷川に対抗してほしい。そんで潰して、ターザンをプロレスだけに戻してほしいな。やっぱターザンが格闘技語るの無理がある。PPJもターザンが技術点を付けてる時点でダメだ。

昨年の終わりからいろいろありましたが、まずはコンテンターズ4。組技ルールで五木田選手からキッチリ一本勝ちする矢野選手は、凄すぎる！　判定が多いのが定説なコンテンターズにおいて常に一本勝ち！　それも門脇、五木田と強者をキッチリ落としてホントすげえよ。次は宇野選手とやってほしい、体重差が少しあるので判定なしでね。判定なかったら矢野さんに勝機は十分あるぞ。



次は修斗のNK。マッハvsトリッグ、はじめは「マッハ勝てばいいなあ」ぐらいの気持ちで見てたが、最後には涙腺ゆるむほど感動していた。この時期は『猪木祭り』に格闘家が続々と参加表明してる頃で、複雑な思いでいた私。そんなところで、このようにリアルファイトだけで涙腺ゆるむほど感動させてくれたマッハに、格闘技の可能性の光を見たような気がした。「ありがとう、マッハ！」と言いたくなる。話はズレるが『Re-Mix』もよかった、篠社長もありがとさん。

ルミナがまた敗れボー然、しかしその後の宇野マイクに脳みそが止まる。三島や五味とやってほしかったが消えてしまった。残念。

それにしても修斗ファンが、複雑な思いでNKの帰り道歩くのはもう慣れっこになってしまった。トボトボ。

次は『PRIDE.12』。「ガードポジション＝消極的な負けない戦法」という考え方で膠着の元凶とされてしまって歯がゆい。たしかにそんなダメな奴もいるが、逆にガードから素晴らしいテクを持った面白い奴もいるし、今回のケアーのようにしがみつきだけの上の方が悪い場合もあって、ガードポジションもいろいろなんだよ。それをクソもミソもいっしょにして、とにかくガードポジションが悪いという風潮になってるから、今回のようにケアーじゃなくボブチャンチンにイエローカードが出る異常なレフェリングがまかり通るんじゃないのか。そんな異常なレフェリングする前に、「プロならゴールは一本かKO目指せ！　せこい判定狙いはアマチュアでやってろ！」と教育してほしいね。

そんで大晦日の『猪木祭り』。せっかく総合格闘技が興行として成立しつつあるのに、また振り出しに戻す気かよと複雑な思いでこの日を待ってました。今日はどんな気持ちでこれを見ればいいのか心の整理がつかない。「UFOもTVで見たら、UWFのWWF化みたいでいちおう面白かったよなあ、今回はUFOより選手のグレード高いし、面白くなるかも？」とか、「これは内田裕也のニューイヤーロックフェスの猪木版なんだ、その豪華なメンツ見て楽しめばいいんだ」と好意的に受けとめようかと決めてPPVをつけた。

しかし、しょっぱなから放送席のアナウンサーとターザンのはしゃぎっぷりに、なんだか腹が立ってくる（だいたいあのアナウンサー、昔からパンクラス番組で司会とかしてっけど辻と同じくらいキライなんだよ）。

すると試合も、格闘家のプロレスごっこに見えてきた。放送席が、はしゃげばはしゃぐほど全然楽しめなくなる。というかホントに腹が立ってきた。ホントにあれが面白いんなら、今の新日も全日もノアもバトも女子プロもみんな面白いんじゃないのか？　今の新日はつまらないなんて言えないじゃないの？　純プロレスの人は、あれ見たら腹立つんじゃないのかな。

意外なことに桜庭までプロレスごっこしてるように見えた。プロレスとしてまともに見れたのは、永田組vsコールマン組と高田組vsフライ組ぐらいだ。それでだんだん気も落ちついてきて猪木の百八つビンタで微笑ましくなり、冷静に新年を迎える気になった。しかし翌日の新聞を見ると橋本が「レスラーなめんな！　プロレスラーの底力が分かっただろう」と誇らしげに語ってるので、「ふざけんな！　美濃輪とかには底力を感じたけど、昨日のあんたにゃ感じねーよ」と頭にきました。21世紀も、まだまだ青くいきまーす（アムロ風に）。

PS. 髪型込みでハルク・ホーガンの後を継ぐと思われていた武藤がついにスキンヘッド。そしたら芸人の元気いいぞうにそっくりだった。

『ゴン格』の良心だった藁谷記者には『格通』の朝岡編集長とガチガチコンビを結成してほしいな



はなくま・ゆうさく■グレイシージャパン・カップの青帯若者の部で優勝&技術賞受賞！　やったね♥　僕をここまでにしてくれた柔術とサンボに感謝。

言いっぱなしカリスマバンド『ロマンポルシェ』の説教担当・掟ポルシェPRESENTS

柔☆勝ちます

実録『馬鹿になれ』の巻



BEST OF THE スパコラム

〝猪木祭り〟——あの日あの時あの場所にいなかったら、ハッキリ言ってプロレスファンを名乗る資格はない！ ていうか人として失格！ ついでに変質者！ かんとん包茎！ 風呂嫌い（悪臭）！ 嫁ブサイク！ 町のダニ以下なんだよズバリ言って——っ!!

という訳でその町のダニ以下なのが、俺。『21世紀の主張』なるTV番組への出演のためTBSへ赴き、会議室の巨大モニターに映るサザンの桑田のカウントダウンで21世紀の門出を祝わねばならないという、死にたい指数100の新年を泣く泣く向えていたのだった。しかも目の前には同じく出番待ちさせられているドカベン香川とドクター中松……俺は一体何をやってるんだと本気で不安になっていた。新世紀早々拷問のように延々とタレ流されるサザンの年越しライブにキレて「リモコンはないのか」とムリヤリチャンネルを変えようとする中松、そして『出演者の方は食べないで下さい』と貼り紙のついているロケ弁をもの凄い勢いで2つ平らげるドカベン（目の前で「ドカベンがドカベンを喰っている」シーンを見せられているのに笑うに笑えない面白地獄）。アンゴルモアの大王に1年半ズレで直撃されたような、現実味なくマヌケな正月の向えっぷりに我が身の定めを呪うばかりだった。

心は大阪ドーム、唇に燃える闘魂、されど俺の視界にはアゴの尖ったあの男ではなく、現役時より更に腹の突き出た肥満児が（南海）……何か無性に不安になってきた。落ちつけ！ 落ちつけ！ と心に念じて己のケツの穴に親指をツッコんでみたものの、かえってソワソワするだけでメディテーション効果はゼロ。こんな時アントンならどうするか——猪木信者ならば迷わず師の金言を暗唱するものだ。『サンタモニカの朝に』と題された猪木詩集『馬鹿になれ』を代表する一片の詩。〝不安だらけの人生だから／ちょっと足を止めて自然に語りかけてみる／「元気ですか——っ！」／自然は何も言わないけれど／ただ優しく微笑みかえしてくれた／元気が一番／今日もサンタモニカの一日が始まる〟

『浦安鉄筋家族』のイノキキャラ・国会議員を軽く凌駕する不可解な行動。日常的にいろいろなモノに向って「元気ですか——っ！」と語りかけたりしてんだろうなぁとは確かに思ってたが、やっぱりやっていた。しかも相手はサンタモニカの大自然……全く何を考えてるのか最初はサッパリわからなかった。だが、よく考えてみれば俺達は猪木の行動原理を一度とて理解出来たことなどなかったじゃねぇかと。信じよ！ 信じる者は救われる！ 不安を吹き飛ばすには行動あるのみ！ そうだ！ 俺も今すぐこのキ○ガイ会議室を抜け出し、森羅万象に向って「元気ですか——っ！」と語りかけてみよう！ バカになれと言われりゃなります、ハイよろこんで!! 頭狂って来たぞ——っ!! ウォ——!! 行・き・ま・す・か——っ!!!

「元気ですか——っ！」極端に車高の低い改造車にハコ乗りタコ踊りまっ最中の妙に陽気な青年達に話しかけてみる。だが元日は富士山を目指すのに忙しいらしく「殺すぞコラ!!」と一言告げただけで去って行った。こんな時俺がアントンならフロントガラスに弓びきパンチを叩きこみ、奴等を血染めの正月にしてくれるところだ。運のいい奴等だ。

「元気ですか——っ！」今度は上野動物園に侵入し、姫初めにいそしむジャイアントパンダ夫婦に向って話しかけてみる。だが一心不乱にドギースタイルで突きまくるフェイフェイはこちらになんの興味も示さない。そのホット&クールな素振りがちょっとカチンときたので、パンダ・トゥ・パンダの結合部分に持参したタバスコをブッかけてやったのだが、グゴォ——ッ!! というパンダのクセにライオンのような奇声を発しながら俺に襲いかかってきた。パンダパンチを咄嗟のスウェイでかわし、檻外へ三角飛びで逃げて事無きを得たのだが、「キミねぇ！ パンダも結構強いよ。やりたまえ！」という大空手家の言葉（うろ覚え）を思い出し、冷や汗をかいたものだった。

「元気ですか——っ！」JR山手線の車内、重たい荷物を持ったおばぁちゃんたちに向って、シルバーシートに寝そべりながら問いかける。老女達は終始無言。やさしく微笑こそ返してくれなかったが、高齢者の驚異的な体力の強さを見せつけられ、この国もまだまだ安泰だとハートウォーミングな気分にさせてくれたのだった。バァちゃん！ 元気が何よりだよなぁ！ 俺も負けねぇぞ！

猪木信者、あるいは明日ある多くの若者たちよ。生きていくことにふと不安になった時には『猪木詩集』を手にとれ。きっと答えはそこにあるだろう……。

「元気ですか——ッ!」の無差別テロ敢行!! とにかくキミも馬鹿になれ!!





いつだって猪木の行動に理由などない、ということは僕らも重々承知のハズ。そういえば猪木祭りのフィナーレで唐突に飛び出した「元気でッ!」もシンプルかつ力強い新猪木用語だ。

おきて・ぽるしぇ■『BUBKA』の企画で倉木麻衣の実父・山前五十洋氏とVTで対戦するという暴挙を敢行！ 試合後、「第2の倉木サウンドを作れるのは君しかいない！」と、倉木風新人歌手の作曲を依頼されて困惑。俺の活動形態を全く無視した仕事をいきなり任される。倉木パパの無謀ぶりに男を感じた。

有名人学歴KGB・堀越日出夫の

凄頭

偏差値を通してプロレスを見ろ！

昨年暮れ、ドサクサに紛れて「アニマル浜口ジム忘年会」に出席してきました。例年通り、同ジム出身のレスラーがと勢揃いしたわけですが、童心に戻ってツーショット撮りまくりましたよ。拡大コピーして部屋に貼ってます。

新年恒例の『週プロ』の選手名鑑号、読みましたか？ 非常に売れるらしい同号、確かにデータ豊富で助かるんだけども、やはり載ってないんだよなぁ、学歴データが……。

個人的には、蛇界坊ヘビダー（細川直美ファン）の出身高校とか、地球外生命体（弟）の偏差値とか、異様なまでに知りたかったのに。

来年からはお願いしますよ、『週プロ』スタッフの皆さん！ こっちとしては、下世話に偏差値を知りたいだけじゃなくって、「へぇー、この人、こんなド田舎の中学を出てから、バッグひとつで出てきてレスラーになったんだぁ。スゲ～」というような、素朴な感動を求めてるんですよ。

最近、レスラーの生い立ち紹介系インタビューが減っているような気がする。生い立ちインタビュー、最高ですよ。『BOMB』の巻頭特集を見習って、じゃんじゃんページ割いてほしいです。

そんな不満あふれる昨今、こないだ、スカパーの「スカイ・A」で放送されたパンクラスハイブリッドアワー（12月9日・青森大会）は久々にストーカーの溜飲を下げた。

弘前大教育学部付属中を卒業し、新日本のテストを受けつつも不合格、その後、山本小鉄に直談判して入団したことは広く知られたエピソードだが、この番組では船木の母校訪問のみならず、当時の実家まで訪問してくれたのだから、スカイ・Aバンザーイ！

外観しか映らなかったとはいえ、そのアパートはお世辞にもデカイとは言えず、ミドルクラスとも言えない物件で、「雪深い青森で、これで大丈夫だったの？」と、おせっかいながら感じ入ってしまった。

それでも船木のプロレスにかける情熱は凄まじく、実家アパート前の木製の電柱相手に立ち技の練習をしたり、休み時間には教室の後ろでプロレスごっこを欠かさずやってみたり、校舎の2階から飛び降りてみたり……。

偏差値とは関係ないけど、こんな逸話も知りたいですよ。われわれは。ま、そんなことはさて置き、今回で最終回の「凄頭」、いってみよう。今回は的をぎゅっと絞って解説しよう。

高校編のトップは安田学園高校（墨田区）だった。以前紹介したように、新日の小島聡（89年卒）も同校のOBだが、ショー・フナキは2つ上。これは小島が『週プロ』インタビューで「浜口ジムで仲良くなるまで知らなかった」と告白していたが。

タチ関は小島の9つ上なのだが、中退している。それよりも今回、とくに声高に叫びたいのはサスケ社長の偏差値だ。今、手元にある資料『全国高校格付け』（東洋経済新報社刊）で調べてみたところ、盛岡第三高校はA3ランク。このA3ランクというのは、東京の都立高校に換算すると、戸山高校とか八王子東とか国立に相当する。

つまり、単純に数値化するとだ、65～67はあると思われるのだ！

まさに「グレート」の名前にウソはなかったぞ、社長！

念のため、『大学入試全記録』（毎日新聞社）で調べてみたところ、岩手県ナンバー1の進学校は盛岡第一（東大18人）。サスケ社長の盛岡第三は東大、京大こそ0名だが、北大3人、東北大18人の好成績を残している。

史上初！ サスケ社長の計算しつくされた高学歴トンパチに酔えー！

北大なんて、ちょっとやそっとじゃ受かりませんよ。

そんな進学校なんだから、学内はかなりの受験体制が敷かれていると思われるが、そんなモノに目もくれず、プロレスラーへの道をまい進した社長を衷心よりお慕い申し上げます！

校内ではかなり浮いていたことだろうが、そんな〝偏差値の無駄使い〟には強く共感するものである。

それでは最後に恒例の同窓生チェックのコーナー。

松永光弘の中京高校時代の同学年に斎藤彰俊がいたことはあまりにも有名。詳しくは『ミスター・デンジャー』（長崎出版）を参照のこと。

関本大介の明徳義塾高校（高知）は正道会館・後川聡之の母校でもある。野球が強いことでもおなじみだが関本はその野球部出身！ じつに頼もしいね。デルフィンの興国高校（大阪）はなぜか著名人の宝庫。島木譲二、九十九一、笑福亭笑瓶、ぼんちのおさむ&まさとなどなど、挙げればキリがないほど。

この高校、大学合格者データを見ると、ほとんど空欄。仏教大に2人、大阪商科大に3人など、寂しいかぎりだが、これでよし！

と、こんなところで「凄頭」を幕引きさせてもらいますが、小3の頃からの目標であった「プロレス雑誌に執筆する」という夢を具現化することができて、無上の喜びを感じております。ストーカーの目にも涙・・・。

凄頭な男たち



大仁田厚
学問への飽くなき探求心からか、大学から大学へと“学歴渡り鳥”と化した大仁田。やはり高校中退というコンプレックスが起因か？



ミスター雁之助
雁之介とハヤブサは大学時代、体を鍛えてたら知り合ったと、インタビューで言ってたが、それよりもとにかく学部が知りたい。



ハヤブサ
先日、ハヤブサを取材したことのある関係者と飲んでたら「ハヤブサってヤバイんでしょ？」と言ってた。あれ、どういう意味？

ほりこし・ひでお■眞鍋かをり実家ストークのため、現在、愛媛県内のホテルで執筆中。眞鍋（アナではない）の家、かなりデラックス！ しかも家を2軒持ってるっつーのはどうゆうことなんだよ。というわけで、レスラー実家訪問もしてみたい今日この頃。

サヨナラするのは辛いけど今回で打ち止めの学歴特集

高校編

表1位は大刀光関だけど
裏1位は圧倒的にサスケ！

★偏差値ランキング★ —都内近郊—

60

57 大刀光➡安田学園高（中退）
ショー・フナキ➡安田学園高

54 邪道➡駒場学園高

50

50 茂木正淑➡関東学園大付属高
木村浩一郎➡関東学園大付属高
折原昌夫➡関東学園大付属高

49 冬木弘道➡横浜商科大高

48 小野浩志➡岩倉高

47 谷津嘉章➡足利工大付属高
『神風』➡足利工大付属高
グラン浜田➡樹徳高

40

★出身校一覧★

大仁田厚➡瓊浦高（中退）
大仁田厚➡駿台学園高・定時
ザ・グレート・サスケ➡岩手県立盛岡三高
TAKAみちのく➡盛岡工業高
外道➡日田商業高
若菜瀬名➡新潟県立小千谷高
新崎人生➡徳島東工業高
松永光弘➡中京高
関本大介➡明徳義塾高
中牧昭二➡上田西高
藤田ミノル➡鴻城高
スペル・デルフィン➡興國高

寸評　サスケのことは右ページに書いたので、その他のレスラーたちの母校（偏差値がない県）の進学具合について書いておきたい。
若菜瀬名の小千谷高校はものの本によればB3ランクだから、55〜58といったところか。悪くはないな。新潟大学に30人も送りこんでるし。
中牧の上田西高校（私立）は足利工大2、城西大4、長野大10なので、そう高くはないと思われる。松永の中京は愛知学院大4、関東学院大3、名城大7、帝京大1。付属の中京大に138人だから、しょうがないんだが。

大学編

明治に転部した大仁田の
真の狙いとは果たして……

★偏差値ランキング★

60

64 グラン浜田➡中央大（推薦）

56 谷津嘉章➡日本大（推薦）
中島半蔵➡日本大（中退）
大黒坊弁慶➡日本大（推薦）

55 木村浩一郎➡大東文化大・法
徳田光輝➡東洋大

50

53 松永光弘➡中京大（中退）

52 大仁田厚➡明治大・政経・二部

51 中牧昭二➡拓殖大
ショー・フナキ➡東洋大短大・観光

50 ハヤブサ➡熊本学園大（現・熊本学園大）
ミスター雁之助➡熊本商科大（現・熊本学園大）

49 MEN'Sテイオー➡城西大

40

45 大仁田厚➡明海大・経済・二部

寸評　これといって取り上げるべきレスラーもいないのだが、強引に話を進めると、注目すべきはやはり大仁田厚だろうか。
長崎の高校をあっという間に中退し、その16年後、駿台学園高校の定時制に入学し、それだけでも十分に話題になったのに、なぜか明海大学を受験し、合格。
これだけでも「もういいよ！」と叫びたいのに、今年4月からは明治大学政治経済学部（二部）に転部するという、リング上さながらの荒業を見せつける大仁田。これもまた大仁田劇場なのである。
それにしても大仁田、政経で何を学ぼうというのか？　「夢をもう一度」とばかりに、また一儲けを狙って、団体でも興そうという前兆なのか？　個人的にはそうとしか考えられないのだが……。

中学編

「中卒即レスラー」——
古き良きこの伝統を守り続ける
グレートレスラーたち！

★出身校一覧★

グレート小鹿➡函館市立銭亀沢中
ターザン後藤➡島田市立島田中

寸評　日本プロレス時代のレスラーの生き様には、「生きるか死ぬか」という切羽詰った危機感を見出すことができる。
『馬鹿モン！文句あっか!!』（ベーマガ刊）によれば、グレート小鹿社長は、出身地である北海道函館市にて、小学校時代から海産物の行商をおっぱじめ、中2の秋からはイワシの漁場でバイトを開始。
んで、卒業後は紋別のカニ工場に就職。だがしかし、「ひと旗上げたる！」と一念発起。片道切符で上京するわけだ。
これだけでも現代ではほとんど考えられないような話だが、話はこんなもんじゃない。
上京する際の青函連絡船の売店でスカウトされ、大相撲入りしたのだ。まるで人さらいだが、こんな人生もまたレスラー（力士含む）のエリートコースだったのだ。

BEST OF THE スタビコラム

新日本も契約更改、そろそろ1億円プレイヤー誕生か？

つ、ついに最終回 プロレス長者番付

最終回 ハンセンが言っちゃった!!

とりあえず年収特集は今回で打ち止め。その理由はヤリ尽くしたから。ボクのバイオ（奥菜恵と同じ）のどのフォルダを探したって、もうネタは残ってないんですよ。というわけで、最終回です！

有名人データー墓堀人・堀越日出夫

力道山。このプロレス先駆者の破格のギャラを紹介せずに、この連載を終わるわけにはいくまい。

例えば、1960年。力道山の年収は379万円だった。現代ではフリーターでさえ稼ぎ出せそうな金額だが、「たかが」と笑うことなかれ、当時の貨幣価値を考えるとこれはタイヘンな額なのだ。

なんせ、横綱の栃錦が378万円なのだから、力道山先生はやっぱり国民的スターだったのだ。

因みに、62年は1600万、63年は1610万だった。

先人の話はこれくらいにして、ガイジンのギャラについて。

小学生時代、トレーナーを購入するほどのファンだったボクにとって、先日リリースされた、スタン・ハンセン著『魂のラリアット』を入手するのは極めて当然であった。

この本、何が面白いかって、ギャラについてこれでもかってくらい赤裸々告白してあることだ。

これまで、日本は外人レスラーにとっては「天国」と呼ばれてきた。なぜかって、ギャラが高いからだ。

では、日本のトップ外人レスラーがどの程度のギャラを受け取っているのか？

以前からの関心事だったのだが、

ハンセンの週給は100万オーバー！ ということは、年収は2～3000万円？



読みようによっては「ギャランティ暴露本」ということも出来る不朽の名著＝『魂のラリアット』読んでもらえればわかるが、とにかくギャラについて詳しすぎる記述の大行進。ハンセンに続いて、日本人レスラーのギャラを暴露するレスラーは出て来ないのだろうか？　せめて新日本だけでも公開してほしいものだ。

ハンセンがあっさりとバラしてくれたので、同著を未読の読者のために紹介しよう。

75年9月、全日本マットに初登場した際のハンセン（ロン毛時代）、この時は、まだ集客力もないこともあって、週1000ドル×5週間。当時、1ドル270円だった（と思う）ので、週給27万円の儲けだ。

2年後の77年初頭、新日本に初上陸したハンセンのギャラは週2500ドル×5週にまで急上昇。なーんでかというと、76年4月、MSGにおいてサンマルチノ（当時のWWF王者）の首を折り、捻じ曲がった意味でハンセンの商品価値が上がったからだ。

2500ドル×270円で、なんと週給67万5千円を弾き出すまでに成長したハンセン。もう笑いとウィーはとまらない。

その後は常に右肩上がりで、77年には週給3000ドル（＝81万円）、79年4月には週給3200ドル（＝86万4千円）、11月には3500ドル（＝94万5千円）、80年も同じく週給3500ドルで、年間20週の契約だから、日本だけで1890万円！

81年にはさらにアップし、週給4000ドル（＝108万）！　これは激化する引き抜きを食い止めるためのアップだった。

全日に移籍してからの具体的記述はないが、これより下がることはなかっただろう。急激な円高にも、「3割アップ」を馬場に談判することで、その権利を勝ち取ってきたハンセン。そりゃあ、全日本に〝定住〟したくもなるというものだ。

また、筆がのった不沈艦は、ついでに同業レスラーのギャランティまで暴露。

まず手始めに、79年のMSGシリーズで同道していたジャック・ブリスコのギャラが「週5000ドル×2週間」とバラした。

さらに、ハンセンの憶測ではあるが、「だったらローデスもそれくらいだろう」と勝手に推理してみたり、81年、全日に引き抜かれる寸前のシンについても、自分と同じ「4000ドル」と断言してみたり、まさにブレーキの壊れたダンプカーのごとく、暴露の嵐！

これだけではなく、ポール・オンドーフのWCWでのギャラは「年間70万ドル」と暴露。いつの時代か書いてないので、円に換算できないが、1ドル＝100円としても7000万円！

若かりし前田に秒殺された程度のレスラーが7000万円とは…。く、く、狂ってるよ！

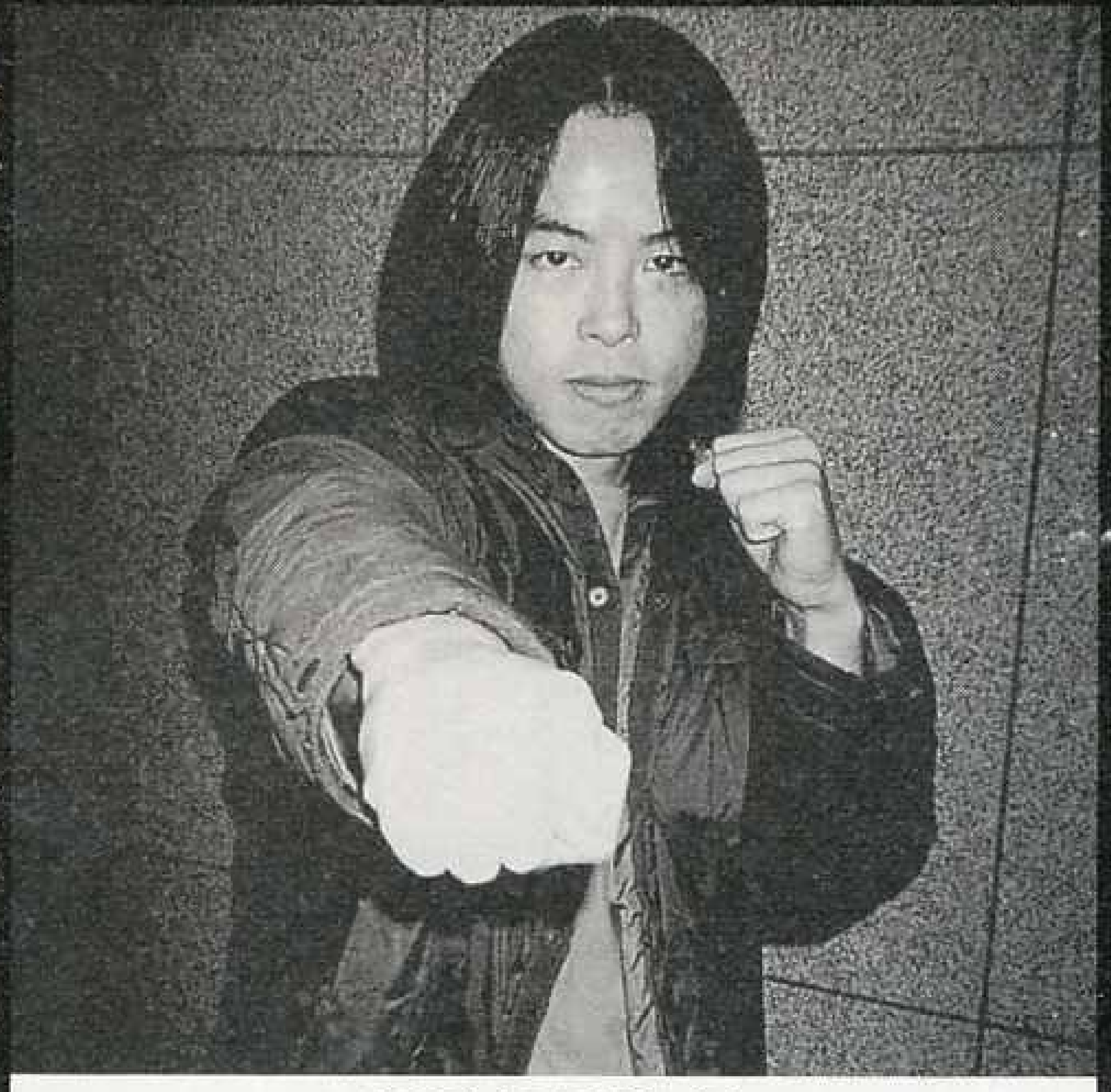
でも、ハンセンのお蔭でプロレス史の謎が色々と解けたことだけは事実なのだ。

実録

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

最狂プロレスファン列伝

構成／イナズマ★K



PROFILE

No.11 ラーメン・バーリ・トゥーダー

石神秀明

人気テレビ番組『TVチャンピオン』のラーメン王対決で、第3、4回連続チャンピオンの偉業を達成した石神くん。全国津々浦々のラーメンを食べ歩き、麺やスープ、その素材や特徴まで細かくインプット。その記憶力はスゴイの一言。そこまでラーメンにハマるきっかけというのは。

「小さい頃は凄い偏食で、肉と魚以外食えなかったんですよ。野菜なんか全然。それが『おいしんぼ』読んで、食の世界って奥が深いんだなって気づいた時から偏食が無くなったんです。親が苦労して食べさせてた野菜があのマンガ一冊で(笑)。それから中学の時、部活代わりに食べ歩きを始めて。でも金ないから必然的にラーメンが中心になっていったんです。それ以来、ラーメンの魅力にはまっていったっていう感じなんですけどね」

現在はポパイの連載やラーメンムック本の執筆活動など。さらに『ビックコミックスペリオール』では「ラーメン鑑定団」を連載中だ。

BEST OF THE スポコラム

昨年"ラーメン王暴行事件"で『東スポ』の一面を飾ったあの男、じつはプロレスファンだった!!

自分の舌と胃袋と記憶力を武器に『TVチャンピオン』で2度も王座に輝いたラーメン王・石神くん。群雄割拠するラーメン界を探究し続ける彼もプロレス・格闘技ファンなのだ。

「小学生の頃『空手バカ一代』が愛読書で極真好きでした。まんまと梶原一騎のワナにはまったタイプですね」

中学の時には極真世界大会も観にいってたくらいの空手好きだったにもかかわらず、自らやってたのは柔道だったとか。当時、地元の世田谷・三軒茶屋には昔スーパータイガージムあったのだ。

「行きたいなぁって思ってましたよ。あと実家から5分のところにはジャパンプロレスがあって、アニキは長州さんに水かけられたって言ってました(笑)」

元々新日ファン、猪木信者だった石神くん。そんな肉親の因縁もあってか(?)ここ数年の新日には興味がないという。

「やれば強いっていってたプロレスも、やっぱり安生選手の道場返り討ちとか高田選手とかで幻想が崩れちゃって。昔から格闘技好きだったし、プロレスに強さを見いだせないから、やっぱり最近は『PRIDE』や修斗、ヴァーリトゥードが好きですね」

小路選手と友達だったり、『PRIDE.12』も4列目を自腹でゲットするほどの熱心な格闘技ファンのラーメン王。そういえば、この間はDDTでもその姿を見つけたぞ。

「自分は猪木イズム最後の継承者の一人だと思ってるんですけど(笑)、初期FMWも観にいってたんですよ。テレビで見るプロレスと対極のものだったけど『アリだな』って思いました。DDTのあいうスタイルもプロレスの生き残る一つの道ですよね。でも、やっぱり新日に面白くなってほしい。猪木プロレスを復活させてくれればいいんだけど、長州復活じゃちょっとねえ」

さすが辛口批評のラーメン王。でもそれは新日への期待のエールであろう。

さて、この際だから最近のラーメン事情について聞いてみた。なんとビックリ、ラーメンと社会の流れと格闘技は、意外や密接な関係にあったのだ。

「ここ3、4年でラーメンのレベルが急速に上がりました。それはバブル崩壊の影響がデカいんですよ。脱サラした人やリストラされた人がラーメン屋を始めたからです。そば屋や和食屋は本格的な技術が無いと出来ない。それに比べて独立しやすくて、料理経験無い人が作るから独創的なものが出来る。結果的に、突然変異でこれまでにない凄いものが出来たりする。中にはとてつもなくレベルの低いものもありますけど(笑)。10年前にはなかったようなラーメンがどんどん生まれてるんです」

歴史の浅さゆえに面白さの可能性が潜んでいるという。

「そばは崇高な料理って感じすらするけど、ラーメンはまだ格式が低い。素材を吟味したものから味の素バリバリのものまで混在してる。何でもありの猪木さん、UWFもあればFMWもあるというプロレスと一緒なんです」

さすがラーメン王! 鋭い分析だ。まさに時代は、どんぶりの中までヴァーリ・トゥード!

「ここ3、4年、新宿の『武蔵』、中野の『青葉』、横浜の『くじら軒』が独走状態だったんですけど、最近それが変わってきて、この3軒を模倣してさらに工夫を加えるという店が出てきてるんです。ヴァーリ・トゥードも最初はグレイシーの技術が絶対だったじゃないですか。だけど5、6年経ってそこにアマレスの技術が入って、さらに桜庭みたいなのが出てきた。だから総合格闘技もラーメンもまだまだ伸びていく面白い分野なんです」

さらに、こうした技術革新の波が、ラーメンの本場に逆上陸してるらしい。

「中国大陸から渡ってきたラーメンが、日本で進化して今、台湾が逆輸入して大ブームなんですよ。日式ラーメンっていって行列が出来てる。日本では行列も出来ない赤●ラーメンも凄い人気で。台湾人の日本観光コースにそこの本店が入ってるんですよ(笑)」

木村健吾選手一押しのあのラーメン屋までもが! この逆輸入現象はまるで、グレイシー柔術の歴史と重なるぞ。

「新宿歩いていたら『ラーメンスター!』って台湾の人に言われましたよ(笑)。向こうで週に3回くらいTVチャンピオン放送してるらしくて。普段言われた事も無いのに(笑)」

さあ、そんな彼は格闘家の憧れる東スポの一面を昨年飾った。本人は口を閉ざすが、酔い潰れた友人女性が連れていかれそうになり、助ける為もみ合いのうちにワンパンチ出てしまったとの噂。賛否あろうが、男ならば! という点では支持できる。だが一説にはワンパンチ代1●●万なんて話も。ウ~ンそいつは痛いイッパツだ。

「僕は●●さんに言いたいですね。女は殴るもんじゃなくて、守るもんだって(笑)。いや~、スミマセン、反省してます」

男の勲章と引き換えに社会の波に揉まれ、21世紀もラーメンと格闘し続けるラーメン王。頑張れラーメン・ヴァーリ・トゥーダー!

お前とヤリたい新連載!!

文・大坪ケムタ

エロ・サムライ

VOL.1 イメクラでプロレスと格闘技を考えるの巻

紙プロ登場5発目、遂にコラムという大任をまかされた大坪ケムタでございます。元々ワタクシ稼ぎの8割はエロ仕事、書いてんのがプロレスとエロってんで「裸絡み合い系ライター」と称して日銭を稼がせてもらってる次第なんですが、「エロ」と「プロレス」、コレが裸だけに「肌の触れ合う距離」ってワケでもないんだけどやたらと縁深い。

古くは全女がもともとストリップの幕間にやってたって話から、最近では大仁田が電流爆破やると息巻いてたアメリカの新興団体XPWのオーナーはポルノメーカーだったりと、まさに古今東西現場密着。僕自身アナルファックのAV現場に行けば、「そういえばパンクラスで高橋がケツに指されてたねぇ」と監督と話し、男優インタビューで鈴木某という女優の絡みについて聞けば「アイツぁ自分だけ気持ち良ければイイ女、鈴木だけに『相手の光を消す』試合しかしませんよ!」と言われたり。ファンだけならまだしも、今は亡き安売王の『商店街プロレス』（ケンドー・ナガサキ主演）を作った人がさるAVメーカーの社長だったり、逆に伝説的なAV監督が今プロレスビデオ作ってたりとかなりコアな部分まで入ってきてるから不思議なもの。そういや全女のメインスポンサーはインディーズ最大手AVメーカー・ソフトオンデマンドだな。ううん、時代は巡る。

エロとプロレス、いずれも「SEX」と「闘い」という本能に根ざした行為でありながら、客相手にエンターテイメントとして奉仕する営利活動、なんて大袈裟に書いてみれば、なおさらその近似性はハッキリする。そして「本能」を商売にすることによって生じる後ろめたさ、そして胡散臭さ。また、本能の果てが飲尿や食糞だったりレモン・ソルト・マスタードデスマッチだったりする「何故そんなところに?」と言いたくもなる謎のエクストリームさ加減。本能が突っ走るがゆえの暗さや滑稽さもまた同様。

エロにおける「プロレスラー」はもちろん風俗嬢やAV嬢。特に一部のAV女優やヘルス嬢なんかは、毎回いかに一線を越えずに満足行く闘いを出来るかって勝負をしてるともいえる。ここで言う一線っつーのは「本番」ってヤツなんですが。まぁ、勝手に越えちゃう女の子もいるんですけどね。でもそんな子は周りから嫌われちゃうワケです、前座時代の前田みたいに。

「最近行ったのはバトラーツ! その時長井選手が出てて、元・リングスの選手って知らなかったんです。それでめっちゃ強いじゃないですか、こんなに強いのになんでプロレスやってるんだろう（笑）って」「あと試合で佐野さんがプロレスっぽくない動きをしてた。もともと格闘技だから『演技』が下手なんですよ（笑）。強さが滲み出ちゃってるんですよね。蹴りとか受けるじゃないですか、痛いとかの反応が鈍いの。考えてから『イテッ!』って感じで（笑）。」

パラダイスチャンネルで活躍しつつ、イメクラ『イクシード』で働く花村しおんちゃんは好きな選手がペレ、ブラントン・リー・ヒンクルという超シブ系な格闘技好き。「プロレス」と「格闘技」をパキッと分けた視点がなんとも新鮮です。彼女も客相手に「受け身」を取るプロ、その視点から見て「素」が見える佐野のバンプは今一歩、ということですかね。

「う〜ん。巧い人は好きだよ。ドン・フライって新日の中で一番好きなんです。掛け合いが絶妙で、プライベートは絶対いい人っぽい（笑）。お互い倒れたりした時相手が立ってるかどうかチラッと確認してまた寝てるし（笑）素早くやるところがさすがぁ!って」

風俗における「サービス」も似たようなものかも。部屋までそっと手を握る。座って話す時、手をこちらの膝に置く。何気ない「演技」かもしれないが、そのプロフェッショナルとしての「気の使い方」に男は惚れる、たとえ演技と分かっていても、分からなくても。あと、やっぱお店に結構プロレス好きとか格闘技やってる人とか来るの?

「たまに来ますよ。前に極真好きな人が来たんですよ。初対面なのに風俗誌に『趣味：格闘技観戦』とか書いてたから、一番無難な大和魂ストラッププレゼントしてくれたり(笑)。あと空手の人がこういうものを食べるといいんだよ、とか。脚がこっちに向かってきた時はこうやって避けるんだよ、とか（笑）。あと新日好きな人が猪木のチョークスリーパーあるじゃないですか、『これはコを絞めてるんだよ!』って教えてくれたり（笑）。でも格闘技話をするのは楽しいんだけど、『友達』感覚になっちゃうのがツライんだよね、『カワイイ子』でいたいのに（笑）」



花村しおんprofile/生年月日・昭和55年4月5日　出身地東京都　血液型B型　身長152cmスリーサイB82・W57・H82　趣味はもちろん格闘技観戦と音楽鑑賞、しかもプログレ好きという、いちいち男心を突く趣味の女のコ。好きな選手は文中通りだが、そのペレ好き加減はPRIDE10でシウバのセコンドについたペレが引き上げる際、花道にいる自分の所に来てくれるまで延々絶叫&手を振り続けたほど（笑）。そんな彼女がチン拓とったりオッパイ出してニュース読んだりと活躍中のパラダイスチャンネルは、人気のヤリコンナイトにAV制作ナイトなど日替わり強力エッチ番組をSKY PerfecTV!ch.913で絶賛放映中！　詳しくはhttp://www.paradisetv.co.jp/へ。

しかしまぁ男の小理屈では色々述べれど、現実の「エロとプロレス」の出会いの現場はこんなもんだったりする。ある意味、男も女もカワイイ話ですが。カワイイ話といえば、

「そういえばうちの番組にキャットファイトの審査員としてサダハルンバ谷川さんが来たんですよ。そしたら谷川さんが顔とか胸にオッパイ攻めされちゃって、ウソみたいに耳まで真っ赤になっちゃったんです（笑）。次に谷川さんの指を女の子たちが順番にフェラしていって。それでまた顔真っ赤に（笑）」

ちなみに谷川さんは店には来てないって言ってました、彼女。それはともかくエロとプロレス、コッチの妄想レベルでは近いものだけども現場の人間からすりゃ遠いんだか近いんだか。

「エロとプロレスの共通点? 裸のところかな、それしかないでしょ（笑）。でもプロレスの人たちって男芸者だよね、そういう意味じゃ今自分がやってる仕事は近いかも。私にとってプロレスはホント楽しく見れるもの。格闘技は元気をもらって、私も明日がんばろっ!って思うものかな」

彼女のような見方、今の新日を毛嫌いしつつ、昭和新日をプライドやリングスに無理矢理投影して観ようとする輩に比べりゃ実に健全、実に素直。本能のエンターテインメントを売る人間は、本能でエンターテインメントの楽しみ方も知ってるってコトですかね。



ちなみに高田馬場・恋人イメクラ『イクシード』に行けばナマの彼女と寝技スパーリング出来るぞ。見事な腹筋は一見の価値アリ!　コアな格闘話のあとは爽やかプレイ!　予約の際は「はな」ちゃんとご指名あれ。問い合わせは電話03-3371-7739へ。

何も期待してなかったが(失礼)

[DEEP]&[ReMix]大爆発!!

時代は「猪木プロレス」から「馬場格闘技」へ?

明るく楽しく激しい格闘技の波が来た!!



DEEP試合撮影／平工幸雄

大きな期待はされていなかったものの、それぞれ村浜武洋、薮下めぐみというニュースターを生み大いに盛り上がった『DEEP』と『ReMix』。そこには「馬場格闘技」と呼びたくなるような、「明るく、楽しく、激しい」闘いが繰り広げられてきた。はたしてこの二つのイベントはマット界の新たな潮流となりうるのか!?

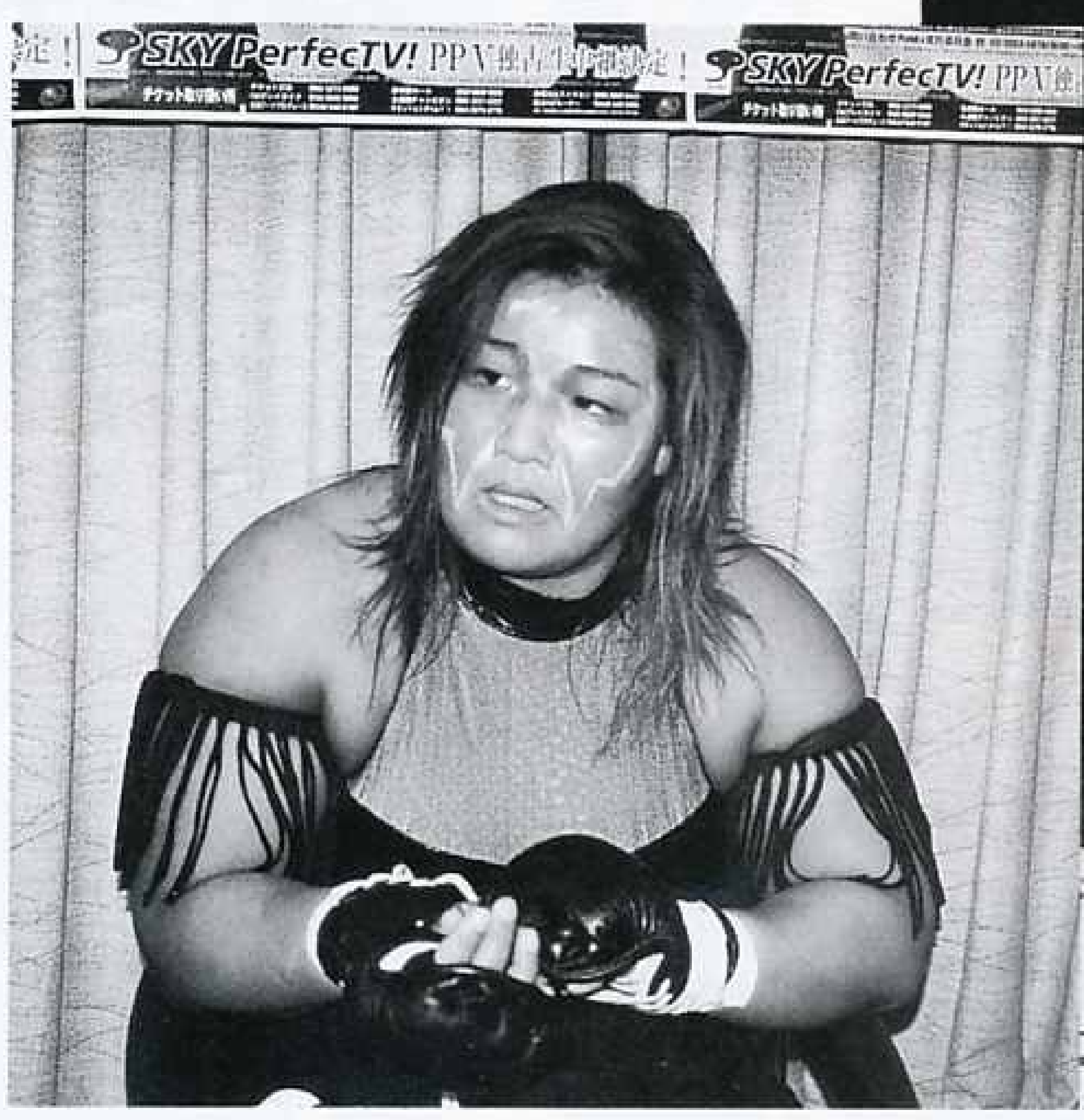
『猪木祭り』を挟んで見た『RiMiX』と『DEEP2001』
カワイイ〝女の子〟がいた

文／山口日昇

　2000年12月31日。20世紀最後のマット界を締めくくったのは、『INOKI BON－BA－YE』、通称〝猪木祭り〟だった。20世紀のマット界は、当然といえば当然だが、アントニオ猪木によって幕を閉じた。
　ボクはこの日、仕事というよりは、猪木さんと一緒に「ダーッ!!」をやって解放感を味わいたいという、ミーハー的な気分で大阪ドームへ行っていた。試合には何も期待していなかったが、『PRIDE』に上がっている選手が純プロレスの試合を行うという実験的な試みにも関わらず、リング上には、さざ波程度にしか起こらなかった。
　カウントダウンの「ダーッ」は、いつも以上の解放感を与えてくれたものの、猪木さんが現役時代のときのエネルギーの渦みたいなものまでは感じない。イベントが終わると、なんだか猪木さんが遠いところに行ってしまったような錯覚を覚えたものだ。
　そして〝猪木祭り〟の後は、ボクは1・4東京ドームで松田優作ばりに「なんじゃ、こりゃ〜！」と叫び、1月8日には、名古屋で開催された『DEEP2001』へと向かったのである。
　これは、まったく聞いたことのない、新しくできたキャバクラに飛び込みで遊びに行くようなものだった。

DEEP&Remix





どちらも同じくグンダレンコと闘った藪下めぐみと井上京子。京子は自らロープにとんでラリアットを叩き込んだり、袈裟固めに取られたときに噛みつくなどをすることで〝プロレスラー魂〟を見せようとした。しかし、真っ向勝負を挑み、技術と闘争心でグンダレンコを下した藪下の前では、その印象はおもいきり霞んでしまった。

　その店では、いろんな〝女の子〟が入れ替わり立ち替わり隣に座ってくれたが、イマイチ会話が噛み合わず盛り上がれない。大会の途中まではそんな気分だった。
　しかし！　ラストに出てきた2人の〝女の子〟が文字通りディープ・インパクトを起こしてくれたのだ。その2人の〝女の子〟の名前は、「美濃輪育久 vs ヒカルド・リボーリオ」「村濱武洋 vs ホイラー・グレイシー」という。
　バッグンにカワイイ子を前にしたら、例えば「キャバクラはすべてがワーク。そこに0．1ミリの真実を見つけるんですよォオォ」などという理屈もかなわない。
　キャバクラは、バッグンにカワイくて、しかも会話の弾む〝女の子〟が付けば、もうそれで満足できる。興行は、面白い〝試合〟があれば、熱を生み、解放感を生むものなのだ。この日の村濱と美濃輪、2人に共通しているのは、ピンチの後にチャンスをつくり出せるところ。つまり、試合に波を起こせるというところだ。
　ホイラーは、序盤戦で、獲物を捉えた毒蜘蛛のような動きから、村濱のバックを取るとチョークに捕らえた。会場の誰もが「終わった」と感じたはずだ。1Rの残り時間は8分もある。しかし、村濱は冷静に耐え、対処しながら凌いだ。2Rを迎えると、スタン

ドでダウンまで奪った。残り時間1分のところでは、寝転がるホイラーに「立って来い！」と叫ぶ。会場には自然発生的な「村濱コール」が熱く湧き起こったものだ。

美濃輪も、強豪・リボーリオを相手に、何度も「もうダメか」という場面から試合を転がし、リング上に波を起こした。

この日の自然発生的な盛り上がり方は、昨年の12月7日に行われた、女子による総合格闘技大会『RiMix』で感じたものと同質のものだ。この日もボクは何も期待していなかったが、藪下めぐみが、100キロ差もあるグンダレンコ相手にリング上に波を起こし、その勝利の笑顔に客席は心からの「藪下コール」を送った。巨乳タレントの桜庭あつこも素人ながら、ピュアなガムシャラさを見せつけた。

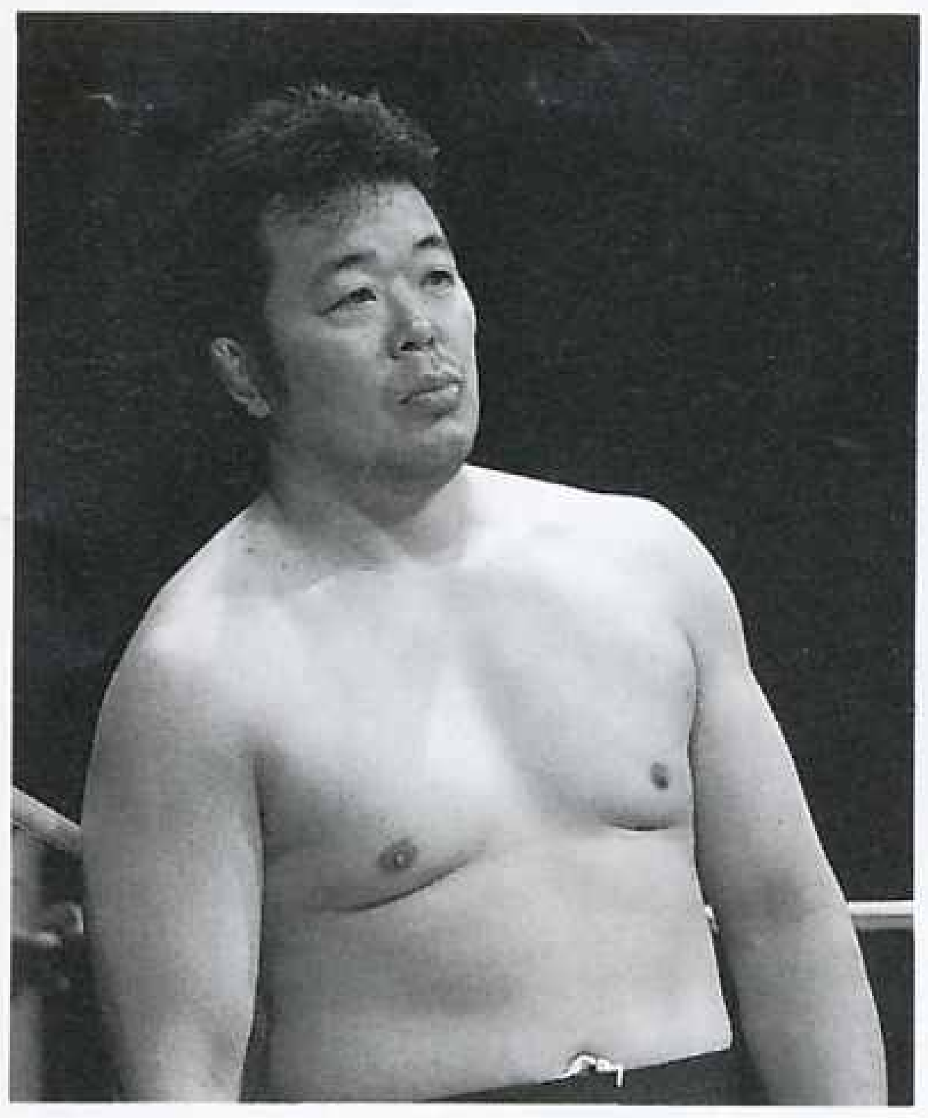
それに較べると、〝女子プロレスラー〟井上京子の闘いぶりはいただけなかった。2回戦で藪下が破ったグンダレンコと1回戦で当たった井上京子は、袈裟固めに取られた体勢でグンダレンコの腕だか脇だかに噛みついたのだ。そして見せ場にならない見せ場しかつくれず敗退し、試合後には控え室で「あの噛みつきは効いてるはずだよ(笑)」と言い放った。

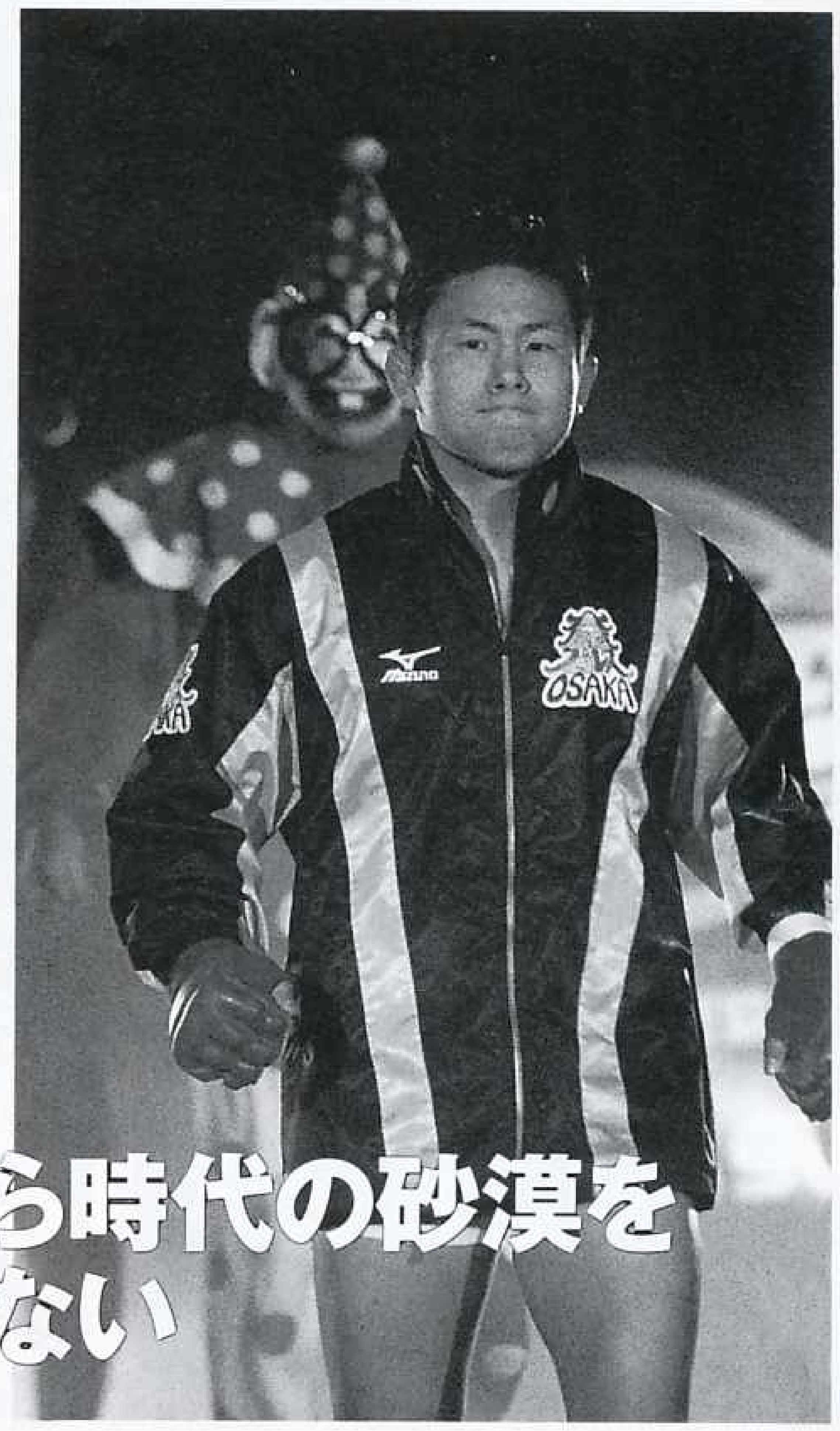
「プロレスラーなら噛みついてでも勝て」という意味を勘違いしている井上京子は、もはや醜悪でさえある。高田延彦が最初にヒクソンに敗れた頃に、姿勢として高田に求めていたロジックを、いまごろやって通用するわけがない。

KOKに出陣するロシア勢には、サンボ現役世界王者の肩書きを持つ癖に、不得意な打撃でムキになって向かっていくバラチンスキー。自らの経験をベースに猛者・アローナの猛攻を切り返したヒョードル。酔いどれ殺法を駆使して倒れないコピィロフ。「俺はマエダの兵隊だ」と豪語し、40歳という年齢でガチンコに挑むハンらがいるが、彼らの、闘いに対する〝プライド〟と〝馬鹿さ加減〟には、現在の「プロレスラー」が忘れてしまった気骨が見える。ロシア勢は〝プロレスラー〟ではないが、むしろ、「プロレスラーなら噛みついてでも勝て」という意味を試合で立ち昇らせてくれるのは彼らのほうだ。



新興格闘イベント『DEEP』を盛り上げた2大立て役者である村浜と美濃輪。この二人は試合をする度に、新しいものを生み出してくれる“期待感”に溢れている。そこにはセオリーに捕われない自由な発想があるからだろう。それに対し安生の試合からは、残念ながらこれからの可能性が見えてこなかった。





もう我々は、闘魂に癒されながら時代の砂漠をさまよってはいられない

いま、時代は20世紀のケレン味を求めていない。むしろプリミティブな闘いを求めている。もはや時代はロジックで楽しむ『猪木プロレス』から、理屈抜きに、明るく楽しく激しい『馬場的格闘技』の時代に向かっているということなんだろうか。いや、こんな『馬場的格闘技』なんていう表現自体が、もはやリアリティのないものかもしれない。もう馬場さんも猪木さんもリングにはいないのだ。

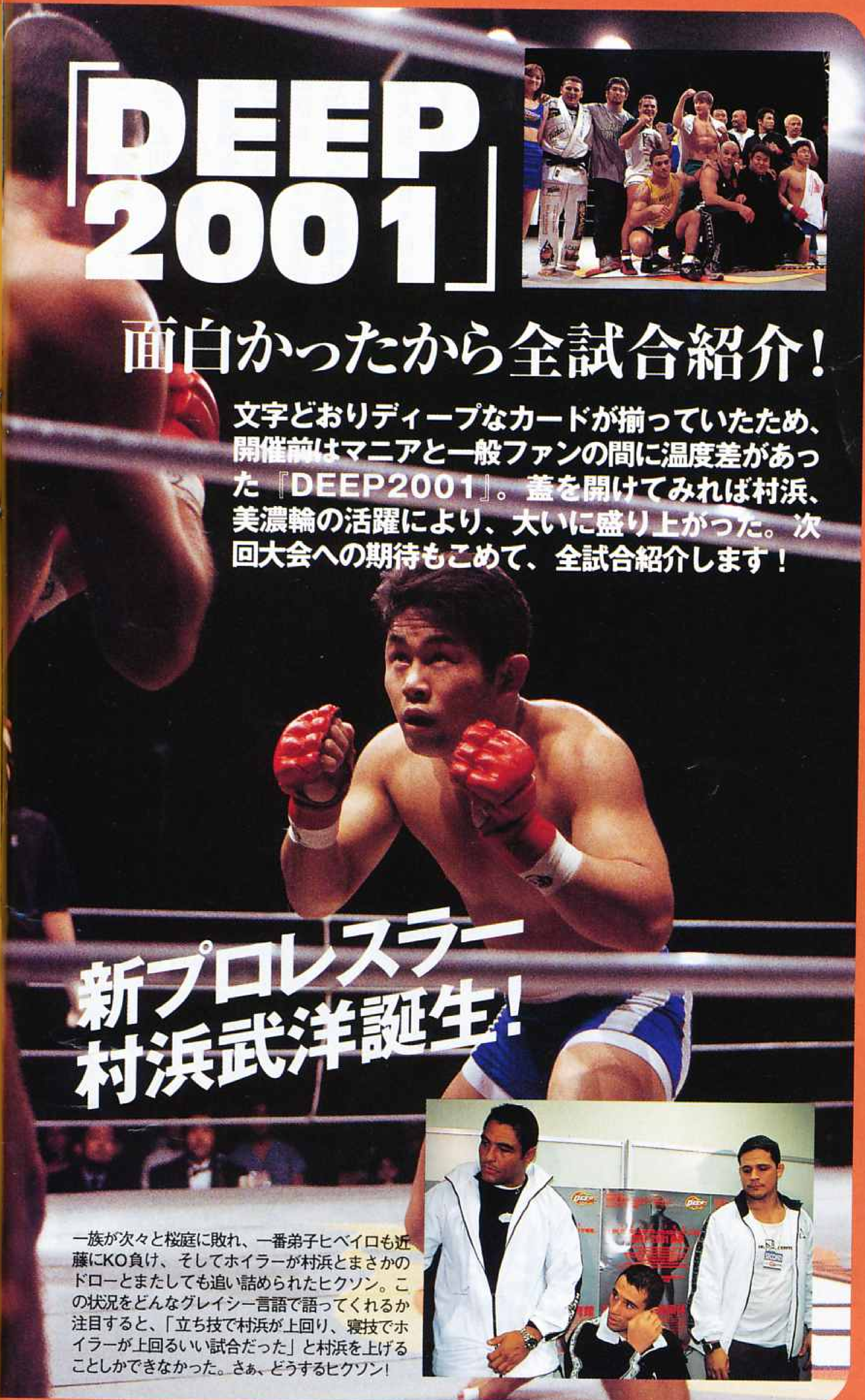
「もう我々は、闘魂に癒されながら時代の砂漠をさまよってはいられない。我々は今日をもって猪木から自立しなければいけない。」

猪木さんの引退試合で流れた古館伊知郎のナレーションは、いまこそ当てはまるのかもしれないのだ。

〝そうそうハイレベルな『女の子』なんているわけがない〟と思いながら、新しい店には行かず、ついつい「プロレス」という名のケレン味溢れる馴染みの店に通っているファンは多いだろう。だが、もう「プロレス」という店には、飛び切りの〝女の子〟だった『アントニオ猪木』はいないのだ。

『DEEP2001』も『RiMix』も客入りは芳しいものではなかったが、予備知識もなく、行きつけの者でもないのに、カワイイ〝女の子〟を付けてくれる場所なんだということはわかった。ただ、いつもカワイイ〝女の子〟がいる保証はない。

ボクはそれでいい。闘魂のかけらを携えて、カワイイ〝女の子〟に会いに、どんどん新しい店へ旅に出たい。行きますかーッ!!



「DEEP 2001」

面白かったから全試合紹介！

文字どおりディープなカードが揃っていたため、開催前はマニアと一般ファンの間に温度差があった『DEEP2001』。蓋を開けてみれば村浜、美濃輪の活躍により、大いに盛り上がった。次回大会への期待もこめて、全試合紹介します！

新プロレスラー 村浜武洋誕生！

一族が次々と桜庭に敗れ、一番弟子ヒベイロも近藤にKO負け、そしてホイラーが村浜とまさかのドローとまたしても追い詰められたヒクソン。この状況をどんなグレイシー言語で語ってくれるか注目すると、「立ち技で村浜が上回り、寝技でホイラーが上回るいい試合だった」と村浜を上げることしかできなかった。さぁ、どうするヒクソン！

今日の結果は金（泰詠）さんのおかげです

〈村浜試合後のコメント〉



SBを辞めたことで格闘技界で孤立無縁となった時に、唯一変わらず接したという金泰詠氏（元K－1ミドル級最強の男）の話しをしている内に感極まった村浜。この男を敵視する「格闘技側」はどうかしている。

村濱 みんなホンマは（一本）取られるって思ってたでしょ？ それは本当にしてやったりですわ、ホンマ。自分はバーリ・トゥード初めてですからね。こんだけやれたら今後に期待出来るというか、次からの可能性も見えてきたかなというのはありますね。

——1Rの（スリーパーを狙われ続けた）8分ぐらいは何を考えてましたか？

村濱 もう取られたら笑われるって（笑）。でも兄貴（村浜天晴）と矢野（卓見）さんの声が全部聞こえていて。指示通りできましたから。格闘技は正直なところゲームですから。自分の判断力があって、それプラス、セコンドの指示を聞こえたかに尽きますから。

——2ラウンドにいい右（パンチ）が入ったと思うんですけど？

村濱 入ってましたっけ、覚えてないッスね（笑）。最後は大振りの一発に賭けるしかなかったッスからね、あれじゃ。ホイラーはもうちょっと距離とるの下手かなと思ってたんですけど、意外と上手かったですから。

——1ラウンドが残り30秒の時は、「十字にくるな」って予想はしてましたか？

村濱 わかるわけないじゃないですか、そんなもん（笑）。総合やり始めて半年ですよ。わかるわけないっちゅうねん！（笑）。

——1Rのチョークスリーパーって極まってたんですか？

村濱 極まってたら、タップしますわ（笑）。セコンドの指示通りやったんで。指示通りやったら、極まらんっていうのはわかりましたから。正味（ホイラーに）負けてるのはグラウンドの技術だけやと思ってますから。スピード、パワー、スタミナ全部勝ってると思うんで。あの状態までいってのチョークは、最後はパワーとかになりますからね、結局。そしたらパワーとスタミナある自分が勝つっちゅうことは、わかりきったことですからね。

——判定があったらどっちが勝ったと思いますか？

村濱 向こうに決まってるじゃないですか！ なんでそんなイヤミなこと言うんですか？ イヤミっすねぇ（笑）。プロレスやってるからって白い目でみてるんでしょう？ ホンマに！ そんなん別にどうでもいいですけど。

——リングの上のマイクで金泰泳さんの名前があげてましたけど？

村濱 あのー、本当はプロレスやった時点で、格闘技はやめようと思ったんですよ。（涙声で）一年ちょっと前ですかね、大阪に引っ越して『大阪プロレス』に入って。金さんもアマ（尼崎）の人やから……。ちょっと待って下さい。金さんの名前だすと涙もろいッス。結局道場も近くなったから、ちょっと一緒に練習しましょうかって話になって。それから一緒に練習して、やっぱり知らん技術とかいっぱい知ってるし、教えていただいて……。また格闘技やりたいなって気持ちが段々出てきて……。今日試合できたんは、金泰泳さんのおかげです。本当に感謝してます。プロレスとかやって、格闘技の関係者とか選手とかでも対応の仕方とか変わった人とか大勢いましたし……。自分を白い目で見る人も大勢いましたし……。でも金さんは全然普通でした。他団体とかも関係なく、人間として付き合って頂いて……。いろいろ技術教えていただいて。それで今日こんな試合が出来て。嬉しくて……、感謝してます。全部、金さんのおかげです。ちょっと言い過ぎかな？

——これからどういう展開を考えてます？

村濱 今度はIWGPジュニアのベルトをとります！

——ダハハハハ！

村濱 何わろてんねん！ 冗談やないっちゅうねん、ホンマやっちゅうねん！ そういうことで田中稔に勝つ！ 以上！

ヤマケン戦の悪夢再び 藤井また逆転負け



UFC－Jトーナメントでヤマケンを圧倒しながら逆転負けを喫したり、J・デルーシアにドローで逃げられるなど、どうにも詰めが甘い藤井。この日もマルセロの遅いタックルをことごとく切り、ヒザ蹴りでKO寸前まで追い込みながらワンチャンスをものにされ、またしても逆転負け。この勝負弱さはプロとして致命的だ。

マルセロ・タイガー
（2R2分27秒チョークスリーパー）
藤井克久

パンクラス・ライトヘビー級王者敗れる！



昨年4月のユージン・ジャクソン戦以来の対外試合となる山宮。前回は善戦するも結果が出なかったが、今回はパンクラスライトヘビー級王者としての出場だけに、負けられない。しかし試合開始間もなくパウロにタックルを取られると、ガードポジション上からパンチの連打を浴びてしまう。なんとか決定打を喰らわずに1Rを凌ぐが、2Rもまったく同じ展開からパンチを打ち落とされ遂にストップ。いいところなく完敗を喫してしまった。

パウロ・フィリオ
（2R0分29秒KO）
KEI山宮

柔術王リボーリオが遂に登場！美濃輪、寝技の頂点を凌ぎ切る



美濃輪のセコンドには、所属する横浜道場の道場長、鈴木みのるがつき適切な指示を飛ばしていた。



ハイアンとシウバを合わせたような狂気を見せたリボーリオ。元エリート銀行マンとはとても思えない。





最強軍団ブラジリアン・トップチームの重鎮、リボーリオのVTデビューということでマニア大注目の一戦。美濃輪が勝つなら、近藤がヒベイロを破ったように打撃勝負しかないとおもわれたが、リボーリオは距離を詰め強引に寝技勝負に。しかし美濃輪は再三のピンチを凌ぎきり、足関節の取り合いで勝機を掴む大殊勲。やっぱり美濃輪は魅せる！

美濃輪育久（パンクラス横浜）
（3R引き分け）
（ブラジリアントップチーム）**ヒカルド・リボーリオ**



1Rはホイラーが開始間もなく鮮やかに引き込み、得意のチョーク地獄へ。しかし村浜は約8分間凌ぎに凌いだ！



2Rに入ると、ホイラーの「女の子のようなタックル（byサク）」を村浜は「首相撲」の要領でことごとく切る。



スタンド勝負になればムエタイ現役ランカーをも破った村浜の独壇場。猛スピードのステップから、ローキック！



そして村浜のパンチが遂にホイラーの顔面を捉え、ホイラーは吹っ飛ぶようにダウン！　2Rは村浜が圧倒！



結局「判定なし」ルールのため2Rドロー。試合後ホイラーは「もうグレイシーの名前だけでは勝てない」とまるで敗者のようなコメント。

仮想リングスvsパンクラス開戦 異様な緊張感でまずはドロー

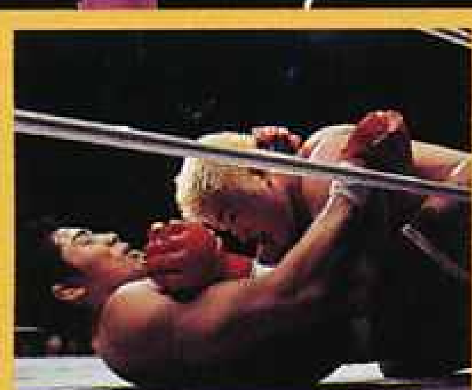
U-FILEvs P's LABも実現！



第1試合前に「フューチャーファイト」として、「U−FILE」と「P's LAB」のジム生同士の対戦も2試合組まれた。結果はどちらもドロー。こんな交流はどんどんやってほしい。



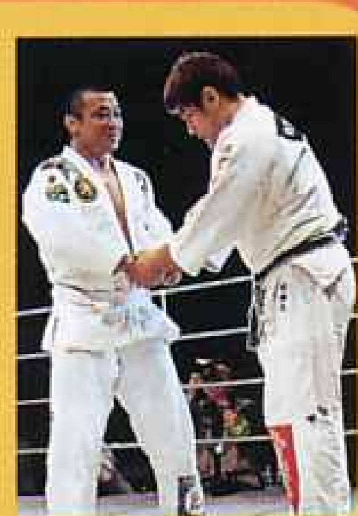
内容はポジショニングで窪田。極めの強さと積極性で上山が取る展開となった。



厳密には上山はリングス所属ではないが、見る側からすれば紛れもなくこれはリングスvsパンクラス。上山のセコンドに坂田がついたことで対抗戦ムードいやがおうにも盛り上がる。試合は「負けられない」意識が強過ぎるきらいもあったが、緊張感があり、膠着すら楽しめた。結果はドローだが判定があれば僅差で窪田か。しかし上山の幻の一本勝ち（アームロック）もあり、パンクラスのリングでもいいから決着戦をやるべきだ。

上山龍紀（U-FILE CAMP）
（3R引き分け）
（パンクラス横浜）**窪田幸生**

この日のオープニングを飾ったのは、美濃輪を排出した地元・誠ジムの木村仁要。掣圏道所属のレスリングの選手、シュリジン・ワレンチンを上になられるも、ぶら下がり十字固めで見事に一本勝ちを奪い、記念すべき『DEEP』第1試合を見事に努めた。





“親分”こと山田学がM・スミス戦で負った怪我が悪化し引退を決意。菊田を相手に柔術ルールでの引退エキジビションマッチを行った。試合後記者に囲まれた山田は、総合格闘技を地方にも広めるためのセミナー開催プランを語った。引退式は5月に予定されている。

「実力者」と言われながら、K−1、VTで一向に結果が出ない安生。この日は、パンクラスの窪田に秒殺された掣圏道選手が相手だけに、悲願のVT初勝利が期待されながら大苦戦。終始主導権を握られてのドローとなってしまった。この結果はあまりに重い。



殴られ屋稼業・大刀光。ホントにこれでいいのか？

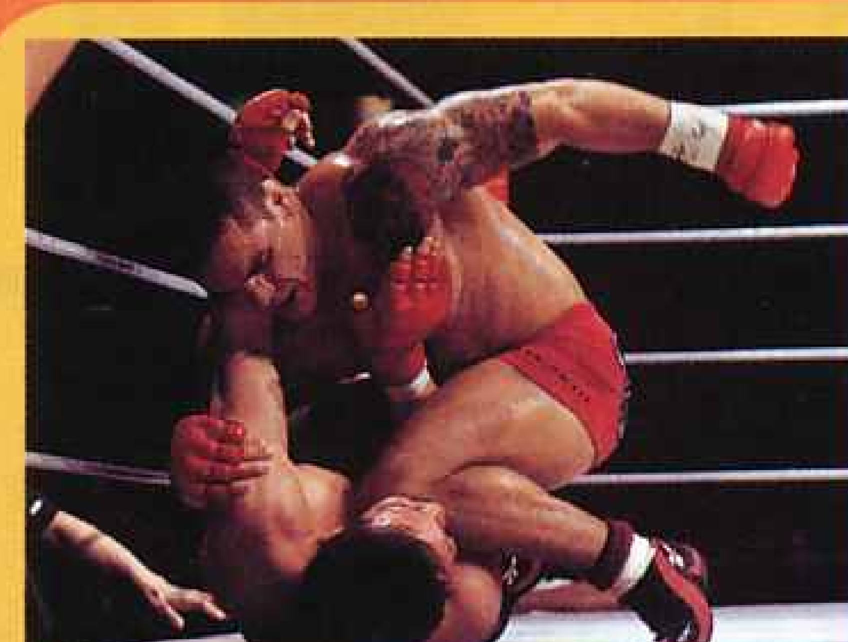




新日の鈴木健三がセコンドについた、現在2連勝中の謙吾。この日はVTの実力的には？マークが5つ位つく我らがタチ関が相手。試合は予想通り、謙吾のローとパンチにタチは全く対応できず22秒でKO。タチが「金がもらえれば負けてもいい」と思ってるなら、VTは終わりにしてほしい。

謙吾（パンクラス東京）
（1R22秒KO）
（SPWF）**大刀光**

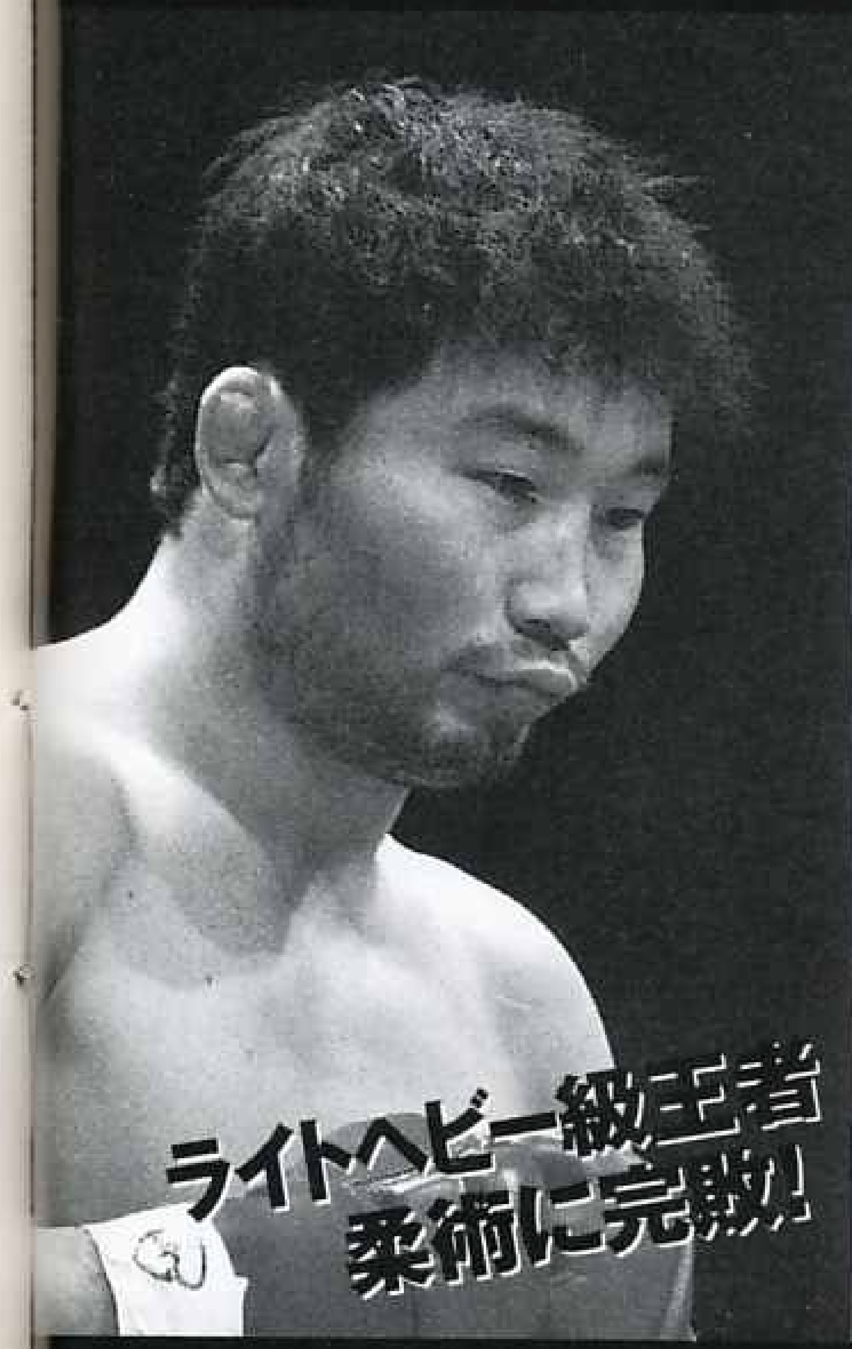
マカコ強し！　石井を内容で圧倒



6秒殺という、健介vs小原ばりのパンクラス最短記録を持つ石井。もちろん破壊力には定評がある打撃が武器なのだが、この日はグラウンドに持ち込まれ、ニープレスからのパンチを喰らい防戦一方。このダメージのためか、得意のスタンドでもマカコに圧倒されてしまう。なんとかドローには持ち込んだが、事実上完敗だった。

石井大輔
（3R引き分け）
ジョルジ・パチーノ・マカコ

ドン底を見たパンクラスへの提言第3弾!









12・4武道館、12・16UFC-J、1・8DEEPから導き出された答え、それは…

PANCRASE × HYBRID WRESTLING

ハイブリッドレスリングの敗北!!

12・4武道館の船木引退興行、12・16UFC－Jで近藤がUFCミドル級王座に挑戦、1・8DEEPでブラジル勢と対抗戦と、この年末年始に今後を左右するビッグマッチが相次いだパンクラス。だが結果はほぼ全滅といっていいほどの大惨敗に終わってしまった。もう、この際膿は全部だしてしまった方がいい。問題はこれからだ!

文／大坪ケムタ

『幻想は20世紀に置いてきた。証明の年、プルーフ・ツアーいよいよスタート!』（パンクラス2月大会広告コピー）

秀逸な、残酷なほど秀逸な一行だ。昨年12月船木引退興行から先日の『DEEP2001』まで続いた連続参戦の結果を見るだに、悪い方に悪い方に「証明」されちまったなぁ、という感が強い。まさに20世紀ハイブリッドレスリングの清算の2ヶ月というか、まずはそこから振り返ってみたい。

まずは12月4日武道館大会。船木引退はここはおいといて、注目だったのは初期UFCに近いルールで行われた菊田vs高橋戦。古くはアルティメット大会出場、最近は船木の参謀役と現在のパンクラス＝ハイブリッドレスリングの実質的な顔とも言える高橋と、それまで日本人選手には希薄だった柔術の色をパンクラス内に取り入れた菊田。このレスリング部と柔術部の体育会決戦、結果は途中腕ひしぎを狙われるも、最後は肩固めで菊田が勝利。ある種パンクラスのポリスマン的イメージだった高橋の敗北は、船木のヒクソン敗北に輪をかけて「対柔術」という点で？を生んだのは間違いない。また、判定勝ちもスッキリ勝ちきれない山宮とミドル級戴冠が期待されるも引き分けの国奥と、客入り同様やや寂しい試合結果に。

そして皆様ご承知のUFC―J、UFCミドル級王者ティト・オーティズに近藤が挑戦する大一番。近藤が勝てば、船木敗北・引退ショックを払拭すると共に改めてパンクラス新時代をアピール出来たのだが……ティトが勝つなら膠着しての判定勝利と思いきや、意外にもネックロックで秒殺。いきなり飛びヒザをクリーンヒットさせ、打撃で押しかけたものの、グラウンドでは押されまくってタップアウト。せめてもの救いが、飛びヒザという見せ場を作れたことか。前回のダンテス戦に続いて「見せる試合」が出来ることの証明は、次回からのUFC出場の可能性を何とか繋げたといえるだろう。パンクラスの強

さの象徴だっただけに、近藤の敗北は大きい。しかし世界トップとパンクラスランク1位の差が測定されたこの一戦は、目標を見据えるために必要な過程だったと信じ……たい。

そして年が明けて1月8日の名古屋発の新興行団体・『DEEP』。この日本対ブラジリアン柔術対抗戦のうち3試合にパンクラス選手が登場。初戦は石井がジョルジ・パチーユ・マカコと対戦。スタンドではいい打撃を当てるもののグラウンドでは劣勢に持ちこまれ打撃を喰らうも、身上の頑丈さから何とか引き分けに持ちこむ。続く山宮はパウロ・フィリョと対戦も脚をすくわれ終始ガードポジションのまま殴られる展開。そして2ラウンド早々にKO……。ライトヘビー級現王者の敗北はあまりにも大きすぎ。しかし最後に希望を残したのがご当地出身・我らが「無謀」美濃輪育久！　柔術の強豪・ヒカルド・リボーリオ相手に丁々発止渡り合ってのドロー。しかも打撃で押したわけでなく、終始寝技の展開で、脚関節の取り合いでは勝機まで感じさせたのは単なる「無謀」さではない実力。続くメインの村浜と共に名古屋の夜を大いに盛り上げた。本人も試合後「あれ？って感じでしたね。もっと強いかと、しつこいかと思ってたんですけど。最後はデスバレーボム狙ってました」と余裕の発言。この2ヶ月にわたる高橋・近藤・山宮の敗北という主力の雪崩現象をギリギリで食い止めた。

あらためて「幻想は20世紀に置いてきた」この言葉が身にしみるパンクラス、あまりにも現実は厳しすぎた。この2ヶ月を通して言えることはただひとつ、「ハイブリッドレスリングの敗北」だろう。掣圏道にいくら勝ち越そうと、ブラジリアン柔術やUFC王者に負けたツケは返せない。桜庭が第一回UFC―Jでコナンから一本勝ちを修めた後もグレイシーと闘い続け、修斗は中井がヒクソンに敗れて以降ホイラーやノゲーラらブラジル勢と闘ってきた。その一方でパンクラスは高橋vsイズマイヴ戦以降何をしてきたのか？　とツッこまれても仕方がない。事実UFC27での近藤、今回の『DEEP2001』の石井と山宮を見ても柔術的な寝技に対応できていないのは明らかなのだから。

昨年、船木は2001年のパンクラスのテーマのひとつに「自由」を挙げていた。自由を求めて外に出るのは簡単だが、それ相当のリスクも待っている。まさにパンクラスは自由の穴に陥ったのだ。しかしトーワ杯やモーリス・スミス戦の頃のような緊張感があるのも事実。当時のモーリスの様に柔術という大いなる壁が再び現れたのだから。正直今ごろ、という感もあるのだが。しかも状況は非常に厳しい、なんせライトヘビー級王者が何も出来ずにKOされてしまうんだもの。

パンクラスは美濃輪にならえ！

そして「無謀」に生きろ!!



なんてことを書いてたら、パンクラス内での大幅ルール改定が発表された。

・試合時間は5分×2R又は3Rとしインターバル1分で行われる。延長Rは行わない。
・全ての試合がランキング選考基準になる。
・レガース・ニーパッド・シューズの着用を問わず蹴り技の攻撃の解禁。
・ドントムーブの採用、アウトサイドブレイクの廃止。

この辺はまだいい。しかしそこまでやるか？ってのが、

・ヒールホールドの解禁。
・全てのポジションでの蹴り技の解禁。


外に討って出た結果がアレだった時期だというのに、プライドや修斗以上にノールール寄りのこの変更。「選手弱いからルールは過激にしてお客呼ぶつもり？　またヒールホールドで長期欠場者出ちゃうよ？」と意地悪い言われ方あれるのも承知の、もはやコレは団体全体に美濃輪の「無謀の毒」がまわったとしか思えない変更。というか、大会テーマ自体「無謀」にしてしまうべきでしょ、こりゃ。しかし観る側にとってはよりスリルある展開が期待出来るというもの。

デビュー以来最大の壁にブチ当った近藤、ライトヘビー級王者としての務めを果たせなかった山宮、船木引退興行でのミドル級ベルト戴冠という会場の期待に応えられなかった國奥、特にこの3人はこれまでやった事が全てパーになった状態。それゆえどういった復活を見せるかが大きな期待でもあるのだ。それには今までどおりの練習では通用しないだろう。突然ブラジルで1年位練習してもいい、ヤマヨシではないが血尿出すような練習してもいい、これまでの殻を破るような「無謀」さを見せて欲しいのだ。主力が総崩れした今より落ちる所はない、とにかく今年はパンクラスは美濃輪を見習って無謀に生きろ！　そして新たなハイブリッドレスリングの道を探ればいいじゃねぇの！

新ルール導入後初の大会！
菊田、近藤、みのる、高橋も出場の豪華版！
2月4日（日）後楽園ホール（19:00ゴング！）

新ルール5分3ラウンド
菊田早苗（パンクラスGRABAKA）VS未　定
渋谷修身（パンクラス横浜）VSイアン・フリーマン（イギリス/サンダーランド柔術）
近藤有己（パンクラス東京）VS石川英司（チームGRABAKA）
渡辺大介（パンクラス横浜）VS佐々木有生（パンクラスGRABAKA）
高橋義生（パンクラス東京）VS佐藤光芳（チームGRABAKA）
伊藤崇文（パンクラス横浜）VS河崎義範（RJW/CENTRAL）
菊地一仁（パンクラス横浜）VS中台　宣（パンクラス東京）
キャッチレスリング 5分1ラウンド
鈴木みのる（パンクラス横浜）VSJ・デルーシア（ハイブリッド・ブドーカン）

入場料金：　SS ¥12,000-　A ¥9,000-　B ¥6,500-　C ¥4,500-　（※当日は4券種とも500円増）　立見 ¥ 3,500 -　※立見は大会当日のみの販売。
お問い合せ:パンクラス　03-5792-0815



BAD BOY

パンクラスのエース近藤有己に完勝!!
21世紀のスーパースターは
この男だ!!

——UFCミドル級王座防衛おめでとうございます！　昨夜は祝勝会だったんですか？

ティト　うん、やっとこね。この6ヶ月間トレーニング漬けの毎日だったから、ようやくハメを外すことができたよ。でも、息抜きは一晩だけ。明日からまた厳しいトレーニングに入るよ。

——昨日試合をしたばかりなのに、もうトレーニングを再開するんですか？

ティト　ああ。みんながこのベルトを狙ってるからね。オレも真剣に練習しないと。チャンピオンに休息はないんだ。それが王者の宿命なんだよ。

——では、昨夜の近藤戦を振り返ってください。非常にアグレッシブなファイトでしたけど、やはり前回のヴァンダレイ・シウバ戦（4・14代々木第2体育館＝UFCミドル級王座決定戦）で膠着した試合をした反省から、今回はティト選手本来の攻撃的な闘いを心掛けたんですか？

ティト　そうだね。オレはシウバ戦のときもファンのみんなに判定勝ちなんて見せたくなかったんだ。だからあの時はチャンピオンになれたのは嬉しかったけど、ファンを満足させられなかったことが本当に悔しかった。でも、安心してくれ。オレの試合にもう2度と判定なんかない。相手をノックアウトするか、絞め落とすか、腕や足を折って勝つかだけだ。激しいファイトでファンを楽しませたり、興奮させたりするのがオレの仕事だからね。

——いやぁ、見上げたプロ根性ですね。では、昨日の試合なんかはまさにゲームプラン通りだったんじゃないですか？

ティト　最高の動きをして、どれだけ早く相手をしとめられるかがテーマだったんだ。一発いいヒザ蹴りを喰らったけど、あれもオレの闘志に火をつけるのに好都合だったよ（笑）。まぁ、ゲームプラン通りだったかな。

——試合前、近藤選手を「最強のチャレンジャー」と評してましたが、実際に闘ってみて

「オレと闘う勇気がある奴はそれだけで尊敬に値するよ」

TITO ORTIZ

UFC世界ミドル級王者　ティト・オーティズ

強くて、悪くて、カッコいい！　そんな“UFCの悪童”ティト・オーティズが遂に日本で本領を発揮した！　前回の来日では超実力派のヴァンダレイ・シウバを完封するも膠着した試合を見せてしまったティト。しかし、今回はその反省から彼本来の超攻撃的ファイターに大変身！　パンクラス期待の新エース近藤から秒殺一本勝ちを奪い取った！　常に観客を意識しあくなき向上心を持つこの男、間違いなく21世紀のスーパースターだ！

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs Fumio Kuroda
試合写真／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

印象は変わりましたか？

ティト　いや、変わらないね。今でもコンドーは最強のチャレンジャーだったと思ってるよ。

——あれほどの完勝したのにですか？

ティト　ああ、彼は凄くスピーディーでタフだったからね。ただオレの方がよりスピーディーでタフだったというだけさ。

——ティト選手が以前対戦したフランク・シャムロックやガイ・メッツアーと比べて近藤選手はどうでしたか？

ティト　彼らにコンドーが勝つチャンスは大いにあると思うよ。フランクもメッツアーもいい打撃を持っているけど、コンドーの方が強烈だ。

——でも、あなたは近藤選手には完勝しましたけど、フランクには負けていますよね？

ティト　確かに1年前にオレはフランクに負けているけど、今のオレはあの頃とは比べ物にならないくらい強くなっている。今やったらフランクだってコンドーと同じように倒す自信があるよ。

——では近藤選手はティト選手に勝つために何が足りなかったんでしょう？

ティト　何が足りなかったというよりも、彼の敗因は「チャンピオンがティト・オーティズだった」ということに尽きるよ。彼はティト・オーティズと同じ時代に生まれてきてしまったことが不幸なのさ。

——ところで、試合の前日に軽量のトラブルがあって、実際は契約体重より4、5キロ重かったという噂があるんですが。

ティト　そんなことは全くない。何のトラブルもなかったよ。ただ計量で用意された秤が小さな風呂場のヘルスメーターみたいなしょぼいヤツだったんで、ちょっと揉めたんだよ。普通計量でそんな秤は使わないだろ？

——確かにそうですね。

ティト　契約体重は199ポンド以下。オレの通常体重は205ポンド位だから、そんなに減量する必要がないんだ。今回も契約体重

まで落として計量をパスしたのに、その体重計のせいでパンクラスの連中がクレームをつけてきたんだ。オレは一度パスしたから安心して水を飲んで、食事もした。それによって通常体重に戻っただけさ。何の問題もないよ。一度パスしたものを後から、ああだこうだ言ってくる方が間違っている。奴等はタイトルマッチの計量ってもんがわかってないんだよ！

—そのヘルスメーターはティト選手自身が持参したものだという報道があるんですが？

ティト は？ 馬鹿げたマスコミもあるもんだな。あれはUFC—Jが持ってきたものだよ。

—そうなんですか。WWFのファンに言わせると、あれはティト選手がクラッシュ・ホーリー（体重計を片手にリングに上がるWWFのレスラー）のパロディで真似たんじゃないかという声もあるんですけど（笑）。

ティト アハハハ！ クラッシュ・ホーリーか。面白いけど、考えすぎだよ（笑）。まさかWWFのレスリングとオレ達の闘いをゴッチャにしてるファンはいないだろうな。オレ達の闘いはすべてリアル。一緒にするなよ。

—試合は別として、リング上でのパフォーマンスや喋りの部分では、ティト選手とWWFは通じるところがあるような気がするんですけど。

ティト 意識してるよ。プロレスはガキの頃から大好きだし、プロレス好きが高じてこの世界に入ったようなところがあるからな。

—え!? ティト選手はプロレスファンだったんですか？

ティト ああ。リングでの客の乗せ方みたいなものはすべてプロレスから学んだし、影響を受けた部分はたくさんあるよ。ただ、ひとつオレとWWFが違うのは、オレの闘いは本物だということさ。

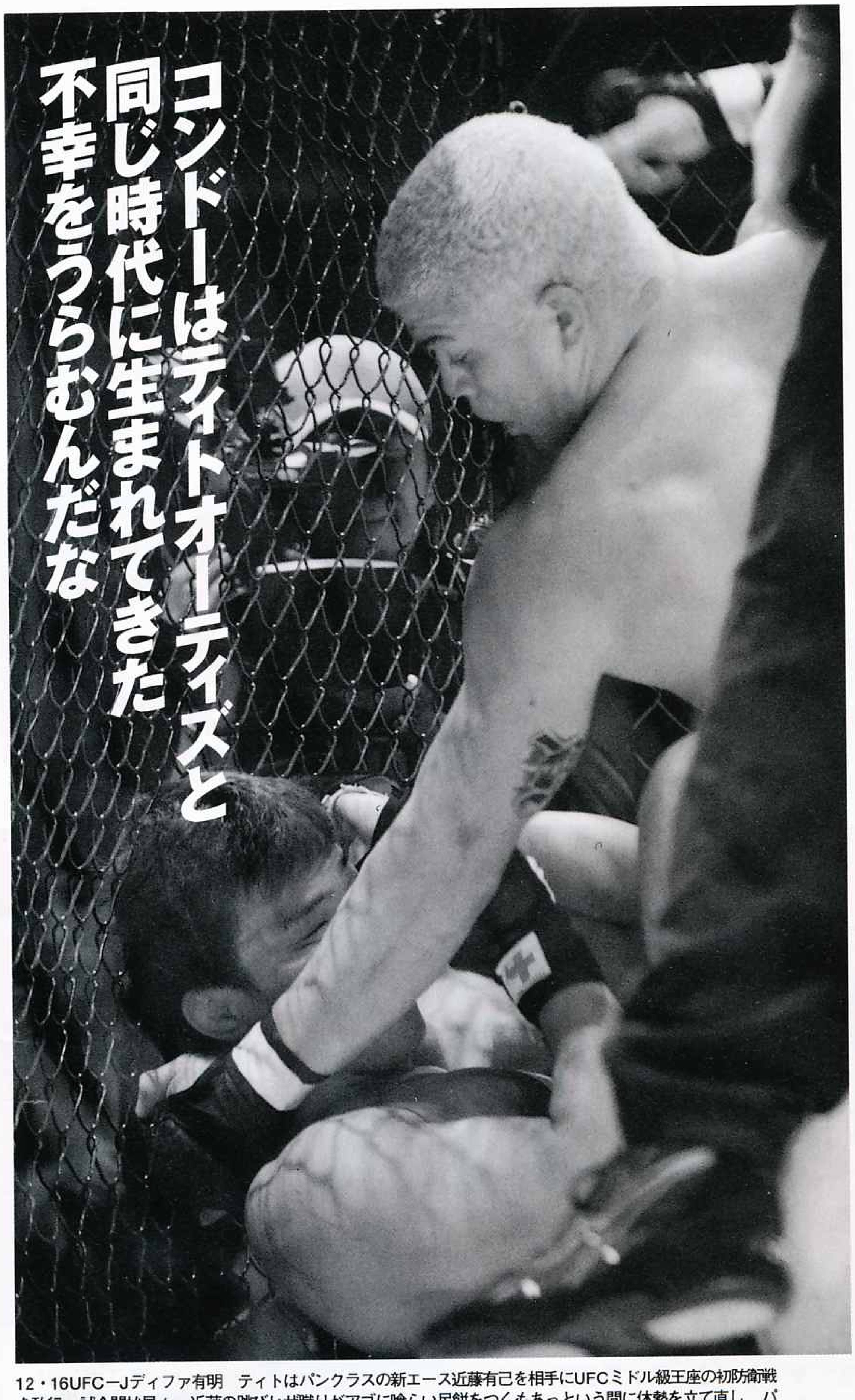
—では一番影響を受けたプロレスラーは誰ですか？

ティト もちろん、ストーンコールド・スティーブ・オースチンさ！

—やっぱりそうですか！ 「強くて、悪くて、かっこいい」という、ストーンコールドのイメージとあなたを重ねて見ているファンも多いですよ。

ティト ハハハ。そういうイメージは常に意識してるよ。でもオクタゴンの中で〝ストーンコールド〟でいるためには、物凄いトレーニングを積まなければならないんだ。誰よりも強くなければ、あのキャラクターは実現できないからね。

コンドーはティトオーティズと同じ時代に生まれてきた不幸をうらむんだな



12・16UFC—Jディファ有明　ティトはパンクラスの新エース近藤有己を相手にUFCミドル級王座の初防衛戦を敢行。試合開始早々、近藤の跳びヒザ蹴りがアゴに喰らい尻餅をつくもあっという間に体勢を立て直し、パワーで強引にテイクダウン。相手を金網に押し付け動きを封じ、重いパンチを振り落とす。近藤も必死に逃れようとするが、最後は蝶野の羽折り固め風ネックロックでティトが秒殺！　ティト強し！

—ただ勝つためじゃなくて、「強くて、悪くて、かっこいい」というイメージを実現するためのトレーニングでもあるわけですね。

ティト その通り。オレは他のヤツらとは、その辺りからして違うんだよ。

—そういえばティト選手は「オースチン3：16」のようなTシャツを着てましたよね？

ティト 「エクストリーム・アソシエイツ3：16」のことだろ。メッセージTシャツは毎回ダチが作ってくれるんだ。「I Just kick your ass!!」とかね（笑）。

—アハハハ！ ガイ・メッツアーに対して「ゲイ・メッツアー」というTシャツで登場したこともありましたよね（笑）。

ティト ああ、メッツアーのヤツがあんまり口が減らないんでね。オレも大人気なかったな（笑）。

—このように毎回あなたが着てくるTシャツも楽しみなんですけど、これもティト選手のファンサービスなんですか？

ティト そう。毎回相手に合わせたメッセージをプリントするんだ。きついメッセージをね（笑）。

—ちなみに近藤戦で着ていたTシャツの意味は何なんですか？

ティト あのときは「No one gives you a respect」。「引き分けや判定狙いの試合をしたら、誰もお前を尊敬しないぞ」みたいな意味だよ。オレは殺るか殺られるかの勝負がしたかったからね。でもコンドーはオレのメッセージどおり倒しに来てくれたから、いまは尊敬しているよ。

—ところで「バッドボーイ」というのは、リング上でのギミックではなくて、実際に子供の頃はすごい悪ガキだったと聞きましたが。

ティト ガキの頃はそうだったよ。オレがま

UFCゲーム日本上陸記念
大プレゼント

ドリームキャスト用 UFCゲーム

UFC3大王者 サイン入りTシャツ





話題沸騰ドリキャス用ソフト『UFC』を3名様にプレゼント！（ちなみにプレステ用も同時発売！）

さらにティト、クートゥアー、ミレティッチのサイン入り激レアTシャツも！ 応募方法はP175。

だ小さい時に両親は離婚していたし、人生のガイドになるような人が身近にいなかったんだ。だから、しょっちゅう喧嘩をしては相手をぶっ飛ばしていたよ。たくさんの間違いを犯して、その間違いからいろんなことを学んだんだ。オレもだいぶ成長したよ。

――日本のファンはスーパースターの昔の武勇伝なんかが好きなんですけど、ティト選手もそんな話はありますか？

ティト うーん、そうだなガキの頃じゃないけど、ひとつ面白い話があるよ。オレの行きつけのナイトクラブで友達と飲んでいたとき、デニス・ロッドマンが入ってきたんだ。セキュリティーガードに囲まれて、こう偉そうにね。彼がそのクラブのオーナーなんだけど、そのときロッドマンの友達のダニー・シェイズというバスケットボールプレイヤーと、オレが揉めたんだ。腕にドリンクがかかったとかいうくだらない理由でダニーが絡んできたから、オレはすかさず足を払ってひっくり返してやった。彼は凄く大きいんだけど、きれいに倒れたよ（笑）。

――一本！（笑）。

ティト そうしたら、セキュリティーがすっ飛んできてオレを取り囲んだんだ。オレもムカついたから怒鳴ったりしたけど、誰かがオレがティト・オーティズだと気付いて、そこはそれで収まったんだ。でもその後トイレに行ったら、そこでロッドマンのセキュリティーの一人が喧嘩を売ってきたんだよ。さっきのことを根に持っていたんだな。しきりにオレを挑発してきたけど、オレはただ「ノー、ノー」とだけ言って相手にしなかったんだ。

――リック・フレアーみたいに（笑）。

ティト そうそう（笑）。だけどあまりにしつこいから頭に来て、喧嘩を買ってやったよ。だけど相手はデカイ奴でさ、シャツを脱いだらケン・シャムロックみたいな筋肉してやがるんだよ（笑）。さすがにオレもちょっとビビったけど、3発殴ってぶっ倒して、首絞めて、壁に叩き付けてやったよ。3分でおしまい。そこら中、血だらけになったけど、誰もオレに文句を言う奴はいなかった。そのまま、おとがめなしで店を出てきたよ。

――かっこいいですねぇ。それはいつごろの話ですか？

ティト 4年くらい前かな？

――けっこう最近ですね。喧嘩以外の話では、無名時代にポルノショップでバイトしながら試合をしていたと聞いたんですけど、それは本当ですか？

ティト 本当だよ。試合に出始めのころは本当にお世話になったよ。まだファイトマネーじゃ食っていけなかったころ、週5日、一日6時間くらいしか働かなかったのに、たくさん給料をくれたんだ。それだけじゃなくて、オレのカードを作ってくれたり、いろんな面でサポートしてくれたんだ。オレはいまでも彼らには感謝してるよ。ポルノショップだからって別に変なことじゃないんだ。みんなセックスが大好きなクセにポルノショップを低く見るのはおかしいよ。

――やっぱりティト選手の若い頃は「喧嘩と女」みたいな感じだったんですか？

ティト 女はともかく、荒っぽかったのは確かだな。周りのダチはギャングメンバーばかりだったし、喧嘩はしょっちゅうだったよ。ただ、仲間たちが捕まって留置所や刑務所に入れられるのを見ていて、オレはそうはなりたくなかったんだ。人生は短いんだし、そこから抜け出して最高の人生を送れるようになりたかったんだよ。



――UFCは荒れた生活から抜け出すためには最適だったんですね。

ティト そう、NHBの闘いがオレを正しい道に導いてくれたんだ。

――試合の話に戻りましょう。パンクラスのエースである近藤選手に完勝したことで、注目は次の対戦相手です。昨日は「オレとリマッチがやりたいなら、列の一番後に並べ」と言ってましたけど、近藤選手とはもう対戦する気はないんですか？

次の相手はタカハシになるだろう。でも一番闘いたいのは、サクラバだ。タムラとも闘ってみたいね

ティト 今のところはね。コンドー以外にもオレにチャレンジしたい選手はたくさんいるし、オレ自身もっともっと強い相手とやりたいからね。だからコンドーが誰もが「強い」と言う奴を倒したら、リマッチしてあげるよ。

――では、同じパンクラスの高橋義生選手あたりが近藤選手の仇討ちで挑戦してきたら受けますか？

ティト タカハシか、イズマイウ戦は見たよ。タフな相手だ、やってみたいね。実はまだ正式決定じゃないんだけど、たぶん3月に日本でタカハシとやることになると思うよ。

――え！ そうなんですか!?

ティト オレは日本人と闘いたかったから好都合だよ。いま日本には世界でもトップレベルの選手が揃っているからね。

――では、体重は関係なく、ティト選手が強いと思う日本人を挙げてもらえますか？

ティト まずなんといってもサクラバだよ！ それに続くのがタムラとコンドーかな。この3人はみんな素晴らしいよ。

――高橋選手は入らないんですか？（笑）。

ティト 忘れてた（笑）。でもタカハシはファイティングスピリットならその3人に負けないものを持っているから、いい試合になると思うよ。

――それにしてもティト選手の口から田村選手の名前が出てくるとは思いませんでした。

ティト タムラはあのヘンゾ・グレイシーに判定勝ちしてるんだから素晴らしい選手だよ。ルールも違うし実現は難しいだろうけど彼ともゼヒ闘ってみたいね。

――ティト選手は近藤戦の後に、「桜庭やヘンゾとやりたい」といってましたけど、桜庭選手はともかく、ヘンゾは先ほどの田村選手や桜庭選手に負けてますよね？ それでもまだ魅力的なんですか？

ティト もちろんだよ。ヘンゾは世界のトップにしか負けてないんだから、まだまだトップ選手に変わりない。タムラ戦は僅差の判定だったし、あと負けたのはサクラバだけだ

ヒクソンは〝世界一強い男〟ではなく〝世界一闘うのが難しい男〟だよ（笑）

ろ？　サクラバは世界一だよ！　その世界一のサクラバと最後のアームロックを極められるまでは互角かそれ以上の闘いをしていたんだから、ヘンゾはホントに凄いヤツさ！　だから一番闘いたいのはサクラバだけど、いま彼は『ＰＲＩＤＥ』と契約があるから無理だろう。それならヘンゾと是非やりたいね。

――ティト選手自身もＵＦＣとあと３試合契約が残っているらしいですけど、桜庭選手やヘンゾ・グレイシーと闘うためには『ＰＲＩＤＥ』のリングに上がるしか、いまのところ方法がないと思うんですけど、ＵＦＣとの契約終了後に『ＰＲＩＤＥ』に上がろうとは思いませんか？

ティト　可能性はあるよ。サクラバと闘うためにそれが必要ならね。でもヘンゾに関しては近い将来ＵＦＣで闘えると思う。彼はきっとＵＦＣに来るよ！

――ティトvsヘンゾが実現したらそれは楽しみですね！　でもそれ以外だと、ティト選手はＵＦＣにはもう相手がいないんじゃないですか？

ティト　まぁ、誰が来てもブチのめすだけだよ。あとケビン・ランデルマン（前ＵＦＣヘビー級王者）がミドルに落とすらしいね。彼もこれからミドルでずっとやっていく気なら闘ってもいいよ。でも、彼はまたいつかはヘビーに戻るつもりだろ。そういう奴はねぇ。

――では、ティト選手が考えるミドル級の世界トップ５というと、誰になりますか？

ティト　そうだなぁ、まずトップはサクラバ。そして次がオレだな。

――ＵＦＣ王者である自分より桜庭選手の方が上だと認めるんですか？

ティト　ああ、現時点ではね。やはりサクラバの実績は凄い。でも、必ず近い将来オレはサクバラを超えてみせるよ。そしてオレに続くのがフランク・シャムロック、ダン・ヘンダーソン、そしてヘンゾかタムラが入ると思う。体重を落とせるならランデルマンも入るかな。

――ヒクソン・グレイシーはトップ５には入りませんか？

ティト　ヒクソン？　ヤツとはもの凄く闘ってみたいよ。もし日本でオレとヒクソンの試合が実現させてくれたら、もう日本人がいま以上に大好きになっちゃうよ。でも彼は絶対にオレと闘わないだろうね。もし闘ったらコンドーと同じ目に遭うだろう。いや、もっと血だらけになるな。だから絶対、絶対、絶対、ぜ～～ったい、オレとは闘ってくれないだろう。もし、彼がオレとやる勇気があればそれだけで尊敬に値するよ。でも彼はオレを恐れている。彼は自分を「世界最強だ」って言うんだろ？　なら世界チャンプのオレはいつでも闘う準備があるのになんでやらないんだ？　彼は決して最強なんかじゃないよ。最強はサクラバだ。サクラバこそ凄い奴だよ。だからサクラバを倒すことがオレにとっての課題だ。

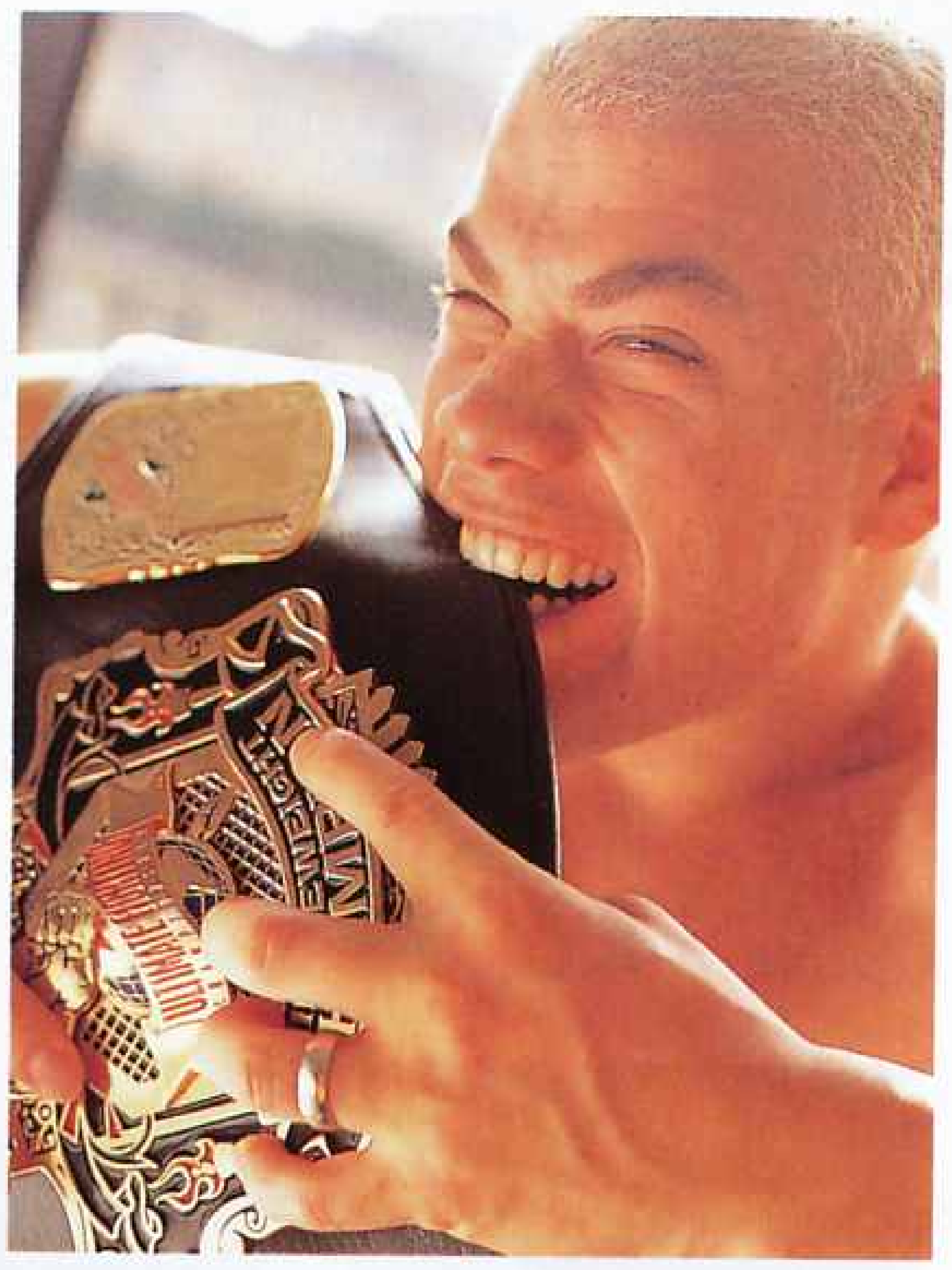
ヒクソンに勝なんてのはたやすいことだよ。ヤツは世界一勝つことが難しい男じゃなくて、世界一闘うのが難しい男だよ（笑）。

――「世界一闘うのが難しい男」というのは、まさにそのとおりですね（笑）。やはりＮＨＢのトップ選手のヒクソンに対する評価はみんなティト選手と同じようなんですか？

ティト　みんなそう思ってるよ。彼は相手を選んで試合してるだろ？　そんなに強くない選手と年１回くらいしか闘わないんだから、無敗に決まってるだろ（笑）。ヒクソンが立って良し、寝て良しの選手とやったことなんか一度もないよ。結局ヒクソンが選ぶ相手は打撃しかできなくて、それをヒクソンが絞めて勝つんだ。所詮彼は作られたチャンピオンなんだよ。オレはヤツとは違う。オレは誰が来てもリアルな連勝記録をこれから作ってやるよ。だから日本のファンも、これからは真のチャンピオンであるティト・オーティズに注目してほしいね。

――わかりました、ではティト選手の次の防衛戦に期待してます！

【00年12月17日　都内・某ホテルにて収録】



【TITO ORTIZ】本名・Jacob Ortiz 1975年1月23日、アメリカ・カリオルニア州ハンティントンビーチ出身。ジュニアカレッジレスリングの州チャンピオンに2度輝き、その時あのタンク・アボットのスパーリング・パートナーとしてNHBを始め、97年にUFC白星デビュー。99年にUFC22でフランク・シャムロックのミドル級王座に挑戦。3ラウンドまで終始圧倒するもスタミナ切れで逆転負け。しかし「ティト強し」を世界中に印象づける。昨年4月のUFC－Jでフランクの返上した王座をあのシウバと争い、見事第2代UFCミドル級王座に輝く。いまやUFC最大のスター。21世紀にティト時代を築く。



ヤマケン、言うだけ番長にはなるな、真のビッグマウスになれ！

「ビッグマウス」と「言うだけ番長」。どちらがカッコいいかといえば断然「ビッグマウス」と言えるだろう。

ＵＦＣライト級王者のパット・ミレティッチに挑戦したはいいが、これといった見せ場も作れぬまま、タップを喫してしまったヤマケン。

試合前の映像で自分のことを「ビッグマウス」と言っていたヤマケンだが、モハメド・アリにしろ、キム・ドクにしろ、結果を残してこそ、そのビッグマウスが活きてくるのだ。ヤマケンの発言は物議を醸し出すことも多いが、マット界の未来を真剣に考えているというのは十分伝わってくる。しかし、今のヤマケンに求められているのは、ズバリ言って、ファイターとしての実績であり試合内容なのである。今のままでは「言うだけ番長」になってしまう。

ミレティッチ戦前、「田村さんは判定勝ちだったんで、ボクは一本かＫＯで勝ちますよ―」と宣言していたが、逆に一本負けを喫したヤマケン。約15キロの減量など、過酷な条件での闘いではあったが、タックルはことごとく切られ、スタンドでもミレティッチに押されていたヤマケン。試合後「世界が遠くないことがわかった」という発言があったが、ここは世界と言わず、もう一度、日本マットに目を向けてもらいたい。今回の敗戦によって、田村潔司との対戦は遠のいてしまったわけだが、田村の一番弟子である上山龍紀と闘うというのはどうだろう？　さすがにリングスでの実現は難しいとは思うが、ヤマケンにはクラブファイトという格好のステージがある。他にもＵＦＣ―ＪやＤＥＥＰといった第三者的なリングでもいいだろう。勝手に期待！

そして、本誌発売の２日後１月27日にはクラブファイトで禅道会の秋山賢治との対戦が決定しているヤマケン。無名と侮るなかれ、元大道塾のエース秋山は日本人屈指の裏バーリ・トゥーダーなのだ。

ヤマケンの溜まりに溜まったフラストレーションをブッ飛ばすには「勝利」の２文字が必要だろう。真のビッグマウスと呼ばれるために、イッたれヤマケン！

（チョロ）



12.5『ReMix』で
“巨象”グンダレンコを破り
世紀末に一躍ブレイク!



藪下めぐみ

Megumi Yabushita

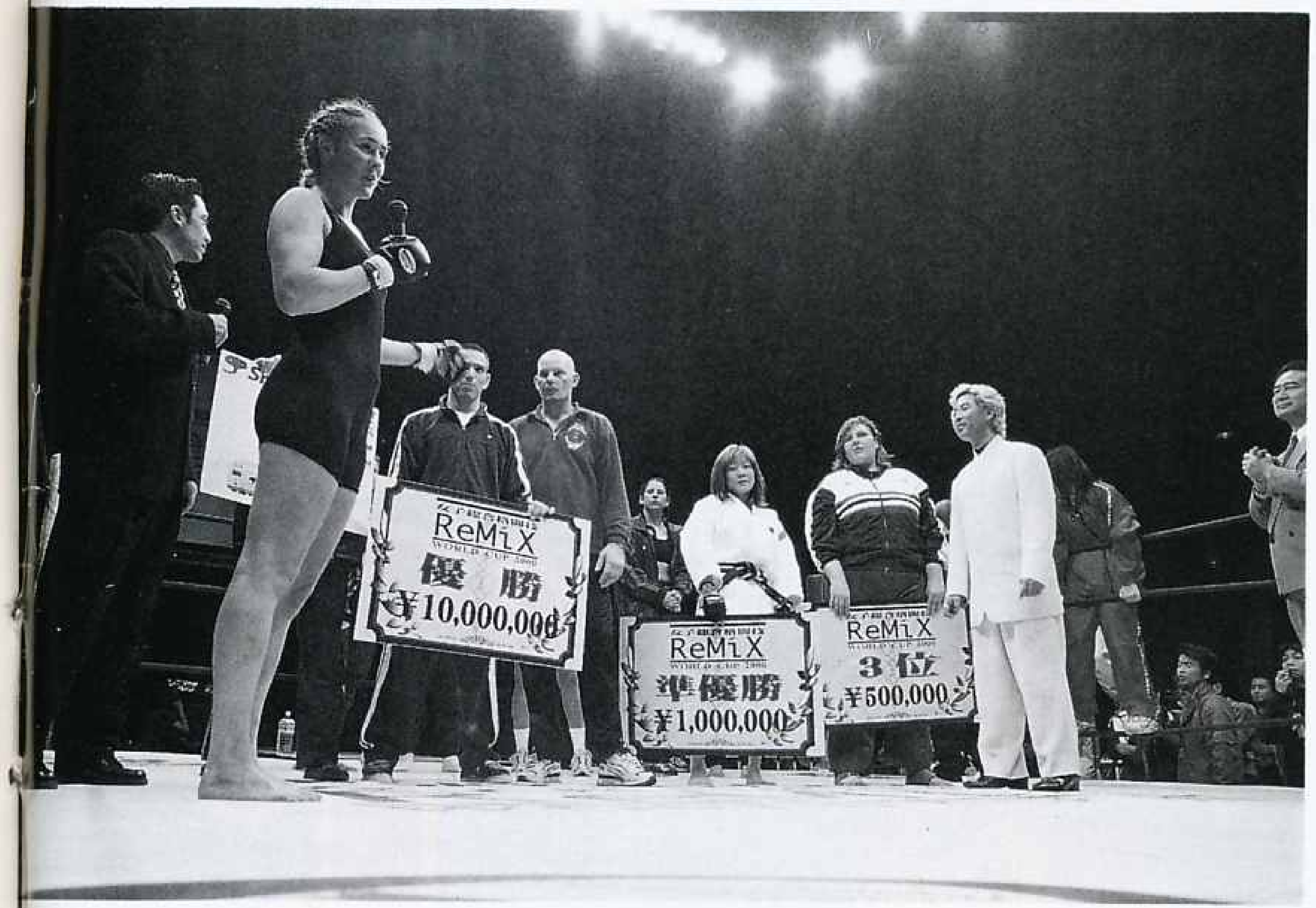
「強くて・凄くて・笑っちゃう」
“新プロレスラー”降臨!!



聞き手／松澤チョロ
interview by Choro Matsuzawa
撮影／モーリー
photographs by Morry
試合写真／丸山剛史
photographs by Takeshi Maruyama

柔道での実績は女・小川直也。飄々と闘う姿は女・桜庭和志。その鋼のような肉体は女・田村潔司。『紙プロ』が提唱する“新プロレス”を体現するこれらのプロレスラーの要素を合わせ持つ凄い女が現れた。その名は藪下めぐみ。昨年12月に開催された女子総合格闘技大会ReMixで、“巨象”グンダレンコに勝利を収め、世紀末に一躍ブレイクしたのが藪下である。その闘いっぷりを見て存在が気になっている読者のためにお届けする、藪下めぐみはこんな人！

表彰式終了後も“100万円パネル”を手にニコニコ顔続行の藪下は「今度はJd′も見に来て下さ〜い！」とアピール。5月に予定されている第2回大会ではさらなる活躍が期待される藪下だが、次の相手はいったい誰だ!?



――ボクはReMixで初めて藪下さんの試合を見たんですけど、リング上で闘ってる藪下さんはメチャメチャかわいかったですよ！

藪下　アッハッハッハッ。うまいですねぇ（笑）。でも、みんなそう言うんですよ。「リング上」は余計やっちゅーねん！（笑）。

――アハハハハ！　でも、プロレスラーとしては理想じゃないですか。リング上で闘ってる時が一番輝いてるっていうのは。

藪下　よく言えばそうですけど、普段はブッサイクってことじゃないですか！（笑）。（スネて）いいもん、いいも〜ん。あたし、どっかの新聞でも「ルックスは悪いが……」って書かれてたしィ〜。

――アハハハ。大きなお世話ですよね（笑）。

藪下　書いた人に文句言いに行こうかなと思って。「アンタになんか迷惑かけた?」って。

――アハハハハ！　なんか、藪下さんってイメージしてたキャラと全然違いますね。もっとおとなしい人だと思ってましたよ。

藪下　（急にかしこまって）いや、いつもおとなしいですよ。オホホホ（笑）。

――そういう人なんですね（笑）。で、藪下さんはReMixで一躍ブレイクしたわけですけど、何か変わったことあります？

藪下　な〜んか急に忙しくなっちゃって。

――やっぱり、取材ラッシュですか？

藪下　取材もそうなんですけど、引越で。

――あ、引越で忙しかった（笑）。準優勝の賞金百万円を、たまってた公共料金と、引っ越し資金に使うって言ってましたよね。

藪下　前まで、友人と一緒に住んでたんですけど、この機会にお互い引っ越したんですよ。あたしは誰もいない山奥に越したんで、のんび〜りできますよぉ。もうラクチンで（笑）。

――（羨ましそうに）ボクは引っ越しもできないし、公共料金も払ってないしなぁ〜。

藪下　でも、もうほっとんど残ってないんですよぉ。公共料金払って、残りのお金で買い物もいっぱいしたんで。（突然、広報に向かってカラミだす）でもさぁ、活躍したんだから、普通、賞金とは別に会社から金一封とか出さないかなぁ、ねえ？

広報　百万円もらえて、引っ越しもできたからいいじゃないですか！（笑）。

藪下　（強い口調で）なんでェ？　そんなの当たり前のことやん！（怒）

――賞金出るって言って出ないこともあるみたいですから、我慢しましょうよ！（笑）。

藪下　そうそう。だから、あたし、しつこく言いましたもん！「百万百万百万！」って（笑）。

「リング上ではかわいい」って、「リング上」は余計やっちゅーねん！

――アハハハ！　でも優勝は一千万ですよ、一千万！（笑）。決勝の判定も「藪下の勝ちでもおかしくないんじゃないか」って声も多かったし、かなり悔しいんじゃないですか？

藪下　でも、あたし的にはどう見ても負けですよね。試合の途中で「これは負けだな」って思いましたから（笑）。でも楽しかったんで、それだけでいいんですよ。

――でも、百万と一千万じゃ大違いですよ。

藪下　まあねぇ〜、そう言われると悔やんでも悔やみきれないよねぇ。その九百万の差は一体なんやねん！（笑）。

――アハハハ！　さっきから関西弁連発してますけど、出身は確か北海道ですよね。

藪下　そうなんですけど、『ミキハウス』で柔道やってる頃とか大阪だったんで、インチキ関西弁がよく出てくるんですよ（笑）。

――そうでっか（笑）。で、ReMixには、急遽出場が決まったわけですけど、ここまで活躍するっていう自信はあったんですか？

藪下　いやっ、全ッ然！　そんなことは考えてなかったんですけど、（嬉しそうに）メンバーの中に〝グンダレンコ〟って名前を見た時に「出たい」と思って。グンダレンコが『L―1』に出た時に間近で見たんですよぉ「（女子高生のように大騒ぎで）うわっ！　でっかぁ〜！　この人、天井つきそぉ〜。やってみたぁ〜い♡」って思ったんですよ（笑）。

――アハハハ！　なんで、グンダレンコ見ただけでそんな興奮できるんですか（笑）。

藪下　あたしチビッコだけど、大きい人に立ち向かっていきたいっていうのがあるんで。

――グンダレンコと較べたら誰でもチビッコに見えますよ。（藪下をよく見て）ん？　でも、かなりチビッコですね、藪下さん（笑）。

藪下　ほっといて！（笑）。でもチビッコとしては、おっきな相手の方がいろんなこと試せそうじゃないですか。同じ階級の人だと技も似てくるし読める部分もあるけど、大きい人とやると、それも通用しないから、「何を仕掛けてくるんだろう？　どう仕掛けてやろう」とか考えるのが楽しいんですよねぇ。

――でも、実際対戦したら「デカさはそんなに感じなかった」って言ってましたよね？

藪下　リングの上ではデカさは感じませんでしたね。（嬉しそうに）ってゆ〜かぁ、もう楽しくて楽しくて。試合中も顔がニヤニヤニヤニヤしっぱなしでした（笑）。

――してましたねぇ（笑）。でも、その顔がかわいかったんですよ、試合中の！

藪下　ま〜た「試合中」って付いとるし（笑）。でも、ホントはもっと笑いたかったんですよ。

――大笑いしながら闘う人なんていないですよ！（笑）。もしかして好きなタイプ？

藪下　かもしれない（笑）。で〜も、私はデブ専じゃないですから。デブはダメなんで！

――ストライクゾーンの広いボクでも、さすがにグンダレンコは無理ですね（笑）。闘ってて怖さとかは感じなかったんですか？

藪下　全〜然。ただパンチは目をつぶっちゃうんで「それだけは気をつけろ」って言われてたんですけど、全〜部目つぶって、来るパンチ来るパンチ当たっちゃって（笑）。

――目ェつぶって30秒！　オリャオリャ！

藪下　（気にせず）それと、グラウンドが20秒だったんで、カメになっちゃえば極めきれないじゃないですか。だからいいやと思ってずっとちっちゃくなってたんですけど（笑）。

――ルールってちゃんと把握してました？

藪下　（即座に）いいえ、把握してないです。

Yabushita

藪下めぐみ
100万円への道！

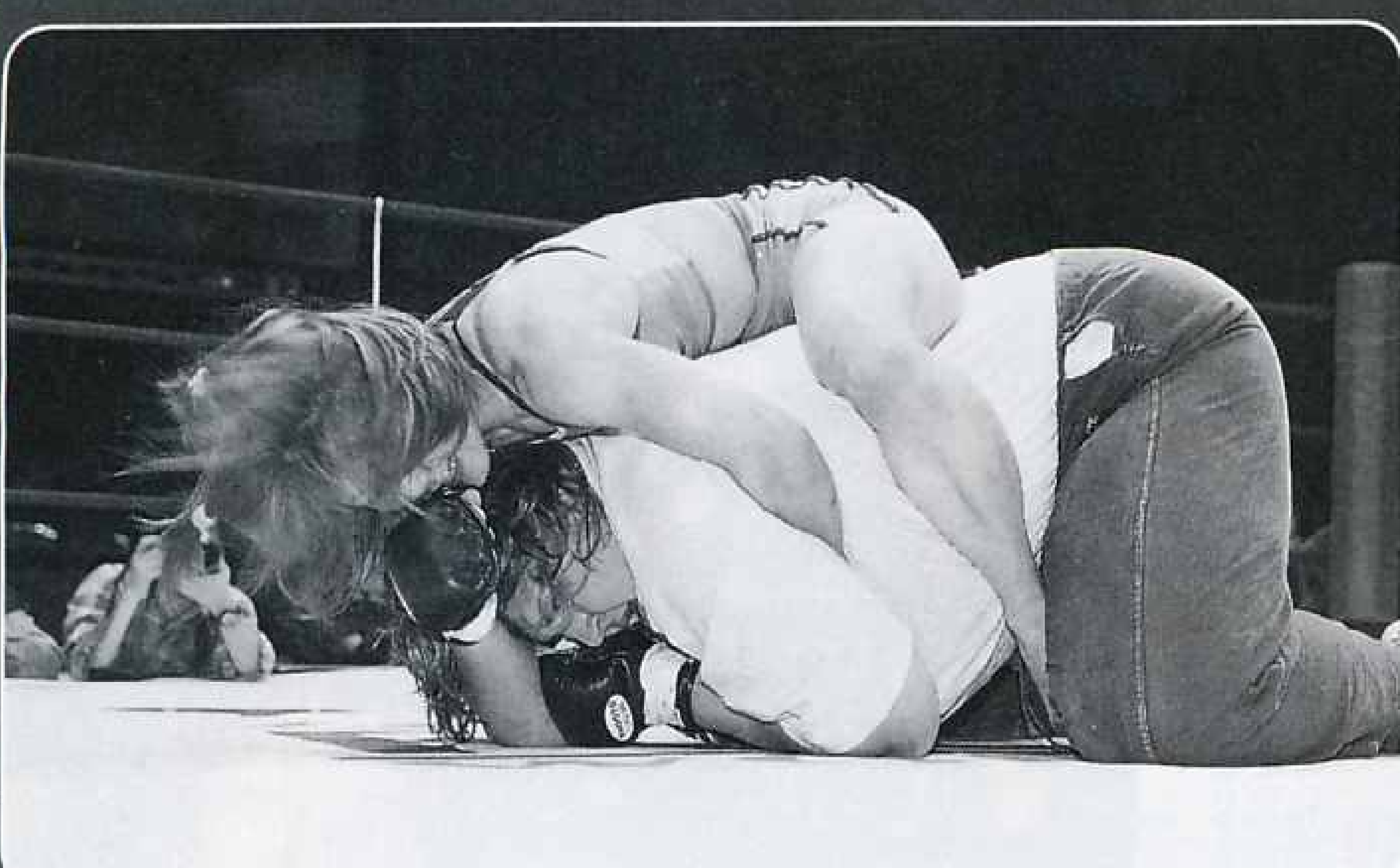
vs　バンビ・バートンチェロ



藪下めぐみ100万円への道。初戦の相手は日本でもお馴染みのバンビ・バートンチェロ。開始早々、打撃をかいくぐってバンビちゃんを担ぎ上げた藪下は一気に水車落とし！　そして電光石火の腕十字で難なく2回戦へ進出。試合後、バンビちゃんの目に涙！

vs　グンダレンコ・スベトラーナ





2回戦の相手は念願かなってグンダレンコ。リング上で対峙する2人の圧倒的な体格差（身長差30cm以上、体重差・約100kg）には、誰もが「藪下は勝てない」と感じさせられたが、ゴングが鳴るとニコニコ顔の藪下は、タックルで倒すは、圧殺を耐えきるは、一本背負いで投げようとするはの大暴れ。判定で「勝者・藪下」とコールされると会場は大藪下コール。試合後、グンダレンコの目には涙！

決勝戦　vs　マルロス・クーネン



決勝戦の相手はオランダの柔術家クーネン。タックルで何度もテイクダウンを奪う藪下だったが、グラウンド20秒のReMixルールでは極めきれず。逆にクーネンの打撃でのダウンが響き、藪下は無念の判定負けを喫す。しかし、見事、賞金100万円ゲット！

――そんな気がしました（笑）。

藪下　把握してたのは、グラウンドでの顔面パンチと蹴りがダメっていうのだけなんですよ。自分は今までやった格闘技戦は両方あるルールだったんで、それは凄い迷いましたね。でも、ルールを全然覚えないのは、いつもなんです。まあいっかって思っちゃうんで（笑）。

――アハハハハ！　でも、やっぱり決勝で敗れた（マルロス・）クーネン選手にはリベンジしたいっていう気持ちはありますよね？

藪下　いや、いま闘っても前と一緒の運命を辿ると思うんで。ちゃんと練習してからでないと無理でしょうね。とりあえず一緒に練習してみたいです。彼女はジュージュチュ？

――ジュージュチュじゃなくて柔術です！（笑）。でも打撃もうまかったですよね。

藪下　そうそう。どんなことやってんのか、そのジュージュチュの練習を見てみたいです（笑）。ま、海外行きたいだけなんですけど。

――とっとと行ってください（笑）。藪下さんは、格闘技戦用の練習っていうのは日頃からしてるんですか？

藪下　今回は出場が決まってから一ヶ月きってたし、プロレスの試合も入ってたんで、練習は一週間もしてないんじゃないですか。夜中にテッテコテッテコ走ってたくらいで。（ボソッと）まあ走ったって言っても三日間ぐらいしか走ってないんですけどね（笑）。

――アハハハ。でも、どうなんでしょう、今の女子総合格闘技のレベルでは柔道のバックボーンだけでやっていけそうな気はします？

藪下　無理じゃないですか？　もっと打撃に慣れないと、そこから進んでいかないと思うんですよ。グラウンドに入ってからの攻めもまだまだだし、これからの課題としてやらなきゃいけないことは多いんですけどぉ……とりあえず練習嫌いなんでぇ～（笑）。

――とか言っておきながら、影で努力してるタイプなんじゃないんですか？

藪下　全然努力しませんよ、あたし（キッパリ）。昔っから興味のあることしか練習しないんで。「やれッ！」って言われたら「やりたくない」っていう性格なんですよ。はっきり言って性格悪いんです（笑）。

――自分で言わないでくださいよ（笑）。

藪下　「努力」って言葉は好きなんですけどねぇ。ダメなんですよ、あたし（笑）。

――努力って言葉に憧れてるんですね（笑）。

藪下　そうそう（笑）。柔道時代から練習嫌いで有名でしたから。「まだ、やんのぉ？」とか、いつもブーブー文句言ってたし。

――小川さんばりに暴走柔道女王だったと（笑）。藪下さんは、小川さんと一緒の世界選手権に出たりとか、柔道でかなりの実績を残してプロレス入りしたわけですよね。

藪下　（可愛らしく）ボチボチです（笑）。

――今の発言からもわかるとおり（笑）、Jd'へ入団する前はプロレスをナメてた部分も少なからずあったと思うんですけど？

藪下　あっ、それはなかったですね。あたしは、なんか始める時は頭の中をゼロからスタートするって自分の中で決めてるんで。それに凄く厳しいっていうのはテレビとか見てわかってたし、ルールとかも違ってくるんで。

――ルールは違いますけど、藪下さんのプライドは、プロレスより柔道にあるような気がするんですよ。ズバリ正解でしょう？（笑）。

藪下　う～ん、確かに、もう柔道のことだったら言われたら言い返しますけど、プロレスのことを言われてもなんも言い返せないしねえ。ピンポ～ン！かなぁ？（笑）。

Megumi

――ハイ、次の問題！（笑）。なんかの雑誌で「格闘技は副業」って言ってましたけど、今は本業のプロレスの方が楽しいんですか？

藪下　（頭をひねって考え込み）プロレス楽しいかなぁ？　（小声で）今は格闘技の方が楽しくて仕方がないんですけど（笑）。

――正解は格闘技！（笑）。じゃあ本音としては格闘技戦をバンバンやりたいんですね？

藪下　そういう気持ちもあるんですけどォ、（意地悪っぽく、広報を見ながら）会社的には、ちょっとまずいんじゃな～い、きっと？

広報　いや、そんなことはないですよ（笑）。

藪下　じゃあ、来年から本業を格闘技戦にして、趣味はプロレスにしよっかなぁ（笑）。あ、でもきっと、格闘技戦をビッチリやっていくっていうのは無理だと思うんですよね。あたしはがんじがらめにされちゃうと嫌になっちゃうタイプなんで。好きな時にやるのが一番自分に合ってると思うんですよ。

――ホントにわがままだ（笑）。プロレスと格闘技は別ものだと考えるのはどういう点ですか？　これは、マジメに答えて下さい！

藪下　はぁ～い（笑）。まず格闘技戦は技を受けちゃダメですけど、プロレスは受けなきゃ成り立たない部分もあるじゃないですか。

あたしはプロレスと格闘技をなあなあにしたくないんです

そうなってくると、やっぱり闘い方も変わってくるんで、そこをきっちり分けないと。あたしはプロレスと格闘技をなあなあにしたくないんですよ。プロレスではプロレスでしか出来ないことをやりたいし、格闘技にも格闘技でしかできない技ってありますからね。

――でも、ReMixでの活躍を見て、プロレスラー藪下めぐみの試合を見たいと思ってるファンも少なくないと思うんですよ。

藪下　お客さん増えればいいんですけど、変わらないやねぇ。ReMix見てから、プロレスの試合を見に来たら物足りないと思う人もいるかもしれないし……。それぱっかりは地道にいくしかないですよ。で～も難しいよなぁ、人を呼ぶっていうことは（しみじみと）。

――さすがに28にもなると会社のことをマジメに考えたりするんですね（笑）。

藪下　28っちゅーのは余計やね！（笑）。まあ、あたしも今はJd'を盛り上げたいっていうのが一番最初にあるんで！（キッパリ）。

――（感心して）ほぉ～。普段はオチャラケてる藪下さんでも、やっぱりJd'のエースとしての自覚はあるわけですね？

藪下　（即座に）それはなぁ～い！

――アラッ！　じゃあ、プロレスラー藪下めぐみの「これだけは誰にも負けない」っていうセールスポイントを教えてください！

藪下　（即座に）それもなぁ～い！

――ダメだこりゃ（笑）。でも関節技とかは自信あるでしょ？「なぁ～い」は禁止！

藪下　（自信ありげに）まあ一応どこからでも入ろうと思えば入れるんですけどォ、でも関節って凄い地味な技じゃないですか。派手に入るやり方とか考えればいいのかなって思ったりもするんだけどォ……でも考える気は全然ないんで！（キッパリ）。

――もういいです！　ボクが考えるんで（笑）。現役は何歳ぐらいまでやろうと思ってるんですか？（小声で）結構いい歳ですけど。

藪下　聞こえてるっちゅーねん！（笑）。まあ、そうやねぇ、とりあえず30まで。

――えっ、30って、残り2年ですよ！

藪下　だって、いい加減、実家に帰って手伝いしなきゃ親に怒られちゃいますよ（笑）。うるさいんですよ「早く帰ってこい！」とか「早く結婚しろ！」とか。できるもんなら、とっくにしてるっちゅーねん！

――そりゃそうだ（笑）。

広報　来年から年ごまかしましょうか（笑）。

藪下　そろそろごまかす？　逆算していって来年は27でいこうかな（笑）。

――そうしましょう！（笑）。で、次のReMixは5月を予定しているみたいですけど、当然、出るつもりはありますよね。

藪下　気分が乗ってれば（笑）。

――なに寝ぼけたこと言ってんですか！（笑）。リング上での藪下さんに一目惚れしたっていう人は、ボクを筆頭にたくさんいるんですよ。だから絶対、出てくださいよォ！

藪下　「リング上リング上」ってしつこいっちゅーねん！（笑）。それに、そうやって「出ろ！」って強制されるのがイヤやねぇ。私ってわがままやから（笑）。

――わがままな藪下さん、21世紀の夢は？

藪下　お金持ちになりたぁ～い！（笑）。

――カネカネカネカネ言いやがって！（笑）。

藪下　じゃあじゃあ、来年の目標は彼氏を作るってことで（笑）。……（広報を気にして）こんなん載せていいのかなぁ？

広報　もういいです。諦めました（笑）。

藪下　だってさぁ、Jd'うんぬんより自分のことが大切やからさ（笑）。三禁っていってって も彼氏ぐらいいても別にいいんとちゃう？

広報　「エッチしてない」って言えばね（笑）。

藪下　してても「してない」って言うよ！

――ええかげんにせえっちゅーねん！（笑）

【平成12年12月26日／東京・Jd'事務所にて収録】



二千年Jd'最終興行（12・29後楽園）では藪下対ブラディーの2冠統一戦が実現。試合は、ReMixでの活躍で勢いに勝る藪下が頂上対決を制し、見事統一王者に。藪下は他にアジア女子格闘技のベルトも保持しており、完全無欠の女子三冠王となった。



見てみ、この身体ッ!!　惚れ惚れする様なマッチョバディだが筋トレはほとんどしてないらしい。高校時代に付いた筋肉が落ちてないだけとのことだが…んなバカな！



【やぶした・めぐみ】
昭和47年3月2日、北海道旭川市出身。得意技はヤブヘビ固め、飛びつき腕十字。柔道で福岡国際3位、ドイツ国際3位、全日本女子選手権優勝の実績を引っ提げてJd'入り。現在、QOR王者、AWF女子世界王者、CWA&KPW認定アジア女子格闘技王者の三冠王。身長158cm・体重56kg。年明け早々、藪下は、ブラディー、ファング鈴木、堀井澄江らと共に突然のフリー宣言。新世紀のJd'はどうなっていくのか、注目！

Megumi Yabushita

キミはヤブヘビ固めはもう見たか？

吉本女子プロレスJd'今後のスケジュールだJ!

2/10（土）	後楽園ホール	午後7時開始
2/11（日）	NGKスタジオ	午後5時開始
2/18（日）	横浜道場マッチ	午後2時開始
2/24（土）	ディファ有明	午後6時開始
3/ 4（日）	ディファ有明	午後4時開始
3/ 9（金）	北沢タウンホール	午後6時30分
3/18（日）	後楽園ホール	午後6時30分

【お問い合せ】
吉本女子プロレスJd'　☎03-5561-0522

KOKミドル級
最高峰の闘い

コマンドサンボ
vsブラジリアン柔術頂上対決



デイブ・メネー

金原弘光 vs デイブ・メネー

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

ヴォルク・ハン vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

今度は

2.24両国グランドファイナル
組み合わせ決定!!

リングスvs海外強豪全面対決だ

毎度おなじみ

KOK 20page 総力特集!!



ヴァレンタイン・オーフレイム

山本宜久 vs ヴァレンタイン・オーフレイム

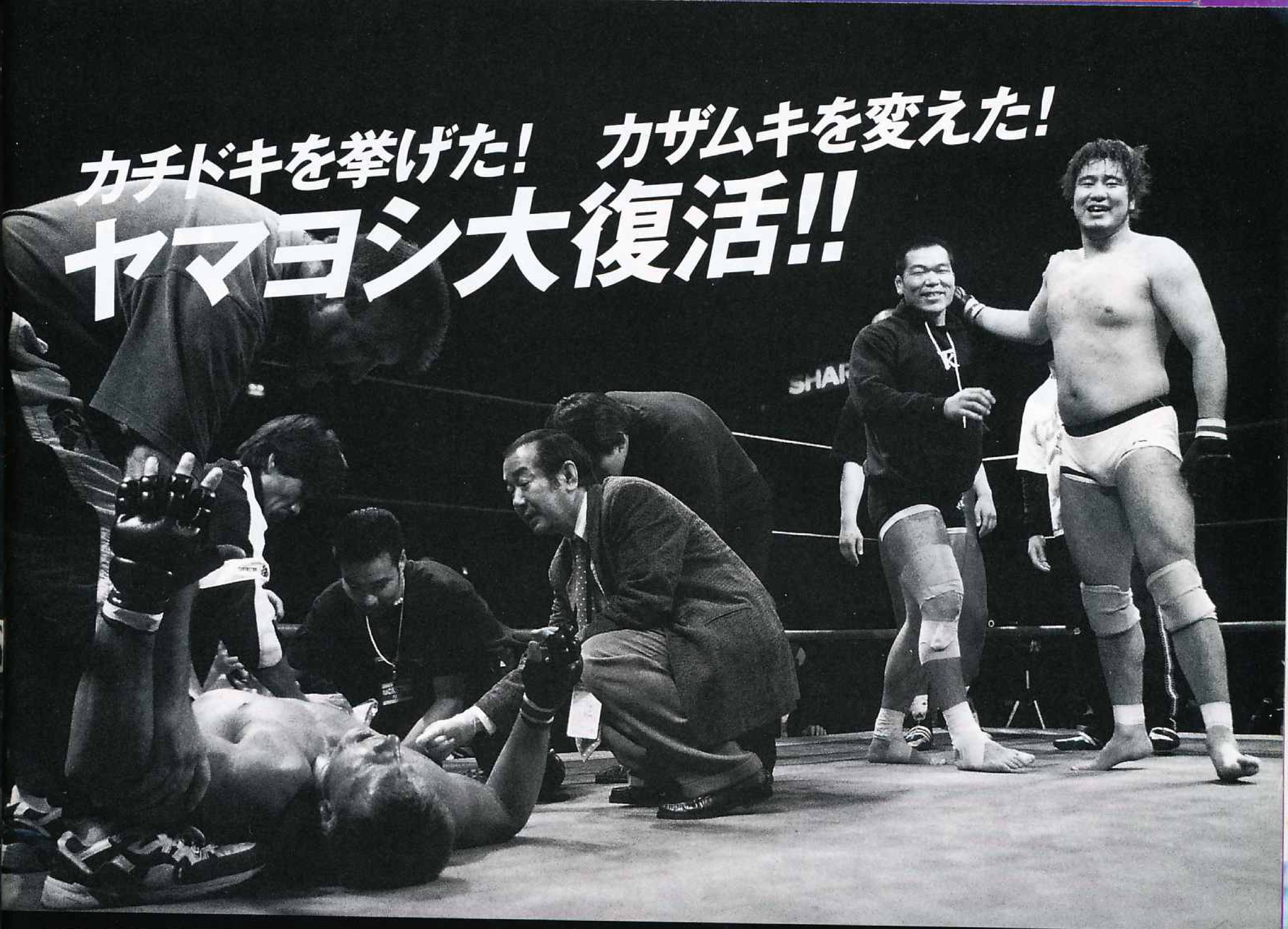
ランディー・クートゥアー

髙阪剛 vs ランディー・クートゥアー

KO必至!
壮絶シバキ合いマッチ

世界のTK、
遂にUFCの頂点に挑む!

カチドキを挙げた! カザムキを変えた!
ヤマヨシ大復活!!



バーリ・トゥードのセオリーが通用しない世界

KOK「地力」と「闘争心」爆発

「ジャパン」と「ロシア」が光った秘密はこれだ!

「カチドキを挙げろ。カザムキを変えろ。世界最強の男はリングスは決める!」

『KOK』の前身である、リングス『メガバトル・トーナメント』の記念すべき第1回大会はこんなコピーが付けられていたが、いま見るとまるで今回『KOK』Bブロックに出場した3人のリングス・ジャパン勢のための言葉のようだ。

前回の第1回『KOK』では、揃って結果を出すことができず、その後本格的にKOKルールが導入された通常興行『ミレニアム・コンバイン』に入っても、ヤマヨシがジェレミーに金原がババルに敗れ、TKはノゲイラと引き分けたものの、ヒザのじん帯を負傷するというアクシデントに見舞われてしまう。そしてトドメが彼らに向けられた「日本人が頑張らないと、リングスがダメになる」という〝田村発言〟。今回の『KOK』を迎える前は、3人に向かってまさに逆風が吹き荒れていたわけである。

この逆風のカザムキを変えることは、それこそ『KOK』でカチドキで挙げるしかないのだが、今回の『KOK』はそう易々と勝ち抜けるような甘いものではない。

前田総帥はよく「世界中の一流選手の集めたので、そこで普通なら一流選手。勝てば超一流選手」と選手を評するが、その言葉通り、今回の『KOK』ではブラジリアン柔術の世界王者、サンボの現役世界王者、現UFCヘビー級王者、アブダビコンバット無差別級王者、ルタリーブリ王者、さらにはロシア白兵戦王者までもが一同に集結。これだけのメンバーが揃うのは世界中探してもリングスKOKトーナメント以外にはありえないだろう。「世界最強の男はリングスが決める!」というコピーは伊達でないのだ。

また『KOK』で勝ち抜く難しさは、VTと違い、まだ勝利のセオリーが確立されていないところにもある。同時にそれはVTの必勝パターンが必ずしも通用しないということでもあるのだ。

またまたやります！ 2.24KOK決勝トーナメント優勝者予想クイズ!!

前号で開催したKOK決勝トーナメント進出者予想クイズに多数の御応募誠にありがとうございました。御好評にお応えして今回もやります！　題して「KOKグランドファイナル優勝者と準優勝者をズバリ当てまショー！」
書いて字のごとく、2月24日（土）両国国技館で行われる『KOKグランドファイナル』の優勝者と準優勝者を予想して下さい（トーナメント表は下記参照）。正解者の中から抽選で、2・24両国にやってくるあんな選手、こんな選手、さらにセコンドとして来日する有名選手のサインを入れた、超貴重なグッズを5人くらい（ゲットできた数による）にプレゼントします。ハガキに（1）住所（2）氏名（3）年令（4）職業（5）優勝者、準優勝者の予想を記入の上、『紙プロ』編集部、「KOKズバリ当てまショー」係まで、ドシドシ送りつけてください。住所はP175参照。

決勝トーナメント進出者予想クイズ当選者発表!! なんと正解者わずか2名！

青森県／青木雄大さん
埼玉県／本間徹哉さん

金ちゃん、TK、ヤマヨシのジャパン勢3人とヴォルク・ハンが勝ち上がるという最高の結果となった『KOK』ブロック。もちろん正解者多数かと思いきや……なんとたった2人！　やっぱり、ここまで出来過ぎ、ベタベタな予想はなかなかできないということか。そんな中、あえて正解したお2人（青木雄大さんは「予想と言うより願望」と書いていたが）には、有名＆マニアックな選手のサインがやたらと入ったグッズを差し上げます。お楽しみに。

2・24　両国国技館
KOKグランドファファイナル組み合わせ

- 山本宜久
- ヴァレンタイン・オーフレイム
- 高阪剛
- ランディ・クートゥアー
- ヴォルク・ハン
- アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
- 金原弘光
- デイヴ・メネー

この試合の面白さが分からない人はハッキリ言って馬鹿である（GK調）

超ハイレベル！　これぞKOK!! 今大会のベストバウトはヒョードルvsアローナだ！



ヒカルド・アローナ
エメリヤーエンコ・ヒョードル
この2人の顔と名前、絶対に覚えよう！

例えばマウントポジションとカードポジション。マウントは顔面パンチがない『KOK』では、極めのバリエーションがなければ意味がなく、相手がミスを犯したところを極めるガードポジションは、ミスを犯す前に膠着ブレイクでスタンドに戻されてしまう。このためVTのセオリーを熟知ブラジル勢も『KOK』では大苦戦。今回もブラジルのトップ選手が何人も参加したにも関わらず、『グランドファイナル』に進出したのは、ノゲイラただひとりだった。

このような技術体系が確立されていない状況下で光るのは、やはり地力の強さと闘争心。そしてその二つをもっとも合わせ持っているのがロシア勢である。中でもその強さが際立っていたのがエメリヤーエンコ・ヒョードル。アブダビと柔術の世界王者であり、抜群の運動能力を誇るヒカルド・アローナに対し、国際レベルの柔道の実力と地力、そして最後まで途切れない闘争心で粘り勝ちを奪い取った試合は『KOK』の可能性を大いにアピールすることとなった。

このようなロシア勢の強さと、今回のジャパン勢の活躍は無縁ではない。『KOK』のようなセオリーが通用しない土壌であるからこそ、これまでやってきた「総合格闘技」という対応力がものを言うわけであるし、何よりも「絶対に勝つ」という闘争心が、他の並みいる強豪を上回ったのである。

とにかく確実にカザムキを変えることには成功したジャパン勢。次はいよいよ2・24両国『KOKグランドファイナル』を迎えるわけだが、問題はそのモチベーションをどこまで高められるかである。1・2回戦を勝ち抜いたことで、切羽詰まった気持ちが薄れてしまっては強豪ぞろいのメンバーの中で勝ち抜くことは不可能だろう。

昨年の『KOK』でヘンゾ戦で田村が見せた以上のモチベーションをジャパン勢には是非とも期待したい。

カカレコからタップを奪い、トム・サワーをKO!!

金ちゃんの時代がやって来る!

今回は **素敵ング・オブ・キングス**

金原弘光

OF KINGS

「田村発言」真っ先に反応した男、金ちゃんが結果を出した！ 1・2回戦を完勝でクリアし、Bブロック MVPとも言える活躍。いよいよ「陰の実力者」からおさらばする時がやってきたのだ。今度こそホントにブレイク間近。グランドファイナルで大爆発必至の金ちゃんが大いに語る！(ボヤキ有り!) やっちゃってくれ、金ちゃん！

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda
試合写真／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

——金原さん、決勝トーナメント進出おめでとうございます!

金原 「見たか!」って感じだよね。もうこれでボヤキングとは言えないだろう(笑)。

——アハハハ! ボヤキング返上ですか(笑)。でも、ファンの間では「勝ってもボヤキはやめないでください」という声も多いですよ(笑)。

金原 そうなの? だけど、オレはそもそも一度もボヤいたつもりはないんだけどね。

——一度もボヤいたことがない! それは知りませんでした(笑)。

金原 でも勝ったんだから何か新しいニックネームつけてよ。カッコいいのないの?

——今回だけ「ボヤキング」改め「素敵ング・オブ・キングス」でいきましょうか。「キン肉マン」の「ステカセキング」みたいですけど(笑)。

金原 もう、なんでもいいよ(笑)。

——でも、この前の試合はホントに素敵でしたよ。特に1回戦のカカレコ戦は技術的にもビデオで何度も見たくなる試合でしたから。

金原 そうなの? 自分では「うわ、ショッパイ試合しているな」とか思いながらやってたんだけどね。

——え? なぜですか!?

金原 だって寝技が多かったからさ。ああいうグラウンドの攻防って、地味でお客さんに分かり辛いでしょ。だから「早くスタンドやらなきゃ」と思いながら闘っていたよ。

——あんな絶対勝たなければいけない状況で、お客を湧かすことを考えてたんですか!(笑)。

金原 自分の中で常に会場を湧かせたいというのがあるからさ。だからセコンドが宮戸(優光)さんだったら絶対立ち技に行ってたよ(笑)。

——アハハハ! でも、いまはファンの目も肥えてますから、グラウンドでも十分湧いてましたよ。

金原 そうだね。アームロックでタップ奪ったらすごい歓声が上がったからね。なんか最近、ファンの感情が読めなくなってきたよ。

——WOWOWで実況の高柳さんもパスガードなどで湧くのを見て「お客さんの目が肥えてきました」って言ってましたからね。これからさらに目が肥えてきたら金原さんの時代が来ますよ(笑)。

金原 みんなわかんないだろうけど、オレは意外と細かい技術で玄人が見れば凄いことやってるからね。でも、ファンがそういう技術をわかるのってずっと先じゃないの?

——そうかもしれませんね。

金原 じゃあオレの時代もまだまだ先じゃない(笑)。まぁ、地道にやっていくからいいけどさ。

——でも、KOKでの金原さんはカカレコに一本勝ち、トム・サワーにKO勝ちですから素人目にも凄かったですよ。両方とも相手の得意分野で取りましたからね。

金原 たまたま運が良かったんじゃないの? 試験問題でヤマが当たったようなモノだよ。

——アハハハ! ヤマ賭けでしたか。

金原 そうそう、傾向と対策を練ってテスト勉強して、うまいことといったかなと(笑)。

——「傾向と対策」! さすが進学校出身ですね(笑)。

金原 でもホント、ヤマが当たった感じだよ。カカレコの場合、ホントはタックルを全て切って、打撃を当てて判定で勝つ作戦だったんだけど、最初にタックルを受けた時に極められる感じがしたんでグラウンド勝負に切り替えたんだよ。それが上手くいったよね。

——ヤマ賭けでも下馬評では「不利」と言われてたのに、カカレコからタップを奪っちゃうのは凄いですよ。

金原 なんで? オレだって寝技得意じゃん。だからブラジル=寝技が強いっていうイメージが強すぎるんだよね。

——でも金原さんも試合前はけっこう弱気になってませんでした?

金原 いやぁ、カカレコなんてビデオも手に入らないし、情報といえばヒース・ヒーリングに勝ったとか、レナート・ババルに勝ったとか、そんなんばっかりだったからね。体重が90キロでババルに勝つなんて「どんなヤツだ」って思うでしょ?

——カカレコ幻想が出来てしまったわけですね(笑)。それで金原さんは、カカレコとサワーを破ったあと、喜びの涙を流してましたけど、やっぱりほっとした部分があったんですか?


金原 うん、やっぱりほっとした安堵感が一番あったんだけどさ、「ざまぁみろ!」って気持ちも大きかったんだよね。

——「ざまぁみろ」ですか?

金原 田村さんの発言があってから、マスコミなんかでもそれを真に受けて、他のジャパン勢はダメみたいな書き方が多かったでしょ。それがAブロックで田村さんが負けたら、今度は「Bブロックも日本勢が全滅か」なんて、ハナっから「田村さんが負けたから他のヤツも勝てないだろう」みたいな書き方が多くて、そういうものに対して腹が立ってたんだよ。だから「ヤッター」っていう気持ちと「ざまぁみろ」っていう気持ちが重なって涙が出たんじゃないの。

——では、相当プレッシャーもあったワケですね。

金原 あんな発言をされた



オレがノゲイラに極められることはまずないでしょう

SUTEKING

田村さんは負けたんだから オランダとアブダビに行けって

後だから、オレの中で「国技館（グランドファイナル）が全員外国人になったらいけない」というのが凄くあったんだよ。まさか3人とも勝つとは思わなかったけど（笑）。

――では、結果を出したいま、田村さんに言いたいことはありますか？

金原 なんか両国にワンマッチで出るみたいだけど、田村さんは負けたんだから、そんなところに出てこないでオランダとアブダビ行ってくださいって。

――アハハハ！ 去年の金原さんと同じように（笑）。

金原 自分が経験すれば、みんながどんだけ頑張ってきたか分かるでしょ。オレなんて去年はリングスオランダ大会に出て、一週間後にアブダビ行ったからね。しかも怪我したまだよ。きっと今回もオレが負けてたら行かされてたよ（笑）。だから田村さんも1月のオランダ大会に出りゃいいんだよ。

――でも、リングスとしては興行的にもエースの田村さんが出場した方がいいとは思いますけど。

金原 エースって誰が決めたの？

――マスコミやファンだと思いますけど、本人はそんな気がないみたいですから。

金原 うそ？ 本人が一番あるんじゃないの。だいたいさ、よく書かれる「田村、山本、髙阪」っていう順番が腹立つよね。オレはどこにいるんだって！

――確かに「金原」の2文字は見当たりませんね（笑）。でも、最近は「リングス四天王」という感じじゃないですか？

金原 「3強プラス1」とかじゃないの（笑）。そもそも「田村、山本、高阪」っていう順番自体がおかしいんだよ！ だから今年はオレの名前が一番上にくるようにするから（キッパリ）。今回のBブロックもオレが一抜けでトップになったと思ったら、みんな勝ち残って、「あれっ？」ってなったから（笑）。トップになるためにグランドファイナルで勝たないとね。それから前も言ったけど、日本人トーナメントをやってもいいし。

――そのことなんですけど、田村さんに話を聞くと「とりあえず、今はやる気がない。あまり〝下〟を見ても仕方がないから」ということなんですよ。

金原 （不機嫌そうに）へ～〝下〟ね。負けるのが怖いからでしょ。でも〝下〟の3人がファイナルに残って〝エース〟がコケてるくせにねぇ。ま、そんなことを言うのなら余計に日本人トーナメントをやらなければいけないね。やって、自分が勝った時に初めて言えよと思うよ。

――田村さん的には対外試合を含めて、意味のある試合をやっていきたいということらしいんですけど。

金原 まあ、別にどうでもいいじゃないの。オレもリングスにこだわっていないし。

――オッ!?

金原 そういうことは、あまり言わない方がいいのかな（笑）。

――いや、いいんじゃないですか。

金原 「なんや、どういうことや」って言われても怖いでしょ（笑）。

――アハハハ！ でも今年も『コロシアム』が開催されるみたいですし、去年スペーヒーと闘ったみたいに、金原さんも外でやってみたいという気持ちがあるんですか？

金原 うん。日程と対戦相手とあとはギャランティが合えば喜んで出るよ。

――それに海外じゃなければ（笑）。

金原 そうそう（笑）。

――まだファンの一部に「『PRIDE』はバーリ・トゥードだからKOKより上」みたいな見方をしてる人もいますから、金原さんが外に出てバーリ・トゥードで実力を見せつけるのも面白いですよね。

金原 でもオレは面白い試合がしたいんだよね。だからバーリ・トゥードが面白いかって言ったら、やっぱりKOKの方が面白いと思うしね。ま、ルールは別にどうでもいいよ。バーリ・トゥードだったらまた闘いを変えるし。別に外に出なくても、リングスでバーリ・トゥードやってもいいしね。リングスにはミレティッチとかクートゥアーとか現役のUFC王者が来てるんだから。

――でも金原さんは、桜庭さんやエンセンさんと仲がいいですけど、やっぱり『PRIDE』に出ている知名度で桜庭さんやエンセンさんに軍配が上がるじゃないですか。そういうのって悔しくないですか？

金原 もちろんライバル意識はあるけどさ、彼らは彼らで頑張ってくれればいいし、オレはオレで頑張ればいいからね。だって桜庭みたいになったら大変だよ。取材の量とか凄いから練習できないって言っているからね。それにこうやって焼き肉を食ってるときに、人からチラチラ見られても困るじゃん（笑）。これくらいでいいんじゃないの。

――でも、金原さんはせっかく強いんだからもっとブレイクしてもらわないと。

金原 オレは給料だけ上がればいいよ（笑）。

――その姿勢がブレイクを妨げてますよ（笑）。桜庭さんみたいにマスクを被って入場したりとかはないんですか？

金原 それはないなぁ。だってリングスでやったら前田さんに怒られそうじゃん（笑）。

12.22「KOK2000」Bブロック BOUT REVIEW

1st math
ヴォルク・ハン（2R0分08秒 KO）リー・ハスデル

ヴォルク・ハン遂にKOKに登場！ ハスデルをKO！



遂にKOKの「本場所」に出場したハンの初戦の相手は“リングスのポリスマン”リー・ハスデル。ハンのKOKでの実力を測定するにはもってこいの相手となった。元キックボクサーのハスデルに対し、ハンはなんと打撃勝負を挑み、見事KO勝ち。

2nd math
ボビー・ホフマン（1R0分43秒 KO）ヨープ・カステル

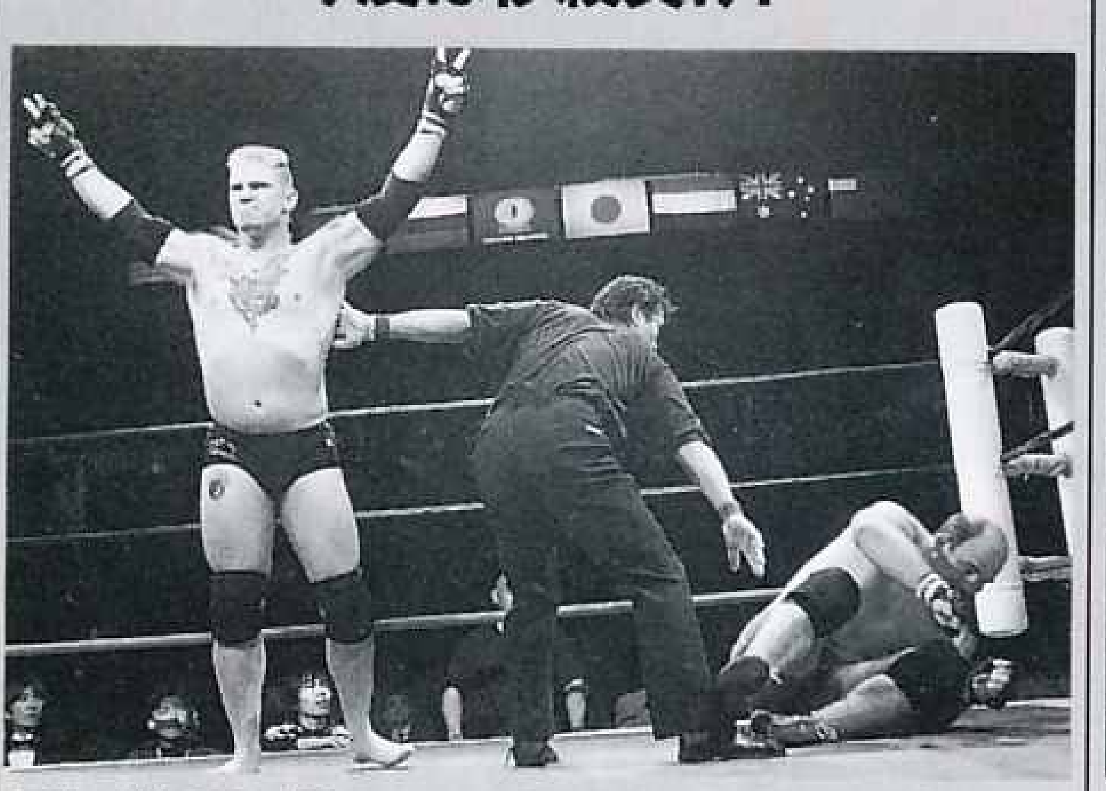
カクテルなす術なし！ ホフマンがKO記録更新



KOK以前のリングスでオランダの時期エースと目されていたカステルが萬を持してKOK初出場。連続KO記録を更新中の剛腕ボビー・ホフマンと対戦。リングスの怪獣対決として期待されたが、カステルはホフマンの顔面パンチに全く対応できず秒殺KO負け。

3rd math
トム・サワー（1R0分10秒 KO）アンドレイ・コピィロフ

秒殺マシーン、コピィロフ 今度は秒殺負け！



丁度1年前の同じ大阪でKOK1、2回戦を計24秒で勝ち抜き「秒殺マシーン」と呼ばれたコピィロフは、リングスUSAハワイ大会で活躍した“トムソーヤー”ことサワーと対戦。久々にコピィロフの凄みが見れるかと思いきや、今年は逆に10秒でKO負け。

——アハハハ！　たぶんそうでしょうけどね（笑）。

金原　だけど何度か試合で酔拳とか使おうかとは思ったんだよ。

——酔拳！　それじゃコピィロフですよ（笑）。

金原　あれは達人だからね（笑）。でもホントに蛇拳とかたまに道場で練習してるんだよ。いまだ試合で出したためしがないけどね。

——グランドファイナルで蛇拳を出したら衝撃的ですよ（笑）。

金原　でも、KOKルールだとワンダウンで負けだから厳しいな（笑）。

——それはそうと、さきほど「ライバル」という話がでましたけど、『格通』の選手名鑑の金原さんのライバル欄は凄いですね。「エンセン井上、天山、和田良覚」って（笑）。

金原　和田さん強いんだよ。業界では有名だよ。金原、桜庭を極める和田って（笑）。

——「和田柔術」を使うらしいですね（笑）。

金原　そう。リングスの最終兵器だから（笑）。

——まぁ、和田さんはともかく（笑）、天山選手というのが意外に思う人が多いと思いますけど。

金原　天山は意識しているよ。この前の川田選手との試合（1・4ドーム）も良かったじゃん。「頑張れ」って言いながらテレビ見てたよ。

——あれはいい試合でしたね。

金原　うん。オレは天山ファンだからね。オレも入場してくる時、天山の角をつけたいよ（笑）。

——アハハハ！　それはゼヒやりましょう！（笑）。

金原　いま桜庭がいろいろやってるけど、オレがもしパファーマンスをやるとしたら、やっぱり角だね。

——やっぱり、角（笑）。

金原　実はキングダムの頃、天山の角借りて入場しようかなと思ったことがあったんだよ。

——ホントにやろうとしてたんですか！（笑）でも、当時は、早すぎたでしょうね。

金原　うん。それに高田さんがいたからね。角をつける勇気が出なかったよ（笑）。

——アハハハ！　天山選手とはいまでも話したりするんですか？

金原　喋るよ。たまにパチンコ屋で会ったりもするしね。

——新しいファンは金原さんと天山選手の関係は知らないと思うんですけど。

金原　うそぉ!?　知ってるでしょ？

——いや、新しいファンは知りませんよ。「新日本プロレス学校」で最初に苦楽を共にした仲ですよね。

金原　そう、お互いプロレスラーになりたかった頃から知ってるんだよ。だからいまこうやって活躍しているのを見ると、ライバルというか嬉しいよね。

——金原さんはやはり新日本プロレスに入門したくて「新日本プロレス学校」に入ったんですか？

金原　そうそう、オレは元々タイガーマスクとダイナマイト・キッドに憧れて新日本のJr.で活躍したいと思っていたからね。二世でも三世でもいいから、とにかくタイガーマスクになりたかったから。

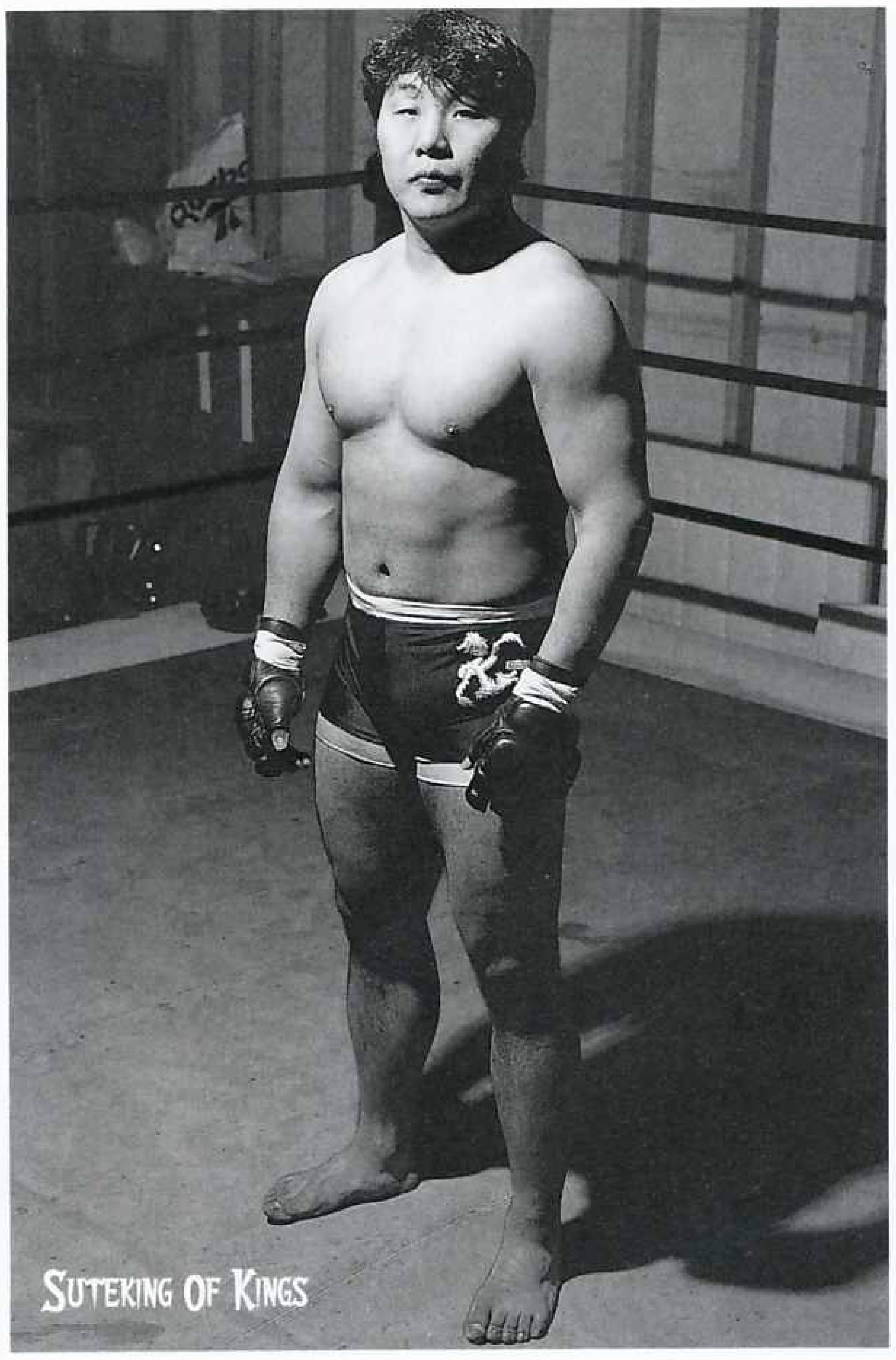
——金原タイガーは一度見てみたいですね（笑）。タイガーに憧れたっていう意味では桜庭さんと同じですね。

金原　へ～、アイツもタイガーマスクになりたかったんだ。でも、オレが一番好きだったのはキッドの方だったの。Uインターの頃、ゲイリー（・オブライト）がよく全日本の外人選手に会いに行ってたんだけど、そんときキッドに会いたくてついてったくらいだから（笑）。

——実際会ってみてどうでした？

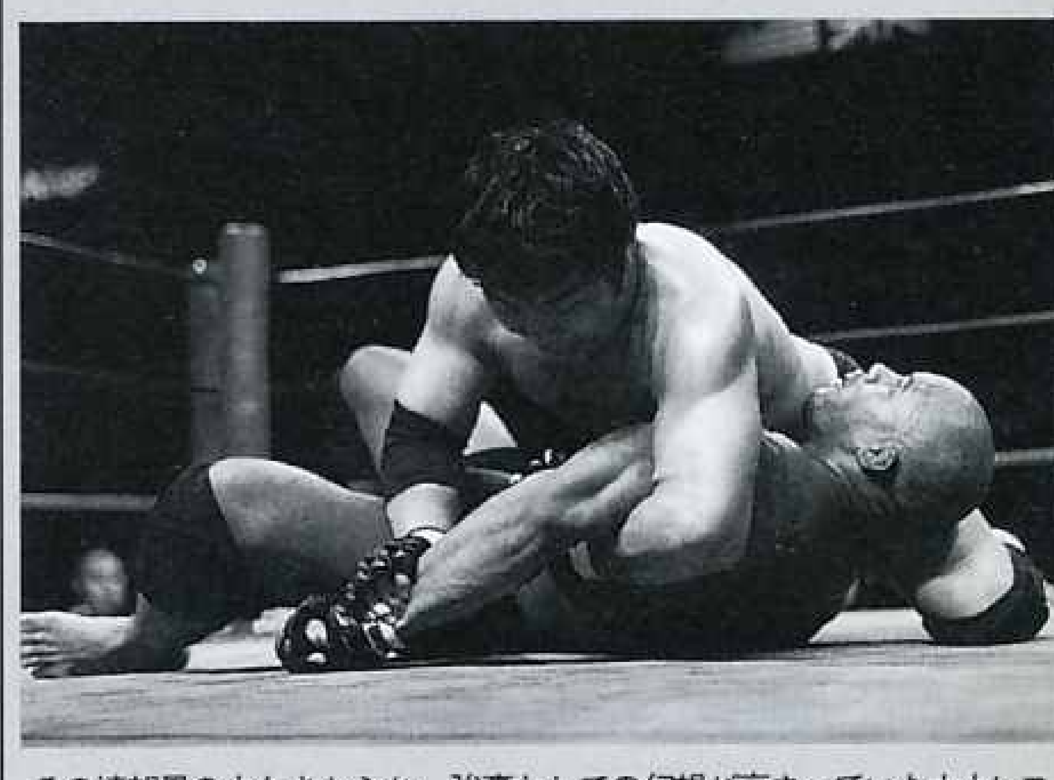
金原　嬉しくて握手してもらったんだけど、キッドも全盛期も過ぎていて体が萎んでてさ。全盛期の頃、会いたかったよ。あとタイガーマスクともUインターの末期に同じリングに上がったけど、出来れば会いたくなかったね。あの2人は自分の中のイメージのままでいてほしかったよ。

——キッドは萎んで、タイガーは膨らみましたからね（笑）。ところで新日本プロレス学



4th math
金原　弘光（2R2分45秒 アームロック）**アレシャンドリ・カカレコ**

“まだ見ぬ強豪”カカレコにカネハラ・ロックで完勝！



その情報量の少なさからか、強豪としての幻想が高まっていたカカレコ。そのため下馬評では金原不利と予想されていたが、金原は開始早々のタックルを受け止めると、寝技で真っ向応戦。最後は「金原スペシャル」とも言うべきダブルリストロックで見事一本勝ち。

5th math
エメリヤーエンコ・ヒョードル（3R 判定）**ヒカルド・アローナ**

今大会のベストバウトも優勝候補アローナ敗れる！



その運動能力と技術の高さから、「優勝候補の筆頭」と目されたアローナ。柔道の国際レベルの強豪ヒョードルとの対戦は、大会屈指のハイレベルな闘いとなった。アローナが仕掛け、ヒョードルが跳ね返す。最後はスタミナの差でヒョードルに凱歌。凄い試合だった！

6th math
髙阪　剛（2R1分53秒 KO）**イリューヒン・ミーシャ**

急成長したミーシャにTK、意地の殴り勝ち



昨年の反省を踏まえ、ハンと同じようにミーシャもKOK用に変身。タックルと打撃に磨きをかけて挑み、まだ8月のノゲイラ戦で負ったヒザの怪我が完治していないTKを相手に有利に試合を進める。しかしTKは一発のヒザ蹴りで形勢逆転。最後はパンチで打ち勝った。

校には当時、天山さん以外にいまプロレスラーになった人はいたんですか?
金原 いたよ。グレート・サスケとかね(笑)。
——え!? サスケ社長も一緒だったんですか?
金原 そう。だけど「プロレス学校」っていっても、ホントは学校でもなんでもないんだよ。
——どんなものなんですか?
金原 名前からすると、なんか「プロレスラー養成所」みたいだけど、ホントは「巡業中は道場が空いているからキミ達勝手に使っていいよ」ってところだったから(笑)。
——アハハハ! 「新日本プロレス学校」は毎日が自習でしたか(笑)。
金原 そう(笑)、何も教えてくれないから、ウエートやるくらいしかないのよ。たまに、(山本)小鉄さんが教えてくれたりするけどそれも月に一度か二度で受け身を少しやるくらいなんだよ。だから、来てもただプロレスの話してるようなヤツが多かったよ。
——「プロレスラー養成所」というよりプロレス同好会だったと(笑)。
金原 そうそう。変なヤツが多かった。
——そんな新日本志向だった金原さんがUインターに入門したのは何か心変わりがあったんですか?
金原 「プロレス学校」にたまたまシューティングとかを経験している人がいて、関節の極めっことかやってたんだよ。そういうのを教えてもらっているうちに「これは面白い」と思ってね。それに当時、UWFが全盛だったでしょ。オレ、高校生の頃に名古屋で前田さんと髙田さんが闘って髙田さんが勝った試合を見に行ってたの。
——露橋スポーツセンターですね!
金原 子供の頃の憧れはキッドだけど、実際にこの世界に入る決心をしたのは、あの試合を見てなんだよ。だから新日以外にUWFも選択肢に入ってたの。そうしたらUWFが解散して、新団体ができたでしょ。「これはチャンスだ」と思ってすぐ受けたの。たまたま受かったから良かったけどね。
——その時、リングスでも藤原組でもなくUインターを選んだ理由は何なんですか?
金原 やっぱり人が多いから。先輩が多ければ多いほど強くなるかなと単純に思って。
——リングスは日本人が前田さんしかいませんでしたからね。
金原 でも、最後はリングスだけ残っているから凄いよね。そういった意味では、前田さんはやっぱり凄いよ。1人でこれだけやっているわけだから。
——そうですね。さて、そのリングスの頂点に金原さんがつくチャンスがやってきたわけですが。



金原 なに、決勝トーナメントの話? でも決勝はホント難しいよ、みんな厳しい1・2回戦を生き残ったヤツだから。
——でも金原さん、ここが正念場ですよ。1・2回戦の活躍でリングスファンには金原さんの強さは伝わりましたから、ホントにブレイクまであと一歩……二歩、三歩ぐらいですよ(笑)。
金原 3回勝たなきゃダメってこと? やっぱり優勝しなきゃダメか。
——グランドファイナル初戦のデイヴ・メネーは、金原さんの要望が通った形ですよね。
金原 そうそう。みんなヘビー級でオレと同じくらいの体重ってメネーぐらいでしょ。だから事前に前田さんに「一回戦はとりあえず体重同じくらいですよね?」って言っておいたんだよ(笑)。
——アハハハ! 決定前に念を押しておいたと(笑)。
金原 そう、そしたら「まあ、そうやな」って(笑)。でも、もしオレが何も言わなかったら、いきなりオーフレイムと組まれるはずだったらしいよ。オレ、オーフレイム苦手だから嫌だったんだよ。
——以前、有明でノックアウト負けしたことが記憶に残っているわけですか?
金原 うん、それもあるし、オランダでも試合したじゃん。アイツのハイキックは強烈に痛いんだよ。
——アハハハ! 痛いからイヤ(笑)。
金原 アイツの身長からオレの身長へハイキックって簡単じゃない。だからとんでもなく強烈なんだよ(苦笑)。だからオーフレイムとだけはやりたくなかった。あとは誰でも良かったんだよ。
——今回のメンバーの中ではメネーは闘いやすい相手ですよね?
金原 でもメネーって強いヤツとやっても判定勝ち、弱いヤツとやっても判定勝ちじゃない。それに強く見えないのに、ホベルト・トラヴェンとかいう柔術の世界チャンピオンに勝ったからね。ペレにも勝っているでしょ。
——ファビアノ・イハなんかにも勝ってますね。だから逆に言えば、もし判定負けしたらこんなに損な相手はいませんね。
金原 そうだよ。ホントにアイツは試合巧者だよ。
——メネーに勝ったとして、次はノゲイラかヴォルク・ハンですが。
金原 九割方ノゲイラが来ると思うけどね。
——ノゲイラは相当強いですよね。
金原 強かったね。TKとやった時より前回の方が調子上げてきてるし、オレと15キロくらい差があるでしょ。でもまぁ、

12.22「KOK2000」Bブロック BOUT REVIEW

9th math
ヴォルク・ハン（3R 判定）**ボビー・ホフマン**

ハン、傷だらけの決勝進出
しかし微妙な判定にホフマン激怒



なんとホフマン相手に打撃で上回るハン。しかし、タックルを切られると体格とパワーで勝るホフマンがグラウンドで上になり、ひたすら圧力をかける。明らかにハンは劣勢だったが、延長Rに入ると蘇生。ストレートとタックルでポイントを取り大逆転勝利。

8th math
山本 宜久（1R4分38秒 腕ひしぎ逆十字固め）**ビターゼ・アミラン**

流した血便は嘘つかない
ヤマヨシKOK初勝利!



昨年KOKがスタートして以来勝ち星がなかったヤマヨシが、血便血尿を出すほどの特訓をつみ、背水の陣で挑んだこの一戦。しかしアミランにタックルを切られる苦しい展開。そんな中でアミランの蹴りを身体で受け止め、十字で逆転。ヤマヨシ歓喜!

7th math
クリストファー・ヘイズマン（2R 判定）**カーロス・バヘート**

"毒グモ"バヘートがKOK登場
伏兵ヘイズマン大金星!



ブラジリアン・トップチームからリングスへの新たな刺客、"毒蜘蛛"バヘート。あのボブチャンチンですら攻略できなかった難攻不落の男だが、ヘイズマンがやってくれた。対格差をものともせず、打撃でヒットアンドアウェー戦法をとり、見事判定勝ち。

今は世界中の誰とやっても極められない自信があるよ



まず極められることはないだろうから、それはそれで傾向と対策練りますよ。

――ノゲイラは田村さんが完敗をした選手ですよね？　その相手でも極められない自信があるワケですね。

金原　うん、大丈夫でしょう。そんなこと言って、秒殺されるかもしれないけど（笑）。

――ノゲイラの極めの強さは世界のトップじゃないですか？

金原　でも、オレの中でマリオ・スペーヒーに極められなかったというのがあるから。ノゲイラはスペーヒーの弟子じゃない。スペーヒーに極められなかったのに、弟子のノゲイラに極められたらスペーヒーに失礼じゃん。

――アハハハ！　スペーヒーに失礼ですか（笑）。でも、金原vsスパーヒー戦の寝技切り返し合戦は何度ビデオで見ても凄いですよね。

金原　あんなに動いた寝技見たことないでしょ？　オレも初めてだよね、寝技であんなに動いたの。スペーヒー戦を経験してるから、今は基本的に誰とやっても極められない自信あるよ。オレがバテない限りね（笑）。バテたら分からないけど、世界中の誰とやっても極められない自信あるよ！

――それは頼もしいですねぇ！

金原　まあね。でも、バテるとオレ「もう、いいや」って思っちゃうから。スパーリングやってても疲れてくると「もう、取ってくれぇ～」ってそのまま腕を差し出す時があるからね（笑）。

――アハハハ！　トーナメントでは是非そうならないようにして下さい。

金原　でも、5分2ラウンドなら大丈夫でしょう。ノゲイラなんて寝技地獄に引きずり込むのはわかりきってるし、あとはどう傾向と対策を練るかだけだね。

――金原さんは以前「同じ階級だと負ける気がしない」という発言がありましたよね。それと今回の「誰にも極められる気がしない」という発言を合わせると、ほとんど世界最強宣言じゃないですか。

金原　そう言いながらもやられるかもしれないけどね。やられたら謝ればいいか。「やられちゃいました」って（笑）。でも確かに、あとオレに体重が10キロと身長が10センチあったらと思う時があるよね。そうしたら怖いモノなしかなってね。

――そういう実力を証明するためにも勝つしかないですよ。

金原　でもコンディションがしっかり整えられたらいい結果が出ると思うよ。いつもコン

10th math
金原　弘光（1R4分14秒 KO）**トム・サワー**

まずは金ちゃん勝ち抜け　サワーを打撃でKO！



打撃だけの選手かと思われたサワーだが、金原相手にグラウンドで有利なポジション奪うなど隠れた才能を発揮。しかし金原は慌てず騒がず対処すると、あえてサワーの土俵であるスタンドへ。鮮やかなハイキックからパンチの連打でKO！まずは金ちゃん一抜け！

11th math
高阪　剛（1R0分17秒 TKO）**エメリヤーエンコ・ヒョードル**

ヒョードル無念の大流血　TKもファイナル進出



一回戦でその恐るべき潜在能力を見せつけたヒョードル。手負いのTKは苦戦が予想されたが、開始早々にヒョードルがパンチで目尻をカットしてしまいドクターストップ。好カードだけに残念だが、これまで不運が続いたTKだけにファイナルに期待。

12th math
山本　宜久（1R3分51秒 KO）**クリストファー・ヘイズマン**

これぞ藤原道場特訓の成果　ヤマヨシ、ヘイズマンの足を破壊



金原、TKが勝ち抜け、最後に登場するは今回の主役とも言えるヤマヨシ。絶対負けられないシュチュエーションの中、1回戦同様苦しい展開を強いられる。しかし最後にものを言ったのは鍛え上げたスネ！ローキックでヘイズマンの足を破壊！大団円！

ディションが悪いままで試合をやっていたからね。

——グランドファイナルに向けての練習の方は順調なんですか？

金原　ちゃんとやってますよ。今、道場が凄く寒いから、嫌なんだけどね（笑）。でも、オレってあんまり練習やってないようなイメージがあるみたいなんだよね。みんなに「山本さんは凄く練習していますが金原さんはどうですか？」とか言われてさ、オレだってそこそこやっているのにさぁ。

——そうですよね。大阪大会の写真を見ても腹筋出ていますよ。

金原　（誇らしげに）そうでしょ。だいぶ、頑張ったんだよ。それでも「金原さんは藤原道場とか行かないんですか？」って聞かれるんだよ（笑）。そこでオレが「移動の時間がもったいないから、昼寝にあてたい」とか言うからダメなのかなぁ。オレは、しっかり道場でやっているから大丈夫だよというのがあるんだけどね。

——でも、金原さんの取材を結構やってるボクから見ても、いつも滑川さんと2人で練習してるだけで、なぜこんなに強いのかなとかたまに思いますけどね（笑）。

金原　滑川とやれば十分だよ。滑川は強くなったよ。ビックリするよ。アイツは試合は上手くないけど、練習では足腰も強いしガンガン動くしいい練習になるよ。

——そうなんですか。滑川さんももっと試合が組まれればいいんですけどね。

金原　オレもそう思うよ。

——ところで金原さんってなんだか桜庭さんとキャラが被っている部分がありますよね。

金原　そう？　被ってるかなぁ。

——庶民派だけどすごく強いところとか、飄々としてるところとか。めんどくさがり屋なところなんかも似てますよね。

金原　でも、かたや大スターだからね。桜庭なんかに比べると、オレの試合って面白くないのかなぁ。オレは他の誰の試合よりも自分の試合が好きなんだけどね（笑）。

——アハハハ！　金原選手自身が大の金原ファンでしたか（笑）。

金原　客観的に見てもそうだと思うよ。そうじゃない？

——いや、金原選手の試合は面白いですよ。だからもったいないんですよ。せっかく強いし、試合も面白いんだから、あとはプラス・アルファだけですよ。

金原　やっぱり桜庭のマスクに対抗して、天山の角つけた方がいいかなぁ（笑）。

——絶対つけるべきですよ！

金原　リングスでやったらヤバイでしょ。でも、あの黒い角は格好いいよね。じゃあ、決勝まで行ったらつけようかな。

——ゼヒやりましょう！　できればポンチョも黒のを新調して（笑）。

金原　お金がないから新調はいいや。あの白ので十分だよ。

——ものついでにお聞きしたいんですけど、あのポンチョはどういった意味があるんですか？　長年の疑問だったんですけど（笑）。

金原　あれはマイク・タイソンだよ。タイソンがああいったの着ているじゃん。あそこからパクッたの。

——あれはマイク・タイソンだったんですか！

金原　そうそう。マイク・タイソンやってるの見て、これは脱ぎ易いし着易いしいいなって思って。

——あのポンチョがタイソン・スタイルだとはまったく気付きませんでした（笑）。

金原　ただ、タイソンのはタオルなんだよね。オレは革だから！

——高いぞと（笑）。では最後に、恒例の20万ドルへの意気込みを聞いて終わりにしましょう。

金原　でも20万ドルもらっても、みんなにたかられるし、そんなに残んないよ。会社もいくらか持ってくみたいだし（笑）。

——アハハハ！　そうなんですか（笑）。

金原　だから今回はそれよりも「チャンピオン」という肩書きができるから、それが一番大きいよ。

——お金より肩書き！　確かに金原さんは『無冠の帝王』、『無冠のボヤキング』と呼ばれるようにタイトルと無縁なんですよね。

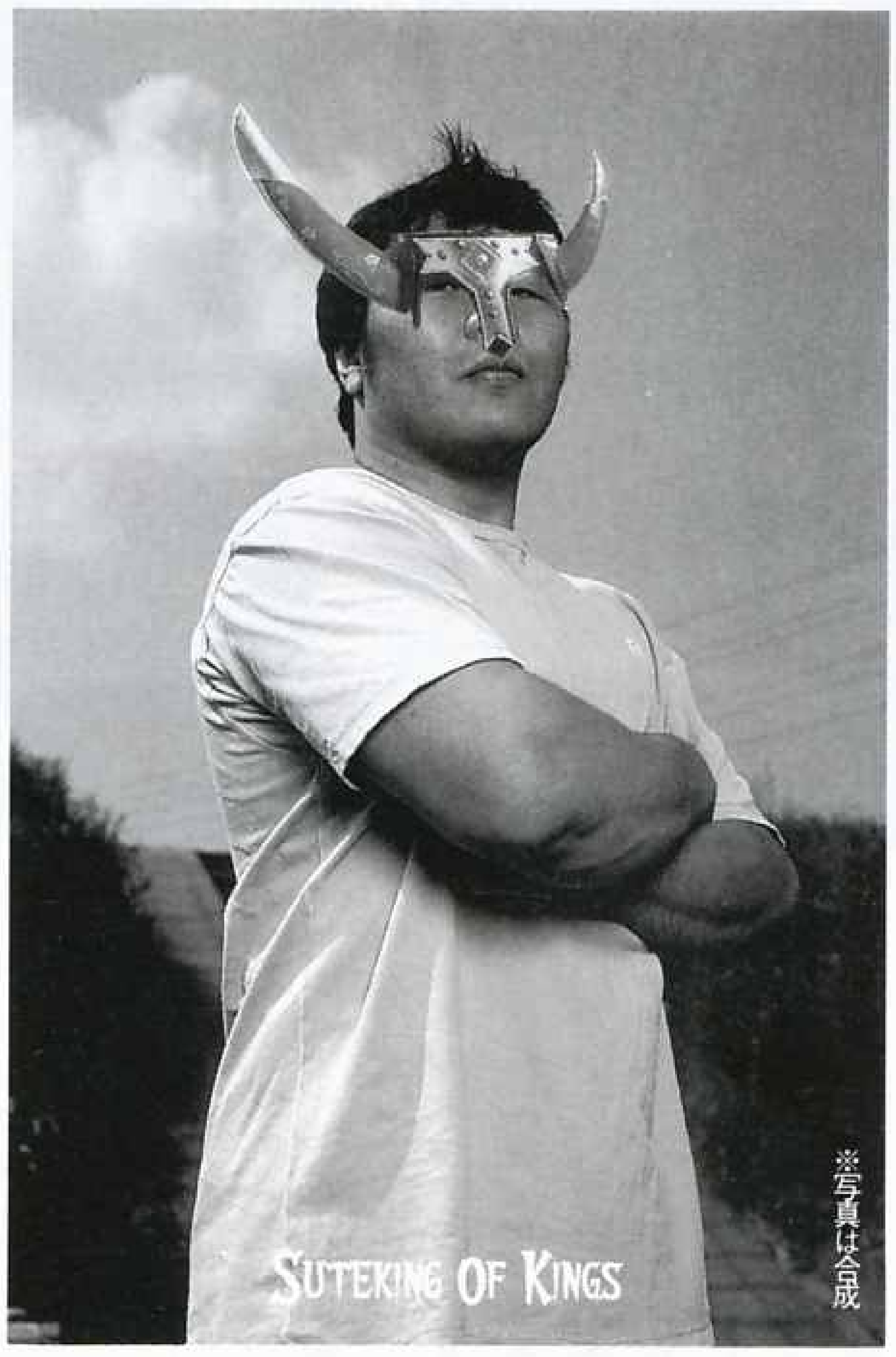
金原　ホント、ないんだよな。だから絶対タイトルが欲しいよ。チャンピオンベルトも一回巻いてみたいし。

——でもKOKはベルトじゃなくて月桂冠ですよ（笑）。

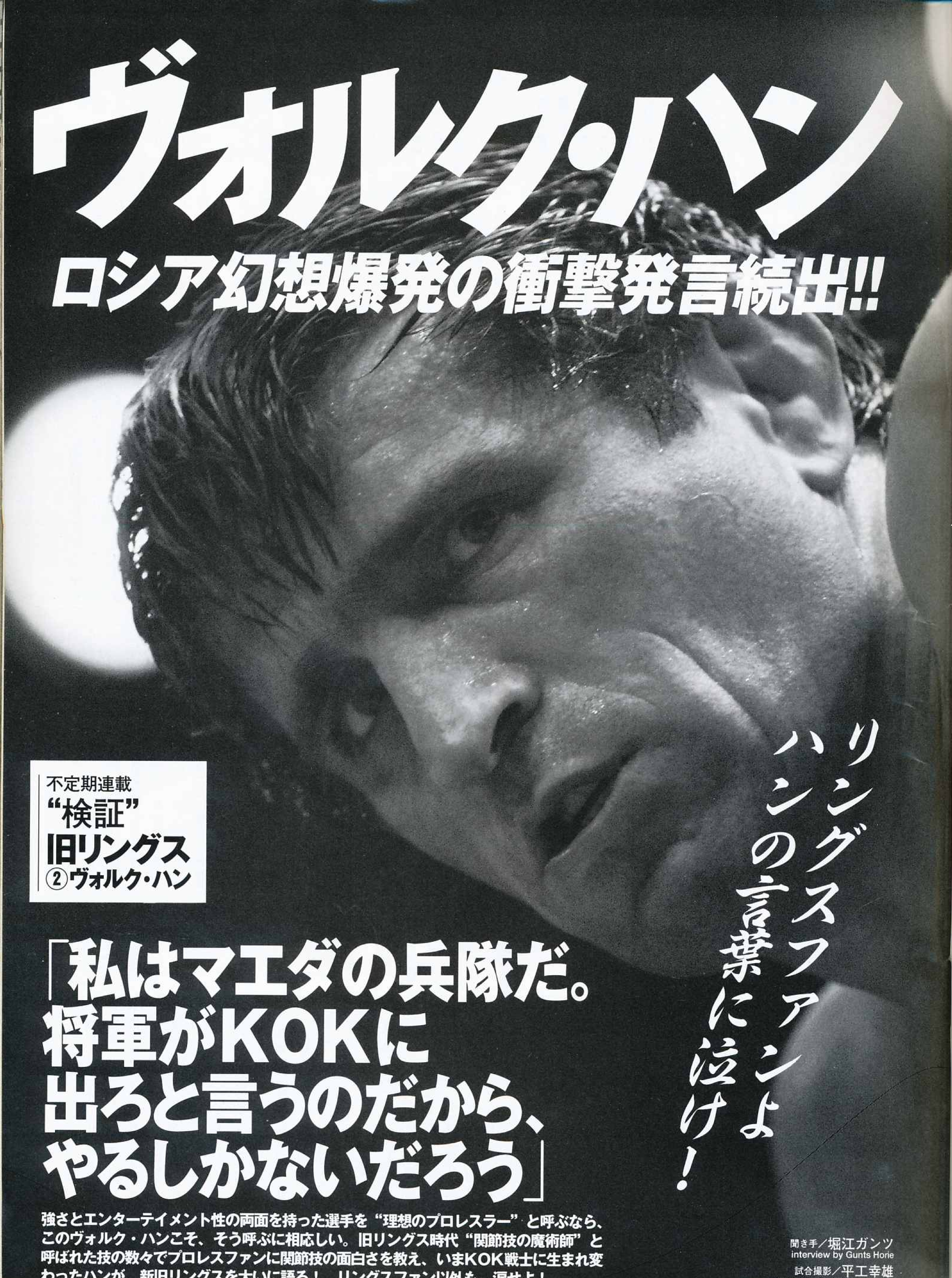
金原　あ、そうか。そのときは桜庭みたいに自分でベルト作るよ（笑）。

——ベルトのまん中におっきく「金」って書いてある「金原オリジナル・ベルト」はめちゃくちゃ見たいですよ！（笑）。優勝期待してます！

【01年1月13日　前田道場近くの『焼肉村』にて収録】



※写真は合成



ヴォルク・ハン

ロシア幻想爆発の衝撃発言続出!!

リングスファンよ
ハンの言葉に泣け！

不定期連載
“検証”
旧リングス
②ヴォルク・ハン

「私はマエダの兵隊だ。将軍がKOKに出ろと言うのだから、やるしかないだろう」

強さとエンターテイメント性の両面を持った選手を“理想のプロレスラー”と呼ぶなら、このヴォルク・ハンこそ、そう呼ぶに相応しい。旧リングス時代“関節技の魔術師”と呼ばれた技の数々でプロレスファンに関節技の面白さを教え、いまKOK戦士に生まれ変わったハンが、新旧リングスを大いに語る！　リングスファン以外も、涙せよ！

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
試合撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

私を応援してくれる何千、何万のファンのためにも絶対に負けられない

――KOK決勝トーナメント進出おめでとうございます！

ハン　（異常に元気よく日本語で）ドウモ！

――KOKで2試合闘った翌日なのに元気ですね（笑）。昨日のお話は後ほど聞くことにして、今回は10年に及ぶリングスでの闘いを中心に伺いますのでよろしくお願いします。

ハン　（異常に元気よく日本語で）ヨロシクオネガイシマース！

――元気だ（笑）。ハン選手は91年の12月に前田さんとの試合でデビューしてから、今日まで闘い続けてるわけですけど、元気ついでに最初にリングスに出場するようになったきっかけから聞かせてください。

ハン　当時、私は現役のサンビストとしてサンボ大会にたくさん出場していたんだが、その時にタイミングよくマエダたちがリングスにサンビストを呼ぶために視察に来ていたんだ。私はそこで誘いを受けたんだよ。

――堀米（奉文＝前リングス審議委員長）さんに聞くと、ハン選手はずいぶん自分から売り込んできたとのことなんですけど、実際どうだったんですか？

ハン　当時の私は喧嘩が好き！　お金が欲しい！　違ったルールで闘ってみたい！　そして外国に行ったことがないので行ってみたかった。そういう私の願望がリングスに出場することですべて叶えられたんだ。もうその話を聞いた時、なにがなんでもリングスに出たいと思った。だからマエダたちが視察しているときに、なるべく目立つように派手な技を使って自分をアピールしたんだよ（笑）。

――その作戦が見事に成功したと（笑）。

ハン　そういうことになるね（笑）。

――当時はまだソ連時代でしたから、「プロ」という概念すらない共産圏だったわけですけど、実際に初めて「プロ」という舞台に立ったとき、どんな感想を持ちましたか？

ハン　簡単に言うと、やはりプロとアマは何もかもが違ったよ。入場で音楽が流れて、きらびやかな照明があてられて、1万人もの観客から大歓声を受け、試合後は多くの記者に囲まれる。もちろんこんな体験は初めてだったし、こんな世界があることすら知らなかった。私はここが地球ではなく、別の惑星に来たのかと思ったよ（笑）。

――そこまで衝撃的でしたか（笑）。でも、ハン選手は性格的にプロの世界の水が合ったんじゃないですか？

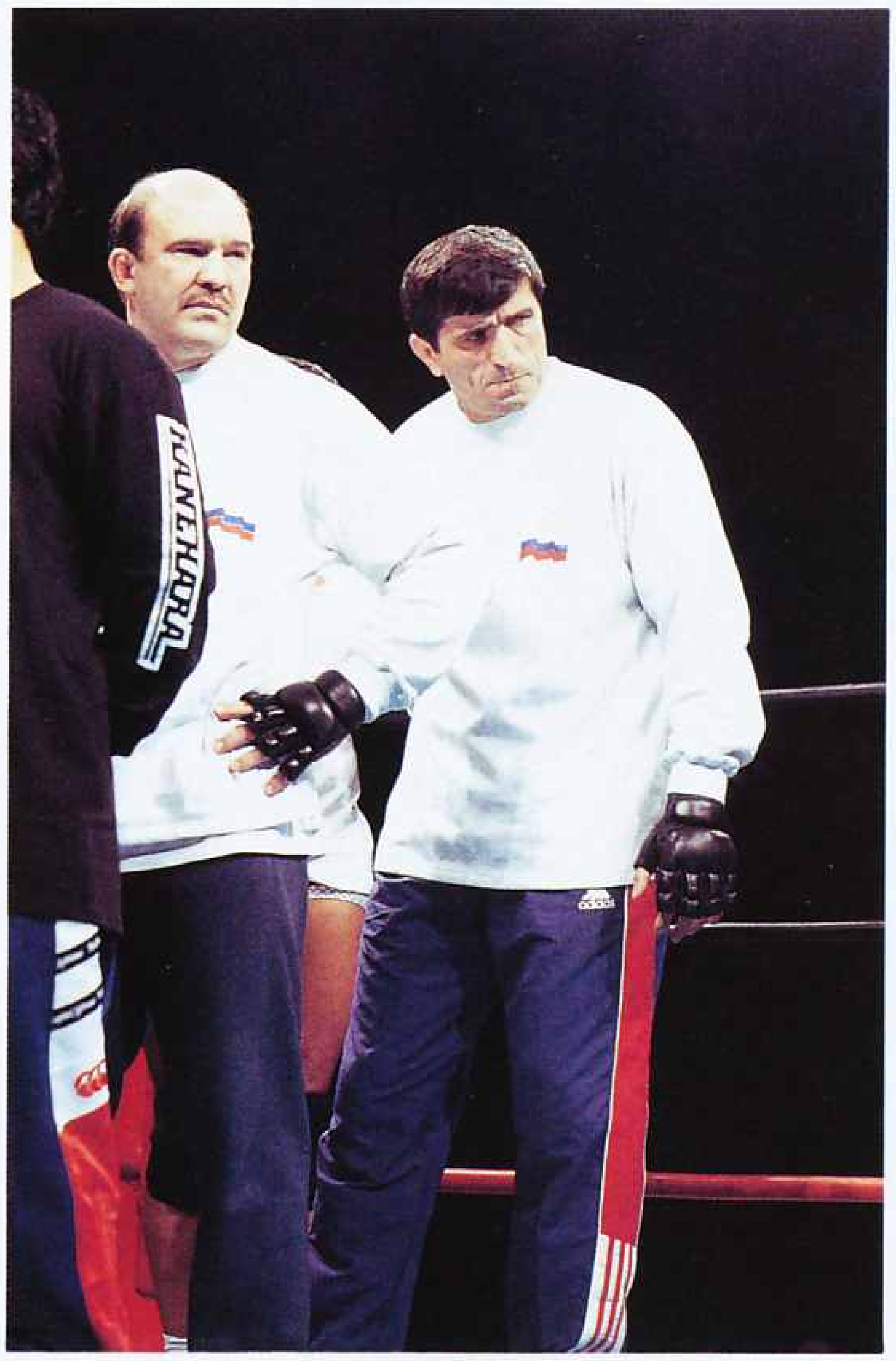
ハン　確かにそれは言えるね。以前のリングスルールで闘うことは私の最高の喜び、最高の楽しみだったからね。私が培った技術で多くの人を楽しませる。最高の仕事だ。

――そういった意味では、ハン選手にとって以前のルールのほうよかったと。

ハン　前のルールは5回のダウン、エスケープが許されていたので、私は失敗を恐れずいろんな技が出せた。だから毎回試合後に勝っても負けても「今日も綺麗な技が見せられた」という満足感があったんだ。だから試合をするのが本当に楽しかった。ところがいまは楽しんでる場合じゃないんだよ（笑）。とにかくアグレッシブに攻めて、心を鬼にして相手を痛めつけなければならないからね。

――ハン選手は今回、KOKに初出場となったわけですけど、前回キャンセルしたときに、一部で「ハンはKOKルールを恐れて出てこないんじゃないか」という声が上がったんです。実際はどうだったんですか？

ハン　いろんな理由があるんだが、少なくとも「恐れた」ということではないね。私はソ連軍でも最も厳しいパラシュート部隊にいた男だよ。国家警察軍としてコマンドサンボを使わざるをえないような、危険な目にも何度もあっているし、最近だってチェチェン紛争のとき、私の故郷にも武力介入が及んでいたので、マシンガンを持って村を守ったくらいだ。



全選手入場式の時点で早くも対戦相手を睨みつけるハンとコピィロフ。普段は陽気なオヤジでも、いざ闘いとなるとキラーモードへ。この辺も“ガス灯時代のプロレスラー”的な凄みだろう。

――マ、マシンガン!!

ハン　そんな私がリングを恐れるようなことはないよ（笑）。その頃、私はヒザを怪我していたんだよ。それに加えてビジネスでもトラブルがあって、精神的にも肉体的にも追い詰められていたんだ。それに加えてリングスのルールも急に変わってしまって私にとってはトリプルパンチだったんだよ（苦笑）。非常に苦しい時期でリングに上がれる状態じゃなかったんだ。

――では、怪我がなかったら最初からKOKに出場していたんですね。

ハン　いや、そうとも言えないね。私も40歳だ。これから新しいルールに挑戦するには齢を取り過ぎているから、もう後進に道を譲ろうと思っていた。しかし怪我が良くなると日に日に「闘いたい」という欲求が増えてきたんだ。そんなときにパコージン（リングス・ロシア代表）に「リングスの新ルールで闘ってみたらどうだ？」と言われ、私は瞬間的に「よし、やろう！」と答えたんだ。

――「よし、やろう！」。やっぱり時代はこの言葉で動くんですね（笑）。

ハン　「やる」と決めたらその日から、ビジネスの時間を大幅に削り、心を決めて練習に集中し始めたよ。そしてその2ヶ月後に初めて新ルールでアメリカの選手と闘ったんだ（昨年6月、代々木のブランドン・リー・ヒンクル戦）。そのときはとりあえず「勝つ」という目的は果たせたんで、よしとしたが、あまりにもミスが多かったんで今回のトーナメントに出場するまで試合はせずにKOK用の練習に専念することにしたんだよ。

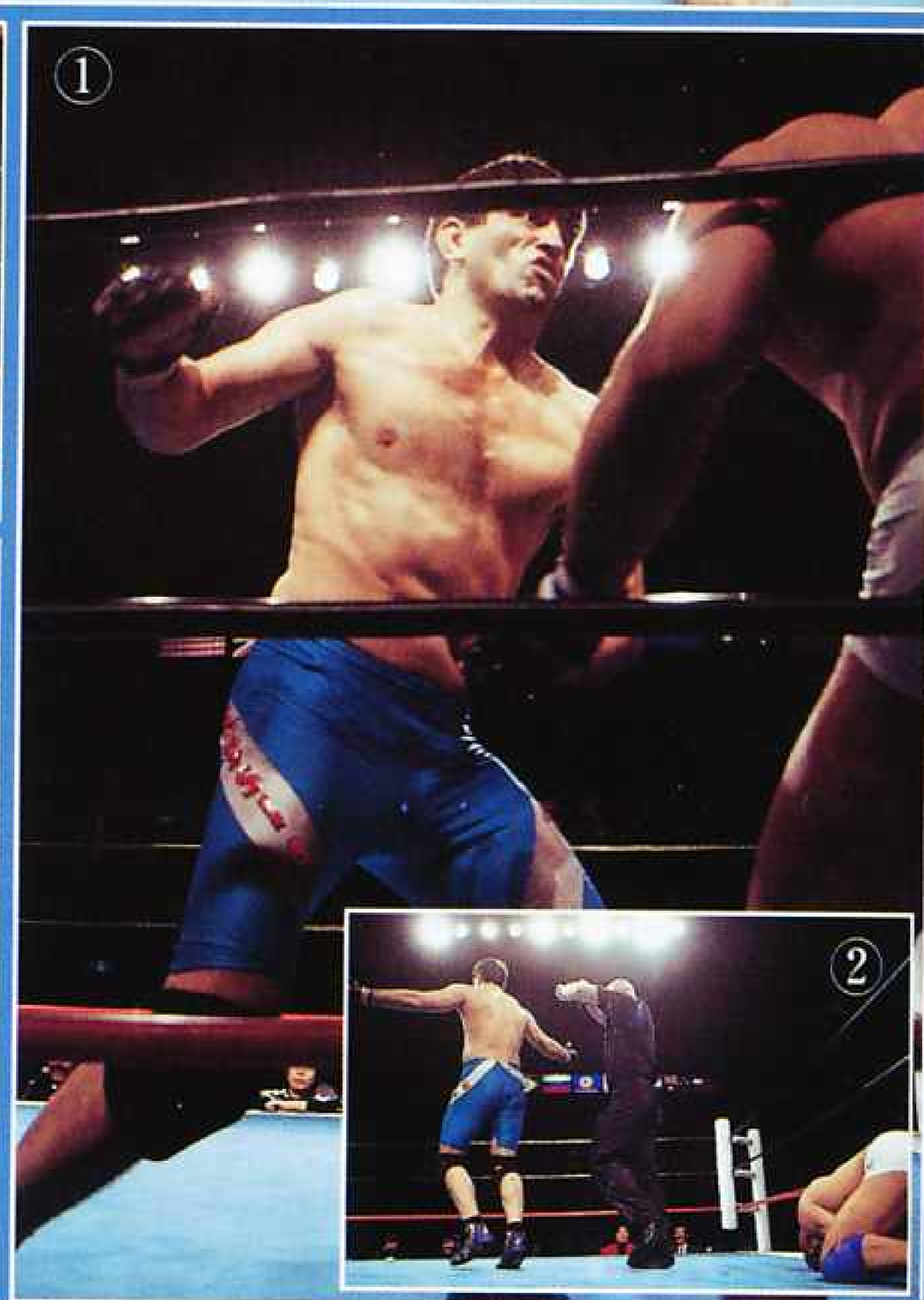
――でも、ヒンクル戦もハン選手の動きのよさは話題になるほどでしたよ。

ハン　やはり私は「ヴォルク・ハン」という名前があるんで、ただ単に「出ました」「負けました」というわけにはいかないからね。リングスの（メガバトル・）トーナメントで2度に渡ってチャンピオンになっている私が

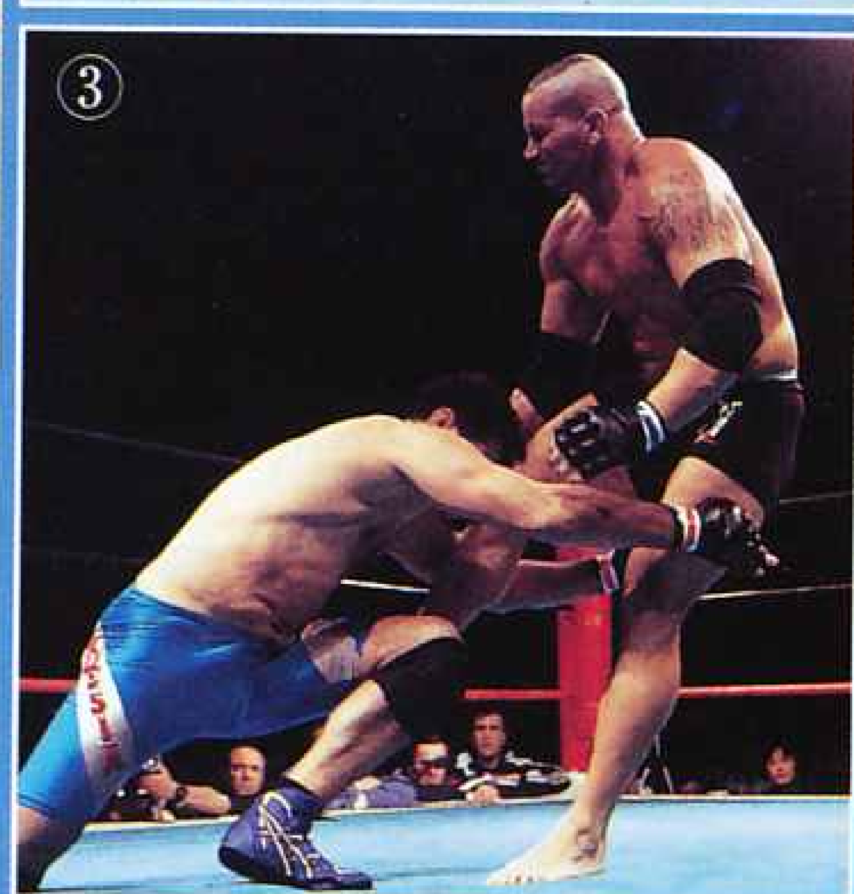


1回戦では相手がキック出身のリー・ハスデルだけに、当然グラウンド勝負かと思いきや、なんとパンチで真っ向勝負！　奇襲としての効果だけでなく、最後はアッパーのコンビネーションでKOしてしまうのだから驚きだ①②。KOKで5連続KO勝ちの剛腕ホフマンに対してもパンチ勝負！　スタンドでは防御もしっかりしていた⑤。遠い間合いからの素早いタックルも、旧リングスルール時代は使わなかった動き。ハンの順応ぶりは恐ろしい③。グラウンドではホフマンのパワーに押され、劣勢に回ることが多かったハン。しかしダメージを最小限にとどめ、延長ラウンドで大逆転！　ハラショー！④









無名のアマチュアみたいな選手に負けるわけにはいかない！　私が負けることで、私を応援してくれる何千人、何万人のファンが落ち込むかと考えたら、私はどうしても負けられない。そういったプレッシャーの中で闘っているんだよ。

――それだけのリスクを背負っての出場なわけですね。

ハン　だから今回のKOKでは、もし負けたとしても、私はファンに対して「私に出来ることはすべてやった」と胸を張れるくらいのトレーニングをしてきたし、それだけの意気込みで闘ったんだよ。

――今回の結果はその成果が出たわけですが、具体的にはどんな練習を積んでいたんですか？

ハン　どんな練習というよりも、まず私はKOKに挑戦するにあたって、最初はチームを組織することから始めたんだ。

――チームですか？

ハン　そう、ただ闇雲に練習するのではなく、私にはまずこのルールに合った練習相手を探す必要があると思ったからね。ロシアには若くて才能がある選手がたくさんいるんだが、彼らは皆バラバラにそれぞれの練習をしている。私は彼らの中でも特に才能のある若者を弟子として私の故郷であるトゥラに集め、総合格闘技の戦闘集団を組織したんだよ。

――戦闘集団！　もしかしてそれが「ヴォルク・ハン格闘術（＊前号参照）」の道場ですか？

ハン　その通り。そして私はチームの士気を高めるために、トゥラvsグルジア、トゥラvsブルガリアといったように、KOKルールの対抗戦を組んだんだ。

――KOKルールの国別対抗戦ですか！

ハン　そう、このような対抗戦を組むことによって、チームの集団意識が強くなり、弟子達の闘争心もあがってきた。そうしてチーム全体が強くなることで、私自身の練習環境も劇的に充実していったんだ。そういった意味

でチーム作りから始めたのは正解だったね。

——選手育成イコール優秀なスパーリング・パートナー育成になってるわけですね。そのハン選手のチームではコマンドサンボやサンボ以外に、レスリングやボクシングを積極的に取り入れているそうですけど、やはりKOKで勝つにはサンボ以外の技術の必要性を痛感したわけですか？

ハン　その通り。このルールにはやはりボクシングとレスリングの技術は非常に大事だよ。だからリングスのルールが変わってもいいが、もう少し前に知らせてほしかった。そうすればもっと早くからボクシングに取り組むことが出来たからね。これだけはマエダに言っておきたいよ（笑）。

——アハハハ！　前田社長に伝えておきます。殴られないように（笑）。やはり急にルールが変更になったことは戸惑いましたか？

ハン　新しいルールに切り替えるということは、私を含めて物凄く難しいんだ。例えばミーシャ。彼などはまだ全然切り替えが出来ていない！　やはり10年に渡って馴れ親しんだルールから、なかなか抜け切らないんだ。私もまだまだそういうところはあるが、長い経験があるから、状況に応じた切り替えがミーシャよりも早いんだろう。

——では、ぶっちゃけた話、ハン選手自身はこの新しいルールをどう思いますか？

ハン　まぁ、「仕方がない」という感じだよ。私としては前のルールの方が馴染んでいるし、個人的にはいいと思う。でも私はマエダの兵隊なんだよ。将軍が決めたことに従うのが兵隊だ！　やるしかないよ。ただルールが変わったことによって、ファンが少なくなったと思う。私にとってはそれが一番残念だ。

——でも、バーリ・トゥードが出てきてから、ファンもKOKのようなものを求めるようになってしまったんですよ。

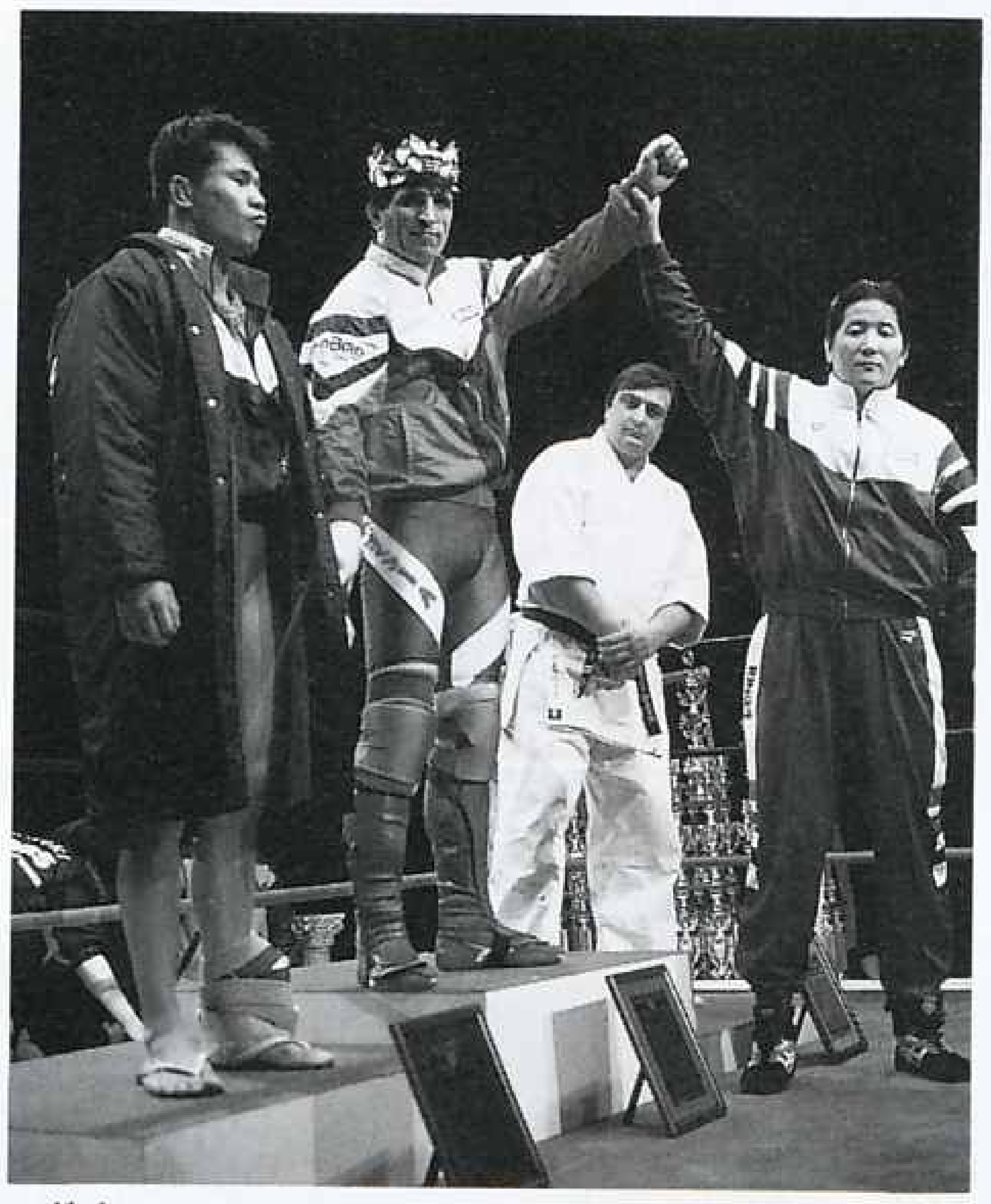
ハン　ファンがいまのルールの方が面白いと思っているというのは、私にはどうしても信じられないね。まぁ、ファンがKOKを望むなら、我々はそれに応じなければならないから、やるだけだがね。

——しかもファンは贅沢ですから、いまの新しいリングスルールでも、以前のハン選手のようにいろんな関節技を極めて勝ってほしいと思っているんですよ。

ハン　ハッハッハ。できれば私だってそうしたいさ。昨日の試合でも足を取るチャンスは何度もあったから、本当は力一杯絞り上げてやりたかった。でもホフマンは足首にワセリンを塗っていたんだよ。素足にワセリンまで塗られたら、いくら私でも滑ってしまって、アキレス腱を極めることは不可能だ。それに派手な技というのは、それだけリスクも高い。極まればもちろんタップを奪えるが、もし失敗したら即負けに繋がる可能性も高いんだよ。今回の私はとにかく勝たねばならなかった。だから格好悪くても不細工でもいいから勝ちにいった。ホフマンに勝つためには格好をつける余裕もない。KOKというのはそういうものなんだよ。

——以前とはリングに上がる時の考えも違いますか？

ハン　やはり違うね。我々の仕事は観客が望むものを見せることだ。だからいまはファンは私が勝つところを見に来ているから、とにかく勝負に徹している。それに対して以前のルールの頃は、その土地土地によってファンが見たいもの、見たい技というのが違ったんだよ。だから私は「フクオカに行ったらこの技を見せよう」「オオサカならこのスタイルでいこう」など試合前に考えて、それを実践してきたんだ。



メガバトル・トーナメントを2度制したのを始め、リングス最大の功労者といっていい、ハン。10年間の集大成として、コピィロフ、ラバザノフを破ったノゲイラに勝ってほしい！

アブダビ王子にモラエス戦を直訴した でもアイツは逃げたんだよ！

——ああ！　たまにキックボクシングのトランクスで登場したりしていたのもそういうことだったんですか!?

ハン　そうさ。例えば私とディック・フライが闘った場合、どうしても立ち技vs寝技の展開になるだろ？　でも毎回それでは観客も飽きるだろうから、私は敢えて立ち技で向かっていったりした。そうすることで対戦相手の裏をかいたり、観客を驚かせたりしていたんだよ。

——いやぁ、そこまで観客のことを考えていたとは驚きです！

ハン　でも、いまはそんなことを考える余裕はないから、「噛みついてでも勝つ！」それしか考えていないがね（笑）。

——ハハハハ。やはりミーシャやラバザノフといった弟子にも「噛みついてでも勝て！」と指示しているですか？

ハン　その通り。「お前は男だろ。男ならリングに上がって喧嘩してこい！　喧嘩は噛みついてでも勝て！」試合前の私のアドバイスはいつもそれだけだよ（笑）。

——ところで以前、5年前にロシアのアブソリュート大会の決勝でミーシャ選手がヒカルド・モラエスに負けた時に、ハン選手は「こんなことなら私が出ればよかった」と言っていましたが、その頃からバーリ・トゥードや、KOKのような試合に出ようという気はあったんですか？

ハン　それはあったよ。正直いって私は喧嘩をするために生まれてきたような男だからね（笑）。私は子供の頃から喧嘩をすることに大きな喜びを感じていたんだが、困ったことに40歳になってもそれが変わらないんだよ（笑）。

——40にして悪ガキ（笑）。

ハン　だからアブソリュートが開催されるときも「出たい」とは言ったんだが、主催者から「あなたはもう、齢なんだから後進に道を譲りなさい」と言われて出してくれなかったんだ。でもあれから5年経ったいまでも私は闘っているんだよ（笑）。

——ますます血気盛んですよね（笑）。

ハン　だから「あの時、無理矢理にでも出てモラエスを倒したかった」といまでも思っているよ。私がモラエス戦にこだわるのは、ただ単にミーシャの敵討ちという理由だけではないからね。

——え!?　どんな理由があるんですか？

ハン　モラエスはあの大会でミーシャに勝ったことによって、「コマンドサンボ世界王者」のベルトを海外に持ち去ってしまったんだよ！

——ああ！　そういえばあの「第2回アブソリュート大会」には、なぜかコマンドサンボ王者のベルトが賭けられていたんですよね。

ハン　そう！　コマンドサンボ王者のベルトをロシア人以外に持ち去られるということは、我々にとっては決してあってはならないことなんだ！（興奮ぎみに）だから私はなにがなんでもモラエスからベルトを奪い返したい！



決勝トーナメント進出を決めたハンに、“ライバル”前田CEOが両手で握手！　スタミナと瞬発力が要求されるKOKで、前田世代のハンが勝ち上がることは物凄いことなのだ。

ところが、いくら賞金を積んでも、ファイトマネーを積んで「ロシアに来い！」と言ってもモラエスは来ない。だから私も半ば諦めていたんだが、今年（00年）の3月に思い掛けないチャンスをえたんだよ。

――どうしたんですか？

ハン　私とミーシャが『アブダビ・コンバット』に招待されたんだ。そうしたらそこにモラエスも来ていたんだよ！（大興奮）だから私は早速アブダビの王子に「モラエスと闘わせて欲しい」と頼んだんだ。

――アブダビ王子にモラエス戦を直訴ですか！

ハン　そう、それで王子はモラエスに私との対戦を打診してくれたんだが、モラエスは断った。アイツは逃げたんだよ！（炎上！）

――あの柔術怪獣が逃げましたか！

ハン　ああ、逃げた！（キッパリ）。アブダビのルールだったら私は100％モラエスに勝つ自信があるからね。私だけでなく、ミーシャも王子にモラエス戦を直訴したんだが、なぜか招待選手の我々がトーナメントにすらエントリーさせてもらえなかった。これはブラジル側の力が働いたとしか思えない！（キッパリ）。あのトーナメントはブラジル人ばかりが優遇されているところがあるからな！

――そもそもあの大会は王子がブラジリアン柔術の虜になったことで始めた大会ですからね。

ハン　ハッキリいって『アブダビ』のルールは我々の世界。サンビストが大挙して参加したら、上位を制圧できるだろう。まぁ、とにかくリングスでも『アブダビ』でもアルティメットでもいいから、モラエスと闘ってコマンドサンボのベルトを奪い返したいね。

――では、そろそろKOK決勝トーナメントへの意気込みをお聞きしたいんですが。

ハン　1・2回戦はとても厳しい試合で体中が痛いが、勝てて最高の気分だ。10年前、リングスの歴史が始まったばかりの頃から闘っている私のような老兵が、新しいリングスで連続KO記録を作っていた男に勝てたこと。そしてその姿を私を長年応援してくれたリングスファンに見せられたことがなによりも嬉しいね。でも、これで終わりじゃない。2月に決勝トーナメントがあるからリラックスしすぎないように、これからパンチ、キック、関節技、レスリングなど持っているすべての技に力が出せるように必死にトレーニングするつもりだよ。

――ハン選手はこの大会に引退を賭けているという噂があるんですが、実際のところ引退は考えているんですか？

ハン　いまはまだ闘いの最中だから、そのことには明言しないでおきたい。ただ、私も40歳だ。引退後のことは当然考えている。私がチームを作ったのもその一環なんだよ。私は格闘技の世界で20年も生きているわけだから、これからも自分の人生と格闘技を切り離すことはできない。だから現役を退いたときに私の代わりになれる強い選手をつくろうと思ったんだ。そしてもうすでに、私の弟子でひとり、物凄く強い男がいる。

――それはどんな選手なんですか？

ハン　とにかく凄いとしか言いようがない男だよ。ロシアではもう何度か試合をさせているんだが、戦績を聞いたら驚くよ。まずデビュー戦として最初に話したブルガリアとの対抗戦に出したんだ。相手はキックボクシングのヨーロッパチャンピオンだったんだが、KOした上に足もへし折ってしまった。次にリトアニアの空手家と闘わせたら、今度は相手のアゴをぶち壊して全治6ヶ月の重症を負わせてしまったんだよ。

――全治6ヶ月！　ロシアのリアル破壊王！

ハン　そして次にモスクワの有名なカジノで毎週開催されている賞金マッチに出場させたんだ。

――『クラブ・ファイト』ならぬ『カジノ・ファイト』ですか！　それはどんな試合なんですか？

ハン　カジノが賞金を出して、目つきと金的のみを禁じ、素手で闘う完全なアルティメットだよ。（平然と）おそらくいま世界で最も過酷な闘いだろう。

――それってまるっきり「地下プロレス」じゃあないですか！

ハン　私の弟子はそこでロシアのムエタイ王者と対戦して、相手の頭蓋骨を折ってしまったんだよ。相手は開頭手術を行ったが、いまだに予断を許さない状況なんだ。次にカジノの出た時は中国の散打のチャンピオンと対戦、そこでも失神KO勝ちを収めたんだよ。

――もう、聞いてるだけで恐ろしい……。

ハン　私も彼と組み手を行うんだが、私自身が練習しているだけで怖いくらいの男だよ。

私の弟子で凄いとしか言いようがない男がいる。私ですら怖いくらいだ

彼はいますぐリングスに出しても十分通用するだろう。

――そりゃそうでしょう！　その選手はボブチャンチンみたいなタイプなんですか？

ハン　ボブチャンチンはパンチだけの選手だが、彼はサンボもレスリングもできるんだ。パンチだってボブチャンチンに負けていないよ。そして彼の一番強いのは、体力的なものだけじゃなくて、精神的にも闘いに向いている。もう、彼も準備は万全だろう。年令も20歳と若い。間違いなく世界最強の男になれるよ。彼を3月にリングスに送り込みたいと思っているから期待していてくれ。

――いやぁ、実に楽しみなような、怖いような……。ホントにリングス・ロシア恐るべしですね。

ハン　私も弟子に負けないように、決勝トーナメントまではビジネスから一時手を引いて、トレーニングに専念するよ。最後にひとこといいかな？

――なんですか？

ハン　私は家具製造の会社を始め、いろんなビジネスを手掛けてるんだが、私は10年も日本に来てるのに日本の企業とビジネスを一度もしたことがないんだ（笑）。だから、必ずこれは書いておいてほしい、「私は引退したら日本人のビジネスマンと取り引きがしたいので、ぜひ連絡ください」とね（笑）。

――「マシンガンを持って待ってるから」と付け加えておきます（笑）。

【00年12月23日／東京へ向う新幹線の車内にて収録】


PROFILE

【VOLK HAN】本名・カムザトキノフ・マゴメッドハン。1961年4月15日、ロシア・コーカサス出身。リングスが生んだ最高傑作とまで言われる格闘芸術家。20歳でソ連軍に入隊し、“戦場の格闘技”コマンドサンボを修得。その後、教官として多くのコマンドサンビストを育成する。91年にリングス初登場。その複雑怪奇な関節技の数々で、大旋風を起こす。その後、メガバトル・トーナメントで2度優勝、リングスの頂点を極める。リングス黎明期から数多くの名勝負を残しており、特に3度行われた田村潔司戦は、リングスタイルの究極型ともいえる完成度を誇る。今回KOKに初出場。引退も噂される中、どこまで勝ち進むか注目。

ジャパン活躍に

ね。それにやっぱり人間って追い込まれると

田村さんの中では盛り上がってませんか？



前田さんはリングスの可能性を分かってない！

ジャパン活躍に沸くリングスに
またしてもタムタム注意報！

田村潔司 時限爆弾発言

「日本人が頑張らないとリングスはダメになる」という田村発言を受ける形で開催された『KOK』Bブロック。そこでジャパン勢が意地を見せ、見事3人が決勝トーナメント進出を決めた！ 久々にリングスが明るい話題で湧く中、またしてもこの男、田村潔司が静かなる非常ベル！ 今年10周年を迎えるリングスに時限爆弾を仕掛けた！

聞き手／堀江ガンツ 松澤チョロ
interview by Gunts Horie Choro Matsuzawa
撮影／吉場正和
photographs by Masakazu Yoshiba

Tamura Kiyoshi

下を見てもしょうがないんで 日本人とはやりたくないですね

田村 なにを喋るんですか？ なにも喋ることはないですよ。

——新世紀一発目なんですから景気よくいきましょうよ！（笑）。

田村 いや、本当、本当に。なにもない。

——（無視して）12・22大阪大会の話を。Bブロックは、日本人3選手が全員勝ち上がって、リングスとしては最高の結果になりました。これはやっぱり田村さんの「ジャパン勢はもっと頑張ってほしい」という発言がいい方向に向かったと思うんですけど。

田村 いやいや、そんなことはないでしょう。ファイナルに勝ち残ったのは彼らが頑張ったからでしょうし、陰の努力もあっただろうしね。それにやっぱり人間って追い込まれると凄い力を発揮しますから。

——でも、あの発言によって追い込みをかけて、ジャパン勢に底力を出させたのは田村さんとも言えますよね。だから今回の結果は田村さんのアシスト賞モノだと思いますよ。

田村 だから彼らがそういうふうに思ってくれればそれでいいですけど、ま、そういうふうには思ってないですよ。それはそれでいいですから。

——まぁ、少なくとも感謝はしてないでしょうね（笑）。

田村 だから今回は彼らの頑張った結果ですから良かったですよ。興行的にも良かったし、グランドファイナル（2・24両国）にも繋がったんで非常にいいことだと思います。もうリングスはあの三人に任せます！（キッパリ）。

——え！ 任せるって……。

田村 ボクは今、半引退状態ですから。

——は、半引退状態なんですか!?

田村 ハイ。どっかのインタビューでも言ったけど、10月にノゲイラに負けて、ブチって緊張感が切れたんですよ。勝つと2月のファイナルまで精神的にキツいんですけど、負けたらすごいリラックスして「あ、引退するとこういう気持ちになるのかな？」って思いましたから。

——じゃあ、ノゲイラ戦はファンが知らないウチに「半引退試合」が行われてた、と。

田村 そうそう、半引退試合（笑）。

——でも、金原さんが「KOKが終わったら日本人トーナメントをやればいい」と言ったり、大阪大会でも山本さんが田村さんへの挑戦をアピールしましたけど、そういう気運は田村さんの中では盛り上がってませんか？

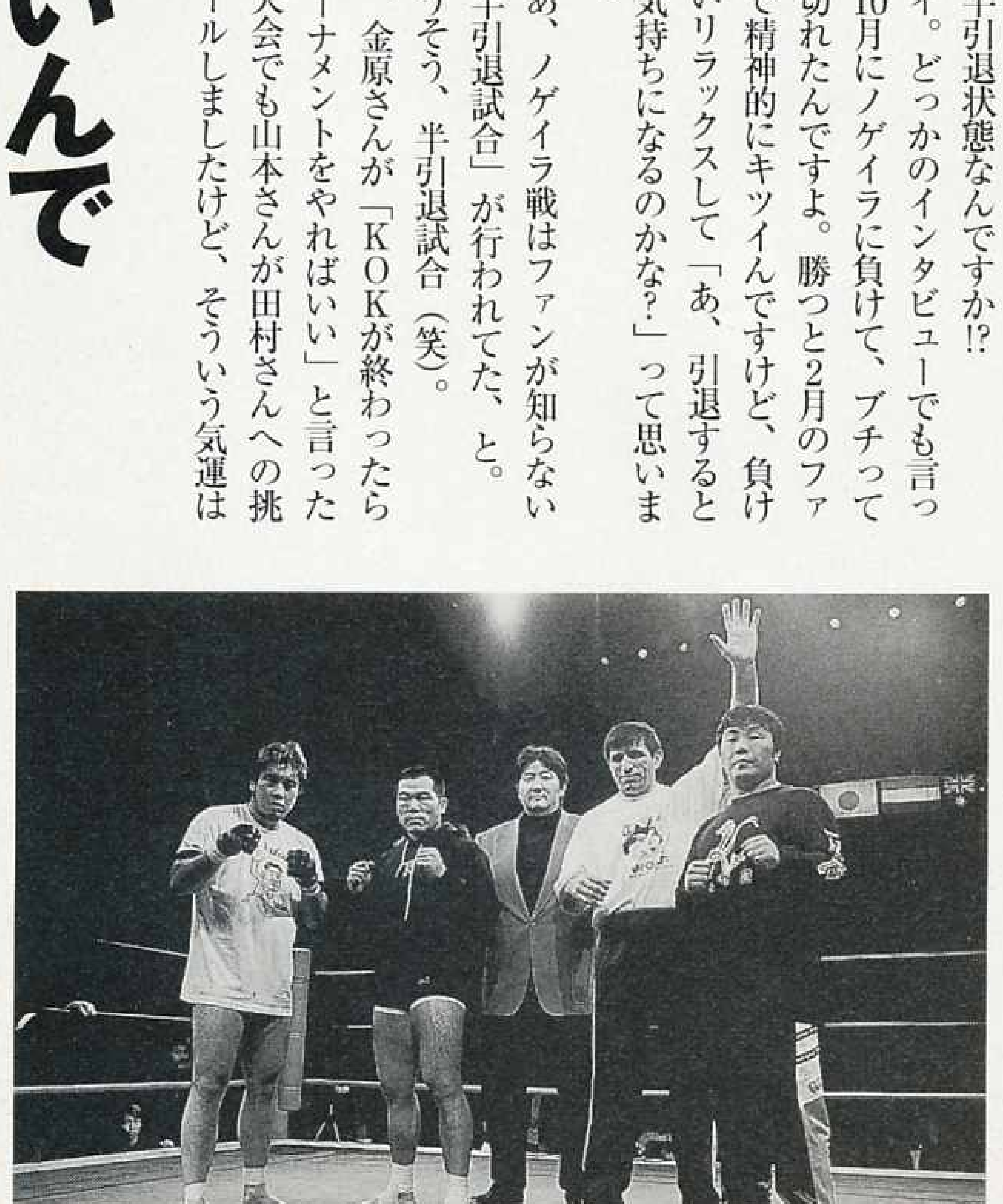
田村 うん、ボクはやる気はないから（キッパリ）。彼らがトーナメントで結果を出したことと、ボクとの絡みはまた別の話ですからね。また組まれた時になってボクの方で、やる気があればその時に考えます。今はもう半引退状態なんで。

——でも、田村さんは8月の大阪大会で「『ナニクソ！』と思って来てもらわないとやり甲斐がない」と言ってましたよね。その言葉尻を捕らえると、いまはジャパン勢も奮起してやり甲斐がある時だと思うんですけど。

田村 そう言われても、やる気がないものはやる気がないの（笑）。

——理由なきやる気のなさ（笑）。

田村 でも、男と女の付き合いも一緒でしょ？ タイミングもあるし、人の感情っていうのはその時々で変わりますから。だから今はそういう時になってみないとなん



"田村発言"の矢面に立たされたジャパン勢が遂に奮起！ なんと3人とも決勝トーナメント進出を決め、ヤマヨシはリング上で田村へ挑戦をアピール！ 実現なるか!?

ヤマケンは上山でもいいけど ウチはジム生とやらせてもいい

とも言えないってことですね。

――ぶっちゃけた話、ジャパン勢とはもうやる気がないんですか？

田村 そんなことはないけど……。

――今やっても意味がない？

田村 「もう自分の思う通りに勝手にやればいい」という発言があっちにもあったし、あんまり下を見てもしょうがないかなと思うんですよ。

――下を見てもしょうがない！

田村 うん、今みたいに下が上を追うぐらいが自然な状況なんであって。それで「闘ってください」って言われて、闘うか闘わないかはボクが決める、と。ただそれだけの話なんじゃないですか？

――でも、ヤマケンさんに続いて金原さんや山本さんの挑戦も拒否するとなると、絶対「田村は逃げている」と言われると思うんですよ。

田村 じゃあ逃げます。

――またチーターより速く（笑）。

田村 ま、その時になってから考えますよ。グランドファイナルが終わってから。だって2001年の興行の内容もまだわかんないし、そのへんは前田社長に聞いてもらった方が早いんじゃないですか？ 興行的な発言は今ボクは出来ないですからね。ただ前田社長が決めること以外に、ボクが『U－FILE』代表として決めていくことも結構ありますから。

――その「『U－FILE』代表として決めていくこと」というと、『DEEP』への上山選手参戦もやはり田村さんが決めたことなんですか？

田村 『DEEP』さんから『U－FILE』にお話が来たんで、上山の意見も聞いてボクが決めました。

――他団体に上山さんとかを送り込むなどのことはリングスのスケジュールと合わなければ支障はないわけですよね？

田村 リングスのスケジュール？ それはあんまり関係ないですね。まわりは「リングス所属」っていうふうに見てもしょうがないですけど、上山は『U－FILE』所属ですから。「支障はないんですか？」って言い方がよくわからない。

――逆にいうと『DEEP』とか他の団体とリングスも比重的には同じということですか？

田村 そうそう、上山は契約的にニュートラルな状態なんで、オファーがあればどこにでもいけるんですよ。

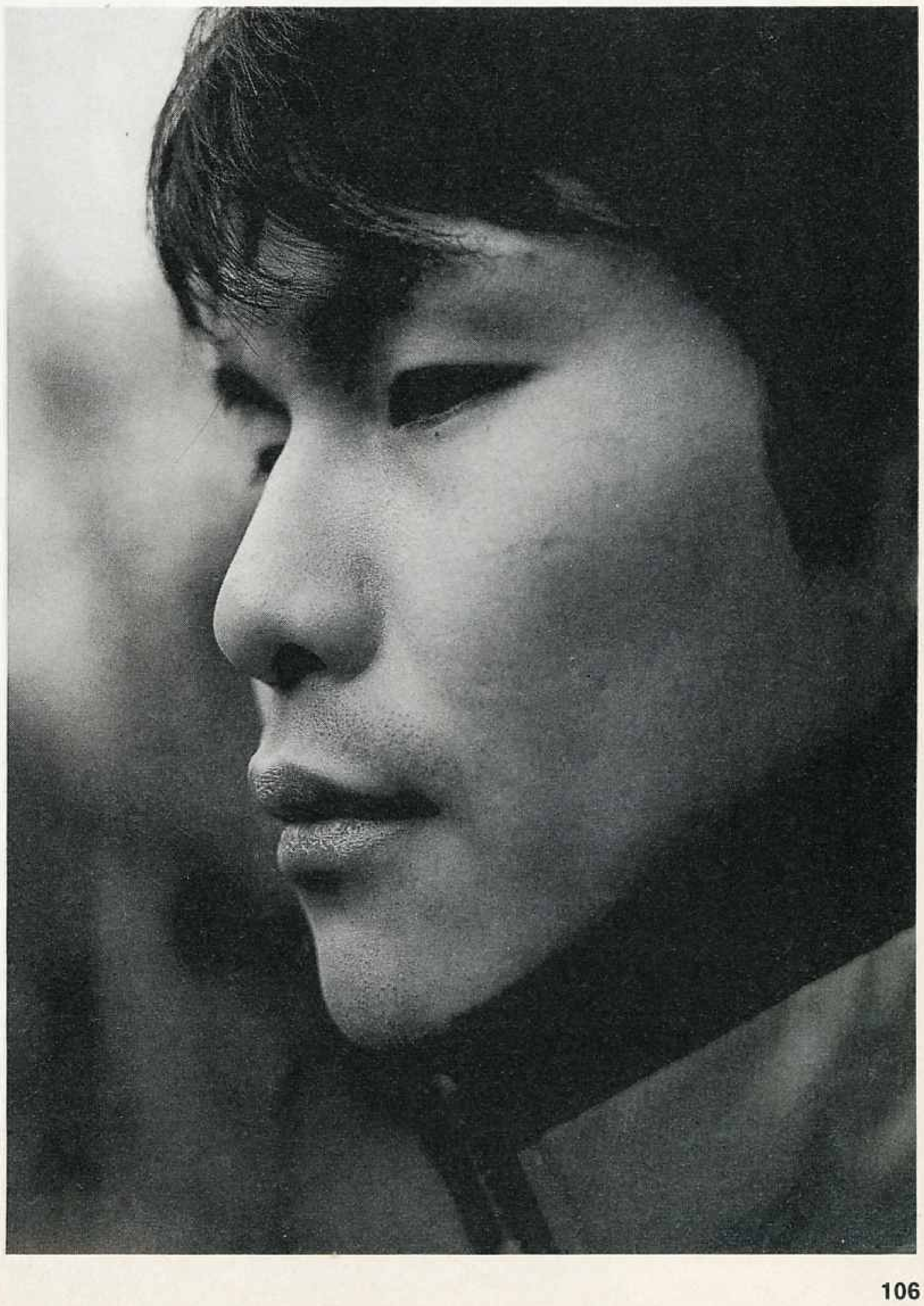
――田村さん自身はそういう状態になろうという考えはあるんですか？

田村 う～ん。

――田村さんは以前から「リングス所属としていろんな所に出ていければ」と言ってましたけど、そういう状況になることが望ましいんですよね？

田村 そうですね、それが一番の理想ですね。そういうふうになった方が、全てうまくいくじゃないですけど、お互い盛り上がるじゃないですか。今回も『DEEP』さんが興行主としてウチを必要として、ウチも選手を闘わせる場として『DEEP』さんを必要とした。だから逆にお互いに必要としてると思うんですよね。しかもそれによって格闘技界が盛り上がるなら、ボクが断る理由はないじゃないですか。

――そうですね。あまり試合が組まれない上山さんにも闘う機会を与えてるわけですからね。



田村 上山は雑誌で見たんだけど、一週間に一回でも試合をしたいらしいんですよ。

――「雑誌で見た」って、いつも一緒にいるじゃないですか（笑）。

田村 まあね（笑）。だから上山とか滑川（康仁）とかは試合をしないといけない時期なんですよね。

――年齢的にもそうですよね。相手が女にしろ男にしろやりたい盛りですからね（笑）。

田村 女？ そうそう、それと一緒ですよ（笑）。

――逆に田村さんぐらいの年齢になれば男にしろ女にしろ相手を選んでやりたい、と（笑）。

田村 アハハハハ！ そうそう、「こいつだ！」という人とね（笑）。でも上山や滑川たちはやっぱり経験を積まないとダメだと思うんで、機会があればドンドン出しますよ。上山はフリーの状況なんで、話があれば前向きに検討して。それは自然の法則ですからね、逆らってもしょうがないし。でも、ボクができるのはきっかけ作りまでですから。あとはもう本人次第。結果を出すのは彼の仕事ですからね。

――では、例えば上山さんが「ヤマケンさんと闘いたい」って言えばGOサインだしますか？

田村 （即座に） 出しますよ。

――出しますか！

田村 ハイ。上山がやりたい気持ちがあるなら。

――田村さんも以前「ヤマケンは上山とか滑川とやったら面白い」って言ってましたけど、ヤマケンさんもパット・ミレティッチ戦で結

リングス10周年記念大会？僕に聞いてもしょうがないですよ

果が出なかったし、田村さんの弟子である上山さんとやるのは面白いと思うんですよね。

田村　うん、ただ上山よりもうちょっとランクが下でいい選手がいるんで、そっちでもいいかなと。センスがいいのがいるんですよ。

――（昨年9月の後楽園大会に出場した）西内太志朗選手ですか？

田村　太志朗でもいいですけど、いわゆるジム生とやってもいいかなと思いますね。

――ヤマケンvsジム生ですか！（笑）。

田村　うん、そうそう。でもまぁ上山がやりたいんならボクが断る理由はないですよ。これで条件付けられたら嫌ですけどね。「上山に勝ったら田村とやらせろ！」とか言いそうだから、もう。

――それは言うでしょう、絶対（笑）。

田村　それだったら上山よりランクの下のジム生とやって下さい。この話は終り！

――わかりました（笑）。では、新世紀となりましたけど、田村さんも何かしら面白いことを仕掛けていこうという気持ちはあるんですよね？

田村　理想はありますよ。考えてることはありますけど、まだそこまでちょっと頭がまわんないんで、こっちから仕掛けていくことはまだしません。出来るようなアレがないですから。

――それと2001年はリングス10周年ですよね？　前田さんもビッグイベントをやると言ってますけど。

田村　全然聞いてないし、知らないです！

――知らない！　でも実際10周年記念イベントとなると、大物とのマッチメイクが組まれて田村さんが主役を張るのが当然ですよね？

田村　いや、いや、そんなことない。まぁ、でもそれは社長が決めることなんで、ボクに聞いたってしょうがないですよ。10周年がどういう計画かも知らされてないし、ホント全然。だからすべては社長が決めることですから。それにボクが従うか従わないかという話だけですよ。

――でもこんな風になったらいいなっていうのは、あるとは思うんですけれども？

田村　それはありますよ。さっきも言ったように、リングス所属で幅広い活動が出来るんであれば、それに越したことはないですよね。でもそれは社長が決めることなんで、逆に社長が言ったことでボクの意見と合わなければ「出来ませんよ」ってボクも言うし。だから、そういう問題ですよね。

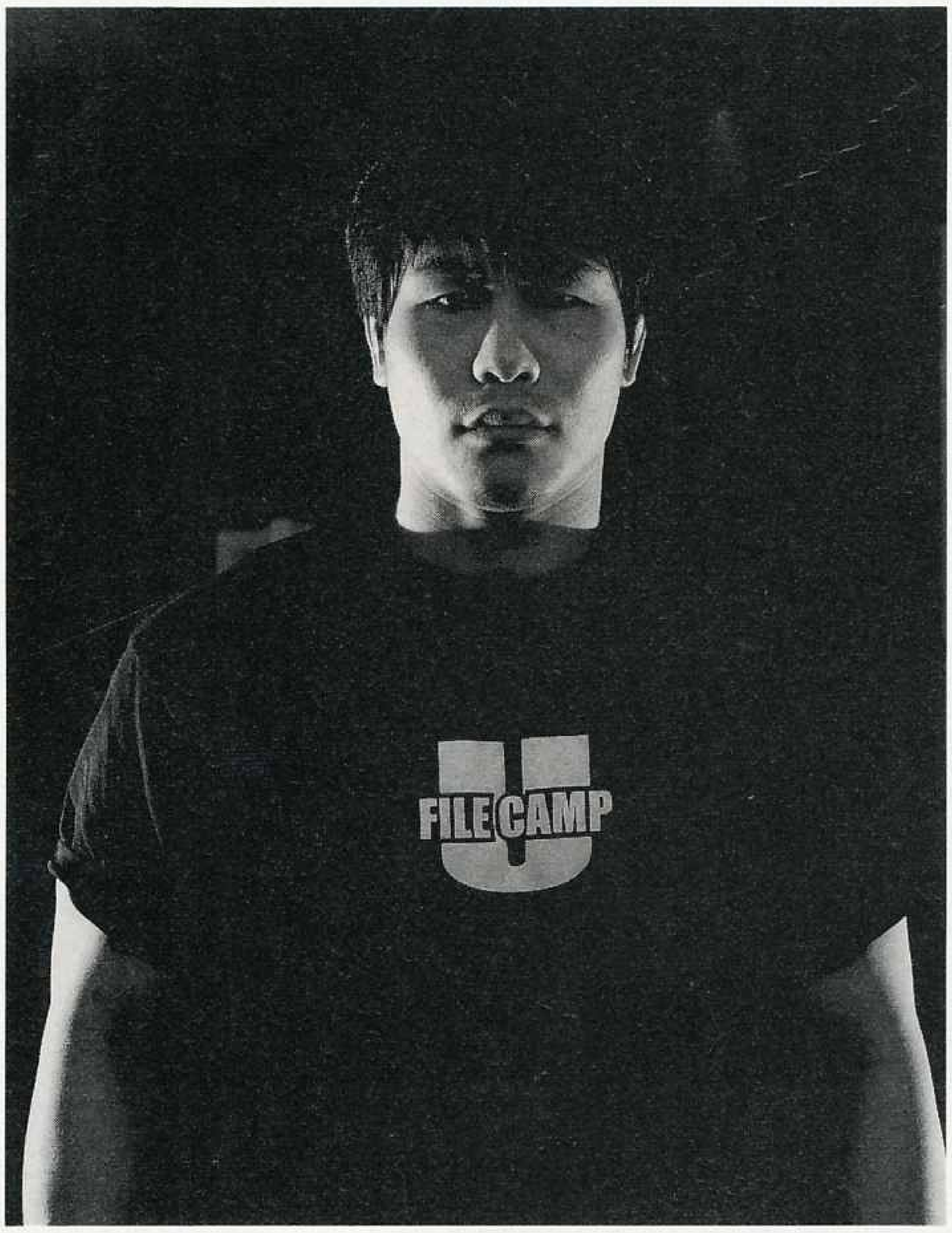
――「社長が決めること」と言っても、やっぱり田村さんにも要望はありますよね？

田村　理想はやっぱり『U―FILE』っていう存在もちょっとは認めてもらって、本隊がしっかりあると。『U―FILE』に選手がいっぱい揃えば、本隊も潤うわけじゃないですか。だからリングスって、すごい可能性を持ってる団体だと思うんですよ。でも、すごい可能性を持っている団体だということを社長がわかってない！

――前田さんがリングスの可能性をわかってない！

田村　わかってないって言うと失礼だけど、ボクはやり方次第でリングスっていうのは、『PRIDE』なんか比べものにならないくらいの規模になると思うんですよ。そういう可能性がすごいある団体だと思いますから。

――そういう可能性を妨げるものとして、まだ、完全な〝場〟でなくて「団体」の名残りがあることが一つのネックであると思うんですけど、いかがですか？



kiyoshi tamura

田村　そう、そう。そのへんをちょっとね『紙プロ』がゆっくり変えていかないと。

――ウ、ウチがですか（笑）。

田村　いまは会社だってリストラがすごいたくさんあるじゃないですか。〝アウトソーシング〟っていう必要な時だけ部分的に社員を雇うやり方があるらしいんですよ。今はそういう時代の流れになってるから、こっちの業界もそういう昔の「団体」っていうのじゃ、ちょっと厳しくなると思うし、変えていかなきゃならないと思いますね。

――そういう意味では田村さんも上山さんみたく『U―FILE』に籍を置きながら他のマットにも行けるのがベストなんですよね。

田村　うん、うん。だから前から言ってますけど、前田さんにもある部分ではこっちに任せてもらいたい部分があるんで。太い幹の部分では社長が決めればいいんですけど、細かい枝の部分はボクらにちょっと任せてもらいたいなっていうのがあるんですよね。別に騙くらかそうとしてないんで。お互いに必要になればいいわけじゃないですか。

――では、一番いい形は『PRIDE』と髙田道場や慧舟會のような関係でリングスと『U―FILE』があるってことですかね？

田村　う〜ん、結果的にはそうなるんですけれど、ホントはもっと自由でいいと思う。

――もっと自由ですか？

田村　そう、いまリングスがあって、『PRIDE』があって、UFC―Jがあって他にも興行会社があって、そこで選手がどっかに所属してるわけじゃないですか。

――だいたい専属契約に近い形になってますね。

田村　そうじゃなくて、ボクが『U―FIL

パンクラスの経営戦略は『U-FILE』の参考になりますね

E』の代表として所属選手の上山を『DEEP』に出場させるように、ボク自身もリングス所属選手として、社長の承諾を得て外に出られるのが理想ですね。

——ああ、なるほど！

田村　こんな形でいろんな団体にいろんな選手が上がれれば。それこそドエライことになりますよ！　もうマット界全体がメジャーになると思うんですけどね。

——そうなると格闘技界の根本的なシステムの変革が必要になってきますね。

田村　いや、でもそういうふうになっていきますよ。いま『PRIDE』、UFC—J、そしてリングスという三大メジャー格闘興行があると思うんですよ。その3つを各団体の選手が選べるようになれば、いろんな夢のカードも出てくるようになると思うし。そうなると今の流れだと多分マスコミとかも食いついてきて、テレビも付いてくると思いますし、それはもうモノすごい想像できない力になると思うんですよ。

——でも、そうなると選手を他に送り込みながら自主興行を打つ「団体」は厳しくなりますよね。パンクラスなんかも掣圏道や、『DEEP』、『UFC—J』なんかに選手を送り込んでますけど、そうなるとパンクラス勢のいいカードがほとんど他の興行で行われて、自主興行の方が厳しくなってると思うんですよ。

田村　でも、それでパンクラスは成り立っている部分があるでしょ？

——いや、厳しくないですか？　パンクラスの山田学選手の引退試合が『DEEP』で行われたりとか。

田村　でも、それでいいと思うんですよ。

——いいんですか!?

田村　だってパンクラスの興行って経費的にはあんまりかかってないですよね。

——外人をたくさん呼んでる『PRIDE』やリングスに比べたら、まあそうでしょうね。

田村　若い選手の経験のためにやらしているもんでしょ。それでいいと思うんですよ。それで上の選手は他に出ていって結果的に団体も潤うわけじゃないですか。だから損して得を取るじゃないですけども、他団体への選手派遣、BSの放映料、ジムの会員の会費で利益を得て、自主興行は若手の闘いの場として、儲けようという考えがなくてもいいと思うんですよ。

——なるほど。

田村　上の選手はどんどん大きいところに出ていけば、『DEEP』とか『PRIDE』、リングス、UFC—Jなんかも興行的に盛り上がって潤おうし、自分の団体にお客を引っ張ってもこれますからね。

——となるとパンクラスの運営スタイルは、『U—FILE』としても参考になるんじゃないですか？

田村　そうですね。だから大きいところと小さいところの関係はどんどんこうなっていくと思いますよ。

——いやでも、田村さんも意外と業界のことを考えてるんですね。「意外」と言ったら失礼ですけど（笑）。

田村　うん、失礼だね（笑）。もう、考えざるを得ないというか……。だからボク、ジムのこととか、その他にちょっといろいろありまして、もういっぱい、いっぱいなんですよ（笑）。

——とてもジャパン勢との対戦まで気がまわらない（笑）。

田村　そうそう（笑）。

——でも、2001年も田村さんに暴れてもらわないとマット界は面白くならないですよ。今スッゴイいい時期ですからね。田村さんも30歳前後で実力的にピークにいる、いい選手がたくさんいるじゃないですか。

田村　そうですね。だから「こいつだ！」っていう相手を選んでやっていきます。

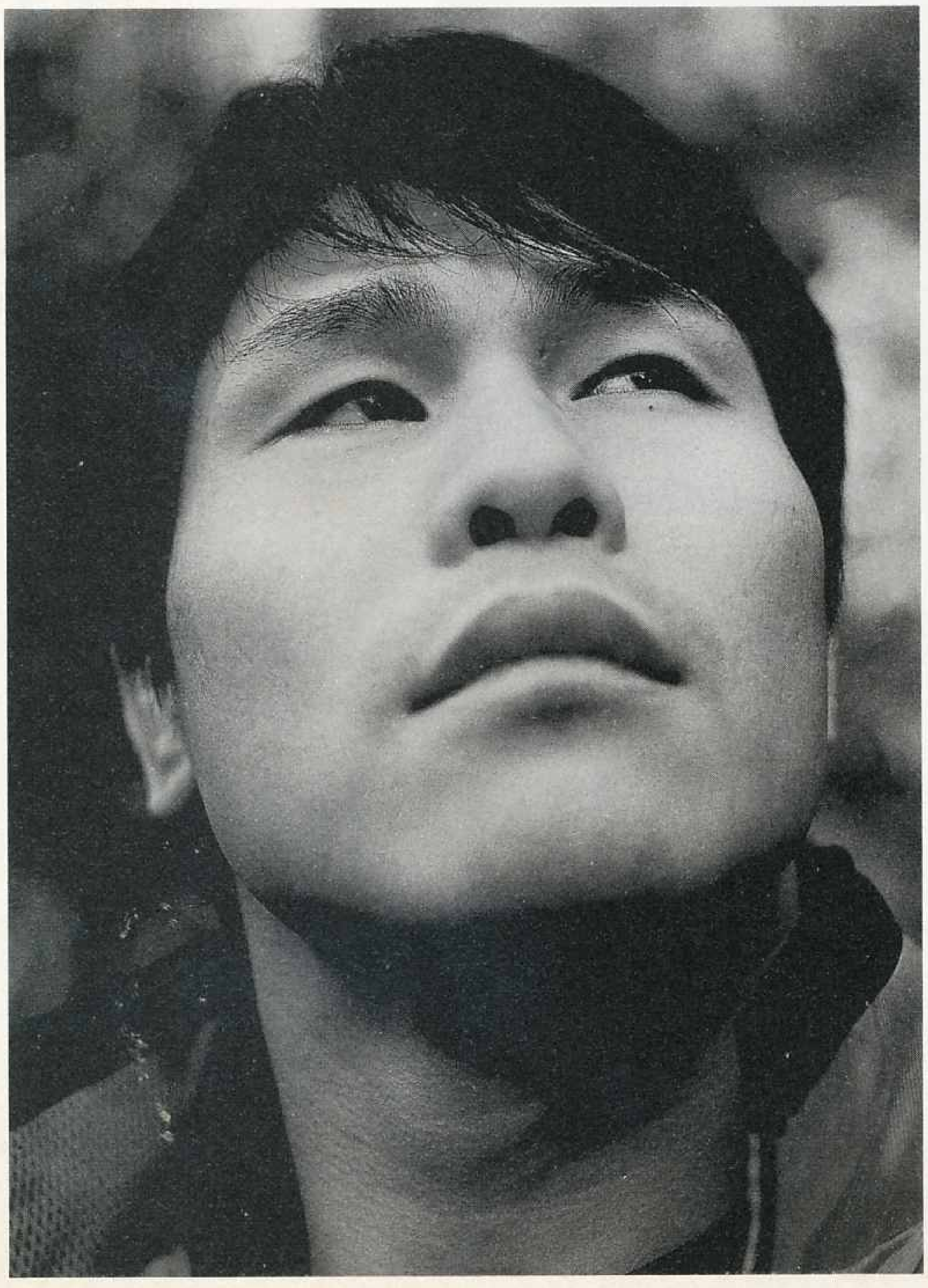
——男も女も（笑）。

田村　そうそう（笑）。ま、これから新たな展開があるかもしれないしね。

——え!?　なにかあるんですか？

田村　アハハハハ！　おしまい！

【00年12月29日　川崎市／アンナミラーズにて収録】



WOWOWリングス放送が強化！

リングス2000　KOKグランドファイナル
2月24日（土）午後3時～7時55分
BS-5ch、デジタルWOWOW（191～193ch）にて完全独占実況生中継!!

「KOK　直前最新情報」 2月18日（日）午後11時35分～0時5分
BS-5ch、デジタルWOWOW191chにてノンスクランブル（無料）放送

「マルチアングル　リングス」 デジタルWOWOW191ch～193ch
Aブロック　2月21日（水）深夜2時15分～4時15分
191ch通常映像　192chサイドカメラ映像　193chリング上カメラ映像

Bブロック　2月22日（木）深夜2時5分～4時00分
191ch通常映像　192chコーナーポストカメラ映像　193chリング上カメラ映像
※BS—5chでは通常映像

マルチアングル放送とは、3種類の角度から同時放送するという、格闘技放送の歴史を変える画期的な試み。もうこれで、テレビの前でカメラのスイッチワークに文句をつけることもなくなるわけだ。WOWOWデジタルに入って絶対見るべし！

『紙プロ』独走スクープ!

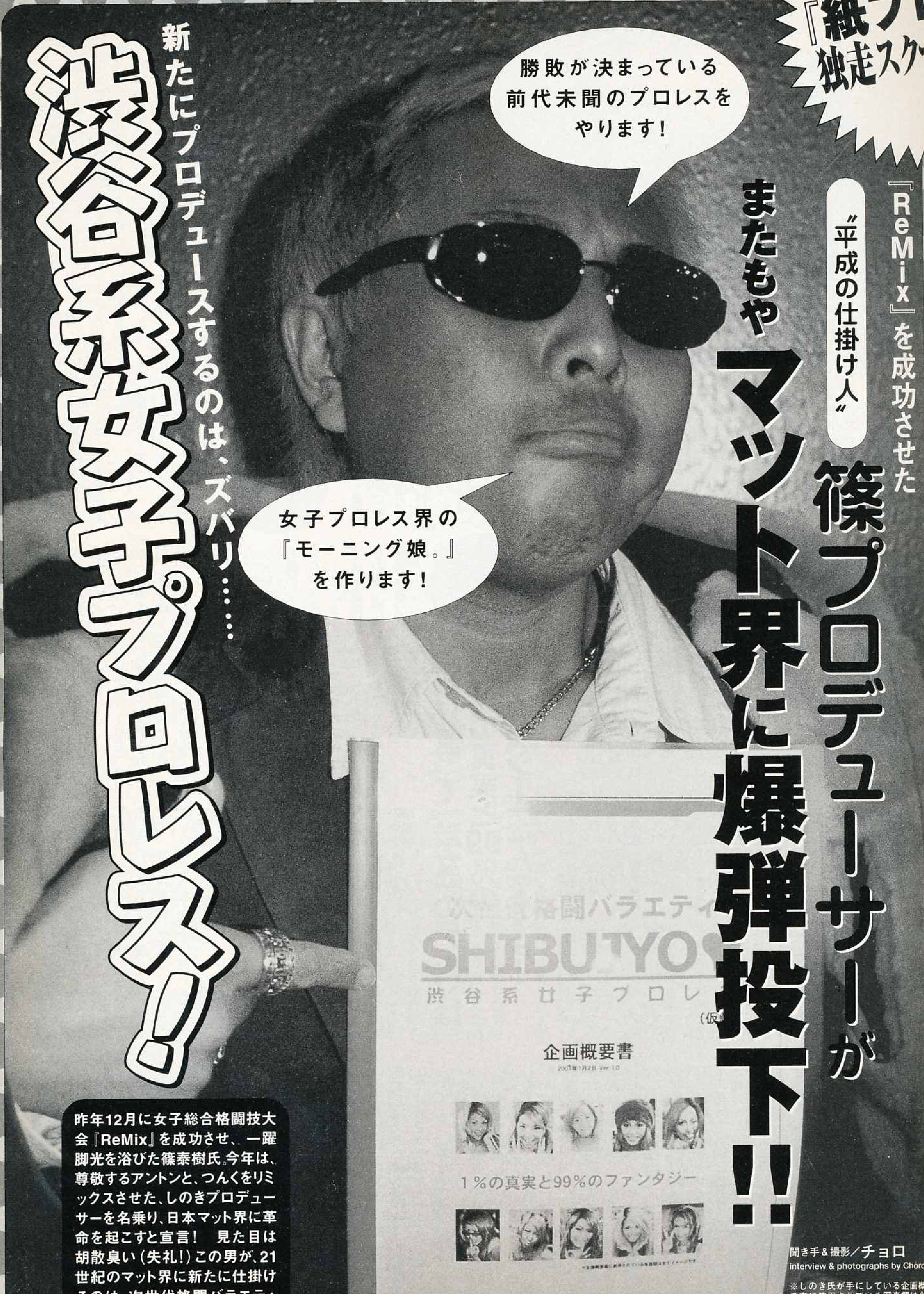
『ReMix』を成功させた

“平成の仕掛け人”

篠プロデューサーが またもやマット界に爆弾投下!!

新たにプロデュースするのは、ズバリ……

渋谷系女子プロレス!



昨年12月に女子総合格闘技大会『ReMix』を成功させ、一躍脚光を浴びた篠泰樹氏。今年は、尊敬するアントンと、つんくをリミックスさせた、しのきプロデューサーを名乗り、日本マット界に革命を起こすと宣言! 見た目は胡散臭い(失礼!)この男が、21世紀のマット界に新たに仕掛けるのは、次世代格闘バラエティ『渋谷系女子プロレス』だ!

聞き手&撮影/チョロ
interview & photographs by Choro

※しのき氏が手にしている企画概要書に使用されている写真類は全てイメージです



一部では開催を危ぶむ声もあがっていたReMixだったが、終わってみれば、2000年『紙プロ』大賞のベスト興行部門、堂々の6位（女子興行ではダントツ1位）に食い込むほどの成功を収めた。さらにReMixルールを採用した大会『スマック・ガール（殴りあう少女）』も4月から渋谷のクラブ『ATOM』で本格的にスタート！

――もうだいぶ経っちゃいましたけど、一部では開催も危ぶむ声も出ていた『ＲｅＭｉｘ』は、観客動員はさておき（笑）、結果的に成功でしたね。

しのき　まあ成功かどうかって言われたら成功だと思いますね。ボクの考え方としての総合格闘技の面白さっていうのは、やっぱり出てくる選手もそうなんですけど、そのバランスを取るルールだと思うんですよ。今回ルールは賛否両論だったんですけど、グラウンド20秒ルールとかね（苦笑）。

――ズバリ言って打撃系の選手に有利なルールでしたよね。

しのき　でしたけど、まあバンビにしても、エリン・トーヒルにしても、結果的には打撃系の選手は全敗しちゃったような状況があったわけですよ。逆に、グンダレンコ対藪下戦の面白さっていうのは、あのルールの中から生まれたものだと思うしね。

――あぁ、それは言えますね。

しのき　ただ「もうちょっとグラウンド長い方がいいんじゃない」とか、「判定の基準を明確に出した方がいい」とか、いろいろと課題をもらったんで、直すところは直していきますから。ボク的には女子格闘技の明日への扉が開かれたかなって思いましたね。時は来たッ！って感じで（笑）。

――遂に来ましたね（笑）。

しのき　それでボクは、大会後、柔道の福岡国際大会に桜庭とやるはずだったブロレトワに会いに行ったんですよ。ブロレトワは「次は絶対出たいです」って言ってくれたし、あと中国のオリンピック強化委員会のようなところから「我々も協力する」という話もあって、そういう話の流れで、今年、中国で『ＲｅＭｉｘ平和の祭典』というイベントをやろうという話になってるんですよ。

――まさに猪木イズムですね（笑）。

しのき　猪木さんじゃないですけど、中国の奥地にいる2メーター級の大女とかも引きずり出したいですね（笑）。まあ次のＲｅＭｉｘも、桜庭あつこ、今回の藪下めぐみ級の隠し球も用意してるんで期待してください。（小声で）実は●●●●さんを出す方向で動いてるんですよ。

――えっ！　それは『ＰＲＩＤＥ』に出た谷津さん級の期待ができますね！　で、ＲｅＭｉｘが一段落ついたと思ったら、また新たな構想をたくらんでるみたいですね（笑）。

しのき　はい。ずっと考えてたことなんですけど、ＲｅＭｉｘを総合格闘技として左と例えると、その全く反対の右側のエンターテインメント、魅せるプロレスをやります！

――エンターテインメントのプロレス団体を旗揚げするわけですか？

しのき　団体じゃないんですけど、『渋谷系女子プロレス』を始めます。



ズバリ言って『渋女』のテーマは「1％の真実と99％のファンタジー」なんですよ！

――略して『渋女』ですか（笑）。

しのき　そうです（笑）。ＲｅＭｉｘ立ち上げの頃から、ほぼ同時進行で動いてたんですけど、お芝居としてのプロレスもやってみたいなと。

――お芝居プロレスですか（笑）。

しのき　構想的には足かけ二年ぐらい考えてて、『ＮＥＯ』にも取り入れようとしたんですけど、どうしても中途半端になってしまう部分があって、これじゃあダメだと思ったんですよ。もっと思いきり針を振らないと観客も付いてこないし、自分の中で面白いと思えないですから。去年、ボクがホリプロさんのスカウトキャラバンに参加したり、ＲｅＭｉｘに桜庭あつこを起用したのもそれを含めた流れだったんですよ。

――桜庭さんも試合前は賛否両論ありましたけど、実際いい試合をしたんで評価は高いですからね。

しのき　やっぱり桜庭あつこの成功っていうのはボクの中で凄く大きいんですよ。まあ何を指して成功っていうか難しいところなんですけど、メディアの露出とかを考えると、もの凄いものがあったわけですよ。

――ワイドショーをはじめ、ずいぶん取り上げられてましたからね。

しのき　ワイドショー全局とか、一般誌にもバンバン出ましたからね。ということは、こっちの方向って凄い可能性があるなって改めて思って、それも『渋女』をやっていこうと踏ん切らせた要因のひとつです。

――『渋谷系女子プロレス』っていうのは、わかりやすく言うと、どのようなものなんですか？

しのき　昔で言うと「ひょうきんプロレス」、最近なら「めちゃイケ女子プロレス」と思ってください（笑）。

――は？　また凄いところを攻めてきますね（笑）。

しのき　でも、前号の『紙プロ』でやってた『ＷＴＷ』よりは具体的だと思いますよ（笑）。要はストーリーも決まってるし、もちろんどっちが勝つかも決まってるという、前代未聞のプロレスをやるんです！

――それは確かに前代未聞だ（笑）。

しのき　もうちょっとわかりやすく言うと『電波少年』とか『ＡＳＡＹＡＮ』、『未来日記』、あとは『ガチンコ』みたいなプロレスですね。

――そうなってくると、当然ＴＶ中継は絶対条件ですよね。

しのき　もちろんです。それで、勝負論、技術論を語るならＲｅＭｉｘで、ストーリーの面白さ、タレント性を極めるなら渋谷系女子プロレス。この二極に分けましたんで。

――その中間にある、いわゆる「純プロレス」は21世紀は難しくなってくるという判断からなんですか？

しのき　ていうよりも、みんなと同じことやっても勝てないし、それにボクははっきり言って後発ですから他の市場に食い込むっていうのがビジネスでいえば当然のことなんで。逆に言えば、日本では、そこまで振り切ってる団体はないんでボクにとってはラッキーなんですよ。この市場は独占させてもらいます！

――もしかして、すでにＴＶ枠とかも決まっているんですか？

しのき　一応、話を進めているのは深夜の30分枠なんですよ。いま枠取りの調整をしてもらってる最中なんで、早ければ4月の改編時期、遅くても秋の改編からスタートします。

――番組的には、どういった構成を考えているんですか？

しのき　基本的に興行ではなく、簡単に言うと『ＡＳＡＹＡＮ』とかのようなスタジオ収録形式を考えてて、試合だけじゃなくてその前後もたっぷり見せると。例えばデビュー前のオーディションから追っかけて、ある条件をクリアしないとデビューできないということにして、それに向けての女の子の努力、葛藤っていうものを見せたいですね。ズバリ言って『渋女』のテーマは「1％の真実と99％のファンタジー」なんですよォォォ！（炎上）

『渋女』では極端な話、ダメな試合は撮り直しとかもさせますから！（キッパリ）



やれ「売名行為だ！」やれ「格闘技をナメるな！」など、試合前は批判的な意見も多かった桜庭あつこだが、ロシアのコボチノバ・タチアナ相手に、敗れはしたものの、そのガムシャラファイトで本気っぷりとプロ根性を充分に見せつけた。もう一丁!? そして『渋女』では桜庭あつこに続く現役タレントの参戦はあるのか？　篠さん、頼んだぞ！

―なんだか、ターザンのキャバクラ論みたいですね（笑）。場合によっては30分の放送時間内で試合を流さない時もあったりするんですか？

しのき　それも有りえますよ。アニメのように1試合を2週に渡って放送するっていうこともあるでしょうし。極端な話、ダメな試合は撮り直しとかもさせますから。

―撮り直しもありですか！（笑）。それは画期的ですよね。

しのき　やっぱり、試合の結果が決まっていたとしても、そこに向かう女の子のメンタル的な部分、流す涙っていうのは真実ですから。例えば、ドロップキックの一発もできなかった子が特訓を重ねてドロップキックを出来るようになるまでの映像を流すわけですよ。その過程はリアルじゃないですか。そういった部分を見て欲しいし、注目して欲しいですね。

―やっぱり、渋谷系と謳っているからには、当然、それ系の女の子を集結させるわけですよね？

しのき　（自信満々で）まあ新間さん風に言うと「私は既に何名かの『渋女』候補生を確保した！」って感じなんで。ンムフフフ（笑）。

―その例えは不安だなぁ（笑）。でも、何で渋谷なんですか？

しのき　ボクはギャル系雑誌にも絡んでた時期があったんで、そういう子たちが周りに多いんですよ。それで話してると、いまだに若者文化の情報の発信地は渋谷だと。ボクらが一番狙ってるマーケットはそういう子たちが喜べる、楽しめるプロレスなんで、そういう子たちに向けて情報を発信するには渋谷が一番！　だから渋谷系女子プロレスなんです。

―そこに登場するレスラーは…。

しのき　（遮って）いや、タレントです！　レスラーじゃないです。敢えて言うなら渋谷系スーパースターズ（笑）。ボクの中ではレスラーだと思ってないんで。プロレスラーを演じているタレントですね。プロレスラーというには既存のプロレスラーに対して失礼ですから。

―既存のプロレスラーとの一番の違いはどこになるんですか？

しのき　『渋女』は真剣勝負はしません！　お芝居です（笑）。ただ自信持って言えるのは最高級の身体を張った芝居を見せるってことです。



―大阪プロレスも真っ青な「映画のようなプロレス」なんですね（笑）。

しのき　そうです。だからWWFばりに脚本っていうのも重要になってきますよ。

―その脚本はしのきさんが考えるわけですか？

しのき　ボクだけじゃなくて、大手のTVとか映画をやってるシナリオライターとか某有名製作会社と組んでやっていきます。もちろん、最終決定はビンスばりにボクがしますけどね（笑）。自分で面白いと思わないことはやらないですから。つまんなかったらボクの責任です！

―ここまで言うからには、面白くする自信があるわけですよね。

しのき　（自信満々に）だって面白くなるしかないでしょ！　それに、やる前から面白くなくなるなんてこと考えるバカがいるか！　パシーン!!（笑）。

―何するんですか！（笑）。でもReMixといい『渋女』といい、なぜ「女子」にこだわるんですか？

しのき　ボクはプロレス界の「モーニング娘。」を作りたいんですよ。

―プロレス界の「スマップ」とか「V6」じゃダメなんですか？

しのき　芸能界をちょっとでも知ってる人はわかると思うんですけど、男子は芸能界的に難しいんです（苦笑）。

―あっそうか（笑）。

しのき　TVでやっていくうえで女子にしました（笑）。まあ本心で言えば、10代の女の子が流す涙とか笑顔って凄い素敵だと思うしね。いまだったら「モーニング娘。」、以前にも『おニャン子』とか『モモコクラブ』が一世風靡したように、日本ならではのアイドル文化っていうのがあるわけですよ。ボクは前にアイドル誌の編集長やってたこともあるし、アイドルにはうるさいですから（笑）。

―それじゃ、アイドルを見る目も相当自信があるわけですね。

しのき　もちろん！　でも、渋谷系だけじゃなく、渋谷系対おねえ系の対立とかも見せたいし、ある日、渋谷系だった子が突然おねえ系に寝返って、「あんた何よ、その格好!?」っていう因縁からリング上へなだれ込むっていうのも面白いですよね。

―いずれは巣鴨系が出てくるかもしれないですしね（笑）。

しのき　それはちょっと見たくないなぁ（笑）。でも、基本線はアイドルタレント、アクションタレントみたいな子を育てたいんですよ。『チャーリーズ・エンジェルズ』のような映画も撮りたいし、『スケバン刑事』みたいなものもやらせたいし、『渋女』という括りで女の子を集めていって、歌のユニットを作ったりとか広がるじゃないですか。

―「そんなのプロレスじゃねえだろ！」って、一部で反感は買うかもしれないですけどね（笑）。

しのき　反感っていうのもボクはおかしいと思うんですよ。もっとみんな心を広く持ちなよ、と。新日本とか、『PRIDE』とかK―1とかの楽しさとか凄さっていうのはボクも十分認めてるけど、それとこれをごっちゃにしないで欲しいし、『渋女』は『渋女』で、その面白さを見てもらえればいいんで。面白くないと思うんだったら見なきゃいいわけですから……まあ面白いんですけどね（笑）。

―まあ、批判する人も気になるとは思うんですけどね（笑）。

しのき　こっちも最初から「ストーリーはあります」って言いきってやるわけだし、嘘付いてやるわけじゃないんでいいんじゃないですか。言い方変えると「プロレスって何？」っていう質問に100%答えられる人っていないと思うんですよ。ボクが憧れるアントニオ猪木さんですらも「いまだにプロレスはよくわかんねぇです！　ンムフフフ」って言ってますからね（笑）。

―その答えは永遠に出ないかもしれませんけどね（笑）。

しのき　そうですよね。例えばボクシングを魅せる映画で『ロッキー』がありますよね。でも、「ロッキー、ふざけんな！」って言うボクシング協会の人はいないでしょ。既存のプロレス団体から「それはプロレスじゃない！」ってクレームがくるんだったら、ウチはプロレスって言わないんで（笑）。「ウチは『渋谷系女子プロレス』です」と。WWFなんかも、「プロレスなんですか？」って聞かれると「WWFです」って言いますから。

―そういえば、しのきさんは昨年はよくWWFに行ってましたけど、『渋女』構想に関係してたわけですか？

しのき　まあ趣味と実益を兼ねて行ってたんですけど（笑）、おかげで、WWFのバックステージも見せてもらえたし、いろいろと勉強してきましたから。そこで『渋女』で有効に使えるものを拾ってきたつもりだしね。

―具体的に言うと、WWFでどんなモノを学んできたんですか？

しのき　どこまで言っていいのかわかんないですけど（笑）、WWFではカメ



「女子プロ界のモーニング娘。を作ります！」と大いなる野望を語ったしのき氏だが、確かに老若男女問わず絶大な支持を誇るモー娘。がプロレスをやったらゴールデンタイム放映は間違いなく、世間のプロレスに対する認識も大きく変わるはずだ。しのき氏は『渋女』でマット界に「レボリューション21」旋風を巻き起こすことができるか？

ラワークから決まってるわけですよ。そういうのを目の当たりにしてビックリ仰天しましたね（笑）。頭でわかっていても、現場で見るのとでは全然違いますからね。日本の団体のトップでそういった部分をしっかり勉強しに行ってる人はいないじゃないですか。

——藤波社長とか『WCW』とか視察には行ってるんですけどね（笑）。

しのき いまの日本のプロレスとWWFはまるっきり違う方向に進んでると思うんですよ。いくらエンターテインメントっていってる団体で、リング外で笑わせたりしても、リング上の試合の部分では真剣勝負でやってるじゃないですか。みんなそっちなんですよ。そうじゃない方向はガラ空きなんでボクが独占するんです！

——でも、TV主導だと、視聴率が悪かったら打ち切りっていう可能性も出てくるんじゃないですか？

しのき 打ち切りはないですよ。数字は確実に取りますから。可愛い女の子がプロレスを題材にしたドラマをやるわけですよ。見たいでしょ？

——はい、見たいです（笑）。

しのき 例えば、ハルク・ホーガンは『ロッキー3』に出てメジャーになりましたよね。それを「ホーガンは演技してるからつまんない」って思わないでしょ。ボクはホーガン対ロッキーは面白いと思ったし、それが毎週TVでやってれば見たいって思いますからね。『ロッキー』だってシナリオも勝敗も最初から決まってるわけじゃないですか？（笑）。

——決まってなかったらスタローンはホーガンには勝てませんよ（笑）。

しのき ジャッキー・チェンの映画もそうでしょ。見てて単純に面白いですよね。でもあれはお芝居なんです。だけど、ビルから落ちたりするのはリアルじゃないですか？『渋女』も、飛んだり跳ねたりするシーンは本物だし、一歩間違えば大怪我もしますよ。みんな身体を張って演技をするんで、それはそれで見て欲しい部分ですね。うまく表現できなくて悲しむ子もいるだろうし、思いきり喜ぶ子もいるだろうし、怒る子もいるだろうし、その喜怒哀楽っていうのは真実ですから。

——そうはいっても、やっぱり指導はプロレスラーがするんですよね。

しのき まあ、現役レスラーだけじゃなくて、殺陣師の先生に指導してもらう場合もあるでしょうしね。

——ヤマモさんとかですか（笑）。



「何でこんな子が？」っていう、いままでの女子プロでは考えられない子を揃えます！

しのき 山本さんも有りえますけど（笑）、ホントに殴ったり蹴ったりしてるように見せたいし、そういう演技指導はしっかりやらせますよ。その特訓とか合宿の様子も、数ヶ月、番組的に追いかけるつもりだし、その流れの中でもいろんなドラマが生まれると思うんですよ。ライバルが出てきたり、もちろん喧嘩も始まるだろうし、彼氏がいる子は男との別れとかも出てくるでしょうし。『ガチンコ』って番組だって半年ぐらいそれで持たせるわけですよ。どこまでが真実でどこまでが嘘かわかんないことが次々と起こるでしょ。あれもプロレスですよ（笑）。実際、視聴率も凄いし可能性はありますよ。

——でも、しのきさんも崇拝する猪木さんが言う「プロレスとは闘いである」という格闘ロマンからは脱線しそうな気もするんですけど。

しのき いや、『渋女』も闘いですよ！だって、表現力が低い子はドンドン切り捨てられるんですよ。芸能界も闘いですよ。ホントに人気のない子はゴミのようにドンドン切り捨てられていきますから。ボクはそんなタレントをいっぱい見てますし、そういう意味では立派な闘いです。いくらシナリオが決まっているからといっても、いかに自分を見せられるかっていうのは凄く大事なわけですよ。それに相手との闘いもそうですけど、世間と闘うっていうのも猪木イズムじゃないですか？

——確かに。しのきさんも世間とは思いっきり闘ってますからね。

しのき ホント思いっきり闘ってますよ！　プロレスファンより冷たい人達と闘わなきゃいけないんですから。そういうものに『渋女』は挑まなきゃいけないし、それはそれで試練だし、ボクの中では闘いですよ。だって失敗したらボクが全部責任を被るわけですから。

——当然、失敗は許されないですね。

しのき でも失敗しないように、女の子もバランスを考えて世間的に好まれる子を揃えるんで、ノー問題です！

——「モーニング娘。」も全部が全部可愛いわけじゃなくて、ちゃんとバランスとれてますからね（笑）。

しのき おニャン子なんかもそうでしょ。そういう方程式があるんですよ。それはボクらが長年かけて学んできたことなんで心配ないですよ。やるからには「なんでこんな子がプロレスを？」っていう、いままでの女子プロでは考えられないぐらいのレベルを揃えますから！（キッパリ）。

——それは期待しますよ（笑）。しのきさんはあまり好きではないみたいですけど、『渋女』ではエロ路線はやるつもりはないんですか。

しのき エロはやらないです（キッパリ）。キャットファイト的なものはチョロさんに任せます（笑）。

——はい！　ボクも『渋女』に負けないように頑張ります（笑）。でも他のプロレスマスコミは『渋女』をどういった形で扱うんでしょうね？

しのき ボク的には「載せたいんなら載せてください」と。扱いが他の団体に気を使ったものになるなら載せなくていいですよっていうスタンスですから。狙っているのはホントに一般誌なんで、『ホットドッグ・プレス』、『プレイボーイ』、『BOON』とかなんですよ。

——逆に一般誌とかの方が食いつきはいいでしょうね。それと、さきほど『ASAYAN』のようなスタジオ収録番組にしたいと言ってましたが、そうなってくると司会者も重要になってくると思うんですけど？

しのき やっぱり浅草キッドさんがベストでしょうね。

——それが一番いいでしょうね。

しのき キッドさんにやってもらえたら相当面白くなりますよ。同じ猪木教の信者として是非お願いしたいですね。あと『渋女』では、モー娘。の上を行く、小学生レスラーもデビューさせようと思ってるんですよ。

——小学生!?　でも小学生じゃ、夜は働けないじゃないですか（笑）。

しのき （気にせず）『渋女』だけじゃなく、ReMixもあるし、今年は格闘ロマンを突き進むぞーーッ!!

【平成13年1月5日／東京・渋谷系喫茶店「マ・メゾン」にて収録】



明日のスターは君だ！

【しの・やすき】S43・7・2、東京都杉並区出身。趣味は「プロレス界では誰にも負けない！」と豪語するキャバクラめぐり。好きなレスラーはアントニオ猪木と井上京子（＆荒井薫子）。職業は、ゲーム、芸能、映画、プロレス等のプロデュース業＆原稿執筆。ちなみに社会人プロレスにレスラーとして参戦の過去もある

いまだ（地上波）ノーTVの純プロレス最後の秘境“プロレスリング・ノア”入門ガイド

あまりに危険すぎる内容なのでクイズ形式を採用しました!!

マット界新世紀の扉を無理矢理コジ開ける“シュート活字”は活字プロレスを救うのか!?

プロレス初心者および現在のプロレスマスコミに満足している皆さんは……

読むな!!

この企画はホントに危険です!!

❶そもそも「シュート活字」とは何なのか？
❷そのシュート活字を広めようとする「田中正志」とは何者なのか？



「読むな!!」と言われると、敢えて読みたくなるのが人情——だが、今回に限ってはホントに読んでほしくない。なぜなら、語られる内容があまりに危険な領域だからだ。なぜ、危険なのかを説明するのも危険な行為だが……それでも本誌は特集を組んだ。それは「シュート活字」と呼ばれる、新しいプロレスの活字表現方法を紹介するためだ!

構成／坂井ノブ
text by Nobu Sakai

❶シュート活字とは何なのか？ を論じる前にこれだけは言っておきます!!

そもそも本誌がなぜ〝シュート活字〟を扱うのか？

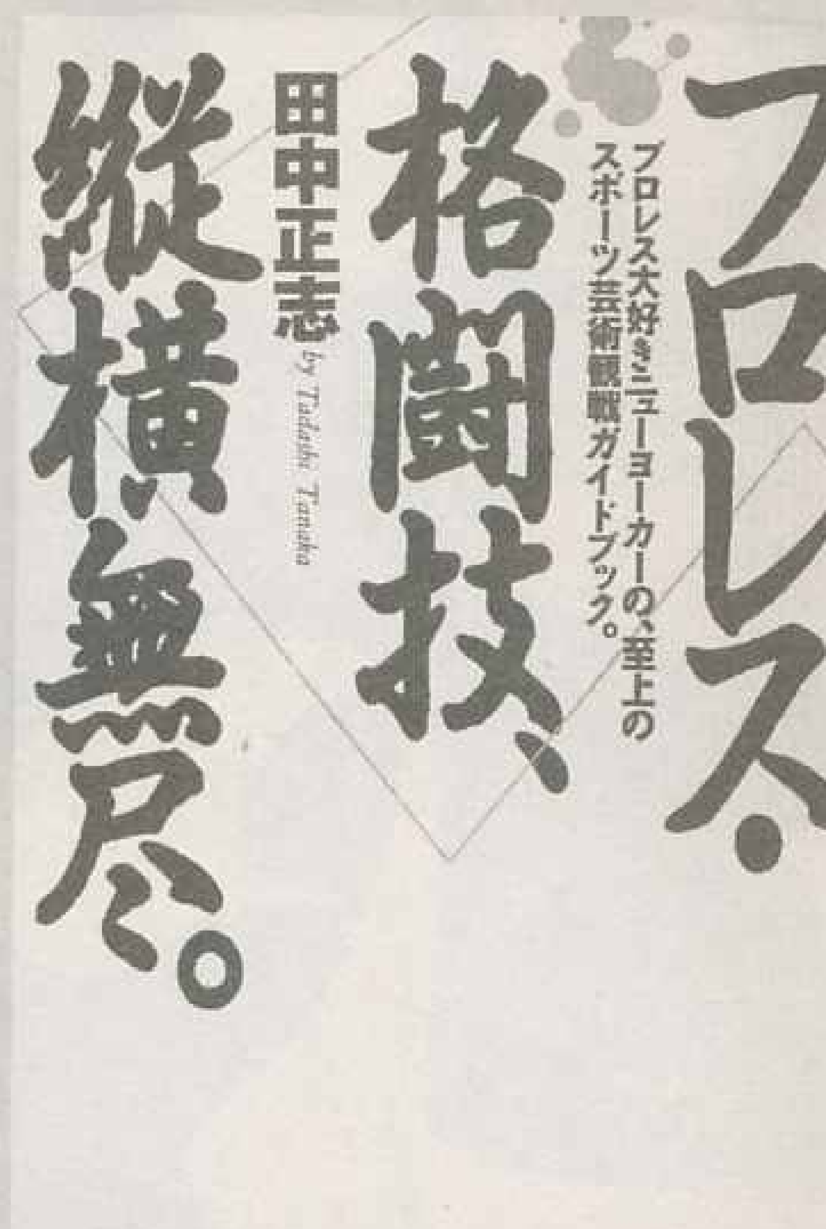
時代とともに「プロレス」についての考え方は変わりつつある。本誌でも「新プロレス」と「純プロレス」という単語を使い分けて、しかもすっかり定着している。もう、一つの単語では括りきれないところまで「プロレス」そのものが変わってきたのだ。ならば、それを語る「活字プロレス」も時代とともに、変わっていかなければなるまい。その「活字プロレス」をさらに進化させた「シュート活字」を提唱するアメリカ在住の評論家・田中正志氏が昨年末、アメリカから一時帰国した。ボクは「シュート活字とは何なのか？」を聞くために田中氏にインタビューを試みたわけだが、それを掲載する前に改めて所信表明をしたいと思い、この原稿を書いた。というわけで、「シュート活字」をボクは、どう捉えているのかを最初に説明させて頂きます。

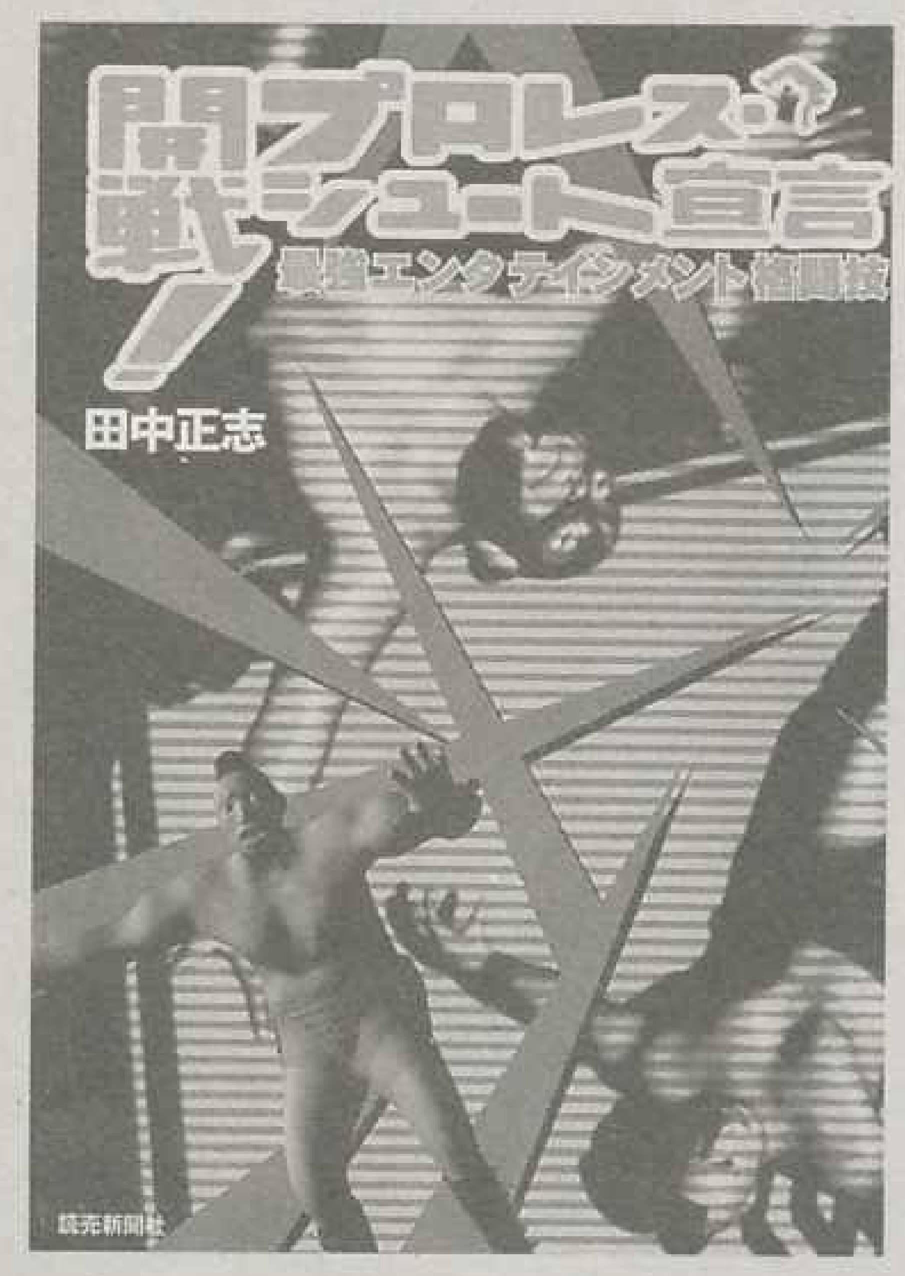
（文／坂井ノブ）

「**お**前、プロレスをナメとるんか？」

本誌前々号（NO.32）で、アメリカにおける〝プロレスの情報公開〟というテーマで特集を組んだところ、ある人がえらい剣幕でボクの携帯に電話をかけてきた。「プロレスをナメんな！」という声が挙がるのは想像できた。たとえ、アメリカの事情だろうと公開してくれるな、ということだろう。

最近のWWFやWCWの試合を見ている人ならおわかり頂けると思うが、アメリカと日本のプロレスは、根本的な部分から違ってきている。莫大な金が動くアメリカのプロレスとは対照的に、日本のプロレスの現状はご存じのように一部を除いて大変厳しい状況にある。ただ、このまま業界全体が緩やかな下り坂を進んでいる現状を指をくわえて見ているのもいかがなものかと思うのだ。それにプロレスをおとしめようとやっているわけでもないと、ここで改めて言っておきたい。





“シュート活字”といえば、この2冊（ともに絶版）。どちらも田中正志氏の著作だ。ただ、悪影響も多く業界内部では否定的意見の方が多い。「シュート」「ワーク」の二元論は、ファンの視野を狭めてしまう可能性もあるから、シュート活字はあくまでサブ・テキストとすべきだろう。

いままでは存在も許されなかった こういった切り口があってもいいんじゃないか？

現在のプロレス業界が観客動員で苦戦しているのと同様に、プロレス雑誌媒体も全盛期に比べて部数を落としていると聞く。それに比べてアメリカのプロレス界は未曾有の大盛況を迎えている。その最前線でナニが起こっているのかを伝えるために、32号では〝アメリカにおけるプロレスの情報公開〟の是非について考えてみたのだ。なぜWWFは世界屈指のビッグ・カンパニーとなったのか、その秘密を探るためだ。今回はそれを踏まえた上で「景気の悪い話しか聞こえてこない日本のプロレス界もWWFを研究して、学ぶべき点は学び、黄金時代を迎えようじゃないの！」という志のもとに、もう一度〝シュート活字〟の企画を組む次第である。

なお、ボクがこの企画を進めるにあたって編集部では孤立無援の状況に陥った。たとえば本誌スーパーバイザー・吉田豪は〝シュート活字〟自体には好意的ながらも「プロレスを単なるシュートとワークの二元論で語るようになって、プロレスの枠内でいかに凄いことが起こってるのか見えなくなってる人が多い」と、その悪影響について指摘する。他の人にも「シュート活字好きって、変な選民思想があるから嫌だよね」「ネットでヤオガチ判定とかやってる人でしょ？」「業界の外の人間が適当に言ってることが、すべて真実なのか？ そうじゃねえだろ？」などいろいろなことを言われた。たしかにその通り。ボクも〝シュート活字〟の持つ悪い側面には何も感心しないし、不毛だと思う。全面的に〝シュート活字〟に賛同できるわけではない、ということを付け加えておく。悪影響も考慮して今回はわかる人だけわかればいいと思いクイズ形式を採用したのだ。

ただ、プロレスを経済的な側面から見た場合、日本のプロレスが何をすべきなのか考えるという行為に関しては全面的に乗れる。ボク自身、昨年WWFのプロレスを見てから、考え方がガラリと変わったからだ。

WWFを夢見て、エンターテインメント路線に切り替えた団体もいくつかあるが、同じように「活字プロレス」も新しい方法論を模索する時期ではないだろうか？という提案を今回させていただきたいと思う。ただ、あくまでもこれは主流になる代物ではない。『東スポ』をはじめとするスポーツ紙があり、週刊プロレス誌（紙）がある中で、いままでは存在も許されなかったようなこういった切り口が「あってもいいんじゃないか？」という提案なのだ。

❷シュート活字を広めんと草の根活動を続ける男

田中正志

プロレスマスコミ史上初!!　四択インタビュー

この男の語ってることは一体どこまで真実なのか？
誤解と殴り込みを避けるため
〝わかる人だけわかる〟
クイズ形式を採用します!!



聞き手＆撮影／坂井ノブ
interview & photographs by Nobu Sakai

Masashi Tanaka

1959年生まれ。同志社大学在学中に学生プロレス『DWA』を設立、同時期に『週刊ファイト』でアルバイト開始。DWAでは『レスリング・ダイジェスト』というミニコミを刊行（これを浅草キッドの水道橋博士が愛読していた！）卒業後はコロンビア大学大学院ビジネススクールを修了し、MBAを取得。現在はシカゴ在住で、アメリカのプロレス業界紙『レスリング・オブザーバー』で、プロレスラーや格闘家の日本では読めないようなナマ声を紹介しつつ、『イヤーダ・ドット・コム』というインターネット・ラジオにも出演中。



衝撃ドキュメント『レスリング・ウィズ・シャドウズ』も、内幕を公表することでプロレスラーの尊厳とビジネスの厳しさが出ている。

田中正志——業界関係者の中では驚異的に評判が悪い謎の男。しかし、日本のプロレスマスコミの中でその原稿を読むことはほとんどない。主戦場はアメリカの業界紙と、インターネット上に書き込むというゲリラ活動なのだ。各団体のブラックリストに名を連ね、マスコミからも危険人物のレッテルを貼られている。その人物が、ついに『紙プロ』に登場する！　果たして、田中氏の提唱する〝シュート活字〟はプロレスを救えるのか？　これを読んでじっくり見極めて頂きたい！

——はじめまして。なんか、まだ見ぬ強豪に会うみたいで緊張しますね。

田中　はじめまして。田中正志、〝真実〟の探求者です（キッパリ）。

——し、〝真実〟ですか……とはいっても、プロレス業界って〝真実〟のない業界ですよね。見た人の数だけ真実があるという感じで（笑）。『週刊ファイト』のI（元）編集長（＝井上義啓氏）も「プロレスに〝真実〟なんてない」と言ってますけど。

田中　そのどうでもいい〝真実〟が面白いと思っちゃっただけなんですよ。そのI編集長がボクの師匠なんですけどね（笑）。

——ああ、田中さんは以前『週刊ファイト』の記者だったんですよね、その話はまた後ほどじっくりうかがいます。でも、〝真実〟にも色々ありますよね。例えば、インターネット上でよく見られるような「この試合はワークだ」「いや、これはガチだ」といったレベルから〝真実〟を探求してるわけですか？

田中　違います。簡単に言うと、ブックとアングルの裏を読んで楽しむってことなんですよね。

——そのへんを、もうちょっと分かりやすく説明していただけますか？

田中　つまり、現場監督責任者が何を考えてその日の興行を打ったのかを裏読みして楽しむのが、ボクは本当のプロレスファンの楽しみ方だと思うんですよ。

——なるほど。でも、昔のプロレスファンって、そういうファンばかりだったんじゃないですか？　『紙プロ』の人間もそうですね。すれっからしのマニアなんて、ほとんどそういう見方してますよね。

田中　まったくその通り！　ボクが『ファイト』で原稿を書いていた頃のプロレスファンと今のプロレスファンを比べると、昔の人達の方がよく分かってましたよ。それは間違いないです（キッパリ）！

――ま、間違いないですか!

田中 そのようにプロレスファンを腑抜けにしたのは、ターザン山本の『週刊プロレス』ですよ!

――ゲッ!『週プロ』が悪いんですか?

田中 あれが全盛を誇ったために、モノを考えなくなり、活字で遊んで空想の世界に入っちゃう人が増えたんですよ。あれが、一番の原因(キッパリ)!

――「ターザンがこう言ってるから、そうに違いない」と考えてしまうということですね。たしかに全盛時は公称40万部ですから影響力も大きいでしょうけど……でも、今のターザンは逆に凄いですよ。

田中 えっ、どういうこと?

――キャバクラにハマってるんですよ。さっきの田中さんじゃないですけど「キャバクラにこそ〝真実〟がある。キャバクラは99%ワークなんですよぉぉぉ! オレは、その中に0.1%の〝真実〟を探してるんですよぉぉぉ!」って言ってましたから(笑)。ターザンも〝真実〟の探求者ですよね(笑)。

田中 アハハハ、そうですね。でも、キャバクラ行く人の目も、プロレスファンの目も似てますよ。99%は分かっているけど、そのプロレス興行の中に0.1%の〝真実〟を探してるんですよ。たとえば「この試合は **Q1** が実生活の中でアイツのことがホントに嫌いだから、また **Q2** たんだ」とかね。それを我々は楽しんでいるんですよ。

――なるほど。そういう昔からマニアが楽しんでいたプロレスの見方を、マスコミを通じてやろうじゃないか、ということですね。

田中 そういうことです。その通りです。

――でも、『シュート活字』って、ハッキリ言って純粋なファンやプロレスラーや関係者から反感を買う可能性はありますよね。

田中 物凄くありますね(笑)。実際、マスコミの連中が嫌ってます。たしかに彼らの気持ちは分かります。「オレたちの仕事が荒らされる」という意識があるからね。別の人を通じて遠回しに、**Q3** と **Q4** も文句を言ってきましたよ。「あれを言ったらおしまいでしょ。オレ達の飯は食い上げだよ」というようなことを言ってきました。



プロレスマスコミに多大なる影響を与えたI編集長(右)。現場には行かずとも、鋭い分析でプロレスを書くこという可能性を提示した。

――まあ、マスコミもそうでしょうけど、それ以上に選手の反発は大きいですよ。例えば以前、「アメリカ最大のTV雑誌が〝プロレス隠語特集〟を組んだ」という本誌の記事を読んである人が電話を掛けてきたんですよ。「プロレスをナメとるんか!」と電話口で怒鳴られましたから。怒って当然だと思いますよ。こういう企画の意図はなかなか理解してもらえないものですよね。まあ、普通の業界関係者の感覚で言ったら、アメリカのプロレス隠語なんかでも、出してくれるなという感覚なんでしょうけど。

悲しいことに会場から子供のファンがいなくなり 5年後、10年後を考えたらお先真っ暗ですよ!

田中 あのね、じつは同じ議論が10年前のアメリカで行われてるんですよ。アメリカのプロレスラーも業界の **Q5** を外に漏らすと自分達のオマンマの食い上げになると思っていたんですよ。今じゃすっかり開き直ってますけど。

――それが切り替わったキッカケは何ですか?

田中 まず一つは、WWFの親分ビンス・マクマホンが1989年に「我々がやっているのは真剣勝負ではない。エンターテインメントである」と言ったことでしょう。例えばWWFの番組では、シェーン・マクマホンが自分の試合をテレビで見ながら、どういう **Q6** で、どういう流れでやってきて、どこが素晴らしかった、どこが失敗したとかをオン・エアーのテレビの中できちんとしゃべってますから。それをアメリカでは、何万人のテレビ視聴者が日常的に見ているわけです。だから、シュート活字がすんなり受け入れられる土壌はアメリカにはあるんです。

――日本で言うならば、長州力が「新日本プロレスは真剣勝負ではない。娯楽である」と言って、ワールドプロレスリングで「あの **Q6** は失敗だったな」とかしゃべってるような感じですね(笑)。

田中 そうそう。さすがに長州がそう言えば、どんな人だって「今更あなたが言ってもどうしようもないでしょ」となりますよ。

――アメリカでは、10年以上もプロレスがそういう浸透の仕方をしてるから業界用語を出しても問題ないんでしょうけど、日本のプロレス・マスコミは原則としてタブーには触れないし、ボクもアメリカの隠語だったらまだ出しましたけど日本のプロレス舞台裏は書けませんから。団体の不利益になることは書かないですよね。

田中 そこをみんな勘違いしているんだよ! シュート活字は不利益じゃないんですよ! みんな、これで幸せになりましょうという話をしているんですよ。

――し、幸せ! と、いいますと?

田中 全盛期よりも部数の落ちたという『週刊プロレス』のような活字プロレスをもう一度、元に戻しませんかという話ですよ。ボクの提案していることは、選手にとっても、活字でご飯を食べてる周辺の人達にとってもおいしい話なんですよ。

――具体的に言うとどういうことなんでしょうか?

田中 こないだ、篠(泰樹)さんがプロデュースした『スマック・ガール』という大会に行ったんですよ。あんまりお客さんは入ってなかったけど(笑)。今後どうやっていくんだって突っ込んで聞いたら、結構考えていてね。『ReMiX』に桜庭あつこが出場したようなことをプロレスでもやりたい。世間に知られている女優のような人達をプロレスに出す。そういった形で、世間を巻き込んで行きたい」と言うんですよ。

――昔、全女の松永会長が(トーニャ・)ハーディングにプロレスをやらせようとしましたけど(笑)。でも、新日の幹部なんかに言わせると、「今これだけ客が入ってる。そんなことをやる必要はない」というような考えだと思うんですよ。大きな団体ほど、いまあるものを崩してまで、冒険はしないですよね。

田中 まあ、新日本も **Q7** を導入して帳尻だけは **Q8** になってるみたいですけど、現実的には観客動員数が落ちていることはみんな知ってるわけですよ。悲しいことに会場から子供のファンがいなくなり、今後、5年、10年を考えたら、お先真っ暗ですよ。ハッキリ言ってね、厳しい状況に置かれている危機認識がないんだよ!(ドンとテーブルを叩く)でも、今のアメリカは全く逆の状態でね。ハイスクールの連中がプロレスごっこやってて、女の子がマネージャー役をやって、ミニスカートを振り回しているらしいです(笑)。それを考えたら、今の日本のプロレスは、マイナーで一部のオタクだけのモノになっていますから(キッパリ)。それは困るでしょ!

――ええ、そうですね。でも、そういう状態を作り出すのに、シュート活字が果たして有効なのか、という問題はありますよね。そもそもプロ

いまだノーTV（地上波）の純プロレス最後の秘境“プロレスリング・ノア”入門ガイド

「シュート活字」という言葉が一人歩きしてる！ ホントの目的はプロレスの面白さを伝導すること

レスにおけるジャーナリズムって、全て〝真実〟を暴くことかというとそうでもないですからね。

田中　そうなんですよ。誤解を与えてしまうんだよね。

――アメリカの業界紙（『レスリング・オブザーバー』）だと「初期Q9には Q10 があった」とかまでバンバン書いてるんですよね？　それがホントなのかという問題もあるし。

田中　情報に関しては、アメリカで当事者の選手から直接聞いたモノもありますから。それとアメリカの最新情報を提供するかわりに、日本のマスコミ関係者や団体関係者から情報提供を受けているわけです。

――業界内部から入ってくるわけですね？

田中　そうです。ただ、Q9 の件はちょっと可哀想だった。Q9 はシュートと認めてあげないとね。単純に「ワーク」って言ってしまうと、間違ったことを考える人がいるからね。それは嫌だよね。

――嫌とは言っても、現実問題として、そういう事実があったのかどうなのか、まず当事者じゃないとわかりませんよね。

田中　まぁ、あったんだけど（笑）。アメリカでは、ボクが最初に「Q11はおかしい」とか言ってるんだけど、後で否定して回ってね。大変だった。

――ムチャクチャですね！　それと同じように、インターネット上でさかんに行われている「ヤオガチ判定」というものがありますよね。総合格闘技の大会があるたびに、その議論で盛り上がってますけど。

田中　ボクはいつも言ってるけど、ああいうことすると「シュート活字」が間違った方向に行くんで嫌いなんですよ。

――でも、それが大半の方のシュート活字のイメージだと思うんですよね。

田中　それは誤解されているでしょうね。シュート活字という言葉も〝暴露〟という意味で解釈されしまっていてね。どうしてもヤオガチ判定の方がセンセーショナルな感じがあって、食いつきやすいし、わかりやすいんだよね。だから、前面に出てしまうんですけどね。

――ヤオガチ判定するんなら、結局は試合をした当人以外は何を語っても無意味だと思いますよ。

田中　そう。むしろ、そんなことよりも考えなければいけないのは、プロモーターが何を考えて、そのマッチメイクを組んだのかということなの。重要なのは、プロモーターの意志によって、どういう試合がデザインされたのかということですよ。



プロレスに「エンターテインメント」の要素を注入した革命児ビンス・マクマホン。ただ、オールド・レスラーたちはビンスのことをいまだに批判している。日本のビンスに成り得るのは、一体誰なのか？

――と、いいますと？

田中　パンクラスの尾崎（允実）さんもよく言ってたけど、「当然、八百長をしろとは言ってない！　ただ、プロの試合なんだからテーマを与えてるだけだ」とね。だから、ボクの原稿についても言ってるんだよ。「ワークをやったとは言ってない。そこを勘違いしないでくれよ」とね。実際に、西武ドームでの大会の試合前のオン・エアーの中で、森下社長が「ガイ・メッツァーなどに『いい試合をやってくれ。今までの試合は日本のお客さんには評判悪いですよ』と言った」としゃべってますからね。同じように石井館長だってK―1では試合ごとにテーマを設けているわけですよ。

――なるほど、たしかにそうでしょうね。それはK―1が一番得意とするところですからね。

田中　それは八百長をしろと言ってないわけだから。むしろテーマはあって当然だからね。実際、テレビを見ているお客さんも、そういうドラマを要求している部分もあるし。そこにドラマがあればテレビを見ている人も増えて来ますからね。例えば、宇野vsルミナの最初のファイトも技術的にはリアル・ファイトですよ。だけど、ブッカーの観点から言うと、あれはプロレスじゃないですか。試合がたまたま技術的にはシュートだっただけでね、しかもブッカーのデザインした通りに試合が運んだでしょ。それならばプロレスも格闘技も同じことじゃない？

――でも、そういうドラマ性をまったく受け付けないファン層やマスコミもありますよね。

田中　ならば、純然たる何のテーマもないシュートをやることが偉いのかということですよ。たとえば、小川のことを純然たるシュートをやっていないという人もいますけど、テーマに従って、テーマ以上の試合をやることの方が、単なる真剣勝負をやるよりよっぽどシンドイし、凄い作業ですからね。

――そうなんですよね！　佐竹（雅昭）に打撃で挑むって凄いですよね。

田中　リスクも大きいし、一歩間違えると大変なことになりますよ。単なるシュートをやっている人達よりよっぽど凄いという評価をすべきでしょ？　そして、そういうマッチメイクをしたプロモーターも評価すべきなんです。

――なるほど。それもシュート活字のひとつなんですね。

田中　ハッキリ言って、現在は「シュート活字」という言葉が1人歩きしていますよね。むしろ、ボクの活動の本当の目的はプロレスの面白さをどうやってみんなに伝導していくかということが中心なんです。まず、「ヤオガチ判定＝シュート活字」という誤解を解いた上で、もう一度考えてください。シュート活字の真の目的は「プロレスの面白い部分をもっといろんな方面から多面的に見ること」なんです。もっと言うなら、「長続きするファンの養成」がしたいんですよ。

――長続きするファンの養成ですか!?

田中　Q4 がアメリカのインターネット・ラジオに出演したときに言ってましたけど、「Q12 でアンケート調査をすると、1年単位でファン層が入れ替わっていて、読者が続いてない」そうなんです。それは非常にまずいことだと思うんですね。

――団体自体がファンを入れ替えようという発想ですからね。

田中　今のプロレスファンはみんなそうですよ。3年経ったら、すぐ離れてね。その人達を引き留めるには、ホントのこと言うしかないなって、ボクは思うんです。そういう人達が、「シュート活字」を目にすることによって、「なるほどっ！　こういう深読み出来る世界なんだ！」ということを教えてあげたいわけです。

――まあ、深読みだけの世界じゃ入りにくいと思いますけど、確かにそういう部分は必要ですね。

田中　ボクは、ビジネス的観点で正論を言ってるだけですよ。

――それはプロレス業界に一番欠けてる視点かもしれませんね。

田中　そうですよ。皆さん幸せになりましょうということですよ。そのために何をするべきか考えませんか？　もっと稼げる業界にするために変えていきませんか？　という提案がしたいわけです。

――じゃあ、具体的にはシュート活字で、どういう活動をしていこうと考えてるんですか？

田中　本当にやりたいのは「GAEA　JAPANはなぜ面白いか？」とか、「なぜ闘龍門が凄いのか？」と

かそういうことなんです。

——GAEA！ 闘龍門！ でも、「シュート」じゃなくて、いわゆるQ13の団体ですよね？

田中 そうですよ。でも、彼らのやってることが、いかに新しいのかをプロレスファンに広く伝えたいわけです。さっきも言ったように、WWFは89年に「我々はエンターテインメントである」と宣言して、大胆な演出や複雑なストーリーを導入して大成功したわけです。いま、それを日本でも、やってる人はやってるんですよ！ それをやってるGAEAと闘龍門を取り上げましょうと。

——試合のレベルが高い、ということはよく専門誌でも言われていますよね。

田中 それもそうなんだけど、闘龍門の望月（成晃）が試合前のマイクで「今日は誰と誰が勝つんだ」って全試合の結果を言っちゃうんです！「最後の髪切りマッチはな……ドラゴン・キッドがマスク剥ぐわけないだろ！ SUWAが髪の毛切るに決まっているじゃないか」と言って、案の定、髪の毛を切るわけですよ。ドラゴン・キッドはマスクマンだから、絶対マスク剥ぐわけないということは、分かる人なら分かるでしょ？ そういうふうに闘龍門は、完全にアメプロの手法を取り入れてるんです。一見さんのお客が見ても面白いと思うし、年季のいったファンが見ても闘龍門は凄いなと思うしね。まず他の団体じゃそんなことしませんから（笑）。

——なるほど。週刊誌や新聞も試合の流れしか書かないですからね。WWFに関しても同じことが言えるとは思いますけど。

田中 『紙プロ』はなぜ扱わないんですか？

——ニーズがないということがまず一つですかね。いまのウチの読者は、ホント純プロレス方面に食いつかないですからねぇ。むろん、これからはどうにかして扱っていきたいとは思ってますけど。

田中 それなら、さっきも言ったけど、望月の試合前のマイクアピールだけでも全て載せたらいいんです。それは面白いですよ！

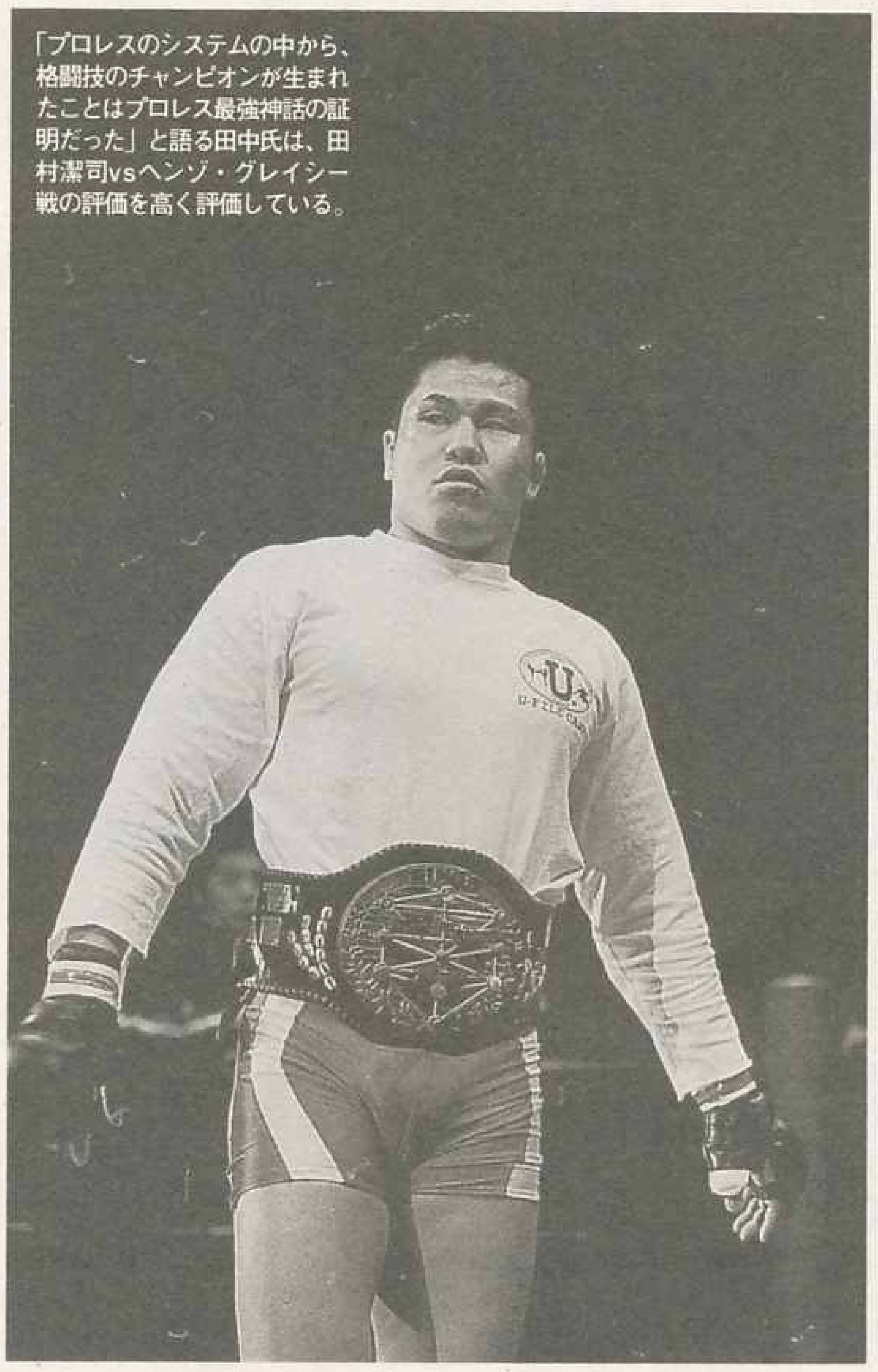
——そうですねぇ。試合前に結果を言うっていうのは前代未聞ですよね（笑）。

田中 GAEAの木村統括が言ってましたけど、あそこは18ヶ月間掛けてアングルを考えているらしいですからね。クラッシュの再結成に関しては、飛鳥が「やりたい」と言って、ホントに18ヶ月後でしたよ。新人・竹内彩夏選手のデビューに関しても、入門からデビューまで18ヶ月かかっているんです。

——一つの物事をそれだけ温めておくわけですね。

田中 だから、GAEAは、マニアが見ても驚くというか……マニアの裏をかいてるんですよ。Q14なんて、分かり過ぎてて全然面白くないでしょ？ GAEAで去年の9月にベテラン選手と若手選手の「世代闘争」をテーマにした5vs5シングルマッチがあったんですけど、若手が全勝しちゃうわけですよ。

ボクがホントにやりたいのは闘龍門やGAEAがなぜ面白いかを伝えること！



「プロレスのシステムの中から、格闘技のチャンピオンが生まれたことはプロレス最強神話の証明だった」と語る田中氏は、田村潔司vsヘンゾ・グレイシー戦の評価を高く評価している。

——あれはたしかに驚きましたよね。

（注・アジャ・コングや北斗晶やデビル雅美といったトップ選手が次々と若手に負けた）

田中 そこには、ちゃんとロジックもあり、Q15も上手いからマニアをも納得させられるんです。

——試合以外の部分でいかに盛り上げていくかという手法は、WWFの影響がかなり大きいですよね。

田中 いま言ったようなことはシュートの試合じゃないですけど勝負論に根ざしてる部分ですよね？ それはなきゃダメなんですよ。その上でWWFのようなマイク・パフォーマンスと複雑なアングルを上手く取り入れたところが勝利していますね。その両団体は、現実にお客さんも入ってますよね。そういうことを、ボクは何年も前から言っているんです！ 実際、事実そのようになって来ているしね。

——『プロレス・格闘技、縦横無尽。』で書いてますね。

田中 そう！ 95年にその本を書いた時に、「現在アメプロは大変なことになっており、近いうちに必ず日本を逆転する」とハッキリ書いているんです。その当時、日本のプロレスファンは「日本のプロレスこそが世界の中心で、あんな八百長丸出しのアメプロのどこが面白いんだ」って、みんな言ってたんだから！

——なるほど……あっ！ 分かりました！ 田中さんは〝アメリカのI編集長〟なんですよ（笑）。井上さんも何年も前から、「プロレス界はこうなるよ」と予言して、その通りになってますよね。

田中 そうですね。彼は予言者ですよ。

——どちらも、プロレスマスコミの中心にはいないんですけど、予言の通りに時代が動いていくという……やはり、I編集長の遺伝子が田中さんの中に流れてるんですね（笑）。

田中 じつは、ボクが〝喫茶店トーク〟の初代の聞き役だったんですよ。

——あっ、そうなんですか！

田中 井上さんは正社員だったフランク井上（譲二）さんやメヒコ坂井（圭也樹）としゃべらずに、バイトのボクとパッと抜け出して、喫茶店に行くのが楽しみだったわけですよ。ボクは井上さんとは違った視点で、学生プロレスの話とかをすると面白がるんですね。

——えっ？ 田中さんは学生プロレスをやってたんですか？

田中 ええ、同志社大学で、DWAという学プロ団体があったんですけど、そこで実況アナウンサー兼ブッカーをやってたんです。

——選手じゃないんですか？

田中 そうなんですよ、もともとプロレスを見始めたのも遅くて18歳からなんですね。77年のブッチャー&シークvsザ・ファンクスですよ。

——あの有名なテリーがブッチャーのフォーク攻撃で刺された試合ですね。あれは、18歳でもグッと惹かれるモノがあったんですか？

田中 ありましたねぇ（感慨深げに）。でも、ボクは、ブッチャーのフォーク攻撃を見て、「これはQ16芸術だ！」ということがまずわかったんですよ。

——まず、ですか？

田中 はい。次に、ヘッドロックの際に、Q17も、誰に教えてもらったわけでもないのに見破ったんです。それで、ボクは「これは凄いアドリブ芸術だ！」と思ったんですよ。なぜ、それが分かったかというと、その頃ボクはロックバンドのボーカルだったんですね。お客さんの大衆感情をコントロールするにはどうすべきかとか、

お客さんを手玉に取るにはどうすべきかとか、頭の中でそんなことばかり考えていた時期だったので、プロレスと出会った時に見破ってしまったという。

――なにかバンドとプロレスの共通点はありましたか？

田中 バンドでもドラマーと Q18 してたからね。それで分かったんですよ。

――はぁ～、なるほど！ で、話を戻しますと、『ファイト』でバイトとして働き始めたのは、大学卒業してからですか？

田中 いや、並行してやってましたね。最初、ボクに声をかけてくれたのはターザン山本でね。

――あっ、そうなんですか？

田中 なぜ誘われたかというと、「同志社プロレスというのをやってるだろ」と聞いてくるわけですよ。「キミ、英語もできるのか？」、「ハイ」って答えたら、「今日の晩、タイガー・ジェット・シンのインタビューするから通訳としてついてくるか？」とね。

――いきなりですか（笑）。いい加減ですねぇ！

田中 それがね、あの村松友視さんが『私、プロレスの味方です』で誉めているタイガー・ジェット・シン特集号の記事だったんですよ。

――あのシンが紳士的に普通に語っている記事ですよね。

田中 そうそう。それで気に入られて、「キミ、アメリカとか行く気ある？」って、「行きます」って答えたら、「行ってくれたら、これだけの金額をやる」って言われてね。ホントは映画評論家やロック評論家になりたかったけど、学生だとそんなにお金もらえないんですよ。それで、「プロレスっていいな」って思ってね。

――その当時の『ファイト』編集部は、I編集長を筆頭にかなり濃い人たちが勢揃いしていたんですね。

田中 そうですよ、井上さんに、フランク井上、メヒコ坂井、ターザン山本、そして東京からボクと同じバイト待遇で安西さんが来ていたんですよ。

――ゲッ！ 現・『格通』次長の方ですか？

田中 そう。それに、W☆ING茨城（清志）。だから、あの当時の『週刊ファイト』は Q19 動物園みたいで、ほんまにオールスター・ Q19 が揃っていたんですよ。

――それは、嫌ですね（笑）。どういう会話が飛び交っていたんですか？

田中 お互いのことをけなしまくって、罵倒の連続ですよ。

――アハハハハ！

田中 特に井上さんがああいう方だから、頻繁に怒るわけですよ。

――何を怒るわけですか？

田中 「お前ら、アホばっかりだ！北海道からニューヨークまで高いお金を払って行かせてるのに裏の裏が読めなくて、肝心なことが分かってない」というわけです。あの人が四畳半の大阪の部屋でテレビ中継を見ただけで、全部見抜くんですよ。だから、みんな「田中さんは現場に行って直接選手と話したわけでもないのに、何でいろんなことを書けるんだ」って言うけど、それは関係ない。控え室に行っただけで、何も分かっていないヤツはいっぱいいるんですよ。

――つくづく田中さんは“アメリカのI編集長”ですね（笑）。そういうことまで脈々と血が受け継がれているんですねぇ。

田中 正直言いまして、『ファイト』にかかわるようになって、ロックや映画よりプロレスの方が面白くなりましたよ。

――当時は新日本が一番面白い時期でもありましたしね。

田中 そうですね。面白かった時期と重なったし。彼らの元で育ったら人生を狂わされますよ（笑）。プロレスに限らず、社会のいろいろなことに対して異常でしたから（キッパリ）。

井上さんが正社員を怒ってるところにも何度か立ち会いましたけど。

――そこで人生を狂わされたっていうのは、非常に納得できますね（笑）。何か影響を受けた部分はありますか？

田中 フランク先輩には金髪女性を教わりましたね（笑）。あと、ボクは新間（寿）さんに気に入られたんですよ。新間さんの鞄持ちみたいなことをしている時期もあって、結構いろんなことを教えてもらいましたよ。

――新間さんとは、どういった繋がりだったんですか？

田中 それは、ボクが猪木や藤波が出場するWWWF（現・WWF）の取材でニューヨークに行ってましたから。当時は、まだ記者でもニューヨークまで行く人は少なかったから、結構かわいがられてね。新日が最高に面白い時期に、その Q20 のことを学びましたよ。

――それは、新間さんから直接教わったんですか？

田中 それは、ハッキリとは教えてくれないですよ。バイトとはいえ、ボクが業界にかかわっている以上はね。それでも、「キミはよくわかってるじゃん」とか言われてね。

――かぁ～、過激な仕掛け人のお墨付きですか！ 凄いじゃないですか！

田中 でもね、『ファイト』でバイトし始めて、何がびっくりしたってプロの記者でもプロレスの仕組みを知らない人がいっぱいいるんだよね。ターザンは特に知らなかったけど（笑）。

――ちなみに、田中さんはその頃『レスリング・ダイジェスト』というミニコミも作ってたんですよね？

田中 やってました。

――それは、 Q20 を批評するというモノではなかったんですか？

田中 ボクはその創刊号の創刊の言葉に、ハッキリと「プロレスは、究極のショウ・ビジネスであり、最強の格闘技である」と書いているんですよ。だから、ちゃんと分かっていますよということを、創刊号で宣言してるんです。最初は『DWA』発行の機関誌として創刊して、いろんな人が原稿を書く予定だったんですけど、実際に書いたのはボク一人なんですよ。つまり、どういうことかというと1人で7つのペンネームを使って観戦記を書くわけですよ。1人目は、マニアの視点で Q20 の批評とかもするわけです。他の3人は完全など素人の視点で見ていて、残りの3人はその中間のような視点で見ているんですよ。それで、いかにも部員が7人で観戦記を書いているよう

「現場に行って取材してるわけでもないのに」と言われるが、そんなことは関係ない！









（一番上）長与千種率いるGAEA JAPANは選手を一から育て上げて、独自のドラマとハイレベルな闘いが混在する空間を作り上げた。（二番目）「プロレスはエンターテインメント」と、いち早く宣言した冬木。現在、地盤固めで奮闘中だ。（三番目）GAEAと同じく選手を一から育て上げたウルティモ・ドラゴンはメキシコとWCWで学んだノウハウを伝承中。（一番下）格闘技方面に踏み出した篠社長。次は完全エンターテインメント・プロレスの確立に着手する。

にね。

——じつは、田中さんが全て書いていたわけですね。それは見事にワーク活字ですね（笑）。

田中 ホント、ワーク活字だったよ（笑）。でも、なぜそのようにしたかというと、オレ自身が「**Q21**」を守らなければいかん」と思っていたからね。

——もともと、そういう気持ちはあったんですね？ それを覆したのが、最初にうかがったWWFのエンターテインメント宣言だったんですか？

田中 いや。そこまでいったのは、『パンクラス』、『K—1』、『UFC』が登場した93年の〝シュート革命〟を目撃したからですよ。「プロのリング上でシュートをやるのならば、活字でもやらなければ！」と思いましたね。91年くらいから、徐々にそういう動きはありましたけど。

——91年というと、どういった時期ですか？

田中 ターザン山本のSWSバッシングなどを始めて活字プロレスが頂点を迎えた時期ですよ。女子プロも面白かったし、いろんな頂点が見られたわけです。そして、93年にいきなりシュートだけの興行を行うプロの団体が出来たでしょ。「あれ!? オレは、間違っていたかもしれない」と初めて思いましたね。

——そこで田中さんの中で何かが壊れたんですね。

田中 やっぱり89年の〝エンターテインメント宣言〟と93年の〝シュート革命〟はコインの表と裏ですよ。それならば書く方の立場も変わらなければいけないなと思いました。

——一方でプロレスファンの間では「人間そのもの」が見たいという意見も多いですね。そういった見方に対して、田中さんはどうお考えなのかなと思います。

田中 むしろボクはビジネスとして見たい！（キッパリ）。

——はっは〜。いや、じつはボクもWWFを見てからは、そう思うようになりました。あの手法は一般層にプロレスを広めるには最高ですよね？

田中 そうなんですよ。さっきも言いましたけど、シュート活字の一番の目的も底辺の拡大ですから。

——では、ビジネス的な観点を抜きにして、田中さんにとってのベストレスラーというのは誰ですか？

田中 それは、やはり世代的に猪木と言わざるえないんじゃないですか？ でも、シュート活字的な観点だと変わってきます。ビンス・マクマホンと石井館長の2人は梶原一騎、マス大山、新間寿、アントニオ猪木をも超えたと思うんです（キッパリ）。

——えーっ！ 超えちゃいましたか！

田中 ええ、これは間違いないです（キッパリ）。

【'00年12月19日、東京・品川プリンスホテルにて収録】

インタビュー後記■　「シュート活字」的にはマクマホンと石井館長は猪木を超えた！ その驚くべき理由とは？ この続きは次号に掲載するのでこう、ご期待！

というわけで、いかがだろうか？「シュート活字」という新しい活字プロレスは少しでもおわかりいただけただろうか？ ボクは今回のインタビューを通じて今までこの業界で田中氏が黙殺されてきたのも致し方ないと、心の底から痛感した。本誌も、このインタビューを完全な状態で掲載することは避けた。これだけ「アングル」という言葉が定着し、新日本プロレス最大のビッグマッチが「茶番」呼ばわりされる時代とはいえ、すべてをさらけ出すのは「時期尚早」と言わざるを得ない。

「目の前にあるものを壊して、まったく新しいものを創ればいい」という一編集長の〝裏原宿プロレス〟の論理も、と「シュート活字」は通じている。この田中正志氏の言っていることが〝真実〟かどうか、本誌は確信を持てないし裏も取れない。だが、「新しいものを創ろう」という意気込みには大いに賛同したい。

だが前半部分で触れたような、いわゆる「ヤオガチ判定」と呼ばれるものがインターネット上で氾濫している現状には何も言う気はないし、ハッキリ言って警鐘を鳴らすべきだと思う。

一方で、後半部分のように闘龍門とGAEAを「シュート活字」で分析する手法は、「エンターテインメント・プロレス」を語る際には有効であろう。実際、現在のスポーツ新聞や週刊誌（紙）ではメジャー団体の動向ばかりが取り上げられて、新しい手法に取り組んでいる団体は大きく取り上げられないのが現状だ。今後、「シュート活字」は通り一遍のプロレス・マスコミに大きな風穴を空ける可能性も秘めているのだ。

また団体側からも「シュート活字」的なアプローチはすでに始まっている。今年の春には、今号で掲載した篠泰樹社長プロデュースの『渋谷女子プロレス』が誕生する。「1％の真実と99％のファンタジー」を標榜している全く新しいプロレス団体だ。かわいい女の子が徹底的に管理＆演出された空間を創り出すのだという。

こうした新しい動きが生まれてくれば、既存の団体も新しいプロレスを創り出していくことだろう。競争が生まれれば、プロレス業界自体も盛り上がる。もう一度、プロレス界と活字プロレスを盛り上げるために、次号も〝シュート活字〟を追いかけます。

このページを片手にインタビューを読んでみよう!! 史上初 四択クイズの正解はこの中にある!!

Q1 ❶竹内力 ❷長州力 ❸神無月 ❹上州力

Q2 ❶演技させ ❷ジ●ブさせ ❸クソぶっかけ ❹ラリアットし

Q3 ❶流智美 ❷馳星周 ❸飯合肇 ❹幸田珍

Q4 ❶パンチョ伊東 ❷フミ斉藤 ❸サダハルンバ谷川 ❹ターザン山本

Q5 ❶スキャンダル ❷利益 ❸秘密 ❹隠語

Q6 ❶レシピ ❷レター ❸ブック ❹ラリアット

Q7 ❶TV中継 ❷招待券 ❸PPV ❹ダフ屋

Q8 ❶黒字 ❷赤字 ❸トントン ❹超満員

Q9 ❶P ❷S ❸U ❹V

Q10 ❶真剣勝負 ❷話し合い ❸プロモーターの意向 ❹闘い

Q11 ❶世界で最も危険な男 ❷鉄人 ❸ステロイドのチキン ❹神様

Q12 ❶『週プロ』 ❷『ゴング』 ❸『SRS・DX』 ❹『プロレス激本』

Q13 ❶ルチャ ❷プロレス ❸新しい ❹レスラーが作った

Q14 ❶新日本 ❷キング・オブ・スポーツ ❸新・ジャパンプロレス ❹ラリアット・プロレス

Q15 ❶バンプ ❷演技 ❸マイク ❹関節技

Q16 ❶●●●●●●●の●まっている ❷フォークで人を刺す ❸格闘 ❹血を流す

Q17 ❶●●で●くこと ❷相手の頬骨を極める ❸レフェリーのブラインドで殴る ❹ロープに振ること

Q18 ❶目と目で合図 ❷リズムで会話 ❸コーラス ❹ジャム

Q19 ❶上野 ❷多摩 ❸天王寺 ❹●●ガイ

Q20 ❶風車の理論 ❷ブック ❸アントニオ猪木の帝王学 ❹闘魂

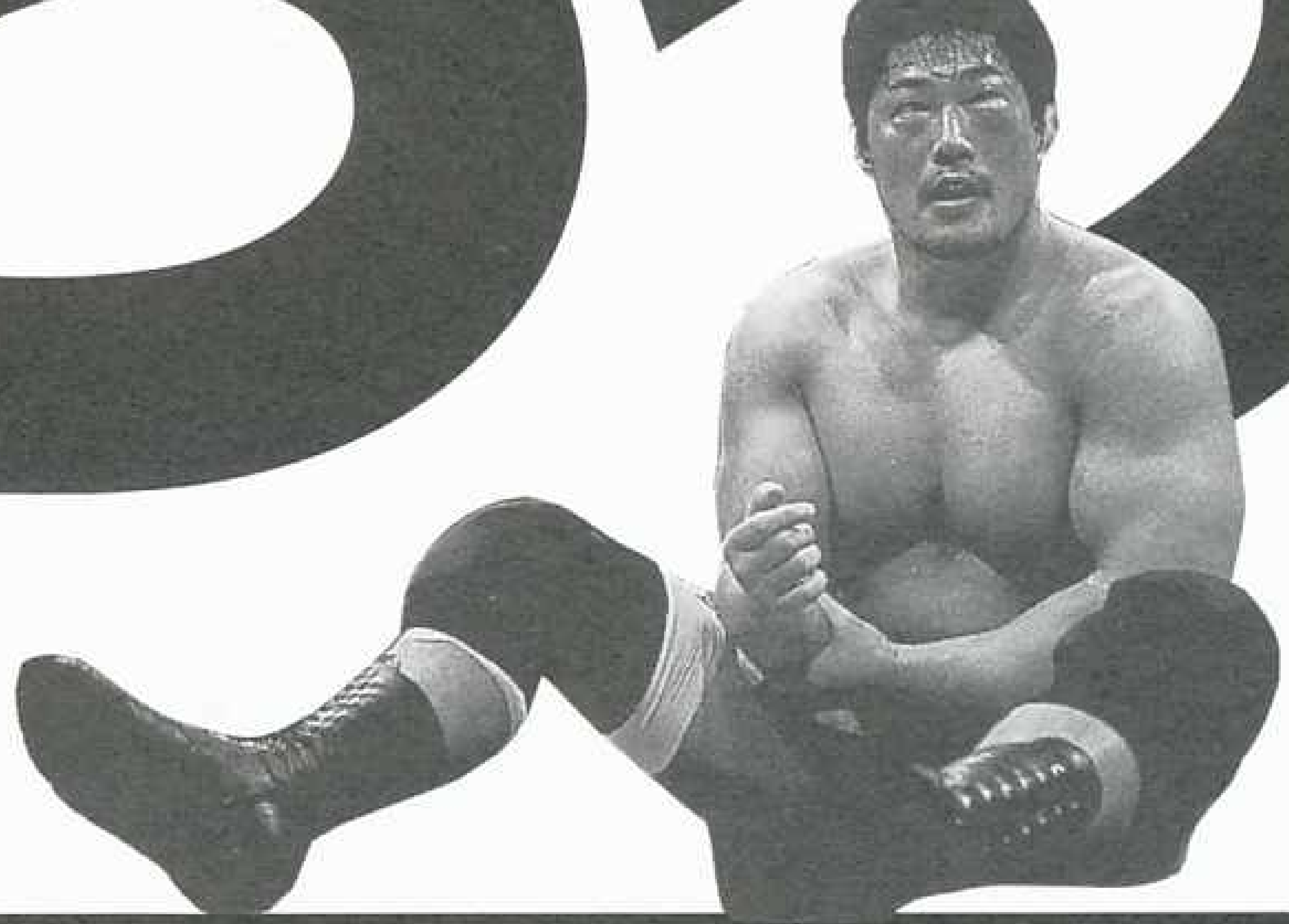
Q21 ❶プロレス ❷自分の命 ❸ケーフェイ ❹貞操

なお、正解は発表しません!! 問い合わせには一切応じませんのであしからずご了承ください

いまだノー（地上波）TVの純プロレス最後の秘境“プロレスリング・ノア”入門ガイド

語ろう

構成／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku



PRO-WRESTLING NOAH



橋本参戦で風雲急を告げるノアをまだ見たことのない人に捧げる座談会

旗揚げから約半年、本誌はずっとノアの動向を追いかけてきたが、「格闘とエンターテインメントの両端を見据えた壮大な実験」（by中田潤）団体・ノアの魅力はまだまだ伝えきってはいない。というわけで、今回は選手のインタビューではなく、取材対象としてノアを追いかけてきた中田潤氏と長谷川博一氏、さらに本誌スーパーバイザー・吉田豪をを交えながら、ノアの魅力を多角的に徹底解剖してみたぞ！

――今日は筋金入りのノア・ウォッチャーにお集まり頂いたんですが……。

吉田　筋金入りって……。最初に言っておくけど、オレはまだテレビでしか見たことないんですよ（笑）。

中田　え、会場で見てないの？

――でも、吉田さんはマスコミは逐一チェックしてるんで、そういう面で語って頂ければと思います。まず旗揚げから約半年経ちましたけど、結構「敷居が高すぎる」みたいな声が多いんですよね。まず、それをなんとかしたいなと思うんです。

吉田　ノアは新日ほど頻繁に視界に飛び込んで来ないしね。TVもないし。

――それと、ノアを見てないであろう人達から「全日本と変わってないんじゃないか！」って声がすごくあがってると思うんですよね。

吉田　でもさ、ボクがまず大きな疑問なのは「変わらないことの何がいけないのか？」っていうのはあるんですよ。

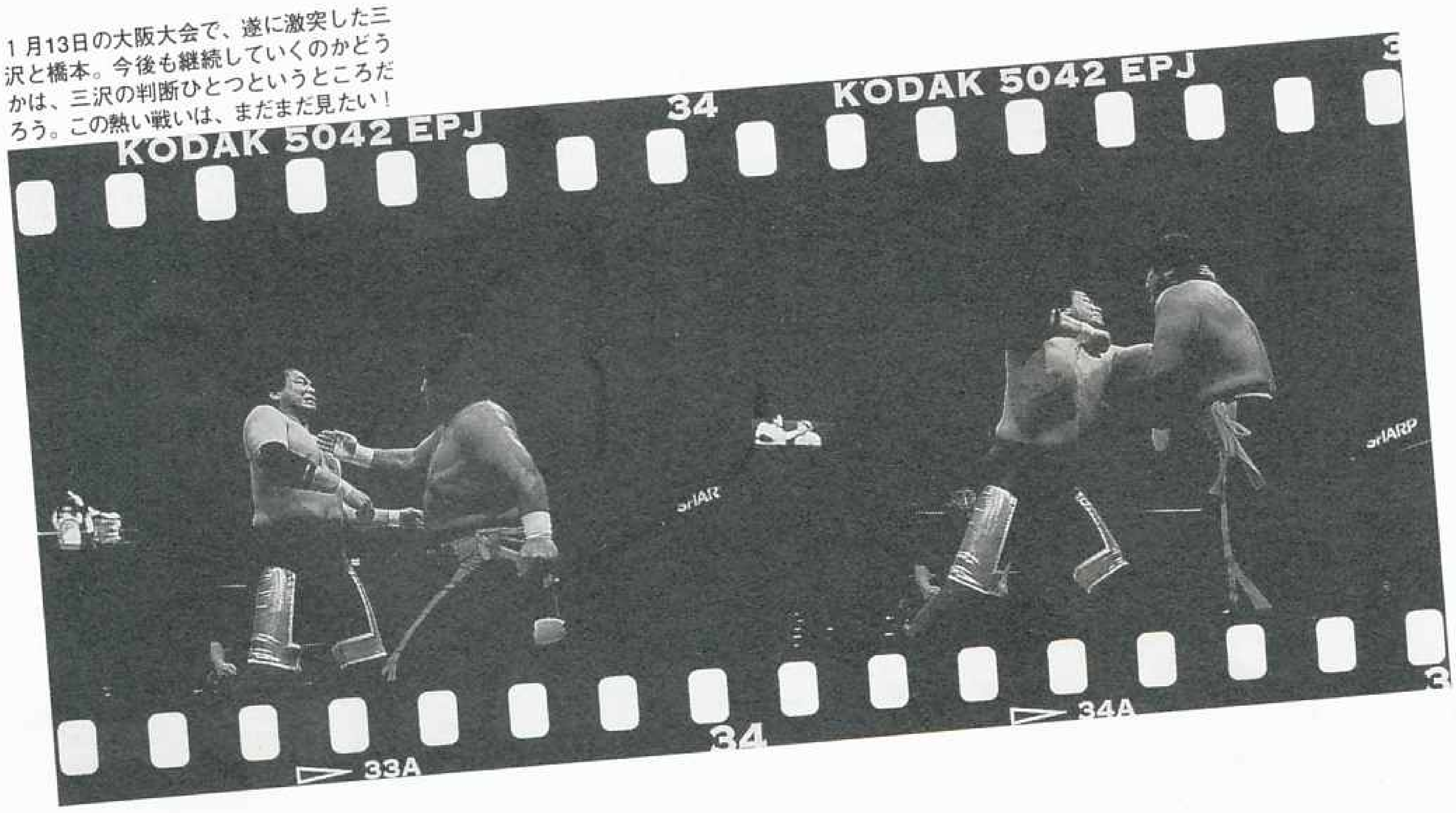
中田　結局、全日を出たのはオーナーと折り合いつかなかっただけだから。でも出たら、「変わらなきゃいけない」って義務感がでてきて（笑）。

長谷川　そうですね。三沢さんを含めて。彼が言ってたのは、「今風のプロレスを見せたい」って話ですから。そこが難しいよね。

中田　“今風”って言って墓穴を掘ってしまうところが悲しいというか（笑）。

――あれは大きな波紋を呼びましたよね（笑）。

長谷川　でも、三沢さん的に言えばノアを立ち上げるだけで精一杯だったとは思いますよ。試合スタイルをどうする、外交をどうするとかの前にね。社長業として会社を作ることが大切だから。ただ、三沢さんが馬場さんと違うことしてるとしたら、旗揚げ4ヶ月で橋本（真也）選手との外交に手を出したことでしょう。いまだに先々のことは保留にしながらも、とりあえず橋本って男を信じてるんじゃないかなって思うんですよ。それはもう馬場さんとまったく違うでしょ。



1月13日の大阪大会で、遂に激突した三沢と橋本。今後も継続していくのかどうかは、三沢の判断ひとつというところだろう。この熱い戦いは、まだまだ見たい！

中田　三沢さんが手を差し伸べて、橋本復活をサポートするというのは、非常に優しさを感じましたね。

長谷川　ホントに大英断だよね。もちろん、橋本一人を受け入れたってことじゃないだろうけどね。橋本選手が自分の団体を旗揚げして、そこに誰が来るかはわからないけど、そういうものも視野に入れてると思うし。

――でも、橋本選手が「2月の大会にオファーがあった」とかバラして大変なことになってますけどね（笑）。

長谷川　あんなにペラペラ喋り過ぎると、まとまる交渉もまとまらなくなるよ（笑）。

中田　でもさ、そもそもプロレスがなんで交渉の世界になったのかって疑問があるんだよね。小川（直也）選手は「橋本はなんで交渉してんだ？　三沢と闘うじゃないのか」って言ってたけど。小川選手の場合はいきなり駐車場に行って、「やらせろや、オラーッ！」って高校生の喧嘩みたいにいきなり殴りかかっちゃうでしょ（笑）。それは古いプロレスの一つのパターンかもしれないけどね。でも、三沢さんはそういう橋本選手のフライングを「仕事がしにくい」って言ったんですよね。仕事しにくいっていうのはトップレスラー同士がこれから闘うって時にどうなんだっていう問題はありますよ（笑）。

吉田　とにかくノアは猪木さん的なやり方を極端に嫌うわけですよね。ボクもインタビューのときに猪木Tシャツを着て行ったら怒られたし（笑）。

――三沢さんのやり方は馬場的ですよね。

中田　でもさ、まだプロレス界にも見ぬ強豪がいた頃はみんなウソつきでよかったんだよね。でも、そのうちハンセンがいい人になり、続々とみんないい人になっていった。なんか全日本プロレスがみんな信頼で結ばれてるみたいな世界になっちゃったんで、おかしな話になったんだなってボクは思いますけどね。でも、ボクは（スタン・）ハンセンと馬場さんが激突した試合が一番好きなんだよ。

吉田　ああっ！　あの試合はボクも好きですね。

中田　あの試合は「馬場さんが全存在を懸けて、何かと闘ってるな」っていうのがわかったからでしょう。

吉田　馬場さんが、新日の引き抜きや限

▶出席者紹介

ライター／中田潤

1959年、岡山県生まれ。ジャンボ鶴田信者として本誌26号で追悼原稿を掲載しているので要チェック！　雑誌『ブルータス』で鉄人ルー・テーズを招いて「プロレスは死なない」特集を組んで以来、プロレスの中にレスリングの動きを追い求める。最近はゴッチ・イズムを研究中。昨年発売された『三沢さん、なぜノアだったのか、わかりました――。』（BABジャパン）は全日の中に感じていた疑問をひとつひとつ紐解いていくノンフィクション。

ライター／長谷川博一

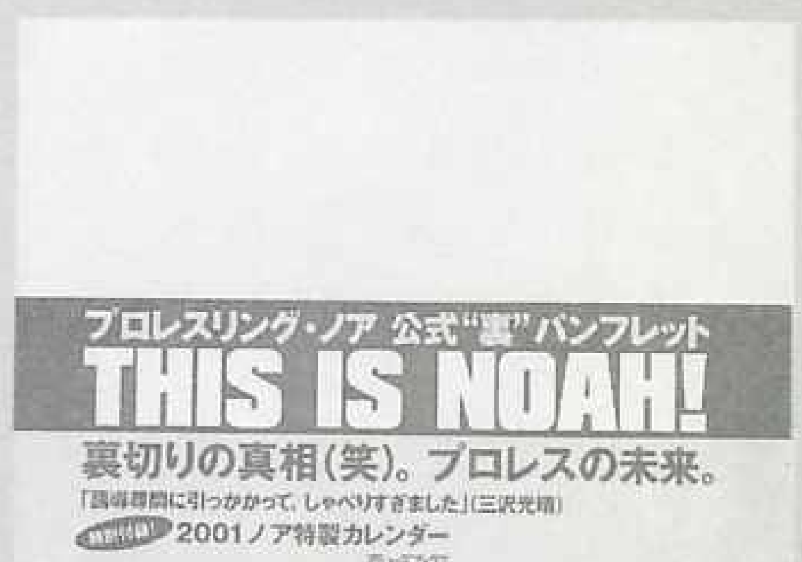
1961年北海道出身。音楽出版社勤務の後、フリーライターとして活動。音楽業界で活動していたが、全日選手へのインタビュー集『これがプロレス。―四天王は語る―』（主婦の友社）で当時、皆無だった馬場以外の全日の単行本を発表。『チャンピオン三沢光晴外伝』（主婦の友社）では三沢の知られざる素顔に迫った。昨年発売された『THISIS NOAH』（アミューズ・ブックス）では全日離脱からノア旗揚げまでの心境を主力選手たちが吐露したインタビュー集。

本誌スーパーバイザー／吉田豪

1970年東京生まれ。本誌『書評の星座』でおなじみの金髪鬼。本誌の中でも数少ない全日派だっただけでなく、昨年はTHIS IS NOAH』にもインタビュアーとして参加。雑誌連載を月25本抱える超多忙生活のため、いまだノア生観戦は実現せず。



ノアが格闘技とエンターテインメントの両端を見据えた団体であることをじっくりと読ませてくれる『三沢さん、なぜノアだったのか、わかりました――。』（BABジャパン）



なぜノアを旗揚げしなければいけなかったのかが、じつによくわかる主力選手やスタッフのインタビューが満載の『THIS IS NOAH』（アミューズ・ブックス）

界説に立ち向かったわけですよね。ハンセン移籍までの流れって非常にスキャンダラスだったし。いきなりハンセンが会場に乱入したりとか（笑）。

中田　しかも前哨戦なんかやらないで、すぐにシングル対決しちゃうんだから（笑）。後年に馬場さんが嫌うようなことを片っ端からやった結果、素晴らしいものが出来たわけでしょ！　だから、三沢さんも「なぜ、いま橋本と闘わなきゃいけないのか」をもっと上手く伝えなきゃいけないんだよね。だから今回の件は三沢さんの方が業界的におかしいんじゃないかと思うよ。まあ、橋本選手も相当おかしいけど（笑）。

長谷川　育った環境の違いもあるから、どっちもどっちという感じなんですけどね。

――でも、交渉の現場まで記者が押し掛けるっていうのは異例でしたよね。

中田　センスないよね。ああいうの追いかけてるから小川選手が怒っちゃうんだよ（笑）。ああいう部分まで写しちゃったら「舞台裏はこうですよ」って言ってるようなもんだからね。

――でも、橋本選手も凄いですよね。ノア参戦が決定した直後に、今度は猪木祭り出場と1・4の新日ドーム出場が決定したり。かなりフラフラしてるなって印象を受けるですけど。

長谷川　1・4で橋本vs長州の試合をすぐに組んだのはノア封じかなって感じはちょっとしますよね。

――猪木さんはけっこう三沢選手のことを警戒してるらしいですからね。12・23での橋本vs大森（隆男）の試合はいかがでした？

中田　最初にロックアップを拒否したところなんか橋本選手の意志を感じて良かったよね。

長谷川　やっぱりこれからの橋本選手は

純プロレスを否定するのが今の流行になってるけど秋山選手がいるからノアには乗れる（吉田）

「純プロレスやっちゃいかんだろう！」ってボクも思うんですよ。小川戦で「一瞬でもスキを見せたらやられちゃうんだ」っていう闘いを体で会得したんだったら、そういう試合を見せて「橋本と交わる試合はもう純プロレスじゃないんだ」ってやるべきですよね。

中田　そうそう。「ブーイングが本当に気分悪くて、ファンが一番嫌がりそうなことやっちゃえ！と思った」みたいなことを言ってましたよ（笑）。ノアでこうやって橋本選手がガンガン悪役になっていくのはOKだと思うんだよね（笑）。

――中田さんは先日、橋本選手にインタビューしたんですよね。何か言ってましたか？

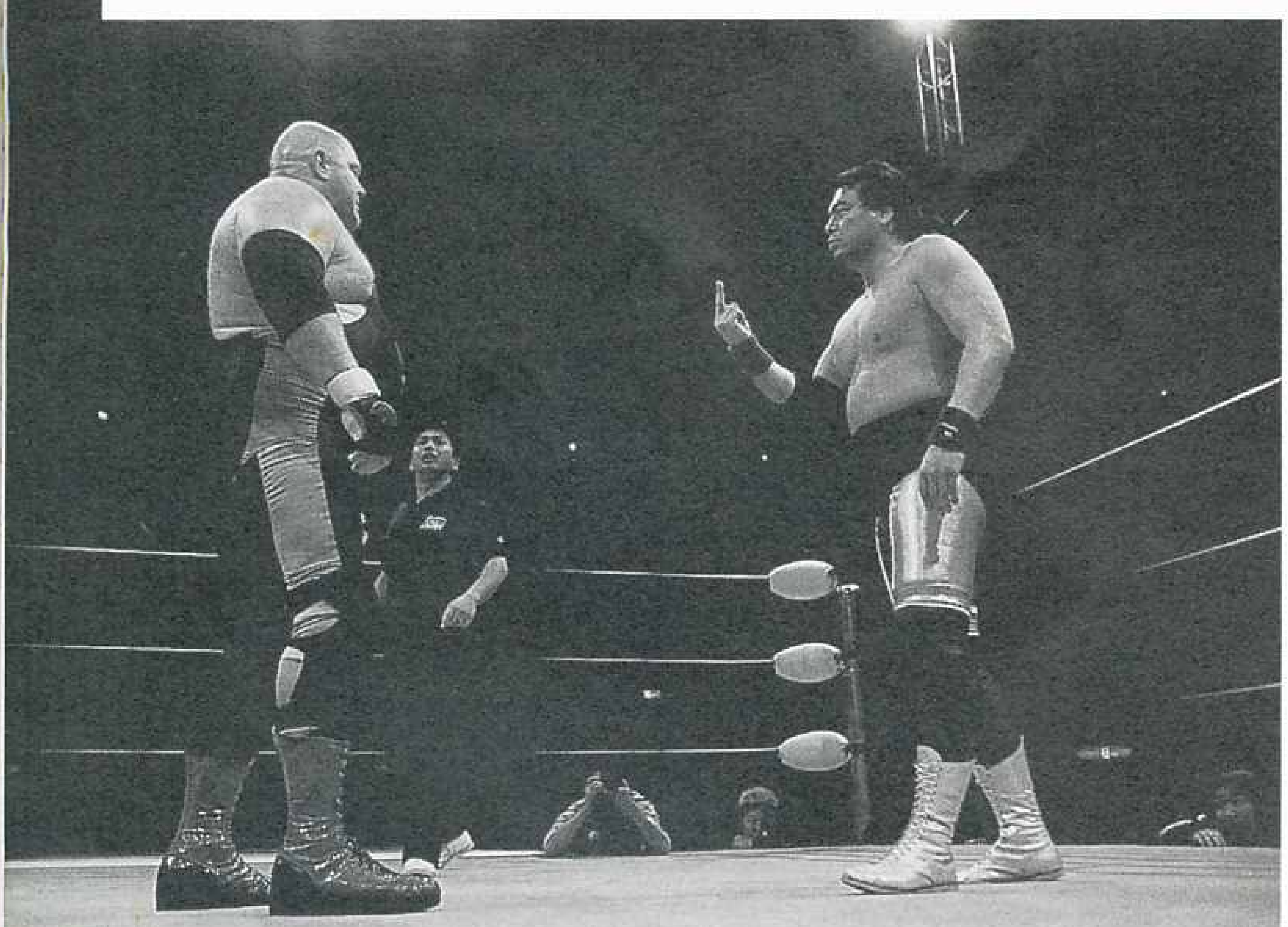
中田　面白かったですよ。「なんで三沢さんはあんなに猪木さんのこと嫌いなんだろう？」って聞いたら「会いにいきゃいいんだよ。オレが連れていってやるよ」って言ってましたから（笑）。

吉田　ダハハハハ！　「会えば好きになるよ」ってことですか（笑）。

中田　そうそう（笑）。三沢さんが猪木さんと会えばいいと思ってる（笑）。本当に素直すぎる考え方なんだよ。

――でも、なんか子供っぽい行動は一貫してますよね（笑）。

長谷川　交渉した途端に日程バラしてみたりね（笑）。だから、それを繰り返しやっていくと橋本選手はノアで超悪役になっちゃうんじゃないかなぁ？



中指を立ててベイダーを挑発！　橋本戦ではマイクアピールするなど、ここのところ三沢の試合以外の駆け引きに変化が生じつつある。

中田　ノアにとって、そのキャラクターはおいしいよ（笑）。やっぱり悪役がいないのは厳しいから。秋山選手がいくら悪役をやっても格好いいからね。

吉田　その点橋本選手には伸び伸びとブーイング出来ますからね（笑）。

中田　そうそう（笑）。ホントに猪木さんがノアに来るような状況まで作っちゃったりして（笑）。

吉田　「今日はみんなに内緒で猪木さんを連れて来たよ！」とかリング上で言い出したり（笑）。それを本人は善意でやってくれそうですからね（笑）。

長谷川　ノア的には一番嫌がることだろうけどね（笑）。橋本選手は猪木さん的な発言でノア勢をイライラさせる心理戦をやってるけど、ホントはあんまりシャレになんないだよね。

――ボクがインタビューしたとき、秋山選手は橋本選手にムチャクチャ怒ってましたけどね。

長谷川　ノア勢は試合のコメントでもつくって喋ってる人はいないから。

――ホントそうですよね。大森選手が、「この会社はすべてがズサンだ」とか言ってて、えげえつないなぁと思いましたよ。

長谷川　ノアの選手が喋ってるのはほぼ100%本音だよ（笑）。怒りが色濃く出てることは多いよね。

――吉田さんはマスコミを通じてノアを見てて、どんな印象ですか？

吉田　う～ん、プロレスマスコミの中でも、純プロレスを否定するのが今の流行になってるじゃないですか、「純プロレスは終わった」って感じで。でも、ボクは秋山選手がいるからノアには乗れるっていう部分はあるんですよね。

中田　乗れるね（頷きながら）。

長谷川　旗揚げ戦で総合系を視野に入れて2分間で失神させたり、すったもんだの乱闘モードを見事に仕切ってたり、最初の段階で「秋山は天才だな」って思ったよね。

吉田　旗揚げ戦を見た『ファイト』元編集長の井上（義啓）さんなんか「あれはプロレスじゃない！　プロ格である」って断言しちゃいましたからね（笑）。

長谷川　ノアが全日時代のプロレスを〝守る〟じゃなくて〝攻める〟側に回れるとしたら、キーマンは秋山でしょう。豪ちゃんは秋山選手のどこが面白いと思う？

吉田　秋山選手がいなかったら、本当にベタベタな純プロレスの完成型を見せる団体ってだけで終わっちゃうと思うんですよ。そこに秋山選手がいるだけでいい方に崩れていくような可能性があるから（笑）。秋山選手は格闘の幅もあるだろうし。

長谷川　「何か起こるんじゃないか？」っ

ノアの選手はプロとしての“芸”の部分が一番すごいと思うよ。強くないと嫌だけど（中田）

ていう期待があるよね。

中田　いや、明らかにノアは全日本時代より変わってるよ。だってフリー・スタイルレスリングをちゃんとやってるもん。

吉田　杉浦（貴）選手みたいな新人の存在が許されるわけですよね（笑）。

中田　そう、杉浦選手が出てきたのは大きいよ。今、新日なんて試合の中にフリースタイルレスリング（以下、フリースタイル）が皆無だからね。足に向かっていくタックルなんかないでしょ？

長谷川　中田さんがよく「アマレス重視」って訴えてるのは、プロレスの信憑性が失われたことに対する危惧なんですか？

中田　そうです。強けりゃいいんです。

長谷川　でもアマレスでは基本的にはタップが取れないでしょ？　タップ取る前のポジショニングまでは出来るかもしれないけど。

中田　でも『PRIDE』の藤田（和之）選手とかマーク・ケアーの闘い見てても、ゴッチイズムよりフリースタイルの方が有効なことは明らかになったなと。今のところの結論ですけどね。そこらへんのバーリ・トゥードを見てるとタックルが強い選手は強いですよ。だから三沢さんも強いとオレは思ってるんだけど。

吉田　そのアマレス重視の根っこには、やっぱりジャンボ鶴田最強幻想があるんですよね？

中田　あるある（笑）。ジャンボはかなり昔の試合から両足タックルやってるんだよ。グレコの選手なのにね（笑）。

――秋山さんもノアになってから言ってましたよね。「いざというときのためにタックルが出来なきゃダメだ」って。

吉田　全日でも、道場の練習に鶴田がいた頃はタックルの練習してたんですよね。

中田　あの頃の鶴田が一番強かったと思うんだけどなぁ。ブッチャーとかフリッツ・フォン・エリックにもタックルかましてた時期もあるんだから（笑）。客としては「そんなのやめろ」って感じなんだけどタックルにいくのがおかしくって（笑）。でも、それがなかったら、全日本からフリー・スタイルの技術はまったくなくなってるから。そう考えると鶴田がやったことは偉大ですよ。それが今、丸藤（正道）選手とかに受け継がれてるのはすごい大事だなと。丸藤選手みたいに飛ぶ時は飛ぶ、フリースタイルやる時はやるっていうのが一番素晴らしいと思うんだよね。

長谷川　そうそう、丸藤選手はオールラウンドだから、本当は今のうちにボクシング道場とか行った方がいいと思うんですよ。

――打撃までやった方がいいと？

長谷川　今のうちに打撃を覚えれば、初代タイガーマスクより凄い選手になる可能性がありますよ。

中田　そうだよね！　ああいう選手がキックボクシングの道場に行くとか、そういう動きが最近あまりないから。

吉田　とりあえず黒崎（健時）先生のところに預けてみたり（笑）。

中田　そうそう（笑）。秋山選手が若手に「自衛隊にアマレスの練習に行け」って言った話は私にとっては感動的な話でね。あれを聞いたときにオレの中でノアの方向性はOKなんだよなぁ。

――杉浦選手はデビュー戦でもすごかったですもんね。

長谷川　あれは秋山選手がね、「お前アマレスの技術を持ってるんだから、プロレス30アマレス70でもいいから。俵返しとか見せろ」って言ったんだって。あれはある意味で秋山選手の名采配ですよね。

――いい話ですよねぇ。でも、ノアは格闘方面だけじゃなく、プロフェッショナルな方面もレベルは高いですよね。

中田　もちろん。プロとしての〝芸〟の部分が一番すごいと思うよ。12月24日の大会はすごい面白かったんだよ！

――いわゆる「ファン感謝デー」みたいな感じで、「明るく、楽しい」試合が続いたんですよね。

長谷川　ボクは仕事で行けなかったんだけど、つまりFMWのような要素も取り込んだ試合ってこと？

中田　ある意味そう。でもFMWより肉体表現の技術は格段に高いから。

――〝（青柳）館長にカンチョー〟ってダジャレまで出てましたからね（笑）。

中田　あと山下達郎の『クリスマス　イブ』をみんなで合唱するビデオまで作ってるんだよ（笑）。

――あれはバカウケしてましたね。

中田　前日に『PRIDE』へ行って「つまんなかった」とか行ってたヤツをノアに連れてったんですよ。普段は『PRIDE』や修斗の方がおシャレだと思ってるヤツが「いやー、今日来て良かった」って言ってたよ（笑）。みんなノアに行って目覚めるんだよ、「プロレスってスゲーじゃん」って。それはプロレスが持つ〝芸〟の部分だよね。じつはプロレスの一番の価値はそこにあると思うんだよね。でも強くないとオレは嫌なんだけど。

吉田　その気持ちはすごくよくわかりますね！

長谷川　格闘技の素地を持って、達者な芸人になるべきだという順番があるってことですか？

中田　そうそう。だからNWAのチャンピオンって交代みたいになってんだよ。

長谷川　レスリング出身者とラフファイターが交互にチャンピオンになってるということですか？

中田　そうそう。それが交互に来てるっていうのがプロレスの豊かさだと思うんだよね。芸とリアルファイトの幅が90年代の全日本にはなかったから、ノアになってまた出てくればいいなと思うんだよね。簡単に言えば秋山が格闘技戦をやったり……Wマークス（マーク・コールマン&マーク・ケアー）とかノアに連れてくればいいんだよ！

――ダ、Wマークスですか（笑）。

中田　かつては全日本にああいうのが上ってたと思うんだよね。『猪木祭り』を見て思ったけど、ああいう人にとって総合とプロレスの違いなんてないんだよね。並はずれた力があって、どんな態勢でも投げちゃうからね。ある程度伝統ある競技の技術を持ってる人にとっては総合もプロレスも関係ないでしょ。言い切っちゃうと格闘系の人に「それは違うんだ。一から学び直せ」って言われるかもしれないんだけど。

吉田　アマレスとプロレスの差は本当に少ないっていうのはコールマンを見てるとよくわかりますよね。アマレスの技術はプロレス内で表現できるからその点、打撃系の人はプロレスへの対処が本当にヘタじゃないですか。

中田　そうそう。カレリンとか小川選手みたいに、あれぐらいの並はずれた力持ってると関係なくなるよね。

長谷川　ただ、三沢さんがあれを見たら「もっとプロレスの技術がないとダメだ」って言うと思うんだよね（笑）。

――三沢さんが言う〝プロレス〟ってすごくレベルが高いと思うんですよ。

中田　高すぎだよね（笑）。

長谷川　最近、ボクは秋山選手のインタビュー集を書いたばっかりなんですけど。秋山の話を聞いてると「三沢さんのプロレスは技術が中心にある」って言うんだよ。



やっぱり技術を持って、

かなきゃいけないってなったら、や

長谷川　その中でどっちかがズッコケるか

やっぱり技術を持って、完璧を求める人だから。三沢さんはいつも「オールラウンド」って言うでしょ？

中田　いつも言うよね。

吉田　それはつまり「プロレスが上手いか下手か」ってことなんですか？

長谷川　いや、どんなスタイルにでも対処出来るってことなんだろうね。自分から仕掛けて、自分の好きな闘い方で全て勝ってしまうというのは三沢さんの美学にはなくて、相手が刀を抜いてきたらそれに対処出来るっていうのが彼の美学なんだと思いますね。

中田　だから『ＰＲＩＤＥ』に出てもＯＫだ」と彼は言ってるわけだから。

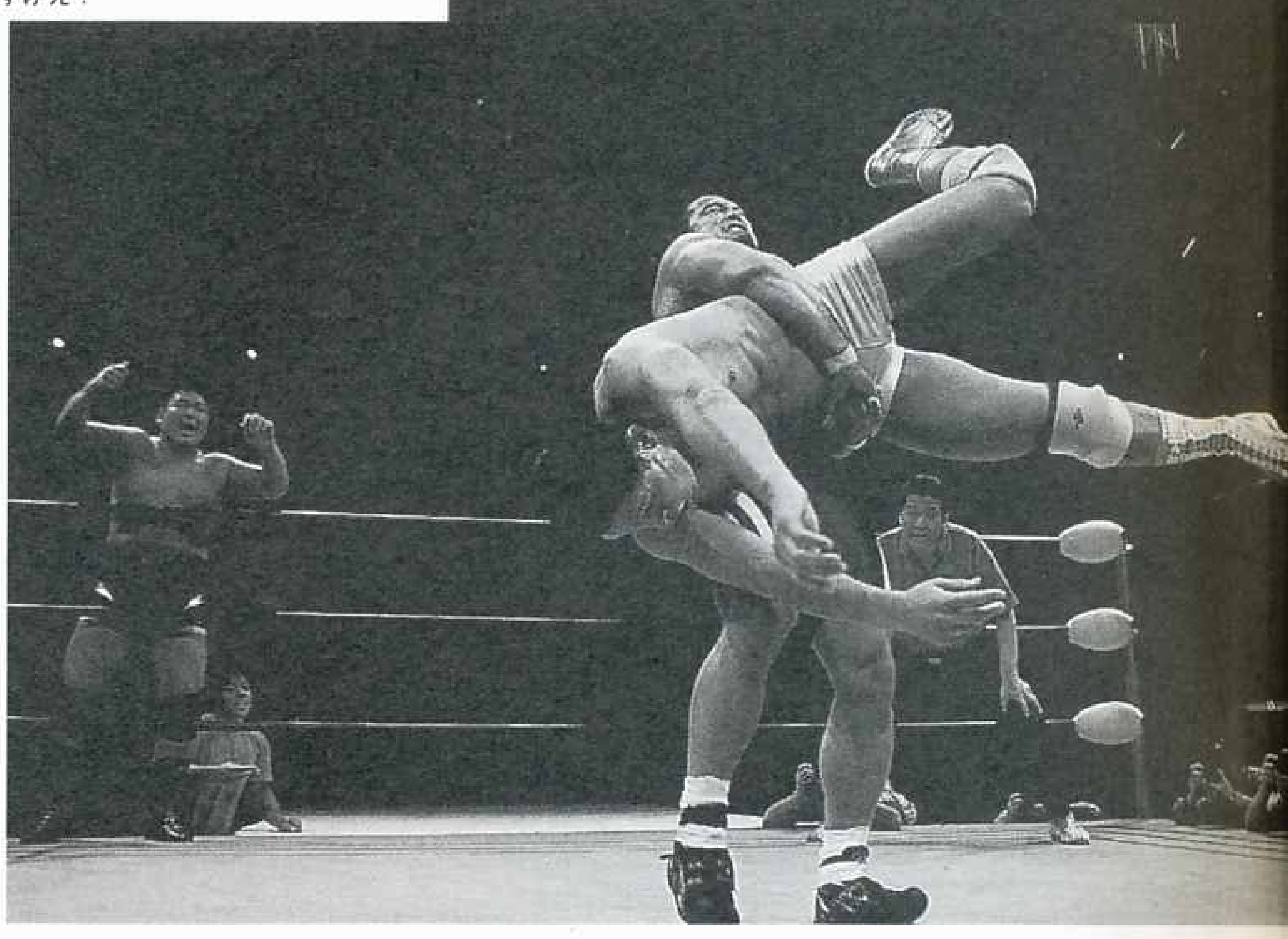
長谷川　やっぱり三沢さんに『ＰＲＩＤＥ』に出てほしいですか？

中田　出てほしいです。「三沢さん、オールラウンダーって言うんだったらば、一番手っ取り早いのは『ＰＲＩＤＥ』出ることなんじゃないんですか？」って聞いたことがあるの。そしたら「その言い方には一理ある」って言ってたから。

――一理ある（笑）。

中田　三沢さんのフィールドで、格闘技を一回解釈してしまって欲しいの。今あまりにもノアが総合系と交わらないから、わからないんだよね。なんとなくオレたちが「三沢さんは強い」って信じてるだけで。精神的に強いのは誰でもわかってることだから。ボクも三沢さんの大ファンで本作ったわけじゃないのに、付き合ってたらわかるんだよね。「この人は絶対退かないし、絶対強いな」と。「純プロレス守れ」とか「プロレス幻想」がどうのこうのって言うんじゃなくて、単純に見てみたいなぁ。秋山選手にも出てほしいんだけど。





中田氏の言葉を借りれば「格闘とエンターテインメントの両端を見据えた壮大な実験」団体、それがノア。アマレス・全日本王者がタフなデビュー戦を飾った翌日には体重180キロのベイダーが山下達郎を熱唱するのだ。すげえ！

長谷川　じゃあ、結局みなさんは今後、総合系の闘いにノアが踏み込むかどうかが一番の焦点になると？

吉田　だけどそれは『ＰＲＩＤＥ』に出れば一番わかりやすいってだけで、出なくても他のやり方でそういう電波が出ればいいと思いますよ。

中田　ノアの会場に行って、試合を見て、満足して帰るのは確実なんだけど。でも橋本選手が言ってるように「このままいったら、純プロレスは先細りする」っていうのは明らかで。それをどうするかって話になったら、オレは先細りでもいいかなと思うんだよね。三沢さんは多分、先細りでも「オレはこれやるんだ」って意地張って生きて「格好いい生涯だな」と思わせてくれると思うんだよね。でも業界盛り上げていかなきゃいけないってなったら、やっぱり格闘系との交わりは避けて通れないよね。

長谷川　ノアの今後って、どっちなんだろう？　今回ノアに登場した橋本選手の後ろに武藤（敬司）選手や大谷（晋二郎）郎選手や安田（忠夫）選手も含めた新日を離脱しそうな人たちとノア勢が絡めば、ようやく念願のオールスター戦が出来るわけでしょ？　これは「プロレスを守る」ってことにも繋がってくると思うんだけど。これって、いま話してる格闘技系とは正反対ですよね。両方やった方がいいのかな？

――願わくば両方見たいですけどね、その幅の広さがノアの魅力だと思うし。

中田　むしろ総合系とやった方がいいと思うんだよ。

吉田　でも、いまは新日が『ＰＲＩＤＥ』や格闘技を取り込もうとしてるから、逆にプロレスにいくんだろうなって気はするんですよ。

長谷川　ボクは今後、三沢さんが見せるシングルマッチが、これからのノアの可能性を見せてくれるスペシャルイベントになるんじゃないかって気がするんですよ。三沢さんは言論の前にシングルマッチで魅せてた人だから。三沢さんの重要なシングルマッチって考えると、対ノアとの選手ではなくなるだろうって予想はつくんだけどね。それが橋本選手なのか武藤選手なのか、わかんないけど。個人的にはボクは三沢光晴vs小川直也が見たいんですよ。

中田　あっ！　オレもそれは見たい。

吉田　マット界で一番のイデオロギー対決になりますよね。

中田　出来ると思うんだよね。

長谷川　その中でどっちかがズッコケるかもしれないとしたら、それを目撃したいって気持ちもあるしさ（笑）。

――アハハハハ！

長谷川　中田さんも言ってたし、ボクも重々承知してる三沢さんの気の強さが発揮されるでしょ。殴り合いだけになっても「この人、気絶しない限り誰よりも強いだろうな」って気がするのね。だから三沢の“キラー三沢”の部分が見届けられることが出来たら最高だなって。

中田　三沢さんは最近のタッグマッチで相手のバックに回って、金丸選手の頭を後ろからパチンってはたいたりするじゃないですか？　あれで小川選手の頭をはたいて欲しいよね（笑）。

吉田　ダハハハハ！　小馬鹿にするように（笑）。

中田　「小川選手にプロレスの技術がないことを明らかにしたい」って三沢さんは言ってるんですから。

吉田　プロレスの枠内で、いやらしいことをするってわけですね（笑）。

中田　三沢さんは小川に対して非常に頭にきてるからね。

――「あんなのはプロレスじゃない！」って感じなんですか？

中田　そう。だから、後ろ頭はたく瞬間をボクは一番見たいですね。

――アハハハ！

吉田　個人的には、今こそ川田（利明）選手との試合が見たいですね（笑）。複雑な感情がこもった試合が見たい。

長谷川　見たい？

吉田　メチャクチャ見たいですよ！

――「階段の上から川田を突き落とした」っていうエピソードがありましたけどね（笑）。

中田　三沢さんって怖いよね。橋本vs長

個人的には三沢光晴VS小川直也が見たい!!（長谷川）
秋山選手の格闘技術やWマークスをノアで見たい（中田）

州の試合より怖いよ。そもそも川田戦がキッカケで四天王プロレスが出来ちゃったわけだから。なんかで三沢さんが怒って、川田選手をガンガン後ろに投げちゃって。もう立ち上がれなくなるまでやっちゃったでしょ？　そしたら馬場さんが「高度過ぎて、オレには解説できない」って言っちゃったという（笑）。ちょっとセメントみたいな試合なんだよね。

吉田　なるほど、あくまでもプロレスの枠内なんだけど（笑）。

――他にもそういう試合ってありました？

中田　名勝負をやってるときの三沢さんは怖いんだよ。秋山戦でも何が腹立ったのかわかんないけどね、三角飛びの華麗なキックをやった後に、寝てる秋山にゴツッとヒジを思いきり落としたりするの（笑）。ああいう攻撃は怖いよね。

長谷川　普段会ってても、三沢さん怒ったら本当に怖い。

中田　だって殺されたっていいんだもん、あの人。ヤクザ衆10人に囲まれても、怯まなかったって実話があるぐらいの人ですからね。要するに命を棄てられる人なんですよね。

長谷川　猪木さんは相手を殺せる人なんだけど、三沢さんは正義のためなら殺される覚悟が出来てる。じゃ、どっちが好きだって言ったらボクは三沢さんの方が好きなんだけど。三沢さんは"狂い人"になれる人だと思うんだけど。それは川田戦と秋山戦で片鱗は見せていたけど。最初からそのモードで顔面やられるんだってわかった上でリングにあがる三沢さんの試合を見れるのはボクにとってはごちそうだよね。

――ごちそう（笑）。

中田　ボクも、三沢さんが全存在を懸けて試合に臨む姿が見たいなぁ。

――誰だったらそういう試合になるんですかね？

長谷川　小川直也でしょ、やっぱり。

吉田　いやいや。川田選手ですよ、絶対（笑）。

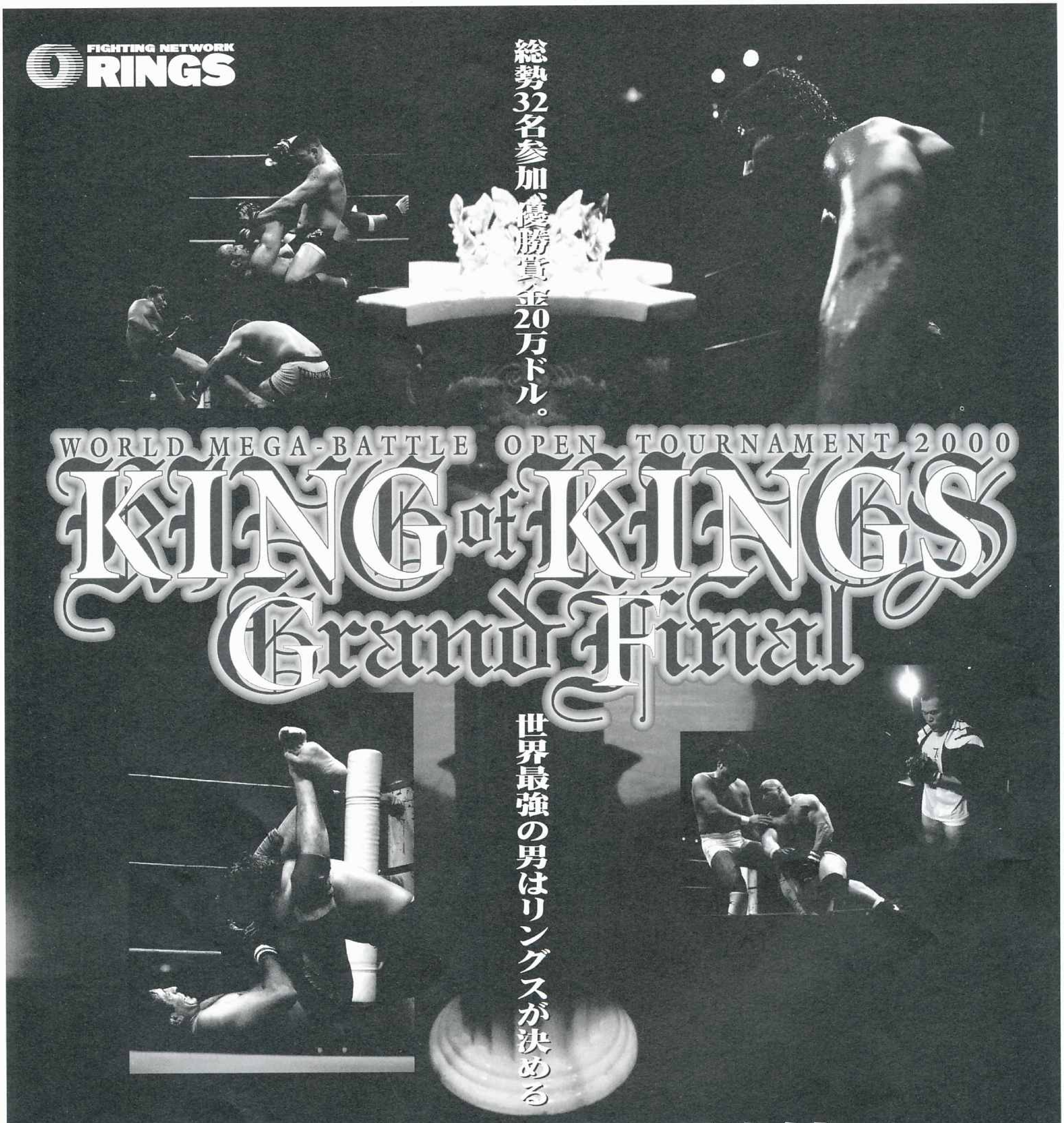
【01年1月12日、東京・新宿『談話室滝沢』にて収録】



プロレスリング・ノア 2～3月大会スケジュール

2月10日(土)	神奈川	小田原アリーナ（17:00～）
2月11日(日)	東京	ディファ有明（15:00～）
2月12日(月・祝)	茨城	水戸市民体育館（15:00～）
2月14日(水)	埼玉	秩父市民体育館（18:30～）
2月16日(金)	宮城	気仙沼市総合体育館（18:30～）
2月17日(土)	宮城	石巻市総合体育館（18:00～）
2月18日(日)	福島	福島市国体記念体育館（15:00～）
2月20日(火)	東京	後楽園ホール（18:30～）
2月22日(木)	千葉	成田市体育館（18:30～）
2月24日(土)	愛知	豊橋市総合体育館（18:00～）
2月25日(日)	兵庫	神戸ワールド記念ホール（15:00～）
3月 3日(土)	東京	ディファ有明（18:00～）

■お問い合わせ■プロレスリング・ノア
TEL.03-3527-5311


FIGHTING NETWORK RINGS
総勢32名参加、優勝賞金20万ドル。
WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT 2000
KING of KINGS
Grand Final
世界最強の男はリングスが決める

紙のプロレスRADICAL Back Number Information

サク表紙の「紙プロ」バックナンバーが大絶賛バカ売れ中！

在庫残り僅か！

No.18

★ブレイク寸前！ サク『PRIDE.5』で完勝記念号！

No.22

★サク、グレイシー越え第一弾！ ホイラーに完勝この上なし！ 記念号！

No.26

★世紀の大一番ホイス戦直前！ やっちゃてくれサク！ 特大号

No.27

★サクラバマスク、ホイスを撃破！ 20世紀のベストバウト記念号

紙のプロレスRADICAL
NO.1～NO.4／NO.6／NO.8
完売しました。


No.5★徹底検証！ 高田延彦×ヒクソン戦直前大特集号
ドン荒川&藤原組長／前田日明／柳澤龍志／ディック東郷／サスケ／佐山聡


No.7★田村潔司、『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
木村健悟／サスケ／前田日明／冨宅飛駈／垣原賢人／モハメドヨネ／冬木弘道


No.9★アントニオ猪木・闘魂連鎖！ 無礼講大特集!!号！
前田日明／高田文夫／春一番／石川雄規！／ TKロングインタビュー／谷津嘉章


No.10★前田日明vsエンセン井上スクープ対談実現記念号！
高田延彦／谷津嘉章／サスケVS松永高司／北沢幹之／冬木弘道／T・山本


No.11★衝撃対談第二弾！ 高田延彦vsエンセン井上
前田日明／佐山聡／福田雅一／ザ・グレート・カブキ／アポロ菅原／石川雄規


No.12★高田延彦、2度目のヒクソン戦直前特集号！
浅草キッド／アポロ菅原／サク／アレク／前田日明／菊田早苗／八木淳子


No.13★アレクサンダー大塚、『PRIDE.4』で大ブレイク記念号
高田延彦 ／前田日明／谷津嘉章／浅草キッド／ケンドー・ナガサキ／松永光弘


No.14★世紀の大一番！ 前田日明×カレリン戦大決定記念号
山本美憂・聖子／金原弘光／高田延彦／サク／村上一成／宇野薫／小路晃


No.15★小川直也、橋本を破壊！ 1・4ドーム大激震号
前田日明／カレリン／馬場さん追悼特集／語ろうマサ・サイトー／佐野なおき


No.16★猪木！ 前田！ エンセン！ ロングインタビュー連発号
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／コールマン／語ろうジャンボ鶴田


No.17★UFO襲撃三昧！ オーちゃん大特集号！
桜庭和志／高田延彦／アントン／前田日明／山本宜久／成瀬昌由／T・山本


No.19★ケアー戦直前！ いま一度高田延彦に大注目号！
小川直也／前田日明／ドン荒川／エンセン井上／上田馬之助／「世界のプロレス」


No.20★小川直也特集！ 人間UFO咆哮三昧号
前田日明／アレク／高田延彦／語ろう藤波辰爾／小路晃&宇野薫／内藤恒仁


No.21★小川直也、橋本を返り討ち！ 恐怖のプロレス大魔王降臨号
大仁田厚／前田日明／鶴見五郎／桜庭和志／CIMA／田中健一／平直行


No.23★1・4新日&『PRIDE』GP2大ドーム特集号
高田延彦／大仁田VSエンセン／前田日明／ヒクソン・グレイシー／ヘンゾ


No.24★頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE』GP特集号
桜庭和志／田村潔司／堀辺正史／サスケ×矢追純一UFO対談／守山竜介


No.25★格闘ロマン続行ーッ!! 藤田和之『紙プロ』初登場記念号
田村潔司／前田日明／小川直也／村上一成／石川雄規&小路晃／ミスター高橋


No.28★オーちゃん、ヒクソン襲撃準備完了記念号
前田日明／田村潔司／鶴田夫人／ヘンゾ・グレイシー／TKおかん／堀辺正史


No.29★「格闘環境」は激化する！ ノア勢『紙プロ』にフル登場！
秋山準／三沢光晴／丸藤正道&金丸義信／桜庭和志／仲野信市／里村明衣子


No.30★『PRIDE.10』直前！ 燃えよ！ 闘魂の火種!!
村上一成／小川直也／石沢常光／「長州vs大仁田戦」をブッタ斬り／高阪剛


No.31★歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
小川直也／サク&TK／永源遥／ユセフ・トルコ／川田語録／田村潔司


No.32★リングスvs新日！ 10・9新プロレスvs純プロレス開戦！
小川直也／高田延彦／サク／前田日明／金原弘光／藤波語録／ラッシャー木村


No.33★リングス、『PRIDE』、猪木祭り、世紀末イベント大検証号
小川直也／橋本真也／谷津嘉章／ミスター・ヒト／山本宜久／前田日明

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、〒151－0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス『バックナンバー通販』係まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130-3-769154（株）ダブルクロスまで。代金はNO.5～NO.10=680円　NO.11～NO.19=780円　NO.20=880円　NO.21=840円　NO.22～NO.23=880円　NO.24～NO.32=840円　NO.33=880円　送料1冊=310円　2冊=340円　3冊～4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円　※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。
●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンビガロ・ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）

個人輸入代行

信頼の商品で確かな効果を！

年中無休 午前9時より受付中

表示価格は全て税・送料込み

育毛コーナー

抜け毛・薄毛など、髪の毛の事でお悩みの方に朗報！抜け毛を予防し、健康な髪を育てると人気の育毛促進薬がラインナップしました！




ニゾーラルシャンプー

フケ、かゆみ、抜け毛を防ぐ薬用シャンプー。プロペシアと良く似たアンチアンドロゲンが主成分でハゲの原因となる男性ホルモンDHTと闘います。

100ml **5,000円**

ロゲイン 2%・5%

有効率84%という臨床実験の結果も発表され世界80カ国で旋風を呼んでいる究極の育毛剤。有効成分ミノキシジルが効果を発揮します。

3ヵ月分 **13,000円**
6本 **25,000円**
9本 **36,000円**

プロスタガード

プロペシアは使いたいが少しでも副作用の恐れがあるものは使いたくないという方は、プロペシアの代わりに天然成分のプロスタガードをお試し下さい。プロスタガードは椰子の一種のソーパルメット（ノコギリパルメット）の抽出成分500mgと亜鉛15mg、ビタミンB6 15mgを含んだ錠剤です。いずれの成分もプロペシアが減少させようとしている男性ホルモンDHTを減少させブロックするのに役立つことが確かめられています。

1ヵ月分 **6,000円**

ザンドロックス

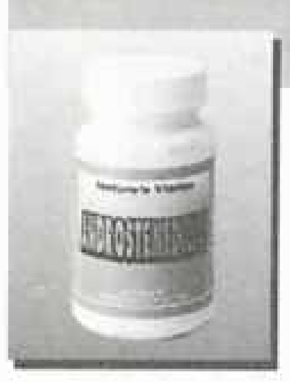
ミノキシジル12.5%配合の超強力育毛剤。ザンドロックスは、従来のロゲインに含まれているミノキシジルが12.5%含まれています。ザンドロックスは、ロゲイン5%では効果が出にくかった額の生え際、こめかみ等に使用します。

4ヵ月分 **33,000円**

Nz プロペシア

アメリカのプロペシアと成分は同じです。プロペシアを使った様々な医療実験の結果では、服用開始後1年以内で約50%の男性に、2年以内では約66%の男性に髪の毛が生え、また毛髪の喪失が止まる男性は86%に上っています。

1箱/28錠 **10,000円**
2箱 **19,000円**
3箱 **27,000円**



アンドロステジオン　筋肉増強剤

かの有名なマグワイヤーも使用している。パワーを引き出す効果がありトレーニングを兼用すると筋肉が付きやすくなる。

100錠（3ヵ月分） **13,000円**　2箱 **24,000円**　3箱 **34,000円**



ゼナドリン　ダイエット薬

副作用も殆ど無く体重や体脂肪率を減少させます。有効成分が脂肪を燃焼し又、食欲を抑制します。

120カプセル（1ヵ月分） **10,000円**　2箱 **19,000円**　3箱 **27,000円**



ニコパッチ　禁煙プログラム

ニコレットパッチを貼り付けている間は、スムーズに一定量のニコチンが16ないし24時間にわたって吸収されます。その為、ニコチン嗜好性を減少させる効果があります。

12週間分 **35,000円**



ジンク

亜鉛は、遺伝子（DNA）の合成に最も重要なミネラルで、細胞分裂を促し老化を防ぐ役割を担っています。またたんぱく質の合成を促し、酵素の活性化（活性酸素化）、食欲増進、傷口の回復、味覚、嗅覚の保全を守っています。

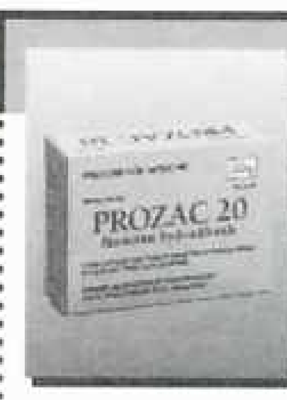
100錠（約3ヵ月分） **6,000円**



ゼニカル　ダイエット薬

ロシュ社によって開発されたゼニカルは体脂肪を減らすダイエット医薬品です。分解された脂肪が腸において体内に吸収される事を抑制し、分解前のまま体外へ排出させる働きがあります。

84食分 **24,000円**　2箱 **45,000円**



プロザック　抗うつ薬

「SSRI」（選択的セロトニン再取り込み阻害薬）と呼ばれる種類の薬。米国で発売された「プロザック」はその代表で、「飲めば元気になれる」と爆発的人気を呼んだ。

30錠 **10,000円**　2箱 **18,000円**　3箱 **25,000円**



メラトニン

メラトニンは松果体から分泌されるホルモンで、睡眠・覚醒サイクルを調整しています。メラトニンは睡眠薬のような中毒や副作用の危険のない商品です。

100錠 **4,500円**



デキサパッド　ダイエット薬

貼るタイプの画期的なダイエット商品。今、アメリカで大ヒット中。男女兼用。あの有名なダイエット薬デキサトリムのパッチ版。

1ヵ月分 **10,000円**　2箱 **19,000円**　3箱 **28,000円**



ゾロフト　抗うつ薬

ゾロフトはプロザックと同様にSSRI（選択的セロトニン再吸収抑止剤）の一種でプロザックより副作用が少なく悩みや不安、不眠などで落ち込んでいる方にも愛用されています。

100mg/1箱 **13,000円**　2箱 **24,000円**

「個人輸入」について

当社の責任は商品がお客様に届くまでの責任とします。ご使用の際何らかの不具合が生じましても当社では一切責任を負いません。商品等はよくお調べの上、お客様の責任でご使用下さい。商品を輸入されるのはあくまでもお客様で当社はその代行をするものです。

お申込みは現金書留、銀行振込、お電話、FAX、ハガキ、Eメールでどうぞ！

TEL.06-6390-2330　FAX.06-6306-4056

コスモライフ

Eメール：inoki14@f8.dion.ne.jp

〒532-0011 大阪市淀川区西中島3-14-20 ノースキング新大阪5F

銀行口座　富士銀行 梅田支店 普通2310958 コスモライフ

ハガキ・FAXでのお申込みは右記必要事項をご記入下さい。

50 〒532-0001
大阪市淀川区西中島
3-14-20
ノースキング新大阪5F
コスモライフ
紙のプロレス係

①商品名
②個数、金額
③〒住所
④氏名㊞
⑤年齢
⑥電話番号
⑦職業
⑧18才未満 保護者名㊞

※商品は申込み受付後、約7～14日で現地よりお届けしたします。※代引きの場合は1,000円の手数料がかかります。

ザ・検証 プロレス点と線

前号で掲載した斉藤彰俊選手のインタビューの最後のページ欄外に「彰俊の維震魂と死神と8ボールの話は次のページのせき詩郎氏のコラムを読め!」という記述があったのを覚えてらっしゃるだろうか? そして、その次のページが何の説明もなく広告のページになっていたことも。結局、あの記事はパスポートの期限切れで不参加となったのだが、今号には間に合いました。今回の『ザ・検証』は特別3本立てでお届けします!（編集部）

ザ・検証

【今月の検証】維震軍ファンはどれくらいいるのか? ~原口あきまさ編~

by せき詩郎

明石家さんまのモノマネでお馴染みのタレント原口あきまさ氏。その原口氏のレパートリーの中になんと『越中詩郎』があるという情報が私の元に舞い込んだ。越中のモノマネをするタレントなどいままで聞いたことがない。私は興味をおぼえた。もしかしたら原口氏は越中ファン、そして維震軍ファンではないかと色めきたった。

最近私は考えていた。21世紀になった今、維震軍ファンはどれくらいいるのだろうかと。もっと他に考えるべきことは山ほどあるのだが（どういう嘘をついてバイトを休もうかとか、中谷美紀は良いと思う時とやっぱり違うと思う時があるなぁ、とか）、私の生活は常に維震中心にまわっている。先生を間違って「おかあさん」と呼んでしまったという失敗談は良く聞くが、昨日も裁判中、裁判官のことを間違えて「越中!」と呼んでしまったほどだ。これじゃあ実刑間違いなし、と思ったが、どうやら裁判官も維震ファンだったらしく、その後意気投合! 晴れて無罪に……なんてことが実際に起きるかどうかは、やはり世の中にどのくらいの割合で維震ファンがいるのかにかかっている。

よし、こうなったら乗りかかった船だ（無理矢理しかも無銭で）。維震ファンがどれくらい現存してるのか調べようではないか。まずはやはり越中のモノマネをする男、原口氏に会ってみよう。

★

――早速ですが、越中選手についてですが……。

原口「昔はドラゴン・ボンバーズでやっていましたよね」

――やっていました。

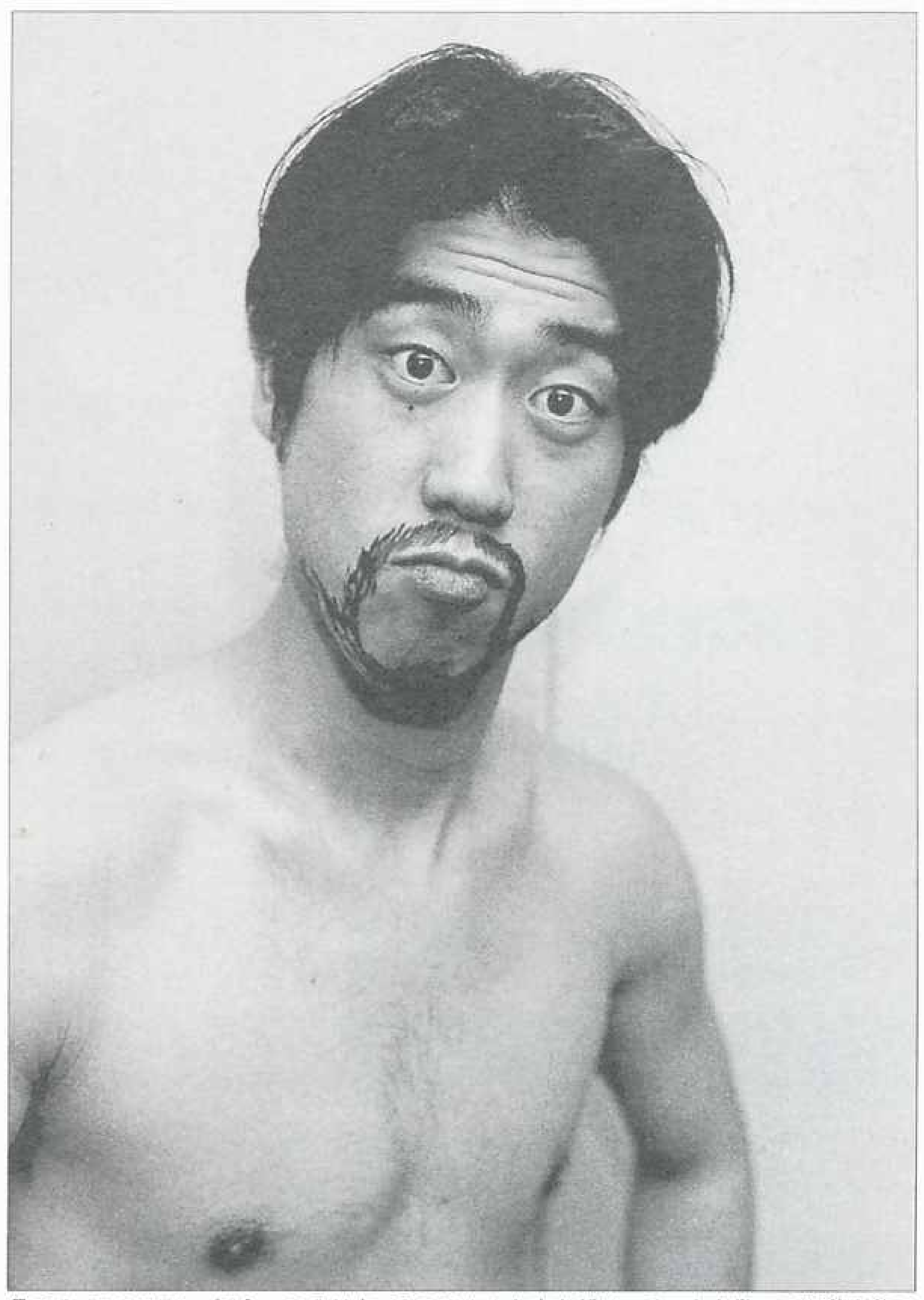
原口「昔は、凄く人気があったんですけどね」

――高田選手とやっていた頃ですか?

原口「もう少し前です。維震軍ができたての頃」

微妙なずれ。高田とやってたのは維震以前のはず。ジュニアの時代の





見てみ、このツラ! 気合いの入り方、目のひんムキ方などはハチマキを巻いて胴着を着てた頃のパンフレットから飛び出してきたかのようだ。

話だ。それともUインターとの対抗戦のことを言ってるのであろうか。あるいは維新軍を維震軍と聞き間違えたのだろうか。きっと記憶違いであろう。誰にだってある間違いだ。とにかく、そんな細かいことより越中だ。

原口「越中は、変えようとしている努力は分かるんですが、それがあまり上手い具合にいってないなと。蝶野に結局持って行かれていますからね。よく見ると、健介と組まされたりして利用されているんですよ。どんどん地味な扱いになって。そこにまだ自分で気付いていないんですよ」

言葉が適切だとは思わないが、少なからず〝利用〟はされているかもしれない。維震解散後の越中を支持しない人は確かに多い。しかし、気づいてないとかそういうことではないと思うが……。

原口「越中はわかりやすいんですよ。技行く前に、あっ、これ返されるなとか。越中のパワーボムって、あんなの返さないのおかしいですよ。こうやって、片手で押さえるわけでしょ？　もう少し技の組み立てを考えた方がいいですよね。ヒップアタックも捕まれるのわかるだろうというのはありますよね。そんな効かないですからね。でも、ヒップアタックなんですよね。他にねーのかなー」

技を返せないのがおかしいとか、技が効いていないとか、実に大人な意見である。「プロレスの技なんて効かない。だいたいプロレスっていうのは……」と頼んでもいないのに教えてくれる親戚のおじさんのようだ。おじさんだけに大人である。そういう意味の大人と同義の〝大人の意見〟だ。などと思いながらも、まあ人それぞれであるし、確かに越中はわかりやすいかもしれない。そう無理矢理納得しつつも、ある結論が導かれる。原口氏は越中ファンではない、と。いきなりこの企画は終了なのか!?

でも待てよ。もしかしたら越中はそんなに好きではないけど、他の維震メンバーのことは好きかもしれない。いや、きっとそうだ。そうに決まってる。健悟はどうだろう。

原口「木村健吾は、そうですね、必殺技が稲妻レッグラリアートという地味な技で。あれはあまり痛くなさそうでね。藤波とよくタッグを組んでいた頃、〝藤波、タッチするな〟って思っていましたよ。藤波1人でやった方が強いんじゃないかと思っていましたから」

稲妻は痛くない！　なるほど、見た目はそうであろう。実に純粋な意見だ。「ねえねえ、あれ痛いの？」とか「なんで相手がトップロープに登ってる間に逃げないの？」とかいちち訊いてくる女のように純粋だ。きっと原口氏は痛みが伝わってくるプロレスが好きなのであろう。

では彰俊はどうであろう。あの蹴りは効く、効かない的な視点でみると効くと解釈されるのではないだろうか？

激似

ヒップアタック ショートレンジ 連続分析写真


おなじみのショートレンジ・ヒップ・アタック。ガッツポーズの手の角度はさすが。


ケツをバンバンと叩いて、さらに気合いを増幅。口の尖り方も本物と遜色ないかも。


越中ムーブの特徴はタメにあり。そして、気合いは顔に現れる。


この技を初めて食らったが屈辱感はかなり大。しかも尻って固い！

原口「彰俊ね。どこ行ったんでしたっけ？　彰俊も好きでしたよ。蹴り一本で。でも、投げられると弱いから」

投げられると弱い！　空手家＝投げられると弱い。一般的には妥当な意見だと思うのだが、なぜか釈然としない。なぜだろう。私が維震軍に対して盲目的過ぎるからだろうか。

原口「小原とかもふざけてるなと思いますよ。でも、本当は温和なんですよね。後藤さんも相当いい人らしいですよ。やはり後藤や小原はヒールという感じがしますよね。小原は、まだあれですけど」

ヒールの人だけど実は良い人、というギャップを楽しむ人は多いであろう。リングでは凶暴なのに、リングを降りると紳士的。確かに面白い。デーモン木暮が悪魔で話し方もああだけど、楽屋では違う、テレビ局の廊下で会うと礼儀正しく挨拶する、そんなギャグと一緒だ。よくある話。

原口「その点、蝶野は頭いいですよ。そうそう、それからボクは蝶野に移り始めたんですよ、エヘヘヘ！　今は、蝶野ですから」

やはり原口氏は越中ファン、維震軍ファンではなかった。蝶野ファンだったのだ……。

しかし、どうだろう。蝶野ファンの人にさえモノマネをさせてしまう越中。やはり越中は偉大ではないだろうか！　などと無理矢理テンションをあげようと試みるも、やはりダメ。しかし、誰のファンということとは別に、プロレスにはいろいろな見方があるものだ。いまさらながら改めて思い知らされた。



原口あきまさとは何者だ!?



昭和50年11月3日、福岡県北九州市出身。プロレスファンには「リングの魂」で蝶野正洋のモノマネを披露していた〝あの芸人さん〟と言った方がわかりやすいだろうか？　それとも明石家さんまのモノマネでおなじみの〝あの芸人さん〟の方がわかりやすい？　春一番、神無月といった新日系モノマネ芸人さんとともにAKIRA夫人・佐伯玲子主催のお笑いイベント「笑魂伝承」にも出演した原口氏。プロレスとも縁が深いのだ。「ボクは歌でもプロレスでも、基本的に動きをマネすることが多いんですよ」ということから、プロレス・モノマネのレパートリーも豊富。蝶野・越中だけでなく、ライガーやマサ斉藤や武藤敬司やラッシャー木村までも幅広くマネてしまう。しかも落武者・ターザン山本のモノマネまでマスターしているのには驚いた！　じつにストロング・スタイルな芸人さんだ。

【先月の検証】

斉藤彰俊の死神魂

by せき詩郎

　みなさんは週プロの2001年プロレスラー名鑑はご覧になったであろうか。毎年この選手名鑑で年は明け、日刊スポーツの解雇になったプロ野球選手のこれからみたいな連載で年は暮れていくと言う人も多いのではないだろうか。

　さて、その選手名鑑であるがやはり気になったのは健介の『趣味または特技→トレーニング』という良くも悪くも健介らしさ爆発の記述ではなく、健介の『好きな食べ物→チキン、ポテト』と意外にもジャンクフード好き！という記述でもなく、健介の『抱負→ゴーイング・マイ・ウエイ』というちょっとだけマサテイストが入ってる記述でもなく、かといって我らが越中の『好きな有名人→SPEED』という2年連続、まあ去年はまだわかったけど今年もSPEEDなの⁉という驚きでもなく、やはり彰俊の『好きな有名人→死神（本物）』という記述であろう。

　この連載でも何度か触れてきたが、彰俊は大の死神好き（＆髑髏好き）である。最近彰俊が使うようになった技、延髄斬り。別名スイクルデス。この技を使うようになった理由、それもまた死神である。

斉藤「延髄は自分の中では死神の持っている『鎌』かなと。首刈りということで」

　首刈りというと、延髄の他にもラリアットを思い浮かべるが、なぜラリアットではないのか？

斉藤「ラリアットではないですよね。ラリアットは鎌というか、同じ〝切る〟でもこういう感じじゃないですか。延髄はこう切るような感じで。それで延髄使おうと。延髄やる前のこうゆうやつはですはね。これが鎌なんですよ、自分の中で。この鎌でお前をちょっと上に送ってやるよ！って、そういうイメージがあるんですけど」

　文字にしたらなんだかわからないと思うが、そういう理由である。つまり、こう切るラリアットではなく、こうやって切る延髄の方がより鎌らしいということだ。今、必死に身体を動かしながら書いてるのだが、伝わったであろうか？　ようするに、こうやって、わかる？　そうそう、こうやってガーっと切るとあれじゃない？　だからあれだよ、こうやってさ、……（中略）……すると、ほら、こう、鎌みたいでしょ？（ボキャブラリー不足）。とにかくノアマットでの彰俊のファイトを見ればわかる。その鎌をイメージした延髄を出す前に、親指と人差し指を立てたサインを出すのだが、そのサイン、親指と人差し指で作られる曲線が鎌の鋭利な刃であり、人差し指が指す方向、つまり上、そこへお前を送ってやるよということなのだ。カッコイイ！　今日から真似しよう（影響されまくり）。

斉藤「（照れながら）でもこれはまだ誰にも言ってないんで、誰も知らないと思うんですけどね（笑）。なんかみんなに、ただカッコつけてんのかな？って思われてるのかもしれないですけど（笑）」

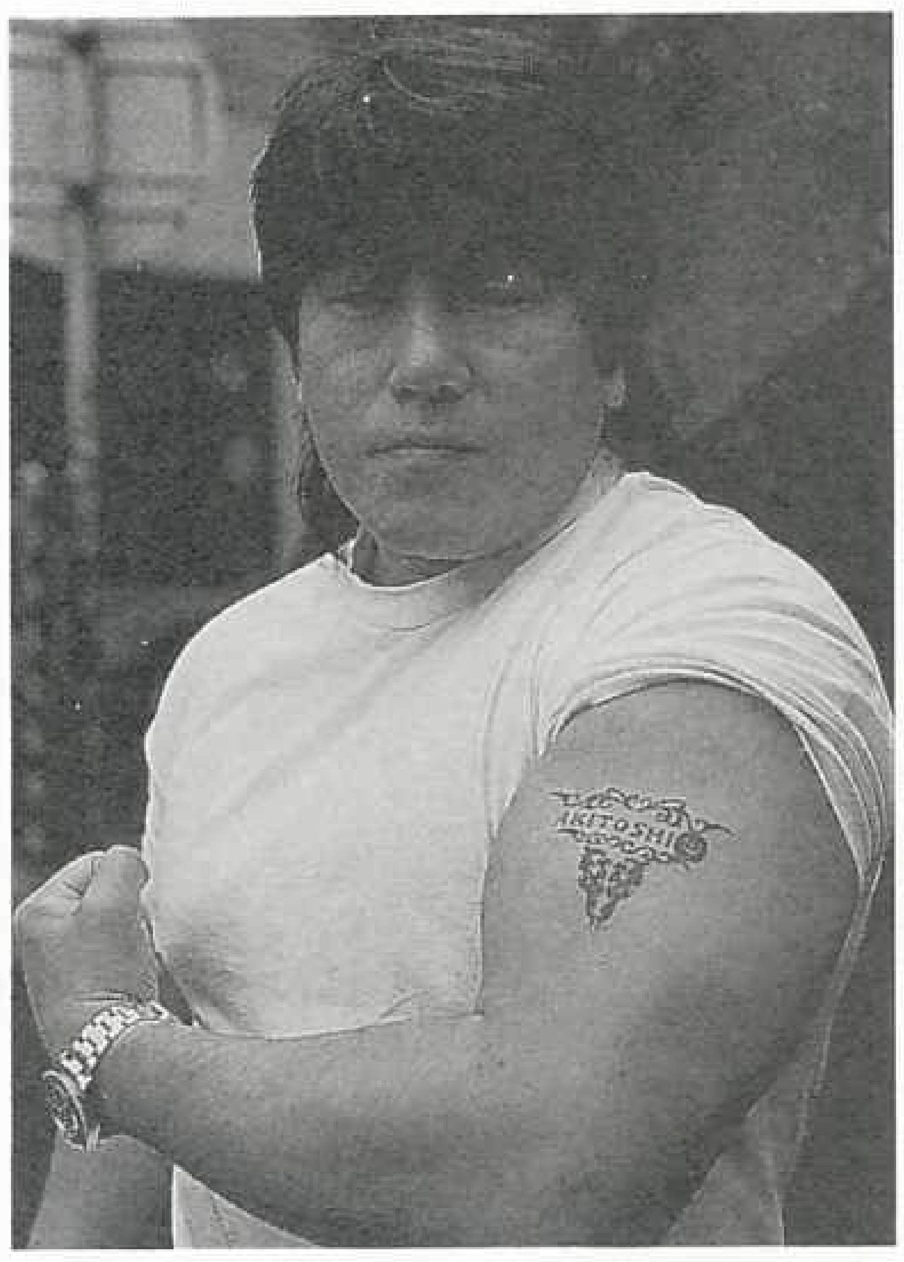
　ところで死神に起因するものは延髄だけではなかった。ノアのマットで入場時に使っている曲、あれもまた死神絡みだったのである。

斉藤「あれはアイアンメイデンの『死界への誘い』って曲なんですよ。死の世界への誘いって、おいおいピッタリだなって（笑）。もう「死界への誘い」って曲名だけで良かったです。しかもアルバムのジャケットに蜘蛛と髑髏の絵でして、もう震えましたね。これしかない！って。最高でした。曲名だけで決まっちゃいました。そして歌詞を見たり曲名を見たら、震えきちゃってですね。中聴かなくていいの？って聞かれたんですけどいい！　これでいい！って（笑）」

　それは彰俊に鋼鉄魂が注入された瞬間であった。延髄斬り前に出すサイン、それは相手レスラーを死界へと誘うことを意味する。いわば死界へのパスポートであるのだ。無論このパスポートに期限切れはない。首を切られるレスラーの数は無限大。死界は彰俊と対戦したレスラーでいっぱいになる。死界合宿に不参加ということはありえない。こうしちゃいられない、さっそく今からアイアンメイデンのCD買いに行こうっと！（影響されまくり）

「死神が好き。なぜなら一度しか会えないから」と前回のインタビュー時のセリフ。しかしなぜ、そこまで死神に憧れるのか？　そして彰俊が憧れる死神とは、理想の死神とはいったいどんなものなのであろうか？

斉藤「『はじめ人間ギャートルズ』の死神が一番好きだったんですよ。そしてドンドン最近好きになってきましてね。イメージする死神は、やっぱりガイコツで黒のロングガウンのようなのを着て、それで鎌持ってて。背筋が凍るぐらい怖いんだろうなあ。でも死神に会った時に自分のイメージしてる死神と違ったら、ちょっと残念ですけどね（笑）。ちょっと中年太りの死神とかだったら、思いっきりガックリします（笑）」



　死ぬ直前に、最後に会う人物が太った中年！　これでは彰俊でなくともがっかりするだろう。あんこ型の相撲出身死神。死神最強幻想を高めるにはいいかもしれないが、意外と弱そうな気もする。相撲はともかく、体格の良い死神など死神ではない。考えてみて欲しい。タリエルよりはハンの方が死神らしいであろう。個人的にはモーニング娘の加護が死神だったら、別に死んでもいいや！　などとバカ丸だしの考えはさておき、最近の彰俊の試合は、すさまじいほどの殺気がある。

斉藤「いつか死神に会った時、切られるわけじゃないですか、鎌でボコッと。それで自分の体と分かれるじゃないですか。その時に自分はどう思うんだろう？って。だから会ってみたいような、でもまだ会いたくはないんですけど（笑）。会う時は自分の最後の通信簿っていうんですかね、人生の通信簿。評価を貰える時なんで楽しみは楽しみですよね。もしかしたら明日ぐらいになんかでボコッと逝くかもしれないじゃないですか。だからやっぱりモタモタしてる時間はないんで。やりたいことがいっぱいあるもんですから」

　死神にさえ会う覚悟が彰俊にはある。恐怖をハングリーさへと変えようと。いつだって背水の陣。まるで自ら進んで男塾名物油風呂（＊注）に入っていくように。そこに殺気が生まれないはずがない……。（注・油風呂→別名地獄船。古くは江戸時代罪人の拷問のためにあったという。金だらいに油をいっぱいにはり、火のついたローソクをのせた笹舟を浮かべ、下から火をたく。湯温は上昇していくが、身動きひとつすれば船はひっくりかえり油に火がつき自分が火だるまになるのは必定…その恐怖と苦痛はローソク一本の火が完全になくなるまで続く……精神力の勝負である近代においても極道社会でまだ根性試しに行われることがあるという）

　そして再び、週プロの選手名鑑。木村健悟の『好きな食べ物→バナナ』。このバナナに関してはあるエピソードがある。伝説の維震バス（維震軍が巡業の移動時に使ったバス）内での健悟のバナナ発言。これは以前インタビューした際に聞いたのだが、残念ながら書くことはできなかった。しかし、あれから幾月か流れた。もう書くことは可能であろうか？

斉藤「（困りながら）特に今ノアに行って余計に言い辛くなって」

　残念。しかしこの後、我々維震ファンを狂喜乱舞させる言葉が彰俊の口から飛び出したのだ！

斉藤「いつも維震軍の記事があるじゃないですか。維震軍が要するに少しづつ少しづつ手をのばして、維震軍復活って。やっぱり木村（健悟）さんが解説になったのもなんかあるんですかね？（笑）。解説を維震軍側に持っていこうという何かが（笑）。木村さんの解説が維震軍びいきで、たとえ相手の技が効いてても「今のは効いてませんよ」とか（笑）。もしかしたら、カブキさんもお店やりながらカンバックするかもしれないですね（笑）」

　維震軍復活。私はことあるごとに、しかもなんでも（聖子ちゃん離婚とかまで）維震復活に結び付けて生きてきたわけだが、健悟の件はノーマークであった。なるほど、そういうことだったのか。一蓮托生でみんな元気に練習やってるところに顔を出さなかったり（越中談）、後藤や小原にTシャツ破られたりしながらも、健悟は健悟なりに色々考えていたのだ！　しかしこういう話が彰俊から振られるとは思っていなかった。

斉藤「小林さんは『新日本サービス』の取締役ですか。じゃあ、もう維震軍グッズはバッチリですね（笑）。維震軍グッズと言えば、越中さんがよく巻いてて、みんなで巻こう！と言ってた『必勝』ってハチマキがですね、今あんまりどこにも売ってないんですよ。維震グッズっていうよりはあれは、なんていうんですかね、一昔前の受験生グッズだったんですけどね（笑）」

　維震復活後のグッズ展開まで彰俊の視野には入っていた！　見習わないと。しかし維震が受験と結びつくとは。いや、確かにあれは受験だったのかもしれない。大学合格＝本隊ぶっ潰しという目標に向かい、彼らは突っ走っていたのだ。ならば今の越中は、第一志望には落ちたけど滑り止めには引っ掛かり、そこに入学したということだろう。「みんなで浪人しようと決めたのに！」越中の裏切りともとれるこの行動に後藤や小原が怒らないわけがない……。そんな想像をしているうちに、話題は当然のように維震メンバーへ。テープを止めて小原幻想を高める話を聞いた後、私はある一人のレスラーの名前を出してみた。何故か維震軍在籍という過去があり、当時迷走する維震軍の中で、試合中袴を脱ぐという「迷走なら俺の方が上」と言わんばかりにわけのわからない行動をした藤波の名前を。

斉藤「あ！　そうですね。一時藤波さんもいたんですよね。藤波さんに関してはこっちが聞きたいですよね（笑）。あれでもめましたよね」

　維震ファンなら誰もが二度と思い出したくもない、藤波加入によるお家騒動。維震軍にお家騒動は付き物ではあったが、あの時は大将の越中がケガで欠場中ということもあり、柱を失った維震軍は分裂寸前。維震史上最大の危機。あの時、藤波を押しのけ、彰俊が維震をまとめるという考えはなかったのであろうか？

斉藤「維震軍をまとめるのはオレにはちょっと荷が重いですね。なかなか、あの軍団をっていうのは、厳しいと思いますね（笑）。本当にずーと、まとまっていたのか、まとまっていなかったのかも、あんまり定かでないんですよね（笑）」

　まさにその通り！　端から見てた私でも大変だということはよくわかる。だからといって、これが維震軍に対する悪口であるかというと決してそうではない。我々はそういう部分もひっくるめて維震軍が好きだったように、彰俊もまた同じなのである。

斉藤「維震軍っていうのは特別なものですから。維震軍っていうのはチーム名とかそういうものじゃなくて、精神的なものになってますよね。形は無くても精神的なものでやっぱり、残ってますし、生き続いてますし。それが消えることはないと思うんですけどね。メンバーがそれぞれ違う所で違うもの身に付けて、また集まるとそれはそれでまた楽しいんじゃないかなと思うんですけどね」

　最後に彰俊がマスターをしているバーについて訊ねてみた。どんなカクテルがあるのか？　そして『維震軍』という名のカクテルはあるのか？

斉藤「全部で何種類ぐらいありますかね？　ココナッツリゾートってお店の名前がついてるのもあります。あと、こんな感じでって言われてそれで作るのも、オリジナルもあります。維震軍カクテルについてはなにか考えましょう。多分バランスが悪い方がいいのかなって思うんですけど（笑）。個性の強いお酒が入ってるっていう。ちょっと罰ゲームにどうかな？ってカクテルで。多分口をつけただけで「ハッ」て言うような（笑）」

　覇ッ！

斉藤「ベースは〝ハルシオン〟で出したいんですけど（笑）」

　覇ルシオン！

☆★☆★募　集☆★☆★

ここで緊急募集。今回のインタビューでもおわかりの通り、彰俊選手は大の死神好き！　そして私は維震と加護好き！　ということで、今回のインタビュー中に話が出たのですが、彰俊選手のTシャツを私と坂井君で製作する事になりました。そこで、Tシャツの図案を緊急募集します。死神をデザインしたものならOKです。ロゴ等はこちらで考えますんで、とりあえずイラストを送ってください。締め切りは2月上旬。

➲詳しいことは紙プロに電話して坂井君に聞くか、http://home9.highway.ne.jp/ishingun/　でお願いします。

ザ・検証

【今月の検証】高田延彦のもう（パンツ）いっちょう!!

by 椎名基樹

あけおめ！　そして、コマネチ！　新世紀の幕開け、いかがお過ごしでございましょうか？　わたくしも今世紀こそは、感情の起伏がなく、そして感情のままに動かされない、立派な大人になれるよう、決意も新たにがんばっていこうと、肝に銘じているところであります。

一年の刑、否、計は元旦にありと申します。わたくしも、この言葉にしたがい、元旦から神社に初詣にいって、娘さんの晴れ着を切り刻みたい欲求を抑えつつ、今年の目標を神様に誓ってまいりました。「今年も『ウイニング・イレブン』（サッカーゲーム）で勝ちまくれますように」と祈り、なけなしの100円を投げ込みました。にもかかわらず！　年明け早々せきしろと対戦してみたら、まったく歯がたちません。去年まで大体同じくらい、いや正直言ってわたくしの方が少し上だと、自負していたのですが、新世紀になったとたん、あのガリガリめがね君のサッカーは見違えるように進歩しておりました。わたくしだって、この年末、正月と一日たりとも練習を欠かした日はありませんでした。帰郷期間中練習できずに実力が低下するのを恐れて、PS-ONEを購入し実家に持って帰り、毎日数試合とフリーキックの練習は怠りませんでした。

にもかかわらず！　いざ蓋を開けてみると、縦横ショートパスを繋げられ、逆サイドにロングパスを繋げられ、その度にわたくしは必死の形相で、球を追うことのみに従事させられました。「こんなハズじゃない、こんなのおかしい！」と、思った時、わたくしはあることに気づきました。「こうも自由自在にパスを繋げられるのは絶対おかしい、さては野郎〝念〟を使っていやがるな」。

あの完璧なパス回しは絶対〝伸縮自在の愛（バンジーガム）〟に違いありません。とすると、野郎は変化系。性格は気まぐれで嘘つき。こうなれば、わたくしも〝念〟を修得するしかありません。出来れば操作系がいいです。そうすれば「最狂超プロレスファン列伝」で脇形恵がスト？でアキレス腱固めを出すようなことも可能なハズです（マラドーネが審判に見つからないようにゴッドハンドでゴールを決めたり）。と、うなされるような日々の中、わたくしの21世紀は始まっています……。以上新年の挨拶でした。

波紋を呼んだ「もういっちょう」発言の源流を発見!!

そして、プロレス界もうなされるような事件が新年早々起きた。そう毎年恒例1・4東京ドーム、橋本vs長州である。俺は新聞で「暴動」の文字を見てから、ビデオで試合を見た。そして、誰もがそう思い、この号で誰かが同じこと書いてるかもしれないけど、ありゃ藤波の止め方がマズイっしょ。いきなり、出てきて試合止めて、妙に興奮しながらマイクを握ったと思ったら、

「う～ワンワンワン！　う～ワン！ワンワンワンワンワンワンワン！」

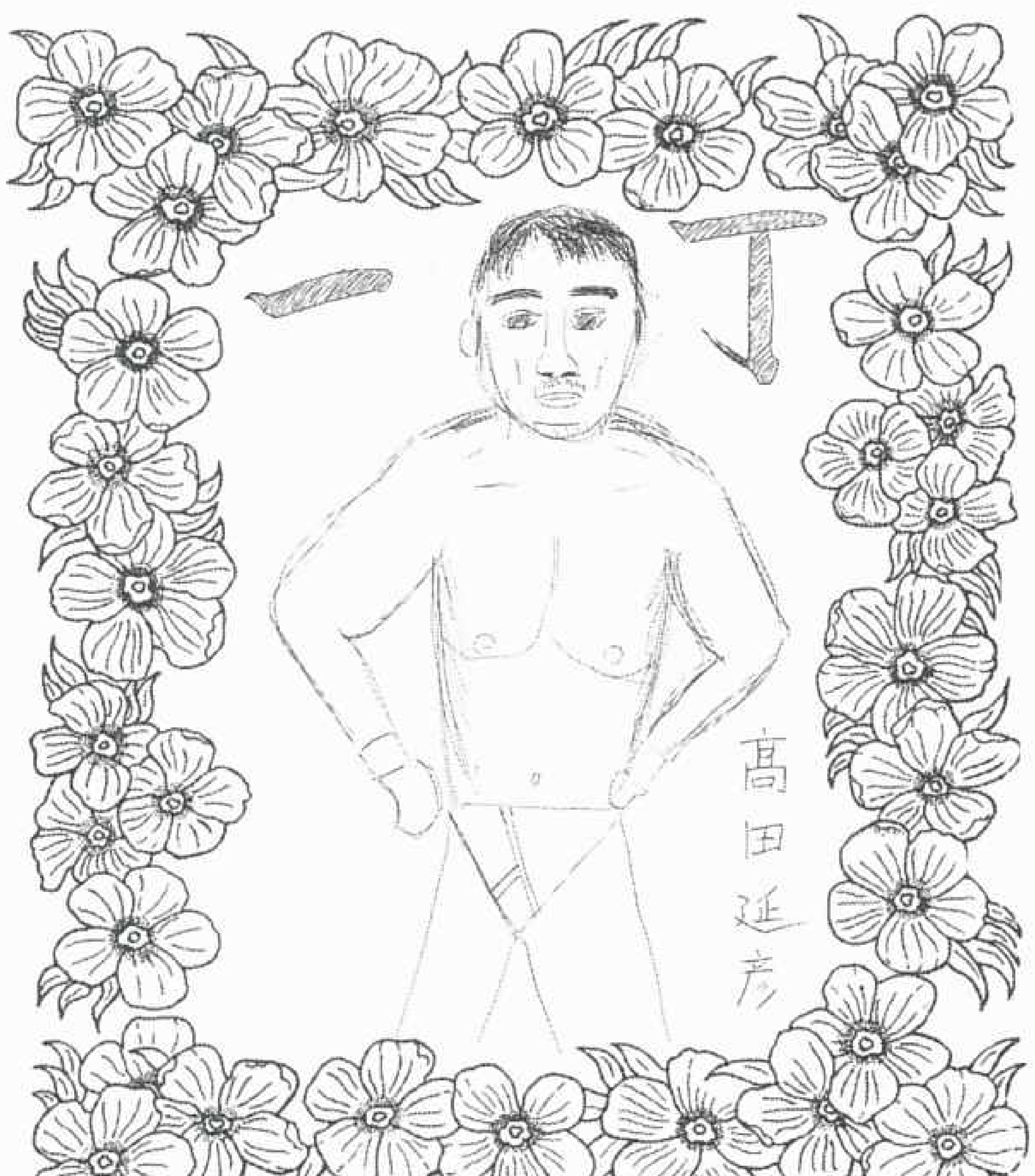
だもん。犬語で喋っても何言ってんだか、わかんねーよ。それに、あの髪型も絶対ファンの癇にさわったハズ。WWFとか見ても、試合の混乱うんぬんより、すぐにきっちり説明がつけば、それがストーリーとなって転がっていくのに、正月早々頭ごなしに怒鳴りつけられた上に、犬語で喋られたんじゃ、大人しいファンだって頭に来るのは当然。しかし、あの髪型は実に嫌味で、憎らしい社長キャラとして実に良く立っていたのに、あがってしまい、犬語で喋ってしまったのが、本当残念だった。俺的には最高なんだけど。

そして、順序は逆になるが、社長の犬っぷりが炸裂したのが、世紀末イベント『猪木祭り』だった。好企画108発ビンタ闘魂注入で（俺も並びたかった！）108人目に並んだ社長のあの尻尾の振りっぷり。正に闘魂犬。叩いて欲しい欲しいと「はふはふキャ～イ～ン状態」の姿はとても社長とは思えない、素晴らしさだった。あと、猪木祭りの最後の餅つきで、みんなが適当にカッコだけ突いているのにもかかわらず、ケアー、コールマン、グッドリッジの大男3人を見事に仕切まくり、3人のきねを振り下ろす手を止めさせ、晴れ着のお姉ちゃんに餅をこねさせる、我らがグレート・サスケの姿も社長とは思えなかったが、いつ何時も米を大切にする「みちのく魂」が痛いほど良くわかり、これもまた素晴らしかったことも付け加えておく。

さて、今回の検証である。前記の猪木祭りで俺個人的に断然輝いていたのは小川直也だった。単純に一番カッコ良かったし、会場を一番沸かせていた。パフォーマンスの猪木っぷりも板に付いていた。にもかかわらず、テレ朝の放送では、小川の試合はカットされていた。よく考えて見ると、小川はかわいそうなくらい冷遇されている。会場人気、最強説ともファンの間では、トップクラスの評価を得ているにもかかわらずに、だ。正月に暇つぶしに、パイオニアの『PRIDE』のDVDを見ていた時もそのことを感じた、『PRIDE.5』で「みんな出て来～ひ」と声が裏返ってまで訴えた高田戦も実現していない。フリが結果にちっとも結びつかないのだ。「よくよく考えると、何かかわいそうだなあ」とぼんやり考えながら見ていると、ふいにその小川が対戦要求をした興行での、高田vsコールマンの前の、高田インタビューの言葉が俺の耳に飛び込んで来た。

「リングの中でパンツいっちょうで闘うことを職業にしている間は、ずっとプロレスラーですから」。

グレーシー一族との連敗後、高田が語り始めた「もういっちょう精神」。しかし、それよりずっと前に「いっちょう精神」が語られていたとは。「もういっちょう」とはつまり「もうパンツいっちょう」だったのである。それがどういう意味かと訊かれたら、書いてる俺にも全然わからないのである。以上、おしまい……。



担当編集・坂井ノブの
線路歩いて絵を描いて……vol.4

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである——（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

大阪の女性パンクラス・ファンから、こんな手紙が届きました。「ゴーゴーは期待賞を取ったんだよ。もう新聞で読んだかなあ、昨年の智恵子大将の発表。プロレスラーや格闘家が多い中で、週刊プロレスの安田拡了さんと鈴木健さんと吉田豪さんが期待賞を受賞しました。おめでとう、ビバビバ！ 去年も忙しかったなあ。智恵子教を立ち上げてからは時間が経つのが早いわあ」……ということで、21世紀も期待度の高い書評コーナー。なお、次号で紹介する真樹先生の『すてごろ懺悔』は本当に傑作なので、全男子必見！ 船木の『明日また生きろ。』も最高だ！〈e-mail:go@kamipro.com〉

『WINNERS DEAD OR ALIVE vol.1 格闘技が見たい！』（新潮社／900円）



しかし、どうして対世間を視野に入れた格闘技本を作ろうとすると、ルールや選手データや技術論ばかりの単なるガイド本になってしまうのだろうか？ こうして素人が読んでも好き者が読んでも面白くない本ばかり量産していたら、せっかく形になりかけた格闘技ブームを自滅させるだけでしかないはず。GK金沢が「時世に便乗して、次々と単発の格闘技雑誌が発行される。内容は……底が浅い。プロレスファンなら見向きもしないような企画で溢れている」とズバリ言い切ったのも、非常に正しいのである。

そもそも対世間を考えて有名人との対談を組むというわかりやすい企画にしても、佐藤ルミナ対三國シェフ、宇野薫対Jリーガーなんかを読む限りではお互いの光を消し合っているだけでしかないし、小川などの単独インタビューにしたって深みは皆無。

どうせなら新潮社にしか絶対できない、『フォーカス』の歴代格闘技スキャンダル記事の再録といった物騒な企画でもやって欲しかった次第なのだ。

とはいえ、雑誌『コマネチ！』の版元だからこそ実現した桜庭対ビートたけしの巻頭対談だけは、予想通りの面白さ。スパーリングしかやらない桜庭を「私生活で練習する横山やすし」と比較するたけしもいいが、**「死の恐怖っていうのはあんまりないの？」「宗教に興味なんか持ったことない？」**との事故で死にかけた経験から出てくるたけしの質問にも**「ないですね」**とあっさり受け流し、**「苦しいときの神頼みは全然しないの？」**との問いには**「お腹苦しいときとかはありましたけど。10年くらい前かな、『お母ちゃん、助けて！』って言ったことはあります」**と答えていく桜庭は、深みはないながらもやっぱり絶妙なキャラなのである。

『コラッ！ 健之介』（北斗晶／主婦と生活社／1300円）



我が子へと無闇に牙を剥いてみせる喧嘩腰なタイトルとは違い、**「ケンカになると、健之介は弱い。すぐ泣いて逃げてくる。女の子にさえかなわないんだから、マイッタもんだョ。だけど、そういうときだけ『ママ〜』って言ってくれるから可愛いんだけどね」**という北斗の親馬鹿ぶりがたっぷり詰まった、この本。

壮絶なジャケ＆**「おいおい、オレのイメージが壊れるよ！」**（健介）という呑気な帯のダブルインパクトに負けてボクもついついブックオフで新刊を100円で購入したのだが、そこに描かれた親馬鹿ならぬ馬鹿親ぶりは本当に衝撃的なのであった。

なにしろ、冒頭で北斗がいきなり**「子供が少なくなってるご時世だけど、ジャンジャン生める人は生んで欲しいね。そうすれば、お産はプロレスと似てるから、プロレス人気もグーンとウナギ上りになるのにな〜！」**などと説得力皆無な主張を受け身も取れない角度でブチかましたりするのだから、ボクはもう閉口するばかり。

あれだけプロレス的センスに溢れた喋りと行動で、一時は「女・猪木」とまで呼ばれていた北斗が、なぜこんなことになってしまったのだろうか？

それはズバリ言うと、**「子供ができたら何て呼ばせる？」**と北斗に聞かれて迷わず**「父上、母上ってのはどうだ」**と答えてみせたという馬鹿親・健介の悪影響だと考えて間違いないはずなのだ。

まあ、いい。北斗はともかく、**「仏壇はチンチンって鳴らす鐘がどこにでもあるじゃん。これもすぐ覚えたから、『チンチンしてナンマイナンマイして』って健之介に言ったら『チンチン、ナンマイナンマイ』って自分のチンチンをモミモミしてから仏壇に手を合わせた」**りするほど順調すぎるぐらい健介イズムを伝承しつつあるらしい健之介の将来に、今後は期待するばかりなのである。

『野獣降臨 藤田和之』（"Show"大谷泰顕／メディアワークス／1400円）



Show氏が『SRS-DX』『サブラ』『週刊プレイボーイ』『格闘魂』『オーバー・ザ・シュート弐』で発表した藤田インタビューに、Show氏司会によるトークショーの模様と船木対談をカップリングさせた一冊。面白いインタビューができたから単行本にするのではなく、最初から単行本にするために各誌で取材を組んでいるとしか思えない（そのくせ単行本の内容にはなっていない）やり方はどうしても好きになれないが、その行動力だけは大したものである。

それにしても、藤田。『紙プロ』のインタビューでも『炎のファイター』での入場を「究極のプロレスごっこ」と言い切ったりで、GK金沢に「営業用猪木イズム」とズバリ言われるのも当然だとは思っていたのだが、やっぱりケン・シャムロック戦に対して猪木が**「一番危ない試合だった」**と評したことに対して、こう言い切っているのであった。

「猪木さんはもう『やる側』じゃないでしょ？ だったらお前がやってみろ！ って」

この怖い者知らずな姿勢は、まさにリアル・ノー・フィアー！ 当然、ケロちゃん本でも暴露されていたように、藤田はたとえ現場監督の長州相手であろうともまったく動じないわけなのである。

「合同練習があったんですけど、その日の朝に帰ってきて、『いいや今日は』って言って寝てたら（長州に）起こされたんですよ。『何やってんだ、お前！』って。『だって今日は練習できない』って言ったら殴られました（苦笑）。『座れ』って言うんで『なんで座んなくちゃいけないのかなあ』と思いながらイスに座ったら、『何やってんだお前。下だーッ！』って。で、（アグラかいて）座ったら、『バカッ、正座だーッ！』って。俺、頭痛くなっちゃった（笑）」

……これならマーク・ケアを前にして、まったくビビらなかったのも当たり前。結局、藤田の強さの秘訣とは決して相手の幻想に呑み込まれることのない桁外れの「ふてぶてしさ」にあったはずなのだ。

そして藤田の毒気に当てられたためなのか、珍しく船木も猪木バッシングをスタートさせていく。

「結構、（猪木に）意地悪もされたんですよ（苦笑）。俺が合宿所で練習をやって飯を食ってるじゃないですか。そうすると、猪木さんが上からこうやって『俺の鼻ク○だ、食え』みたいに俺の飯に入れたり（笑）。だから『汚いことするなあ』と思いながらも、『いただきます』って食ってましたよ。実際はその振りだけで、それ（鼻ク○）を入れてはいないんですけど」

どうも藤田のカラッと激しいパワフルさとは違って、船木の告白には陰湿な何かを感じてしまうのであった……。気のせい？

なお、『SRS-DX』の石沢叩きに対して**「かわいそうですよ、あの1戦（ハイアン戦）だけで。俺だったら電話で抗議します。『殺す』とは言わないです。それは犯罪ですから」**と肩を持つ船木は男らしくていいんだが、だとしたら高橋義生の「俺が殺す！」発言も犯罪なのだろう、気のせい？

『プロレスラー知事』（ジェシー・ヴェンチュラ／飛鳥新社／1800円）

直訳しすぎな**「世界選手権レスリング連盟（WWF）」「世界レスリング（WCW）」「全国レスリング協会（NWA）」**などの団体名や、原語の発音に忠実すぎな**「ビリー・グレアム」「ヴァーン・ガネイ」「ブルーノ・サマルチーノ」**などの人名からもわかるように、プロレス知識皆無な中学生が辞書片手に訳したような堅苦しくて読みづらい文章が正直、かなりいただけない一冊。しかし、だからこそ無防備ゆえのとんでもない奇跡が起きまくっているのでプロレスファンなら全員必読だろう。

なにしろ、元国会議員ながら童貞喪失話から買春話まで赤裸々に告白した『アントニオ猪木自伝』ばりに、ヴェンチュラも現役知事ながら**「16歳の誕生日に童貞を失った」**だの**「わたしが初めてマリファナ煙草を吸ったのは高校時代」**だの**「拳骨重りを使うと、それこそやすやすと相手を倒せる。わたしたちはいつも拳骨重りをポケットに忍ばせていた。事実その必要が時折生じた」**だのと、セックス＆ドラッグ＆バイオレンス方面の物騒な話ばかりを片っ端からカミングアウト！

とにかく**「女牧場でも偵察しに行こうか」**なる失礼な表現も使って買春の思い出を語り、自らを**「ネヴァダの娼家に入って金をもらってきた世にも珍しい人間の一人」**だと自慢する、その見事な男根主義ぶりにはシビレるばかりなのである。

「SEALS（彼が所属していた、軍隊で最もハードだと噂される海軍特殊部隊）には、下着のような無用の日用品はなしですますあっぱれな伝統がある。どこかのバーで一夜、仲間の誰かがひょういとテーブルに飛び乗って『下着検査！』と怒鳴ろうもんなら、我々は一斉にぱっと立ち上がり、そんなものは履いていないことを証明するためズボンを下ろした。いまだにわたしはたいていの場合その伝統を守っている」

そう、ベンチュラ知事はいまも男根主義者であり、そしてついでにノーブラ愛好家でもあったわけなのだ！

「わたしはSEALSの隊員だった頃でさえ、平和集会に出てデモ行進をしたことがある。正直言うと、それは大いなる平和愛好心のためというよりも、女性との交際を大いに愛したがためだった。運動内部の女性たちにとって、わたしはこの恐るべき戦争に意に反して送り込まれた哀れな悩める体制の犠牲者というわけだった。海軍には徴兵制度はないのを彼女たちは知らなかったのだ！ わたしはノーブラの女の子が大好きだった。なにしろ異性を愛することにかけ



ては人後に落ちない」

そこまで自分のことを平気で暴露してみせる男が、プロレスの内幕についても同じように暴露していくのは、やっぱり必然的なことなのであった。

「プロレスは演劇だ。わたしは常々プロレスを『暴力を伴うバレエ』と呼んでいる。舞台で見るもろもろの出し物とまったく同様、プロレスにはドラマがある。ただしそれが『演劇』だというのはインチキだということではない。『バレエ』の側面とは、動きの一部が演出され振り付けされて、前もって予定されている場合もあるということだが、暴力は本物だ」

……思わずニック・ボックウィンクル先生の「相手がワルツできたらワルツ、ジルバできたらジルバを踊る」という名言が脳裏に浮かんでくる、衝撃の「プロレス＝バレエ」論。アメリカではプロレスの「情報公開」が当たり前のように進んでいることを、つくづく思い知らさせられる次第である。

「プロレスの大事な心得は、自分の身を守るように相手の身を守ってやることだ。お互いそれで暮らしを立てているんだから。本当に危害を加えずにできるだけ真に迫ったものにすることをおぼえなくてはいけない。だがそれは断じてインチキという意味ではない。ボディスラムをやられる場合、相手のやり方が正しければ怪我をすることはないが、間違いなく身に応える！」

ドラマなので本当に危害は加えないけど、それでもボディスラムは身に応える！　かなり微妙な表現だが読者にインチキだと短絡的に受け取られないよう、ベンチュラ知事はさらに危険な領域へと踏み込んで詳しくプロレスの説明を続けていくのだった。

「プロレスはまさにパフォーマンス・アートで、それに暴力が伴うだけだ。ドラマティックな盛り上がりを生み出すことに努める。エキサイトする瞬間もあれば、沈静化する瞬間もあるが、選手双方がうまく気分を高め合えば、最終的にはいわゆるピークに向かって一挙に盛り上げていく。そして決着をつける。善玉が悪玉をフォールするか、あるいはむしろ悪玉がフォールされずにすむように何か失格になるようなことをやって、試合終了となるのが普通だ」

「同じ相手と連続3回かそこら試合して、互いの間に敵対心を高める。勝つのはたいてい善玉のほうだが、それを決めるのはプロモーターだった。私は悪役だから、通常負けるのが仕事だった。だがたとえ試合には負けても、観客を集めたのはわたしだから、こっちの勝ちだった」

どうですか、この無防備にも程がありすぎる日本版の完訳っぷりは！　いわゆる試合の「やり方」までこんなにあっさり書いちゃって大丈夫なのかと、ついこっちが心配になってくるほどなのだ。

「20年前にこんなことをべらべらしゃべったら、えらい目に遭ったろう。今はプロレスの内情がかなりさらけ出され、ルールも変わったからこそこういう話ができるのだ。プロレスがショーだということは今や誰でも知っている。しかし昔は、どういうやり方をしているのか部外者に漏らすことを許さない不文律が業界内にあった。誰かがインチキ呼ばわりしたら、それは選手の職業上のプライドを傷つける侮辱と見なされ、おそらく拳骨が飛んだろう」

だからこそ、かつてはベンチュラ知事も**「あれ（プロレス）がすべてまやかしだってことは誰でも知ってる。そうだろ？」**なんて誰かが堂々と口にする**「大罪を犯した」**りしようものなら、容赦なくすぐに実力行使していたのだそうである。

たとえリング上でシュートを仕掛けられても、**「わたしのような経歴を持った男にそういうことをするのは利口じゃない。それほど本気で腹を立てはしなかったが、ひとつ『コツン』とやってやった——つまり本格的に拳骨で顔面を殴りつけたのだ。相手はノック・ダウンした」**というSEALS仕込みの技術を持った上で、あえてエンターテイメントに徹していたヴェンチュラ知事。

そのうち喋りの上手さが買われてWWF入りするまでに出世するんだが、裏で組合結成を画策すると猪木ばりに仲間からチクられてしまうのだった。

「ハルク・ホーガンがプロレス界最大のスターだということはわたしは重々認めるし、それにけちをつけたくはない。だが、我々みんなと友達のようなふりをしながら、陰でこそこそやって、我々の言ったことを逐一ヴィンス（マクマホン）に告げ口し、我々の生活をいろんな面で改善することにつながったはずの組合結成を結局邪魔したのは、ずいぶんとけしからん話だ」

そう、ホーガンがWWFであそこまで出世した理由は、こうして巧みにヴィンスへと取り入ったために違いないのである！　この商売上手！

これがよっぽど腹が立ったのか、**「怪我の治療のために医師の指示の下に使った以外はステロイドを使用したことがない。（ステロイドをやるなら）ヴィタミンを摂取し、体を鍛え、お祈りをしなさい」**と奇麗事ばかり口にするホーガンに対して、**「どんなヴィタミンだい、ホーガン？　口から飲むやつか、それとも注射でやるやつか？」「彼がステロイドを使っているのは、アメリカのプロレスラーの多くが知っていることだった」**とズバリ断言し、ステロイドは**「わたし自身、時折使った」**と自分でもカミングアウトするから、ヴェンチュラ知事は本当に信用できる男なのだ。

しかも、それだけ口が軽いのになぜかベトナム戦争での体験についてだけは一切語ろうとしないから、謎に溢れすぎ。さすがに不気味というしかないだろう。

「これまで誰にも話したことはない。向こうで見たこと、やったことは一切口外無用と厳命されたからだ。わたしはこれまでずっとその命令を固く守ってきた。選挙運動中、わたしのヴェトナム体験について質問が出てもあくまで命令に忠実だったし、これからも守り続けるつもりだ」

……おそらく昔の外人レスラーに凄まじい迫力が感じられたのは、戦争などによる「人を殺した経験」の有無だったのに違いない。当然、殺人者の目をしたキラー猪木以上にヴェンチュラ知事も地獄のような経験をしてきたはずなのだ！

かつてピストル問題でバッシングされた猪木のように**「銃器秘匿所持の許可証を持っている」**とバッシングされようとも、**「持っているからなんだというのだ？　それがどうしてニュースになるんだろう？」「（わたしは）誰よりも銃の扱い方の訓練は受けている」**と開き直ってみせる彼氏。

世間で「銃規制」が騒がれることについても、**「銃のコントロールは大賛成だが、ただわたしの場合、その言葉の定義がちょっと普通とちがう。25メートル離れたところから同じ穴に2発撃ち込むことができる力、それが銃を駆使する能力、つまりガン・コントロールというものだ！」**と断言し、**「麻薬と売春は管理統制すればいい」**とブチ上げたりと、もはや「永田町にプロレスを持ち込んだ」（佐藤秘書・談）猪木以上の暴走ぶりなのだから、キラーなんてもんじゃない。最高なのだ！

「知事として初めて出した公式の布告のひとつを教えようか。ローリング・ストーンズがミネアポリスでコンサートをやると聞いて、わたしは2月15日をローリング・ストーンズ記念日にすると宣言した。ミネソタ州はわたしが退任したあとあとまでも、毎年2月15日にローリング・ストーンズ記念日を祝うことになるだろう。トップに立つというのはいいものだ！」

こういう輩に権力を与えるのはちょっとどうかと思うが、面白いから問題なしなのである。

『人間爆弾発言』

（山本小鉄／頸文社／1619円）

インタビューをそのままベタ起こしした構成はちょっと大雑把ながらも、見開きで小鉄の顔写真や後頭部のアップが載ってたりするインパクトで一気に読ませる一冊（**「サイン入り竹刀プレゼント」**



企画だけで、とりあえず文句なし！）。

相変わらず小鉄が**「どこかの団体に卵の白身ばっかり食べてる奴らがいるけど、俺から言わせれば黄身だって大切だよ！」「パンクラスのスタイルというのは、プロレスの進化じゃなくて退化なんだ」**などとパンクラスに噛み付いたり、**「ジョージも俊二もアホだ。頭、使わないもん。人としての感性がまともじゃなかったんだ」「俊二は俊二で、こいつも人でなしなんだ」**などと「高野のバカ兄弟」に噛み付いたりとピンポイントで攻撃していくから、思わずこっちが「ちょっと待って下さい」と言いたくなるほどなのであった。

しかも今回は**「坂口もどっちかって言ったら練習しない方だった」「一番練習嫌いだったのは木村健吾」**と、タブーというべき内部告発まで開始。

それで最後は**「昔は面白いやつがたくさんいたんだよ。今は残念だけどそういう面白い奴がいなくなった。ちょっと寂しいな」**と結論付けて、「プロレス＝格闘技」だと頑なに主張していくのだから、これは昭和のプロレスファンにしてみればまったく文句なしだろう。

「橋本と小川の第3戦目の、いったい何処が異常事態なの!?　小川が橋本に馬乗りになって顔面にパンチを浴びせてるけど、そんなものプロレスなんだから当たり前のこと」

「プロレスラーが格闘技戦で勝つと最近やけにみんなはしゃいで万歳したりしているけど、俺から言わせればバカ野郎だよ！　プロレスラーが勝って当たり前だろ。はしゃぐなって言いたいよ。勝って当たり前の試合に勝って何が嬉しいんだ」

「格闘技戦の他流試合をするのは『プロレスじゃない！』っていう人もいるけど、バカ野郎！　そういうモノに立ち向かって行って勝てるのがプロレスラーだ！　って言いたいね。今、藤田や石沢が闘っている総合格闘技は、俺たちが現役の頃『プロレス』って言っていたモノなんだ」

こうして中途半端な平成新日に苦言を呈してPRIDEを絶賛していくから、さすがは昭和新日！

「ゴッチとヒクソンが試合したらどうなるか？話にならない。ゴッチが圧勝する」

「もし現役バリバリの俺がプライドのリングに上げられたら暴れちゃう、暴れちゃうよ。暴れて絶対マイッタしない」

そんな負けず嫌いぶりもたまらないんだが、どうしても新日の別会社勤務という微妙な関係ゆえかいまでは説得力が感じられない発言もブチ上げてたりするのであった。

「俺は、いろんな角度から考えても石沢がグレイシーに負けるとは思わない。しかし石沢がここでグレイシーを決定的に倒すと、同じグレイシーの一族であるヒクソンは新日本プロレスや小川と対戦することはなくなるだろうな。もし石沢が敗ければ、『新日本プロレスはたいしたことないじゃないか』ということになって、ウチのリングにヒクソンが上がって来るかもしれない。そっちの方が興行的にはいいかもしれないな（笑）」

「ライガーはヒクソンより強いよ。もしヒクソンが上がってくるんだったら、中西、永田とは是非やらせたいな。最後は蝶野とやらせたら面白いだろうね。中西だったらヒクソンをタックルでひっくり返して5分だろうね。永田もそんなもんだろう。蝶野だったら15分だろうね（笑）。蝶野にはお客に見せる部分があるってことだよ」

これらの新日至上主義な発言と**「残念ながらプロレスラーは実力が欠けているよね」**という正直な発言の間には、巨大な矛盾が存在しているはず。

「これからのプロレスは柔術やバーリ・トゥードにも対応できる選手を育てていかなければダメだ。ノア、全日本プロレスじゃできないよ。結局、ウチしかできないんだ。三沢、小橋、川田じゃ対応できないし、まずやらないと思うよ」

それは、新日本もまだバーリ・トゥードに対応できる選手を育てられてはいないという正直な告白でもあるとボクは勝手に解釈する次第なのだ。

「長州もどちらかというと視野が狭くなってしまう方で、どうしてもワイドになれないんだよね。『コイツは可愛いけど、コイツは可愛くない』それじゃダメ。みんな平等にしてやんないと」

「桜庭を新日本プロレスのリングに上げることは難しくないね。俺だったら上げる。俺がもしマッチメイカーで新日本の社長だったら、どんな関係でも上げちゃうね」

そんな発言からは「長州ではなく俺が実権を握ったら、総合格闘技も取り込んだ面白いことをしてみせるのに……」という小鉄の思いが感じられてならないし、そうなることにはボクも全面賛成である。いまこそ小鉄を社長にすべきなのだ！

なお、他にアレクとのまったく盛り上がらない対談（試合のみならず、取材もまったく駄目……）や、前田とのお互いにいつもの持ちネタを話すだけの対談、そして最もスイングする藤原組長との対談も収録。

「佐山、前田、高田、山崎……。それから山田、健介だとかね。その後が、船木だとか鈴木だとか、俺が教えるとみんなおかしくなっちゃうんだよな（笑）。みんな天狗になっちゃうんだよ」

組長はそうボヤいているが、確かにとんでもないメンバーばかり集まっていたといまさらながら痛感させられる次第なのであった。特に健介。

CAT FIGHT WORLD

キャットファイト的視点から見た

第9回 「キャットボクシングの魅力」

バトルオンライン担当 小室さん

キャットボクシングとは？

"キャットボクシング"とは、スタイル抜群の金髪美女達が半裸姿で殴り合うというもの。今回は、キャットボクシングの魅力をバトルオンライン担当の小室さんに聞いてみました。

女の本性ムキ出しのキャットボクシングで、君もクラクラッ！

——今回はキャットファイトの中でも、根強い人気を誇っているキャットボクシングの魅力について聞いてみたいと思います。

小室 キャットボクシングって……(苦笑)。そうだなあ、金髪のお姉ちゃんが、ボクシングするビデオって、よくレンタルビデオにあると思うんですよ。アダルトコーナーに(笑)。

——ああ、そういえばオイルレスリングなんかと同じ場所にあった気がします！(笑)。

小室 顔よりも大きなグローブを装着して、結構本気で殴りあうビデオなんですけど。ウチ(バトル)のような専門店じゃなくても、比較的どこのお店にもある金髪美女企画ビデオみたいな。

——そう〜ですね、確かに見かける機会は多いです。

小室 そこからキャットファイトの魅力にハマっちゃう人、多分多いですよ(笑)。

——それで、そのキャットボクシングの魅力とは？

小室 金髪のスタイル抜群の美女達が、半裸姿でリングの上にいるんだもん。まずは、それだけで「おっ」と思いません？

——いい〜ですね〜！

小室 セクシーなダンス踊ったりしながら、着ている服を脱いでいくんです。

——それは、つまりストリップ？

小室 まあ人によってですケド。脱いだり、脱がなかったり。で、さっきまでエロティックに表情を決めていた美女達が女の本性ムキ出しって感じで、殴りあうんです！

——まさにキャットファイトだ(笑)。

小室 試合じゃないんですよ。もう、本当。グローブがすっぽ抜けてもお構いなし。相手の髪の毛とか掴んだりして。それで取っ組み合っている最中に巨乳がポロリと(笑)。

——ドキッ女だらけの……の、ノリだ〜！

小室 そうそう。水中女相撲とかね。それでまた絡み合っている図がエロインです(笑)こんな格好しちゃうんかい!?って。

——で、それが女子ボクシングの魅力ってわけですか？

小室 ……違うな(笑)。いや、確かに今言ったのも魅力と言えば魅力なんですが。そうですね、ボクシングの醍醐味と言えばやっぱり派手なKOシーンだったりしますよね？

——はい。K—1なんかも、それ目当てで見ちゃう所ってありますし。

小室 キャットのボクシングも、そこが一番の見所なんでしょう。関節技で悲鳴をあげながらギブアップっていうのも確かに良いんですが、アッパー決められて失神KOしちゃう女性ってのにも魅力を感じるわけなんですよ、はい(笑)。

——「可哀想〜」とかではなく？

小室 だって相手も女性ですよ？女性同士が逃げられないリングの上で殴りあうんですよ。どちらかがKOするまで。たまらないでしょう？

——サ、サドッ気強いなぁ……。

小室 ガクン！って膝から崩れていく金髪水着美女。絶対にハマりますって!!

——男性がそういう状況でも感じませんよね？

小室 当たり前じゃないですか！(苦笑)。美女同士のそういうシチュエーションが良いんだなあ。終始、優勢だった美女が油断して、ラッキーパンチを食らって、自分でも信じられないKOを演じてしまうぅっ！いや、本当に良いんですってば!!

——(興奮してるなあ)……。

小室 とにかく、美女がいっぱいでKOシーン満載のキャットボクシング、ぜひ一度観てみてください!!

今月のオススメビデオです!!

GALAXY



ド迫力ボディーの金髪美女達によるキャットボクシング興行の模様をノーカットで収録。美女の失神シーンからお約束のおっぱいポロリ、最後は興奮した男性までリングに上がり、くんづほぐれつ大混乱！(約75分)¥4800

THE STEEL KITTENS



スーパーボディのレイとムチムチバストが自慢のクリスティがガンガン打ち合うボクシングマッチ。強烈な左フックに倒れた敗者が痛みにのたうち回るラストシーンはボクシングファンならずとも見逃せない！(約30分)¥7900

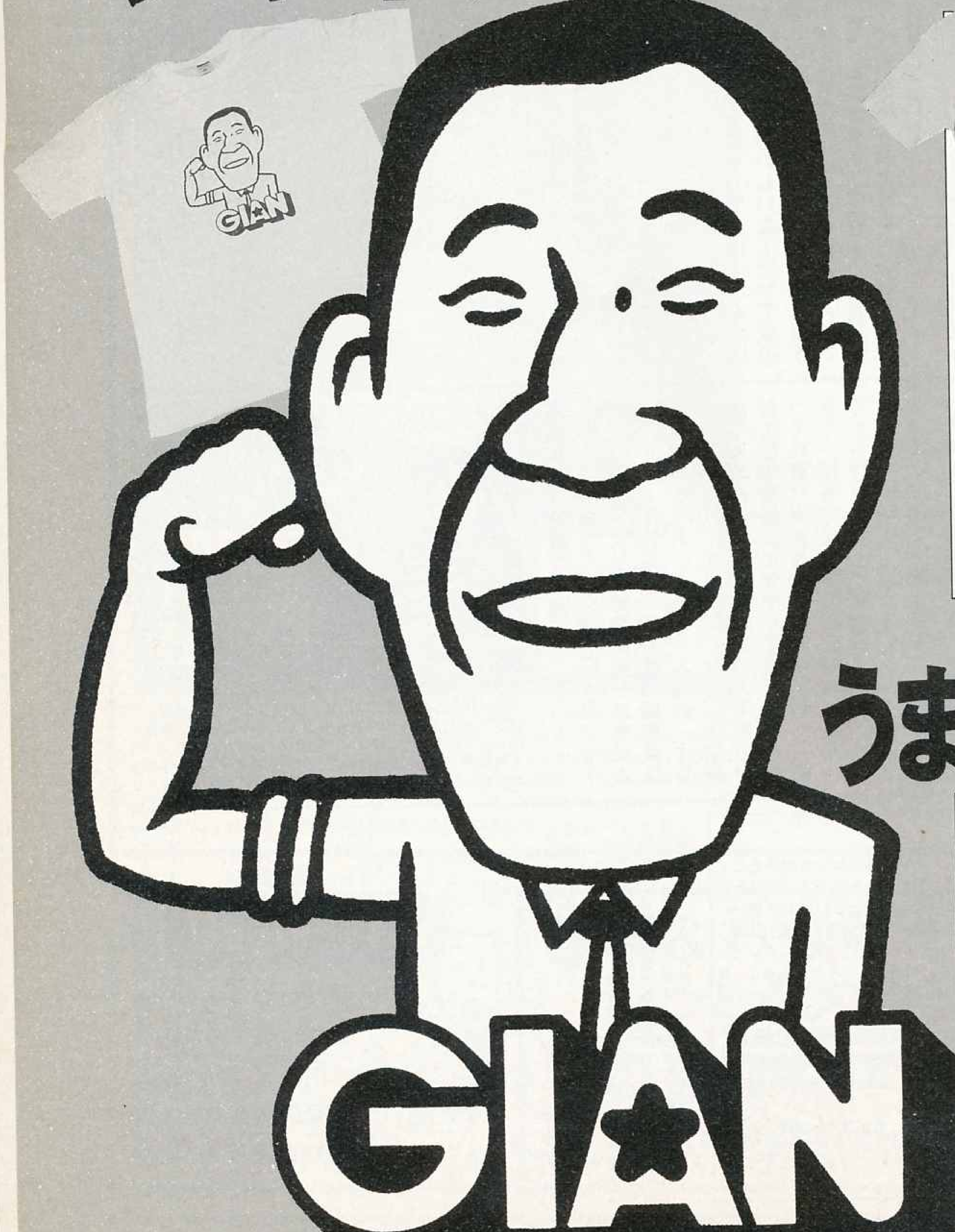
オレ(珍)に興味あるやろ？よっしゃ特別に教えたろ！●「死んだ魚の目はもう見たくない」と魚屋を飛び出し『紙プロ』入社。しかし仕事のダメさ加減を会長から指摘され、落ち込み、最近は本人が死んだ魚の目になっている本誌・ダメ新人、ふぅー。ま、そんなんどうでもええやんけ！頑張るでぇ〜！

DOKU者PAGE



ギョ！　まいど！『紙プロ』新人の幸田珍（元・魚屋）や！　どや、ええ顔やろ？　この顔は『大川興業』の若手も羨ましがる程なんやでぇ～！　そんなオレが今回から読者ページを担当！　ハガキも魚もサバいたんでぇ～。まかしとき！

ジャイアント馬場三回忌追悼＆幸田珍読者ページ初担当企画
ジャイアント読者サービス







作・中川雅博

ギョ！　前号で紹介し多数のご応募を頂いた“ＧＫ”Ｔシャツ。「あれ欲しいな。ハガキ送ったら貰えるの？」とＧＫ本人が言ってたと『ゴング』の記者から聞き、（ハガキなんて来てないけど）勝手に当選者はＧＫこと『ゴング』編集長・金沢克彦さん本人に決定！

なお授与式を行いたく思いますので、ご多忙とは思いますが『紙プロ』読者ページ担当の幸田珍（練習生）までご連絡下さ～い。ＧＫさんボクはいつでも準備して待ってるでぇ～！

うまいやん！



東京都・白倉秀崇・31歳・５点
ギョ！　スンバラシイやん。こんなにスッキリと猪木さんを表すなんて。でもなんかオレ的にはビッビッとくるもんが、あともうちょっと欲しかった。もう一丁やでぇ～！

埼玉県・中川雅博・23歳・20点
ギョ！ スンバラシイやろ？ どっかの雑誌で作ってるアントンTシャツにも負けず劣らずや！ よっしゃー！　これで一発儲けたろ！ 早速元子さんと交渉や！ すぐ、欲しい？ よし、プレゼントしたろ！ P175の『応募要項』を読んで“ババシャツ希望”って書いて送ってきてや！

オレ（珍）に興味あるやろ？　よっしゃ特別に教えたろ！ ●「死んだ魚の目はもう見たくない」と魚屋を飛び出し『紙プロ』入社。しかし仕事のダメさ加減を会長から指摘され、落ち込み、最近は本人が死んだ魚の目になっている本誌・ダメ新人、ふぅー。ま、そんなんどうでもええやんけ！　頑張るでぇ～！



見てみーっ、この投げられっぷり！ オレがプレゼントを渡した途端、「なめてんのか？」と言わんばかりの怒りで体を震わすアーケン選手。「ギョ！ やられる」と思った瞬間、島田レフェリーの「いけぇ〜っ！」の掛け声と共にアーケン選手の凄まじい暴行が！ なんでこんな目にあわなアカンねん、おかげでいまだにムチウチや！



ギョ！ なぜかムエタイキャラのオレは勇ましくリング上へ。この時はまだ『ブルーリボン賞』のプレゼンテーターのようにウィットに富んだジョークでアーケン選手と笑顔で握手をするものと思っていた。まさか、あのような惨劇が起こるとは……。

DOKU PAGE

アーバン・ケン、本誌記者に暴行！

ギョ！ オレ幸田珍がリングに上がったでぇ〜。毎年『バトラーツ』最終興行で今年最も活躍した選手に各マスコミから記念品が贈られてるんや。オレも他誌のベテラン記者に混ざって、新人ながら『紙プロ』代表として、キッチリとアーバン・ケン選手（以下アーケン）に記念品贈呈。『紙プロ』大賞のアーケン選手は眉ナシ＆モヒカンのルックスにくわえ、前へ出まくるファイトで昨年からブレイクの兆しが。今年さらなる飛躍を期待するには、さらに強烈な髪型と眉毛が必要と勝手に判断！ さっそく東急ハンズでプレゼントのパンチパーマのヅラ＆眉毛マーカー調達！ どうやらそれが余計なお節介だったようや……。

語ってもらおうやないかい！

★川田VS健介（10・9）は互いに看板を賭けるに相応しいぶつかり合い。「企業プロレス」新日に武骨を持ってぶつかる川田の姿が実にいい。あとは新日の取り囲みに屈せぬこと！（神奈川県・横山敬・30歳）3点

ギョ！ 「新日に武骨を持って〜」って、深い見方してんねんな。今でも空手バカ（空手をやっていたが、空手のことすらもロクに知らないという意味での本物のバカ野郎）のオレとしては、「今のは効いてへんやろ？ 今のは痛いやろ？」と思っただけでした。勉強になったでぇ〜、プロレスって難しいなぁ〜。ありがとさん。

★本当に本当に小川直也のことが好きなので、本当に涙が出るほど喜びました。小川さんの生の声が聞けてうれしかったです。毎日小川さんのこと考えてます。生徒からあきられていますけど、毎日小川さんの話をしています。大好きです。奥さんと子供がいるとわかった時はかなりショックで泣いてしまいました。でも好きです。（香川県 山下由衣 24歳 塾講師・3点）

ギョ！ そんなに好きなんや？ ワシなんてどう？ けっこう、男前やで。姉ちゃん、ババ濡れちゃうんかい？ 「PS小川さんのホームページってあるんですか？」って書いてあったけど、あるっちゅうねん、ボケ！ オレはどこか知らんけどな（なぜかくわえタバコで不敵な笑い）。ところで、チョロさ〜ん。インターネットって、どうやって見るんでしたっけ？ 3ケ月この会社にいるけど、何も覚えられんわ！ ホント、この会社は教育がなってないっちゅうねん！ 責任者、出てこ〜い！ あっ……オレの頭が悪いのか？



大阪府・英加直純・4点
ギョ！ これ切り絵でやってんねんで、切り絵！ みんな知ってた？ 知ってた、あ、そう。でも珍プロデュースでさらにビッグにしたる！ まかしときや！



埼玉県・中川雅博・23歳・4点
ギョ！ オレも野人・中西みたいにこんな美人と結婚したいわ。ちなみに典子夫人のお父さんはロッテの監督を辞める時に「もっと強いチームで采配を振るいたかった」の迷言を吐いた近藤昭仁さんや。

★大阪で女子大生やってた頃「へんな店やねー。でも、おいしいなー」って友達と言ってたんですけど、それがミスターヒトさんのお店とは知りませんでした。（中略）私はヤマケン似の175センチです。（京都府・淵上雅世・23歳・女性自衛官）3点

ギョ！ ウソやろ？ ヤマケン似の女なんて想像もつかへんわ。確かめてみたいから写真送って。待ってるでぇ〜。でも女性自衛官って、結構そそるやん！ 今度おっちゃんとデートしょ、デート！

★『ミスターヒト インタビュー』が面白かったです。川田の人間性に言及しているところ。あとマーテルとアパートに泊まった話は面白すぎるぞ！（東京都・高橋和行・33歳）3点

ギョ！ そんなとこあった？ それより伏せ字の部分が気になってんねん。でも他の編集員はオレのことバカにしくさって。みんな、絶対教えてくれへんねん。オレ、大学院出てんねんぞ！ 大学院！ 大学院で伊勢エビの養殖（エサやってただけ）をやってた男、ナメとったらアカンぞ！ コラ！ 読者で伏せ字の部分知ってる人いてたら教えてぇ〜。頼むでぇ〜！



東京都・白鳥大輔・26歳・4点
ギョ！ 腕を折る瞬間の猪木さんの苦悩に満ちた顔と結構のんきなT・J・シンの顔がええんとちゃう。でもこのシンの顔はあんまり似てないでぇ〜。でも面白いから問題ナシや！

★『コマンドサンボ』のページが面白かったです。いままでの本の中でも特にマニアックになってきた気がします。こうした記事を読むことにより、プロレス、KOKなどが二倍、三倍楽しくなるからです。（静岡県・佐野伸治・29歳）3点

ギョ！ 評判のいい記事を書く堀江ガンツも酒飲んだらエゲツナイでぇ〜。リングス忘年会でも泥酔して顔に落書き（前田CEO作）、事務所に帰ってもイスをブン投げ「オレは最高の編集者だ！」と絶叫。スモーノブが「自己採点で何点？」の問いに「二万て〜ん」。ほんま最悪な酔っぱらいやで！ そんなら、オレは0点以下やろな……はぁ〜、この会社、タメ息しか出てこんわ。はぁ〜。



青森県・青木雄大・4点
年末に行われた『紙プロ』トークイベントでの放映用にオレはジャイ子さんの寝込みをカメラ片手に勝手に襲撃！ ギョ！ 見てびっくりや！ 噂通りキティに溢れかえる巨人部屋！ しかも寝顔は強烈、寝てる姿はまさにタイの寝釈迦ばりの巨大さや！ ちょっとひいたで、マジで。

紙のKGB

紙のK・G・Bとは!?

全国にいる『紙プロ』読者達が諜報員になって街でテレビで見かけたレスラーの情報や、各地方に受け継がれているレスラーの伝説や豪快なエピソードを募集する企画や！ タレコミ先はP139を参照。待ってるでぇ〜！

今月のタレコミ

★先日新宿で吉●豊をみました。キャバ嬢っぽい女の子を二人連れてデレデレしていました。頭をバンダナですっぽりと隠し、やっぱりあの髪型は吉●自身も恥ずかしいんだと思いました。（東京都・匿名希望・28歳）3点

■キャバ嬢といてデレデレするのはするのは当然やろ？ オレは最近フィリピンパブにハマってハマってどうしたらええんやろ？ ユキ（本名 アロナ）ちゃん金が入ったら行くから待っててや！

★先日NHK教育でやっていた『シリーズ 日本の母』に我らが藤波社長が登場。「小さい頃は内気で同学年にも話しかけられず、年下の子とばっかり遊んでいた」と実に「やっぱり」な発言。大爆笑させていただきました。（青森県・青木雄大・25歳）3点

■オチまでついた完璧な文章を書かれたら、オレの立場がないやないかい！ もうちょっとオレの立場も考えてや



悲しみの街29・鶴太郎・アントニオ文集・100歳・4点
ギョ！ 今回もアントニオ文集は本誌への思いを表すように20作品以上の作品を投稿！ めったにお目にかかれない会長＆吉田豪の似顔絵を紹介するでぇ〜。特に吉田豪のアイドル本を持ってるところなんて細部までリアルに書ききってるやないかい！ するどいのぉ〜！

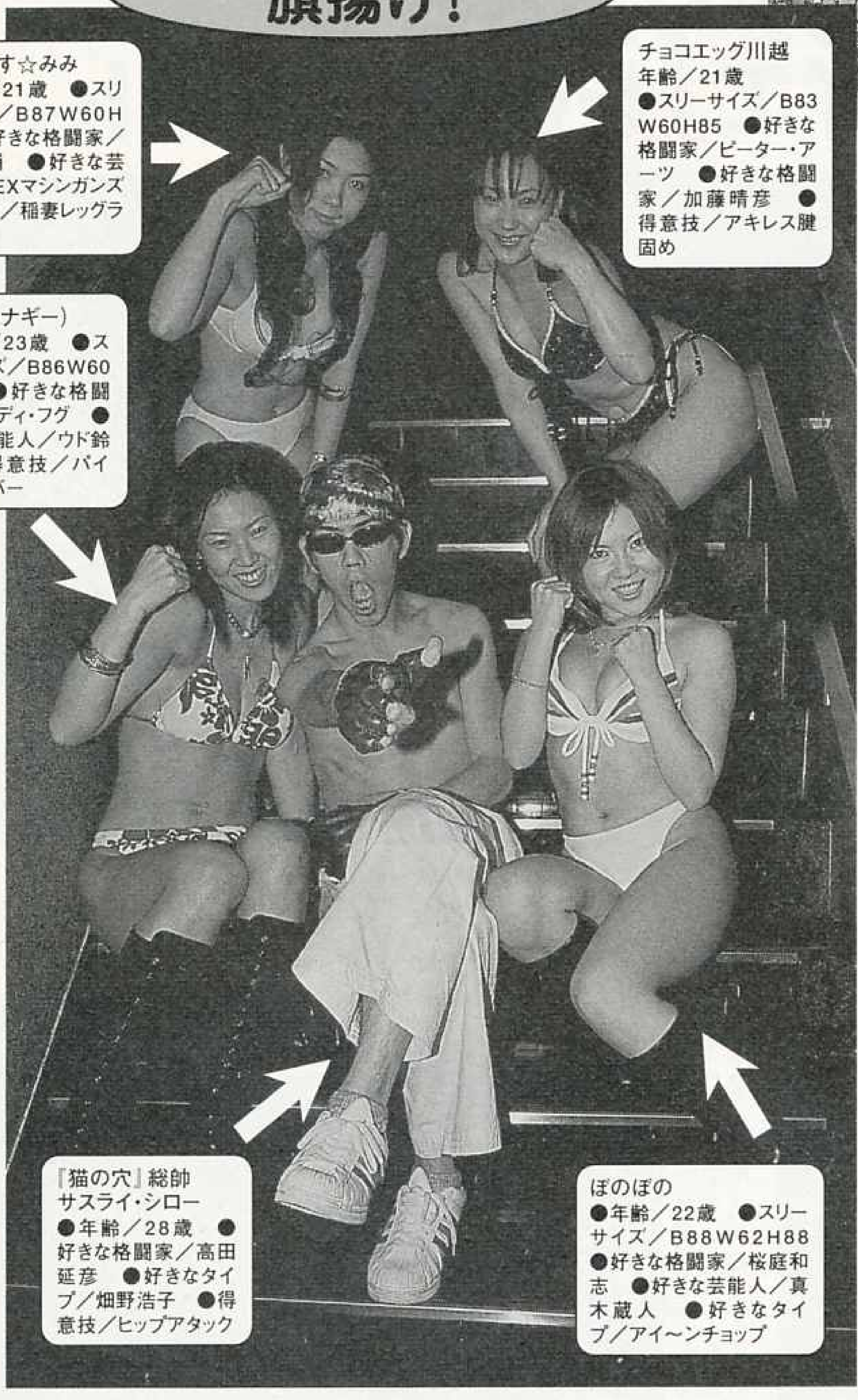
オイ、オイ、オイ、俺は、いつ何時でも復活するん蛇！

グレート・チョロのハガキ劇場

オイ、オイ、オイ、だいぶ年は明けてしまったが、あけましてェ、あけましてェ、あけましてェ、(ゼエゼエと息を切らし) おめでとう、おめでとう、おめでとう、ございま〜〜す！ オイお前らッ、お前ら、よ〜く聞け！ 今年の干支は蛇年蛇！ じゃあじゃあウルサイ、グレート・チョロの時代なんじゃあ！ ちょっとだけ復活するん蛇！

21世紀マット界の台風の目！『猫の穴』旗揚げ！


昨年の12月28日に行われたイベント『紙プロ・ボンバイエ』で突如『猫の穴』旗揚げ会見が行われた



先日突如、その活動の母体でもあった『スコラ』を解雇されたサスライ・シロー率いる、謎のキャットファイト・プロダクション、『猫の穴』。昨年8月、タウンホールで行われた「CFGP2000」のリングで、チョロと対戦、勝利をおさめたメイプルちゃんを筆頭に「ビジュアル重視の子猫ちゃん」たちを揃えて、遂に本格始動！「年内中の単独興行を目指す」とシロー。２月にはフジＴＶの深夜番組、そして新宿プロレスにも参戦（予定）が決まり、いよいよその存在から目が離せなくなってきた。

オイ、オイ、オイ、誰も覚えちゃいないかもしれんが、『紙プロNO.30』に載っているとおり、キャットファイトでサスライ・シローとやらが連れてきたメイプルちゃんと闘い、俺は、俺は、俺は、見事に敗れてしまったんじゃあ！ そして、俺は潔く『ハガキ劇場』を終わらせ、新人の水戸泉や幸田珍に読者ページを任せたわけだが、ハガキの数は激減してしまったんじゃあ！ ちっちゃい頃の『紙プロ』からのハガキ職人・塩本さんからの投稿もすっかり途絶えてしまった。塩本さん、いったいぜんたい、どういうことなん蛇！ さらに、札幌の藤原章男さんからは「チョロ復帰待望論！（オレだけ？）」というハガキが届いた！（一通だけじゃが）。お前らが望むなら、俺は、いつ何時でも復活するん蛇！ そして最後に、お前らに重大発表がある。横の写真を見ればわかるとおり、遂にキャットファイト・プロダクション『猫の穴』が旗揚げした。俺は『猫の穴』プロデューサーとして、21世紀はキャットファイト業界を勝手に盛り上げていくことに決めたん蛇！ 興味のある子猫ちゃん、『ハガキ劇場』まで連絡を待ってるぜよ！

ちょっと遅れたけど、年賀状紹介やでぇ〜！



浜口京子
ギョ！ この年賀状が昔に撮った写真と知らず、「ギョ？ 浜口さんってこんなに若かった？」と真剣に悩んだオレって本物のバカ。でも、よう見たら洒落た年賀状やで、ほんま！ このアイデアってパクってもええんかな？



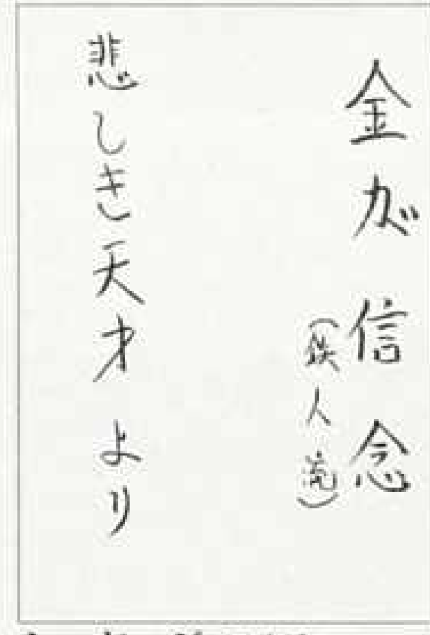
毒蝮筋太郎？
ギョ！ なぜか毒蝮師匠の姓になっている筋太郎さん。なにも知らないオレは思わず「ギョ！ 親子やったんや」と思ったやんか！ もう冗談きついで、もうちょっとでバカってばれるところやったわ、ふぅー。え？ もうバレてんの！ ふぅー。



葛西純
ギョ！ 本誌・水戸泉が勝手に親友だと決めつけている大日の葛西選手はかつて本誌でサル・ザ・マンの名で活躍したイラスト職人らしいで。レスリングテクニック同様にイラストも成長著しいなぁ〜！

籔下めぐみ
ギョ！「機会あったらJd'の試合見に来て下さい」とのメッセージが。「オレ達はファンか？」と本誌・チョロ（最近SMデビュー）がツッコミを入れてたでぇ〜！ でも『Remix』格好良かったわ。最高やん！





セッド・ジニアス
ギョ！「金が信念」は「謹賀新年」と掛かっている事を理解するのに約５分かかったオレって本物のバカ。ジニアスさん今年も「フゥーッ！ワッチュワナドゥ〜」っていつものノリで爆走してや！ 期待してまっせぇ〜！

はちみつ二郎
「山口さんに続き、ハワイで太陽ケアにも泉田と間違えられました。今年もよろしくお願いします。」と今年も"泉田ネタ"が絶好調のはちみつ二郎さん。今年もガンガン間違われてや！





水道橋博士（浅草キッド）
ギョ！ なんでこれが水道橋博士の年賀状？って思った人はよ〜く後ろの観客を見てや。そう、一緒にダーッ！をやってるのが水道橋博士なんやでぇ〜。凝ってるなぁ〜。

山口雅史（宮尾すすむ長男）
ギョ！「今年はプロレスの仕事をするのことが目標です!!」と不敵なまでのナイススマイルで送っていただいた宮尾すすむ長男・山口雅史さん。いっそのことオレの代わりに『紙プロ』で働くってのはどう？ ウソや、誰がこの座を手放すかい！



意味はないけど

Pointランキング

1位	埼玉県	中川雅博	44点
2位	青森県	青木雄大	21点
2位	住所不定	アントニオ文朱	21点
4位	大阪府	英加直純	9点
4位	東京都	白倉秀崇	9点

投稿＆ハガキ その他もろもろ大募集！

Doku者Pageでは、皆さんからのご意見、ご感想、イラスト、投稿写真、恋文、罵詈雑言まで、様々なメッセージをお待ちしています。なんなら勝手に新コーナーを作ってくれてもかまいません。迷わず送ってこーい！ すべての宛先は…〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702 (株) ダブルクロス『ババ濡れやんけ！』係まで。

KamipuroWalker

来てくれた人、どうもアリガトーッ！
12・28「紙プロ・ボンバイエ」を徹底リポート





イベントの核となったターザン山本、本誌鬼畜編集長山口日昇、吉田豪の3人の絡みは毒舌三昧この上なし！

『紙プロ』の20世紀を締めくくるべく登場して頂いた春一番。20世紀最後だけあって、いつも以上に気合いの入った（ように見えた）「元気ですかーっ！」（埼玉スーパーアリーナバージョン）の後に、20世紀最後の名著「馬鹿になれ」のポエムを朗読！ その後、ラストの「ダーッ！」に！ 会場中が鳥肌ものの興奮に包まれ無事終焉。アリガトー。



昨年度の女子MVPとして藪下めぐみも登場！ ビデオ上映されたリミックスの試合ぶりに場内が改めて感動！



当初は忘年会にのみ参加予定だったのに、イベントの方にも快く出演してくれたタノムサク鳥羽。ありがとうございました。

2012・28ロフトプラスワン世紀最後の大炎上！

「何でもいいから凄ェイベントをやってくれ」というアントンからの言葉を頂き（夢の中で）、やりますかーっ！ ということで20世紀のラストを飾るべく開催された『紙プロボンバイエ』。

この日、出演してくれたゲストは谷津嘉章、藪下めぐみ、篠社長、タノムサク鳥羽、そして当然のことのようにやって来たターザン山本！ さらに島田レフェリー、セッド・ジニアス、浅野社長、高木三四郎、杉作J太郎、大刀光、アレク、サクがビデオ出演！ 本誌編集部員ガンツ氏の泥酔ビデオ（リングスの忘年会が原因と思われる史上空前の酔っぱらいぶりを収録）＆寝起きを襲うべく深夜の4時にジャイ子宅に潜入した幸田珍という果たして喜ぶ人がいるのかどうか疑問なビデオ上映。ジャイ子がジャンケンプレゼントコーナーを担当し、これから「猫の穴」でデビュー予定のキャットファイター（詳しくはP136参照）まで水着姿で登場するなど、実に『紙プロ』らしいゴッタ煮空間なイベントとなったのだった。

さらに、やたらと広いロフトプラスワンのスタッフの控え室では昨年の『紙プロ』に関わった関係者＆レスラーが忘年会を繰り広げ、スタッフにとっては実に過酷なイベントとなったのだが、今世紀最後の大一番を盛り上げてくれた関係者＆お客さんどうもアリガトーッ！ くれぐれもこの日会場で耳にしたことをインターネットで流すのは止めて下さい。

イベント続行中にも関わらず、スタッフルームでは忘年会が開催されていたため、キャバクラ同様のはしゃぎぶりを見せるターザンをはじめ、控え室の方が盛り上がっている時間帯もあったようですが、最後は『紙プロ』イベントには欠かせない春一番が登場！ ポエム（猪木詩集より抜粋）朗読からのダーッ！で『紙プロ』の20世紀は幕を閉じたのであった。というわけで、21世紀も『紙プロ』をよろしく！（水戸泉）

EVENT 格闘イベント通信

12/30 [TIGER PLACE] WKネットワーク忘年会



昨年は『ＰＲＩＤＥ』、修斗、リングス、パンクラス、コンテンダーズ等々、様々なリングで暴れ回ったWKネットワークの忘年会が１月オープンの『ＴＩＧＥＲ ＰＬＡＣＥ』で開催された。忘年会とはいうものの、翌日の『猪木祭り』へ急遽、小路晃＆宇野薫の参戦が決定したため、さながら壮行会モード。そんな中、突如、小路VS宇野のプロレスルールでの試合が実現。空中殺法あり場外乱闘ありの一戦は意表をついた高角度前方回転エビ固めで宇野の勝利。コーナーに駆け上がりジャンボばりに「オー！オー！オー！」とアピールした星の王子様。見事デビュー戦を飾った!?

12/18 [新宿ロフトプラスワン] みちのくプロレストークライブ



年末恒例と成りつつある、みちプロのトークライブが新宿ロフトプラスワンで行われた。「みちプロはホモは禁止！」など意味深発言も飛び出した、このイベント。メインは何といってもサスケが生で「セパラドス」を熱唱（振り付き）したシーンだろう。前号で「来年ブレイクするのは小路選手ですよォォォ！」と言っていたサスケだが、まさか『猪木祭り』で松井と組んで小路＆宇野組と対戦するとは、さすがのサスケ社長でも予言できなかったに違いない。ちなみに、この日のサスケが「2001年ブレイクする選手」として名前を挙げたのは国際プロモーションの佐野直だった……。

12/13 [渋谷ロックウエスト] 『PRIDE』とは何か?



サダハルンバが毎回ゲストしてクレジットされながらも欠席することが有名になりつつある『PRIDE』開催直前の恒例イベント。この日も予想通りにサダハルンバが欠席し、代役としてＳｈｏｗ氏が登場したのだが、そんなことよりも10日後にメッツァー戦を控えながらも、会場にひょっこり遊びに来たアレクがメッツァーに見事な完敗！　8月『PRIDE.10』開催時にもこのイベントに登場したグッドリッジがアイブルに秒殺されていることから、このイベントが、選手にとって鬼門のイベントになりつつあることを痛感した次第である。

NEWS プロレス関連ニュース入れ込み情報

■S.P.W.F.2001年第１回新人募集

谷津嘉章率いるS.P.W.F.では第１回新人募集を行います。（新人レスラー、営業スタッフ、レフェリー、リングアナウンサー）

［応募規定］18才以上の健康な男女

身長170ｃｍ以上、体重の規定は特になし（女子、レスラー志望以外は身長、体重の規定なし）

［応募方法］履歴書（身長、体重、スポーツ歴を明記）、全身の写真（男子は上半身裸）、80円切手を同封し、下記の住所までお送りください。

〒299-4301千葉県長生郡一宮町一宮10073-2

S.P.W.F.プロレス「新人募集」係までなっ！

●

■オフィシャルプロレスカード発売記念サイン会

さくら堂からみちのく＆バトラーツ、全日本女子プロレスのオフィシャルトレカが発売！

今回の発売を記念したサイン会の開催が決定！

［全女］１月30日（火）18:30〜19:30予定　さくらや新宿ホビー館１Ｆ

１月31日（水）17:00〜19:30予定

池袋パルコ６Ｆ　ワールドスポーツプラザ

ゲスト：脇澤美穂＆納見佳容

［バトラーツ］２月９日（金）18:00〜19:30予定　さくらや新宿ホビー館１Ｆ

ゲスト：アレクサンダー大塚、島田裕二

お問い合わせ：さくら堂

（TEL.03-5686-7671）

■アマチュアコンテンダーズ開催!

［大会名］ＣＣＣ.ver.1.1

［場所］GCM FIGETING STUDIO TIGER PLACE

神奈川県横浜市鶴見区尻手２−１−54

ＪＲ南部線　尻手駅より徒歩８分

TEL.045-570-5511

［日時］2001年３月18日（日）

10:00〜集合、体重測定、ドクターチェック

11:00〜試合開始

［階級］フェザー級60kg以下、ライト級65kg以下、ウェルタ級70kg以下、ミドル級75kg以下、ライトヘビー級85kg以下、クルーザー級95kg以下、ヘビー級95kg以上とする。

ルール：１試合３分２ラウンドの階級別トーナメントその他ルールに関してはクラスＣコンテンダーズルールに準ずる。

［参加費］3000円

［参加方法］電話、ＦＡＸもしくは葉書でお申し込み下さい。その後、書類が送付されますので、必要事項を記入の上返送して下さい。組み合わせの後、トーナメント表が発送されます。

［お申し込み］

〒103-0021　東京都中央区日本橋本石町3-3-11

山田ビル５Ｆ

ＧＣＭ　ＣＣＣ係

TEL.03-5200-3511　ＦＡＸ03-5200-0800

■大仁田厚バンド「ひまわり」いよいよ活動開始!

２月14日（水）ひまわりファーストライブ！

［場所］四谷フォーバレー（JR四谷駅下車、新宿通りを新宿方向へ徒歩10分、吉野家のB1）

［時間］20:00〜

［チケット代］1500円（ドリンク代500円）

３月20日（火）ヒマワリロックフェスティバル vol.1

［場所］芝浦スタジオセントギガ

（ゆりかもめ線竹芝駅西出口を出て直進、信号を右折、湾岸道路につきあたったら左）

他の詳細は未定

チケット電話予約２月15日（木）受付開始

ダイプロデュース　TEL.03-5496-4900（お問い合わせもこちらに）

●

■大日本プロレス　山川竜司トークライブ

［日時］２月14日（水）開場17:30 開演18:00

［場所］渋谷ロックウエスト

（渋谷区宇田川町4-7トウセン宇田川町ビル７Ｆ）

※東急ハンズ向かい、ハーレーダビッドソンのお店の７階

［チケット］前売り2000円　当日2500円（共に１ドリンク付き）

［お問い合わせ］

渋谷ロックウエスト（03-5459-7988）

水道橋チャンピオン（03-3221-6237）

DOUBLE CROSS REVIEW

リングス、『PRIDE』、猪木祭り、1・4新日…。20世紀から21世紀にかけて目白押しだったビッグマッチの数々。しかし、人には誰にでも自分だけのビッグマッチが存在する。日夜、格闘ロマンを追い求める編集部員それぞれの心に残ったベスト興行をここで紹介!

12.29　後楽園ホール

J'd



試合でみせた凛々しい表情と打って変わって、リングを下りるとあまりにも普通な丸山。この辺りも「新プロレスラー」たる所以か。

20世紀最後の新人 丸山美和は 21世紀の 「新女子プロレスラー」だ!

ほとんどノーマークだったにもかかわらず、たった一日で多くの人を虜にしてしまった『ReMix』での薮下めぐみ。

あの日の彼女には、先のシドニー五輪大活躍した高橋尚子や田村亮子と同種のスポーツをする女性特有の凛々しく、清清しい美しさがあった。このような輝きというのは、なぜか女子プロレスラーからはなかなか感じられないもので、薮下のブレイクはそういう意味で「空家」を見つけたことによると言ってもいいだろう。

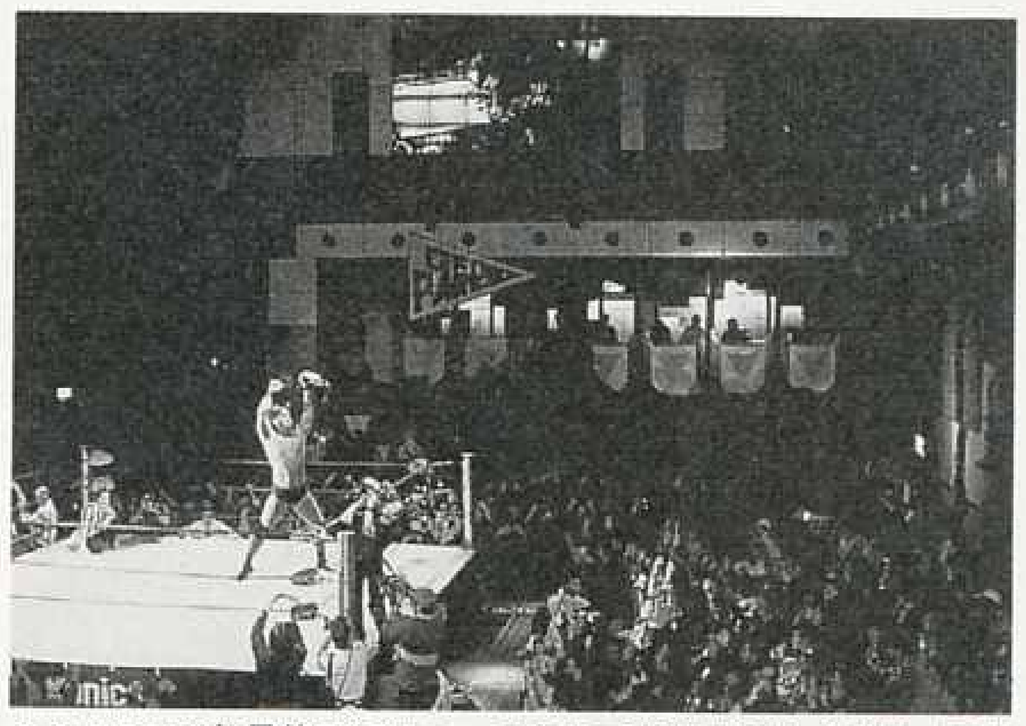
そんな薮下が本職であるプロレスで何を見せてくれるかと思い、初めてJ'dの会場に足を運んでみた。薮下はメインでブラディーとWタイトル戦という絶好の舞台が用意されていたが、残念ながら『ReMix』で見せた凛々しさ、清清しさを感じることはできず。あの輝きを「女子プロレス」という土壌で見せる難しさを改めて痛感したわけだが、意外なところからそれを感じさせてくいれたレスラーが現れた。この日、デビュー戦を迎えた丸山美和である。

対戦相手が"アストレス"の大森彩乃のため、リング上は「対抗戦」を思わせる緊張感。しかも全女式「押さえ込みルール」のため、プロレスの枠内での勝負論が展開され、ある意味『ReMix』的な空間を形勢。そんな中で闘う丸山からは、『ReMix』で薮下に感じたものと、同系統の輝きがビンビン感じられた。とにかくリング上の表情がいい。ナチュラルに感情が表に出て、それが輝きとなっている。これは「純女子プロレス」の中で生まれた、新プロレスラーという奇跡だ。

21世紀は丸山美和が絶対来る!（堀江ガンツ）

12.14　後楽園ジオポリス

DDT



ＤＤＴ2000年最終興行はエース高木三四郎が締めくくり、最後は超満員札止めの観客とともにファイアー！　2001年のインディー界も、三四郎そしてＤＤＴが熱く燃え上がらせることだろう。

2000年ベスト会場は 後楽園ジオポリスに決定! そして、DDT今年は 大会場へ進出!!

DDTの2000年最終興行『NEVER MIND』。とにかくこの大会は凄かった！　何がと言うと、会場がである。

プロレス初進出となった、この日の会場とは、プロレス＆格闘技、そして笑点の収録でお馴染みの後楽園ホールのすぐ横、後楽園ゆうえんち内にある「ジオポリス」。普段はジェットコースターが走ったりする地下遊園地なのである。会場に入ってまずビックリ！　案内されたプレス控室は、なんとジェットコースター乗り場だったのだ。「こんなの初めて♥」と言わせたい野郎共が、女の子をプロレス観戦デートに誘うにはもってこいの会場である。

会場内をぶらりと探索してみると、広いロビー（喫煙可）にはたくさんのモニターが設置されており、タバコを吸いながらの観戦も可能。照明も遊園地というだけあって、近未来を想像させるお洒落なもの。ロビー横のエスカレーター降りると会場後方にはどでかいスクリーンが常設されており、もちろん音響設備も整っている。エンターテインメント団体として映像＆音響効果も重要な要素のDDTにとって、まさにナイスフィット！　キャパも1000人程度収容でき、DDTが週一で使用しているclub「ATOM」よりもグンと広く、多い日も安心。それでいて後楽園ホールより会場費も格安というから、今後、ジオポリスがプロレス会場の新たなメッカとなるのは間違いない。

というわけで、2000年の『紙のプロレス大賞』ベスト会場賞は『ジオポリス』に決定！で、肝心の試合はどうだって？　んなこたぁ、どーだっていいんだよ！（お約束）。（チョロ）

1.7　後楽園ホール

バトラーツ



平成維震軍以来、久々にマット界に登場した男子ビジュアルファイターだ。まだまだ試合は荒削りだが、キラリと光るスピアーはラグビー出身者の意地だろう

現代プロレス界の ラスト・オブ・モヒカン! 極悪フェイスの アーバン・ケンに首ったけ!

見てみ、このツラ！　人間は眉毛を失うことで、ここまでの凄みを手にすることが出来るものなのか？　なぜヤンキーが眉毛を剃るのか、ボクはその原理がようやく理解できた。しかもモヒカンだ。プロレスラーが普通の兄ちゃん化が叫ばれて久しいが、ちょっとこんな顔は町ではまず見かけない。というわけで1月7日の後楽園大会。腕の骨折で欠場していた日高郁人が約3ヶ月ぶりに復帰を果たした。アーバン・ケンとタッグを組んで平直行＆カール・マレンコと激突したのだが、アーケンはボコボコにされながらもとにかく前に出まくる特攻スタイル。平＆カールの技巧派コンビに翻弄されまくっていたがその突撃精神はじつに気持ちいい。結局、日高が治ったばかりの腕を攻められてギブアップ負けを喫した。これに怒ったのが、後輩であり、日高の欠場の穴を埋めてチャンスをゲットしたアーケンだった。

「ナニ負けとんねん、お前！」

この顔で、先輩に向かってそのセリフ。『ビーバップ』みたいでカッコ良過ぎ！　あるいはバトラーツ版「噛ませ犬発言」とでも言うべきか？　早速、両者の遺恨対決が3月1日の後楽園大会で実現することとなった。今まで「巧さ」ばかりが目立っていた日高だが、後輩相手に今度ばかりは「怖さ」を見せつけてくれることだろう。日高はデビュー前、これまたデビュー前だったパンクラス・美濃輪に勝っているだけにその潜在能力が発揮されれば、アッという間に決着がつくことも考えられる。見逃せない！

（坂井ノブ）

『紙プロ』編集部員それぞれの心のベスト興行を伝えたい……

12.17　東京ベイNKホール

修斗



大会が催されたNKホールの正面玄関。修斗人気選手のグッズを購入するための長蛇の列。心なしかルミナカットの輩が目立ち、頂上対決番外戦はルミナの一本勝ち！でも本戦は……。

やるぞッ、修斗特集。その前に取材申請忘るべからず

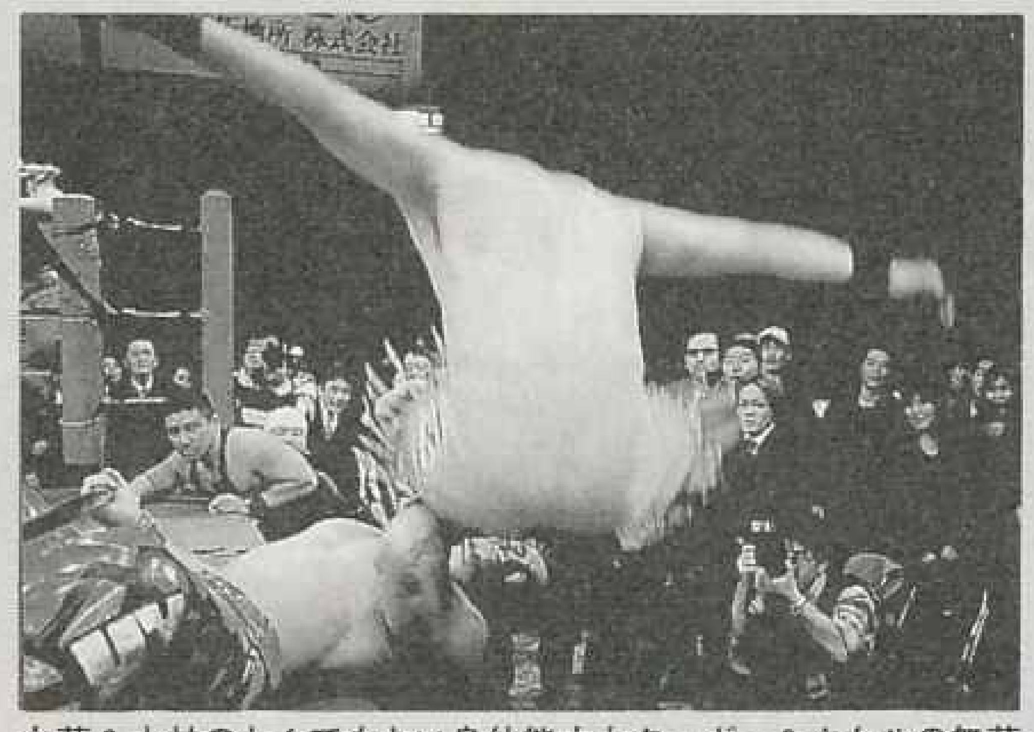
年の瀬もせまり、世間がクリスマスムードー色の師走の日曜日。ボクは、同日開催された『ＳＰＷＦ』の道場マッチとの苦渋の選択を強いられ、20世紀最後の修斗ビッグイベントの観戦取材を決意！『格通』にて日時・場所を確認し、電車を乗り継ぎ、さらには彼女との初デートの地ディズニーランドをも越へＮＫホールへ。

開場時刻がすでに過ぎているにもかかわらず、人の波でごった返した会場前。そこは、ご存じ宇野商店を含むグッズ販売コーナー！　明らかに通常のプロレス会場のそれとは異なるオシャレキッズ達が修斗人気選手達のグッズを買いあさり、会場は開演前からヒートアップ！　仕事にも拘わらず、すでにボクも世紀の一戦を前に大興奮で昇天寸前、いざ開場へ！　っと思いきや、「事前に取材申請されましたか？」といきなりの肩透かし。っていうか、“しゅ・ざ・い・し・ん・せ・い”それって何？　そんなわけで、取材申請の存在及び言葉の意味すら分からないボクは、当然申し込みなんてしているわけもなく、できることは「紙のプロレス編集部のモノですが、ダメですかね？」と呪文のように繰り返すのみ。そんな健気なボクとは裏腹に「無理です」と冷たくあしらう令嬢の言葉。

泣く泣く取材をあきらめ、会場を後にし日本テレビ『スポーツうるぐす』での彼女（31歳）とのテレビ観戦を決意した。宇野の21世紀の軽中量級界の可能性を感じさせる激勝に思わず彼女も「宇野くんってかわいい」と大興奮。そんな彼女を横目に次のデートで修斗を観るのも悪くないと思うボクだった。　（アビバ）

12.26　後楽園ホール

IWA



丸藤＆小林のとんでもない身体能力とクーガー＆タケルの無茶ダイブに感激。またこの対戦が見たいッス、浅野社長たのんまっせ！　なお第二試合では浅野社長の分身・TJシンジュクの姿も

衝撃！浅野社長は男気に溢れる漢だった！「〜なのよ」だけじゃないのよ！

ギョ！　行ってきたでぇ〜！　浅野社長が“え！　うっそーん？”な事件に毎回なぜか巻き込まれる『新宿２丁目劇場』があまりに有名なＩＷＡ。浅野社長の記事を読んで「プッ」と笑ってる輩はオレ以外にも結構いるはずや？　ＩＷＡについて２丁目絡みのバッファロー太野しか知らないオレが無謀にも取材を敢行！

今世紀最後の興行とあってノアを筆頭にＤＤＴ、ＦＭＷ、Ｊｄ’といった様々な団体から豪華な顔ぶれが参戦！　極めつけはドタキャンしたターザン後藤にかわり、浅野社長が拝みに拝み倒して２年３ヶ月ぶりのリング復活となるザ・グレート・カブキ（一夜限りの限定復帰）。『プロレススーパースター列伝』そのまんまの入場はあまりにクール！　メインの丸藤＆小林（ノア）対タケル＆Ａ・クーガーも大熱戦。面白かったなぁＩＷＡ……あれ？　浅野社長は？「〜なのよ」はやらへんの？　そう浅野社長は、滅多なことでは表に出ないらしいのだ。

ちょっと浅野社長とのニアミスを残念に思いながらも、インタビュールームへ。そこには激しい闘いを終えたタケル＆クーガーがコメントをしていた。「ノアとの対戦は浅野社長からの少し早いお年玉だよね」。ギョォォ！（感動）景気低迷と言われるこの時代にノアっていうゴッツイお年玉をあげるやなんて、男らしいやないか、浅野社長！『新宿２丁目劇場』で体を張りまくり（すぎ？）話題を提供、試合では影から見守り選手を立てる。「〜なのよ」なんて聞けへんでも、その親分気質がわかっただけでオレは大満足やった。（エキサイティング幸田）

12.24　後楽園ホール

大日本プロレス



今年の12月2日、横浜アリーナ進出を発表した大日本。デスマッチへの非難は依然として激しいが、ボクは大日本を断固支持！しかし、エースの本間が新春シリーズで謎の欠場中（1月13日現在）!?　急病!?　どーなってるの？教えて！　小鹿サンタ！

祝・横浜アリーナ進出決定！一体どうなる？その日まであと311日！

元祖デスマッチ団体であるＦＭＷがエンターテイメント路線をひた走るようになり、大日本の専売特許となったデスマッチ路線。

いわゆるメジャー所属のプロレスラーの影がどんどん薄くなっていく昨今、大日本が放つ泥臭さ＆何とも言えない切なさにボクは首ったけなのであります。

この日の興行は、愛しのザンディグ率いるＣＺＷが不参加。日本人選手主体のファン感謝イベントということもあって、いつもの泥臭さ＆バイオレンス度は影を潜めぎみでしたが、切なさは相変わらず健在。その切なさの理由はと言うと、メイン終了後に行われた「ＢＪバトルロワイアル」に尽きるでしょう。まずは社長でありながらもサンタのコスプレで登場した小鹿社長が切なくてよかった。その小鹿サンタから配られる紙袋の中に入っている凶器で選手が闘いを繰り広げるという試合形式。それがもちろん今年の正月映画のパクリであることは一目瞭然。さらにパクリ具合を増幅させるためにモニターで映画同様のルール説明が上映されたんですが、大日本が後楽園でモニターを使用したのが、自分の記憶では初めてだったところが、また切なすぎ。紙袋の中身の数々は、セーラー服、ハリセン、座布団、ピコピコハンマーといった類ばかりだったところも最高だ。

「ネガティブなものを強引にポジティブに捉えることよりも、ネガティブなものはネガティブに受け止めることこそポジティブである」。敬愛する作家兼音楽家のそんな言葉を思い出した独身最後のクリスマス・イブ。　（水戸泉）

私、スモーノブは体力の限界ッ!!(涙)

気力も無くなり、引退したくなったときに

この雑誌を読むと元気が出るでごわす!!



紙のプロレス

本誌バックナンバー通販のお知らせ!!



第5号
特集 たたかいグランプリ

特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男／ロングインタビュー馳浩／デビル雅美vs氏神一番／脅威の連載陣！ 高田文夫、ナンシー関、浅草キッド



第8号
特集 さらば新日本プロレス

ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た



第11号
特集 狂気とは何か?

怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里／プチ特集『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記



第12号
特集 色気とは何か?

村松友　が前田日明を語る！／「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会／蝶野正洋も登場！／色気王A・猪木も登場



第13号
特集 道場破りとは何か?

安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画　山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場



第14号
特集 神秘とは何か?

佐山聡、大槻ケンヂ、ブロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る！／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行！



第15号
特集 インディペンデントの逆襲

インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人　高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー



第16号
特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的昭和新日総力検証
マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談



第17号
特集 実況パワフル北朝鮮

猪木×永島のナマハゲ対談(©大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!?　ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」



第18号
特集 高田延彦さんへ愛をこめて

引退宣言の読み方座談会／サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場！／新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発！



第19号
特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生！／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー



第20号
特集 たたかいグランプリ

真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー／山口昇と東京シュガーベイブ結成記念　ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場



第21号
特集 幻的格闘技

古武道を通じてプロレスを考えよう！　前田日明も登場！　スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場！／高田文夫、ユセフ・トルコが登場



第22号
特集 この人が喝っ!!

巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号



猪木とは何か?

スキャンダル…ていた時期の猪木を直撃！　どうって…よ！　村松友視、立川談志、吉発仕掛人・…が登場…PKO発言を誌上再録

完売



パンクラス公式読本［矛］

97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成！／なぜか突然、佐山聡が登場！／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載



パンクラス公式読本［盾］

97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!



極真とは何か?

不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃！／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー



紙の前田日明
インタビューという名のエネルギー史

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録！／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録！／完全保存版

元気になりたい人のための申込み方法

●現在は1号～4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か?　キラー編』は完売しました。ノーダウト!!　●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号～22号は780円となります。　●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。　●送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります。　●9号、10号、『猪木とは何か?』、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留送り先】
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「バックナンバー通販」まで

【郵便振替振込先】
00130-3-769154　（株）ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。
※必ず本誌かRADICALかを明記してください。

★12.23ノア有明大会　★12.31猪木祭り　★1.13ノア大阪大会

世紀をまたいだ3大決戦から見えたもの

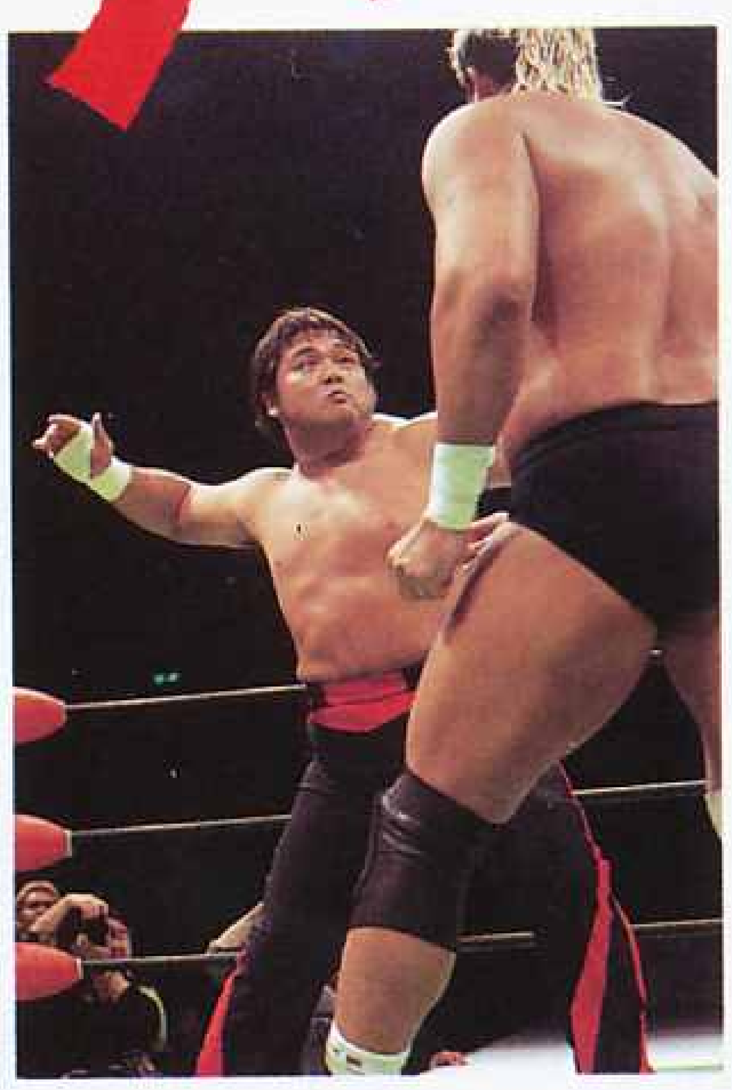


純プロレス＝？新プロレス



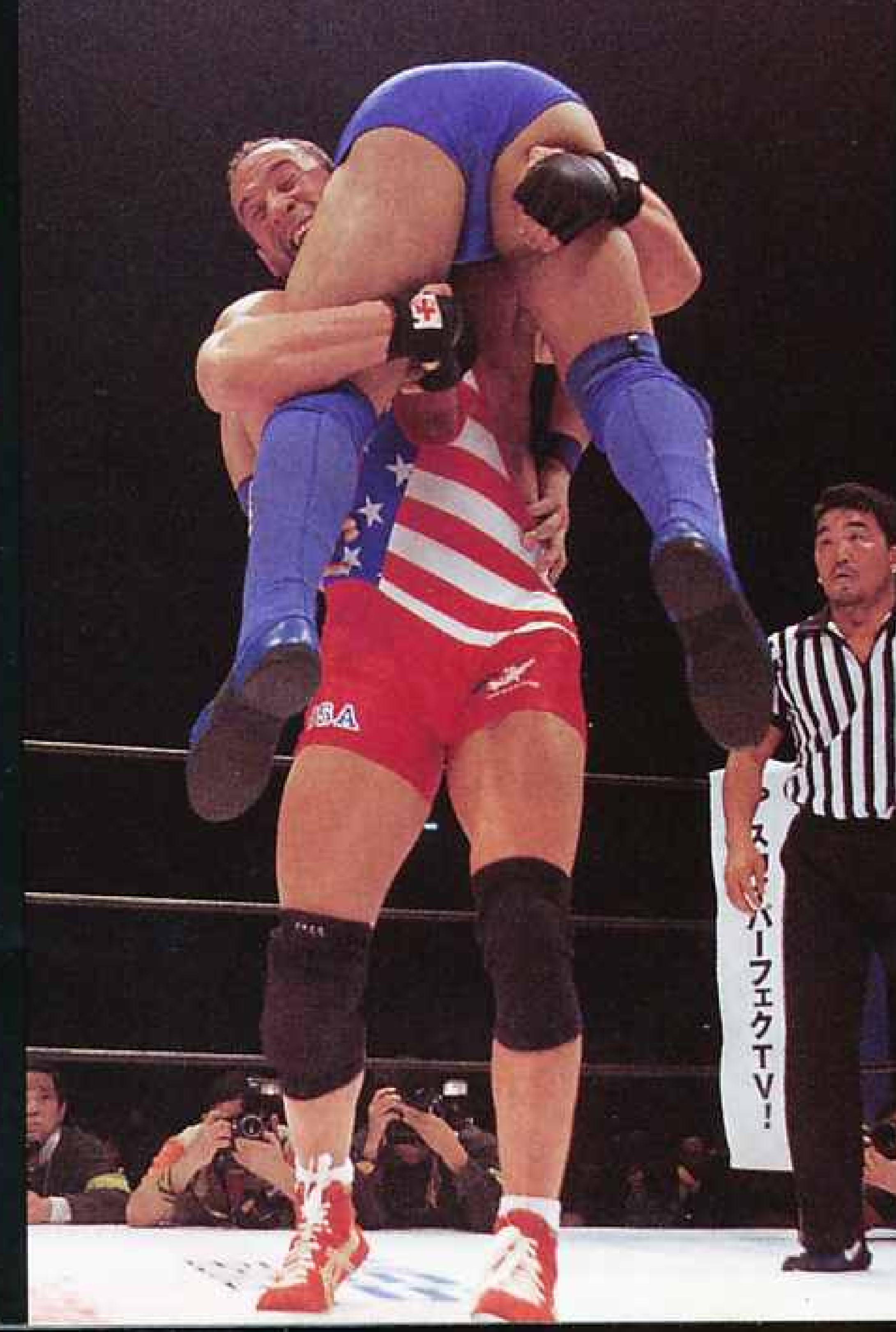
『プロレス』ってなんだろう？

破壊王初参戦と『PRIDE』との興行戦争で注目を集めたノア有明大会。総合格闘家がプロレスをする『猪木祭り』。橋本と三沢が初対決のノア大阪大会。世紀をまたいだ三大決戦から見えてきたプロレス。20世紀が終わり、新世紀のマット界が動き始めた。"純プロレス"？"新プロレス"？　この機会に改めて考えてみた。『プロレス』ってなんだろう？









キャンダルである!

Millennium Fighting Arts
INOKI BOM-BA-YE
12.31 大阪ドーム

●小川直也	1分38秒 裸絞め	安田忠夫●



"猪木プロレス"とはスキャ

12.31 小川VS安田戦
桜庭VSカシン戦から感じたこと

文／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi
撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku



「いつ何時でもモチベーションを高める」という猪木イズムをいま最も体現している小川。この日も佐竹戦と同じ目で入場。

小川の試合は、決して"仕掛け倒れ"に終わらないエネルギーに溢れている

プロレスの世界では、見ている人が受け取る芯にスキャンダルというものがある――。『私、プロレスの味方です』を書いた村松友視さんは、かつてそう言っていた。

プロレスというのは、よくも悪くも話題である――。元『週刊ファイト』編集長で、"I編集長"の異名を持つ井上義啓さんはこう言っていた。

「スキャンダル」と「話題」。

"読むプロレス"の偉大なる先駆者2人が言ったプロレス観は、おそらく、ヘソの緒で繋がっているはずだ。

そのプロレス観を、いま、もっともわかりやすく、現代版として提示しているのが小川直也だろう。

小川のプロレスには、常に「スキャンダル」と「話題」、それに加えて「挑発」がある。

2000・12・31――。『INOKI BON―BA―YE』、通称"猪木祭り"が行われた。

初めてプロレスのリングに足を踏み入れる格闘家たちも、思い切りエンジョイしようとしていたし、アントン総帥の世紀をまたいだカウントダウン、闘魂百八つビンタ、そして選手たちによる餅つき等の演出もあった。さらには20世紀の終わりと21世紀の始まりという歴史的一瞬を迎える高揚感から、この日は、独特な"お祭りムード"が会場を包み込んでいた。

その"お祭りムード"を思い切り挑発したのが小川直也だ。

年が明けて新日本プロレスを退団表明した"放浪の荒鷲"安田忠夫と対戦した小川は、花道から、"いつもの"目をして出てきた。三白眼で上目遣いに睨みつける、佐竹雅昭戦で見せた、あの目である。

これは『PRIDE』ではなく、純プロレスの試合だ。しかし、「プロレスとバーリ・トゥードは一緒」というアントン総帥直伝の「闘い観」を持つ小川のボルテージは沸騰しっぱなしだった。

立ち上がり、安田の怒濤の突っ張り、踏みつぶしの猛攻を凌いだ小川は、蹴りと拳で一気に形勢逆転すると1分38秒、スリーパーで安田をアッという間に失神KOに斬って落とした。

その直後に、セコンドの村上一成が新日本の若手陣に特攻し、大乱闘へと発展。小川とは因縁の深い、破壊王・橋本真也までが飛び込んできて睨み合った。さらに佐竹雅昭までがリングインし、小川に対して再戦を迫る！


マイクを持った小川は「橋本！ いい加減にしろ！」「佐竹！ 茶番はやめろ！」と叫んだ。もちろん最後はファルセット・ボイスである。

試合前には小川はマスコミを使い、試合に向けて煽って煽って「話題」をつくっていく。

いざ試合になれば、"1・4事変"を巻き起こし、元K―1戦士に打撃勝負を挑み、大乱闘をやらかす。リングの上にもスキャンダルを立ち昇らせていくのだ。

そして、最後にマイクを持てばファンと相手を盛んに「挑発」する。

小川直也が行くところ、いつ何時でも



Millennium Fighting Arts

INOKI BOM-BA-YE

12.31 大阪ドーム

○桜庭和志 19分17秒 腕固め ケンドー・カシン●

騒乱状態。「スキャンダル」と「話題」と「挑発」が常に回転している。

最近のプロレスは、煽りだけはスキャンダラスだが、試合になると、そのスキャンダル性が一気にしぼんでしまうというものが多い。

つまり、"仕掛け"にリング上が負けてしまうのだ。本末転倒だから暴動騒ぎになる。

小川の場合、リング外でも吠えるだけ吠えて話題をつくり、リング上でもその話題性に負けないインパクトを残す。そういう点では、やはりいまのマット界では希有な存在といえるだろう。

リング外の話題に、リング内の話題が消されない。

リング外のスキャンダルに、リング内のスキャンダルが消されない。

リング外の挑発に、リング内の挑発が消されない。

小川の試合は、決して仕掛け倒れには終わらないエネルギーに溢れている。

猪木イズムと小川イズムはまだ完全なる一致を見せてはいないように見えるが、スキャンダルというものを軸に転回していった"猪木プロレス"を継承しているのは、やはり小川が随一だろう。

アントニオ猪木には、いまのプロレスラーが持ち併せていないものとして、巨大な解放感、カリスマ性、神秘性、色気、狂気、不気味さがある。その最大のものが、世間を逆なでし、挑発し続けていく方法論だった。

安住の地を嫌い、突き進んでは出口を求めるその生き方は、闘魂のかけらを、我々の細胞にいつ何時でも刻み込んできた。

小川がさらにステップアップするには、これから「世間」という魔物にスキャンダルを仕掛け、話題を撒き、挑発し続けることができるかどうかにかかっている。この2001年は、小川にとって"度を超えた存在"になれるかどうかの正念場のような気がする。

●

"猪木祭り"でもう一つ注目されたのが、桜庭和志vsケンドー・カシンの一戦だ。

カシンは石澤常光として昨年の8・27に『PRIDE』初参戦。"最凶のグレイシー"ハイアンにパンチのラッシュを浴び、秒殺されてしまった。そのハイアンに、サクは12・23『PRIDE.12』で完勝した。

ハイアンを軸に、勝者のサクと、敗者の石澤が、それぞれサクカシン、ケンドー・カシンとなり、ドリーム・マスクマン対決を行ったのだ。途中からマスクを脱ぎ、桜庭和志に戻ったサクは、プランチャ、ミサイルキック、ヤシの実割りなどを繰り出し、カシンもまた純プロレスの先輩らしく、見事に切り返していく。

サクは『PRIDE』でも見せる幸せチョップ、炎のコマなど"必殺技"もお披露目した。おまけにハイアンに石澤がKOされたシーンを再現するかのようなハイアン・ラッシュまで繰り出す。

最後も、雪崩式の技を狙ったカシンをサクがコーナーポスト上でアームロックに切ってとるという非常に珍しいフィニッシュだった。

特製のSAKUベルトとカシンベルトの2冠戦を制したサクは、カシンベルトをカシンに巻いてもらったが、カシンはそのベルトをすぐにひったくって持って帰ってしまうという暴挙に出た。

SAKUベルトの防衛戦は バーリ・トゥードでやってこそ光る



共に現在のマット界の宝でありカギを握る男、サクとカシン。この二人の対戦にプロレスルールは逆に足枷になってしまったか。

随所にシャレっ気が散りばめられた"明るく楽しい"プロレスだった。

サクは、『PRIDE』と純プロレスは、ハッキリと違いがわかるようにしたいと言っていたが、その「純プロレス観」を示すような試合である。

小川が見せたような試合は『PRIDE』でやり、純プロレスのリングでは思い切りエンターテインメントしていく。ふたつの両極端のものを行き来しながら、サクは「プロレスラー」として存在していくつもりだ。

しかし、この日のサクが放った光は『PRIDE』に較べると圧倒的に少なかった。

この日の姿は"仮の姿"に見えて仕方がなかった。シュートな世界でエンターテイナーしているサクが、いまさら純プロレスの世界でエンターテインメントする必要があるのだろうか。

サクの愛嬌や脱力ぶりは、逆に『PRIDE』というシュートな世界だからこそ光るし、誰も真似できないものなのだ。

表現方法としては広いはずの純プロレスでサクの闘いは"狭く"感じ、表現方法としては狭いはずの『PRIDE』でのサクの闘いぶりは"広く"感じる。これはいったいどういうことだろう。

そういえば、段ボールでつくってある特製SAKUベルトは、いまや世界の格闘家が狙うベルトともいえる。他のどんな豪華なベルトよりも価値を持っているといってもいい。この日本マット界至宝のベルトはぜひバーリ・トゥードで防衛戦を行ってほしい。

Millennium Fighting Arts

INOKI BOM-BA-YE

12.31 大阪ドーム

●マーク・コールマン マーク・ケアー	12分29秒 ケサ固め	飯塚 高史 永田 裕志●

闘いだ！

コールマンと小川だけだ！





コールマンの闘いぶりはマウントパンチひとつとっても、他のPRIDE戦士とは比べ物にならないほどの迫力に満ちていた。

プロレスは

その言葉が理解できたのは、

文／堀江ガンツ
text by Gunts Horie
撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

ズバリ言って「ホントの試合」を見せてもらった気がします！

何でもいいからすげぇイベントをやってくれ！

そんな大胆かつ無責任なオファーをアントン総帥が受けて開催された12・31『Millenium Fighting Arts INOKI-BOM-BA-YE』。通称・猪木祭り。

昨年夏に『ＰＲＩＤＥ』エグゼクティブ・プロデューサーに就任以来、石沢常光のバーリ・トゥード進出、小川vs佐竹戦の実現などを次々と仕掛けてきたアントン総帥が20世紀最後の日に一体どんな「すげぇイベント」をやってくれるのか。そしてどんなことをしでかしてくれるのかと注目していると、「『ＰＲＩＤＥ』に出場しているバーリ・トゥーダーが大挙してプロレスを行う」さらに「アントン総帥自身がエキジビションながらヘンゾ・グレイシーと闘う」という、とにかく面白い、面白くない、正しい、正しくないは別として、「すげぇ」ことは確かなラインナップとなった。

あとはどんな「すげぇ」試合を見せてくれるかだけだったのだが、肝心の試合の方がズバリ言って、ちっとも凄くねぇんです！

そもそも「バーリ・トゥーダーがプロレスをする」ということを簡単に言っているが、「プロレスをする」という行為事態が非常に説明困難であり、ましてや「猪木プロレス」「闘魂プロレス」などというのは、バーリ・トゥーダーにとっては理解不能の世界だろう。

そんなわけでリング上では「プロレスをする」という行為を勘違いした選手が続出。プロレスを「本気で技を仕掛けない、格闘アトラクション」と考えているのか、第一試合から「寸止めプロレス」が横行して、客席からは失笑が何度も漏れる始末。試合中に笑いが起ることを最も嫌うアントン（ドン荒川の試合は例外）の大会とは思えない非常事態である。

ボクも試合を見ながら3・11『力道山メモリアル』でのアントン総帥のコメントが頭を駆け巡って仕方がなかった。

「オレは久しぶりに怒っている！　あんな半チクな試合するなって！　怒ってるんだったら怒ってるでブッ殺す‼　大事なお祭りには違いないかもしれないけど、それこそそんな気分じゃないんだから。やっぱりリングに上がるときはその時その時が彼らとって勝負なんだから。ましてや『闘魂』という、みんながそれを見に来てるんだから。それを見せてもらいたかったというか。ズバリ言って『ホントの試合』を見せてもらいたかった気がします！　俺らが見たいのはあんな試合じゃねぇよ、というね」

そういうことです！

この日もアントン総帥は『ＰＲＩＤＥ・12』に続いて「バカヤロ――ッ‼」と叫びたかったに違いない。「闘いを忘れたマット界に気付きを与える」べく開催したはずの「猪木祭り」が、やってみたら「闘い」とは程遠い「寸止めプロレス」が横行しているのだから実に皮肉な話だ。

そんな中でもやはり、小川直也だけは違った。

「試合に出るものがお祭りじゃ困るでしょ。『イノキ・ボンバイエ』という『猪木』という名前がつく以上、格闘ロマンを突き進め」と試合後に語った通り、この日もあの「佐竹戦」と同じ目で入場。見事「自分の中ではすべてプロレス」を証明してみせた。

そしてもうひとり意外なところで「闘魂プロレス」を体現した男がいる。それがマーク・コールマンだ。

さすがに以前から何度か「プロレス転向」が噂されただけのことはあり、もう他のＰＲＩＤＥ戦士とは表情が違う、迫力が違う、何もかもが違う！（ＧＫ調）

そのあまりに激しい闘いぶりから、試合中「コールマン本気になってるよ！　プロレスわかってないよ！」というファンの声が聞こえてきたが、この声こそがコールマンの素晴らしさをすべて物語っている。観客にこう言わせるということは、コールマンがホントの意味で「プロレスは闘いである」ということをわかっている証拠である。

この日、小川やコールマンが見せたようなプロレスは「格闘技なのかプロレスなのか、どっちつかず」などと揶揄されがちであるが、この「どっちつかず」の綱渡りこそが、猪木イズム。そしてこの境界線上にい続けることが、どれほど難しく、どれほど凄いことか、この日の試合をみて再確認した次第である。


PRO-WRESTLING NOAH

GREAT VOYAGE

12.23 有明コロシアム

●小橋健太 35分58秒 体固め 秋山 準●

「PRIDE」に完勝!!



この日、『PRIDE』が見事にズッコケた。プロレスよりも不確定要素が多いだけに「当たれば場外ホームラン、ハズレれば三振の山」という昔の広島カープにいたランスのようなもの、それが「新プロレス」のメリットでありデメリットでもある……と、いうのは間違ってないですよね？ 最近はすっかり純プロレス側からマット界を見ていたため、「新プロレス」にはすっかり疎くなっているので間違ってたら許してください。

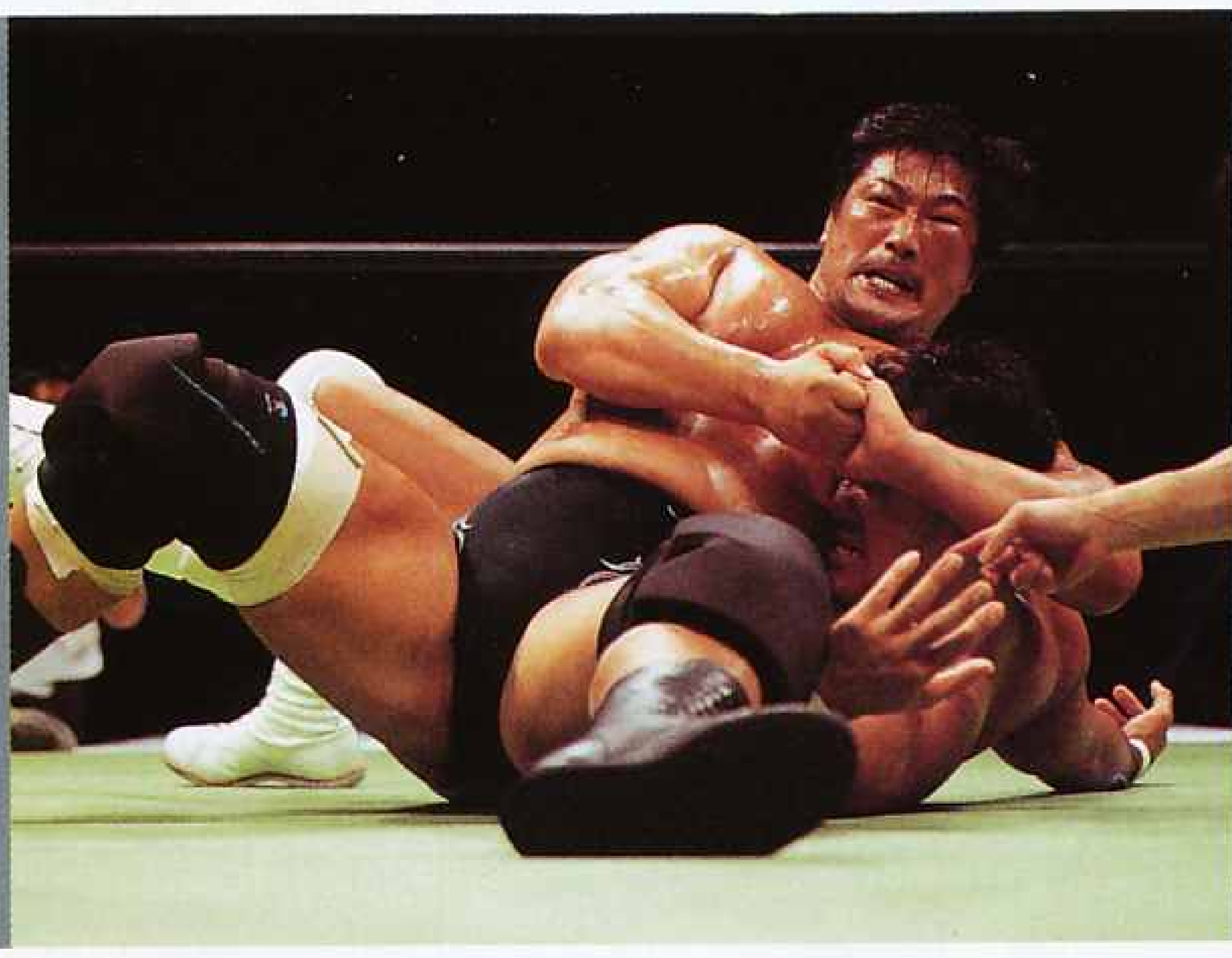
　というわけで今回の『PRIDE』に関しては、実力伯仲のカードが並んでいたので試合前から三振の予感がプンプン漂っていた。だから、ボクは本誌前号で「12・23はノアが勝つ！」と恥ずかしげもなく書いたのだ。結果はご存じの通り。「新プロレス」vs「純プロレス」の主導権争いで、押されっぱなしの「純プロレス」が初めて一矢報いたのだ！

　おそらく「新プロレス」のファンが圧倒的多数を占めるであろう本誌読者のみな様に言わせれば、「しょせん純プロレスでしょ？」となるのかもしれない。あるいは「純プロレスラーは、バーリ・トゥードに出て証明しろ！」とか口からツバを飛ばしながら野次られるかも知れない。たしかにおっしゃる通りだ。だが、今回ばかりは言わせてもらう。

　あなたたちの目は節穴ですか？

　いや、失礼しました。お金を出して読んで頂いてる読者のみな様に向かって、"節穴"は失礼ですね。謝ります。ごめんなさい。でも、ホントに面白い「純プロレス」を見逃してはいませんか？

　12・23決戦に話を戻そう。この大会までの報道を比べてみると珍しく大した話



この試合の中でも、秋山がマウントポジションを取ったり、小橋が終盤で袈裟固めを繰り出したりと、あらゆる要素が詰まったプロレスを展開した。

12.23決戦！ノア、

"純プロレス最後の秘境" ノアが「新プロレス」に出した2つの答え

文／坂井ノブ
text by Nobu Sakai

撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

題もなかった『PRIDE』に対して、ノアはこれまた珍しくスキャンダラスな話題で賑わっていた。破壊王参戦で団体内部が紛糾し、なぜかアントニオ猪木や藤波辰爾までもが横槍を入れてきた。こういうとき、ノア勢は話題に負けないもの凄い試合をする。反対に『PRIDE』は試合前の盛り上がらなさが、そのまま試合に反映されていた。何のテーマも対立概念もないバーリ・トゥ?ドにどうやって感情移入をすればいいのだろうか？ 「新プロレス」の今後の課題はいかにして対立概念を創り出していくかだろう。桜庭がグレイシーを狩り尽くした後、何と闘っていくかである。

　現在のノアには大きなテーマがいくつもある。純プロレス業界のトップを独走する「対新日」というテーマ。激しく横槍を入れてくる「対猪木」というテーマ。『PRIDE』人気爆発に象徴される「対新プロレス」というテーマ。そして、遂に参戦してくる「対橋本真也」というテーマ。それぞれのテーマに対してノアはどのような答えを出すのか？

　この日、答えを出したのは、ついにデビューした大物新人・杉浦とメインを務めた小橋vs秋山のシングル・マッチだった。

　杉浦はグレコの元全日本王者で自衛隊出身のアマレス・エリートだ。いかついガタイなのにモノ凄いスピードでバックを取ったり、ド迫力のカレリンズ・リフトで志賀を気持ちよく投げたり、その姿はまさに和製カート・アングル！ 震えた！ さすがは秋山が英才教育を施しただけあって、プロレス内でも見事に"強さ"の片鱗をみせつけてくれた。

　メインを締めた小橋vs秋山は、頭から落とす危険な技がバンバン飛び出して、プロレスの"耐久競技"な側面が大爆発した35分の壮絶な一戦となった。右のフィニッシュシーンの写真が何よりも雄弁にその衝撃を伝えてくれるだろう。小橋建太が顔面を腫らし、秋山も試合後は衝撃で身体が痺れてリング上で動けなくなっていた。リング外の話題に一番ピリピリしていた両者が身体を張って「純プロレス」の頂点を見せつけた。

　もし『SRS・DX』でおなじみのPJで採点してみたら（あんまりしたくないけど）、明らかにこの日のノア勢のモチベーションは、『PRIDE』に勝っていたはずだ。

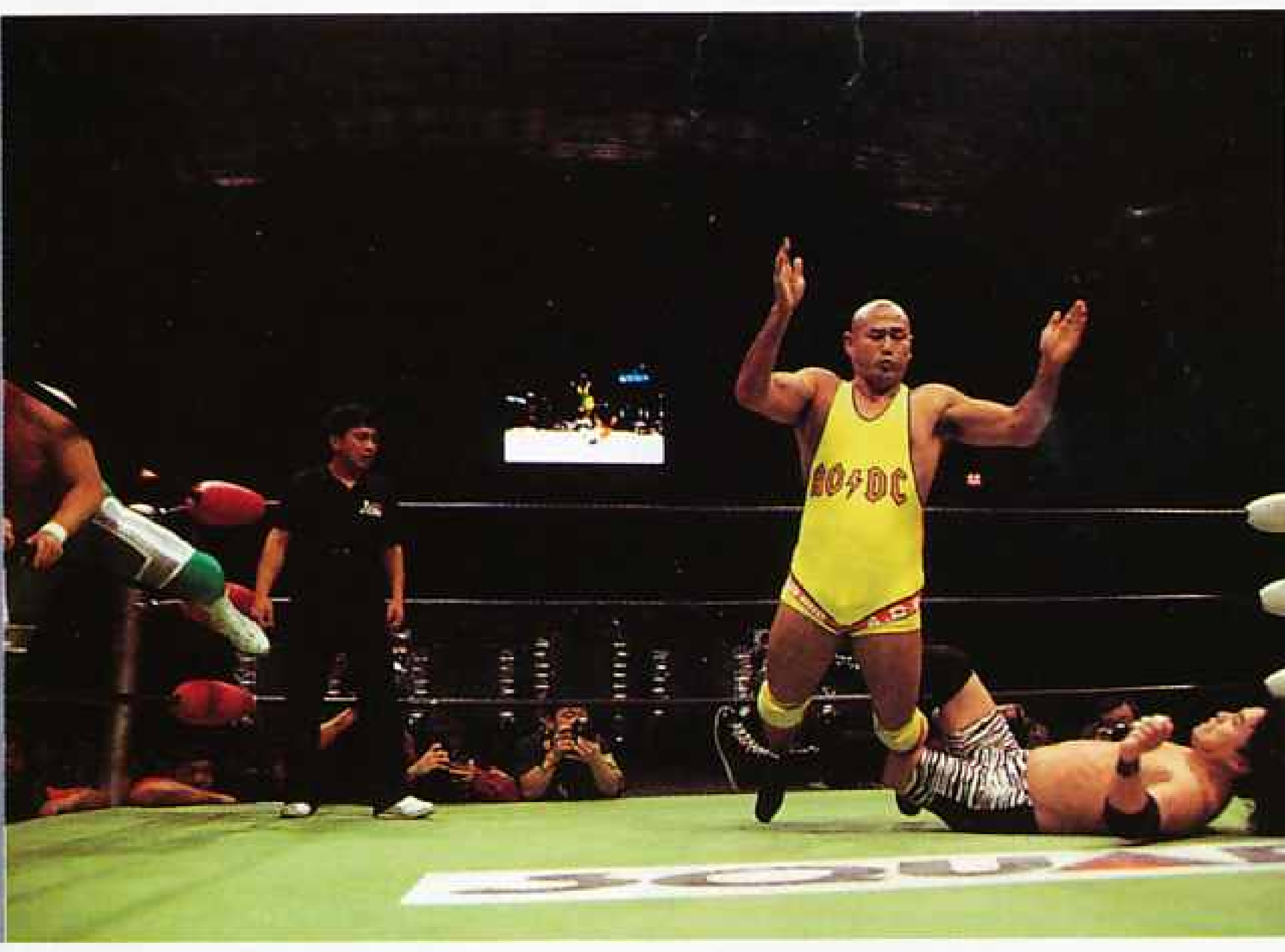
　この日のようにリング外の話題とリング内の試合をうまく展開していけば、巨大な渦を作り出すことも可能だ。なぜボクが、スキャンダラスな話題ばかりが先行して試合が追いついていかない現在の新日を評価せず、ノアを推すのか、その理由がおわかりいただけるだろうか。もはや「純プロレス」に残された"最後の秘境"となったノアだが、いずれ地上波のTV中継がついたとき、どうなるのか？ きっとその人気は爆発的に広がっていくはずだ。純プロレスvs新プロレスの対立もどんどん激化していくだろう。

すべてを飲み込む!!

PRO-WRESTLING NOAH
FIRST NAVIGATION OF 21st. CENTURY
1.13 大阪府立体育館

●三沢光晴 小川良成	16分18秒 エビ固め	橋本真也 アレクサンダー大塚●





乱戦の中でも、こうした連係技が出るのはさすがの一言。もっとアレクも主導権を握るような闘いを挑んでもよかったのではないか？

純プロレスは、す

文／坂井ノブ
text by Nobu Sakai
撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

激突！「攻めのプロレス」vs「受けのプロレス」！ 主導権を握るのはどっちだ？

「オレの名前を言ってみろ！」と対戦カード表をグチャグチャにした佐々木健介と、「オレは全日本のエースじゃない」とイジケる川田が繰り広げた夢（?）の対抗戦――『東スポ大賞』ベストバウトを獲得したものの、なぜか心に引っかからない一戦だった。

「小結同士の闘い」と当時アメリカにいた武藤敬司が気持ちよく一刀両断したことが、一番の衝撃だったような気がするが、いかがだろう？

あれから約3ヶ月、「こっちがホントの新日vs全日だ」とばかりに、三沢も橋本も試合前からシュートな怒りを発言に込めて舌戦を繰り広げてきた。やはり新日vs全日だったら、こうあってほしい。決戦2日前に「ノアから今後もオファーが来てる」とバラして、三沢の怒りに火を付けた破壊王の爆発的な呑気さばかりが光っていたような気がしないでもない。「オレは白紙だって言ってるだろ」と怒りを隠さない三沢も素敵だが。

ホントに一から主導権争いをしてる感じが伝わってくるのが、対決への期待感を高めてくれた。

そして迎えた試合当日。

三沢&小川という純プロレス最高峰の巧さを誇るタッグチームと、破壊王がなぜか『猪木祭り』で意気投合したアレクを引き連れて激突した。三沢と橋本の対決は、すでに多くのマスコミで書かれているので、敢えてここで多くを書かない。むしろ、この日最も気になったのは双方のパートナーだった。

『PRIDE』で活躍している片鱗も見せず、普通に組み合うアレク。なぜか三沢をしきりに挑発する。

「来いよ、オラー！」

三沢のリアクションは「顔じゃねえよ」とばかりに、クビを傾げただけ。三沢の意地の悪さがよく出た、じつに2・コールドなシーンだった。ジャイアント・スイングを三沢に仕掛けてもたったの5回で断念。う～ん、いくら『PRIDE』でプロレス技を繰り出しても、それが本業のプロレスラー相手に通用しなくては意味がない。アレクにとっての"プロレス"とは何なのか？ 非常に考えさせられる試合だった。

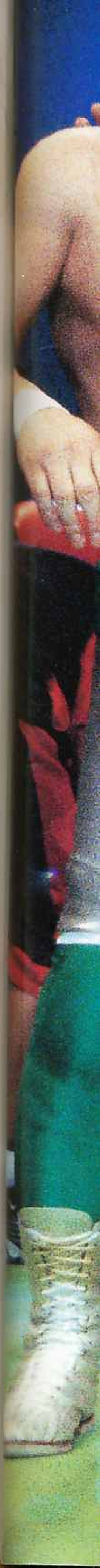
一方、小川は破壊王の袈裟斬りチョップを徹底的に受けまくった。もう10分以上も集中砲火を受けていただろうか？ 藤波がリングサイドで観戦していたら「我々は殺し合いじゃないんだ！」と絶対止めに入ってるはずだ。そんな小川にとどめを刺そうと持ち上げた破壊王に、小川の小馬鹿にしたようなサミングが炸裂！ こんな乱戦の中でいつも通りの技を初対決の相手にキッチリ決めてみせるのは、「さすが」という他あるまい。徹底した"受け"で橋本の重さを際だたせて、自らもしっかり光ってみせる小川の存在ばかりが気になってしょうがなかった。

"プロレスラーの華"が、どういうものか言葉にするのは難しいが、三沢からも、小川からも、橋本からも、乱闘で大暴れしただけの安田からも感じられた。それが攻めだろうと、受けだろうと彼らはとにかく豪快だった。アレクだけが、攻めも受けも中途半端に終わっていたように感じられたのが残念でならない。いきなり超ビッグな対抗戦の最前線に放り込まれたチャンスを活かしきれなかったのは惜しまれる！

その昔、何度も新日vs全日の対抗戦が浮上したことがあったが、ジャイアント馬場は「あっちが攻めのプロレスで、こっちが守りのプロレス。どっちが強く見えますか？」的なことを言って、その不公平さを訴えた。

しかし、実際のところ、この日のノア勢からは余裕すら漂っていた。いつものように極限まで脳天を打ちつけ合う試合でもなければ、派手な大技が飛び出したわけでもなかった。ジャイアント馬場が「受け身」を重視してレスラーを育成してきたことによって、ノア勢は相手のどんな攻撃でも活かすことが出来るし、逆に殺すことも出来るのだろう。この試合における主導権は常に三沢と小川が握っていたような気がしてならない。

もちろん、破壊王の攻撃の重さも相当なものだった、小川は試合中に記憶が飛んだほどだ。ただ、相手に好きなように泳がされているだけの破壊王ではない。もちろん、試合後には乱闘もするし、マイクで勝手に一騎打ちを迫ったりもする。「主導権争い」がリングの中でも、外でも丁々発止繰り広げられるノアvs破壊王――プロレスの魅力はリングの中だけでも外だけでもなく、その両方にあることを教えてくれる素晴らしい対抗戦なのだ。




昨年の12・17修斗NK大会で佐藤ルミナ

――あ、選手じゃなくて店主（笑）。

宇野 はい（笑）。

を喋ろうかと思ってたんですけど、でも、紙を忘れちゃったんで、どうしようかなぁっ

勝っても負けても悔いはないなっていう感じで上がったのが良かったと思いますね。



宇野薫

［和術慧舟會］

「修斗」から「猪木祭り」へ――。

「ボクは、いままでのファンにナメられていたのかもしれない」

なぜだ!?
本誌鬼畜編集長が宇野クンに初インタビュー

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／タカシン
photographs by Takashin

構成／チョロ
text by Choro

昨年の12・17修斗NK大会で佐藤ルミナを返り討ちにし、すぐさまベルトを返上した宇野薫。場内はブーイングに包まれ、一瞬にしてヒール扱いされてしまった星の王子様。一部では『PRIDE』参戦が決定事項のように報じられたが、宇野が選んだリングは、なんと『猪木祭り』であった。急転直下の宇野のプロレス初挑戦に興味を示したのが本誌鬼畜編集長・山口日昇である。一見なんの接点も感じられない2人だが、意外や意外、一昨年の夏、シアトルで寝食を共にした仲だという（笑）。ほんなら聞けや！

——宇野さんと、インタビューという形でしゃべるのは初めてなんですよね。

宇野　あ、そうですね。シアトルに行ったときはお世話になりました。

——いや、世話なんてなんにもしてません（笑）。宇野選手には、たくさん聞きたいことがあるんですよね。いまボクは宇野選手と言ったけど、宇野さんは、いったいいま何の選手なんですか？（笑）。

宇野　いや、プロレスラーではないですし……そうですねぇ……でも、ボクは自分を格闘家って思ったこともないんですよ！

——へ？

宇野　バイトをしてた頃はフリーターかなぁと（笑）。

——フリーター！（笑）。

宇野　なんか格闘家って言われるのもピンと来ないですし、その頃はそれだけで食べてないのに、そう言われるのが嫌だったんで。

——いまはバイトしてないんですよね？

宇野　いまは宇野薫商店で。

——あ、グッズ関係の。さしずめフリーマーですね（笑）。どうですか、景気は？

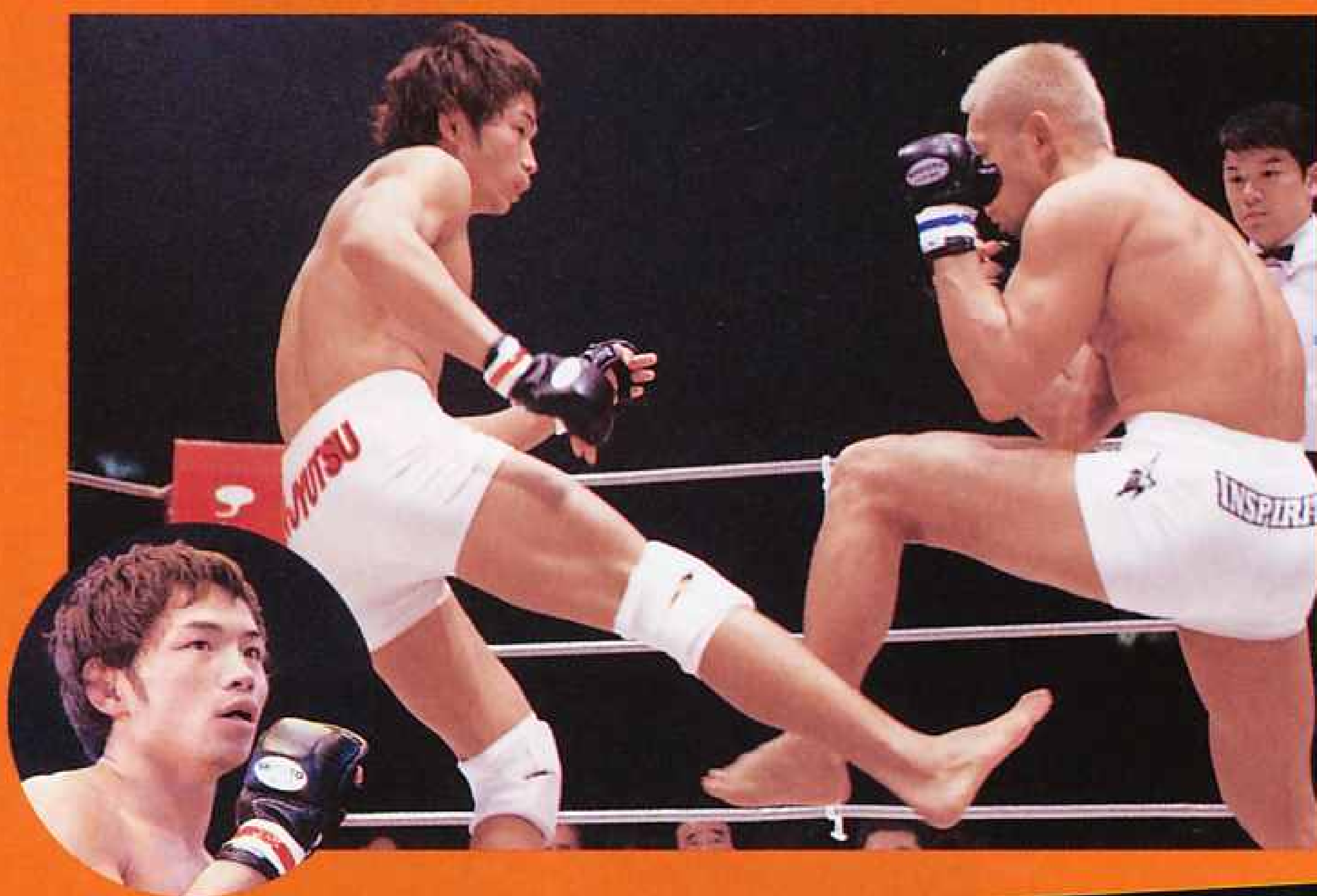
宇野　いやぁ〜、ボチボチですねぇ。おかんが社長で、ボクは広報部長なんで（微笑）。だから、いまは肩書きとしては……店長になるんですかね？

——あ、選手じゃなくて店主（笑）。

宇野　はい（笑）。

——ところで、20世紀最後の年末は、佐藤ルミナ戦（12・17）の後、『猪木祭り』（12・31）に出たりと、かなりのお騒がせぶりでしたね。

宇野　お騒がして、すいません（笑）。でも、こういうのって『紙プロ』に持ってこいの存在ですよね。



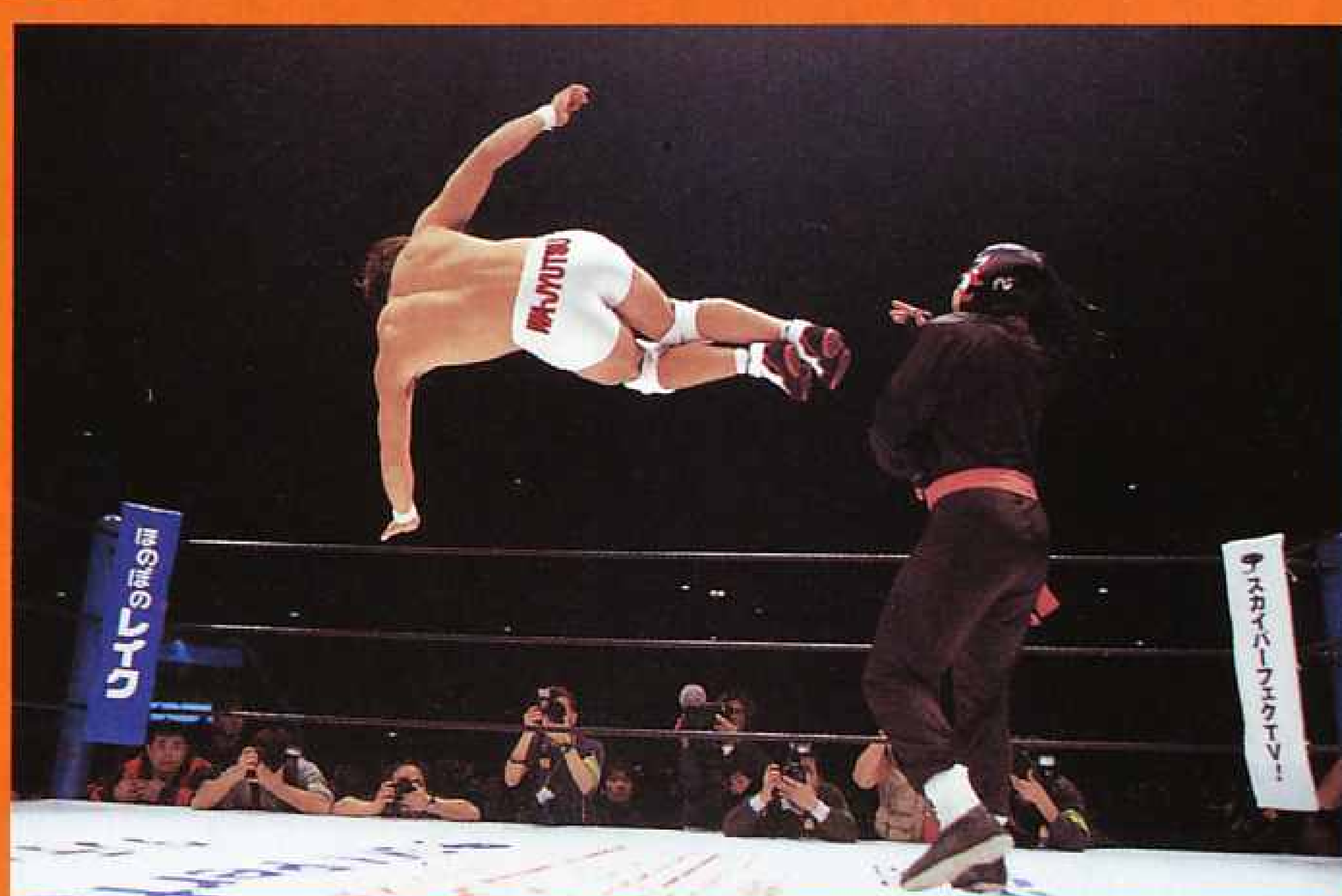
——ガハハハ！　たしかに最近の宇野選手は抜群に面白いですよ。

宇野　（ちょっと困って）そ〜う……ですか？　今日は『紙プロ』さんの取材ってことで、言葉を少し慎みます（笑）。どこから拾われるかわからないから、他の格闘技雑誌さんより慎重に喋らないと。（王座返上の理由と今後についての）声明文を作ったんで、それに沿って当たり障りのないことを喋ろうかと思ってたんですけど、でも、紙を忘れちゃったんで、どうしようかなぁって思ってるんですよ（笑）。

宇野薫25歳　佐藤ルミナに勝ったら即タイトル返上！ 次に選んだリングは『猪木祭り』記念スペシャルインタビュー！

——声明文っていうのは別に面白くもなんともないものですから、なくていいです（笑）。最近の宇野さんを見てて、率直に抱いた感想は、宇野さんが実にいい顔をしているということですね。

宇野　アハハハ！　ありがとうございます（微笑）。



——リング上での顔が厳しくなったというか、凛々しくなりましたよ。

宇野　そうですか？　やっぱりケビン（・ヤマザキ）さんとの特訓の成果ですかね（笑）。ルミナ戦の前のケビンさんとの練習が厳しく、楽しかったんですよ。その後も慧舟會で守山（竜介）さんとの練習をいつも通りやりましたし、精一杯練習したんで、勝っても負けても悔いはないなっていう感じで上がったのが良かったと思いますね。

——ケビンさんには、ヒトとしての妙なパワーがありますよね（笑）。

宇野　ケビンさんは……面白いです！（笑）。普段やってて毎日が凄く面白いというか。そういう科学的な練習をやったことがなかったんで。だから、なんて言うんですかね……面白かったです。

——ケビンさんをひと言で言うと「面白い！」ということなんだよね（笑）。

宇野　そうですね。あとは、教えるのがやっぱりウマイですよね。

——「行って行って、カモン！」ですからね。よく聞くと「どっちなんだっ？」ていう（笑）。でも、あのかけ声によってパワーアップするみたいですね。

宇野　そうですそうです（笑）。そういう意味では凄く乗せるのがウマイというか。

——やってることは科学トレの最先端を行くものなんだけど、あのケビンさんの持つ、ある種のデタラメパワーというのは、やっぱり重要ですよね（笑）。

宇野　アハハハ。あと、ボク結構忘れやすいんですよ。でもケビンさんは何度も繰り返して話してくれるんで覚えます。いままであんまり考えないで練習やってたんですけど、最近は考えるようになりましたね。

——宇野さんっていうのは、普段は物事を深く考えるタイプ？

宇野　いえ、結構、面倒臭がり屋です。でも自分の好きなモノに関しては凝り性なんですよ。

——つまり、わがまま？（笑）。

宇野　アハハハ！　そうかもしれないです。

——でも、わがままじゃないとトップになれないですよ。

宇野　（真顔で）ホントですか？

——いや、ボクの言うことを信用しないで

ください（笑）。それで、ルミナ戦の前に、「王座を持っていても挑戦する気持ちでいく」って言ってましたけど、王者になっても挑戦する心、新しいステージに向かって冒険する心っていうのが、いまの時代で一番求められてることだと思うんですよ。それを永久運動としてやってるのが猪木さんだと思うんだよね。何度ヘコんでも懲りないというか（笑）。その『猪木祭り』へ参加したのは、なぜですか？

宇野　昔からプロレスファンっていうのもありましたけど、慧舟會もプロレスに対して否定的ではないし、むしろ、ボクはプロレスラーといわれる方と実際に肌を合わせて練習させて頂いてるんで、ムチャクチャ強いっていうのを肌で知ってますから。それに小路さんが怪我してましたし、シングルマッチじゃキツイだろうなって思って。

――小路さんは盲腸を散らした後だったからね。

宇野　しかも、『PRIDE．12』で（ヒカルド・）アルメイダに蹴られて歩くのも辛い状態だったんですよ。でも、『猪木祭り』のリングに上がった途端ダッシュしてましたからね。ケプラーダまでやっちゃって（ニッコリ）。

――そういう宇野さんもダイビング・エルボーやリープ・フロッグも見せたし、受けた技もサンダーファイアー・パワーボムにDDTでしょ。相当、プロレスの洗礼は受けましたよね（笑）。

宇野　受けましたねぇ。それで、カウントダウンの後、餅つきやったじゃないですか？　その時、小路さんから「夢じゃないよな？　ツネってくれ」とか言われまして（笑）。

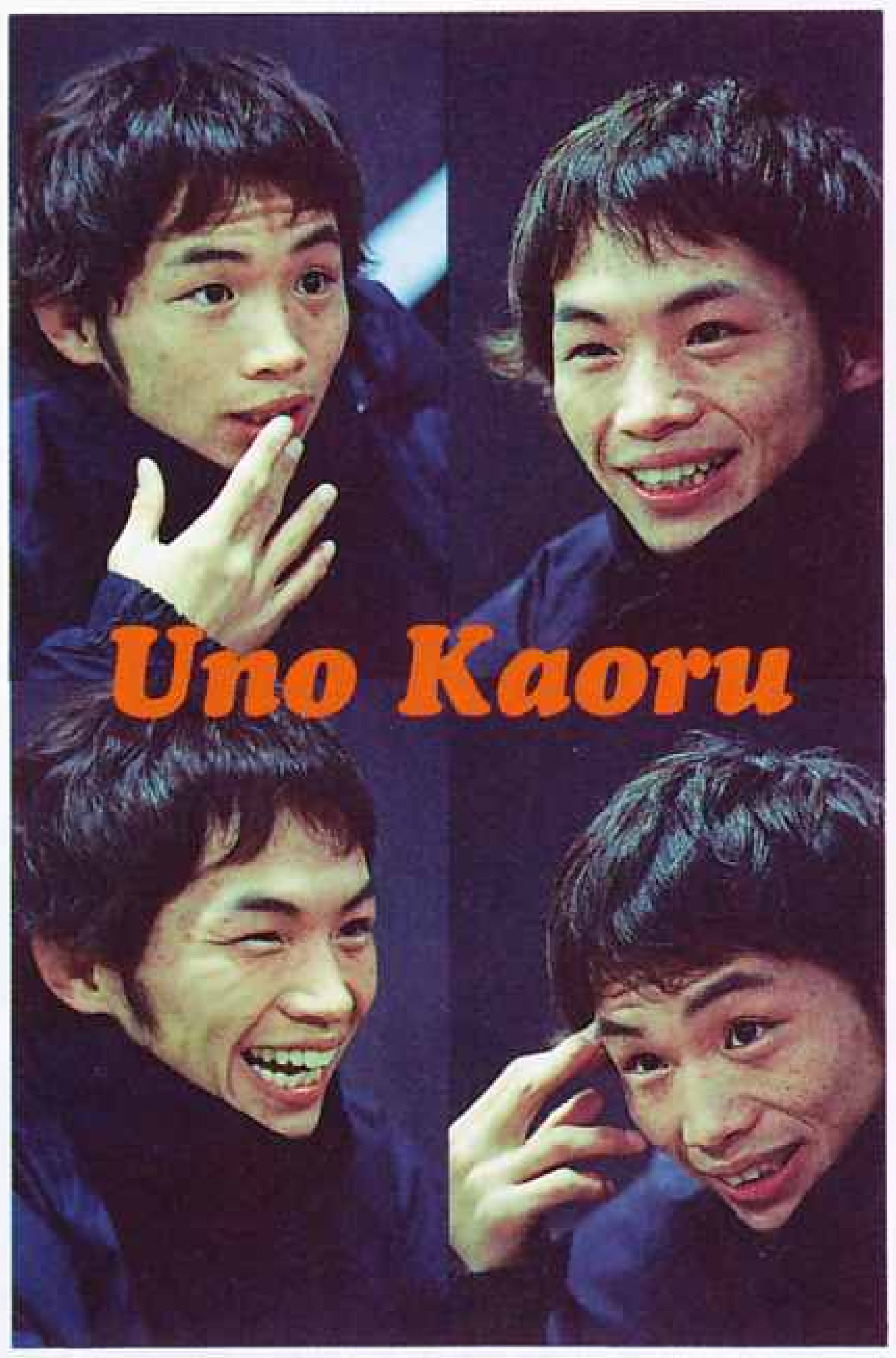
――ガハハハ！　変わった人ですよね、小路さんも（笑）。

宇野　だって、よく考えたら、小さい頃に見てた選手が、たくさんいる中に出られたわけですから。ボクもやっぱり凄く嬉しかったですね。

――いや、試合も、序盤の松井選手とのグラウンドのムーブとか面白かったですよ。

宇野　ありがとうございます（ニッコリ）。

――『PRIDE』や修斗の試合は、見る側が〝顕微鏡〟を用意しないとわからない攻防もあるけど、プロレスの場合、攻防に〝拡大鏡〟がついてるから、2人に格闘技の下地があるのが凄く見えやすい。山本小鉄さんが解説してたら「ちょっと待ってください！　この2人は飛び技もやるけど、グラウンド・レスリングの下地がシッカリ出来てますよ」と言いますよ（笑）。加えて柔術ムーブもあって、スピーディーだし。



宇野　（戸惑いながら）は、はぁ。

――もしかして誉められ慣れてない？（笑）。

宇野　アハハハ！　いや、プロレスの試合を誉められていいのかなぁと思って。また格闘技ファンの反感を買うんじゃないかなって思って（笑）。

――プロレス参戦を決めた時には周囲から、いろいろ言われたでしょ？

宇野　インターネットを見ても、やっぱり批判の声は多かったですけど、ボクの中では、あくまで「プロレス」ですし、ヘンゾも、マーク・ケアー、コールマン、桜庭さんとか、みんな出てますしね。ヘンゾとか桜庭さんが出てなければボクも出てないですし。あと、こういうチャンスが自分にとっていい経験になると思いましたから。

――やっぱり修斗のリングに上がる感覚とは違う？

宇野　いつもはあまり緊張しないんですけど、珍しく緊張しましたね。花道で何かモノ投げられるんじゃないかって思ってたんですよ（笑）。

――ダハハハハ！

宇野　でも、ブーイングが起きるかと思ったら歓声も多かったんで、ちょっとビックリしましたね。それは嬉しかったです。〝何されるかわかんない〟って思ってたから。

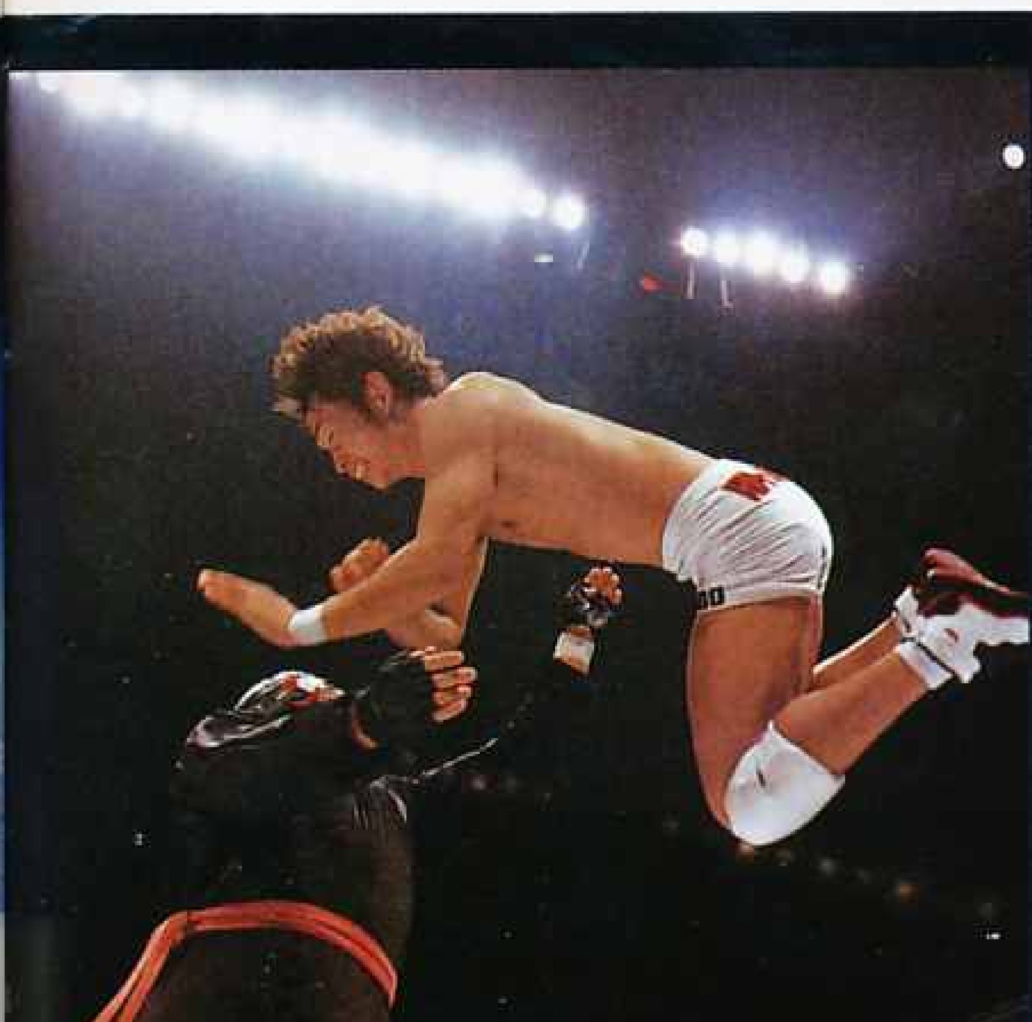
――格闘技ファンの中にはプロレス参戦を快く思ってない人もいますからね。プロレスファンの中にも「腰掛けでプロレスやるな」とか「プロレスごっこは見たくない」とかいう意見を言う人もいるでしょうし。でも、宇野さん自身がワクワクしながら出たっていうところがいいですよ。普通、修斗のウエルター級チャンピオンだった人がプロレスに出ないでしょ、体格的にも（笑）。「次の宇野の選択肢はどこだ」と注目してた人は……。

宇野　「『PRIDE』に行くのか？」とかも言われてたけど、プロレスでしたからね（笑）。

――しかも、『猪木祭り』（笑）。『紙プロ』的にはモノ凄く気持ちいい選択でしたね。でもボク的には、あの試合は凄く面白かっ

12・31『猪木祭り』ハイライト！

○ザ・グレート・サスケ 松井大二郎	20分00秒 ラ・マヒストラル	小路晃 宇野薫●



「せっかく練習したのに、ボクのスワンダイブ式エルボーはＰＰＶで写ってなかったんですよぉ。あとサスケさんに食らったＤＤＴも」と、悔しそうに語った宇野。ちなみに、エルボーは打点も高く、一番満足できた技だったという。



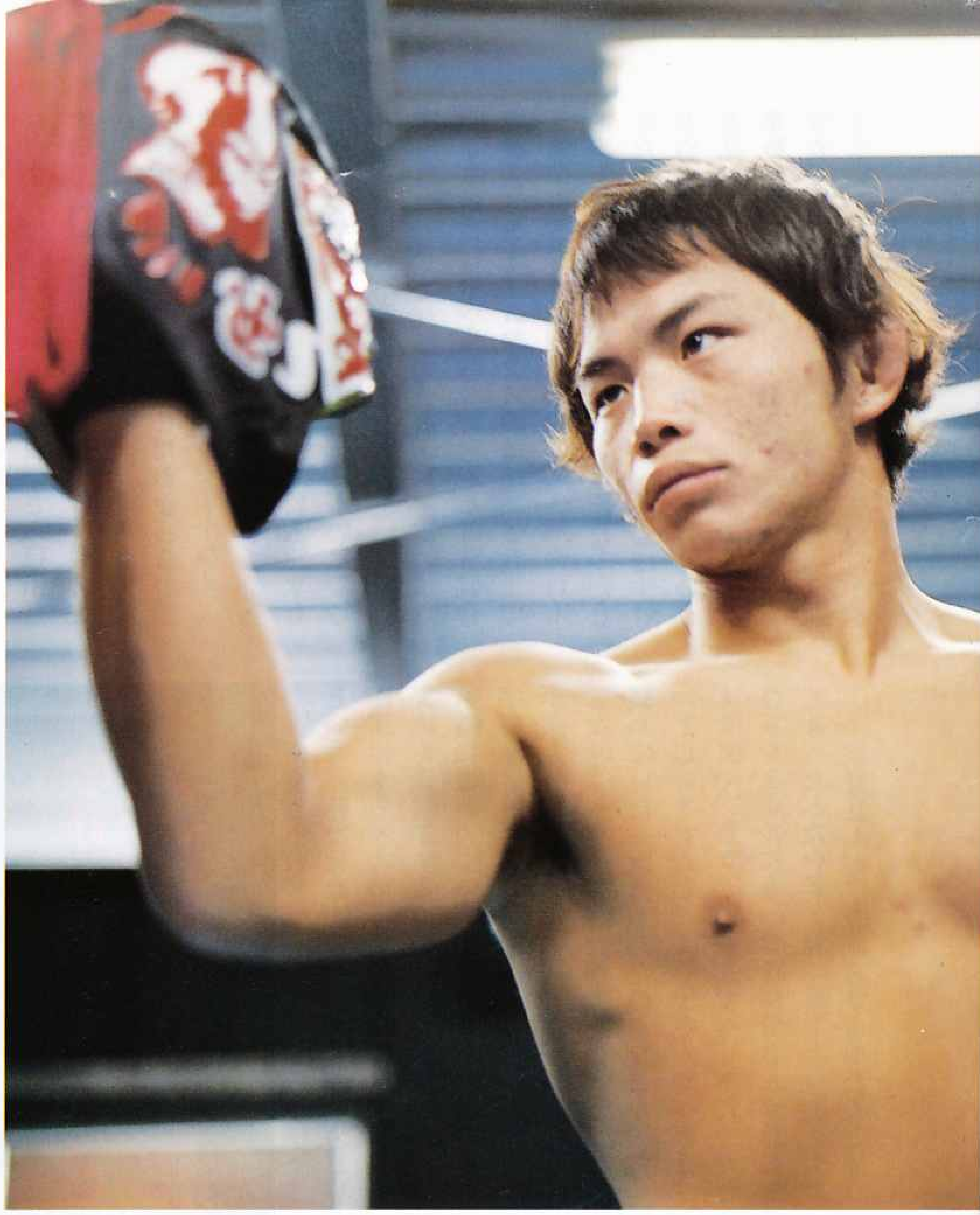
ファンクスのテーマで入場の小路ファンクＪｒと宇野ファンクは当然のように連携のスピニングホールドを繰り出した。「プロレスごっこだ」とか「学プロ以下」という厳しい意見もあったが、宇野と小路にはプロレスへのラブがある。



4人の中で唯一プロレス初体験の宇野は先発としてリングイン。そして松井とがっちりロックアップ。『猪木祭り』に参加した選手の中では一番小柄だった宇野だが、松井相手に体重差を感じさせないグラウンドの攻防を繰り広げた。



プロレス好きとして知られる２人なだけに、どんな入場を見せてくれるか注目された宇野薫と小路晃。コールを受け大阪ドームに鳴り響いたのはザ・ファンクスのテーマ。小路はスタジャン、宇野はサスケマスクで登場、歓声を浴びた。



たんだけど、猪木さんは控室で怒ってたらしいですよ。

宇野　(不安げに) えっ、何でですか?

――要するに『猪木祭り』だから、小川対安田戦のような"闘魂プロレス"を望んでるわけですよ。そこで、ルチャ的なことをやられてるから、「俺はこんな試合を組んだ覚えはない」ってモニター見ながら言ってたらしいです(笑)。

宇野　(ガクッと肩を落として) ホ、ホントですか?

――でも、橋本vsグッドリッジ戦にしても、バーリ・トゥードを見慣れたファンからすれば「?」って部分もあるでしょうしね。

宇野　あ……。

――なんですか?

宇野　いや、なんでもないです(笑)。でも、ボクはああいう試合をやりたかったんですよ。楽しかったし、20分があっという間でしたから。最初は呼吸の方法が合わないというか、すぐ疲れて喉が乾いたんですけど、途中から大丈夫になって。

――あの日は、桜庭さんもスタミナ切れてましたよ。スタミナ配分が難しいんでしょうね。

宇野　(頷きながら) でもホントにプロレスは難しいと思いました。プロレスラーの方は凄いなと思いましたね。そういう意味で、ああいう経験が出来ることが、凄く自分にプラスになるんじゃないかと思って出たんですよ。一度はプロレスも経験してみたいと思ってましたから。

――つまり、冒険心ですよね。

宇野　今回は改めてプロレスラーの凄さっていうか、お客さんを楽しませるっていう部分であったり、会場の空気を読むっていうか、そういう部分を、1回こっきりですけど、体験できて凄く嬉しかったですね。

――そういえば『格通』(No.269)では、ルミナ戦の試合リポートで、『仮に、自らの爽やかイメージを守るために、ヒールになることを恐れて、"ルミナさんが目標だったから"という言葉に置き換えたのなら、ルミナや三島、五味、そして修斗という競技を冒涜する行為。シニカルに言えば"究極の宇野逃げ"である』と、割ときつく書かれてましたけど、ズバリ言って怒りとかは沸かないんですか?

宇野　……っていうか、その文面があまり理解出来なかった。いまでも、ちょっと理解出来ないですね。「冒涜」っていう言葉がよくわからなかったから(笑)。

――そうでしたか(笑)。

宇野　声明文にも出したんですけど、その目標であったルミナさんに、強くなったというのを認めてもらいたくて頑張ってきた部分が凄く強かったですから。冒涜するとかの気持ちは全くないです。だから、ボクの言葉が足りなかったという部分は本当に悪かったと思います。

――ボクは、これ、逆だと思うんですよね。宇野さんが修斗ファンのヒートを買ってヒールになるのも予測できたのに、自分のやりたいことをやるために世界を広げるわけですから、相当な覚悟がないとできませんよ。それにもともと修斗の所属選手じゃないわけだし。だから、いままでがベビーフエイスすぎたんですよ(笑)。

宇野　う～ん……。

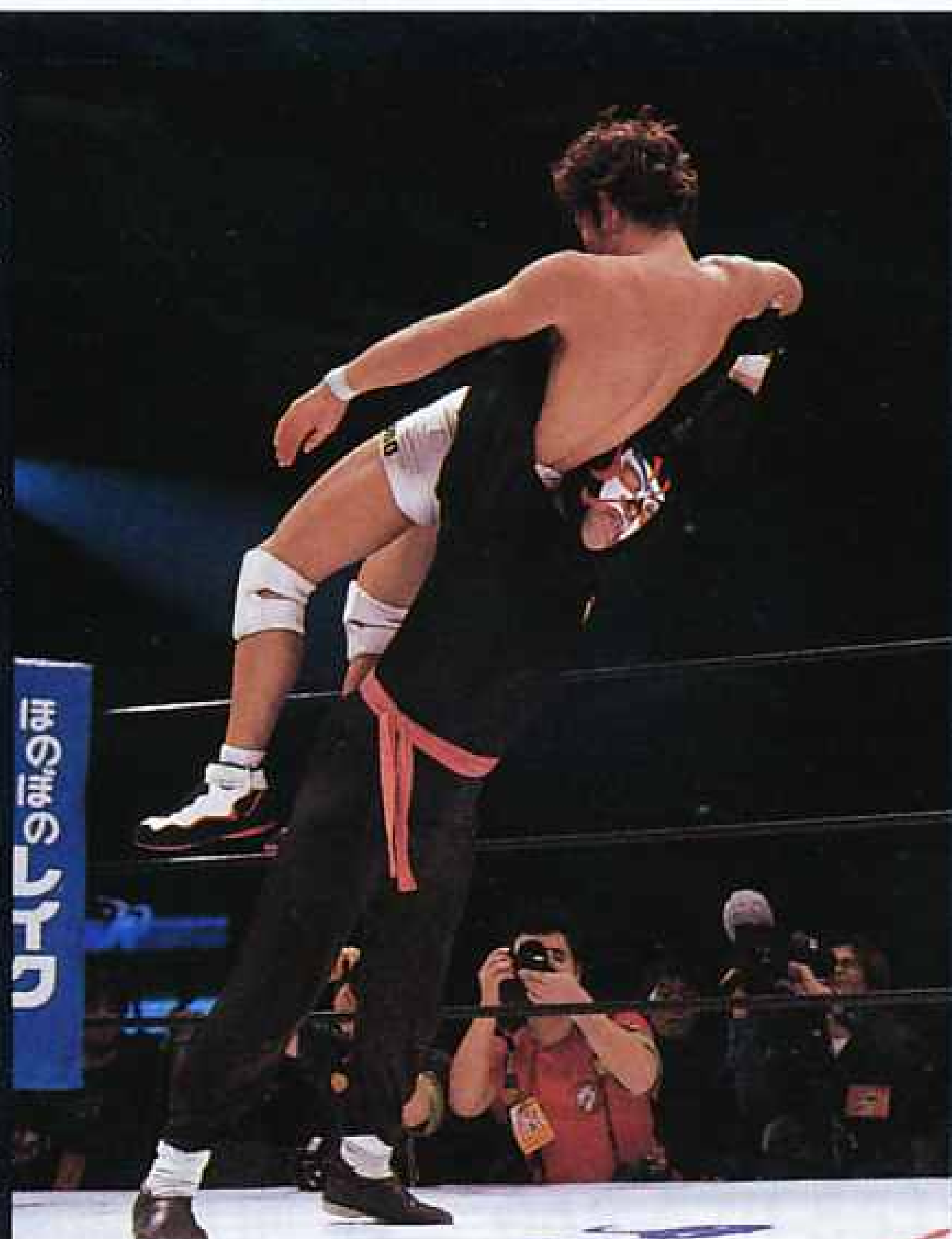
――まあ残った選手、関係者、ファンにしてみれば「面白くない」って感じる人がいるのもわかりますけど、結果的に、これから修斗に恩返しできるような闘いができればいいと思いますね。ネット上ではそんなにキツク書かれてた?



試合前、「馳さんや秋山さんのデビュー戦に負けないように頑張ります!」と意気込んでいた宇野。体重差のあるサスケを、馳に負けず劣らず綺麗なブリッジでのノーザンライト(2連発)を披露。しかし、残念ながらカウントはツー!



サスケの高角度バックドロップが宇野に炸裂!他にも鉄柱攻撃などプロレスの洗礼を受けた宇野。一方、久々のプロレスとなる小路は、ダイビングヘッドバッドやケブラーダ、さらには島田レフェリーの髪の毛を引っ張るなど大暴れ!



サスケはサンダーファイアーパワーボムからラ・マヒストラルで宇野を丸め込みカウント3奪取。試合後、サスケは「ケブラーダまで出しやがって、小路の野郎! 簡単にプロレスをまたぎやがって。これはレスラーとして黙ってられないと。プロレスと格闘技、両足を突っ込んだ以上、みちのくまで引きずり込んでやりますよ」とプロレスラー魂溢れる素敵なコメント。さらに「宇野クンは89点。小路クンはやっぱり100点でしょう(笑)」とガンツ先生ばりに採点!

宇野　最初は気になって、ズッと見ないようにしてたんですけど、逆に、「今日は何が出てるのかな」って楽しみになってきちゃって（笑）。でも、ある一部の人たちですからね。逆に、よく書いてくださる方もいたんで、そういうのは凄くありがたかったです。

——そう思えるところが、強さの秘密の一端でしょうね。

宇野　だから、いまは言葉をたくさん言って誤解を招くより、リング上で結果を出すだけだと思います。ボクは自分で厳しい道を選択をしたと思ってますし。いままでのファンにナメられていたのかもしれないですね。

——宇野さんを、“いい人だ”って思っているファンが多かったんじゃない？　実際にいい人なんだろうけど（笑）。

宇野　いや、どうですかね？（ニッコリ）。

——いい面ばかりを見せて通用するほどプロの世界は緩くないですよね。さらけ出していくというより、さらけ出ちゃう世界だから。

宇野　う～ん、その辺はまだわからないですけど。……それが個性なんですかね？

——「これだ」と思った自分のスタンスを、変化しながら、寄り道しながらでも追求していく姿勢が、個性と言われるものになるんじゃないですか。な～んて（笑）。

宇野　でも、これからもあまり変わらず、ペース的にはいつも通り練習をして、試合で頑張ります。スタンス的には、これまでとあまり変わらないと思います。

——もし宇野さんがプロレスラーになったとしたら、ヒールの資質があると思うんですけどね。ヒールといっても凶器使ったりという意味じゃなく（笑）。

宇野　あ、クレイジーMAXみたいなのですか？

——いや、いわゆる正義役、悪役のヒールという意味ではなくて、存在のあり方自体が、オーちゃんのように自然にヒール化していく素質があるっていうか。嫌いな人は本当に嫌いっていうか（笑）。

宇野　好きな人は好きって感じですか？　ボクも格闘技ファンの間では一気にヒールになりましたからね（笑）。このまま修斗に残っていたら面白かったのかなとか、ちょっと思いましたね。ルミナさんがベビーフェイスで、ボクがいままでベビーだったところをヒールになって。蝶野さんが急に黒くなったみたいに。



——宇野さんがプロレスラー的だなと思うのは、自分なりのアングルを持っているところですよね。

宇野　えっ？　アングルって何ですか？

——自分なりのプランというか、アイディアというか（笑）。例えば、周りが作った権威やら象徴に対して、自分なりの理想を芯に持って、闘いを通じて挑んでいくのが本当のプロレスラーだと思うんですよ。

宇野　（考え込んで）……はい。

——でも、いまのプロレス界は、プランにしても上の言いなりになってる選手が多いんで、あまり面白くないんですよね。宇野さんも、宇野商店店主として、自分の理想やらプランを、試合を通じてファンに見せていってほしいですよね（笑）。

宇野　はい。頑張ります（笑）。

——そっか、宇野さんは、アングルっていう言葉も知らないんですね（笑）。

宇野　難しい言葉はわからないので。いま山口さんが話したことも多分頭に入ってないですよ。いまは「うんうん」と頷いてますけど（笑）。ケビンさんみたいに、会う度に何十回も言ってくれないと（笑）。

——いや、ボクも面倒臭がり屋なんで（笑）。『猪木祭り』全体で目についた試合は何ですか？

宇野　高田さん&武藤さんの試合と、あとは桜庭さんの試合ですかね。高田さん&武藤さん、桜庭さんの試合は手拍子がしたかったんでゲージのところで見てました。

——ガハハ！　手拍子って、宴会行くわけじゃないんだから（笑）。小川vs安田戦なんて見てどうでした？

宇野　あっ！　面白かったです。でも……（思い出したように小声で）通路で小川さんとスレ違ったら本当に怖かったです。目が凄くて……。今回はプロレス・ルールなわけじゃないですか。でも、グッドリッジや佐竹さんとやった時の目と変わらなかったですから。その時もスレ違ったことがあったんですけど、今回の安田戦と同じ目をしてたんですよ。だから、試合になっても「これは何かが起きそうだ」っていうふうに、お客さんも見ますよね。

——たぶん、猪木さんはそういう“怖さ”をプロレスに求めてるんだと思うんですよ。技術やスタイル云々より精神的な部分ですよね。「格闘技でもプロレスやる時でも同じ気持ちでやれ！」っていうことを猪木さんは言いたいんだと思うんですよ。

宇野　あ～、でも、ボクは格闘技もプロレスも楽しくやりたいんですよね。あまり考えず、楽しくやりたいっていうのがあって。

——あ、そういう意味では、プロレスも格闘技も区別ないんだね。

宇野　はい、区別ないです（笑）。

——桜庭選手もそういうタイプですよね。プロレスもバーリ・トゥードも楽しんでやりたいっていうタイプ。猪木さんのプロレスをズッと見てきた世代は、格闘技やプロレスは怖いモノだって意識があるんだけど、桜庭さんの出現以降は両方とも楽しんでやる人が増えましたよ（笑）。

宇野　う～ん……難しいですね。自分としては、ああいうスタイルの試合で良かったと思うんですよ。ちょっと悔しかったのは、間合いの難しさというか。試合前に小路さ

んにプロレスを叩き込まれたんですけど、「プロレスは間合いが難しい」って凄い言われましたから。

――小路さんにプロレスを叩き込まれましたか！（笑）。プロレスというのは継続してやっていけばいくほど難しいんですよね。今回は、お祭りだし、宇野さんも1回こっきりと明言しての参戦なんで、あの試合はボクも楽しめましたけど、継続してやっていくとなると、猪木さんの言ってる精神的な部分はかなりウェイトを占めてくるでしょうね。

宇野 ボクは総合格闘技に慣れているんで、やりやすいのは総合格闘技ですけど、プロレスは本当に難しい（しみじみと）。

――桜庭さん、高田さんの他に、宇野さんがプロレスラーでスパーリングをしたことある人は誰でしたっけ？

宇野 藤田（和之）さんです。

――どうでした？

宇野 藤田さんは……おかしい。

――ガハハハ！ おかしいですか（笑）。

宇野 化け物ですよ（笑）。

――でも、その化け物と、こんな小さなサイズで、進んでスパーリングする宇野さんの方が怖い気もしますよ（笑）。

宇野 （謙遜しながら）いえいえ。あとは、高阪さんとか、パンクラスの菊田さんとか……プロレスラーと括れるかどうかわからないですけど。でも、実際にプロレスラーとやってなくて、バカにしている人っているじゃないですか？ でも、ホ〜ントにプロレスラーはメチャクチャ強いですよ。

――一緒にやってるプロレスラーが強い人ばかりなんですよ！ なかには、バカにされてもおかしくないレスラーもいますから（笑）。そういえばUFCに出たいって言ってましたよね。

宇野 やっぱり独特な雰囲気がありますからね。それで、UFCに出ていたジェンス・パルバーという凄く強い選手がいるんですけど、ちょっとやってみたいなという気持ちが涌いてきたんですよ。これからは、「やってみたい」と思う選手とやっていきたいですね。

――パルバーって強いけど、まだ一般的な知名度がないですよね。いまは、知名度よりも、純粋に強い選手とやりたいということ？

宇野 でも、だいぶ知名度も上がって来たんじゃないですか？ 一般の人にとっては、少しわかりづらいかなと思いますけど。グレイシーって付くとわかりやすいですけどね。

――例えばだけど、ハイアンとかとやってみたいと思わないんですか？

宇野 いや……体重が重たそうな気がするんで。もしやるとなったら、ケビンさん式トレーニングで体重上げなきゃダメですね（笑）。前田日明さんもボクに「90キロになれ！」って言ってましたから。

――ガハハハ！ 無茶苦茶だな（笑）。

宇野 去年、アブダビで「宇野クン、体重なんぼ？」って聞かれて、「70キロくらいです」って答えたら、「90だよ、90！」って（笑）。

――ガハハハ！ 前田さんは誰にでも「体重増やせ」って言いますからね。自分が最近体重増えてるから仲間が欲しいんじゃないですか（笑）。でも、ホントに体重を上げるプランはないんですか？

宇野 そうですね。このくらいで。

――村浜選手とかは、体重を上げてプロレスをやってるけど、ああいうふうにプロレスをやりながら総合もやっていくっていうプランはないんですか？

宇野 ボクは出来なそうな気がします。二足の草鞋といのは……そこまで器用じゃない気がするんですよ。プロレスは今回こっきりで。村浜さんなんて、しっかりシリーズで出ていますからね。あ！（疑った目つきになって）でも、何だか「プロレスやる」って言わそうとしてません？

――まったくしてません！（笑）。

宇野 やらないですよ！（笑）。「ちょっと出たい」みたいなことをポロッと拾って書かないでくださいね（笑）。

――いや、見出しにしますよ。「宇野薫激白！ 大阪プロレスに出陣！」って（笑）。それでサスケ社長が「裏切りやがった！」って大激怒。そういうのどうですか？（笑）。

宇野 アハハハハ！

――日本人では、ライバルはいないんですか？ 気になる存在とか、こいつだけには負けたくないという選手は。

宇野 （即座に）桜井速人選手！

――それは、どういった部分で？

Uno Kaoru

宇野 やっぱり、ウマイし、強いし。それに同年代ですし。

――将来的には闘ってみたいですか？

宇野 う〜ん、どうなるかわからないですね。もしかしてボクの身体が大きくなるかもしれないし。

――でも、もし宇野さんが80キロくらいになったら、また世界が広がりますよね。

宇野 いや〜、でも厳しいですよ。でも、いまのところはこのままで。増えちゃうと洋服が着られなくなるんで（笑）。

――ガハハハ！ 宇野商店店主としては、やっぱそっちか（笑）。でも表面的なカッコよさなんて気にしてられるの、いまのうちだけですよ（笑）。それより、自分のスタンスを、闘いのプロとしてファンに突き刺していってほしいですね。

宇野 はい！ 頑張ってプロの店主になります！（笑）。

[01年1月7日、神奈川県横浜市『TIGER PLACE』にて収録]

…の話を聞いてクダサーイ!

ボブチャンチン

98年の『PRIDE.4』で日本マット初上陸。以来、対戦相手の顔面を容赦なく打ち砕き続ける“北の最終兵器”イゴール・ボブチャンチン。今や『PRIDE』の看板選手となったボブチャンチンだがどういう訳かセコンドにまで付いている通訳のお姉さまの存在はファンならずとも気になっていたことであろう。通訳でありながら、時には、ボブチャンチンよりも目立ってしまうほどの強烈なインパクトの持ち主を本誌が放っておくわけがなく、通訳のお姉さまの『紙プロ』登場が遂に実現!

聞き手／水戸泉
interview by Izumi Mito

撮影／森鷹博
photographs by Morry

――初めまして！　ずっとお会いしたかったボブチャンチン選手とその通訳のお姉さまにこうして会うことができて光栄です。

ボブ　初めまして（ボブスマイル）。

通訳のお姉さま　ヨロシクオネガイシマース！

――そのお上手な日本語を間近で聞くことができて感激です（笑）。

お姉さま　アリガトーゴザイマース！

――どういたしまして（笑）。いきなりですが、お姉さまの本名を教えて頂けますか？

お姉さま　ワターシはボルシェフスカヤという名前デース。

――ボ、ボル…、何でしたっけ？　もう一度言って頂けますか？

お姉さま　ボルシェフスカヤという名前デース！

――しっかり覚えました（笑）。今日はボブチャンチン選手のインタビューでもあるんですが、ボルシェフスカヤさんにもお話を伺いたくてやって来たんですよ。

お姉さま　（両手でバッテンマークを作り）ワターシは通訳でマネージャーでもアリマース。話は選手であるボブにだけ聞いてクダサーイ。

――いや、そんなこと言わずにお願いします。日本のファンにとって、ボルシェフスカヤさんがどういう人なのか非常に気になるところなんですよ（笑）。

お姉さま　（しばらく考えこむ）

――ボブチャンチン選手に関することだけでもいいですから、ちょっとだけでも話して頂けないでしょうか？

お姉さま　（ちょっと考えてから）ワカーリマシタ。スコーシだけハナシマース。

――ありがとうございます！　時間の都合上、申し訳ないのですが、写真撮影を最初にお願いしたいのですがよろしいですか？

お姉さま　写真はダメデース。ワターシはマネージャーですから、ノーにシテクダサーイ。

――えっ！　美しく撮ることをお約束しますのでなんとかお願いします。

お姉さま　（しばらく考えこむ）

――日本のファンにぜひともその美貌をアピールしちゃって下さい！　お願いします！

お姉さま　（突然、気をよくして）ＯＫ！　ワカーリマシタ！　キレイな服に着替えマース！

――ダハハハハ！　悩んでたわりに結構ノリ気ですね。

【ここでボブチャンチンと二人で写真撮影に】

――それじゃあボブチャンチン選手、よろしくお願いします。

お姉さま　ガンバッテクダサーイ！

――ハハハ。がんばります。ボブチャンチン選手がとてもフレンドリーな人であることはよく知られていますけど、試合になったときの豹変ぶりは本当に凄まじいですよね。

ボブ　リングに上がる前までは平和主義なんですけどね（笑）。ただ、リングに上がったら攻撃的になることを心がけています。

――正直言って、『ＰＲＩＤＥ10』でのエンセン戦は、攻撃的すぎて正気の沙汰とは思えませんでしたよ（笑）。

お姉さま　（ボブチャンチンに寄り添いながら）ボブは普段はトテーモ、紳士的な男性デース。

――それを聞いて安心しました（笑）。まずはボブチャンチン選手が格闘技を始めた動機を教えて頂けますか？

ボブ　単純なんですけど、闘うことが好きだったからですね（ボブスマイル）。

――実に単純明快ですね（笑）。ボブチャンチン選手のような打撃系の選手がバーリトゥードの試合で活躍する秘訣は何だと思いますか？

ボブ　試合を見てくれれば分かると思うんですが、ボクはグラウンドの状態でサブミッションのチャンスがあっても、打撃で攻撃することを心がけています。立ってる状態でも、グラウンドの状態でもボクは純粋なストライカーとして闘っています。

お姉さま　（うっとりと）ボブは打撃だけでなくグラウンドもトテーモ、トテモ、グッドです。

――なんだか意味深ですね（笑）。ボルシェフスカヤさんが太鼓判を押すグラウンドの技術がありながら、どんな状態でもボコボコに殴って勝つことが信条なわけですよね？

ボブ　その通りです。どんな選手が相手でもボコボコにすることだけを考えて闘っています。

お姉さま　（誇らしげに）ボブに勝てるファイターは世界中探してもイナイデース！

――ボクも本当にそう思います（笑）。

お姉さま　ワターシの主人もそう言ってイマース。

――えっ！　ボルシェフスカヤさんには旦那さんがいるんですか？　ボブチャンチン選手と…。

お姉さま　（話を遮って）ワターシの主人はウクライナの格闘技マガジンの編集長デース。

――そうだったんですか。ボルシェフスカヤさんとボブチャンチン選手はただならぬ関係であるに違いないと思ってたんですけど、二人は恋人同士ではなかったんですね（笑）。

お姉さま　（強い口調で）チガイマース！

ボブ　ボクにもちゃんとした妻がいます（ボブスマ



イル）。

——それは大変失礼しました（笑）。8月の西武ドームのエンセン戦の後、「ケアーと決着をつけたら次はコールマンと再戦したい」とコメントしてましたけど、その気持ちに変わりはありませんか？

ボブ　もちろんです。ケアーを倒したら次はコールマンと闘いたいです。

——今まで闘った中で一番強かった相手はコールマンですか？

ボブ　そうです。もう一度対戦するためにもまずはケアーをボコボコに殴り倒したいです。ケアーがちゃんと正面からボクに挑んでくればボコボコにする自信はあります。

お姉さま　（黙って頷く）

——そう言えば、グランプリ決勝戦のコールマン戦の直前に、「日光のもみじが見たい」というスペシャルなお願いを関係者にされていたそうですけど、願いは叶えてもらいましたか？

ボブ　はい（ボブスマイル）。大阪での『PRIDE.11』の後で京都に連れていってもらいました。日光と同じくらい綺麗だったと思います。

お姉さま　モミジは、トテーモ美しかったデース。

——それは良かったですね。ボルシェフスカヤさんももみじに負けないぐらい美しいですよ（笑）。

お姉さま　アリガトーゴザイマース。

——『PRIDE.11』では高田選手との対戦になりましたが、高田戦の感想を教えて下さい。

ボブ　高田選手は非常に良い選手です。しかし、闘ってみて、苦戦はしませんでした。彼のテクニックは、他の選手に対しては特別なものだったのかも知れませんが、ボクには特別なものではなかったということです。

——エンセン戦のあとで〝エンセンは日本のサムライのような選手〟とコメントしてましたけど高田選手個人に対しての感想は何かありましたか？

ボブ　確かにエンセン井上はサムライスピリットをボクに感じさせてくれた選手です。しかし、残念ながら高田選手に関しては何のインスピレーションも感じませんでした。しかし、高田選手が良い選手であることに変わりはありません（ボブスマイル）。

——笑顔のわりには、ずいぶん厳しいお言葉ですね（笑）。『PRIDE』での活躍と、そのボブスマイルで、すっかり日本では人気者ですけど、母国のウクライナでは、かなりの有名人なんじゃないですか？

ボブ　確かにウクライナでもずいぶん有名になってしまったから、ファミリーの周りを取り巻く雰囲気は変わってきたと思います。

——『PRIDE』参戦当初の他誌でのインタビューを拝見したんですが、その当時のボブチャンチン選手は、一流の格闘家であると同時に一流のビジネスマンでもあったそうですね。お仕事の方は今でも続けられてるんですか？

ボブ　今は他の仕事はしていません。プロのファイターとして生活をしています。

——以前は格闘技以外にも仕事をしているので一日の練習時間は2時間程度だと聞いたんですけど、今は一日どれくらいの時間を練習に費やしているんですか？

ボブ　今は格闘技中心の生活をしていますが、練習時間は2時間のままなんです（ボブスマイル）。

——2時間のままでしたか（笑）。それでもその強さを維持しているのですから、相当ハードな2時間なんでしょうね。ところで、日本のファンにはどんな印象をお持ちですか？

ボブ　サインや握手にはできる限り応じるようにしています（ボブスマイル）。

お姉さま　ボブは日本でも有名デース！　今日もサインをたくさん求められたデース！

——今や日本で一番有名なウクライナ人ですからね。最後に日本のファンに向けてメッセージをお願いします。

ボブ　これからも今まで同様にがんばりますので応援よろしくお願いします。

——ボルシェフスカヤさんは何かメッセージはありますか？

お姉さま　日本のミナサーン、ガンバッテクダサーイ！

——ダハハハハ！　よくわかりませんが、きっとみんながんばってくれると思いますよ。

【12月22日都内某ホテルにて収録】

※収録翌日、『PRIDE12』でケアーとの完全決着戦に臨んだボブチャンチン。大方のファンの期待を裏切り、膠着状態が果てしなく続く、『PRIDE』史上最大のブーイングの嵐に包まれた一戦となったが、延長戦の末にボブチャンチンはケアーに勝利！　残念ながらお姉さまの名通訳ぶりは発揮されずじまいだったが、苦しい試合をモノにした〝北の最終兵器〟が待望のコールマン戦に一歩前進したことは間違いナシ！　果たして3月の『PRIDE13』でボブチャンチン対コールマンの頂上決戦は実現してしまうのか？　もしもボブチャンチンがコールマンへのリベンジを成し遂げ、『PRIDE』最強を証明したそのときには、通訳のお姉さまも最高にエクセレントな日本語で我々にその喜びを伝えてくれるに違いないはずである。そのときは、日本のミナサーン、ガンバッテクダサーイ！（何を？）



ワターシとボブの話を

イゴール・ボ



with 通訳のお姉さま

IGOR VOVCHANCHYN★IGOR VOVCHANCHYN★IGOR VOVCHA



2000年度 紙のプロレス大賞

~~MVP&ベストマッチ ダブル受賞記念~~ 二日酔い インタビュー

なんと!

元祖『プロレス大賞』のお膝元
東スポのT記者も同席という奇跡!!



イラスト贈呈&聞き手&構成／山口日昇
interview & text by Noboru Yamaguchi

編集助手／坂井ノブ
helper by Nobu Sakai

撮影／斎藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

元祖『プロレス大賞』MVP
『日刊バトル大賞』MVP
そして、あらゆる賞を総ナメの

桜庭和志

今年から華々しく始まった栄えある『紙プロ大賞』のMVPとベストバウト賞を獲得したのは、やっぱりこの男だった！ ベスト興行賞も『PRIDE・GP決勝』だったので、第1回『紙プロ大賞』を独占したことになる。そういうわけで本誌は、トロフィーがわりの特製表彰イラストを贈呈しようと髙田道場へと出向いたのだが、なにかサクの様子がおかしい。顔が青白い。大丈夫か、サク！ と心配したら「二日酔いなんですよ～」という超脱力コメント。まさにズコッ！ である。おまけに「腹減って力出ないんで、ラーメン食いながらやりませんか」という力の抜ける申し出。しかしそれが偶然を呼び、『プロレス大賞』の権威・東スポのT記者も同席するという幸せにあずかった。さあ、『プロレス大賞』と『紙プロ大賞』受賞の喜びの声を聞いてみよう！

道場の新年会で、フルチンになってこうやってた（大股広げ股間を隠すポーズ）って言われて……

KAZUSHI SAKURABA

【ラーメン屋に入るなり、いきなり】

桜庭（ヤケクソ気味に）飲んでましたーーーッ!!

――な、何？ いきなり（笑）。

桜庭 いや、なんか叫んでカラ元気でも出さないと。昨日、道場の新年会で……。

――ゲ！ そう聞いただけで修羅場を想像しちゃいますね（笑）。

桜庭 やらかしてしまいました。

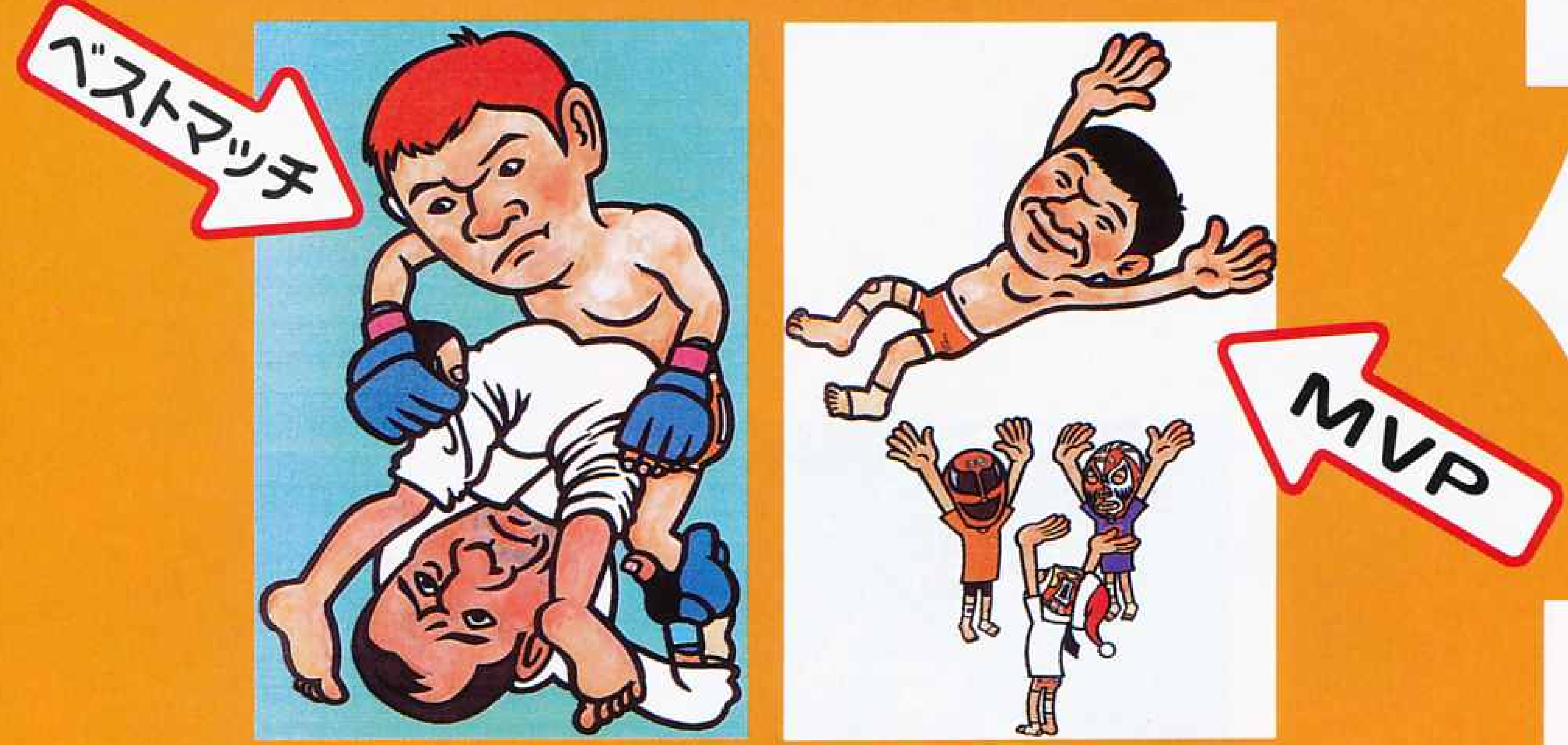
――前後不覚（笑）。ちなみに何をやらかしたんですか？

桜庭 ……。わかんない。……オシッコ漏らしたとか。

――ぶぁ？ オ、オシッコ漏らした？

桜庭（ヤケクソ気味に）漏らしましたーーーッ!!……わかんないですけど。いろいろやったって聞くんだけど、どれがホントの話かわかんない。松井（大二郎）から聞いたのは、ボクが潰れて寝てて、ムクッと起きて便所に行って戻って来たら、突然ソファーの上で脱ぎ始めたって言うんですよぉ。それでフルチンになって、こうやってたって（大股を広げて股間を隠すポーズ）。

――ガハハハ！ ソファーの上でガードポジション！



『紙のプロレス大賞』は、「紙」の大賞だけに紙に書いたイラスト（豪華な金縁の額入り）を授与！ 本誌読者にはおなじみの中川雅博画伯による素敵な特大イラスト！（実物はプレゼントしてしまったため、これはカラーコピーです。若干色が変わってます）

桜庭 あと、泣かしました。

――あ、新弟子を。その新弟子は今日逃げたらしいですね（笑）。

桜庭 はい。荷物置きっ放しで。でも、ボクだけがやったんじゃないですよ～。よっぽどみんな溜まってたんでしょうね。そいつは普段から、やる気加減がわかんないっていうか、な～にやってもボケーッとしてる奴で。「お前、ホントにやる気があるのか！」ってみんなから言われてましたから。練習でイジメても、応えてるんだかどうかもわからないし。（店員さんに向かい）あ、ボク、マーボードーフラーメンください。

――ボクは味噌！ Tさんは？

東スポ・T ボクはザーサイスープを。さっきメシ食ってきちゃったんで。

――逃げ出した子はいくつでしたっけ？

桜庭 19……じゃないですか。

――19歳で地獄を見た男（笑）。

桜庭 ヒャハハハ。ボク、拳、切れてますよ、思い切り殴ったんで。

――ホントだ。『PRIDE』でもめったに切れたとこ見たことないのに（笑）。

桜庭（窓の外に目をやり）あ！ いま、そいつ通りましたよ、自転車で!!

――エ！ どこどこ？

桜庭 ほら、いま自転車で通りましたよ。そいつ、自転車に乗っていなくなったみたいですから。まだその辺ウロウロしてますよ、きっと（笑）。

――ネタか（笑）。最近、隙を見せるとネタに走るからなぁ。ところで、さっき渡した特製イラストは、読者と編集部＆ライター陣の選んだ『紙のプロレス大賞』MVPとベストバウト賞のトロフィー替わりです。昨年はお疲れさまでした。

桜庭 あ、はい、ありがとうございます。



取材日前夜の新年会で、新弟子相手にキラー・サクが出現！拳の傷も「記憶がないんですよねぇ」とのこと。怖ッ！

あのイラストはいいですね。家に飾りま……ウップ。あ～、気持ち悪ィ。

ーーガハハハ。でもなんだか、『プロレス大賞』の権威の東スポさんの前で、こんな貧乏臭い賞を渡すのは気がひけますね（笑）。

東スポ・T　いやいや、権威だなんて。

ーーもう貰うのも飽きただろうから、あげるのやめようかと思ったんですけどね（笑）。MVPもベストバウト（豊永）も稔君にしようと思ったんだけど、道場にいなかったから、桜庭さんでいいです（笑）。

東スポ・T　でも、どこの賞も桜庭さんが貰ってますよね、昨年度は。

ーー東スポを始めとして日刊スポーツ……あ、『週ゴン』のMVPが長州力だったら面白いんだけどなぁ（笑）。

桜庭　『ゴン格』はしょっちゅう取材に来ていただいてるんですけど、『週ゴン』は全然来ないですね。

ーー『ゴン格』の編集長が『週ゴン』の編集長に「何で桜庭を表紙にしないんだ？」って聞いてる対談があって、『週ゴン』の編集長・GKは「桜庭は（プロレスラーとして）信用できるけど、信頼まではいかない」と言ってました（笑）。

桜庭　じゃあ、『週ゴン』は、『週プロ』以上にプロレス寄りなんですね。

ーー実にいい表現です（笑）。

桜庭　だって『週プロ』って、プロレスなのに、まだボクが載るじゃないですか。

ーーウチも『紙のプロレス』ですよ（笑）。ウチは『週プロ』よりナニ寄りなんだ。

桜庭　ぶぁ～、そうかぁ。『紙プロ』は特異なんじゃないですか（笑）。

東スポ・T　ウチは『東京スポーツ』っていう割りには、スポーツの記事が少ないんですけどね（笑）。

桜庭　ヒャハハハ！　これは、絶対書いといてください。

【この取材の2日後、『週ゴン』のMVPは佐々木健介だったことが判明】

ーーもちろんです（笑）。でも、東スポの『プロレス大賞』MVPを獲ったのは、よかったですね。

桜庭　あ、はい、ありがとうございます。ハァ～（ため息）。まだ酔っ払ってるんですよ。（ヤケクソ気味に）ビールでも頼もうかなぁ。

ーー99年の『プロレス大賞』にノミネートされてMVPを獲れなかったとき（敢闘賞受賞）、「ボクはプロレスラーじゃないんですかね？」ってボヤいてましたよね。

桜庭　あ～、はい。これで、やっと「プロレスラー」になれました（笑）。

ーー1月4日の授賞式では、「来年もプロレス界のために、みんなで力を合わせて頑張ります」とかいう、心にもないことを言ってましたよね（笑）。

桜庭　ぶぁ～。ありますよ！　心にあるから出てくるんじゃないですか！

ーーガハハハ！　それはともかく（笑）、ウチのベストバウト賞はホイス戦での受賞なんですが、去年はやっぱりホイス戦が一番印象に残ってます？

桜庭　………去年？？

ーーダメだ、今日は何聞いても（笑）。ちなみに、去年は、メッツァー、ホイス、ボブチャンチン、ヘンゾ、あとは……。

桜庭　それでハイアンですね。

ーーいや、その前にシャノン・〝ザ・キャノン〟・リッチがいますよ（笑）。

桜庭　ぶぁ～、そうだ。

ーープラス『猪木祭り』のケンドー・カシン戦。

桜庭　あ、カシン戦が一番印象に残ってますね。

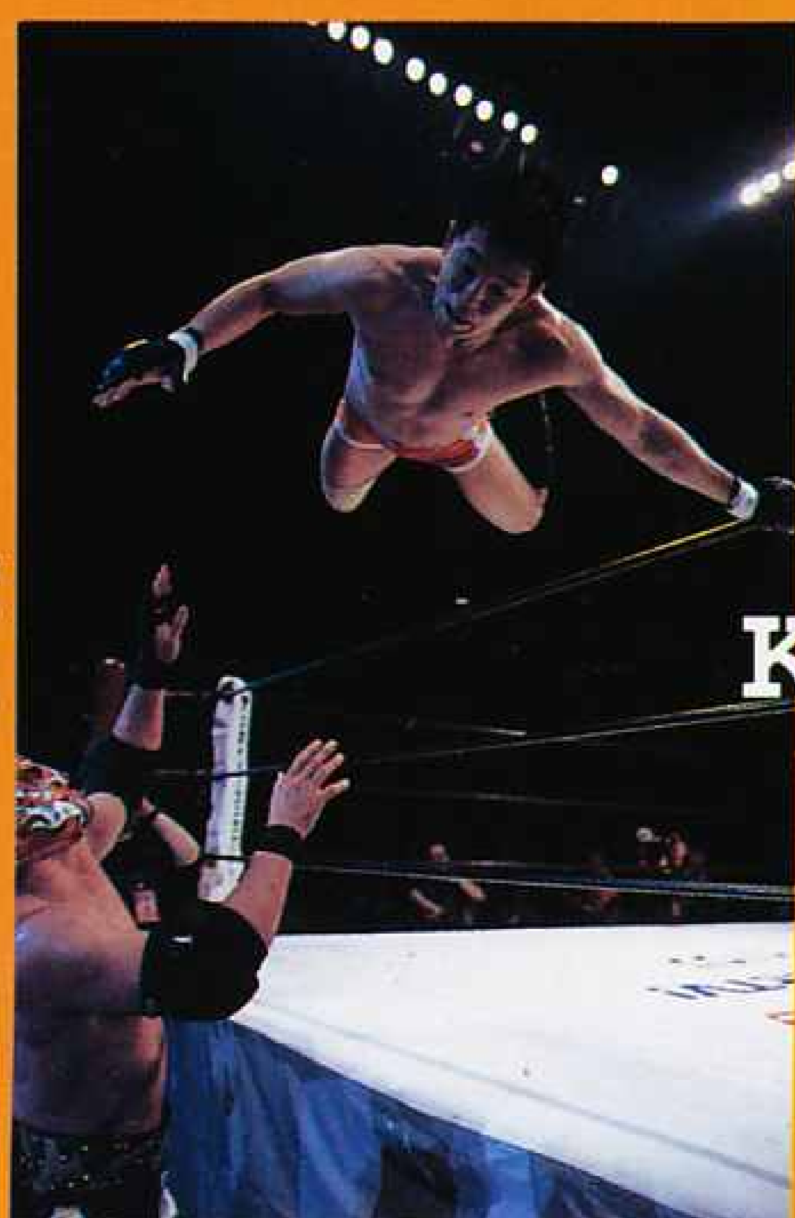
ーーそれ、一番最近だからでしょ（笑）。

桜庭　いや、ホントに。ブランチャ失敗したのが、まだ痛いんですよぉ。ドスンと内臓にきましたもん。

ーー久しぶりの純プロレスの試合で、途中でスタミナ切れてましたよね（笑）。

桜庭　バテバテでした。どこで休めばいいのか、わかんないから。スタミナ配分が難しいですね。やりたいことはいっぱいあったんですけど、結局出したのは半分以下でしたからね。

【ここでラーメンが来たので、読者の皆さまには失礼して食事タイムです】



12・31の『猪木祭り』で見事なブランチャを披露したサク。このときは成功したが、この直後の2回目のブランチャでは見事にすかされて腹から落下、ミゾオチを痛打した。いつもとは全く質の違うダメージに悶絶したことは言うまでもない。

KAZUSHI SAKURABA

ーー『猪木祭り』で印象に残った試合って何ですか？

桜庭　あんまり見てないですね……あ、松井の試合（小路晃＆宇野薫vsザ・グレート・サスケ＆松井）。ワーワー湧いてるから、会場を覗いたら、「ウワッ、飛んでる！」って思って、「クソーッ、俺も飛ぼうと思ってんのに。2試合目であれやられたら、ボクの試合のときなんて冷めてんだろうな」と思いました。

ーー桜庭さんは、明るく楽しいプロレスがやりたいんですか？

桜庭　（具合悪そうに）ウップ。そうですね。

ーー小川直也vs安田忠夫戦みたいな、殺伐とした試合は？

桜庭　あ～、あれをやるんだったら『PRIDE』でやりますよ。

ーーでも、乱闘はファンも燃えますよね。

桜庭　あ～、なんだかんだ言っても見ちゃいますからね。

ーー桜庭さんの殺伐としたプロレスも見てみたいですけどね。

東スポ・T　新弟子と（笑）。

ーー桜庭和志vs新弟子。そういうときにキラー・サクが一番見れそうだな（笑）。カシン戦はUインターの頃のプロレスとも違いますよね、スタイル的に。

桜庭　あ～、全く違いますね。Uインターとかキングダムとか、ああいうスタイルは、もう黙って『PRIDE』でやればいいと思いますよ。いまはプロレスやるんだったらアメリカみたいにしちゃったほうがいいのかもしれないです。やっぱり『PRIDE』と同じことしてもつまんないし。

ーー『PRIDE』とかに上がってる格闘家がプロレスをやる場合、いま、大半の選手はそういう考えですね。猪木さんだけ、一人で真ん中をグワーッとやろうとしてますけど。

桜庭　両方を取り込んじゃえみたいな。

ーー明るく楽しいプロレスもいいけど、ボクが子供の頃に抱いていた「プロレス」のイメージは、『PRIDE』の方ですよ。

桜庭　あ、それはボクもそうです。

ーーやっぱりカシン戦よりも、ボクは『PRIDE』での桜庭さんのほうに「プロレス」を感じるなぁ。『PRIDE』の桜庭さんのほうが光ってるし。

桜庭　あ～、そうですか？　でも、プロレスの試合もできれば、もっとやりたいですね。やっぱり、やってて面白いですからね。そういえば、誰かがアメリカ行ってプロレス見たら、半分喋ってたって（笑）。やるんだったら、あそこまでやればいいのに。いまはゴッチャになりすぎてるから。

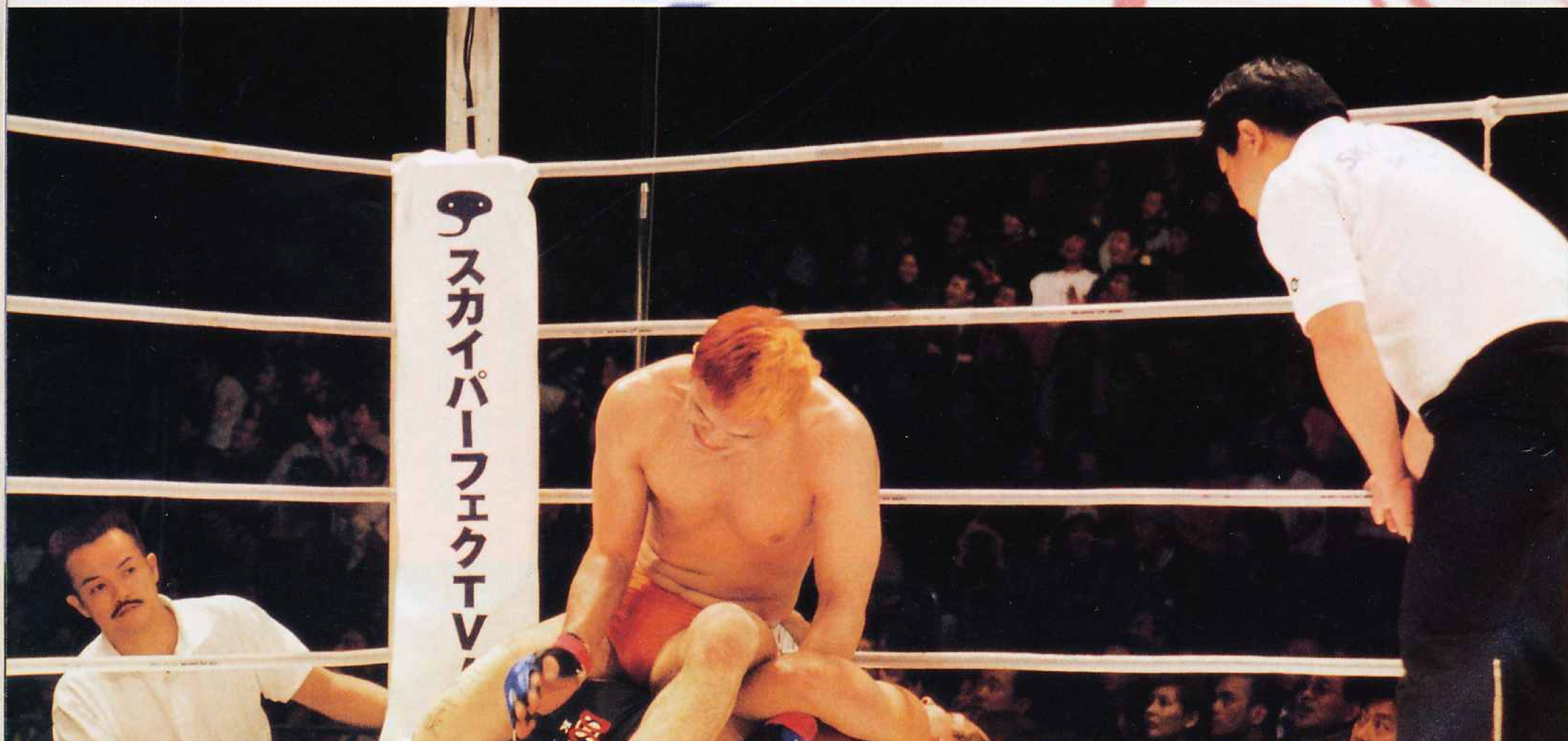
ーーじゃ、いっそ針を振り切って、桜庭さんのプロレスの試合もWWF化したら？

桜庭　いや～、ボクは無理ですよ～。自分がやる場合は、あれだと行き過ぎだと思う

幻の秘技を遂に公開！　「炎のコマーッ！」と絶叫しながらケンドー・カシンを回しまくった！　まさに「明るく、楽しく、激しいプロレス」だった。

Uインターとか キングダムのスタイルは、もう黙って『PRIDE』でやればいいと思います





『PRIDE.12』ではディフェンシブなハイアンを相手に、敢えて負傷した（はずの？）右肩を攻めずに圧倒してみせた。最後には「お尻ペンペンチョップ」まで初公開。「明るくて、楽しく、激しい格闘技」だった。

んですけどね。ものには限度があるじゃないですか、何でも（笑）。あんまり行き過ぎると面白くないんじゃないですか？　テレビでいうと、WWFはドラマで、『PRIDE』はドキュメント系のヤツって感じですよね。ドラマもあんまり行き過ぎると「嘘つけっ！」ってなっちゃうから。

東スポ・T　いっそ本場のWWFに行って怠け者の東洋人キャラでやったら面白いんじゃないですか。テーマ曲が鳴っても、まだ控室で寝てる（笑）。

――ガハハハ。ビンス・マクマホンが控え室まで起こしに来たりして（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。……ウップ。

――リッチ戦（00・10・31）からハイアン戦（00・12・23）直前までズッと飲みっぱなしだったんですよね？（笑）。

桜庭　はい。10日前には切り上げようとしたんですけど、それがダメで。で、1週間前には絶対切り上げようとしたんだけど、結局、3～4日前まで飲んでましたね。医者に、このまま飲み過ぎたら、内蔵がズタズタになるって言われたんですよ。（ヤケクソ気味に）飲んでましたーーーッ!!

――ダメだ、今日は（笑）。そういえばハイアン戦はまだウチの誌面では振り返ってもらってないですね。

桜庭　いや～、やっぱり極めて勝ちたかったですね。でも相手が守りに入ってたから。あれだけ守られたら厳しいですよ。

――「ハイアンは本当は怪我してない」という憶測が飛んでますけど、そのへんは実際やってみてどうでした？

桜庭　「怪我してる割には力あるなぁ」とか、「ホントかなぁ？」っていうのは、ありましたよ。でも医者も怪我してるって言ってるんだから、怪我してたんじゃないですか？（微笑）。

――なるほど（笑）。今年、闘ってみたい人はいない？　ホイスとの再戦とか。

桜庭　グレイシーで再戦だったら、ヘンゾがいいですね。ヘンゾとならまたやってみたいです。

――この先にある質問は当然ヒクソンなんですけど（笑）。

桜庭　いや～、自分から「やりたい」というのはないです。「やれ」と言われたらやりますけど。

――ヒクソンが挑戦してくる立場なんだよなぁ、いまは。それなのに相手を選びますからね。じゃあ一方で噂される小川直也との対戦が本当に決まったら悔しくない？

桜庭　いや～、別に。

――じゃあ、もし長州 vs ヒクソン戦が決まったら、どうします？

桜庭　それ、面白そうじゃないですか!!

――そうは言っても、去年の12月の頭、ヒクソンが出演してる生放送中にTBSに電話したそうじゃないですか。「俺の挑戦から逃げているようでは最強とはいえない。俺と闘え」と（笑）。

桜庭　ぶぁ～！　だから、あれはもう散々、山口さんにも話したじゃないですかぁ。ボクじゃないですよ。誤解ですよ～。

――じゃあ、その辺は高田道場のホームページ参照ということで（笑）。今年は何の賞を狙いますか？

桜庭　ウップ。特に（笑）。あ！　タッグ!!　いいなぁ、タッグ。

東スポ・T　じゃあ「桜庭、今年は最優秀タッグ賞を狙うと宣言！」と書きますよ（笑）。

桜庭　タッグだったら途中で休めるから（笑）。……ぶぁ～、もうダメだぁ（グッタリ）。

――本日の「日本全国最優秀二日酔い賞」は桜庭さんに決定です！（笑）。

【01年1月15日／武蔵小山・高田道場の近くのラーメン屋さんにて収録】

※と、この日はインタビューにも表彰式にもならなかったわけだが、東スポのT記者はこの後も密着取材。そしてこのページに掲載している東スポの裏一面の「桜庭、肝臓疾患」「引退の危機」というスクープをものにしたのだった。そんな重傷だったのか、サク！　そしてビバ、東スポ！　よ～し、サク、飲むんだったら死ぬまで飲めや、死ぬまで（アントン調）。

ヒクソンとは自分から「やりたい」というのはないです。「やれ」と言われればやりますけど



『東スポ』のT記者は雑談に終始した本誌編集長とは違い、熱心にメモを取りながら鋭い質問をバシバシ飛ばしていた。それが翌々日には、裏一面にデカデカと掲載されるスクープを呼び込んだのだ。「肝臓疾患」「引退の危機」といった文字が踊っている。どうやらブランチャ失敗による腹部のダメージと酒の飲み過ぎによる肝臓のダメージで、サクはホントに苦しんでいるようだ。寝癖もそのままに、腹を押さえて苦悶の表情を浮かべる姿はじつに痛々しい。でも、その傍らに吸い殻の入った灰皿が置いてあるのは、なぜだ？　この記事の中で「松井と一緒にメキシコ修行に行きたい」と、ブランチャ失敗の名誉挽回を誓うが……ちなみに1月15日の時点で、まだ2日間しか練習していないという。メキシコに行ったところで、グータラが治らなければ本場のルチャは学べないだろう。ホントに大丈夫なのか、サク!?　な～んて

KAZUSHI SAKURABA

髙田道場の若手戦士たちが大集合！髙田やサクの裏話が聞けるかも？

髙田道場で日々スキルを磨き、先輩の髙田やサクと最も身近に接している若手・3人衆がトークライブに出演するぞ！　近い将来、日本の格闘技界を背負って立つであろうタフガイたちのガチンコ・トーク（あるいはボケ・トーク？）が聞けるチャンスはめったにないだけに、必ず駆けつけよう！

【ジャパン格闘技フェスティバル4　トークライブ＆サイン会に髙田道場の若手戦士たちが大集合！】
日時■2月4日（日）14:00～
場所■池袋パルコ　5F　ワールドスポーツプラザ「KINGS」
参加予定選手■松井大二郎、今村雄介、豊永稔

キミもサクみたいに強くなってみないか？髙田道場の新弟子募集！

参加資格■年齢18-23歳までの健康な男子　身長175cm　以上
応募方法■履歴書に身長、体重、スポーツ歴を明記し、他、必要事項を記入すること。上半身裸の全身写真及び上半身写真2枚を同封し、髙田道場宛に郵送。書類審査の上、入門テスト受講者日程を連絡する。
応募締切■1月31日（水）必着

※新弟子とは別に、一般ジム会員は随時募集中です。ダイエットやフィットネスにも最適、もちろん格闘技も身に付きます。こちらは女性も大歓迎！見学はお気軽に！

お問い合わせ■髙田道場　TEL.03-5749-5030

超クールなサク・マシンのシルバーリングが登場！なんと本誌読者1名様にプレゼントだぁ～！



いつも指にはサク・マシン！　なんて素敵過ぎる！　左の写真でサクが手に持っているような豪華なボックスに入っているので、高級感たっぷり。しかも300個完全限定なんて聞いたら喉から手が出るほど欲しいでしょ？　さあ、キミも最強のアクセサリーを身につけよう！　なお、プレゼントの応募要項は本誌175ページを参照してください。ドンドンハガキを出してみよう！

注文方法■①ご注文は、電話とホームページにて受け付けます。
TEL.03-3203-4618　http://www.digipad.com/spicebk/
電話での受け付けは、日曜・祝日を除くAM10:00～PM6:00となります。②商品お渡し方法●ご注文時にお名前、電話番号、ご希望のサイズをお伝えください。こちらからご注文番号をお知らせします。●お名前、住所、電話番号、ご注文番号を明記のうえ、商品代金28,000円＋消費税1,400円＋送料600円　合計30,000円を必ず現金書留にて、下記住所までお送りください。（ご注文受け付け後、14日以内必着。）
〒169-0075　東京都新宿区高田馬場1-17-22
スパイスバンク桜庭マシンリング係

2000年度 紙のプロレス大賞

ベスト興行

森下直人

（ドリームステージエンターテインメント　代表取締役社長）

本誌読者&ライター&編集部が選定する『紙のプロレス大賞』ベスト興行部門においてブッちぎりの強さで『PRIDE』圧勝！　このとんでもない一大ムーブメントを引き起こしたドリーム・ステージ・エンターテインメントの森下直人社長に豪華似顔絵を授与すべく、直撃インタビューを敢行ーッ！　しかし、いつも元気な社長が、今回ばかりはなぜか落ち込んでいる。一体、どうしたんですか、社長ッ!?　撮影・聞き手／戸高11万円



怒濤の勢いでベスト興行1～4位を独占！
だが、「今春は『GP』を行いません!!」

——森下社長、「紙のプロレス大賞ベスト興行部門」を『PRIDE・GP決勝大会（以下GP）』が見事受賞しました。若輩者の私が渡すのも失礼かと思いますが、おめでとうございます（おなじみ中川画伯の描いた豪華額縁入り表彰状イラストを授与する）。

森下　（淡々と）読者の方に選んで頂いたということで、大変光栄です。今日は、わざわざ御足労願いありがとうございました（颯爽と部屋を去ろうとする）。

——（慌てて）しゃ、しゃ、社長ーッ！　ちょ、ちょ、ちょっと待って下さい。『GP』&『PRIDE.10』（以下10）&『PRIDE.11』（以下11）そして『猪木祭り』とDSEが絡んだイベントが上位を独占したんですよ～。

森下　（凛々しく振り返り）上位独占という素晴らしい評価を頂いた部分に関しては非常に嬉しいのですが、逆に言うと、その先はないわけですよね（顔を曇らせ）。それよりもボクにとっては『PRIDE.12（以下12）』の評価の方が重要だと思います。

——残念ながら、本誌では『12』がワースト興行に選ばれました。

森下　『12』も上位を争うようなイベントにするつもりだったのですが……（沈黙）。

——……社長！　今日は、喜びの声を聞きにお伺いしましたので、反省はもうそれまでにして下さい。とにかく『GP』がぶっちぎりの受賞なんですよ。

森下　（自分に言い聞かせるように）グランプリの決勝大会は、少し方向性の違うイベントだったけど、『10』と『11』は『12』と全く同じ方向性で行ったイベントなんだよなあ。それが、上位と下位という相反する評価の……。『12』も冷静に見ると凄くいい試合が多いんだよなあ。でも、印象の悪い試合が2試合程あったから、それが全てのイベントの評価につながってしまったんだなあ。

——し、社長！　もう去年のことは忘れて！　『GP』の話にしましょうよ！　今年の『GP』はいつ開催するんですか？

森下　『12』の反省点が非常に多いので、まずああいうワンマッチ形式のイベントで、お客さんを満足させることが一番重要なことだと思っています。今年は、まだどうするかはわかりません。とりあえず、今春はやらないことに決めました。でも『12』が……。

——『12』といえば、猪木さんの「バカヤローッ！」ですよ！　森下社長も猪木イズムですよ！　「迷わず行けよ。行けばわかるさ」の精神ですよ！　また面白いイベントをやって下さい!!

森下　（ちょっと表情に明るさを取り戻し）猪木さんの言葉は素晴らしいですね。まあ反省点があるということは、更によくなる希望があるということですから。この反省点を踏まえて今年もファンに感動を与えるようなイベントをどんどん提供していきます！　今年も各賞は『PRIDE』そして『DSE』が独占します（キッパリ）！

【01年1月15日、東京・赤坂DSEオフィスにて収録】



12・31『猪木祭り』では107発目のビンタを嬉しそうに食らって、闘魂注入もバッチリ完了。これでDSEは来年も安泰、間違いなし！

2001年も突っ走る！　『PRIDE.13』は3月25日（日）さいたまスーパーアリーナで開催決定！（17：00試合開始）。チケットの一斉発売は2月11日から。　お問い合わせ■DSE　03-5775-5700



12/4→1/14 マット界の1ヶ月丸わかり

紙の新聞

KAMINO SHINBUN

(毎月22日発行)
発行所:(株)ダブルクロス

1月号

みなさん、あけましておめでとうございます。年末年始は注目興行がめじろ押しで、マット界も話題に欠きませんでしたが、やっぱり一番忙しかったのは「世直しスクワット」でお馴染みの大仁田厚でしょう。この写真は12·31猪木祭りに乱入、『PRIDE』広報S氏相手に大仁田劇場を展開する大仁田です。間違えてパノラマで撮ってしまったのでここに載せました。では皆さん、今年も元気でッ!

編集長/堀江ガンツ
助手/水戸泉、マッハ、珍

12/4

【パンクラス】日本武道館

船木、涙の引退式



かつて"21世紀の星"と呼ばれた船木誠勝が、21世紀を待たずして、この日引退式を行った。引退式には山本小鉄、獣神サンダーライガー、藤原組長、佐山サトル、そして我らがドラゴンらが参列。ドラゴンはノールールで行われた菊田vs高橋戦を「殺しあいじゃないんだ!」と急遽中止させようとする一幕も(ウソ)。ともかく船木選手15年間お疲れ様でした。(ガンツ)

【パンクラス】日本武道館

須藤元気がパンクラスを無期限欠場



タレント志望のパンクラシスト須藤元気が、アメリカへの武者修行へ旅立った。かつて所属していたビバリーヒルズ柔術クラブに籍を置き、アメリカ各地の大会に出場するつもりらしい。しかし、同所はアクターズスクールの多さでも知られているだけに、一体どっちの武者修行なのか気になるところ。「離脱ではありません」とは元気自身の弁。(水戸)

【パンクラス】日本武道館

高橋義生、菊田に完敗



目突き、金的、頭突きのみを禁じたパンクラス版のデスマッチ(not長州vsシン)。実力でパンクラスを制圧する勢いの菊田を、生え抜きの高橋が止められるかと注目された一戦だったが、比較的アッサリと菊田が完勝。試合後「負けたから話すことないっすよぉ」と笑顔まじりに喋りまくっていた高橋はこの試合の重大さがわからなかったのだろうか。(ガンツ)

12/7

【新日本プロレス】

金本「藤波社長にドラゴン殺法使わせる!」



本人がまったく引退する気がないのに第2戦を迎える、ドラゴン引退ロード。その対戦相手はドラゴンに憧れてプロレス入りを決めたという金本浩二。この二人の対戦は一度正式に決定したものの、ドラゴンがプライベートな理由(おそらく家族サービス)でキャンセルした経緯があるいわくつきのカード。金本はようやく実現する一騎討ちに「藤波さんにドラゴン殺法を出させたい」と抱負を語ったが、言う間でもなく実際に飛び出したのはドラゴンスリーパーとドラゴンバックブリーカーだけなのであった。

12/9

【全日本プロレス】日本武道館

川田&渕、優勝ならず! 永田&飯塚ガッカリ



歴史と伝統を誇る全日本プロレス「世界最強タッグ決定リーグ戦」。その20世紀最後の「最強」を決定する一戦が川田&渕vsウイリアムス&ロトンドの間で争われ、見事バーシティ・クラブが優勝に輝いた。これによって、なぜか全日本vs新日本タッグ頂上対決に準優勝チームが出場する事態となった。(ガンツ)

12/10

【新日本プロレス】愛知県体育館

これぞハイスパート! 健介、小原を6秒殺!



誰がなんと言おうと、新日のトップだと言い張る男・健介がその力を満天下に誇示した。蝶野のいやがらせで、1·4の「トーナメント出場者決定戦」として行われた小原戦をなんとラリアット一発で6秒殺!「これぞ本当の"ハイスパート"レスリング!」と叫びたくなる一戦。ビバ、健介!(ガンツ)

12/11

【新日本プロレス】

浅野社長引退&即復活!



浅野社長が新宿2丁目『花膳』にて会見。精力減退を理由に引退を表明…そこに突如現れた冬木が滋養強壮剤「プロマガンダF」をプレゼント。戸惑いながら1粒飲んだところ、元気復活! すぐに引退を撤回した。ところが、引退を祝福するために駆けつけたT後藤がこれに劇怒! 急遽、26日冬木軍との開戦が決定(その後中止)(戸高)

12/15

【みちのくプロレス】後楽園ホール

タイガーエンジェルデビュー



遂にタイガーエンジェル(21歳)がみちのくのリングでヴェールを脱いだ。タイガーマスクのテーマに乗ってさっそうと入場するやタイガー遺伝子を感じさせるコーナー最上段での決めのポーズ。試合でもサブミッションに空中殺法とタイガーワールドを展開。最後は、名刺代わりの猛虎原爆固めで矢樹を仕留め、サスケ社長も85点の高得点をつける大活躍だった。(宇野君89点、小路100点) (戸高)

はみだしニュース

【TEAM2000】

ヒロ斉藤が焼肉屋をオープン!



我らが人生セントーン、ヒロ斉藤が焼肉屋をオープン。その名もズバリ『炭火焼肉ヒロ』! 開店祝いで来た蝶野も「うまくて安くて、おすすめだね!」と絶賛する本格派の味。営業時間は17時~23時(定休日=月曜)『炭火焼肉ヒロ』(千葉県船橋市西船橋2-23-20電話0474-32-7170)さぁ、いますぐ船橋へ走れ!

12/15

【UFC−J】都ホテル東京
"グレイシーハンター"イズマイウ現る!



"ハイアンに喧嘩で勝った男"イズマイウがUFC−Jの会見場にひょっこり姿を現し、ハイアンとの喧嘩が記事になったブラジルの新聞を片手に大いに吠えた。「ハイアンがオレにぶちのめされたのは、ブラジル中の人間が新聞で知っている事実だ!なんであんな弱いヤツが桜庭とやるんだ。『PRIDE・12』なんて見る必要はない! オレはホイス、ヘンゾ、ハイアン、ハウフと4人のグレイシーを倒している。なぜヒクソンはオレと闘わないんだ!」などなど、なんだかイズマイウの試合が見たくなる吠えっぷりだったのだ。(ガンツ)

【保守党】
松浪健四郎、遂にマゲを切る!



国会での「水かけ事件」で反省のちょんまげ断髪を迫られた、我らが"ワル"松浪健四郎代議士が都内のホテルで大相撲の元幕内大日ノ出の引退断髪式に出席した。自分のマゲも切ってないのに、大日ノ出のまげにははさみを入れた松浪氏は「初めて相撲の断髪式を経験して、あらためてまげの大切さを考え直した。あれくらいのことで切らなくてよかった」といけしゃあしゃあと発言。越中に髪切りマッチで負けても、後ろ髪をちょっと切っただけでごまかした長州イズムをホントに見せてくれた。専修大学万歳!(ガンツ)

12/16

【新日本プロレス】大阪府立体育会館
タッグ頂上対決、やっぱり引き分け



「川田&渕vs永田&飯塚」と字面だけ見ると「全日本vs新日本タッグ頂上対決」という文字が出てきようがない対戦が、「タッグ版日本選手権」という大袈裟すぎるにもほどがある名称でこの日開催された。しかも完全決着を望むファンをあざ笑うかのように、メインイベントとしては異例の30分一本勝負。もう、ほとんど試合前に「ドローです」と発表しているも同然の大胆な手口。そしてその通りドローをやってしまう新日本のゴーマンぶりには心から脱帽。長州vs破壊王戦の不透明決着のきざしはこの時からすでにあったのである。(ガンツ)

【新日本プロレス】大阪府立体育会館
夢の対決! ドラゴンvsキムケン急浮上!



本人は引退する気などさらさらないのに、忘れた頃に再開されたドラゴンの引退ロード第2戦(まだ2戦目かよ!)がこの日金本浩二を相手に行われた。試合後、勝ち名乗りを受けたドラゴンは、放送席のキムケンに対戦をアピール。これまでアントン、長州、前田と引退した選手ばかりを対戦相手に要求するというドラゴンぶりをみせていたが、ようなくセミリタイアまで範囲を広げる気になったようだ。対戦日時はおそらくまた、目玉不足のビッグマッチの穴埋め的に使われるのだろうが、ここはどうせならPPVで後楽園ワンマッチ興行(レフェリーはもちろんミスター高橋)をやってほしいものだ。(ガンツ)

12/17

【掣圏道】ディファ有明
究極ルール『アンリミテッド』発表!



掣圏道の大会終了後に『アンリミテッド』の発表会見が行われた。会見には佐山会長、尾崎社長、船木誠勝、佐伯代表(DEEP)、KEI山宮が出席。「アンリミテッドとは?」との問いに佐山会長は「アンリミッテドはナチュラル。何やってもいいというナチュラル」と説明。つまり時間制限ナシ、グローブなし、なんでもあり(指関節もアリ)の超過激ルール。2月から掣圏道興行で毎回1、2試合を行う予定。「うちの選手でアンリミッテドに耐えられる選手はまだ5%なんです」と語る佐山会長。ところで5%って具体的に何人?(珍)

12/19

【PRIDE】新宿教育会館
ハイアン「ボクは10番目に強いグレイシー」



サクとの対戦を4日後に控えたハイアンが公開練習を行った。サク戦当日は「そこまでやらなくてもいいだろう」というくらい、体中にテーピングを施すほどボロボロのハイアンだったが、この日はもちろん元気一杯。それどころか「サクラバは10秒で倒したい」と秒殺まで予告していた。ここで記者が「一族で初めて桜庭選手を倒せばあなたが一族最強じゃないですか?」と聞くと、「ボクは10番目くらいだよ」と素で返答。「喧嘩500戦無敗、最狂のグレイシー」のこの素直な発言は、もちろんTVで放映されることはなかった。(ガンツ)

12/20

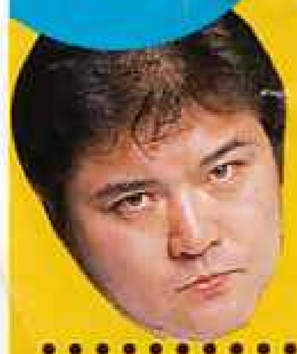
【東京スポーツ】
サクvsホイス、『東スポ大賞』やっぱり逃す



桜庭がどこまで賞を獲得するかで注目されていた2000年「東スポ・プロレス大賞」。歴史と伝統とバランスを重んじることで知られるこの賞。桜庭はMVPこそ獲得するも、ベストバウトはやっぱり健介vs川田の「小結同士の闘い(by武藤)」にさらわれた。ちなみにサクvsホイスが選考にもれた原因が振るっている。「桜庭が柔道着を脱がせにかかった。あの行為は一度でも柔道をやったものには屈辱的」という意見が、選考委員の口から出たというのだ。となると、柔道着の帯でアントンの首を締めた柔道王ルスカなどは国辱ものか……。(ガンツ)

12/20

【ZERO−ONE】
破壊王ZERO-ONE事務所開き



ZERO−ONEの事務所が遂にオープン!「まだオープンしてなかったの?」というのが正直な感想だが、スタッフになぜか夢ファクの藤崎が名を連ね、ZERO−ONEのロゴマークやグッズが、藤崎によるデザインだったこともこの日、明らかにされた。(水戸泉)

【FMW】後楽園ホール
FMW、デスマッチを封印



デスマッチの老舗であるFMWが「エンターテイメントをさらに押し進めるために」この日でデスマッチを封印することになった。その最後のデスマッチはメインで組まれ、荒井社長が久々にリングアナを勤めるなど、非常に盛り上がったが、内容は有刺鉄線バット、バンクハウス、公認凶器……これってFMWじゃなくてW・INGじゃん!(ガンツ)

12 21
【高田道場】
リコ、高田道場入団



この日、高田延彦とリコ・ロドリゲス（米国＝23歳）が会見を開催。強くなるためならどこへでもと、時にはマシャド柔術の門を叩き、必要とあらばマーク・ケアーの下で打撃を学んだリコが「世界最強の選手であるサクラバの側で、その強さを探りヘビー級でサクラバのようなチャンピオンになりたい」と、かねてから噂のあった『高田道場』への正式入団を発表＆青い目のSAKU宣言。入団2日後の『PRIDE.12』では観られなかったが、マシーンのマスクを被り入場するリコの姿が観られる日もそう遠くはないはずだ。（マッハ）

12 22
【プロレスリング・ノア】
大森爆言「橋本はカブト虫のメス」



新日本解雇以来、破壊王節がさえまくってる橋本と、暴言が売り物のノーフィアーだけに、試合前の舌戦が大いに盛り上がったこの対戦。大森が「ブタをマット界追放する」といえば、破壊王は「ヤツも高ぶってるきれるんだろう。なんせ偉人を相手にするようなもんだからな。ハーッハッハー！」と突如「偉人」宣言。そして決戦前日のこの日、大森は「橋本は虫かごから逃げようとしているカブト虫。あの体型だからカブト虫のメス」と発言。カブト虫のメスといえば……そうもうひとりいた。あの21世紀の幕開けを華々しく飾った名勝負、長州vs橋本はカブト虫のメス同士の闘いだったわけだ。（ガンツ）

12 23
【PRIDE・12】さいたまスーパーアリーナ
エンセン引退を表明



「今日が私の大和魂の最後の試合でした」とエンセン井上がリング上から突然の引退宣言をした。エンセンは“強すぎて相手がいない”のトム・エリクソンを倒したヒース・ヒーリングに敗れるも、大和魂見せつける闘いっぷりを披露。試合後の会見でエンセンは「死ねほどハードトレーニング出来る自信がない。リングで死んだら家族大変だなーって思う」と胸中を語った。確かにボブチャンチン戦で病院直行のダメージを受けたエンセンが死を身近に感じたのは、当然のことだろう。今後、エンセンは弟子の指導に専念するとのこと。大和魂は連鎖することを期待します。（珍）

12 24
【大日本プロレス】後楽園ホール
大日本、デスマッチ独占宣言



大日本プロレスの小鹿社長がサンタのコスプレで“21世紀元年でのデスマッチ独占”を宣言した。FMWがデスマッチ路線から撤退しただけに、宣言などしなくても勝手にデスマッチは独占できるのだが、とりあえずデスマッチが見たい人にとって大日本が最後の砦でありることは事実であろう。さらに2001年12月2日には横浜アリーナへの進出が大決定！　新春から縁起のいい話が飛びだした大日本だが、ネット上では某中心選手の離脱説が頻繁に囁かれるなどしており、失礼ながら、初の横浜アリーナ大会の成功よりも、まずはそれまで団体が存続していることを願いたい。（水戸泉）

12 25
【ＵＦＯ】高凧子供園
オーちゃんサンタがやってきた！



20世紀最後のクリスマスのこの日、オーちゃんは仲人を努めてもらった藤木企業株式会社の藤木幸夫会長の紹介で、高凧子供園に襲撃、もとい訪問した。オーちゃんは子供達の大歓声を受けて登場。オーちゃんステッカーをプレゼントしたり、子供達と一緒にクリスマス・ソングを歌ったりと、リング上の暴走王ぶりからは想像もつかないような一面を見せた。そして最後は子供達からお返しにオーちゃんへ、千羽鶴が送られた（ウソ）。（ガンツ）

12 26
【ＩＷＡジャパン】後楽園ホール
カブキ、一夜かぎりの復活



IWAマットにてザ・グレート・カブキが一夜限りの復活をした。実に2年3ヶ月ぶりとなるリング復帰。これはターザン後藤のボイコット発言を受けた浅野社長が、すでに引退しているカブキに頼み込んで、実現することとなった。前日の会見で浅野社長は「捨てる神あれば拾う神あり。カブキさんはIWAの救世主！」「もう飯田橋（カブキの店がある場所）に足を向けて眠れない」と感謝。年内最終興行とあってノア、DDT、FMW、Jd’も特別参戦。大会はおおいに盛り上がり、特にカブキの毒霧＆ヌンチャクには、この日一番の大歓声が湧き起こった。（幸田珍）

12 27
【リングス】前田道場前鶴見川河川敷
リングス10周年大会にヒクソンかタイソン出場!?



毎年恒例のリングスもちつき大会が、この日も前田道場前の鶴見川の土手で行われた。そこで前田総帥はファンの前で、「リングス創立10周年記念大会」のプランについても言及。目玉としてなんとヒクソン・グレイシー、そしてマイク・タイソンの招聘までも視野に入れていると語った。リングスとタイソンと言えば、リングス初期にタイソンの減刑キャンペーンを行ったりと、少なからず接点はある。もしかしたら……、などという原稿を書いていたら、ラジオから「タイソン、マリファナの陽性反応」のニュースが流れてきた……。（ガンツ）

12 29
【吉本女子プロレス Ｊｄ’】後楽園ホール
薮下めぐみ、シングル2冠王に！



『ReMix』でブレイクした薮下めぐみが、本職であるプロレスでも結果を出した！　この日、ブラディーとダブルタイトルマッチに挑んだ薮下は、掌底からのエビ固めでフォール。見事2冠王に輝いた。しかし、その後異変が！　敵対していた薮下とブラディーが合体。それぞれのパートナーだった坂井、ファングと対立することになった。と、思ったら年が明けたらその4人が今度はフリー宣言。ストーリー展開が誰にもわからないほど早いJdであった。（ガンツ）

1/4 【新日本プロレス】東京ドーム
21世紀初のドームは6万「2001」人動員



内容はともかく、予想以上の入りとなった21世紀最初のドーム大会。当日券の売れ行きは「メジャー交流」で話題になった昨年の10・9を上回ったという。結局、当日券は休憩前には完売。そうなると注目は観客数の発表。先月行われたK－1のドーム大会は、これまでのドーム最高記録だった「猪木引退試合」を200人上回る7万200人発表をして話題になったが、この日は6万2001人。この1人は何かと思えば、2001年だから2001人……主催者発表とはこういうものさ。（ガンツ）

【新日本】ドーム　高岩が旧姓・佐藤友美さん（33）との結婚を発表。

【新日本プロレス】東京ドーム
ドラゴン断言！「このままじゃ終わらせない！」



2000年の新日本プロレスは歴史に残るドラゴンの迷言「今年は辰年、ドラゴンの年です！」で始まったわけだが、それから丸1年。2001年の新日本プロレスはまたしてもドラゴンの流行語大賞確実な台詞からスタートしてしまった。「我々は殺し合いをしてるんじゃないんだ！」。観客の誰しもが「殺しあいだ」なんて思っちゃいない展開でのドラゴン裁定。どう見ても橋本vs藤波戦でのドラゴンの方がよっぽど危険だろ。しかも試合後は「とにかく決着がつくまで、もう一度やればいい」って、また殺し合いさせる気か！（ガンツ）

1/5 【大仁田興行】渋谷ON AIR EAST
邪道vs鬼神、21世紀に再会！



『猪木祭り』から、有明でのインディ年越しプロレスへ大移動するなど世紀末も精力的な“邪道”大仁田厚。そんな大仁田を付け狙うのが、かつての盟友でもあり因縁のライバルでもあるターザン後藤。これまでの経緯から再び交わることはないと思われていた両者が、1・5渋谷大会で遂に開戦！リングサイドに姿を見せた後藤に対し大仁田は、「またぐなよ！」……ではなく「俺にとって、アントニオ猪木もターザン後藤も同じレベルなんじゃあ！」と絶叫したところを見ると、2001年は、中牧、茂木等と『FMW鬼神組』を結成した後藤との抗争が中心となっていくものと思われるんじゃあ！（チョロ）

1/7 【ＦＭＷ】後楽園ホール
黒田が冬木を裏切り、「チーム黒田」結成



昨年11月の横浜文体以降、冬木がハヤブサに変わる新エースとして黒田を指名しタッグを結成。ノアの有明コロシアム大会でWEWタッグをFMWに奪回するなど、哲の、否、鉄の結束を誇っていた冬木と黒田だが、この日田中&外道に敗れベルトを失うと、黒田が裏切り「飲み仲間」で結成した「チーム黒田（新宿鮫、くどあ、山崎）」とともに、冬木をロープにくくりつけて身動きを取れなくした後、化粧を施し、井上京子のブラジャーをつける悪乗りぶり。FMWに新しいストーリーがスタートした。

1/12 【リングス】ＷＯＷＯＷ本社大会議室
ジャパン勢同士の決勝誓う



この日、2月24日両国国技館で行われる『KOKグランドファイナル』の組み合わせ発表記者会見が開かれ、ヤマヨシ、TK、金原の3人がそれぞれ抱負を述べた。その中で金原は「ジャパン勢同士の決勝」をアピールし、TKも「準決勝で山本さん、決勝で金原さんを倒して優勝します」と優勝宣言をおこなった。また、スペシャルワンマッチで田村、柳澤そしてシドニー五輪のボクシング銅メダリストでありレスリング出身のウラジミール・チャントゥーリア（リングス・グルジア）の参戦が発表された。

◎速報◎　チャントゥーリア vs アリスター・オーフレイム決定！

1/13 【ＺＥＲＯ－ＯＮＥ】
安田忠夫が新日本離脱宣言！



いまや日本プロレス界唯一のメジャー新日本も厳しい契約更改をむかえそうだ。以前から『ZERO－ONE』入りが有力視されていたヤスこと安田忠夫が新日本プロレスとの契約更改に応じないことを明かにした。橋本・アレク組のセコンドとしてノア・大阪大会に姿を見せたヤス、新日本の所属選手でありながらハンセンばりに他団体のマットで大暴れ。元小結のパワーと格を見せつけ元大相撲勢の力皇、泉田純らと大乱闘を演じて見せた。「ボクは新日本の所属選手、そんなことするわけないでしょ。あれは、村上でしょ?」とのとぼけてみせるかが心は一つのようだ。

1/14 【全日本プロレス】後楽園ホール
キム・ドクが全日本復帰



天龍の復帰から始まった、全日本の「馬場さんが生きていたら復帰は無理だった人、復帰大作戦」は大仁田、テリー、ブッチャーの復帰まで決まり、とことん行くムードになっているが、またひとりマニア驚愕の復帰レスラーが登場、故・ジャンボ鶴田のライバルだった、タイガー戸口ことキム・ドク！　実に20年ぶりの復帰をはたしたドクは「キム・ドクは全日本に戻って来ました～」とアピール。読者の皆さんには是非とも『紙プロ』17号のドクインタビューを読んでいただきたい。そうすれば、今回の復帰がさらに面白く見れる！

【バトラーツ】カリスマレフェリー島田裕二がのどのポリープで入院。原因は喋り過ぎ（日昇・談）

【王道新世紀　2001】1月28日（日）東京ドーム　試合開始 午後3時
ジャイアント馬場　三回忌追悼興行全カード

- 天龍源一郎&馳 浩 VS 川田利明&佐々木健介
- 太陽ケア VS 武藤敬司
- スティーブ・ウイリアムス VS マイク・バートン
- スタン・ハンセン　引退セレモニー

ジャイアント馬場三回忌追悼特別試合

- テリー・ファンク&大仁田厚 VS アブドーラ・ザ・ブッチャー&ジャイアント・キマラ
- 渕 正信 VS 獣神サンダー・ライガー
- ジョニー・スミス&ジム・スティール&ジョージ・ハインズ VS マイク・ロトンド&カート・ヘニング&ケンドール・ウインダム
- 垣原賢人&長井満也 VS アレクサンダー大塚&モハメド・ヨネ
- ミル・マスカラス&エル・イホ・デル・サント VS アルカン・ヘル・デラムエルテ&ブルー・パンテル
- 藤原喜明&荒谷信孝 VS キム・ドク&奥村茂雄

➲時間差バトルロイヤル

みんな待ってたはずのダイエットブッチャーの新作！ これで冬を乗り越えろ！

こちらのパーカーは￥16000で大人気販売中！ダイエットブッチャーの商品お買い求めになりたい方、お問い合わせは原宿のオクタゴン（tel.03-3486-5539）までお願いします。
【ダイエットブッチャースリムスキン提供】





各1名様

説明無用の超人気ショップ「ダイエットブッチャースリムスキン」が久々に『紙プロ』に新作を提供してくれました。アリガトーッ！　かなり暖かいです。これで冬を乗り切れ！￥26000
【ダイエットブッチャースリムスキン提供】

（詳しくは「ヤンナイ」参照ーッ！）

コモエスタ!!

紙上で「紙プロ」出張版が好評連載中！

超人気！　バンバンビガロTシャツ



各2名様

またしてもビガロがやってくれた！　キン肉マン育ちの男達にはたまらないTシャツが登場！　テリーマンのみMサイズ、あとはLサイズ。
【バンバンビガロ提供】

高田道場3点セット！



1名様

またしても高田道場に名作グッズ誕生!

半袖トレーナーはMサイズ、5900円。スエットパンツはMサイズ、5900円。道場キャップはフリーサイズで3500円。　商品に関するお問い合わせは高田道場（03-5749-5030）まで。トレーナー＆パンツはMとＸＬサイズも発売中です。道場生気分を味わって下さい。
【高田道場提供】

地獄車Tシャツ





各1名様

『ＰＲＩＤＥ』のロゴマークをパロった地獄車Ｔシャツは超レア品！
【中村カタブツ君提供】

subscadsパーカー＆Tシャツ





各2名様

要注目ブランドのsubscabsからパンクラスのパーカー＆Ｔシャツが登場！　Ｐグッズらしからぬ不良っぽさがかっこいい！
【subscabs提供】
（お問い合わせは、TEL03-3342-3014もしくは www.subscabs.comまで）

ATAQUE Tシャツ

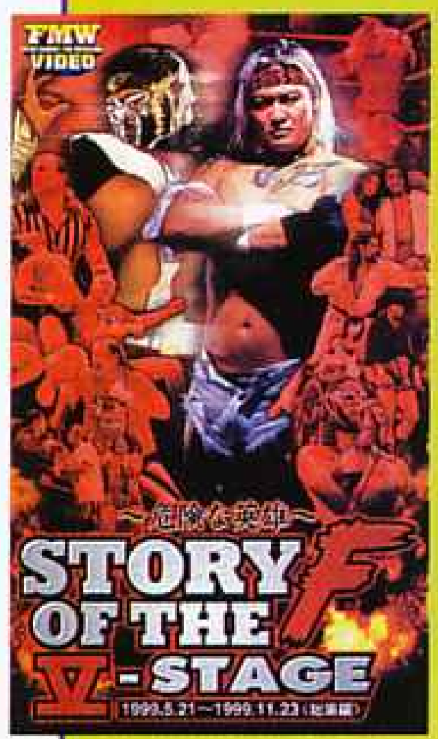


2名様

噂のオシャレ格闘技雑誌がTシャツを作ったらこうなりました

シンプルでおしゃれって感じの今の格闘Tムーブメントを逆流する原点回帰TシャツDEATH。￥4500。HPアドレス：www.ataque.or.jp
【ATAQUE提供】

STORY OF THE F V-STAGE



2名様

大好評につき早くも登場したＦＭＷビデオの人気シリーズ第５弾！　もはや語るまでもない究極のエンターテイメントレスリングがここにある！

【東芝ＥＭＩ提供】

PRIDE.11 DVD

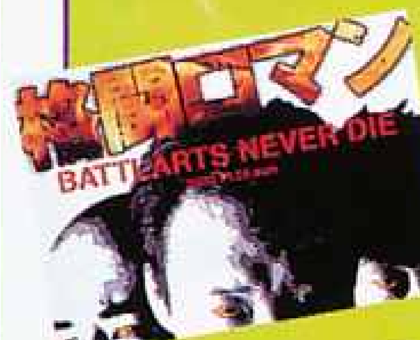


3名様

絶賛発売中の『PRIDE.11』のDVDはまたしても￥4800の低価格で全試合完全収録！３種類の実況解説＆おまけ映像が付いてくるのも嬉しいかぎり！　※お問い合わせ先：パイオニアLDCお客様センター（tel.03-5721-9876）

【パイオニアLDC提供】

バトラーツ米国進出祈願品！







20名様

2001年の海外進出構想が明らかになったバトラーツの2001年のカレンダーともう手に入らない2000年のベスト興行だった駒沢大会のパンフレットをセットで！　ファンならずとも持っておきたい。

【バトラーツ提供】

21世紀もサクグッズは止まらない!!





2名様

桜庭和志フィギュアVer.2

インスパイアの格闘技シリーズの第９弾は限定1000体のサクフィギュアver２だ！先着100名様限りの「フィギュア用高田道場限定Ｔシャツ」ももちろん提供！　お問い合わせ先：高田道場（tel.0570-008800）、インスパイア（tel.03-5670-9283）

【インスパイア提供】

STORY OF THE F VI-STAGE



2名様

第５弾があ登場したかと思いきや早くも第６弾が！　このシリーズさえ見ておけば、エンターテイメントの流れの速さにも確実対応間違いなし！

【東芝ＥＭＩ提供】

MCvsMB〜WCW権力戦争勃発〜



2名様

ホーガン、スティング、フレアー、ヒットマン、ゴールドバーグ、そしてムタ！　これで面白くないわけがない！　必見のWCWヒストリー！

【東芝ＥＭＩ提供】





各3名様

みちのく＆バトラーツ、全日本女子プロレスカード

新発売！　人気選手のコスチュームの一部＆直筆サインがインサート済みの超マストプロレスカード！

【さくら堂提供】



5名様

サクカレンダー

直筆サイン入り！　ということは当然ながら非売品！　かなりデカイです。貼るスペースを用意してから応募しろ！

【髙田道場提供】





3名様

どーですかーっ！　この素晴らしすぎるジャケット！　ビデオと本でサクの強さが丸わかり！　コントも収録！

【学研提供】

今月のメディアファクトリー



PRIDE.11 VIDEO

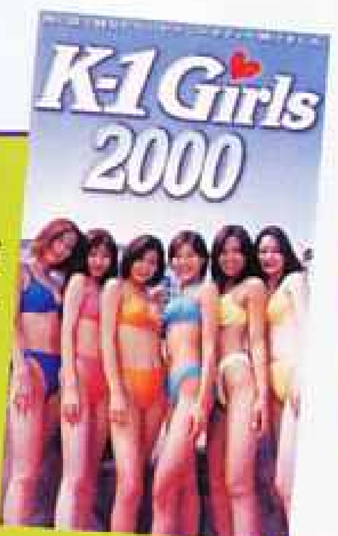
今世紀最後の大一番となったオーちゃん対佐竹、今年の『PRIDE』新人賞を勝手に上げちゃいたい谷津のＶＴデビュー戦、ノブ兄さん対ボブチャンチン、大阪に舞い降りたサクカラスなど見所ありすぎの一本！

【メディアファクトリー提供】

K-1 Girls 2000

K-1のリングを彩る「K-1ガールズ2000」をフューチャーした、なんとも嬉しいビデオをメディアファクトリーがリリース！　グラビアや写真集、ＣＭでも活躍する彼女達のＳＥＸＹボディが弾けまくりのナイス映像が一杯！

【メディアファクトリー提供】

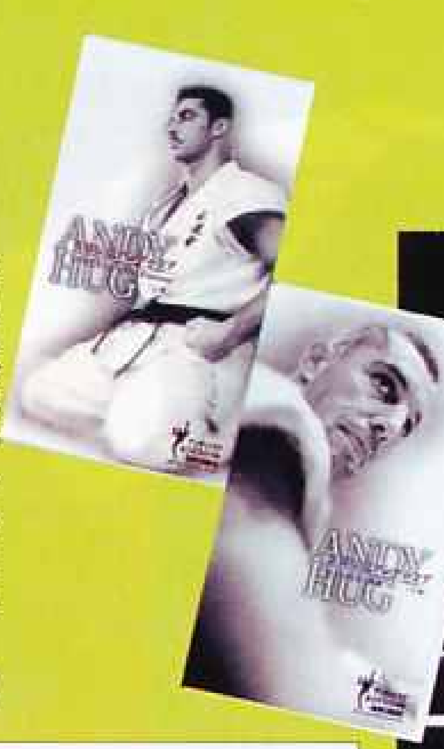


各2名様

英雄伝説アンディ・フグ（上・下巻）＆ポスター

アンディ・フグのk-1オフィシャル追悼ビデオが遂に発売！　上巻ではアンディ自身はもちろん、息子のセイヤ君、多数のK-1戦士、極真空手の松井館長のインタビューを収録！　下巻はアンディのK-1での全戦跡をダイジェストで振り返る完全保存版！　アンディの生き様のすべてを綴った上巻＆戦いのすべてを綴った下巻をセットで！　さらにこのビデオの発売を記念した非売品ポスターも大放出！

【メディアファクトリー提供】





※こちらの商品のお問い合わせ先はメディアファクトリーカスタマーサポートセンター（tel.03-5469-4800）まで

西川口流襲名記念読者プレゼント

西川口気分で

性風俗雑誌「ヤンナイ」　紙

すてごろ懺悔



3名様

我らが兄貴、真樹日佐夫先生の完全実録の半世紀！　男なら迷わず読め！

【フル・コム提供】

井上貴子写真集



5名様

遂にヘアー解禁！　すでに話題騒然の写真集を５名様に！

【ワニブックス提供】

応　募　要　項

どうも、水戸泉です。結婚します。今年の夏に子供が産まれます。しかし未だに未入籍。なんにも書くことが思い浮かばないので取りあえず近況報告でした。以上！

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名　❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事＆その理由
❻つまらなかった記事＆その理由
❼あなたが2001年に活躍すると思う選手を教えてください

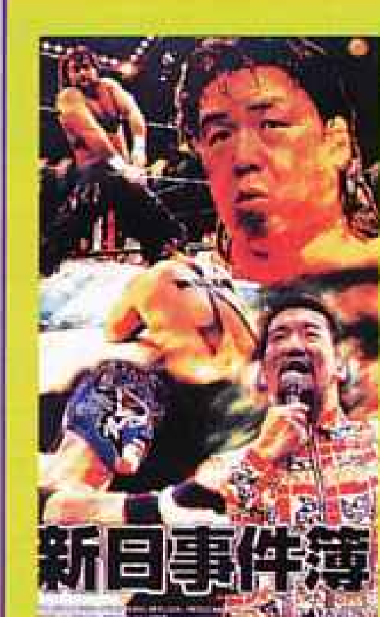
【宛　先】

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「紙のコモエスタ」係まで

※締切は2001年2月20日です

新日のビデオをリリースしまくるヴァリスさんいつもアリガトーッ!　7本もの新作を一挙に大放出!

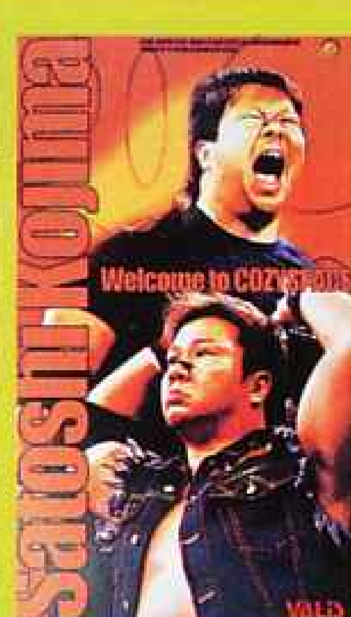
各3名様



新日事件簿

もう一度見たかった数々の事件、ハプニングを収録した親日スキャンダル映像集！

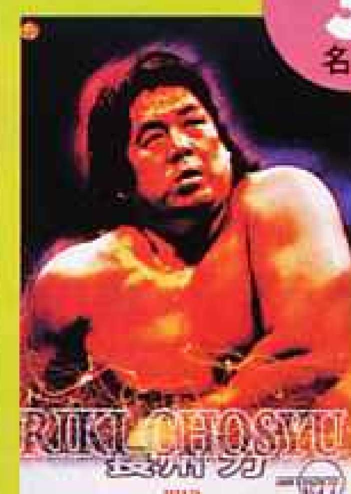
【ヴァリス提供】



小島聡特集

ファン待望の小島特集が遂に登場！　もちろんラリアットたっぷりだ！　永久保存版。

【ヴァリス提供】



長州力（DVD）

長州力完全復帰記念！ラリアットたっぷりの長州イズムを徹底検証！　永久保存版。

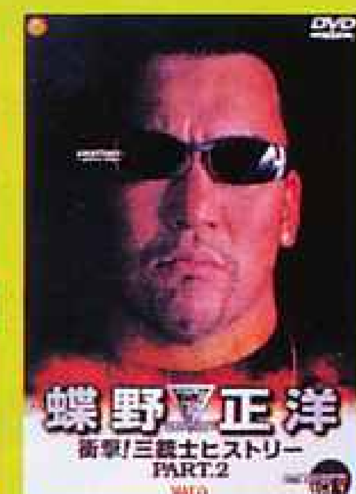
【ヴァリス提供】



橋本真也 1992〜1995（DVD）

“闘魂”の二文字とは何か？　究極の「破壊王伝説」をここに再現！

【ヴァリス提供】



蝶野正洋 1991〜1997（DVD）

黒！　黒！　黒！　黒！白から黒へ。蝶野の革命の筆跡を完全網羅！

【ヴァリス提供】



アントニオ猪木 vs武藤敬司

20世紀最後の劇的対談をヴァリスが独占取材に成功！　超必見！

【ヴァリス提供】



野人　中西学

新日本の次代のエースは野人に決定！　聞け！　野人の咆哮を！

【ヴァリス提供】

紙のプロレス RADICAL
No.34
2001年2月25日発行

No.35は
2月24日のKOK決勝
の前には発売予定
※地域によっては多少発売日が遅れます。

SATFF

●編集兼発行人
山口日昇

●編集スタッフ
坂井“スモー”ノブ
松澤チョロ
堀江ガンツ
水戸泉
エキサイティング幸田
戸高11万円
八木賢太郎(INOKI BOM-BA-YEで騒いたため非番)

●スーパーバイザー
吉田豪

●助っ人
中村愚乱
金田謙太郎

●アートディレクター
出田さん（TwoThree）

●デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
モリやん（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）
古賀ゆきえ
海老沢勇（ZERO graphics）

●出前
出前持ち入江（TwoThree）

●カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
黒田史夫
戸成嘉則
松本崇
丸山剛
吉場正和

●試合写真
平工幸雄
乾晋也

●アッパーなキ○ガ○になる!
ジャイ子

●お勘定
林ヘックションー枝

●フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所

●印刷
図書印刷株式会社

●印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社　〒160-8580　東京都新宿区内藤町一番地　TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元●株式会社ダブルクロス　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　TEL.03-3403-5188（編集・制作）

こいつにブチ込め!!

お年玉は



プレミア必至の超レアTシャツ

U.M.F. Tシャツ
（黒×黄）
¥3,800
サイズ S or M or L

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉

¥3,500 SOLD OUT rMorL



すっかりおなじみになったプロレスTシャツのNEWスタンダード！ 花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉

¥3,500 SOLD OUT rMorL



最近、某団体も似た色のTシャツを出しましたね。こっちもカッコいいゾ！同じく花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ長ソデ〈赤〉

¥4,500 SOLD OUT SOLD OUT SOLD OUT



通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

リングおじさんトレーナー

¥5,500 SOLD OUT SOLD OUT



通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

バトTシャツ

¥3,500 SOLD OUT SOLD OUT SOLD OUT



通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

ジャイ子Tシャツ

¥3,000 SOLD OUT SOLD OUT
ホワイトorアッシュグレー



通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

紙プロネックピース

¥1,200

首からブラ下げれば、みんなが振り向くこと間違いなし！ こんなにカッコいいネックピースはどこを探しても見当たらないぞ！ 長そでTシャツをお買い求めの方にはもれなくプレゼントします！



通販方法

望商品の代金＋送料￥500（何枚でも：ネックピースだけなら￥300）を現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラーをちゃんと書いてね♥）を明記したメモを必ず同封すること！ これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。隣のページのU.M.F. Tシャツと一緒に申し込みもOKですよ。通販以外では『チャンピオン東京店＆大阪店』、札幌『リングパレス』、新たに仙台『スクワット』と岐阜県大垣市『バンザイ商会』で販売中なので、こちらもヨロシク！ こちらで買っても長ソデTシャツにネックピースがついてきますので、ご安心あれ。

〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
株式会社ダブルクロス
「買っていいとも!!」係まで

お問い合わせ先
（株）ダブルクロス
TEL03-3403-5188

●紙プロウェアは通販以外だとチャンピオン東京店（TEL.03-3221-6237）、チャンピオン大阪店（TEL.06-6645-5186）、岐阜・バンザイ商会（TEL.0584-75-4966）、宮城・スクワット（TEL.022-264-8160）入手可能です!!

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK 160 2001 NO.34
世紀をまたいだビッグマッチ大分析!!

平成13年2月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

(株)ブックスーパーいとう
¥250

9784898296417
ISBN4-89829-641-6
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌 69862-60

印刷：図書印刷株式会社

TLINDEX

団体	電話	住所
全日本プロレス	03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
プロレスリング・ノア	03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
新日本プロレス	03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F
リングス	03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202
WAR	03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F
みちのくプロレス	019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル
パンクラス	03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
大日本プロレス	045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
DDT	03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
高田道場	03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワイルドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F
大阪プロレス	06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	078-333-9797	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8-901
ダイプロデュース(大仁田興行)	03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-28-3 ハイラーク五反田505
世界のプロレス	093-203-5170	〒807-0054 福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6
掣圏道	03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607
レッスル夢ファクトリー	03-5828-8494	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11
キングダム・エルガイツ	0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1
国際プロレス	0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
メビウス	03-5382-6991	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15
つぼプロモーション	03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F－E
華☆激	092-522-1901	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302
喧嘩プロレス二瓶組	044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル
ZIPANG	0427-54-8851	〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106
T.A.M.A	042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
栗栖ジム	06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103
K−1事務局	03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	03-5725-7338	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-2-10 エビスユニオンビル202サステイン
GCM COMUNICATION(和術慧舟會、A³GYM、RJW)	03-5200-3546	〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-3-11 山田ビル5F
シュートボクシング協会	03-3843-1212	〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1～3F
UFC−J事務局	03-3343-2444	〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30F
怪獣王国	03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム事務局	03-3432-1682	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
LLPW	03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ピクセル文京105
GAEA JAPAN	03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F
Jd’	03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-10 国際溜池ビル7F
アルシオン	03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F
NEO	03-5452-0344	〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-2-22-101

日本初公開!! アントンも絶賛の闘魂伝承食品・豆腐パンピンナップ



戦士の休息

ワタシたちの関係を知りたい皆サ〜ンは162ページをめくってクダサ〜イ♥





健康を守る豆腐パン

（豆腐パンの三大栄養素）

豆腐パンの中には、現代人がもっとも必要としているイソフラボン、マグネシウム、リグナンという栄養素が豊富に含まれています。
イソフラボンとは、胚芽に含まれる成分で、骨からカルシウムが流れ出すのを抑える働きをして、骨粗鬆症などを予防します。また、大腸ガンを予防するうえでも、効果的な働きをします。
マグネシウムは、遺伝子の働きを整え、ガン細胞の発生を抑制する働きをしています。マグネシウムが不足しますと、摂取されたカルシウムは骨を強くするどころか、細胞のなかで増え過ぎ、心臓病やガン細胞を誘発させます。マグネシウムはカルシウムを体内において有益な成分に変える働きをしているのです。
亜麻の種に含まれているリグナンはアトピーやアレルギーを抑える働きをします。

（豆腐パンに同封された説明書より）

日本初公開!! アントンも絶賛の闘魂伝承食品・豆腐パンピンナップ


食えるのか
豆腐パン
TOFU
Patent Pending

CAL CALENDAR

ary

:30)
)

ー(18:00)

ー(15:00)

ホール(13:00)

0)

8:30)

)
8:30)

アルシオン■大阪・大阪府立体育館第2競技場(17:30)
Jd'■東京・後楽園ホール(19:00)♠

11 SUN.

新日本■大阪・大阪市舞洲アリーナ(15:00)
FMW■福岡・博多スターレーン(18:30)
大日本■静岡・アクトシティ浜松(14:00)
闘龍門■三重・四日市オーストラリア記念館(15:00)
ノア■東京・ディファ有明(15:00)◎
国際プロレス■神奈川・鶴見青果市場(14:00)
Jd'■大阪・NGKホール(17:00)
NEO■東京・板橋産文ホール(18:30)

12 MON.

新日本■岡山・岡山県体育館(15:00)
FMW■鹿児島・宮城野町総合体育館(15:15)
大日本■静岡・ツインメッセ静岡(14:00)
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)
掣圏道■東京・ディファ有明(18:00)
ノア■茨城・水戸市民体育館(15:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)

13 TUE.

FMW■鹿児島・鹿屋市体育館(18:30)

14 WED.

新日本■岐阜・岐阜産業会館(18:30)
ノア■埼玉・秩父市民体育館(18:30)

15 THU.

新日本■静岡・アクトシティ浜松(18:30)
DDT■東京・渋谷club ATOM(19:00)♠

16 FRI.

FMW■千葉・流山市民総合体育館(18:30)
ノア■宮城・気仙沼市総合体育館(18:00)

17 SAT.

新日本■埼玉・越谷市立総合体育館(17:00)
FMW■千葉・木更津倉形スポーツ会館(18:30)
ノア■宮城・石巻市総合体育館(18:00)

18 SUN.

全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
新日本■東京・両国国技館(15:00)★
FMW■千葉・多古町民体育館(15:00)
大日本■長野・諏訪湖スポーツセンター(13:00)
キャプチャー■福岡・ベイサイドプレイス博多埠頭(15:00)
ノア■福島・福島市国体記念体育館(15:00)
修斗■大阪・NGKスタジオ(16:00)□

19 MON.

大日本■金沢・石川県産業展示館(18:30)

20 TUE.

ノア■東京・後楽園ホール(18:30)

21 WED.

全日本■岐阜・恵那市体育館(18:30)
アルシオン■長野・松本めいてつショーホール(18:30)

22 THU.

全日本■山口・柳井市体育館(18:30)
DDT■東京・渋谷club ATOM(19:00)
ノア■千葉・成田市体育館(18:30)
アルシオン■長野・佐久市体育館(18:30)

23 FRI.

全日本■長崎・佐世保市民体育文化館(18:30)
FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
アルシオン■長野・飯田勤労者センター(18:30)

24 SAT.

全日本■福岡・博多スターレーン(18:00)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)□
リングス■東京・両国国技館(15:00)★◆
ノア■愛知・豊橋市総合体育館(18:00)
アルシオン■三重・津市(予定)
Jd'■東京・ディファ有明(18:00)

25 SUN.

闘龍門■東京・ディファ有明(18:30)
ノア■兵庫・神戸ワールド記念ホール(15:00)
アルシオン■岐阜・土岐スポーツセンター(13:00)

26 MON.

全日本■宮崎・都城市体育(18:30)

27 TUE.

全日本■熊本・本渡市民センター(18:30)

28 WED.

NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモーノブ
♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江
□ 水戸泉(仮)
♡ エキサイティング幸田
● 戸高11万円

RADICAL CA

1 January

25 THU.

DDT■東京・渋谷club　ATOM（19:00）
アルシオン■茨城・つくばカピオ（18:30）

26 FRI.

全女■愛媛・八幡山市民スポーツセンター（18:30）●
Jd'■東京・北沢タウンホール（18:30）
NEO■東京・板橋産文ホール（19:00）

27 SAT.

FMW■東京・江戸川区競艇場（10:30）
大阪■大阪・NGKスタジオ（19:00）
CMLL■愛知・名古屋CLUBオゾン（15:00）
クラブファイト■大阪・MOTHER　HALL（22:30）♥
全女■岡山・倉敷山陽ハイツ（18:30）
GAEA■愛知・名古屋国際会議場（18:00）
アルシオン■東京・ディファ有明（18:00）

28 SUN.

全日本■東京・東京ドーム（15:00）◆
大日本■東京・後楽園ホール（18:30）□
バトラーツ■東京・TOKYO　FMホール（12:00）
キャプチャー■東京・北沢タウンホール（19:30）♥
大阪■大阪・NGKスタジオ（15:00）
来栖ジム■大阪・茢田土地改良記念会館（時間不明）
CMLL■東京・後楽園ホール（12:00）
全女■岡山・和気町体育館（18:00）

29 MON.

闘龍門■東京・後楽園ホール（18:30）●
CMLL■京都・京都KBSホール（18:30）

30 TUE.

K−1　■愛媛・松山市総合コミュニティセンター体育館（18:30）

31 WED.

新日本■東京・ディファ有明（19:00）
CMLL■福岡・博多スターレーン（18:30）

2 February

1 THU.

DDT■東京・渋谷club　ATOM（19:00）

2 FRI.

CMLL■大阪・厚生年金会館芸術ホール（18:30）
アルシオン■千葉・館山市民センター（18:30）
GAEA■東京・後楽園ホール（19:00）

3 SAT.

新日本■北海道・北海道立総合体育センター（18:00）
大阪■徳島・徳島市立体育館（18:00）
CMLL■静岡・アクトシティ浜松（18:30）
アルシオン■静岡・ツインメッセ静岡（18:30）

4 SUN.

新日本■北海道・北海道立総合体育センター（15:00）
IWA■神奈川・横浜文化体育館（15:00）
パンクラス■東京・後楽園ホール（19:00）◎
二瓶組■神奈川・横浜クラブヘブン（18:00）
TAMA■神奈川・横浜クラブヘブン（14:00）
イーグルプロ■栃木・小山市文化センター小ホール（13:00）
CMLL■東京・後楽園ホール（12:00）
CROWN■栃木・小山市文化センター（14:00）

6 TUE.

FMW■東京・後楽園ホール（18:30）

7 WED.

新日本■神奈川・横須賀市総合体育会館（18:30）

8 THU.

新日本■福島・福島体育館（18:30）
FMW■静岡・キラメッセぬまづ（18:30）
DDT■東京・渋谷club　ATOM（19:00）

9 FRI.

新日本■東京・後楽園ホール（18:30）

10 SAT.

新日本■大阪・リーガロイヤルホテル（16:30）
FMW■福岡・小倉北体育館（北九州市）（18:30）
闘龍門■静岡・アクトシティ浜松（18:30）
ノア■神奈川・小田原アリーナ（17:00）

アルシオン■大阪・大
Jd'■東京・後楽園

11 SUN.

新日本■大阪・大阪
FMW■福岡・博多ス
大日本■静岡・アクト
闘龍門■三重・四日
ノア■東京・ディファ
国際プロレス■神奈
Jd'■大阪・NGKホ
NEO■東京・板橋産

12 MON.

新日本■岡山・岡山
FMW■鹿児島・宮城
大日本■静岡・ツイン
闘龍門■兵庫・神戸
掣圏道■東京・ディフ
ノア■茨城・水戸市
アルシオン■東京・後

13 TUE.

FMW■鹿児島・鹿屋

14 WED.

新日本■岐阜・岐阜
ノア■埼玉・秩父市

15 THU.

新日本■静岡・アクト
DDT■東京・渋谷clu

16 FRI.

FMW■千葉・流山市
ノア■宮城・気仙沼市

17 SAT.

新日本■埼玉・越谷市
FMW■千葉・木更津
ノア■宮城・石巻市

18 SUN.

全日本■東京・後楽園
新日本■東京・両国
FMW■千葉・多古町
大日本■長野・諏訪
キャプチャー■福岡・
ノア■福島・福島市
修斗■大阪・NGKス